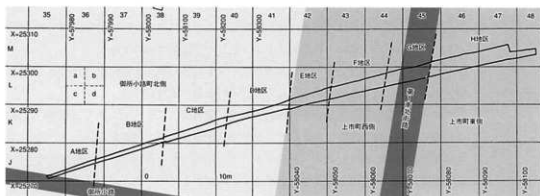


## 第3章 中世大友府内町跡第16次調査区

### 第1節 調査の経緯 (第3-1図)



第3-1図 第16次調査区 (1/1000)

8つの調査区

現在の地籍の区画に沿って、西から順にA~H地区の八つの区割りで調査をおこなった。実測は旧国土地座標に基づいた正方位の10メートル方眼を組んで使用した。

測量は光波トランシットを用いて、原則として20分の1図、遺構の状況に応じて10分の1図を作成した。また調査区全体の断面土層図を10分の1で作成した。写真は35ミリ白黒とカラーリバーサルを基本に、必要に応じて6×9中型カメラを使用した。調査は、JR九州日豊線の線路北側の側道部分にあたるため、あたかも長さ200mを超える長大なトレンチ調査というおもむきとなった。

A地区からE地区にかけての調査区西半分については、無遺物層まで完掘したが、東半分のF地区からH地区については第2焼土層を取り去ったB層上面まで全体を掘り下げた後、南壁にそって幅1mの下層トレンチを設けて掘り下げた。かなり深くなったためSD590のような深い遺構は完掘していない。

### 第2節 遺構の概要と基本層序 (第3-2図)

基本層序

第16次調査区の層序は、I層は近世以後の耕作土、II層は人為堆積層で古代の包含層はほとんどないが、中世以後とりわけ16世紀には急速かつ厚く堆積する。III層は基盤砂層で奈良時代から中世大友府内町が廃滅するまでの地山である。古墳時代前期の土器を包含することがある。IV層は粘質土層で、弥生時代の遺物を含む。V層は砂質土層である。さらに井戸の湧水層である砂礫層が標高1.5m以下に存在するが、その層中には場所によって縄文時代後期から晩期の遺物が出土する。

16世紀の都市遺構

E地区からH地区にあたる調査区東側のかつて上市町となっていた場所では、16世紀の100年前後の間に1mから1.5mの土層堆積が認められる。大陸の都市遺跡で見られるテルと同じ状況である。この点からもこの遺跡が16世紀代には都市として発展したことをよく示している。



第3-2図 第16次調査区層序概念図

## 奈良時代以前の遺物 (第3-3図遺物)

弥生土器

遺構に伴わないが、古代以前の遺物が採集されている。1はSD18出土の弥生時代前期の甕底部片。2は御所小路北側出土の弥生時代後期の複合口縁壺口縁で、櫛播波状文が明瞭である。このような遺物の存在から、すでに弥生時代からこの大分川の形作った微高地上に人間の生活の跡をうかがうことができる。第3章の末尾においても、遺物の補遺をのせるので参照されたい。



第3-3図 奈良時代以前の遺物 (1/3)

## 第3節 御所小路北側の遺構と遺物 (A・B・C・D地区)

## I. 遺構の概要と基本層序 (第3-4図、第3-5図、図版31)

御所小路町

第16次調査区の西半に当たるA-D地区は、「府内古田」における「御所小路町」の北側に当たる。東は「上市町」に当たるが、地図図等の地理資料からは御所小路町と上市町との境界は必ずしも明瞭ではない。しかし第3-1図のように西半のA-D地区と東半のE-H地区とは整地層の堆積状態が全く異なり、A-D地区では下に述べるA層の堆積が薄く遺構密度も低い。それに対してE-H地区では遺構の密集と整地の繰り返しによる厚い包含層が形成されることから、考古学的にA-D地区を「御所小路町」に、E-H地区を「上市町」に比定できる。以下に基本層序をのべる。

上市町との境界

## I層：現耕作土

II層：5cm程度の深さで2回に分けて掘り下げた。D地区ではこの層はやや厚い。上面は近世以後の畑地として耕作により削平を受けている。1590年以後の中国景德鎮窯系青花皿下群や、斜めすり目をもつ近世1期の櫛前焼の襷鉢、京都系土師器3期の皿を包含するので、16世紀第4四半期に形成された包含層と考えられる。

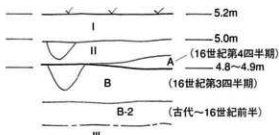
A層：D地区の東端から堆積が始まる層である。上部で京都系土師器3期の皿が含まれるので、16世紀第IV四半期には堆積が終了していたと見られる。

生活面形成

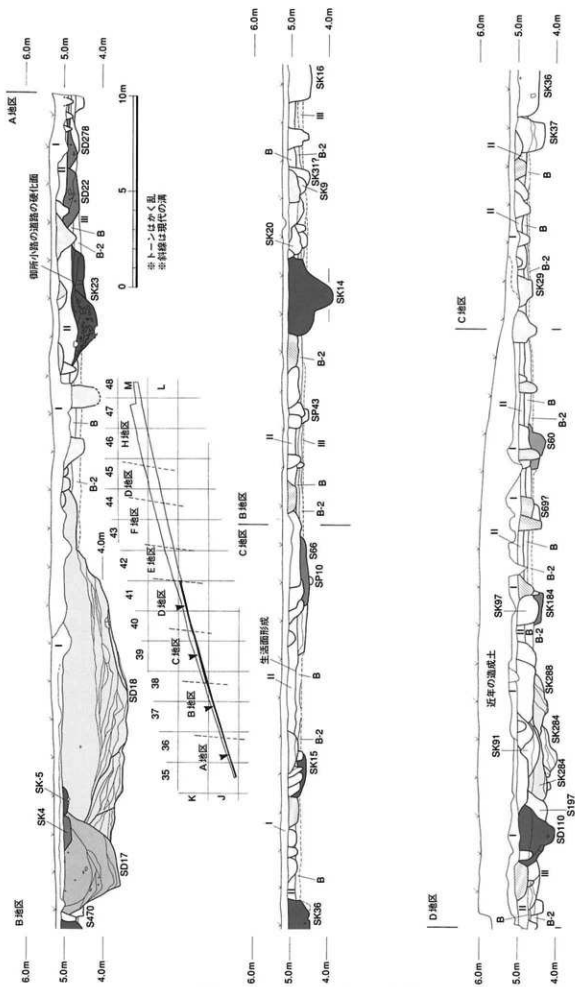
B層：II層3回目とII層4回目として2回に分けて掘り下げた。C地区のK39区付近ではB層上面に生活面が残る場所があり、貝類などの生活残滓が見つかった。生活面は多少硬化し表面がややよごれた層として認識した。多少の起伏があるがH=4.8~4.9m付近で平坦にその上面が広がっている。一部では整地されたらしい地点もある。出土遺物から16世紀第3四半期に形成された層で、その上面は上市町のC層に対応する可能性がある。

B-2層：基盤IV層 古代の遺構は、すべてこの層の掘り下げ時に検出した。古代の土器から京都系土師器1期の皿までが出土しているので、古代から16世紀前半の包含層と考えられる。

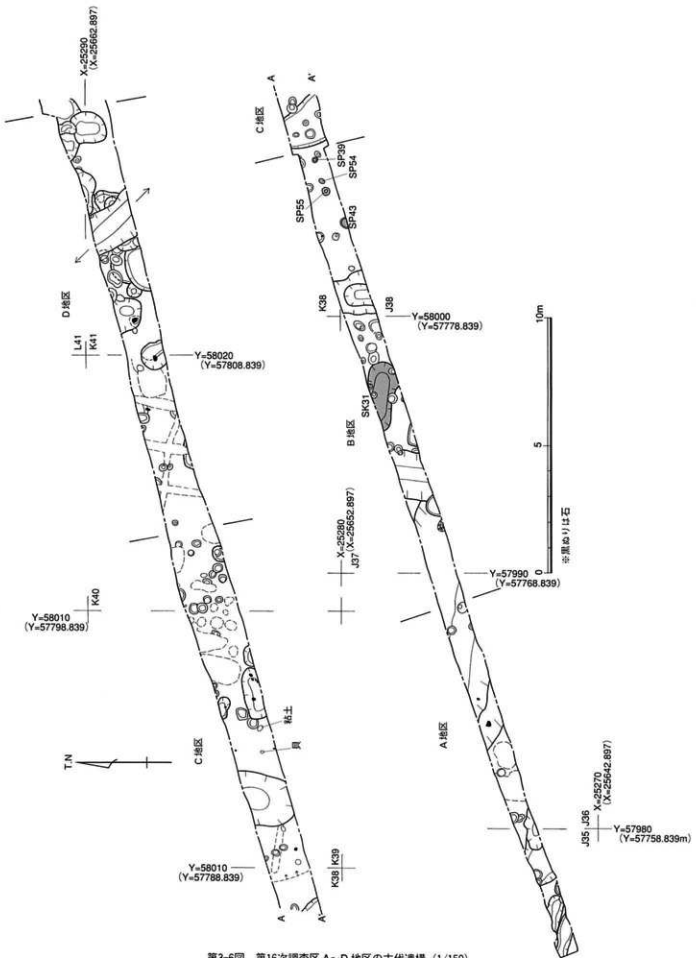
III層：基盤V層 古墳時代以前の包含層。少数ながら遺物が混じる。



第3-4図 A-D地区層序概念図



第3-5図 第16次調査区A～D地区南壁セクション (1/100)



第3-6図 第16次調査区A~D地区の古代遺構 (1/150)



## II. 8～9世紀の遺構

## 概要 (第3-6図)

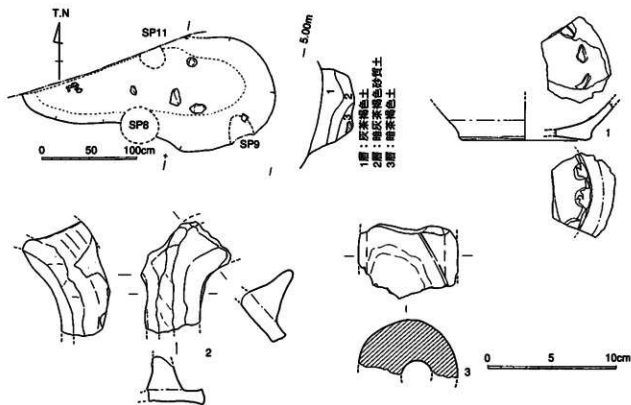
大半はB-2層掘り下げ時に検出した遺構で、A・B地区のB層はC・D地区のB-2層に対応する。B地区のJ37区とJ38区のB層掘り下げ時、つまり下層で検出した遺構のうち出土遺物の内容から古代の遺構と考えられるものは以下のとおりである。

## 土坑

SK31 (B地区) (第3-7図、図版39) J37区のB層1回目掘り下げ後に検出した長円形の土坑である。長さ2.7m、幅1.2m、深さ0.4mで、底の幅は0.6m。おそらくB層上面から掘り込まれた遺構で、溝の先端部の可能性がある。埋没後にSP8・9・11・12に切られている。埋土は三層に別れ3層がゆっくと堆積した後2層と1層は短時間で埋没している。遺物は大半が破片で埋土中に散在しており、出土遺物から9世紀の遺構と判断した。

溝の先端？

SK31出土遺物 1は越州窯青磁碗の破片で、2は土師質の移動式甕形土器の一部である。3はふいごの羽口の破片である。図示できるのは以上で、ほかに古代土師器の底部へラ切りの坏5点・甕1点、黑色土器A類碗2点や動物骨の一部が出土している。出土遺物は8・9世紀の遺物に限られる。



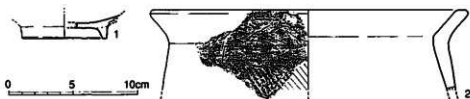
第3-7図 SK31 (遺構1/40、遺物1/3)

## ピット

柱穴

SP54・SP55 (B地区) K38区の2層4回目で検出したもので、B-2層中で掘り込まれたものと推定される。SP54からは古代の黑色土器A類碗の底部片、SP55からは古代土師器の坏口縁片が1点ずつ出土している。いずれも柱穴とみなしてよいが、建物は復元できなかった。

SP39・SP43 (B地区) K38区とJ38区の、ともにB層1回目掘り下げ後 (B-2層上面) に検出したもので古代の土師器坏と甕の破片が出土している。



第3-8図 古代の遺物 (1/3)

**8～9世紀の遺物 (第3-8図)** II 層から B 層中で出土したものととして、1 は黒色土器 A 類碗底部片。2 は土師器の傘紋型甕 I 縁部。ほかに須恵器壺 1 点・甕 2 点・坏身 1 点、内面磨きの土師器碗片 1 点の破片が出土している。

#### 小結

長いトレンチともいえる第16次調査区においても、8世紀から9世紀の遺物が散見される。その中で遺構が検出されるのはB地区の上坑SK31とその東隣のピット群である。SK31が溝の先端部と評価できるならば、第7次調査区で発見された8～9世紀の掘立柱建物群と関係する可能性が出てくる。今後の周辺調査に期待したい。

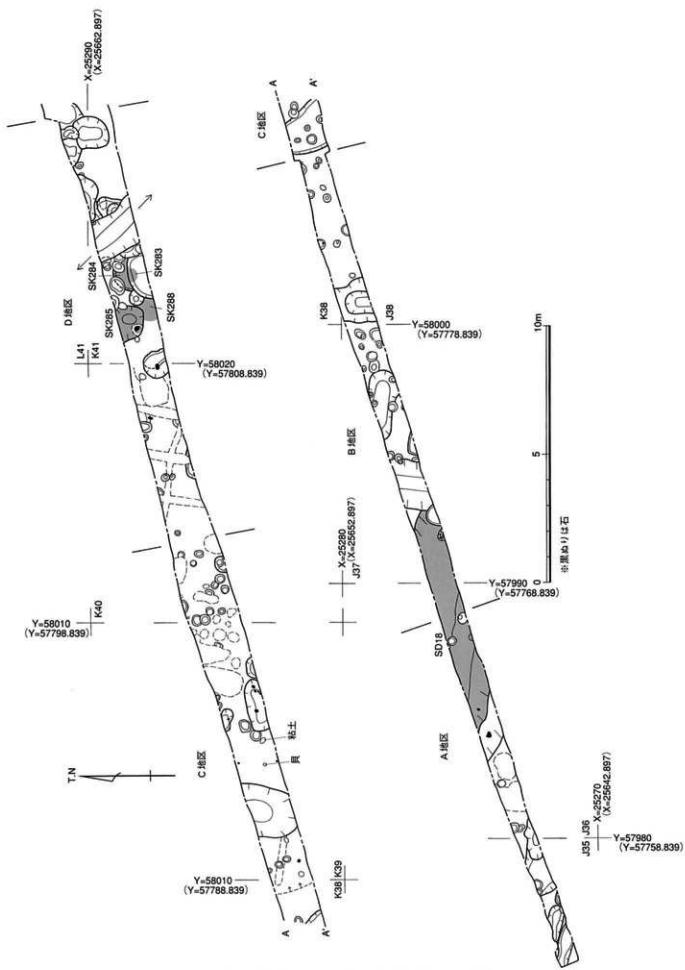
SK31と柱穴

## Ⅱ. 15世紀以前の遺構と遺物

### 概要 (第3-9図)

大溝 SD18

A・B地区で御所小路のラインと並行する方向に、大きな東西溝SD18がほられる。ほかには溝から東にやや離れたD地区において、土坑とピットの集中地点が認められるが、それ以外にはほとんど遺構は認められない。



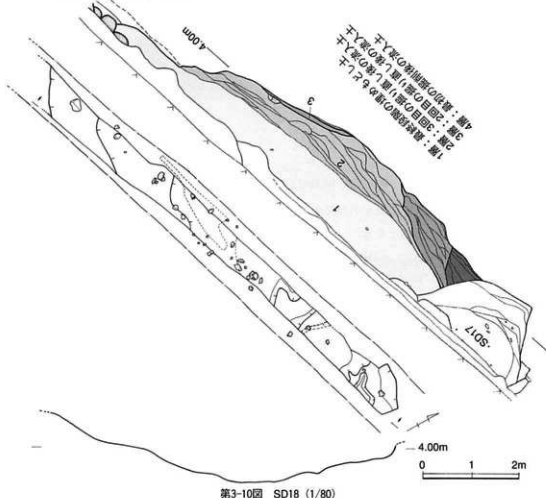
第3-9図 第16次調査区 A~D 地区の15世紀以前の遺構 (1/150)

## 溝

東西方向

16世紀初めに埋没

**SD18 (A, B 地区) (第3-10図、図版39)** J36・37区のB-2層上から掘り込まれたものと考えられる東西方向の巨大な溝である。幅7m、底面の幅2.5m、深さ1.7m。16世紀第1四半期に掘削されたSD17に切られている。断面は逆台形で、掘り直しの痕跡が2回あり、長期にわたって使用されたものと推定される。そして最終段階では自然埋没ではなく埋め戻された堆積を示す(1層)。出土した土師質土器は底部糸切の在地系土師器のみで、内面にロクロ目を残す土師器や京都系土師器をいっさい含まない。またこの付近では切り合い最古の遺構であるので14世紀から15世紀代の遺構であると推定される。



第3-10図 SD18 (1/80)

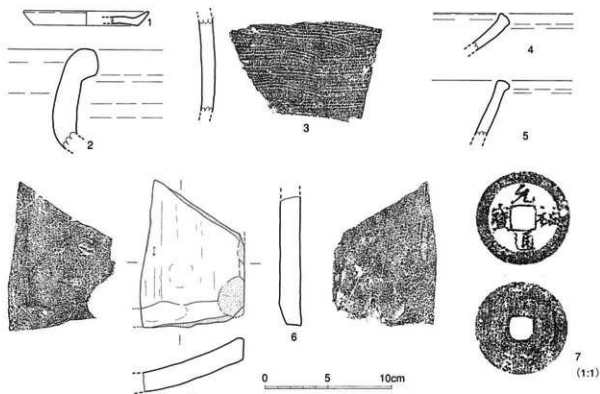
14世紀の遺物

**SD18出土遺物 (第3-11図)** まとまった形の廃棄状態ではなく、いずれも破片が散在する状態であった。出土遺物として、1は13~14世紀形の土師器小皿、2は14世紀はじめの備前焼甕口縁部、3は中国南部産の陶器壺、4は瓦質鉢の口縁部、5は瓦質鍋の口縁部、6は平瓦の破片であるが、胎土に大型石英粒と結晶片岩を含む佐賀関半島周辺の海部産平瓦である。ほかの瓦の小片も同じ胎土である。7の完形の中国銅銭は元祐通寶(北宋1086年初鋳)である。ほかに図示できないが瓦質火鉢、外面下半に格子タタキを施した鍋、備前焼の甕、白磁皿E群、大内系の白色硬質の土師器片が認められる。

## 土坑 (第3-9図参照) (第3-12図)

K41区の土坑群

以下の4つの土坑はD地区K41区のB-2層上面すなわち最下層で、切り合って発見された土坑群である。いずれも出土遺物は少なく、土師質土器については内面にロクロ目を残す土師器や京都



第3-11図 SD18出土遺物 (1~6=1/3, 7=1/1)

糸土師器を含まず、15世紀の底部糸切の在地系土師器のみであり、層位的にも最古となる。

**SK288 (D地区)** K41区のB層除去後に砂層上で検出された円形の土坑で断面は皿状である。SK284とSK285に切られている。出土遺物は底部糸切の在地系土師器の小片8点のみで、内面にロクロ目を残す土師器と京都系土師器は含まない。

**SK285 (D地区)** K41区のB層除去後砂層上で検出された。

SK288を切り、SP297に切られている。平面不整形円形、断面円形の土坑で、土層は上下に分かれ、下層は灰色が強いグライ化した粘質土、上層は灰茶褐色の粘質土で、いずれもよくしまつて粗砂をまじえる。出土遺物は底部糸切の在地系土師器の小片2点のみで、内面にロクロ目を残す土師器と京都系土師器は含まない。

**SK284 (D地区)** K41区のB層除去後砂層上で検出された長円形の土坑である。SK288を切り、S281・282・283や16世紀末のSD110に切られている。断面は円形に近く、底面は水平ではない。埋土は暗灰紫色細砂混じりの粘質土で、水分が多くややグライ化している。出土遺物には土師の細片が多く、内面に暗文を描く瓦質土師碗2点や1の搬入の薄手白色の京都系土師器を含むが、出土遺物は底部糸切の在地系土師器の小片のみで、内面にロクロ目を残す土師器と在地産の京都系土師器は含まない。鉄釘片が5点出土。

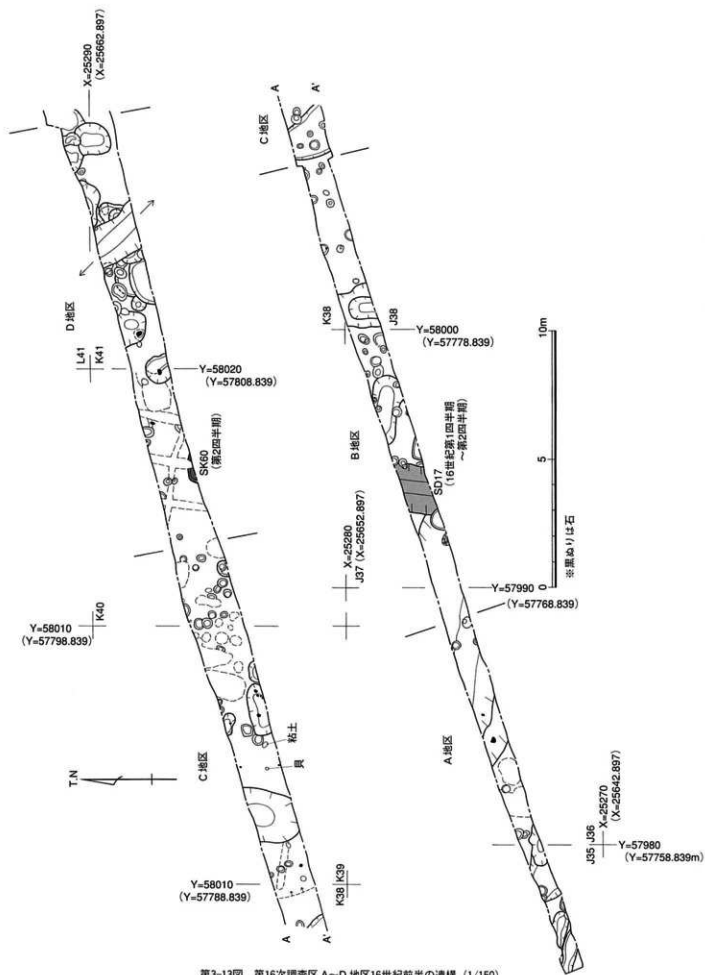
**SK283 (D地区)** K41区のB層除去後に検出した浅い船底状の小土坑で、SK284とSK288をきる。埋土出土遺物ともにSK284に等しく、2の搬入の薄手白色の京都系土師器を含むが、出土遺物は底部糸切の在地系土師器の小片のみで、内面にロクロ目を残す土師器と在地産京都系土師器は含まない。

#### 小結 (第3-9図参照)

以下に概要を述べる。

①大溝SD18は東西に伸びるもので、御所小路の道路推定ラインの北側に平行して掘られてい

御所小路のラインに平行



第3-13図 第16次調査区A~D地区16世紀前半の遺構 (1/150)

14・15世紀の  
区画

る。ただし、御所小路の道路は後述するように、16世紀後半の築造であるから、14・15世紀代にSD18と御所小路が並存していたわけではない。おそらく14・15世紀の大溝の区画線が、溝埋没後に機能しており、そのラインを生かすかたちで16世紀後半に御所小路の道路が建設され、その北側に宅地が設定されたものと考えられる。

SD18以北空  
閑地？

②15世紀のSD18以北にはほとんど遺構はない。わずかにD地区で土坑が4基集中するのみである。この付近には都市あるいは住民集住を想定させる要素はない。

#### IV. 16世紀第1四半期の遺構と遺物

##### 概要 (第3-13図)

埋没した大溝SD18を切って、SD17が掘られている。方向はSD18と直交する南北方向である。この南北溝SD17は7次調査区のSD538の位置にあう。それ以外にこの時期の遺構と考えられるものはない。

##### 溝

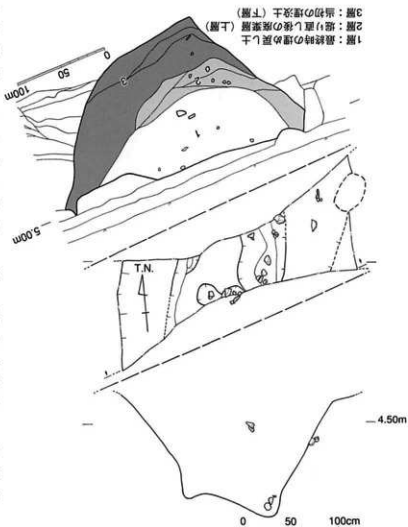
南北溝

**SD17 (B地区) (第3-14図、図版39)** J37区のB層上面から掘り込まれたものである。14・15世紀の溝SD18を切り、埋没後SK4・5に切られている。南北方向の掘られた逆台形の溝の一部である。第7次調査区のG区SD538の方向に一致する。内部には部分的にまとまった炭層や土器の廃棄単位が認められるが、ほかの遺物は散在しており埋没時の流れ込みと見られる。下層は京都系土師器を含まず、上層の廃棄単位の中に京都系土師器1期の皿を含むところからSD17は16世紀第1四半期に掘削され、埋没が完了する第2四半期にまで利用されたものと見られる。その間に層序から見て1回の掘り直しが認められる。なお、このSD17は、大分市調査第58次調査区のSD020に対応する可能性が高い。

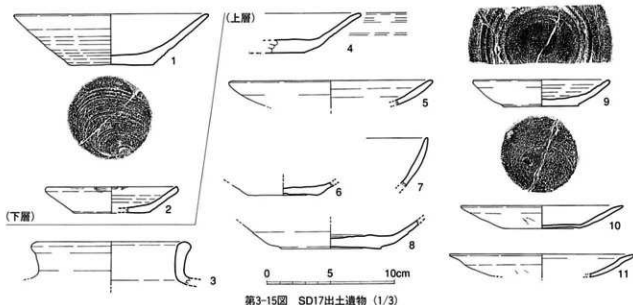
58次 SD020  
と接続

##### SD17出土遺物 (第3-15図)

(下層) 1・2は内面にロクロ目を残す土師器の皿と小皿、1は内面の工具痕をナデ消し、2は口縁部を上方に積み上げ、煤が付着して灯明皿として使用されている。ほかに備前焼の燧削部1点。底部糸切の在地系土師器26点。大内系土師器7点。内面にロクロ目を残す土師器3点。極薄の



第3-14図 SD17 (1/40)



京都系土師器0期の皿2点。鉄釘1点。以上の破片が出土している。

(上層) 3は備前焼の壺口縁。4は底部糸切の在地系土師器、5は底部糸切の在地系土師器口縁。6と7は底部糸切の在地系土師器底部。8は内面をナゲ消した内面にロクロ目を残す土師器皿。9は内面にロクロ目を残す土師器小皿。10と11は薄手白色の京都系土師器0期の皿で搬入品と考えられる。ほかに中国焼締陶器1点。中世陶器鉢底部1点。備前焼の堯胴部1点。瓦質土器1点。底部糸切の在地系土師器3点。内面にロクロ目を残す土師器6点(底部3)。以上の破片が出土している。

ロクロ目土師器主体

### 小結

この付近の16世紀第1四半期は、15世紀代につづいて遺構が極めて少ない。御所小路の道路建設以前ではあるが、そのもととなる区画のラインの存在が御所小路のライン上に想定されるので、南北溝SD17は敷地を東西に区切る区画の溝とみなすことも可能である。しかし両側に遺構が集中する様子はなく、溝SD17が半世紀にわたり長期間利用されて状況を見ると、溝の東西はながらく空閑地であったと考えられる。

区画溝とその東西

## V. 16世紀第2四半期の遺構と遺物

### 概要 (第3-13図参照)

溝SD17がこの時期まで機能し、埋没するほかは、土坑が1基みつかったのみである。

**SK60 (D地区)** K40区のB-2層上で検出したもので南壁にかかり、平面断面ともに不整な円形をしめす。埋土は単層で暗茶褐色土で少量の炭焼土と土器片を含み、景德鎮青花小片1点、京都系土師器1期の皿1点、瓦質鍋片3点(外面格子たたき)を含む。

### 小結

前代と同じように空き地に区画溝SD17が機能していた段階である。

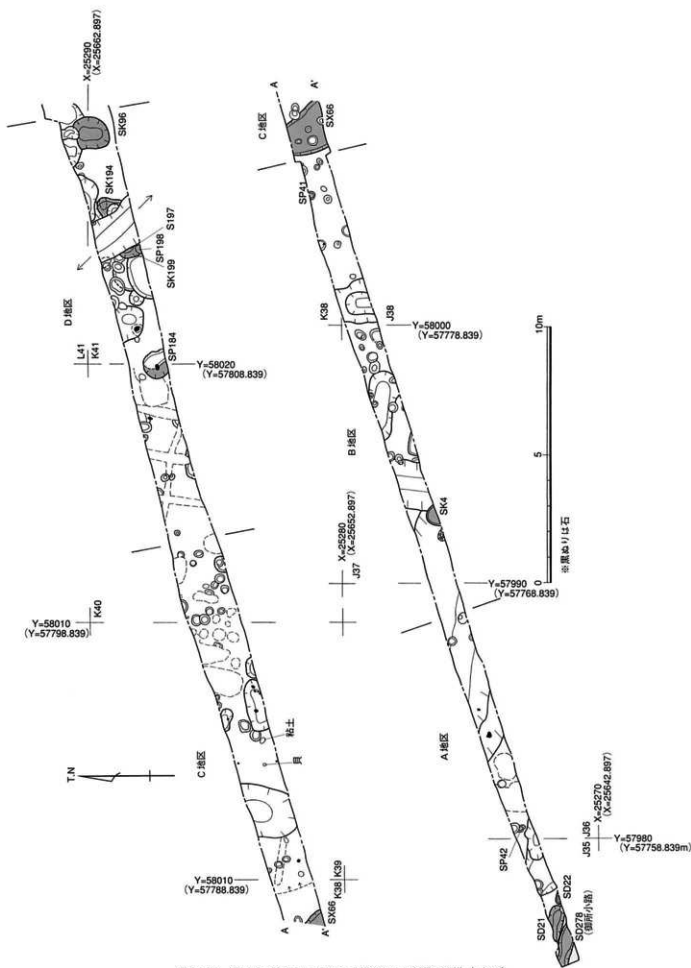
## VI. 16世紀後第3四半期の遺構と遺物

### 概要 (第3-16図)

B層上面からII層上面にかけて検出された遺構で、切り合い関係と出土遺物の構成から時期を判断した。調査区最西端のA地区で御所小路の道路面と側溝が発見されている。この時期から遺構とみなせる柱穴が散見されるようになる。

遺構の増加





第3-16図 第16次調査区 A~D地区16世紀第3 四半期の遺構 (1/150)

## 道路遺構 (A地区) (第3-17図、図版36上)

御所小路

以下に述べる SD278とSD21・22は府内絵図の御所小路の位置と合致する道路側溝と判断される。土層断面からみて側溝には3回の掘り直しがあり、道路の硬化面が作り直されている。

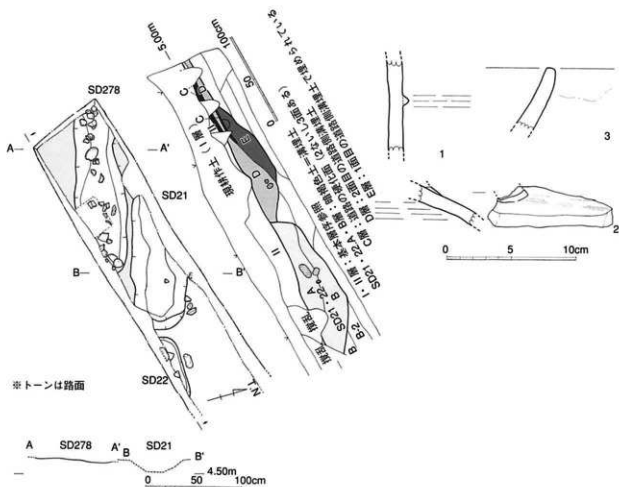
側溝

**SD278 (A地区) (図版36)** J35区B層上面で検出した東西方向に走る細い溝で、断面は皿状である。長さ1.7m以上、幅0.6m、深さ0.3m。側溝SD21・22に切られている。内部は小礫や土器片瓦片が詰まっていた。御所小路の最初の側溝である。埋土には京都系土師器2期の皿を含む。断面をみると1回の掘り直しがあり、道路面は再生されている。さらにその上に硬化した土層(C層)が存在するので、まだ上に道路面があったと考えられるが、すでに削平されている。出土遺物はほとんど掘り直し後のものである。

**SD278出土遺物** 1は備前焼広口壺の胴部片。2はタイ産黒釉陶器壺の胴部片。3は瓦質火鉢の口縁片で被熱している。このほか備前焼の壺、瓦の破片が多く、側溝を埋めるために廃棄したものである。

北に拡大した側溝

**SD21・22 (A地区) (図版36)** J35区のB層上面から掘りこまれたもので、側溝SD278を切る東西方向の溝である。幅0.6m、深さ0.4m。SD21とSD22の間で陸橋状に小さく途切れている。埋土は黒色土で炭焼土が多い。京都系土師器2期の皿と中国景德鎮産青花碗B群が最新の遺物であるが、切り合い関係から見てSD278の道路側溝を北側に拡張したものである。図示できる遺物はない。青花碗B群1点。京都系土師器1期の皿1点。京都系土師器2期の皿2点。平瓦1点。以上の破片が出土している。

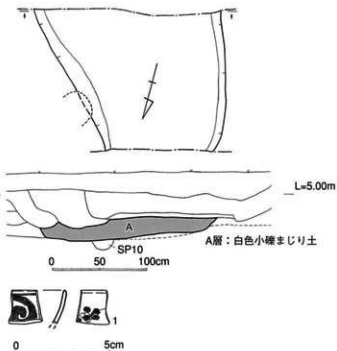


第3-17図 御所小路の道路 (遺構1/40、遺物1/3)

土坑

**SX66 (C地区) (第3-18図) K38**  
 区のB層上面から掘り込まれたと考えられる遺構である。土坑というよりくぼみに整地を行った感じである。そしてこの整地に伴ってB層上面の生活面が形成されたと考えられる。長さ2m、幅2m、深さ0.2m。SP10を切り、SP61・62・63に切られる。埋土は5ミリ大の小礫を多く含む粗砂層である。最新の遺物が景徳鎮青花碗E群であり、B層上面の遺構であるので16世紀第3四半期の遺構である。

整地層



第3-18図 SX66の遺構と遺物 (遺構1/40、遺物1/2)

**SX66出土遺物** 1は中国景徳鎮窯系青花碗E群、このほかに景徳鎮青花碗2点。京都系土師器1期皿の破片が出土している。

**SK96 (D地区) (第3-19図) LK41区**のB層上面で検出した長円形の土坑で、断面は皿状である。長さ1.4m以上、幅1.2m、深さ0.3m。第4四半期の遺構 SP118と SK122に切られる。埋土には炭が多く、炭焼土黄褐色土のブロックを多く含む廃棄土坑である。検出時に京都系土師器1期の皿を検出した。B層上面からの掘り込みなのでこの時期と推定される

廃棄土坑

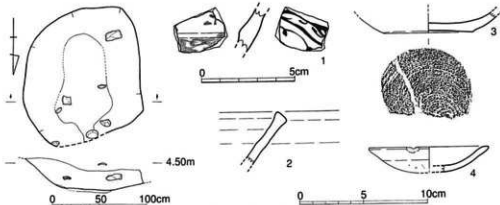
**SK96出土遺物** 1は中国磁州窯産陶器片。2は瓦質鉢の口縁片で河野B類にあたる。3は底部糸切の在地系土師器。4は京都系土師器1期の皿で、口縁に故意の打ち欠きの痕がある。

そのほかの遺構 (第3-16図参照、3-20図遺物)

西側から順に記述する。

**SP42 (A地区) J36区**のB層上面で発見した柱穴で、埋土中に京都系土師器2期皿の破片が出土した。

**SK4 (B地区) J37区II層**1回目掘下げ後に検出した浅い半円形の土坑で、上部にII層土の堆積がある。16世紀前半の溝SD17を切り、16世紀第4四半期の土坑SK5に切られている。埋土は被熱した小礫と焼土を多く含む暗黄褐色土の単層で、出土遺物はない。



第3-19図 SK96 (遺構1/40、遺物1=1/2・2~4=1/3)

SP41 (B地区) J38区Ⅱ層上面から掘られた柱穴で、柱取り後に1の内面にロクロ目を残す土師器の皿が出土した。

SP184 (D地区) K40区のB層上面で検出の柱穴。B層上面が機能中にはすでに埋まっていた。中央に人頭大の根石があり、かなり大きな柱穴の可能性がある。埋土から白磁1点、瓦質土鍋2点、底部糸切りの在地系土師器15点の破片が出土している。

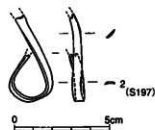
以下の4つの遺構はいずれも第4四半期の溝SD110に切られる遺構である。

S197 (D地区) K41区のB層上面で検出した浅い落ち込みで、SK199を切る。京都系土師器2期の皿を最新の遺物とする。埋土はきめの細かい暗茶褐色土の単一層である。2は両端に取り付け部を持つ用途不明の銅製品。ほかに中国景德鎮産青花碗C群2点、青花皿B群1点、白磁、瓦質火鉢1点、吉備系土師器1点、底部糸切りの在地系土師器1点はSK96出土片と接合。内面にロクロ目を残す土師器1点、京都系土師器2期の皿10点の破片が出土している。

SP198 (D地区) 埋土が同一であるところからS197に付属する柱穴であろう。

SK199 (D地区) K41区のS197の底面で検出した円形の小土坑で、第4四半期の溝SD110に切られる。瓦質火鉢の脚部1点と中国景德鎮産青花碗E群1点の小片が出土した。

SK194 (D地区) K41区のB層上面で検出された土坑で、SP289を切り、第4四半期の溝SD110に切られる。胎土に大型石英の入る海部産の瓦片1点が出土している。



第3-20図 16世紀第3四半期の遺構出土土器 (1=1/3、2=1/2)

## 小結

### 御所小路

16世紀第3四半期に御所小路の道路が建設される。舗装方法は上市町の道路と同じであるが、確認されたのは多くて3面の道路面である。第1南北街路の上市町や清忠寺町の道路の舗装枚数に比べると少なく、道路としての使用頻度は少なかったものと推定される。

御所小路北側のこの地には16世紀第3四半期になってはじめて、柱穴等が散見されるようになる。おそらく御所小路に南面した宅地が設けられ、内部にまばらながら掘立柱建物が立つようになったと推定される。その際上市町の東西の町屋空間と比べると、遺構の密度は極めて少なく、御所小路に面するとはいえ、この付近が商業地であったとはとうい考えられない。おそらく、武家屋敷などの広大な敷地を必要とする宅地になっていたものと推定される。C地区付近のB層上面で生活面が認められるのは、その宅地化と関係すると考えられる。

### 武家屋敷

D地区の東半の上市町に近いあたりでは、土坑や柱穴がやや増加する。これらは御所小路町の宅地の遺構と考えるよりも、上市町西側の町屋の背後地の遺構とみなすほうが合理的であろう。ただし上市町と御所小路町を区画する遺構を明確に指示することはできない。地籍図から推定すると、その境界はD地区とE地区の境界付近のA層土の堆積が始まる付近となる。

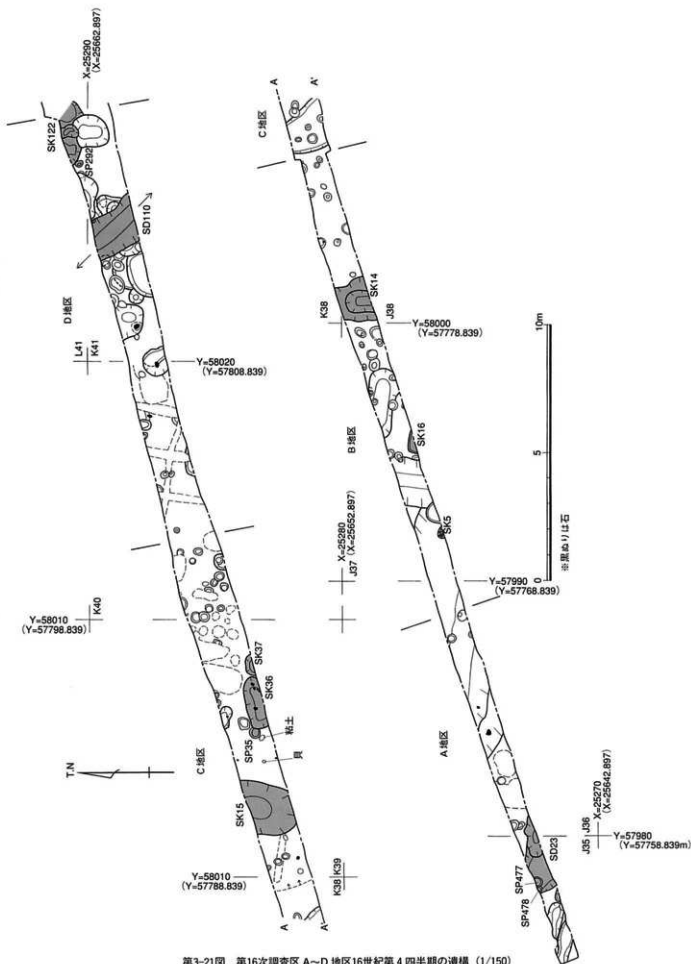
### 上市町と御所小路町の境界

## Ⅴ. 16世紀第4四半期から17世紀初頭の遺構と遺物

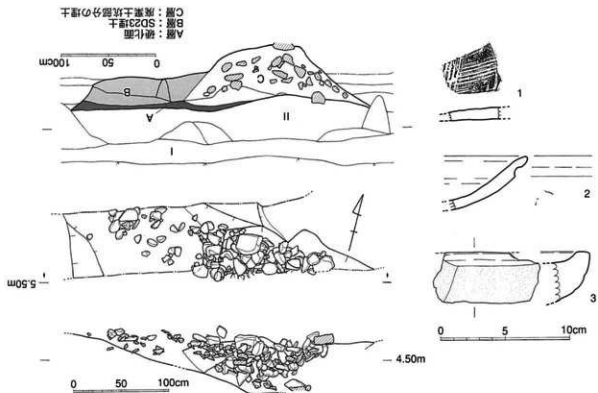
### 概要 (第3-21図)

### SD110を境

Ⅱ層上面とD地区のA層上面で検出された遺構である。御所小路の道路側溝が大きく掘り直され、北側の区画には焼土土坑と柱穴が増加する。D地区の東端には北西-東南方向の溝SD110が掘られる。その溝の東西では遺構の密度が全く異なり、かつ東側ではA層の堆積が始まるので、SD110付近が上市町と、御所小路の境界と考えられる。



第3-21図 第16次調査区A～D地区16世紀第4四半期の遺構 (1/150)



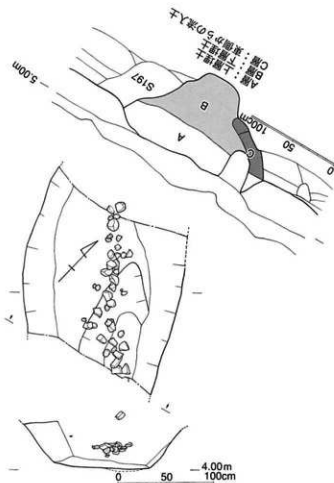
第3-22図 SD23 (遺構1/40、遺物1/3)

## 溝

御所小路の側溝

SD23 (A地区) (第3-22図、図版3下) J35区のB層上面で検出した溝である。SP477とSP477に切られている。内部には被熱した糠が充填しており、掘下げるにつれて別の円形土坑と重複していることが判明したが、遺物を分離することはできなかった。A層の整地層が上に乗るので御所小路の拡張で埋没した可能性が高く、京都系土師器3期の皿が出土するので第4四半期である。

SD23出土遺物 1は備前焼播鉢(底部十字すり目)。2は京都系土師器3期の大皿で、外面に煤が付着する。3は安山岩製の茶白の下白片で、作りが粗く在地の模倣品か。ほかに白磁皿、中国産焼締陶器、朝鮮灰青軸陶器、備前焼の壺・甕、瓦質火鉢、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器、丸瓦・平瓦の破片が出土している。

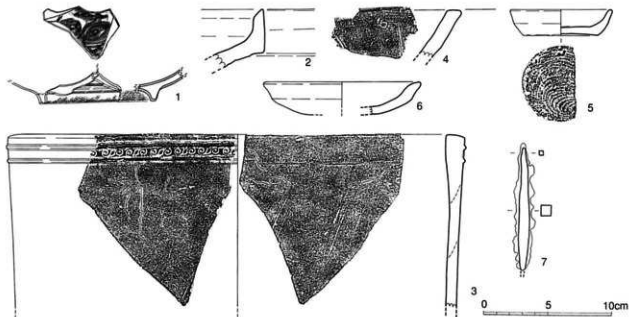


第3-23図 SD110 (1/40)

方向の異なる  
溝

**SD110 (D地区)** (第3-23図、図版39) K41区Ⅱ層上面で検出した北西-東南方向の溝で断面は台形である。長さ1.7m、幅1.0m、深さ0.9m。京都系土師器3ないし4期皿の破片が出土したことからこの時期とした。また切り合い上も最も上位に位置する。埋土は上下に分かれ、下層(B層)の底部付近に人頭大の被熱礫の堆積があり、凝灰岩と安山岩礫が多い。

**SD110出土遺物** (第3-24図) 1は中国漳州窯系青花碗の景德鎮青花C群を模倣したもの。2は15世紀後半中世5期の備前焼播鉢。3は瓦質火鉢で口縁外面に双頭龍手流雲文の刻印を施す。4は瓦質播鉢の口縁部。5は在地の糸切土師器の小皿で、胎土に金雲母が多い。6は京都系土師器3ないし4期の皿の口縁部。7は両端の尖った鉄器。ほかに瀬戸美濃産の陶器、京都系土師器1期皿の破片、丸瓦・平瓦、白銅銭が出土した。



第3-24図 SD110出土遺物 (1/3)

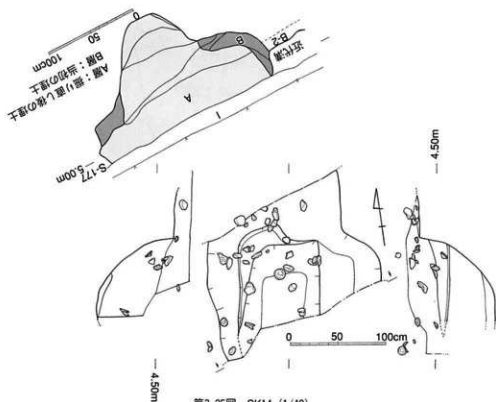
#### 土坑

**SK14 (B地区)** (第3-25図、図版39) JK38区のⅡ層上面から掘り込まれたと推定される土坑である。あるいは南北方向の溝とも考えられるが、北から南に向かって階段状に深くなるので、土坑または溝の北端と推定される。幅1.8m、深さ1.2m。SP177に切られる。断面には掘り直しの痕跡が1度あり、出土遺物はほとんど掘り直し後のものである。遺物の出土状態は散在的だが、完形の土師器が廃棄されているので、祭祀的に使用されて廃棄された一括遺物であろう。最新の遺物は近世1期の備前焼播鉢である。

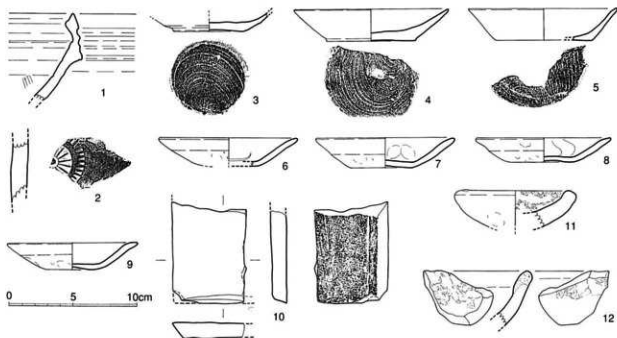
完形土師器  
廃棄

**SK14出土遺物** (第3-26図) 1は斜めすり目を施す近世1期の備前焼鉢。2は車輪文の刻印のある瓦質火鉢。3と4は底部糸切の在地系土師器杯。5は薄手の底部糸切の在地系土師器杯。6は接合して完形の京都系土師器1期の皿、7~9は京都系土師器1期の皿で、7と9は完形品。10は平瓦。11と12は土製のつば。内面に緑青と赤色の付着物が多い、高温の被熱で変質し彫れている。

ほかに龍泉窯産青磁碗2点。中世陶器の胴部片2点。備前焼1点。瓦質火鉢3点(胴部2)。底部糸切の在地系土師器杯多数。大内系土師器1点。内面にロクロ目を残す土師器の皿1点。京都系土師器1期の皿11点。鉄釘1点。動物骨1点。以上の破片が出土している。



第3-25図 SK14 (1/40)



第3-26図 SK14出土遺物 (1/3)

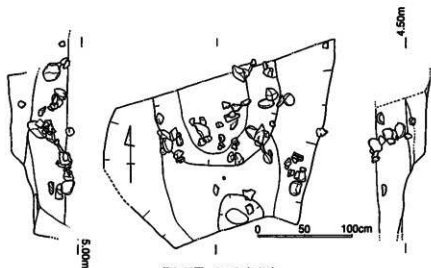
**SK15 (C 地区)** (第3-27図、図版39) K39区のⅡ層上面から掘り込まれた長円形の土坑で断面は逆台形をなす。長さ2.2m、幅2.0m、深さ0.6m。遺物は破片が散在する状況の廃棄土坑である。埋土は暗褐色砂質土の単一層である。最新の遺物が京都系土師器2期の皿と近世1期の備前焼播鉢であるのでこの時期とした。

廃棄土坑

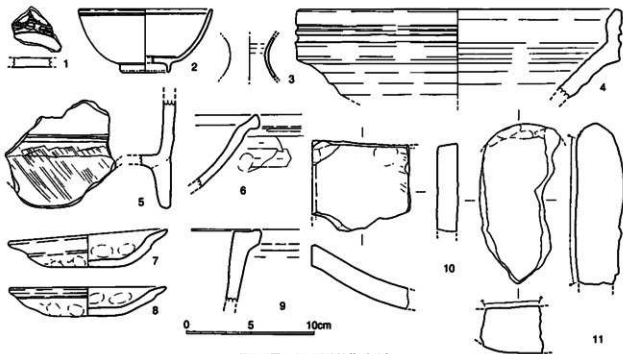
青花碗王群  
備前播鉢

**SK15出土遺物** (第3-28図) 1は13世紀の中国磁窯窯緑釉鉢。2は景德鎮青花碗E群。3は朝鮮王朝産舟徳利の頸部。4は近世1b期の備前焼播鉢。5は瓦質火鉢脚部。6は瓦質鍋で外面にケズリを施す16世紀後半の河野B-2類。7と8は京都系土師器2期の皿で、8は完形品。9は瓦質火





第3-27図 SK15 (1/40)

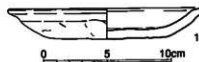
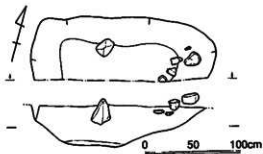


第3-28図 SK15出土遺物 (1/3)

鉢の口縁。10は平瓦。11は石皿。

ほかに中国景德鎮窯産青花碗1点。備前焼甕2点(胴部1、底部1)。瓦質火鉢3点(胴部1、底部1)・鍋7点(胴部5、底部2、そのうち外面へラケズリ1)。瓦質土器碗1点。底部糸切の在地系土師器10点以上。大内系土師器1点。内面にロクロ目を残す土師器2点。京都系土師器1期の皿2点。京都系土師器2期の皿多数。鉄釘2点。貝輪1点。以上の破片が出土している。

京土師2期

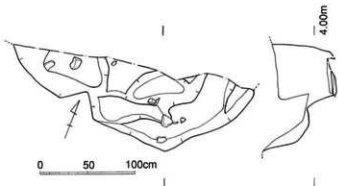


第3-29図 SK36 (遺構1/40、遺物1/3)

SK36 (C地区) (第3-29図) K39区Ⅱ枡上面から掘り込まれていた。SP35とSK37に切られた隅丸方形の土坑で、断面も方形に近く底面も平坦

方形土坑

であるので、なんらかの機能をもった土坑である。長さ1.9m、幅0.6m以上、深さ0.4m。埋土は上下に別れ、上層は茶褐色砂泥じり土で3～4ミリ大の炭焼土に被熱した角礫がはいり、下層は地山の砂層に上層土のブロックが混じった土で、掘ってすぐ埋まったもの。遺物は下層からは出土しない。遺物は破片が散在する状況で、最新の遺物が京都系土師器3期の皿であるのでこの時期とした。



第30図 SK122 (1/40)

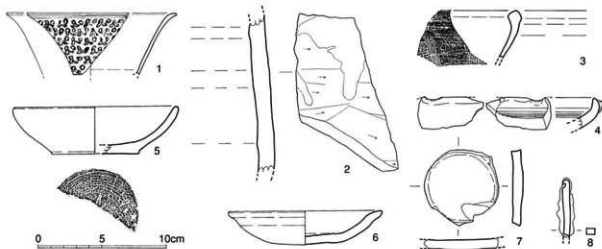
京土師3期

**SK36出土遺物** 1はその京都系土師器3期の皿口縁部。ほかに中国産褐釉陶器1点、備前焼の甕1点、瓦質鍋1点、底部糸切の在地系土師器12点、京都系土師器2期の皿2点の破片が出土している。

**SK122 (=SK120) (D地区) (第3-30図)** L41区の西4区画のB層上面掘り下げ時に検出した不整形円形の土坑である。長さ1.8m、幅1m以上、深さ0.8cm。上部にB層整地層があるので、B層上面使用時にはすでに埋設している。当初別の遺構としたSK120とSK122は掘下げ後同一の遺構であることが判明した。同時期のビットSP118に切られた土器片を多量に含む廃棄土坑である。最新の遺物が京都系土師器3期の皿である点と層位からこの時期とした。

廃棄土坑

**SK122出土遺物 (第3-31図)** 1は中国景德鎮窯産青花碗で、口縁が外反したB群。2はタイ産黒褐釉陶器の壺片、3は中国南部産焼締陶器鉢の口縁部片、4は備前焼の皿口縁部、5は胎土に金雲母を多量にふくむ搬入品の底部糸切の土師器坏、6と7は京都系土師器2期と3期の皿で、後者は口縁部全周を故意に打ち欠いている。8は環状に先端を折り曲げた鉄製の金具で、火箸の可能性もある。ほかに龍泉窯産青磁碗D類、白磁碗、景德鎮青花碗・蓋、焼けた青釉小皿、備前焼壺・甕・播鉢、瓦質火鉢・鍋、底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、土壁片、平瓦、鉄釘などの破片が出土している。

華南の鉢  
備前の茶陶器

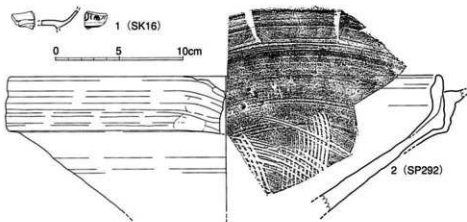
第3-31図 SK122出土遺物 (1/3)

## そのほかの遺構 (第3-32図)

**SP477 (A地区)** J35区検出のピットで、第4四半期の溝 SD23を切る。埋土は白色粘土混じりの暗灰褐色土。鉄釘や京都系土師器1期の皿の破片を含む。

**SP478 (A地区)** J35区検出のピットで、第4四半期の溝 SD23を切る。SP477とくらべ白色粘土はあまり混じらない。

**SK5 (B地区)** J37区のⅡ層上面検出の平面断面とともに円形の小土坑である。16世紀第3四半期の土坑 SK4と15世紀の溝 SD18を切る。底部に被熱した礫が集中する。備前焼堯の破片が出土している。



第3-32図 そのほかの遺構出土遺物 (1/3)

**SK16 (B地区)** J37区のⅡ層上面で検出した方形の土坑で底面も平坦である。埋土は単層で、茶褐色砂混じり土で炭焼土を少量ふくむ。1は中国景徳鎮窯産青花碗E群で、層序から時期を判断した。

**SP35 (C地区)** K39区のⅡ層上面から掘り込まれたと推定される SK36 (16世紀第4四半期の土坑)を切る柱穴。

**SK37 (C地区)** K39区のⅡ層上面から掘り込まれたと推定される SK36を切る円形の土坑で、底面は平坦である。埋土は茶褐色砂混じり土で炭焼土を少量ふくむ単層である。

**SP292 (D地区)** L41区東側のA層上から掘り込まれたと考えられる柱穴である。乗岡福年近世Ⅰ期の斜めすり目をほどこす備前焼搦鉢の口縁部が出土した。柱抜き取り後に廃棄されたものである。2はそれである。

柱抜き取り後

## 小結

16世紀の第4四半期になると溝 SD23の上面まで御所小路の道路面が及ぶようになった。道路幅が北側に拡張したのか、あるいは道路自体が北側に中心を移動したかのいずれかであろう。今のところ御所小路の道路の南限を調査していないので、答えはでていない。

御所小路の拡張  
あるいは移動

この時期に御所小路町北側の東限と上市町西側の西限の境界、すなわち御所小路町と上市町の境界がはっきりとしてくる。溝SD110は最終的には17世紀初めまで存続しており、その方向は御所小路の道路と斜交するが、検出されたのはその一部に過ぎないので、どのように延びていくのか定かではない。この溝を境に、①遺構の分布密度と②土層の堆積状態が全く異なっている。すなわちSD110西側では遺構が少なく、かつ生活面も多くても2面であるのに対し、東側では土坑・柱穴がおびただしく分布・重複して掘られ、しかも生活面が最低5面以上、その間に3回以上の焼土層を

SD110

確認できる。このようにSD110は土地の境界として機能したものと推定される。

さて以上の御所小路の道路と東限の溝SD110に限られた御所小路町北側では、いくつかの土坑と柱穴が散見される状況である。前代の16世紀第3四半期の状況よりは遺構の密度は増している。しかし町屋の状況と比較すると、それはやはり疎であり、建物が少ないので町屋ではなく、武家屋敷として引き続き利用されたものと推定される。

御所小路北の  
宅地

## Ⅶ. 包含層・整地層出土の遺物 (第3-33図)

I層：現耕作土 出土遺物は省略。

Ⅱ層：16世紀第Ⅳ四半期～17世紀初頭の包含層。

1は京徳鎖青花皿F群のいわゆるつば皿口縁。2は中国焼締陶器鉢B類口縁。3は17世紀まで下る近世1c期の斜めすり目をほどこす備前焼搦鉢口縁。4は同じく近世1期の備前焼搦鉢底部。5は京都系土師器1期の小皿口縁部。6は京都系土師器2期の小皿口縁部。7は京都系土師器3期の皿で、口縁に故意の打ち欠きが有り、被熱している。

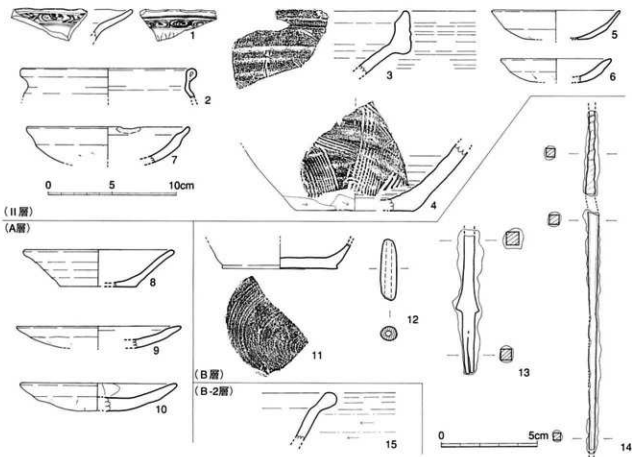
ほかに備前焼の甕2点。近世1期の備前焼搦鉢2点。瓦質甕1点・搦鉢1点・火鉢1点。瓦質土器3点。内面にロクロ目を残す土師器の小皿1点。京都系土師器2期ないし3期の皿20点。分類不能の京都系土師器40点。丸瓦1点・平瓦2点の破片が出土している。

A層 (D地区の東端にのみ堆積)：16世紀第4四半期～17世紀初頭の包含層。

8は底部糸切の在地系土師器坏。9は京都系土師器2期の皿口縁部。10は京都系土師器3ないし4期の皿口縁部。

青花F群  
近世1C期の  
備前焼

京土師3期



第3-33図 包含層・整地層の出土遺物 (1～12=1/3, 13・14=1/2)

**B層**：16世紀第3四半期の包含層。

11は底部糸切の在地系土師器坏の底部。12は管状土錘B類の完形品。13は鉄鎌基部。14は鉄製火箸で、もち手部分をねじっている。

京土師2期

ほかに瓦質火鉢1点・播鉢1点。底部糸切の在地系土師器20点。大内系土師器1点。内面にロクロ目を残す土師器2点。京都系土師器1期の皿1点。京都系土師器2期の皿3点。鉄釘2点。貝輪1点の破片が出土している。

**B-2層**：古代から16世紀前半の包含層。

15は瓦質鍋口縁で、外面へラケズリの河野B-1類。

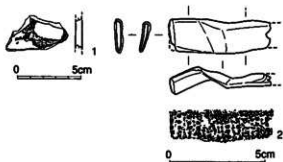
京土師1期

ほかに瓦質鍋口縁1点。底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、大内系土師器あり。京都系土師器1期皿1点などの破片出土。

**Ⅲ層**：基盤V層。出土遺物なし。

そのほかの遺物 (第3-34図遺物)

1はA地区出土の中国磁甕蓋緑釉盤。  
2はD地区出土の鉄芯銅板巻きの小柄で、表面に打ち出しによるなまこ模様がある。



第3-34図 A~D地区出土遺物 (1=1/3, 2=1/2)

#### Ⅴ. まとめ

御所小路北側の調査成果を、以下に簡潔書きでまとめる。

御所小路の時期

①御所小路の道路とその施工時期は、

A) 道路側溝と推定される溝SD278の掘り直し後の埋土中から京都系土師器2期の皿が出土し、B) その後SD21・22に掘り直されているところから遅くとも16世紀第3四半期のうちに道路側溝が掘り込まれていると推定される。

さらにその後SD21・22さらにSD23の溝が掘られることで北側に道路が拡大し、SD23からは近世1期の備前焼播鉢と京都系土師器3期の皿が出土するので、16世紀末まで利用されたことは明らかである。したがって道路は16世紀第3四半期から17世紀初めまで機能している。御所小路町の成立と存続時期もこの期間であると考えられる。

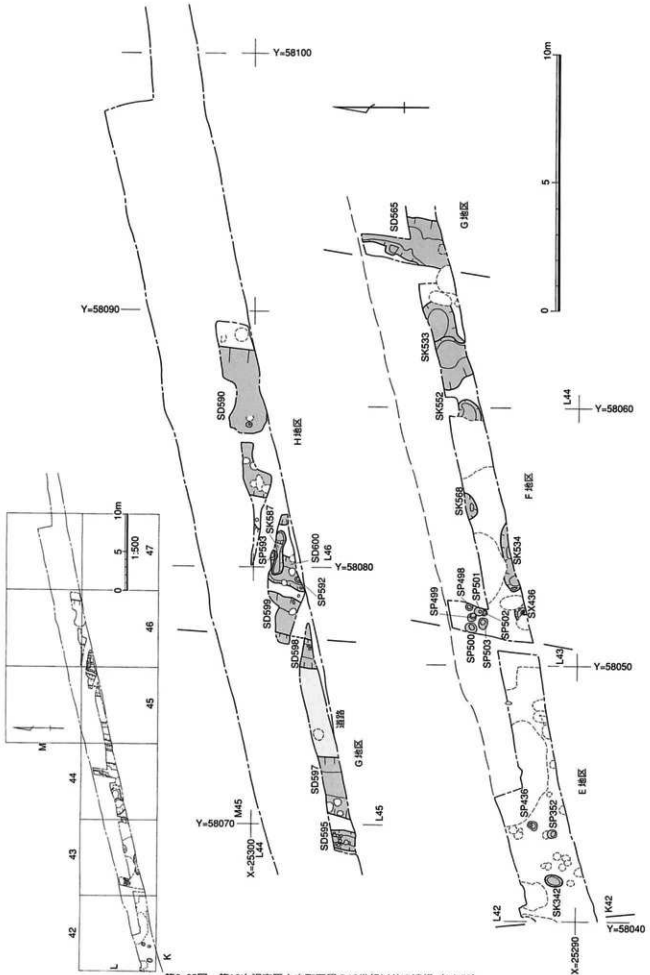
御所小路町北側

②16世紀後半の御所小路町北側の性格は、広大な敷地に散漫な遺構分布のありかたからみて、武家屋敷の可能性が強い。

16世紀前半は空閑地

③16世紀前半は東西南北に区画されているが、道路があったかどうかは不明である。仮に道路が存在したとしても、その北側は広大な空閑地として維持されている。

④15世紀の状況は16世紀前半と同じであるが、道路の代わりに大溝SD18で区画されている。



第3-35図 第16次調査区上市町下層の15世紀以前の遺構 (1/150)

第4節 上市町下層の遺構と遺物 (E・F・G・H地区)

I. 遺構の概要

15世紀以前

4節で取り扱うのは、後世の上市町に当たる場所の下層で発見された、15世紀以前にさかのぼる遺構である。それは①層序的にはE層あるいは基盤V層上で検出され (E地区ではB-2層上、F地区の西半ではC層上)、②遺物からみると、内面にロクロ目を残す土師器や京都系土師器を含まず、底部糸切の在地系土師器のみを出土する遺構である。

多くの南北溝

15世紀以前のほとんどの遺構は上市町の道路の下層あるいはその両側に分布し、第1南北街路から遠ざかるにつれてその密度は薄くなる。大小の溝が多いのが特徴で、廃棄土坑やピットはきわめて少なく、井戸も検出されていない。遺構の大半は基盤III層上面で検出したものである。

II. 14～15世紀代の遺構と遺物

概要 (第3-35図)

上市町の両側では古代にさかのぼる遺構は発見されなかったが、14世紀から15世紀に比定できる遺構がかなり多く分布する。ほとんどが南北方向の溝である。

溝

道路の存在

以下に述べる14～15世紀代の溝は、いずれも南北方向の溝であって、L45区のSD597とSD598の間には厚さ数cmの整地層が広がり、その後の道路建設で路面は削平されて硬化面はなくなっているが、15世紀代の道路遺構と考えられる。同じ方向に掘られているSD595からSD600は本来道路の側溝あるいは、道路を意識した区画溝と考えられる。それぞれの溝は同時に存在したのではなく、SD600→SD597・SD599→SD595・SD598の順で掘られており、SD565はSD597以前である。

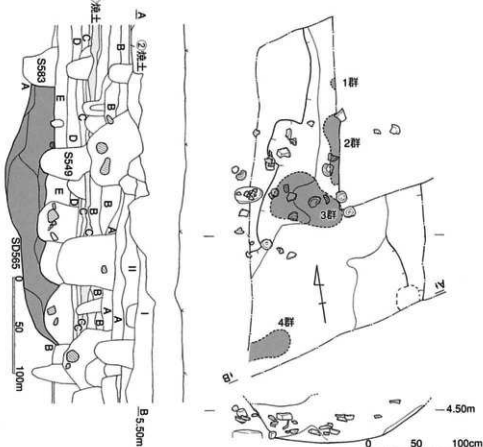
南北溝

土師器の大量  
廃棄

金雲母胎土

SD565 (G地区)

(第3-36図、図版44) L44区の基盤III層上面から掘り込まれた南北方向の溝である。埋没後E層が堆積する。断面はゆるい逆台形をなし、この付近で切り合いし最古の遺構である。溝内には底部に接して大量の土師器が廃棄されており、接合して完形になるものも多い。集中廃棄の単位を4群把握した。土師器の中には金雲母を多量に



第3-36図 SD565 (1/40)

含む独特な胎土のものが多い。また器高の低い14世紀形の小皿が多い。内面にロクロ目を残す土師器は含まず、底部糸切の在地系土師器のみで、大内系の薄手で白色の土師器が含まれる。小皿の形態などから見て15世紀前半の遺構であろう。

15世紀前半

## SD565出土遺物 (第3-37図)

(1群) 1は河野A-1類の防長系瓦質鍋口縁。2と3は底部糸切の在地系土師器の坏。

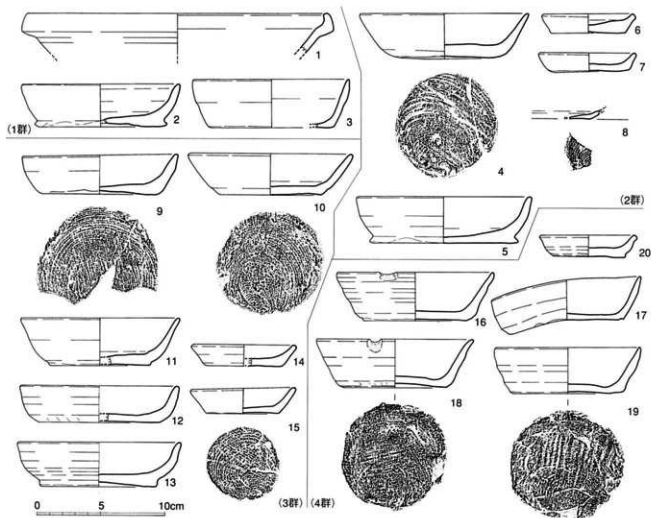
胎土石英  
海部産

(2群) 4と5は胎土に石英を多量に含む海部産の在地系土師器坏。6と7は口縁の低い在地系土師器小皿(6は金雲母を含む胎土で3群出土片と接合)。8は底部糸切りの大内系土師器皿の底部片。ほかに底部糸切の在地系土師器坏3点、口縁の低い在地系土師器小皿1点の破片が出土している。

(3群) 9~13は底部糸切の在地系土師器坏(9と10は口縁に故意の打ち欠きがある。10は海部産)。14と15は底部糸切の在地系土師器小皿(15は3群とSK189出土破片と接合し、口縁を故意に打ち欠く)。ほかに底部糸切の在地系土師器坏2点・小皿1点。砥石1点。などの破片が出土している。

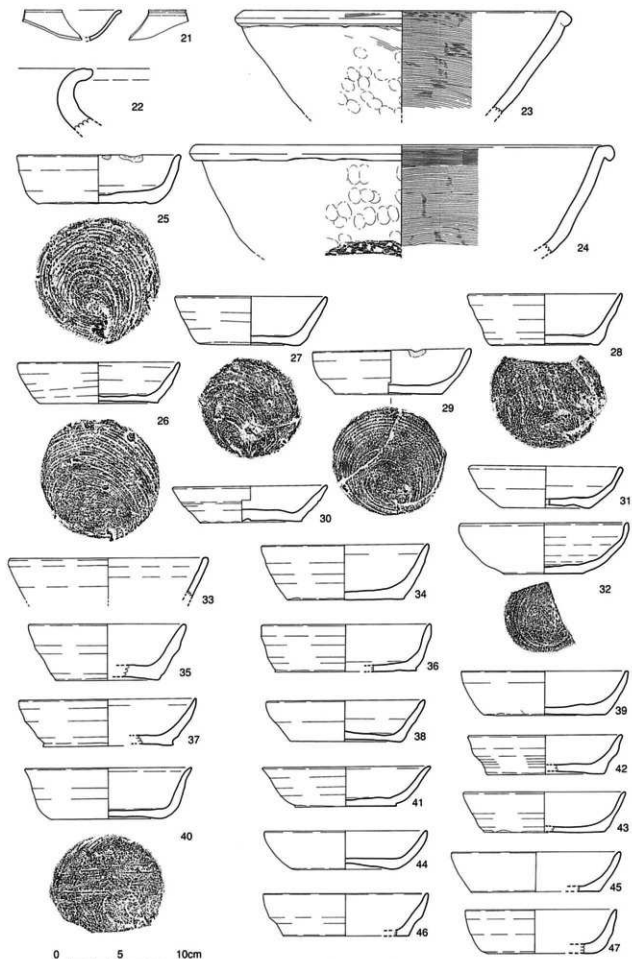
口縁打欠と故意破砕多い

(4群) 16と17は底部糸切の在地系土師器坏(16は口縁を打ち欠く)。18は完形の底部糸切の在地系土師器坏で、口縁を打ち欠く。19は接合して完形になった底部糸切の在地系土師器坏。20は底部糸切の在地系土師器小皿で、口縁を打ち欠く。ほかに底部糸切の在地系土師器坏1点。鉄釘1点。鉄片1点。などの破片が出土している。多くの破片が口縁を打ち欠いたり、故意に破砕しており、なんらかの祭祀に用いて廃棄したものであると考えられる。



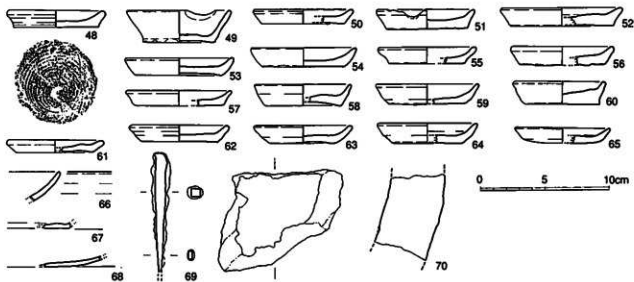
第3-37図① SD565出土遺物、1群~4群 (1/3)





第3-37図② SD565出土遺物 (1/3)

(一括) 21は端反の白磁皿口縁。22は瓦質製の口縁。23は瓦質鍋の口縁。24は底部外面にた  
 きのある14世紀前半の瓦質鍋。25と26は正位で置かれ、口縁の一部を打ち欠いた底部糸切の在地系  
 土師器環。27と28は逆位で置かれ、口縁の一部を打ち欠いた底部糸切の在地系土師器環。29は接合  
 して完形の底部糸切の在地系土師器環で2群と3群出土片と接合し、口縁の一部を打ち欠く。30は  
 正位に置かれた底部糸切の在地系土師器環。31と32は金雲母を多量に含む胎土の底部糸切の土師器  
 環の搬入品で、形態も異なっている。底部径が口径より小さく、体部は内湾する。33~47は底部糸  
 切の在地系土師器環(36は胎土に金雲母が多い。40は口縁を打ち欠きがある。44は故意に破砕し  
 ている)。48は完形で正位に置かれた底部糸切の在地系土師器小皿。49は逆位でつぶれた完形の底  
 部糸切の在地系土師器小皿。51は逆位でつぶれた完形の金雲母を多量に含む胎土の底部糸切の在  
 地系土師器小皿の搬入品。50、52~65は底部糸切の在地系土師器小皿(52・60・64は金雲母を多量に  
 含む胎土の搬入品)。66と67は大内系土師器皿の破片で、胎土は灰白色。68は白色の搬入の京都系  
 土師器。69は鉄製の火箸。70は凝灰岩製の石臼。ほかに中世陶器の壺3点、瀬戸美濃産陶器1点。  
 瓦質碗3点。瓦質土器1点。底部糸切の在地系土師器の環19点(口縁2、底部6)・小皿3点。鉄  
 釘3点。磁石1点。以上の破片が出土している。

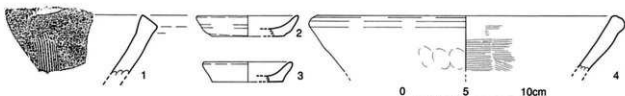


第3-37図③ SD565出土遺物 (1/3)

南北溝 SD600(H地区)(第3-35図参照) ML45・46区の基盤3層上で検出された南北方向の溝である。  
 断面は円形である。P592、P593、SK587に切られている。平瓦片が1点出土している。

南北溝 SD597(G地区)(第3-35図参照) LA5区の道路SF70の第15硬化面の下で検出された15世紀代  
 の道路にかかわる南北方向の溝である。溝SD598に切られている。断面は逆台形であるが、掘ら  
 れた直後にその東側に整地がおこなわれ、その土の一部が溝の内部に流れこむような堆積が観察さ  
 れる。おそらく道路面を作るための積土が行われ、道路使用時にはSD597は側溝として機能して  
 いたものと思われる。内部からは丸瓦が1点出土している。

南北溝 SD599(G地区)(第3-35図参照、第3-38図) ML45・46区のS70の第15硬化面より下で検出  
 された南北方向の溝で、SD598に切られている。1は15世紀はじめの乗岡福年中世3b期の備前焼  
 楕鉢口縁部、2と3は在地系糸切土師器の小皿で15世紀前半の遺物である。4は瓦質鉢口縁部で、  
 胎土に石英が多く海部産の遺物である。ほかに青磁小片と鉄釘が出土しているが青花は含まない。

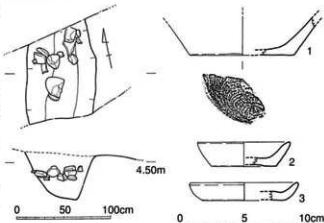


第3-38図 SD599出土遺物 (1/3)

南北溝

**SD595 (G地区) (第3-39図)** L44区の上市町の道路S70の下で検出した南北方向の溝で、断面は深いV字形である。長さ1.1m以上、幅0.7m、深さ0.5m。E層上から掘り込む。出土遺物は底部糸切の在地系土師器のみで、内面にロクロ目を残す土師器や京部系土師器を含まない。

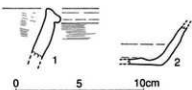
**SD595出土遺物** 1～3は底部糸切の在地系土師器で、1は坏、2・3は小皿である。ほかに大内系の薄手白色の土師器小片、瓦質火鉢・鍋、布目の残る中世の丸瓦片が出土している。



第3-39図 SD595 (遺構1/40、遺物1/3)

南北溝

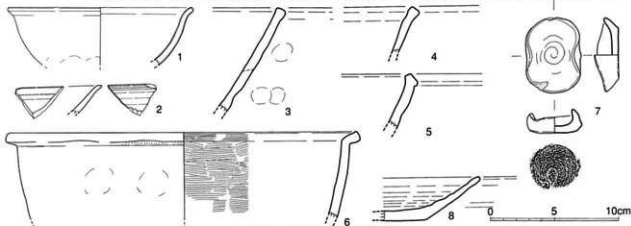
**SD598 (G地区) (第3-35図参照、第3-40図)** L45区のS70の15面より下で検出された15世紀代の道路に係る南北方向の溝である。SD597とSD599を切る。1は土師質の鍋口縁。2は底部糸切の在地系土師器坏底部。ほかに備前焼の甕の胴部片や鉄釘が出土している。



第3-40図 SD598出土遺物 (1/3)

南北大溝

**SD590 (H地区) (第3-35図参照、第3-41図)** M1A5・46区の基盤Ⅲ層上で検出した南北方向に伸びる大溝である。幅約6mをはかり、第1南北大路に並行する。トレンチで上端を検出したのみで底部まで掘っていないので、深さと断面形態はわからないが、上端幅から推してかなり大規模な溝の一部である。最上層の出土遺物に、内面にロクロ目を残す土師器が混じり、京部系土師器を含まないので、廃絶時期は16世紀第1四半期と推定される。掘削時期は15世紀までさかのぼると見られる。1は14世紀の中国龍泉窯産青磁碗D類口縁部、2は13～14世紀の白磁皿A3類、3～5は瓦質土器で、3と4は土鍋口縁(3は胎土に石英が多い海部産)、5は鉢口縁、6は土師質の土



第3-41図 SD590出土遺物 (1/3)

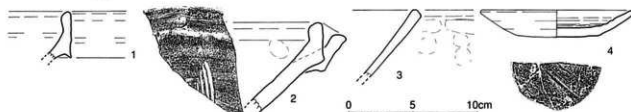
鍋口縁で東2区画トレンチのD層出土片と接合。7は糸切土師器小皿の耳皿の完形品。8は内面にロクロ目を残す土師器の大型皿で、東2区画トレンチのD層出土片と接合。そのほかに備前焼鉢底部、瓦質火鉢、大内系土師器、土師器の破片は在地系の土師器が大半である。

### 土坑

**SK534 (F 地区) (第3-42図、図版43)** L43区のD層上面で検出した土坑である。16世紀第1四半期の土坑 SK533に切られる。掘り下げ時には、SK533と区別がつかなかった。形は不整で断面も整っていない。埋没状況も長期間の陥没しながらの埋没で、内部に第3焼土層と第4焼土層に対応する焼土堆積の広がりがある。おそらく放置された土砂採取坑であろうか。出土土師器は底部糸切の在地系土師器が多く、上層には内面にロクロ目を残す土師器があるので、16世紀の第1四半期まで残っていた可能性が高い。尚 S514は礫の集中地点でSK534と一連の遺構である。

土取り坑?

**SK534出土遺物** 1・2は15世紀後半代の備前播鉢口縁。3は瓦質鍋の口縁。4は内面にロクロ目を残す土師器皿で、上層出土で被熱している。ほかに中国龍泉窯産青磁碗D類1点。中世陶器1点。備前焼播鉢底部1点。底部糸切の在地系土師器多数。鉄釘2点。以上の破片が出土している。

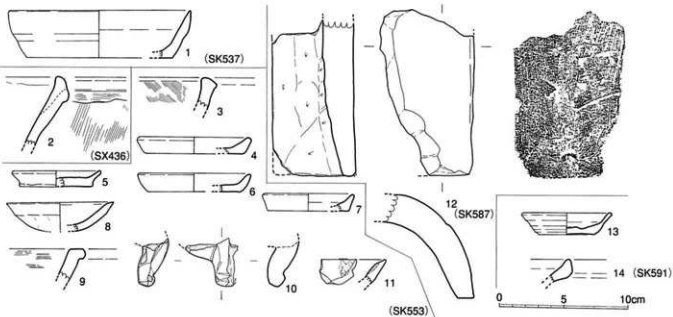


第3-42図 SK534出土遺物 (1/3)

そのほかの遺構 (第3-43図) 西から順に記述する。

**SK342 (E 地区)** L42区のB-2層上面で検出した長円形の土坑。B層上面の整地の際にはすでに埋没している。底部糸切の在地系土師器破片のみが出土している。

**SP352 (E 地区)** L42区のB層2回目掘り下げ後に検出の柱穴。SP347と同じ埋土で、搬入品の



第3-43図 そのほかの遺構出土遺物 (1/3)

薄手白色の京都系土師器破片が数点出土している。

SP346 (E地区) L42区のB層2回目掘り下げ後に検出した不整形の柱穴で、柱の位置に礎を置く。出土遺物は底部糸切の在地系土師器のみで、14世紀の吉備系土師器塊破片が出土している。

SP498 (F地区) L43区C層中から検出した柱穴である。出土遺物は底部糸切の在地系土師器の破片のみが出土している。

F地区のL43区の下層トレンチのC層上面で検出したSP499、SP500、SP501、SP502、SP503もこの時期のビットと考えられる。

SK537 (E地区) L42区の基盤IV層上で検出した円形の土坑で、16世紀第3四半期の土坑SK510に切られる。1は底部糸切の在地系土師器である。

SX436 (F地区) L43区C層上面からの不整形掘り込みである。SK389とSK400(16世紀第2四半期)に切られる。出土土師器は底部糸切の在地系土師器のみで、2は土師器鍋の口縁部である。

SK568 (F地区) L43区で検出された土坑。切り合い上最古の遺構で、出土遺物は底部糸切の在地系土師器のみである。

SK552 (F地区) L44区のD層上面で検出された円形の土坑である。16世紀第1四半期の溝SD529に切られる。出土遺物は底部糸切の在地系土師器と丸瓦1点である。

2つの土坑

SK553 (F地区) L44区の基盤層上面で検出されたもので、掘り下げるにつれて2つの土坑からなっていることが判明した。3は土師質鉢口縁部。4～7は底部糸切の在地系土師器の小皿(4は金雲母を多量に含む輸入品)。8は京都系土師器2期の小皿で後世の混入品であろう。9は瓦質火鉢の口縁、10は獣脚である。11は京都系土師器小皿を転用のつぼである。内面が高温で一旦溶けて凝固している。

SK587 (H地区) M45～46区のD層上面除去後に検出した東西に長い不整形船底型の土坑である。溝SD600の埋没後に掘られている。出土遺物は内面にロクロ目を残す土師器と、京都系土師器を含まない。12は丸瓦片。

S593 (H地区) M45～46区の基盤III層上で検出したビット。SD600を切る。底部糸切の在地系土師器と薄手白色の大内系土師器皿の小片が出土している。

S591 (H地区) M46区。13は在産糸切土師器の小皿、14は瓦質鉢口縁部、ほかに底部糸切の在地系土師器3点の破片が出土している。

### 小結

上市町の下層では、G地区の南北溝SD565を境に遺構の状況が大きく異なる。そのSD565の東では、南北方向の大小の溝が切りあいながら掘削されている。調査区の幅が狭いので、溝の方向を正確に割り出すのは困難だが、いずれも真北からやや東に振り、第1南北街路の方向と並行する。15世紀後半段階では道路面も確認できることからみて、これらの溝は15世紀の上市町の道路に係る溝、あるいはその道路と宅地を区画する溝として機能したものと考えられる。もちろん15世紀に、この付近が上市町と呼ばれていたかどうかは定かではない。

第1南北街路  
並行の溝

SD565以西

一方SD565の西側では、溝は全くなく、不整形な円形土坑や土取り穴などが重なっている。しかし遺構はそれほど密集せず、柱穴も少ないことから、上市町の道路に面した町屋が存在したとは考えにくく、一定の宅地の区画が存在したものと推定される。それは武家屋敷の方形区画である可能性も否定できない。

全体として第1南北街路の道路が存在し、その周囲には溝で区画された地割が存在する。

## 第5節 上市町の第1南北街路（G地区）

概要（第3-44図、付図3-1、図版38）

道路遺構

本節は、16世紀に使用された上市町の道路遺構を取り扱うが、それ以前の15世紀以前の遺構は第4節で扱う。SF70とした道路遺構は、まず表土直下で剛面として認識された。重機でもそれは感じられ、オベの方はこの部分は手ごたえが異なると感想をのべた。その硬い地面の位置は府内古図から想定された上市町の道路の位置にぴったりと一致している。

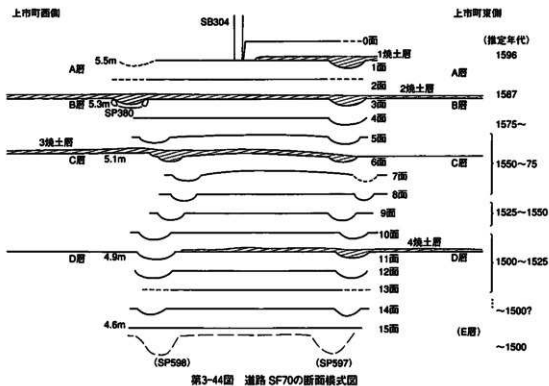
硬化面と同層

道路遺構は、踏みしめられて硬化し、移植ゴテでは歯が立たない。粘土をつき固めたようなもので、基本的に遺物は含まないが、時に礫や貝殻がはいる。バリバリとした感触のこの面を硬化面とよぶ。その下に砂礫層のやや軟い層があり、貝殻や時には土器の碎片などの遺物が見られる。以上の硬化面をなす層と同層があわせて一単位の積土整地をおこなって道路舗装がおこなわれている。貝殻はカルシウム分が溶けて道路を固化させる効果があり、人為的に混入されたものである。

道路舗装

またこの単位の間には4回の焼土層が完全に除去されないままその上に舗装がなされている。道路面に焼土が堆積するような大きな火災のあったことを物語っている。

焼土層



第3-44図 道路 SF70の断面模式図

道路（第1南北街路）（第3-45図、第3-46図、図版37）

16回の舗装

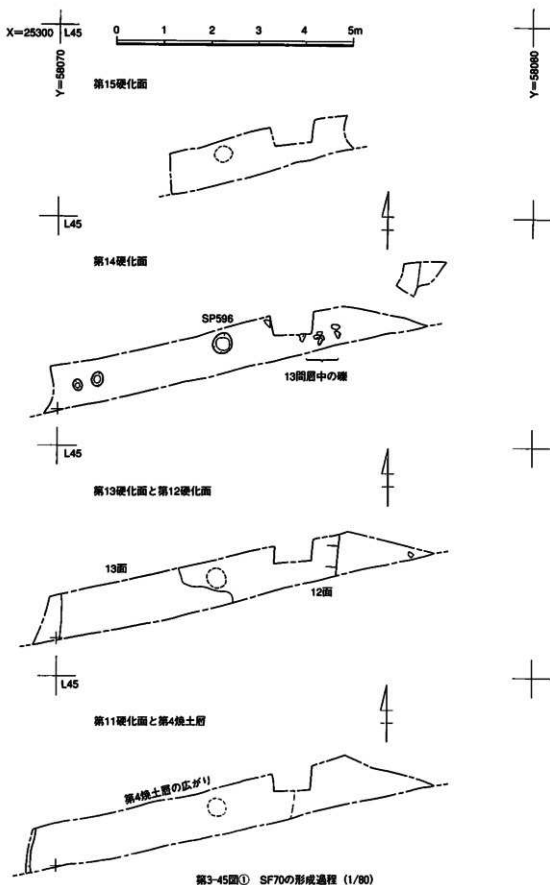
SF70 A層直下で検出したが、最終的には第0硬化面から第15硬化面まで、16面におよぶ舗装があり、さらにその中に部分的な硬化面を含めると20面近い舗装面がある。最初の硬化面は15世紀の末までさかのぼり、最後の硬化面は1596年から程遠くない時期に舗装され、1602年から数年の間の近世府内城下への移転まで使用されたものと考えられる。以下に初期を迫って記述する。

最初の硬化面

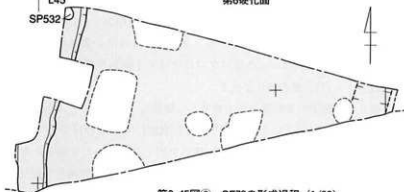
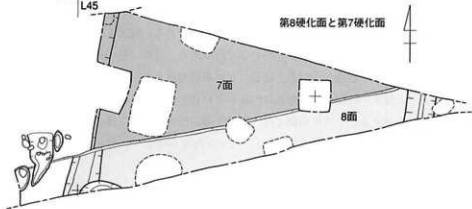
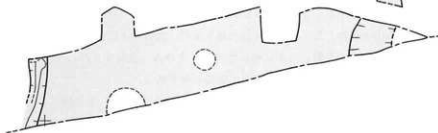
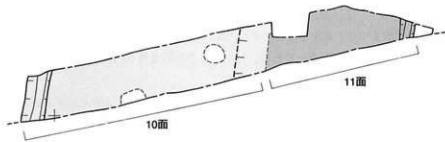
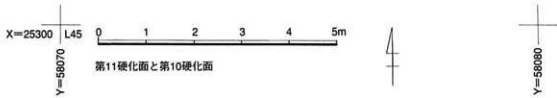
第15硬化面は、H区E層上面の生活面と連続した可能性のある最初の道路面である。断面には側溝は無く、路面はほぼ水平である。E層あるいはSD597とSD599間の15世紀の道路面の上面を、浅い皿状に掘り穿める形で形成された最初の硬化面である。積土による舗装ではなく、踏みしめられて硬化している。第15間層とした層は、E層あるいはSD597の整地層に対応する。防長系の瓦質鍋口縁部と底部糸切の在地系土器の破片のみが出土している。

積土舗装

第14硬化面は、東西に浅い側溝をもち路面はほぼ水平である。積土による整地層である14間層



からは、1は剣先蓮弁文のある15世紀後半の中国龍泉窯産青磁碗B類。2は玉縁口縁の備前焼瀬口縁。3は瓦質火鉢の底部。4は土師質鍋の口縁部、5は金雲母を多量に含む胎土の土師器小皿。そのほかに備前焼の甕、瓦質土器の鍋、薄手白色の大内系土師器の小片が出土した。出土土師器は



第3-45図② SF70の形成過程 (1/80)



底部糸切の在地系土師器のみである。

SP596 14硬化面上で検出した径40cmほどの円形のピット。出土遺物の6は銅銭で元豊通寶(北宋1078年初鑄)。ほかに白磁と在地系糸切土師器の小片が出土している。

15、14硬化面の時期

以上の第14硬化面までは、出土土師器の中に内面にロクロ目を残す土師器や京部系土師器が含まれず、底部糸切の在地系土師器のみである。したがって道路道構 SF70の第14硬化面までは15世紀にさかのぼる可能性がある。

第13硬化面は、積土整地による13間層によって形成され、積土中には準大の礫が混ざられている部分がある。この間層中からは、7の朝鮮灰青軸陶器の口縁部片、8は外面下半にへら削りをほどこす在地産の瓦質鍋口縁部。8は河野編年B-1期の16世紀前半にあたり、第12間層東側D層出土の破片と接合した。13間層中央では朱十字の漆塗り板片が出土した。ほかに骨、備前焼の婁刷部片、在地系の底部糸切土師器や鉄釘が出土している。8の鍋の存在から16世紀第1四半期にあたる可能性がある。

両側溝

第12硬化面は両側に側溝がみとめられ、路面はほぼ水平である。側溝から底部糸切の在地系土師器と瓦質土器碗の小片が出土している。9は側溝出土の底部糸切の在地系土師器小皿。積土整地による12間層からの出土遺物として、10は瓦質火鉢下部で、突帯の下に雷文の大型スタンプがある。11は東側で出土した完形の鉄釘。ほかに備前焼の婁・すり鉢(放射すり目)、瓦質火鉢の破片などが出土している。土師器は底部糸切の在地系土師器のみである。

第11硬化面の路面を東西に追うと、上市町のD層上面に対応する。それはこの第11硬化面上に堆積していた第4焼土層が明瞭に対応するからである。第4焼土層は16世紀第1四半期の火災層であるから、第11硬化面はその直前に舗装されたものであると考えられる。この面は積土整地層である11間層からなり、両側に浅い側溝があり、路面はほぼ水平で、中央部がやや盛り上がる。この11間層からは12の中国景徳鎮青花皿E群口縁部。13は瓦質火鉢の口縁部で、外面に雷文の刻印を施す。14は瓦質鉢の口縁。15は瓦質の小型の香炉で外面に刻印がある。16は瓦質鍋の口縁部で河野B-1期。17は破片の銅銭で開元通寶か。18は完形の3寸釘である。ほかに景徳鎮青花皿、白磁皿E-2群、備前焼の婁刷部片、薄手白色の大内系土師器、底部糸切の在地系土師器や内面にロクロ目を残す土師器のみである。舗装の時期は、土師器に内面ロクロ目を残す土師器が加わる時期である。

第4焼土層が次に堆積する。上市町西側では、D層上面に堆積する火災焼土層が、かなり薄くなりながらも、路面全体に広がり、断面では1ないし2cmの厚みをもつ。出土遺物は第6節の上市町西を参照。16世紀第1四半期の焼土層である。

16世紀第1四半期  
幅7.5m

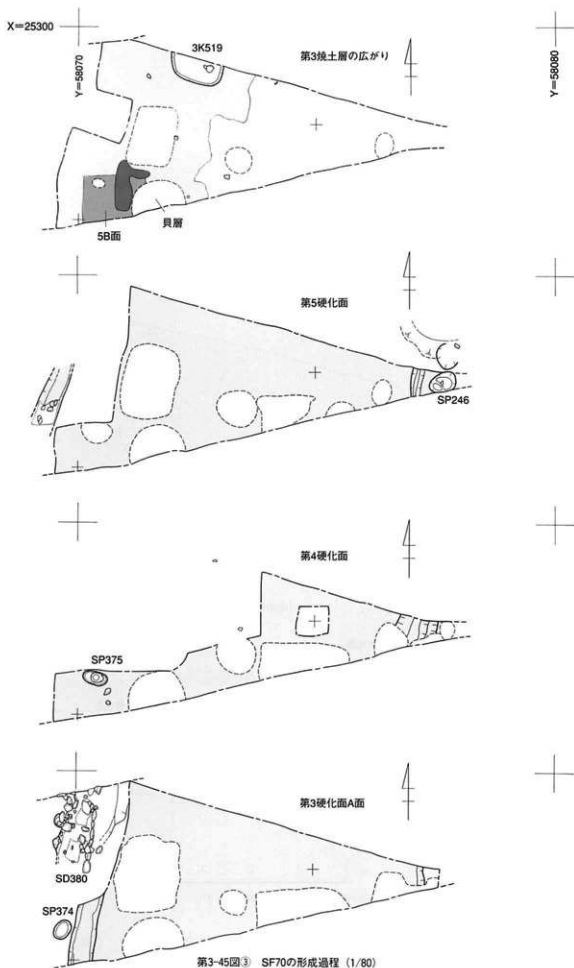
第10硬化面では両側に側溝を検出した。その心々距離は7.5mである。この硬化面は積土整地による10間層から形成され、出土遺物は底部糸切の在地系土師器、内面ロクロ目を残す土師器と薄手白色の大内系土師器のみで、京部系土師器を含まない。ほかに備前焼の破片が出土している。舗装時期は16世紀第1四半期にあたる。

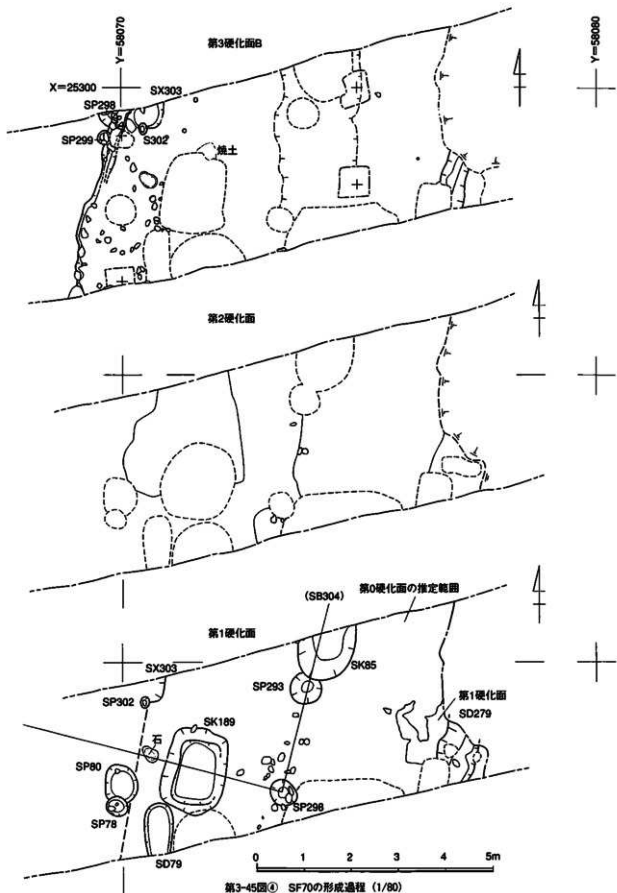
幅7.0m

第9硬化面は第10硬化面上に9間層を積土整地して舗装した道路面で、10面よりやや内側の両側に側溝をつけている。その心々距離は7.0mである。9間層からの出土遺物として、19と20は底部糸切の在地系土師器の坏と小皿。ほかに内面ロクロ目を残す土師器や朝鮮王朝高麗王、瓦質土器、備前焼すり鉢(放射すり目)・婁の破片が出土した。

東に移動

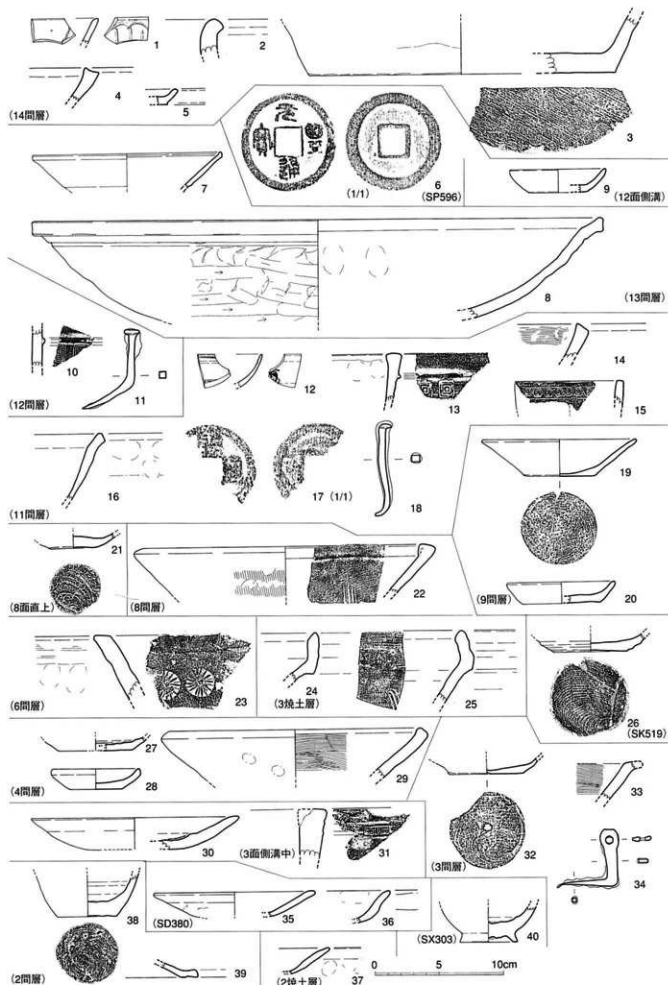
第8硬化面は、第9硬化面上に8間層を積土整地して舗装した道路面で、9面にくらべて東側に約1m移動して両側に側溝をつけている。つまり道路が東側にずれるわけである。その心々距離は7.0mでかわらない。硬化面にめりこんで21の口縁の全周を打ち欠いた在地系土師器の小皿が出土している。第8間層から出土した22は防長系の瓦質すり鉢口縁部で、河野編年では16世紀第3四半期である。ほかに青磁碗、瓦質鉢、糸切土師器の底部敷点出土した。舗装時期は16世紀第3四半





期にはいると考えられる。

第7硬化面は、第8硬化面上に7周層を積土整地して舗装した道路面で、8面と同じ位置に側溝をつけている。西側溝のみを検出した。この面から上は、道路面の南半分を掘り下げている。ま



第3-46図 道路SF70出土遺物 (1/3、6と17は1/1)

- 貝殻廃棄 路面はやや中央が高くなる。7間層からは舗装の積土にまぜるイボキサゴ・キサゴ類がまとまって集中廃棄された地点がある。この面から上で貝殻を伴う。底部糸切の在地系土師器のみで、外面に突帯をもつ瓦質火鉢の小片が出土している。前後の関係から16世紀第3四半期の舗装であると考えられる。
- C層上面対比 第6硬化面の路面を東西に追うと、上市町のC層上面に達する。それはこの第6硬化面上に堆積していた第3焼土層が明瞭に対応する。第3焼土層は16世紀第3四半期の火災層であるから、第6硬化面はその直前まで使われていた道路面であろう。この面は積土整地層である6間層からなり、両側に浅い側溝があり、路面はやや中央が高くなる。側溝の位置は西側に再び移動し、第9硬化面の道路位置に戻っている。出土遺物の中で、この面より上で瓦片が多くなる。SP532が第6硬化面の西側溝に掘り込まれているが、出土遺物はない。第6間層からの出土遺物として、23は器高の低い瓦質火鉢の口縁部で、1線直下外面に2個一対の輪状文のスタンプがある。ほかに丸瓦や平瓦の小片がある。
- 西にもどる
- 16世紀第3四半期の火災 第3焼土層（16世紀第3四半期）は焼土炭混じり層の広がりである。特に第6硬化面の路面が側溝に向かって低くなる西側で厚い堆積がみられた。西側にイボキサゴ・キサゴ類の集中箇所がある。24と25は中世6a期の備前焼播鉢で1500～1530年ごろの製品である。ほかに中国龍泉窯系青磁碗、中国漳州窯系青花の皿片が多く、底部糸切の在地系土師器、内面ロクロ目を残す土師器、京都系土師器1期の皿の破片を含む。
- 道路上の土坑 SK519 第6硬化面上で検出した浅い土坑である。第3焼土層を切るのは確実だが、あるいは第5硬化面上から掘られたものか。埋土はざくざくとした砂層で周辺の硬化した砂層とは異なり、炭層が一部に広がり、数点の礎石が入る。26の底部糸切の在地系土師器破片が出土している。この土器は口縁の全周を打ち欠いた祭祀行為に伴う遺物である。
- 幅7.5m 第5硬化面は、第6硬化面上に5間層を積土整地して舗装した道路面で、6面と同じ位置に側溝をつけている。西側溝はやや西に移り、その心々距離は7.5mで再びやや広くなる。路面はやや中央が高い。一部ではAB二枚の硬化面がある。路面からは底部糸切の在地系土師器、内面ロクロ目を残す土師器の破片が出土し、側溝からは備前焼の剝削部片と底部糸切の在地系土師器底部片が出土している。5間層からは丸瓦や鉄釘の破片があり、瓦には砂の付着が激しく、舗装用に混ぜられたものである。そのほかに舗装材料の巻貝や底部糸切の在地系土師器と京都系土師器2期皿の破片が出土している。舗装の時期は出土遺物と層序から16世紀第3四半期と考えられる。
- 火災復興 第4硬化面は、第5硬化面上に4間層を積土整地して舗装した道路面で、5面と同じ位置に東側溝をつけているが、西側には側溝がなく平坦である。第4硬化面上ではSP375が掘られている。それは長円形の小ピットで、埋土は茶褐色砂混じり軟質土、出土遺物はない。4間層からの出土遺物として、27は内面ロクロ目を残す土師器で、摩滅がはげしい。28は内面ロクロ目を残す土師器の小皿口縁部。29は瓦質鉢の口縁部。ほかに底部糸切の在地系土師器と京都系土師器1・2期皿の破片が出土している。
- B層上面対比 第3硬化面の上面は、上市町西と東のB層上面に対応する。第3硬化面は西側にAB2面にわかれ、東側溝の位置は変わらないが、西側溝は西側に1m近く広がる。第2焼土層の火災はこのA面上に堆積している。側溝中から30の京都系土師器3期の皿と31の瓦質火鉢の口縁部で上部が突出し雷文の刻印があるものが出土している。ほかに備前焼片、瓦質播鉢片あり。3A面からは32の全周を打ち欠いた内面にロクロ目を残す土師器の坏底部が出土している。被熱した破片が多い。
- 第3硬化面上で道路の断面形態を観察すると中央部が最も低くなる浅い皿状となり、両側は徐々に高くなりそこに浅い側溝がつき、さらに側溝の外側が最も高い盛り上がりとなり、そこから再び低くなっている。

以上は第3硬化面A面で、上述した両側のやや高くなる部分を除去するとはほぼ水平な第3硬化面B面があらわれた。同時に石組み側溝のSD380も現れる。したがって第3硬化面舗装当初はほぼ道路面は水平でその両側の側溝が取り付けいていたものである。3期層からは、33は瓦質鍋の口縁部。34は屈曲した鉄金具で目釘孔がある。ほかに青磁椀花皿口縁部片、備前焼壺、平瓦、貝、京都系土師器1・2期皿の破片が出土した。舗装の時期は16世紀第4四半期の1587年の戦災以前である。

入口施設

SD380 (第3-45回、図版37) M44・45区の第3硬化面のA面とB面の間で検出された石組みの側溝である。底面には石を使用していない。第2焼土層が上を覆っているが、1586年の火災時にはすでに埋まっている。側溝の両側に人頭大の円礫を一段配置して側溝の側面を固めている。西1区と西2区の延長線がこの石列の南端に一致するところから、西側の道路に接した西1区面の町屋建物の入口施設であると考えられる。35は京都系土師器1期皿の口縁で、胎土は白い。36は京都系土師器2期皿の口縁部で溝内の焼土層の下で検出。ほかに青磁椀花皿、青磁碗、備前焼、鉄釘の破片が出土した。16世紀第4四半期の1587年の戦災以前の遺構である。

火災層

第2焼土層 (推定1587年) 上市町西側のB層上面に堆積した焼土層がそのままやや薄くなりながら、第3硬化面全体に広がっている。37は側溝中の第2焼土層出土の京都系土師器1期の皿口縁。第2硬化面は路面全体で検出されたが、側溝は判然としなかった。路面にめりこんで貝類遺体を検出してゐる。1587年の火災後最初の道路面である。2期層からは、38は備前焼小底底部。39は瓦質土器の蓋口縁部。ほかに備前焼播鉢 (放射すり目)、京都系土師器2期皿の口縁部片、丸瓦や銅銭の破片、貝殻が出土している。貝殻はいずれもサザエ類であった (第4章第2節参照)。

第1硬化面は平面的に検出されたのは一部に過ぎないが、北断面の観察から、ほぼ路面全体に認められる。東側溝の一部をSD279として調査している。おそらく1587年から1596年の間の舗装であろう。

1面の側溝

SD279 (H区西) LM45区の第1硬化面精査時に発見した浅い溝状遺構で、断面は皿状をなす。北側は乱れで破壊されているが、残存している範囲の溝の方向がSF70の方向と一致するので道路の側溝と考えられる。しかし埋土はよくしまった黄色粘質土で人為的に埋められた状態を示し、上面は第1硬化面と同じ高さであった。また底面は第2硬化面に達して止まっているので、この側溝は第1硬化面造成後に掘られたが、短命で第1硬化面存続中に埋められたものと考えられる。遺物は鉄釘が1点出土したのみである。

1期層からの出土遺物は備前焼の播鉢 (放射すり目)・壺、在地系土師器の坏、鉄器釘先の破片が出土している。

この第1硬化面上に第1焼土層 (推定1596年) が来る可能性が高い。

東半のみ舗装

第0硬化面は、北断面の観察からは路面全体に行われたものではなく、東半分のみに行われた舗装である。幅は3m前後である。第1焼土層の上から積土整地して舗装しているので1596年の火災後の舗装であろう。遺構が半減している。この硬化面の舗装が行われていない西半分では以下の遺構が道路面の上から掘り込まれている。したがって道路を東詰めに狭めて、町屋が拡大している。したがって以下の遺構は第0硬化面に伴う遺構である。

道幅半減

町屋の拡大

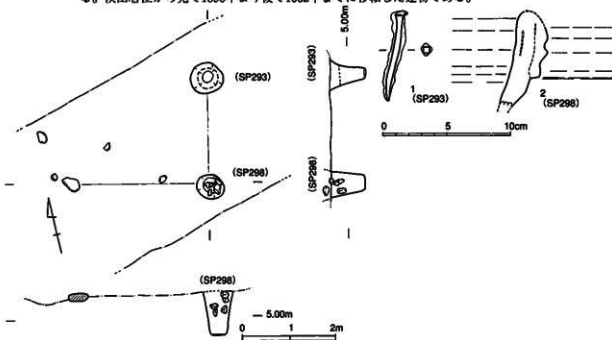
SP80 (G地区) L44区のA層上面で検出した。第2焼土層を切る柱穴である。SP78に切られる。出土遺物は青磁碗、京都系土師器の小片が出土している。

SP78 (G地区) L44区のA層上面からの掘り込まれたものある。SP80を切る円形のビットで、底面に根石を置いているところからみて柱穴である。層位関係から1587年以後の遺構とみてよく、京都系土師器3期の皿が出土した。

S302 (G地区) L45区のSF70で発見された小ビットである。S303を切る。鉄釘の破片が出土している。

**SX303 (G地区)** L45区の第1硬化面上のくぼみで性格不明。S302に切られる。40は朝鮮王朝産陶器底部片で砂目がある。ほかに備前焼埴鉢体部の破片が出土している。

**SB304 (G地区)** (第3-47図) L45区の第1硬化面上から掘り込まれた掘立柱建物の一部である。道路SF70の方向とも一致しSP298から直交する位置に礎石がある。F地区から張り出し、SP293とSP298の東側では第1硬化面上に、0間層が整地され、その上に最終道路面である第0硬化面が形成されているので、この建物SB304が建設された時点で、上市町の道路は西半分が宅地化し、その道路幅は大幅に狭まったことを証している。検出層位から見て1596年より後で1602年までに移転した建物である。



第3-47図 SB304 (遺構1/80、遺物1/3)

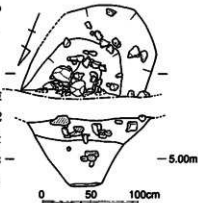
柱穴

**SP293** L45区のSF70第3硬化面上で当初検出した柱穴だが、同じ位置の上部に礎が集中していたのでその高さからみて第1硬化面上から掘り込まれたものである。埋土は暗灰茶褐色でよくしまり、炭土はほとんどなく、出土遺物の1は鉄釘の完形品のほかは古代の須恵器片のみであった。

**SP298** L45区のSR70第3硬化面上で当初検出した柱穴だが、同じ位置の上部に礎が集中していたので、その高さからみて第1硬化面上から掘り込まれたものである。埋土は暗灰褐色土と茶褐色土の混層で固くしまり柱を固めるように石が埋め込まれている。中央部に柱痕があり、内部に被熱障が入っていたので、柱は廃絶時に抜き取られたことは確実である。粗土内から2の乗岡福年近世1期の備前焼壺口縁片のほかに、平瓦の小片や雲母を多く含む糸切土師器の破片が出土している。

**SK85 (G地区)** (第3-48図、図版39) LM45区のA層上面で検出した平面円形断面不整形の土坑である。長さ1.3m以上、幅1.2m、深さ0.7m。SF70の第1硬化面を切る。北壁にかかっているため全体の形状は不明であるが、内部には廃棄された礎が集中しており廃棄土坑と考えられる。SB304に隣接するところからみて、道路が狭くなった最終段階の町屋に伴う廃棄土坑と考えられる。

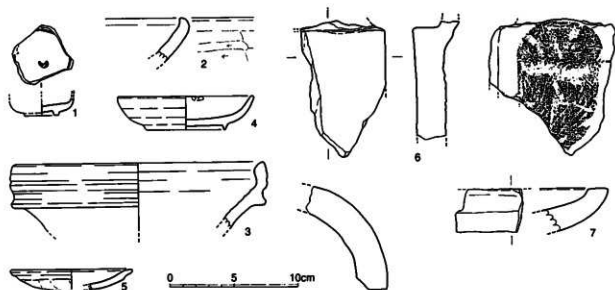
**SK85出土遺物** (第3-49図) 1は中国景徳鎮窯系青花の小杯。



第3-48図 SK85 (1/40)

道路上の廃棄土坑

2は備前焼鉢の口縁部、3は中世6a期の備前焼播鉢、4は瀬戸美濃大窯3期の陶器皿で、口縁に1箇所打ち欠きがある。5は京都系土師器2期皿の口縁部、6は大型の丸瓦で内面の布目につり紐の痕跡が残る。7は砂岩製の茶臼の下臼の破片である。ほかに青花碗、白磁皿、青磁、中国産陶器壺、備前焼の斜めすり目の播鉢・甕、瓦質火鉢、土師器鍋、磚・平瓦などの小片が出土している。



第3-49図 SK85出土遺物 (1/3)

SK189 (G地区) (第3-50図、図版40) LM45区のII層掘下げ後に検出した長方形の土坑で、底面も平坦なので本来穴蔵等の機能を持って掘られたものである。長さ1.8m、幅1.3m、深さ0.4m。SB304建物と方向が一致するのでその建物に伴う土坑であろう。埋没状態はSK85と似て、炭焼土を含む砂混じりの暗褐色軟質土に大多数が焙熟した小礫が多量に入り、その中に土器片が散在する状況で、廃棄土坑に転用されたものである。ただし最上層に黄色土の整地層があるので埋没したのは建物の廃絶以前である。唐津産の小皿や中国景德鎮青花皿F群の存在から1596年以後のものである。

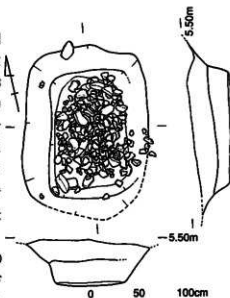
貯蔵穴?

廃棄土坑に転用

唐津灰軸陶器皿

SK189出土遺物(第3-51図) 1は唐津灰軸陶器の皿で1590~1610年に生産されたもの、2は中国景德鎮窯系青花皿F群口縁、3は同じ青花碗、4は中国龍泉窯系の青磁碗、5は朝鮮王朝産白磁皿で、目跡が内外につく。6は京都系土師器2期皿の口縁部。ほかに最上層からは丸瓦や平瓦の破片、上半から備前焼の甕や播鉢、景德鎮青花、漳州青花、白磁皿、瓦質火鉢・鍋などの碎片が出土した。

検出時に7の京都系土師器4期皿の口縁部や京都系土師器3期皿や底部糸切の在地系土師器の破片出土。ほかに次の土坑が掘り込まれていた。



第3-50図 SK189 (1/40)

SD79 (G地区) (第3-52図) L45区のA層上面で検出され南壁にかかっている。南北方向の浅い溝である。長さ1.1m、幅0.6m、深さ0.1m。内部には華大の礫がまぎれと出土している。埋土は砂混じりの茶褐色土である。近代の遺構であるS187に切られている。SF70の道路の方向とやや異っており、道路廃絶後の遺構であろう。中世府内町が移転した1602年前後の遺構であると考



えられる。備前焼鉢鉢片、青磁碗、瓦質土器碗などの小片が出土しているが、近世の遺物はない。

#### 小結

以下にこの道路についての調査成果を列記する。

上市町の第1  
南北街路

①道路遺構SF70は、その位置と方向から、府内絵図に描かれた上市町の道路と一致する。中世大友府内町遺跡の第1南北街路に当たる。

②この上市町の道路には16面の硬化面すなわち舗装道路の面が認められる。道路の舗装は砂混じりの積土の上に粘土層を載せるのがもっとも丁寧な施工方法で、粘土層の場合もある。そのなかに小型の貝類を混ぜることが多い。貝類はイボキサゴ・キサゴ類の小型の巻貝である。16世紀末に近い第2硬化面より上では混ぜ物の砂利の量が多くなる。

貝殻を混ぜる

円筒溝

幅7～7.5m

③道路は両側に円筒溝を持つのが普通で、多くの面はほぼ水平であるが、第7硬化面以後は中央がやや高くなる。道路幅は円筒溝の心々距離を測れる場合は、7mないし7.5mで、1世紀間近くかわらないうので、道路幅には一定の決まりがあったものと推測される。円筒溝の位置は道路の舗装のたびに少しずつ移動し、1m前後東西に移動し元に戻る。

石組舗装

④円筒溝は基本的に浅い茶掘りの溝であるが、例外的に1586年に焼けた第3硬化面に伴う西側の町屋にはSD380の石組み円筒溝が伴う。おそらく道路に面した建物の入り口部分に石組みを施したものと考えられる。

大規模土層

⑤最初の硬化面である第15硬化面から第12硬化面までは積土中に内面にロクロ目を残す土師器や京都系土師器を含まない。調査面積が狭いので、明確ではないが、最初の舗装は15世紀にさかのぼる可能性がある。

道路の縮小

⑥第11硬化面上に第4焼土層、第6硬化面上に第3焼土層、第3硬化面上に第2焼土層、第1硬化面上に第1焼土層が堆積する。とりわけ第2焼土層と第3焼土層は除去されずにそのまま積土の一部として利用されるほど厚く堆積しており、火災の激しさを物語っている。

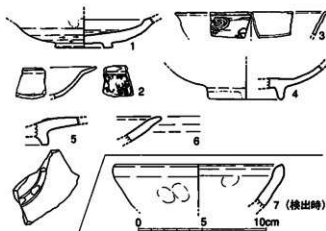
舗装技術

⑦第1硬化面廃棄後、西側から建物が張り出し、道路が狭くなる第0硬化面が舗装される。中世大友府内町の最終段階である1602年の移転前には、上市町の道路は幅3mほどに縮小されている。

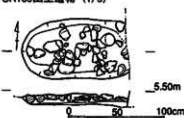
路面の上昇

⑧上層に行くほど硬化面舗装に隙をまぜるようになる。コンクリートと同じ効果である。また硬化した路面では貝類を混ぜた痕跡が明瞭である。道路面を固化する16世紀の道路舗装技術の一面面を伝えている。

⑨1世紀あまりの間に道路面の高さは、標高4.3mから5.5mまで、1.2m上昇した。その間16回以上の舗装が行われていることになる。数年に一度舗装が行われたと考えられる。このような道路の作り方は、硬化面の累積が行われない古代以来の道路とは、大きく異なっている。



第3-51図 SK189出土遺物 (1/3)



第3-52図 SD79 (1/40)

## 第6節 上市町西側の遺構と遺物 (E・F・G地区)

## I. 遺構の概要 (第3-53図、付図3-2、図版32・33)

下層トレンチ B層上面までは全面を掘り下げ、L43とL44区では生活面が多層化するので、南側に幅1.5mの下層トレンチを設けて掘り下げた。E・F地区とF・G地区の境界付近では南北方向に幅1mの下層トレンチを拡張し、L42区の下層は全掘した。

次に層序をまとめる。

I層：現耕作土

1596年以後 II層：A層と同じ内容の土層で、この上面から掘り込まれた遺構は1596年以後の復興面の遺構であると推定される。

第1焼土層 ほとんどが削平されているが断面の一部で確認される。第1焼土層に対応する各地区のA層上面のうち、特に残りのよいG地区A層上面では17世紀初頭にあたる京都系土師器4期の皿が出土している。1596年の慶長大地震による火災層である可能性が高い<sup>(註1)</sup>。

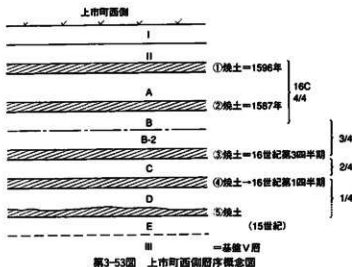
1587年の戦災後の復興 A層：1587年の火災後の整地層。京都系土師器3期の皿と斜めすり目を施す近世1期の備前焼播鉢が調査区全体に分布している。A層は1587年の島津氏の豊後侵入による府内炎上後の復興時の整地層であり、その上面から掘られた遺構は1587年から1596年の遺構と考えられる。斜めすり目の近世1期の備前焼播鉢や京都系土師器3期の皿を最新の遺物とする。

1587年の戦災 第2焼土層 1587年の火災層。L43・L44区では全体で厚く堆積している。中国景徳鎮窯系青花E群のいわゆる飯頭心碗を主体とし、中国漳州窯系青花をかなり含む。京都系土師器2期の皿が多く、3期の皿も少数ながら含まれる。それに近世1期の斜めすり目の備前焼播鉢を伴う。第2焼土層の下のSP323からも斜めすり目の備前焼播鉢破片が出土している。第1南北街路SF70(上市町道路)の第3硬化面上にまで堆積する。第16次調査区に堆積した焼土層の中では最大の規模の焼土層である。第7次調査区の第1焼土層に対応すると考えられる。

B層：1587年の火災前の整地された生活面(16世紀第4四半期)。この整地層では短冊型地割が作られている。土師器は京都系土師器2期の皿を主体に京都系土師器3期の皿もごく少数含まれる。

短冊型地割 B-2層：第3焼土層堆積後の最初の整地層(16世紀第3四半期)。この整地層で初めて短冊型地割が作られている。京都系土師器2期と3期の皿を同量ふくみ、内面にロクロ痕を残す土師器は少ない。斜めすり目の備前焼播鉢破片が1点含まれている。小面積な調査にもかかわらず多量の銅銭が出土している。火災後の整地の際の地鎮祭祀(SP242)があり、FG地区では焼土層直上に銭貨や完形の土師器を置いている。なおこの整地に際した祭祀行為では京都系土師器1期の皿が用いられている。

第3四半期の火災 第3焼土層：16世紀第3四半期の火災層。京都系土師器1期・2期の皿が多く、3期の皿はない。中国漳州窯系窯系青花E群のC群模



微皿が確実に含まれる。第1南北街路SF70(上市町道路)の第6硬化面上に対応する。この層には瓦片が多く、この層から上では瓦が多くなる。なお第3焼土層除去後のC層上面には京都系土師器2期の皿が含まれているので、C層の整地で形成された生活面は基本的に第3四半期の火災直前まで利用されていたと考えられる。

4 焼土の復興  
面

**C層**：16世紀第1四半期の整地層。第4焼土層堆積後に整地して造成された生活面である。出土した土師器は底部糸切の在地系土師器と内面にロクロ痕を残す土師器のみで、京都系土師器を含まないので整地の時期は16世紀第1四半期である。

**第4焼土層**：内面にロクロ痕を残す土師器の破片のみが出土している。SF70(上市町道路)の第11硬化面上に対応する。

最初の整地層

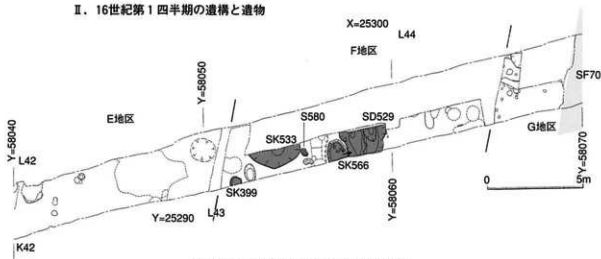
**D層**：15世紀から16世紀第1四半期の整地層。D層中からは底部糸切の在地系土師器のみが出土し、内面にロクロ痕を残す土師器や京都系土師器を含まないので、15世紀のうちに整地されて形成された生活面である。その後C層上面の第4焼土層の直前まで、内面にロクロ痕を残す土師器が使われているので、この生活面は16世紀第1四半期まで利用されたと考えられる。F地区では15世紀の中世5b期の備前播鉢(1475~1500年製)が含まれている。

**第5焼土層**：底部糸切の在地系土師器のみ出土で、15世紀代の焼土層。

**E層**：15世紀の包含層。底部糸切の在地系土師器のみが出土している。

**Ⅲ層**：基盤V層

## Ⅱ. 16世紀第1四半期の遺構と遺物



第3-54図 16世紀第1四半期の遺構 (1/200)

概要 (第3-54図、付図3-3)

15世紀代に掘られた溝はほとんど埋没し、第1南北街路の道路がこの時期から路面の舗装を開始する。上市町の道路SF70である。12硬化面の道路西端から10mほど西に平行して溝SD529が掘られ、その西側(L43区)では廃棄土坑が重なり、第4焼土層の部分的広がりが見られる。土坑の中にはSK399のように、完形の土師器を埋め置いた遺構が存在する。おそらく新たな道路の建設に伴った、宅地割がなされたものと推定されるが、16世紀後半以後の密集度には程遠く、まだ町屋とは言いがたい。

溝と土坑

溝

南北溝

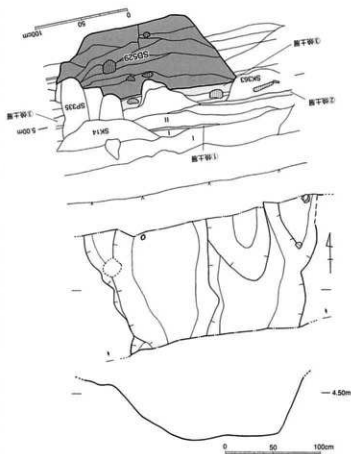
**SD529** (F地区) (第3-55図、図版43) L43区のD層上面で検出した南北方向の溝である。断面は掘り直し前後も逆台形である。幅約1.8m、深さ0.9mである。やや東にずれて掘り直しがあ

り、最終的な埋没後にはD層上面の整地層が薄く覆っている。15世紀の土坑SK552と同じ16世紀第1四半期の土坑SK566を切る。溝には掘り直しがある。口縁を打ち欠いた内面にロクロ痕を残す土師器(1)の皿が、掘り直し前の溝に廃棄されており、何らかの祭祀行為が行われた可能性を示す。

#### SD529出土遺物 (第3-56図)

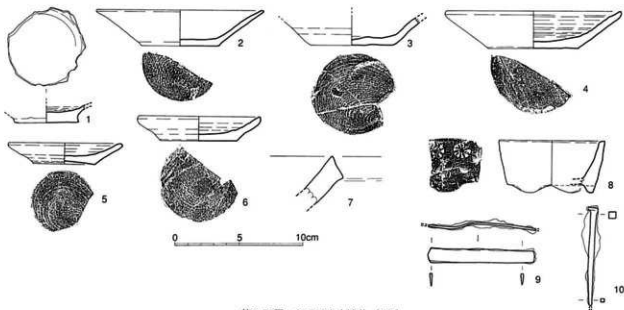
土師器には京都系土師器を含まない。1は口縁の全周を打ち欠いた内面にロクロ痕を残す土師器の皿、2と3は底部糸切の在地系土師器坏だが、形態はロクロ痕の土師器に近い。4は内面にロクロ痕を残す土師器皿、5と6はその小皿。7は15世紀はじめの中世3b期の備前焼播鉢、8は瓦質小型の香炉、外面に菊花紋の刻印を施す。9は鉄製の刀子。10は完形の鉄釘。ほかに中国龍泉窯産青磁碗、放射すり目の備前焼播鉢・甕、瓦質火鉢・鉄刀子・釘、薄手白色の大内系土師器の破片が出土している。

ロクロ目土師器



第3-55図 SD529 (1/40)

中国龍泉窯産青磁碗、放射すり目の備前焼播鉢・甕、瓦質火鉢・鉄刀子・釘、薄手白色の大内系土師器の破片が出土している。



第3-56図 SD529出土遺物 (1/3)

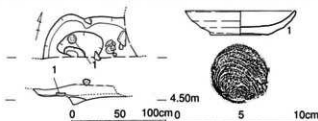
## 土坑

**SK399 (F地区西)** (第3-57図) L43区の下層トレンチのD層上面で検出した長円形の土坑で、S436 (15世紀) を切り、SK398 (16世紀第3四半期) に切られる。長さ1.0m、幅0.5m以上、深さ0.2m。出土遺物が底部糸切の在地系土師器と内面にロクロ痕を残す土師器のみで、京都系土師器を含まないところからこの時期の遺構とした。完形の在地系土師器小皿(1)を底面中央に正位で置く土師器埋置遺構である。

土師器埋置

口縁打欠

**SK399出土遺物** 1は正位に置かれた底部糸切の在地系土師器小皿の完形品であり、口縁に3箇所の故意の打ち欠きがある。ほかに須恵質の中世陶器、瓦質火鉢、大内系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器や、器高の低い在地系糸切土師器の小皿の破片が出土している。

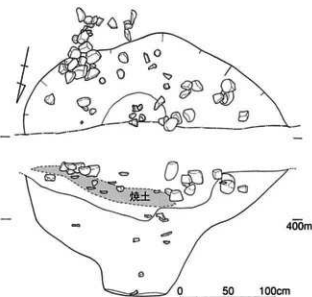


第3-57図 SK399 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK533 (F地区西)** (第3-58図、図版43) L43区のD層上面で検出され、15世紀の土坑SK534を切る平面半円形の土坑である。長さ2.7m以上、幅1.0m以上、深さ1.6mである。

大型土坑

**SK533出土遺物** (第3-59図) 以下はSK533と534上層がかなり混じっている最上層出土遺物。1は14世紀までさかのぼる備前焼甕口縁。2と3は薄手の底部糸切の在地系土師器小皿だが法量は異なる。4は管状土錘A類の中小型完形品。5は半分に折れた中国銅銭の紹聖元寶(北宋1094年初鑄)。6は小型の仕上用砥石。ほかに白磁皿



第3-58図 SK533 (1/40)

E2類端反の口縁1点。白磁1点。中国景德鎮窯系青花の皿B1群1点。同じ青花1点。中国漳州窯系青花碗1点。瓦質土器1点。鉄釘3点。などの破片が出土している。

**(上層焼土層)** 7は瓦質鉢の底部。8は内面にロクロ痕を残す土師器皿で、底部に焼成後の穿孔がある。ほかに瓦質鍋1点、白銅銭一枚が出土している。

**(中層焼土層)** 9は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器の大型坏。10は底部糸切の在地系土師器の大型坏。11は口縁の全周を打ち欠いた底部糸切の在地系土師器底部。12は内面にロクロ痕を残す土師器皿で内面のロクロ痕をナゲ消している。13は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器小皿。ほかに底部糸切の在地系土師器の坏2点(1点は第3焼土層D層出土片と接合)の破片が出土している。

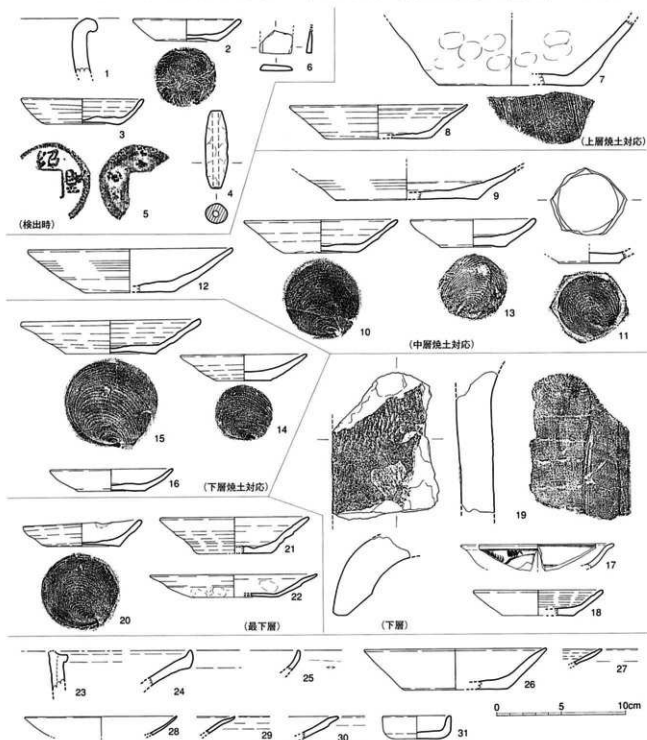
**(下層焼土層)** 14は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器小皿の河野E類。15は内面にロクロ痕を残す土師器で、故意に破砕された割れ方で出土し、D層とSK534の出土破片と接合。16は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器小皿の河野E類。ほかに平瓦1点、動物骨1点の破片が出土している。

**(下層)** 17は中国景德鎮窯系青花皿B1群。18は内面にロクロ痕を残す土師器の小皿。19は内

面の布目につり紐の痕が残る丸瓦。ほかに瓦質火鉢底部1点、鉄釘1点の破片が出土している。

(最下層) 20は底部糸切の在地系土師器小皿(口縁に3箇所打ち欠きがある)。21は内面にロクロ痕を残す土師器皿。22は薄手白色の京都系土師器0期皿。ほかに14世紀後半から15世紀の中国龍泉窯系青磁碗CⅡb類1点。底部糸切の在地系土師器坏1点などの破片が出土している。

(一括) 23は14世紀の土師質鍋口縁。24は瓦質鉢口縁。25は瓦質土師器碗。26は京都系土師器を模倣した底部糸切の土師器皿。27と28は大内系土師器皿。29は京都系土師器0期の皿。30は京都系土師器1期の皿。31は京都系土師器の小型小皿。ほかに備前焼の播鉢2点。瓦質の甕1点(外面格子タタキ)・火鉢1点・播鉢1点・鍋2点(口縁1)。底部糸切の在地系土師器多数。そのうち小皿



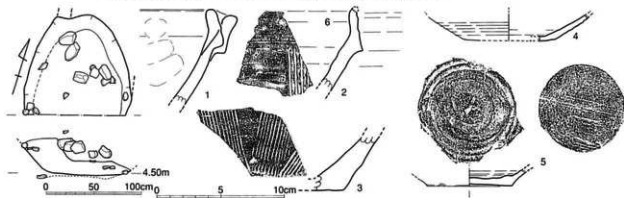
第3-59図 SK533出土遺物 (1/3)

1点はSK534出土破片と接合。内面にロクロ痕を残す土師器多数。丸瓦1点(内面布目外面縄目タタキ)。平瓦4点。銅銭片1点。以上の破片が出土している。

**SK566 (F地区) (第3-60図)** L43区の下層トレンチのD層除去後に検出し、基礎Ⅲ層まで達していた。断面観察からD層上面から掘り込まれたものである。不整な長円形の土坑である。長さ1.1m以上、幅1.0m、深さ0.4m。同じ第1四半期の溝SD529に切られている。内部には礫や土師器の破片が多く廃棄されていた。その中には口縁部の全周を打ち欠いた内面にロクロ痕を残す土師器の坏が含まれていて、廃棄時になんらかの祭祀的行為が行われたものと見られる。出土土師器は底部糸切の在地系土師器と内面にロクロ痕を残す土師器のみで、京都系土師器が含まれず、共伴する備前焼播鉢は乗岡編年の中世5b期の1475~1500年製のものなのでこの時期とした。

廃棄土坑?

**SK566出土遺物** 1と2ともに15世紀後半の中世5b期の備前焼播鉢の口縁部である。3は備前焼播鉢の底部片。4は薄手白色の大内系土師器の皿。5は内面にロクロ痕を残す土師器皿の底部で口縁全周を打ち欠いている。ほかに瓦片や土師器の破片が多い。



第3-60図 SK566 (遺構1/40、遺物1/3)

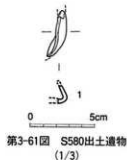
そのほかの遺構 (第3-61図)

**S580 (F地区)** L43区のE層上面で検出した不整形のピットである。底部糸切の在地系土師器坏の小片のほかに、1の内面に布目に残る土師器の耳皿片が出土した。

小結

南北方向に伸びるSD529の西側に、廃棄土坑が多く、そのうちSK399とSK566では土師器を埋置する祭祀行為が行われており、広い面積の宅地が存在したものと考えられる。

広い区画

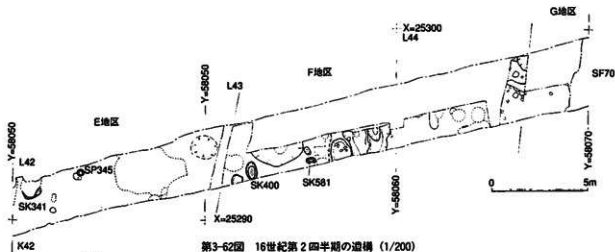


第3-61図 S580出土遺物 (1/3)

## Ⅱ. 16世紀第2四半期の遺構と遺物

## 概要(第3-62図、付図3-3)

上市町の道路遺構SF70の西側に広がるC~D層上面で検出された遺構群で、小土坑と柱穴がほとんどで、それほど密集していない。



第3-62図 16世紀第2四半期の遺構(1/200)

## 土坑

SK581 (F地区) (第3-63図、図版44) L43区の基盤層上面で検出した小土坑である。長さ0.5m、幅0.3m。E層上でふさがれており、E層上面から掘り込まれたもの。しかし1層を打ち欠いた完形の在地系糸切土師器が1点、正位に置かれたように発見された。意図的は土師器埋納遺構である。埋土中からはほかに内面にロクロ裏を残す土師器と京都系土師器1期の皿の破片が出土しているのでこの時期まで下げた。

SK581出土遺物 1は底部糸切の在地系土師器環で口縁部に打ち欠きがある。

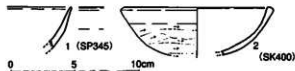
## その他の遺構(第3-64図)

SK341 (E地区) L42区のB-2層(D層に対応)上面で検出した不整形の土坑である。長さ1.0m。B層上面の整地の際にはすでに埋没し、16世紀第3四半期のSK123に切られているので、それ以前であるが上限ははっきりしない。下部に塵が集中し埋土に炭焼土を多く含む、上部には黄色粘土のC層上面整地層が入り込む。出土遺物には瓦質鍋の小片がある。

SP345 (E地区) L42区のB-2層上面(D層に対応)から掘り込まれた円形の柱

柱穴

SK400 (F地区西) L43区トレンチのC層上面で検出された長円形の小土坑である。長さ0.9m、幅0.5m。中国景德鎮窯系青花片、備前焼の甕、底部糸切の在地系土師器、大内系土師器、京都系土師器1期皿の1層のほかに、2は瓦質土師器碗の1層片が出土している。

第3-63図 SK581  
(遺構1/40、遺物1/3)

第3-64図 その他の遺構出土遺物(1/3)



### 小結

わずかな柱穴と廃棄土坑と考えられる小土坑が点在する状況であるが、土坑SK581のように埋没に先だって土師器の埋納が行われている遺構があり、この付近に何らかの施設があったことは確実である。この状態を宅地と行えるかどうかは別にして、第1四半期同様に広い範囲に遺構が散在に分布するなんらかの区画が設定されていたものと考えられる。

## M. 16世紀第3四半期の遺構と遺物

概要 (第3-66図、付図3-3中)

### C層上面

C層上面から掘り込まれた遺構をこの時期とする。16世紀の第3四半世紀の間に、上市町の道路の両側には火災による焼土層が広く堆積しており、この焼土層を第3焼土層とする。遺構はこの第3焼土層の上から掘り込むことが確認されたものと、第3焼土層除去後のC層上面で検出した遺構に別れる。

### 3焼土の上下

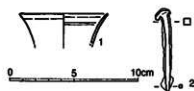
整地層の厚くなるL43区とL44区では焼土層を取り除くと、硬化して表面がよこれた明瞭な生活面(C層上面)を検出したので、第3焼土層以前の遺構と、火災後の遺構を掘り分けることは容易であったが、L42区は第3焼土層の広がりがなく、生活面も削平されていたために明確でなかった。

以下の3遺構は第3焼土層との上下関係は判別できなかったが、検出層序と出土遺物から16世紀の第3四半期の遺構であると判断した。(第3-66図)

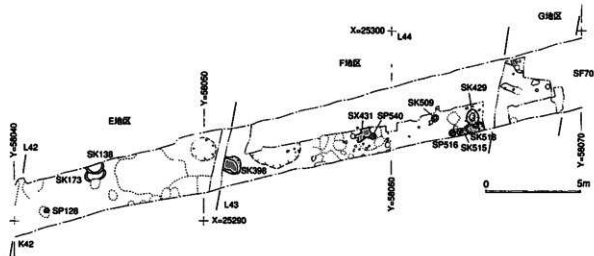
SP128 (E地区) L42区のB層上部で検出した土坑SK127を切る円形の柱穴。遺物はない。

SK138 (E地区) L42区のB層上面で検出した長円形の土坑で、SK173を切る。長さ0.9m、幅0.5m以上。埋土は1～2ミリ大の炭・焼土を含む砂混じりの暗褐色土の単層である。1は白磁小皿。2は完形の鉄釘。ほかに白磁1点。増反りの中国景德鎮窯系青花碗B群1点。青花碗1点。備前焼の寛胴部1点。底部糸切の在地系土師器1点。完形の鉄釘1点。

SK173 (E地区) L42区のB層上面で検出した円形の土坑で、1587年以後の柱穴SP73とSK138から切られる。長さ0.9m、幅0.4m。5ミリ大の炭・焼土を含む砂混じりの暗褐色土の単層である。ほかに碁碁底の中国景德鎮窯系青花皿C群、朝鮮王朝産舟徳利と京都系土師器1期と2期量の破片が出土している。



第3-65図 SK138出土遺物 (1/3)



第3-66図 16世紀第3四半期の遺構① (第3焼土以前、C層上面、1/200)

## ①16世紀第3 四半期（第3 焼土層以前）（第3-66図）

## 概要

C層上面の遺構

第3 焼土層除去後のC層上面精査時に発見した遺構である。大小の土坑敷基と、少数の柱穴が分布する。特にL44区には密集する。上市町の道路SF70に面して礎石となりうる石材が4つ検出されている。C層上面の生活面が機能していた時点では、上市町の道路面の方が両側の宅地部分より高く、緩やかな斜面を介在させて西側は一段低くなっている。その西側は平坦である。重要なことはこの時点ではまだ瓦葺型の地割は形成されていないことである。

大尺画



第3-67図 SK509（遺構1/40、鏡貫1/1）

## 土坑

残貨埋納

SK509（F 地区）（第3-67図） L44区のC層上面で第3 焼土層除去後に検出した小土坑。長さ0.5m、幅0.4m、深さ40cm。平面形は楕円形をなし、断面も整わない。内部から銅銭2枚が出土し埋納した可能性が高い。埋土には焼土や炭を多く含む。

SK509出土遺物 1は銅銭の破片（開○通○と読める）、2は完形の嘉祐通寶（北宋1056年初鑄）。

## そのほかの遺構（第3-68図）

礎石

礎石 G地区の道路に向かう緩やかな斜面で礎石となりうるような平坦な円盤を検出したが配置に規則性がないため、礎石建物があったのか整地層に混入したものが不明である。

SK398（F 地区西） L44区下層トレンチのC層上面で検出した円形の土坑である。SK399（16世紀第1 四半期）を切る。3～4 ミリ大の炭・焼土を多く含む砂混じりの暗褐色土の単層である。1は在地系糸切土師器の底で、2は底部糸切の在地系土師器台付き皿で底部中央に穿孔がある。1箇所は打ち欠きがある。3は京都系土師器1期の皿、4は銅銭で元符通寶（北宋1098年初鑄）だが、ほかに中国龍泉窯系青磁碗B IV類、備前焼、京都系土師器2期の皿、瓦質火鉢、鉄釘などの破片が出土している。

C層上面の跡

SX431（F 地区）（図版42） C層面を作るとき埋没した窪みである。底面中央には円形の被熱面があり灰の堆積や第3 焼土層に対応する焼土層の堆積が認められ、C層上面のこのくぼみで火をたいたものと見られる。しかし常設された跡とはみなしがたい。5は防長系瓦質鉢で16世紀前半の河野A 1類、6は在地系の糸切土師器小皿。ほかに中国景徳鎮窯系青花碗口縁、京都系土師器1期の皿口縁、鉄釘などが出土している。

SP540（F 地区） L43区下層トレンチのD層上面で検出したが、断面土層から見るとさらに上のC層上から掘り込まれたと見られる円形の柱穴である。炉SX431に伴う可能性もある。7は土師質火鉢の口縁破片で、ほかに在地系土師器小皿の破片が出土している。

SK516（F 地区） L44区のC層上面で第3 焼土層除去後に検出した小土坑。長さ0.4m、幅0.3 m。埋土は単層で3～4 ミリ大の炭や焼土を含む暗褐色土。竹や底部糸切の在地系土師器の底破片が出土した。

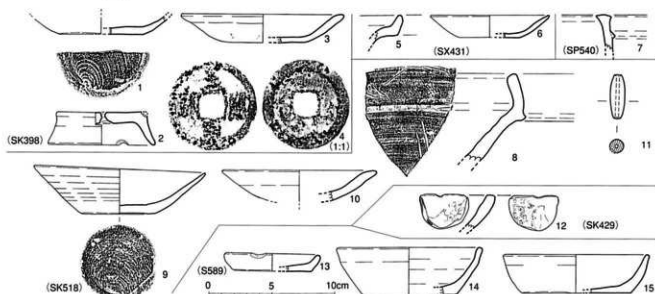
SK518（F 地区） L44区のC層上面で検出した不整形の土坑であるが、壁の断面観察から3つの土坑の複合であることが判明した。8は中世6期の備前焼檜鉢。9は底部糸切の在地系土師器

で、16世紀後半の河野E期でL44区第3焼土層出土の破片と接合した。10は京都系土師器2期皿の口縁、11は下層から出土した管状土錘A類の完形品で、超小型に分類される。ほかに、白磁皿A群、碁笥底の白磁皿E3群、内面にロクロ痕を残す土師器の破片が出土している。

**SK515** (F地区) L44区のC層上面で検出された長円形の浅い土坑である。長さ0.6m、幅0.4m。同じ時期の土坑SK518を切る。埋土は単層で2～3ミリ大の炭焼土を含む暗灰褐色土。出土遺物は底部糸切の在地系土師器と瓦質擂鉢の破片がある。

**SK429** (F地区) L44区下層トレンチのC層中で検出した長円形の土坑である。長さ0.8m、幅0.7m。16世紀第4四半期の柱穴SP456出土破片と接合した京都系土師器2期皿の破片や、割れて判別できない銅銭2枚(銭種不明)や、12の黒色の付着物が内面から断面にひろがる土製のつばのほか、中国景德鎮窯系青花碗E群と青磁、放射すり目の備前焼擂鉢、瓦質鍋や底部糸切の在地系土師器、京都系土師器1・2期の皿の小片が出土している。

**S589** (G地区) L44区(西2区)トレンチE層上面で検出したが遺物の内容から見てこの時期と考えられる。13～15は底部糸切の在地系土師器の坏および小皿である。13には口縁に打ち欠きがあり、14は胎土が異なる搬入品。ほかに中国景德鎮窯系青花碗E群と青花皿C群、青磁碗、白磁皿E-2、白磁小坏、京都系土師器1・2期の皿、内面にロクロ痕を残す土師器の破片が出土している。



第3-68図 そのほかの遺構出土遺物(4=1/1、そのほかは1/3)

### 小結

C層上面の地形をみると緩やかな斜面をなし、とりたてて段差がない。また道路から直交する方向への区画施設の遺構はみとめられず、この段階ではいまだ短冊型の地割りは存在していない。しかし道路SF70に直交する方向に礎石が認められるので、上市町の道路に面して礎石建物が建てていた可能性が指摘できるのみであるが、確実ではない。

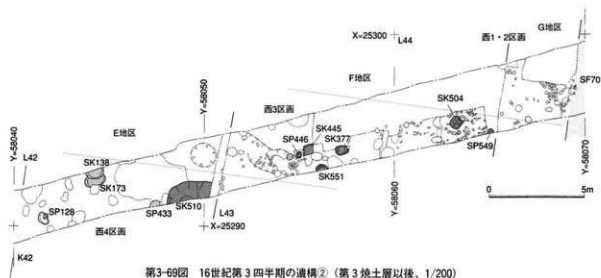
### ⑫16世紀第3四半期(第3焼土層以後)(第3-69図、付図3-3、図版33)

#### 概要

火災復興面

第3焼土層形成後、その上に盛り土をおこなって造成された火災復興面である。B-2層として把握した。その上面は、ゆるい段差で区画され、のちに西1区画と西2区画に分けた部分が一つの区画となり、西3区画と西4区画ができあがる。第3焼土層の上あるいは、その上の最初の整地層で

いまだ短冊地割ではない



第3-69図 16世紀第3四半期の遺構②(第3焼土層以後、1/200)

B-2層上面

あるB-2層上から掘り込まれた遺構である。

第3焼土層はF地区のL43区からG地区の道路SF70の第6硬化面上に広がる焼土の堆積である。以下は形成された区画ごとに記述する。

**西1区画・西2区画** 明瞭な遺構は無い。

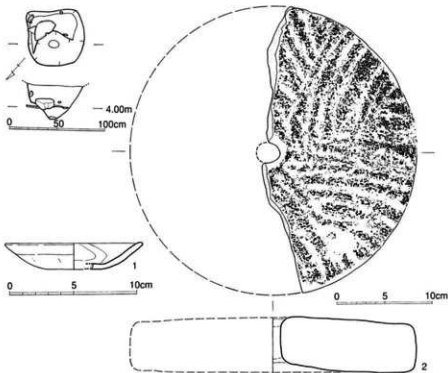
### 西3区画

#### 土坑

**SK504(F地区)** (第3-70図、図版42)  
L44区のC層上面で第3焼土層除去後に検出した方形の土坑。長さ一辺0.6m、深さ0.4cm。平面形は不整な四角形をなし、底面は平坦である。内部からは両端が被熱した石臼や、土師器・陶器の破片が大粒の炭や焼土の塊とともに出土し、第3焼土層の片付けに起因する廃棄土坑である。

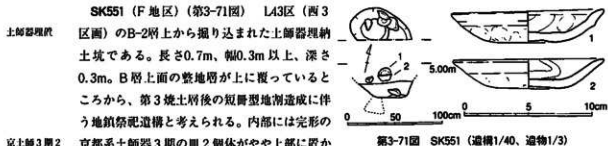
方形土坑

火災処理土坑



第3-70図 SK504 (遺構1/40、遺物1=1/3、2=1/4)

**SK504出土物** 1は京系土師器1期の皿で、西3区B層上面と第2焼土出土破片と接合。2は半分にわかれた安山岩製の石臼で、被熱している。ほかに備前焼の甕はSK188出土破片と接合し、底部糸切の在地区土師器、内面に口口痕を残す土師器、瓦質土器や鉄釘、骨片などが出土している。

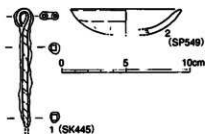


SK551 (F地区) (第3-71図) L43区 (西3区画) のB-2層上から掘り込まれた土師器埋納土坑である。長さ0.7m、幅0.3m以上、深さ0.3m。B層上面の整地層が上に覆っているところから、第3焼土層後の短冊型地割造成に伴う地鎮祭遺構と考えられる。内部には完形の京都系土師器3期の皿2個体がやや上部に置かれていた。2が正位で置かれ、1はその上に横向きに出土した。

SK551出土遺物 1と2は埋納されていた、ともに完形の京都系土師器でいずれも3期の皿か。ほかに備前焼の播鉢、底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器、大内系土師器の小片が出土しているが、いずれも埋土中に混じったものである。

#### そのほかの遺構 (第3-72図)

SK377 (F地区) L43区 (西3区画) トレンチの第3焼土層を切る状況で検出された長円形の土坑で、断面も半円形である。長さ0.7m、幅0.5m。おそらくB層中から掘り込まれたものであろう。埋土は5ミリ大の炭・焼土が多い微砂質暗褐色軟質土で、瓦質土器と底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。



第3-72図 そのほかの遺構出土遺物 (1/3)

SK445 (F地区) L43区 (西3区画) トレンチのB1層整地時に埋没した浅い円形の土坑である。埋土は暗褐色軟質土で、B層整地層によって埋められている。1は鉄製火箸の握り部分で環頭状に折り曲げ、ねじりを入れている。ほかには土師器の小片が出土している。

SP446 (F地区) L43区 (西3区画) 拡張したサブトレンチのB層除去後に検出した円形の柱穴である。内面にロクロ痕を残す土師器と糸切り土師器のみが出土している。

SP549 (G地区) L44区 (西3区画) の第3焼土層より上で検出した円形の柱穴。2は京都系土師器1期の小皿1縁部、ほかに鉄釘片出土。

#### 西4区画

##### 土坑

土師器埋戻

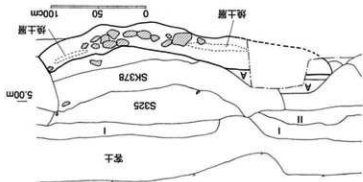
廃棄土坑

SK510 (E地区) (第3-73図、図版42) L42区 (西4区画) のB-2層上面で検出されB層が上を覆う円形の土坑である。第4四半期の土坑SK378に切られる。長さ2.5m以上、幅1m以上、深さ50cm。断面はやや深い皿状で、上層には糠が充満し、埋土には5ミリ大の火粒の焼土・炭片が含まれる。糠の下には炭屑が広がり、その下には底部糸切の在地系土師器の坏がおかれていた。上部は別の遺構の堀込みがあり、上層の遺物は必ずしも本土坑に伴うものではない。上層遺構は別の集石土坑である可能性が大きい。廃棄土坑で掘削時に土師器の埋納が行われている。

SK510出土遺物 (第3-74図) 下層出土遺物。1は中国景德鎮窯系青花皿B1群口縁、2は白磁鉢、3～6は底部糸切の在地系土師器の坏、7は同じく小皿、8は瓦質火鉢の口縁。ほかに青磁、備前焼の甕、瓦質土器碗、内面にロクロ痕を残す土師器、京都系土師器、平瓦・鉄小刀・釘などの小片が出土している。

上層出土遺物。第4四半期の遺物がある。9は中世6期の備前焼壺口縁、10は15世紀後半の中世5期の備前焼播鉢口縁。11は瓦質土鍋で16世紀後半河野B-2類。12は底部糸切の在地系土師器、13は京都系土師器2期の小皿、14は京都系土師器3期の皿。15と16は完形の中国銅鍍で、15は元祐通

寶（北宋1086年初鑄）、16は開元通寶（唐621年初鑄）。17～19は鉄器で、17は1寸鉄釘、18は3寸鉄釘、19は小刀の完形品。ほかに朝鮮王朝産舟徳利（16世紀後半）、備前焼の甕、瓦質土器火鉢、鉄釘、焼けた壁土の一部などが出土している。

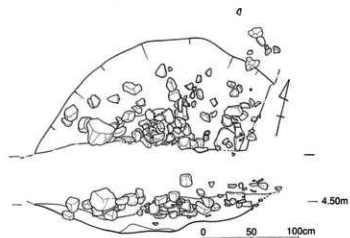


小結

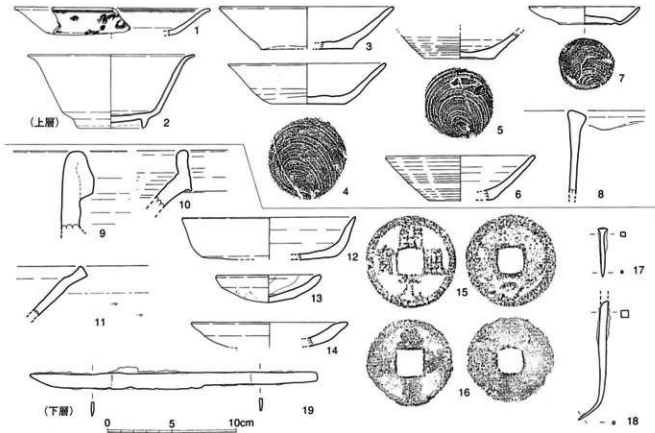
第3焼土層が形成された後、すなわち火災以後の上市町を復興するに際して、道路の位置は全く変わらず、西側に道路と直行する区画が、盛り土によって造成される。しかし内部は柱穴や土坑の分布と密度から見て、それほど建物は建て込んでいない。短冊型地割といってもまだ開口は広がった可能性がある。

盛土造成

段差をつけ短冊型地割



第3-73図 SK510 (1/40)



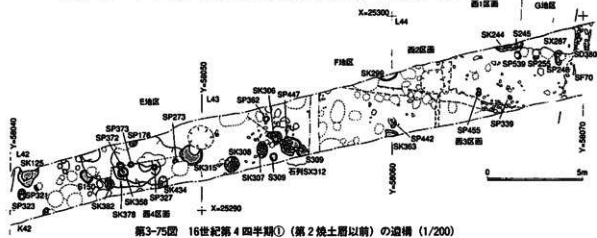
第3-74図 SK510出土遺物 (1/3、15・16=1/12)

## V. 16世紀第4四半期から17世紀初頭の遺構と遺物

## ①第2焼土層以前

**B層上面** 概要(第3-75図、付図3-4) 以下の遺構はB層上面の検出で、埋土に炭と焼土の混入が比較的少なく、1587年と推定される第2焼土層形成以前にすでに埋没していたと考えられる遺構である。

**西1~4区画** 西1~4区画の4つの宅地が上市町の道路SF70に直交する形で分割される。その境界は整地層の段差あるいは柱穴列として認識され、各区画の内部には掘立柱建物のほか礎石が散見され、道路から離れるにつれて土坑が増加するが、調査範囲内では井戸は発見されなかった。



## 西1区画(第3-76図)

西1区画は開口2m以上の上市町の道路SF70の西側に接し、直交して西に延びる区画である。短冊型地割のひとつと推定される。同時期の第1南北街路の道路面は、第3硬化面に当たり、生活面と道路面は鋼滓で隔てられるが、高さは同じである。

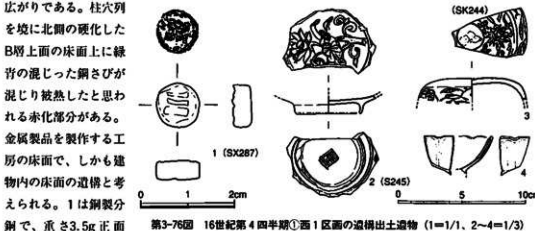
**入口施設** 調査区内最北の区画で、道路に面する部分を検出した。道路との境には石組みの側溝SD380が作られており、道路に面した部分に入口があったことを示している。西2区画との境には道路の方向と直交する柱穴が並び、その後礎石に変わっている。内部は床面に当たるB層上面には、SX287とした薄い堆積層がひろがり、その内容から銅製品の工房の可能性が高い。また境界の柱穴列は礎石に建て変わるところからみて、横列ではなく建物の柱穴と考えてよい。したがって工房は屋内の土間で行われていたもので、SK244のような廃棄土坑も掘られており、その内部に第2焼土層の流れ込みがあるところから、おそらく1587年の火災にあった建物と見られる。

**銅工房**

**火災焼失**

**SX287 (G地区) L44区(西1区)において第2焼土層の除去後に検出した、B層上面の床の**

**緑青混じりの床面**



第3-76図 16世紀第4四半期①西1区画の遺構出土遺物 (1=1/1, 2~4=1/3)

に「三」の浮き彫りがある(図版50)。1587年の火災の直前まで利用されていた上市町の道路の西に面した町屋の一部に銅工房が存在したことをしめす。

銅工房

口縁打欠

S245 (G地区) L44区(西1区画)のB層上面の浅いくぼみで、SK244に切られる。2は中国景徳鎮窯系青花碗E群で、口縁全周を打ち欠いている。

SK244 (G地区) L44区(西1区画)のB層上面で検出された不整形な土坑で、SP235とS245を切る。埋土の中には焼土(第2焼土層)が流れ込んでいた。3は中国景徳鎮窯系青花の蓋で上部のつまみははがれている。G地区A層上面の第1焼土層出土の破片と接合した。4は青磁の菊花皿の口縁である。ほかに中国景徳鎮窯系青花碗、備前焼の甕、京都系土師器1期の皿、底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

柱穴

西1区画と西2区画の境界はSX287の分布範囲として認識されるが、その位置には以下の柱穴SP248、SP539や礎石となる石、SK244などが並び、掘立柱建物あるいは礎石建物の痕が存在したものと推定される。その場合道路に開口を合わせた建物が建てられたことになる。

SP248 (G地区) L44区のB層上面で検出した柱穴である。SP247に切られる。西1区画と西2区画を区切る建物の柱穴のひとつ。白磁、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器1期の皿、鉄釘の破片が出土している。

礎石建物

SP539 (F地区) L44区(西1区画)のB層上面から掘り込まれた柱穴で、埋没後第2焼土層が上へ乗り、その上に礎石がおかれている。B層上面で建てられた掘立柱建物の柱穴の一つで、1587年の火災後同じ地点に礎石建物が再建されたことを物語る。遺物は出土していない。

### 西2区画(第3-77図)

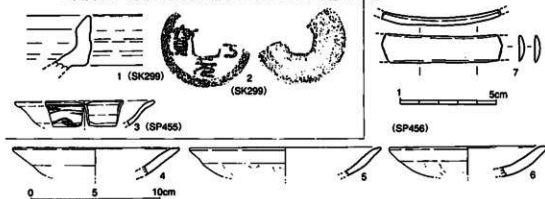
短冊型地割

西2区画は開口3mほどの、上市町の道路SF70の両側に、直交して西に延びる長い区画である。短冊型地割のひとつである。

西1区画との間に段差はなく、造成時には西1区画と一連の面として整地されている。西2区画との間には平均20cmほどの段差がある。B層で整地する際に、B-2層上の区画が先にあり、それに規制されて高さを逸えたものと推定される。道路から10mほどはなれたところまでは、遺構は少ない。西の端で土坑がSK299が見つかるのみである。L44区の西3区画との段差に平行し道路と直交するように、礎石やSP339やSP455などの柱穴が見つかる。したがって、西2区画と上市町の道路SF70の接点に存在する道路側溝には西1区画に見られたような石組みはないが、西2区画の道路の接した開口を持つ建物が存在したと推定される。

建物

以上のように西1区画と西2区画は別割の短冊型地割と考えられるが、西1区画と西2区画を同一の区画とみて、西1区画を屋内とみなすことも可能である。



第3-77図 16世紀第4四半期①西2区画の遺構出土遺物 (2=1/1、7=1/2、ほかは1/3)



SK299 (F地区) L43・44区 (西2区画) B層上面で検出した半円形の土坑で、埋没後に第2焼土層がかぶる。1は乗岡編年近世1b期の備前焼播鉢、2は半分におれた銅銭の中国銭で、「〇〇元貨」と読める。ほかに中国景徳鎮窯系青花碗、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器2期皿の破片が出土した。西2区画の宅地の西奥に掘られた廃棄土坑と推定される。

SP339 (G地区) L44区 (西2区画) のB層除去後に検出した円形の柱穴で、柱痕はB層上面まで達していた。B層上面の建物に使われた柱である。内部から紙のような繊維が付着した完形の銅銭が1枚出土した。

SP455 (F地区) L43区 (西2区画) のB層 (黄色整地層) 除去後に検出した円形の柱穴で、第4四半期の柱穴SP456に切られている。柱を立てた後にB層整地層がしかかれており、B層上面の建物の柱と考えられる。なおこの付近のSP450からSP456までは全く同じ状況である。3は中国景徳鎮窯系青花皿B1類。

SP456 (F地区) L43区 (西2区画) のB層除去時に検出した柱穴で、埋土、柱の状況ともSP455と同じである。SP455を切る。4～6は京都系土師器の皿で、4は2期、5は1期、6は3期である。7は器種不明の青銅製品。ほかに瓦質甕、鉄釘と鉄塊が出土している。

### 西3区画 (第3-78図)

西3区画は間口4mほどの上市町の道路SF70の西側に接し、直交して西に延びる長い区画である。短冊型地割のひとつである。

西2区画との間に段差があり、20cmほど下がっている。西4区画との間にもゆるい段差があり西3区画のほうがやや高い。ただしその段差は西2区画と西3区画との間の段差ほどには明瞭ではない。しかしSX312のような石列が一段が境界に積まれており、この地割の境界が意識されていたことは明白である。同時に石列SX312の存在は、西3区画と西4区画の間が行き来できたことを、表すか、あるいは西3区画と西4区画の間に狭い路地のような通路が存在し、そこに勝手口のような脇出入口が存在した可能性を示している。筆者は西4区画の前後の状況から見て後者の可能性を指示する。

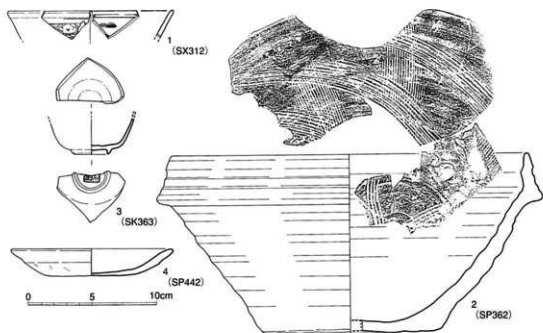
内部には遺構は少なく少数の柱穴と、礎石が散見される。柱穴が並ばずその数も少ない点からみて、礎石建物が存在した可能性が高い。しかしほとんどの礎石は再利用されたり廃棄されたりして、移動したものと考えられる。あるいは第2焼土層の後に建てられたと考えたSB338はこの時点で建っていたのかもしれない。

SX312 (F地区) L43区 (西3・4区画の境界) のB層上面で検出した石列である。人頭大の円礫を数個幅1mほど段差の上端に配置したものである。第2焼土層が上にかぶるので、1587年以前の遺構である。また西3区画と西4区画の境界に当たる段差のうち石列がおかれたのはこのSX312とした地点のみであるので、あるいは西3区画と西4区画の間の通路施設の可能性がある。石のそばから1の中国五彩碗が出土している。

SP362 (F地区) L43区 (西3区画) のB層上面で検出された浅い小柱穴で、2は斜めすりめをほどこす近世1期の備前焼播鉢 (L43区A型出土破片と接合)、ほかに土師器の破片が出土。

SK363 (F地区) L43区 (西3区画) のB層上面検出の土坑で、SB338の柱穴に切られる。埋土から、3の中国景徳鎮窯系青花小杯の底部が出土した。

SP442 (=SP544) (F地区) L43区 (西3区画) 下層トレンチのB層上面で検出した柱穴で、下部はSP544として調査した。内部からは瓦片や礫、炭焼土の多い暗褐色土で準大の円礫で満たされていた。4は京都系土師器1期の皿で、ほかに平瓦、内部底面に十字のすり目を施す放射すり目の



第3-78図 16世紀第4四半期①西3区画の遺構出土遺物 (1/3)

備前擋鉢が出土している。

**SP447 (F地区)** L43区(西4区)のB層除去後に検出した円形の柱穴で、中央に炭焼土と礫を多数含むやわらかい暗茶褐色土が柱痕にはいり、まわりの埋土は炭焼土の少ない黄褐色土で固めていた。B層上面に立てられた建物の柱と考えられる。内面にロク口痕を残す土師器と底部糸切りの在地系土師器、瓦質火鉢の小片が出土している。なおこの柱穴はB-2層上面から掘りこまれた可能性もある。

柱穴

#### 西4区画

西4区画は開口は不明だが、上市町の道路SF70の西側に接し、直交して西に延びる短冊型地割のひとつであると考えられる。

短冊型地割

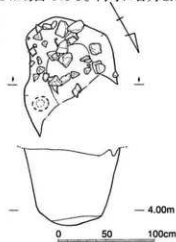
西3区画との間に段差があり、10cmほど下がっている。西3区画のほうがやや高い。ただしその段差は西2区画と西3区画との間の段差ほどには明瞭ではない。しかしSX312のような石列一段が境界に積まれており、この地割の境界が意識されていたことは明白である。同時に石列SX312の存在は、西3区画と西4区画の間が行き来できたことを表すか、あるいは西3区画と西4区画の間に狭い路地のような通路が存在したと見られる。この点はSK325埋没後に設けられた石列が北側に面を合わせている点からも首肯される。

石列SX312

内部には小土坑とピットが多く、宅地の奥まった部分の建物の少ない場所に当たる遺構の分布状況である。

#### 土坑

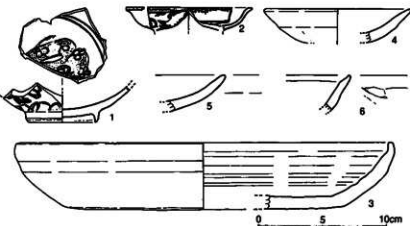
**SK123 (E地区)** (第3-79図) L42区(西4区画)のB層上面で検出された不整形の土坑で、断面は半円形である。長さ1.1m以上、幅0.9m、深さ0.8m。B層使用中に埋没したもの。16世紀第2四半期の土坑SK341を切る。埋土は上下二層にわかれ、



第3-79図 SK123 (1/40)

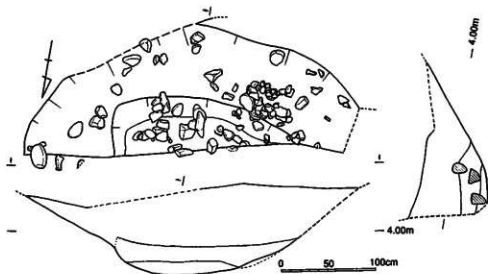
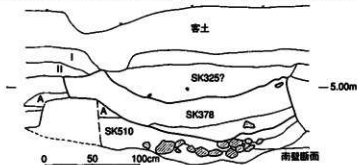
下層は1cm大の炭焼土を多く含む汚れた暗茶褐色土で、上層はB層上面の整地層と同じ黄灰色粘土層でふさがれている。最新の遺物は京都系土師器3期の皿であるが、第2焼土層以前に、埋没している遺構と判断される。

2焼土以前に埋没



第3-80図 SK123出土遺物 (1/3)

SK123出土遺物 (第3-80図) 1は中国景徳鎮窯系青花碗C群、2は同じ青花皿B1群、3は備前焼の鉢口縁部。4~6はいずれも京都系土師器3期の皿口縁。ほかに中国景徳鎮窯系青花碗B群など4点、白磁碗1点、華南産焼締陶器1点、備前焼の甕1点、瓦質甕2点・播鉢2点や糸切の在地形土師器の破片が出土している。

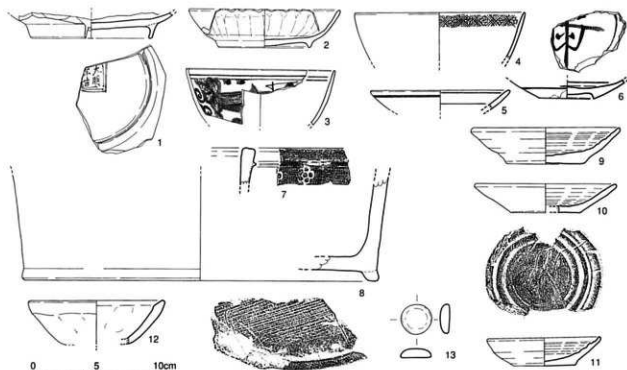


第3-81図 SK378 (1/40)

SK378 (E地区) (第3-81図、図版42) L42区 (西4区画) のB層上面から掘り込まれたと思われる大型の不整形の土坑である。長さ3.5m以上、幅1.3m以上、深さ1.0m。16世紀第3四半期の土坑SK510を切り、SK324とSK325に重なるように切られている。下層は暗灰褐色微砂質土の堆積でそのなかに焼土の単位がある。土取り穴の落ち込みの可能性がある。

土取り穴?

SK378出土遺物 (第3-82図) 1は中国景徳鎮窯系青花皿B類、2は白磁輪花皿E4類。3と4



第3-82図 SK378出土遺物 (1/3)

は中国景徳鎮窯系青花碗 E 群いわゆる龍頭心碗、5 と 6 は碁筒底の中国漳州窯系青花皿、7 は口縁部が肥厚しない瓦質火鉢の口縁部で小突起下に刻印がある。8 は瓦質火鉢底部、9 ~ 11 は内面にロクロ痕を残す土師器の皿と小皿である、12 は京都系土師器 3 期の皿、13 はガラス質の碁石のような扁平な白球で、中世大友府内町跡第14次調査〔「大友府内VI」2003-3大分市教育委員会〕、中世大友府内町跡第12次調査で類似品が出土している。ほかに中国景徳鎮窯系青花碗 C・E 群・青花皿 B 1 群、龍泉窯産青磁碗、備前焼堯・放射すり目の搦鉢、瓦質火鉢・鍋・鉢、底部糸切の在地系土師器、大内系土師器、平瓦、銅銭完形 1 枚は横縫付着、鉄釘、骨の小片が出土している。

#### そのほかの遺構 (第3-83図)

**S150** (E 地区) L42区 (西4区画) の B 層上面で検出した不整形の浅いくぼみ。第2焼土層以前に埋没している。白磁皿 E 2 群、龍泉窯産青磁、大内系土師器、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器 1 期皿の破片が出土している。

**SP176** (E 地区) L42区 (西4区画) の B 層上面で検出した柱穴である。同時期の土坑 SK324 を切る。1 の三角の突起備前焼広口壺の胴部片と、土師器の小片が出土している。

一連の遺構

以下の集石土坑 SK306、SK307、SK308 は、西3区画にはほぼ一列に配置され、B 層上面で掘られている点でも一致し、同一時期のなんらかの遺構群である可能性がある。

集石土坑

**SK306** (F 地区) L43区 (西3区画) B 層上面で検出した小さな集石土坑で、礫は被熱した円礫からなり石列 SX312 を切り、第2焼土層が上にあるが、土坑の輪郭ははっきりしない。近世1期の斜めすり目の備前焼搦鉢が、礫内に入り込んでいた。ほかに中国景徳鎮窯系青花皿 B 1 群、瓦質火鉢の破片が出土。

集石土坑

**SK307** (F 地区) L43区 (西4区画) の B 層上面から掘り込まれた小型円形の集石土坑である。礫の被熱した小円礫が集中して、土坑の輪郭ははっきりしない。第2焼土層が上になり、それ以前に埋没している。SK306 と状況がよく似ている。

## 集石土坑

**SK308** (F地区、図版42) L43区(西4区画)B層上面から掘り込まれた円形の集石土坑である。準大の被熱した小円礫が集中して、土坑の輪郭ははっきりしない。第2焼土層が上にのり、それ以前に埋没している。SK306・307と状況がよく似ている。2は礫中に食い込んだ中国景德鎮窯系青花皿E群。

**S309** (F地区) L43区(西4区画)のB層上面で検出された不整形の掘り込みで、石列SX312のそばに位置する。第2焼土層が上にのり、中国景德鎮窯系青花碗、中国漳州窯系青花碗、底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器、京都系土師器1・2期の皿と小皿の小片が出土している。

**SK315** (=S211) (F地区) L42区(西4区画)のB層上面で検出した浅い円形の土坑である。長さ1.1m、幅0.9m。埋土は礫や1cm以下の炭焼土を含む暗褐色土の単一層で、同時期の土坑SK316を切り、同じく同時期のSK152・SK153に切られる。3は京都系土師器3期の皿口縁部で、ほかに中国景德鎮窯系青花碗、備前焼の甕、瓦質火鉢や底部糸切の在地系土師器の破片が出土している。

**SP321** (E地区) L42区(西4区画)のB層上部1回目掘下げ後に検出した柱穴である。15世紀の土坑SK342を切る。SP323と埋土が同じなのでB層上面から掘り込まれたものと見られる。

**SP322** (E地区) L42区(西4区画)のB層上部1回目掘下げ後に検出した柱穴である。同時期の土坑SK174に切られる。SP323と埋土が同じなのでB層上面から掘り込まれたものと見られる。出土遺物は瓦質茶釜片のみである。

**SP323** (E地区) L42区(西4区画)のB層上面で第2焼土層の形成前に掘られた柱穴である。SP321・SP323と共通する。4は斜めすり目で乗間幅年近世1b期の備前焼火鉢。

**SP327** (E地区) L42区(西4区画)のS325を切る円形の柱穴で、出土遺物は底部糸切の在地系土師器の底部片のみ。

**SP328** (E地区) L42区(西4区画)のS325を切る円形の柱穴。

## 集石土坑

**SK358** (=S458) (E地区)(図版42) L42区(西4区画)のSK325を掘下げ中に底面に近い高さで検出した長円形の土坑で、SK325を切る。長さ0.6m、幅0.5m。内部には被熱した礫がしき並べたように充満しており、埋土は5ミリ大の炭焼土を含む暗褐色粗砂質土でよくしまっている。5は中国景德鎮窯系青花碗E群で、ほかに同じ青花碗B1群、中国漳州窯系青花碗、瓦質火鉢胴部、底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

**SP372** (E地区) L42区(西4区画)のSK325を掘下げ中に底面に近い高さで検出した円形の柱穴で、SK325を切る。内部からは板状圧痕のある底部糸切の在地系土師器の底部片が出土している。

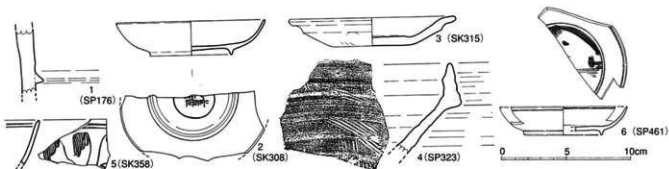
**SP373** (E地区) L42区(西4区画)のSK325を切って検出した円形の柱穴で、B層上面から掘り込まれている。同時期の土坑SK152を切る。埋土には被熱した礫を含む。

## 小集石土坑

**SK382** (E地区) L42区(西4区画)の1587年以前の土坑SK378を切って検出した長円形の土坑である。長さ0.6m、幅0.5m。内部には被熱した小礫が充満しており、礫の高さから見てB層上面から掘り込まれたものである。出土遺物は備前焼の甕底部、京都系土師器2期皿の口縁などがある。

**SK434** (E地区東) L42区(西4区画)F層トレンチで、1587年以前の土坑SK378とSK435を切って検出した長円形の土坑である。長さ0.6m以上、幅0.5m。B層上面から掘り込まれている。埋土は1cm大の炭焼土を多く含む暗褐色土の単一層で小礫を含む。内部からは大内系土師器の底部片が出土している。

**SP461** (E地区) L42区(西4区画)のS325を切る柱穴で、石列SX312の背後あたりに、6は中国景德鎮窯系青花皿E群で、ほかに基筋底の中国漳州窯系青花皿の破片が出土している。



第3-83図 16世紀第4四半期①(1587年以前)の遺構出土遺物(1/3)

## ②第2焼土層以後(推定1587年～1602年直後)(第3-84図、付図3-4)

A層上

最も新しい遺構群で1587年と推定される第2焼土層上に盛られたA層上から検出された遺構である。G地区の西1区画では掘立柱建物が同じ位置に再建されている。20年弱の期間が想定されるが、遺構の数・密度は最も多い。

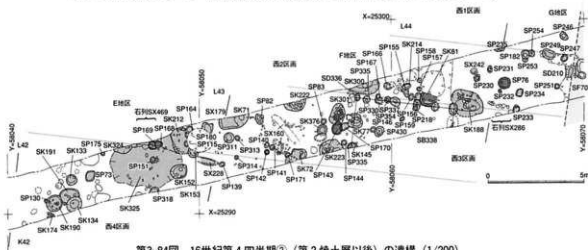
## 西1区画

建物再建

1587年の火災前には銅工場の建物があった場所であるが、火災後には整地されて、以前と同じ位置に、SP182、SP235、SP247、SP249の柱穴が掘られ、掘立柱建物が再建されたことがわかる。さらに後に礎石建物に変わっている。内部が銅工房として復興したかどうかは、この面の床面が削平されているため不明である。ただし道路SF70の側溝に作られていた石組みは埋没したまま再建されていないので、火災前の同じ内容の建物が再建されたとは考えられない。したがって道路への開口の取り付け方に変化があると思われる。

柱穴

SP246(G地区) L44区(西1区画)のA層上面で検出した不整形の柱穴で、埋土はSP230と同じで炭焼土が多い。中国景德鎮窯系青花碗と土師器の小片が出土している。



第3-84図 16世紀第4四半期②(第2焼土層以後)の遺構(1/200)

## 西1区画と西2区画の境界

境界柱穴列

以下の柱穴は、東西に並び、何度かの重複があるが、西1区画と西2区画の境界となる柱穴列である。(第3-85図)

SP182=SP243(G地区) L44区の西1区画と西2区画の境界にならぶ柱穴の一つで、第2焼土層上で検出され、A層上面から掘り込まれたと推定される。SP253とSP254を切る。SP182はSP243の柱痕である。SP182部分の埋土は10mm大の炭焼土を多く含むよくしまった暗茶褐色土の単一層である。掘り方に当たるSP243の埋土は1～2mm大の炭焼土を含むしまった明茶褐色軟

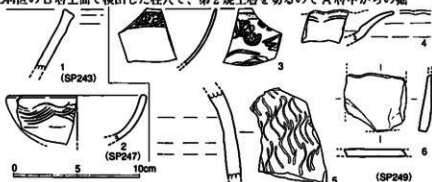
質土で暗黄色土ブロックが多い。1は堀形から出土した瓦質鉢の口縁部、ほかに京都系土師器2期の皿、柱痕下部から瓦質火鉢の底部と底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。おそらく1587年の火災後の復興面でたてられて建物の柱穴と考えられる。

SP235 (G地区) L44区(西1区画)のA層上面で検出した柱穴で、柱の根石が残されている。

SP247 (G地区) L44区のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層を切るのでA層中からの掘り込みと推定される。1587年以前の柱穴 SP248を切る。埴土はSP230と同じで炭焼土が多い。2は16世紀の口縁外面に雷文のある中国龍泉窯青磁碗C3類。ほかに白磁、京都系土師器2期皿の口縁、埴の破片が出土している。

SP249 (G地区) L44区のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層を切るのでA層中からの掘り込みと推定される。埴土は炭焼土と粘土のブロックが多い。3は

中国景徳鎮窯系の青花碗E群で、16世紀後半の産。4は中国龍泉窯系青磁の稜花皿で15世紀の遺物。5は古瀬戸の飯子削部片、6は



第3-85図 西1区画と西2区画の境界の柱穴出土遺物(1/3)

両面にすり面のある磁石片。ほかに青磁皿、京都系土師器1期皿の口縁の破片が出土している。

SP254もこの柱穴列に含まれる。

SP255 (G地区) L44区(西2区画)のB層上面で検出したが第2焼土層を切っているのでA層上からの掘り込みである。この柱がぬかれた後に礎石がすえられている。葎筒底の中国漳州窯系青花皿と底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

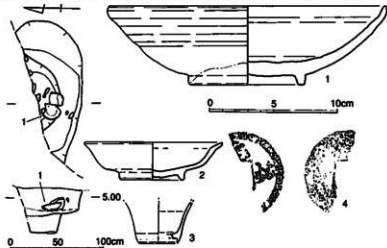
## 西2区画

1587年の火災と推定される第2焼土層堆積後に同じ区画が再建されている。まず火災処理土坑SK300が区画の南端に掘られ、道路から5mほど西に入った中央部に、地鎮祭遺構と推定されるSX242が設けられる。小土坑SK214も関連する祭祀遺構である。このような祭祀行為を伴って宅地再整備に伴う整地が行われたものと推定される。西1区画との境界は柱穴列で区画され、西3区画との境界は段差で表されているが、後述するように西3区画は嵩上げされて掘立柱建物SB338が立てられているので、段差は少なくなっている。

内部は道路に面した部分で、土坑は少なく、柱穴が散在している。建物を推定するのは困難だが、1587年以前の状態とおなじく道路に面した建築物を構築した利用状況であったと考えられる。

## 土坑

SK300(F地区)(第3-86図、図版41) L43区の西2区画



第3-86図 SK300(遺構1/40、遺物1~3=1/3、4=1/1)

火災地理と地鎮

管地帯上げ

のB層上面で北壁にかかって検出した長円形の土坑で、第2焼土層にあたる炭焼土と被熱礫の多量に混じる土層が上部陥没するように堆積していた。長さ1.5m以上、幅1.0m以上、深さ0.45m。1587年の火災処理土坑と考えられる。炭層に入り込むように完形に近い白磁や中国景德鎮窯系青花碗などが廃棄されている。

火災処理土坑

**SK300出土遺物** (図版50) 1は中国漳州窯系でも龍泉窯系でもない青磁の鉢で、西2区画を覆う第2焼土層から出土した破片と接合し、この土坑が火災処理土坑であることを示している。2は完形の白磁皿E2群でやはり上層出土。3は白磁小杯の底部。4は割れた銅銭で元祐通寶(北宋1086年初鑄)。ほかに被熱した中国景德鎮窯系青花碗、瓦質土器、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器1・2期皿、鉄釘の破片が出土している。

**SK214 (F地区)**

(第3-87回、図版40) L44

区(西2区画)のB層

上面で検出した長円形

の小土坑であるが、輪

郭を検出する前に遺物

が高い位置で現れてい

たので、A層中からの

掘り込みとみられる。半分がSP155に切られて

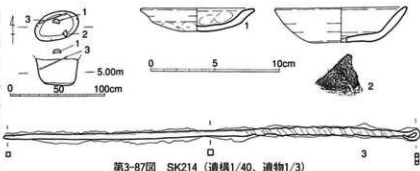
いる。鉄製の火箸のかたわれを下に横たえ、そ

の上に底部糸切の在地系土師器の皿を伏せてお

いている。祭祀にかかわる埋納遺構である。埋

土は粗砂混じりの暗灰褐色土層の単一層である。

火箸埋納



第3-87回 SK214 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK214出土遺物** 1は胎に置かれた京都系土師器1期の皿、2は京都系土師器を模倣した底部糸切の在地系土師器の皿、3は鉄製の火箸の完形品、端部を環頭につくる。

**SX242 (F地区)**

(第3-88回、図版40) L44区

(西2区画)の第2焼土層上

で検出した小型の埋

納坑である。おそらくA層壁地に伴う地

鎮祭祀の可能性が高い。遺構自体は第2

焼土層を掘りぬいて、B層上面に達

する浅いもので、埋土は焼土混じりの

暗褐色土である。SP230と重複するが、

前後関係は判明しない。内部には京

都系土師器の皿が伏せて置かれていた

(1)。完形品である。そのやや上に

銅製のかんざし(3)がこれも完形のま

ま置かれ、そのそばに銅銭1枚が出

土したがSP230出土の可能性があ

る。ほかに京都系土師器の破片が2

点採集されたが、これは埋納遺物が

どうか不明である。1587年の火災

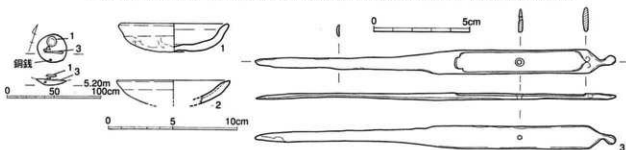
以後の復興面にかかわる祭祀遺構

である。

小型埋納坑

土師皿

かんざし



第3-88回 SX242 (遺構1/40、遺物1・2=1/3、3=1/2)



## そのほかの遺構 (第3-89図)

以下柱穴

SP155 (F地区) (図版40) L44区 (西2区画) で検出した不整形の柱穴だが、出土遺物が第2焼土中の破片と接合したためA層中から掘り込まれたと考えられる。SP214に切られている。1は土師器を転用したつばの破片で、内面から口縁にかけて黒色の付着物がある。ほかに備前焼の擂鉢、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器1期の皿、鉄釘が出土している。

SP156 (F地区) L44区 (西2区画) のA層中から掘られた円形の柱穴。2の中国景德鎮窯系青花碗D類か、底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

SP157 (F地区) L44区 (西2区画) のA層中で検出した円形の柱穴である。4分の1片の銅銭が出土したが銭種は不明。

SP158 (F地区) L44区 (西2区画) のA層中で検出した円形の柱穴である。京都系土師器2期の小皿口縁片が出土している。

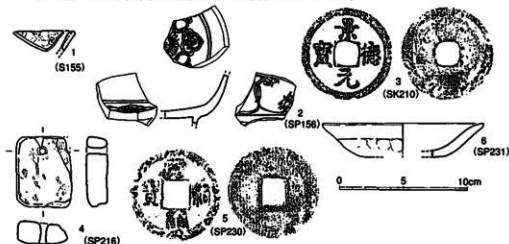
SP166 (F地区) L43区 (西2区画) のB層上面で検出した円形の柱穴で、備前焼の甕底部片が出土している。

SK210 (G地区) L44区 (西1区画) の第2焼土層上から切り込まれた浅い土坑でA層上面の遺構と推測される。長さ0.6m以上、幅0.5m。埋土は茶褐色軟質土で、3は完形の中国銭の景德元寶(北宋1004年初鑄)である。

SP216 (F地区) L44区 (西2区画) の第2焼土層上から切り込まれた柱穴で、A層上面からの遺構と推測される。SK81に切られている。4は携帯用の砥石のような形をした軽石製のおそらくアカスリであろうか。ほかに中国景德鎮窯系青花碗E群、内面にロクロ痕を残す土師器小片が出土している。

根石

SP230 (F地区) L44区 (西2区画) の第2焼土層の残るB層上面で検出した隅丸方形の柱穴で、中央に柱の根石となる礎がある。第2焼土層を切っているため、A層上面から掘り込まれたと推定される。SP242と重複するが前後関係は不明である。5は完形の中国銭の元祐通寶(北宋初鑄1086年)。ほかに京都系土師器3期皿の破片が出土している。



第3-89図 16世紀第4四半期(第2焼土層以後)の遺構出土遺物 (3・5=1/1、1・2・4・6=1/3)

SP231 (F地区) L44区 (西2区画) のA層上面で検出した柱穴で、埋土はSP230と同じである。6の京都系土師器3期皿と底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

SP232、SP233、SP234 (G地区) L44区 (西2区画) のA層上面で検出した柱穴で、埋土はSP230と同じである。

SP251 (G地区) L44区 (西2区画) のB層上面で検出した柱穴で、埋土はSP230と同じである点から、A層上面からの遺構と推定される。京都系土師器2期皿の小片が出土している。

## 西2区画と西3区画の境界

小石列

**SX286** (F地区) (図版41) L44区の西2区画と西3区画との境界の段差の一部に設置された幅1m強の石列で、下に第2焼土層が入り込むので、A層造成時のものである。石列の上からは中国景德鎮窯系青花1点、備前焼の広口壺1点、底部糸切の在地系土師器多数、内面にロクロ痕を残す土師器1点、大内系土師器1点、京都系土師器1期の皿1点。京都系土師器2期の皿1点の小片が出土している。

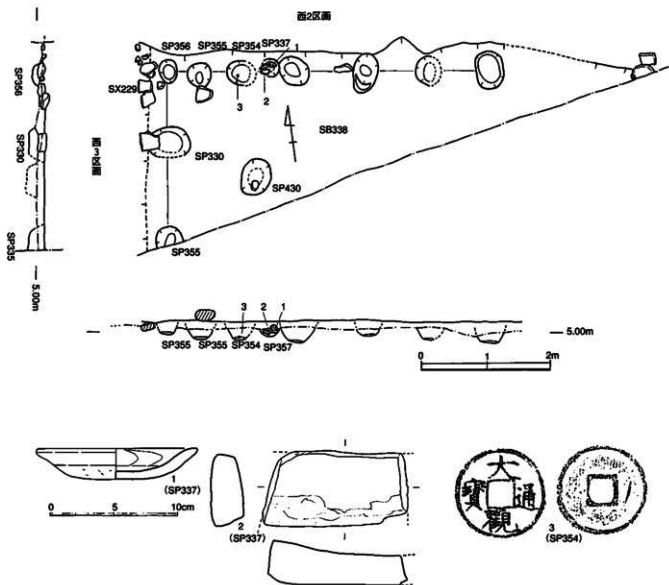
## 西3区画

掘立柱建物

西2区画と西4区画の段差は維持されるが、西3区画では東半分には嵩上げが行われ掘立柱建物SB338が立てられる。そのため西半との間に軽い段差が生じ、石列SX229が設けられている。西半には廃棄土坑が多数掘られている。

## 掘立柱建物

**SB338** (F地区) (第3-90図) L43・44区の西3区画に平行し棟を東西に向けた掘立柱建物跡で



第3-90図 SB338 (遺構1/60、遺物1・2=1/3、3=1/1)

2ないし3×5間 ある。梁間は2間ないし3間、桁行5間と考えられる。A層整地後一段高くして建物を構築したものである。西側に石列SX229を配置している。西2区画とはわずかの段差が残された模様である。梁間2.7m以上、桁行5.2mで、柱間的心々距離は1.1から1.3mと短く、かなり小型の建物である。柱穴の掘形はいずれも円形または長円形をなし、柱根は検出できなかった。以下に主要な柱穴と出土遺物について触れる。

**SP337** (図版41) 埋土中には、鏝と完形の京都系土師器の皿が廃棄されている。柱ぬき取り後の埋納の可能性がある。1は完形の京都系土師器3期の皿である。2は結晶片岩製の砥石である。ほかに底部糸切の在地系土師器の小片も出土している。

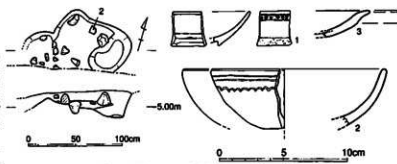
**SP354** 中央部から1枚の銅銭が出土した。建物にかかわるまじないであるが、埋まったのが建設時か廃絶時か不明確である。3はその銅銭で大観通寶(北宋1107年初铸)。ほかに中国涼州窯系青花碗、底部糸切の在地系土師器、大内土師底部片などが出土している。

**SP430** C層上面で検出したがSB338の内部に位置し埋土も全く同じなので、この建物の遺構とした。底部糸切の在地系土師器口縁部と鉄釘が出土している。

以上の大半の柱穴はB-1層除去後に検出したが、段差が付くために西3区画のB層はA層に対応する。SB338は柱穴の密度から見て、さらにもう一度建て直した可能性が高い。SP337の土師器埋納はこの掘立柱建物建設あるいは廃止に伴う祭祀行為のあとであろう。

**SX229** L43・44区(西3区画)の区画に直行する、飛び飛びの石列である。SB338の西側の梁間に沿って配置されている。

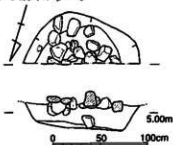
**土坑**  
**SK72** (F地区) (第3-91図)  
L43区(西3区画)のA層上面で検出した不整形の土坑である。長さ1.2m、幅0.6m以上、深さ0.3m。内部からは焼けた礫や比較的多量の遺物の破片が出土し、廃棄土坑であると見られる。



第3-91図 SK72 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK72出土遺物** 1は荏苒底の中国涼州窯系青花皿、2は16世紀代の中国龍泉窯系の青磁碗B IV類、3は京都系土師器2期の皿。ほかに中国景德鎮窯系青花碗、備前焼壺、九瓦、底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器、硯片が出土しているほか、遺構がかなり深く掘られて、下位の第3焼土層まで達しているので、第3焼土層と出土遺物と接合する破片が多い。

**SK222** (F地区) (第3-92図、図版40) L43区(西3区画)のB層上面で検出した円形の土坑であるが、輪郭を検出する前に礫群が高い位置で現れていたので、A層上面からの掘り込みとみられる。長さ1.2m、幅0.5m、深さ0.3m。内部には礫集中廃棄が認められ、大半が焼けた礫である。



**SK222出土遺物** 1は中国景德鎮窯系青花碗E群で16世紀後半の産物。ほかに底部糸切の在地系土師器4点、京都系土師器1期の皿3点・2期の皿2点、鉄片1点が出土している。

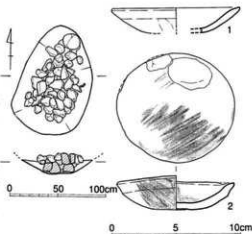
**SK301** (F地区) (第3-93図、図版41) L43区(西3区画)のB層

第3-92図 SK222 (遺構1/40、遺物1/3)

集石土坑

上面で検出した長円形の土坑であるが、第2焼土層を切るのでA層上面からの掘り込みとみられる。長さ1.1m、幅0.7m、深さ0.3m。内部には雑集中廃棄が認められ、大半が被熱した礫である。埋土は暗褐色軟質土の単一層である。掘立柱建物SB338の妻側に外に掘られるという、その位置関係からSB338と関係のある遺構であろう。

**SK301出土遺物 1**と**2**はいずれも京都系土師器2期の皿である。とくに**2**は強度の被熱により煤が付着し、外面が剥離している。ほかに底部糸切の在地系土師器底部片が出土している。



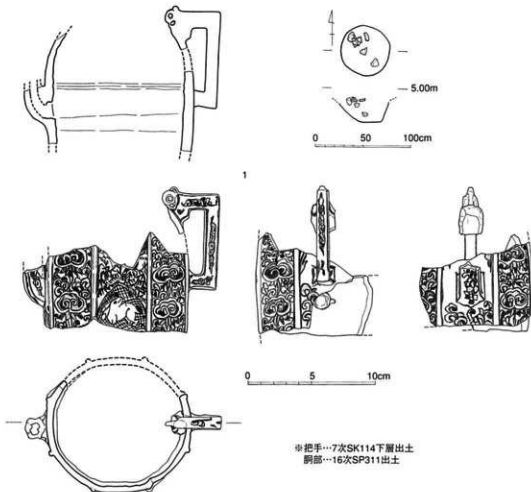
第3-93図 SK301 (遺構1/40、遺物1/3)

## ピット

**SP311** (F地区) (第3-94図、図版41) LA3区(西3区画)のB層上面で検出した柱穴であるが、輪郭を検出する前に遺物が高い位置で現れていたため、A層上面からの掘り込みとみられる。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色土である。中央上層から中国景德鎮窯系青花水注の胴部破片が出土した。この破片は第7次調査区E地区SK114下層出土の把手と接合した。

7次と接合  
青花水柱

**SP311出土遺物 1**はその青花水柱である(巻頭図版8)。ほかに備前焼壺低部片が出土している。



※把手…7次SK114下層出土  
胴部…16次SP311出土

第3-94図 SP311 (遺構1/40、遺物1/3)

## そのほかの遺構 (第3-95図)

土坑

SK71 (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した2段掘りの円形の土坑で、北壁にかかっている。長さ1.6m、幅0.6m以上。埋土は1cm大の炭焼土を含む暗茶褐色土である。層序からこの時期と判断した。1と2は京都系土師器2期の皿、1は内面に煤が付着する。3は底部糸切の在地系土師器小皿で、内外に煤が付着し口縁に1箇所故意の打ち欠きがある。ほかに中国景徳鎮窯系青花碗、備前焼鉢の口縁片などが出土している。

SK77 (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した不整形の土坑で、埋土は2~3mm大の炭焼土を含む砂混じり茶褐色土である。長さ0.8m、幅0.6m。4は備前焼水注の口縁部。5は瓦質鍋の口縁部で外面にヘラ削りを施す河野B2類。6は環頭状に折り曲げた鉄製の金具、火箸の端部であろうか。ほかに白磁と瓦質火鉢、底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

柱穴

SP82 (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した柱穴で、柱を固定するために礎を入れていた。底部糸切の在地系土師器小皿、鉄滓の小片が出土している。

SP83 (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した掘形円形の柱穴で、埋土はSP82と全く同じ。中国景徳鎮窯系青花皿の小片が出土している。

SP84 (F地区) L43区 (西3区画) のA層上面で検出した柱穴で、埋土はSP82と全く同じ。

SP139 (F地区) L43区 (西4区画) の円形の柱穴で、第2焼土層を切るので、少なくともA層上面から掘り込まれている。底部糸切の在地系土師器の破片が出土している。

SP140 (F地区) L43区 (西3区画) で検出した円形の柱穴で、第2焼土層を切るので、少なくともA層上面から掘り込まれている。底部糸切の在地系土師器と鉄釘の破片が出土している。

SP141 (F地区) L43区 (西3区画) で検出した円形の柱穴で、A層上面から掘り込まれたと推定される。埋土はSP140と同じ。京都系土師器3期の皿の小片が出土している。

SK145 (F地区) L43区 (西3区画) で検出した土坑で、A層上面またはⅡ層上面から掘り込まれたと推定される。長さ0.5m、幅0.3m以上。中国景徳鎮窯系青花碗、京都系土師器2期の皿、底部糸切の在地系土師器、古代の須恵器甕の小片が出土している。

SP146 (F地区) L43区 (西3区画) で検出した円形の柱穴で、A層上面またはⅡ層上面から掘り込まれたと推定される。

SP147 (F地区) L43区 (西3区画) で検出した柱穴で、A層上面またはⅡ層上面から掘り込まれたと推定される底部糸切の在地系土師器、内面にロクロ痕を残す土師器の小片が出土している。

SK153 (E地区) L42区 (西3区画) のA層1回目後で検出した小土坑で、A層上面から掘り込まれたと推定される。SK315 (第4四半期) を切る。長さ0.6m、幅0.4m以上。7は瓦質の溜の口縁部。8は16世紀前半の青磁碗CⅢ類、ほかに備前焼鉢の小片が出土している。

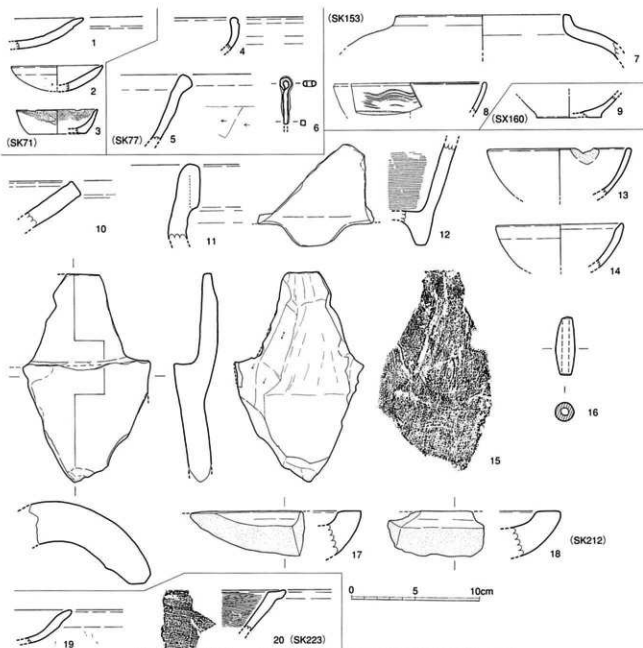
SP159 (F地区) L44区 (西3区画) の第2焼土層の残るB層上面で検出した柱穴で、A層上面から掘り込まれたと推定される。備前焼の破片が出土している。

SX160 (F地区) L43区 (西3区画) のA層中で検出した浅い溝だが、遺構かどうかは不明確である。9の底部糸切の在地系土師器底部、中国景徳鎮窯系青花皿B群、備前鉢鉢、鉄釘、青銅の板、丸瓦などが出土している。A層包含層のしみを遺構として掘ったかもしれない。

SP170 (F地区) L43区 (西3区画) のB層上面で検出した柱穴であるが、S143を切り、SK77に切られるのでこの時期とした。

SP171 (F地区) L43区 (西3区画) のB層上面で検出した円形の柱穴である。中国涼州窯系青花碗、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器2期の皿の口縁部片が出土している。

SX179 (E地区) L43区 (西3区画) のB層上面で検出したがA層からの掘り込みと推定される遺構。



第3-95図 16世紀第4四半期②(1587年以後)西3区画の遺構出土遺物(1/3)

SK212=SK316 (E地区) L42区(西4区画)のB層上面で検出した不整形の土坑で、1587年以前の第4四半期の土坑SK211=315と土坑SK153に切られる。下部の層で検出したSK316と同一遺構であると判明した。長さ1.3m、幅1.0m。比較的多量の遺物が廃棄されており西3区画の廃棄土坑のひとつであろう。10は備前焼の播鉢口縁、11は16世紀前半の中世6期の備前焼甕口縁部、12は瓦質火鉢の底部で、13は被熱し口縁に打ち欠きのある瓦質土器の碗口縁、14は京都系土師器2期の皿、15は内面布目の丸瓦、16は完形の小型管状土鍾A類、17と18は同一個体の可能性のある茶白下白の受け部片で、ともに砂岩裂である。和泉砂岩の可能性がある。ほかに中国漳州系青花碗、底部糸切の在地系土師器、京都系土師器0期皿、平凡の破片も出土している。

廃棄土坑

柱穴

SP218 (F地区) L44区(西3区画)検出の円形の柱穴で、A層中からの掘り込みと推定される。京都系土師器の小片が出土している。

SK223 (F地区) L43区(西3区画)のB層上面検出の遺構で、2つの土坑が重なっている。

長さ1.2m、幅0.7m以上。19は京都系土師器2期皿の口縁、20は土師質鍋口縁部。ほかに中国景德鎮窯系青花碗E群や底部糸切の在地系土師器の破片出土。16世紀後半。

SP313 (F地区) L43区(西3区画)のB層上部1回目掘下げ後に検出した円形の柱穴で、S311と埋土が同じなのでこの時期とした。遺物なし。

SK376 (F地区) L43区(西3区画)で検出した不整形の土坑で、A層上からの掘り込みである。長さ0.8m、幅0.5m。京都系土師器1期の皿、瓦質火鉢底部、鉄釘の小片が出土している。

### 小結

上市町の道路SF70の西側に面して掘立柱建物SB338が建てられ、その背後の西半分は建物のない空間として、廃棄土坑SK222、SK72、SK301などが掘られている。周辺には簡単な柱穴を伴う施設がもうけられたものと考えられる。

西3区画の空間構成

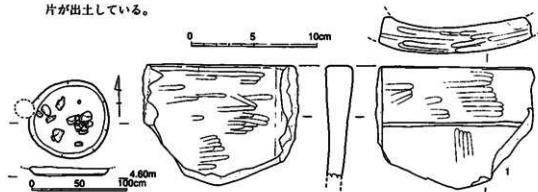
### 西4区画

土坑が多く掘られ、土取り坑であるSK325はまだこの段階でも埋まらずに、くぼんだままで維持されている。この付近には第2焼土層の堆積は少なく、西1～3区画ほどの整地による嵩上げは行われていない。

### 土坑

SK190 (E地区) (第3-96図) L42区(西4区画)のB層上面で検出した円形の土坑であるが、輪郭を検出する前に礫群が高い位置で現れていたので、A層上面またはⅡ層上面からの掘り込みとみられる。断面は浅い皿状である。長さ0.9m、幅0.8m、深さ10cm。同時期の土坑SK191とSP349を切り、SP130に切られる。内部には礫の廃棄が認められ、大半が被熱した礫である。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色土である。

SK190出土遺物 1は大型で四方から内側に押さえこみのある瓦質の鉢口縁部で、SP349からの残留遺物である。ほかに備前焼の甕底部1点、底部糸切の在地系土師器の底部2点、平瓦1点の破片が出土している。



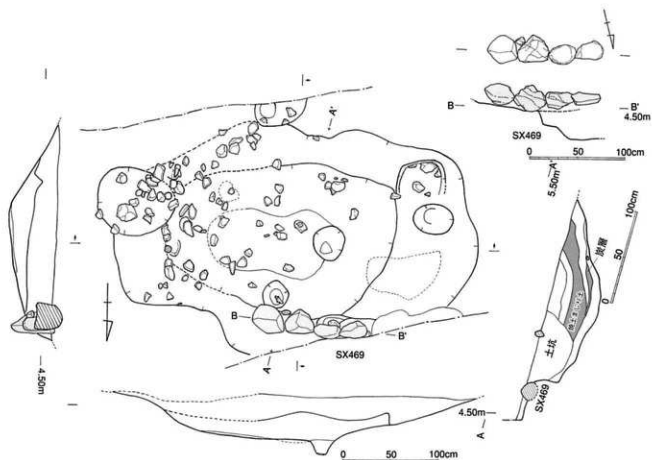
第3-96図 SK190 (遺構1/40、遺物1/3)

大型土坑

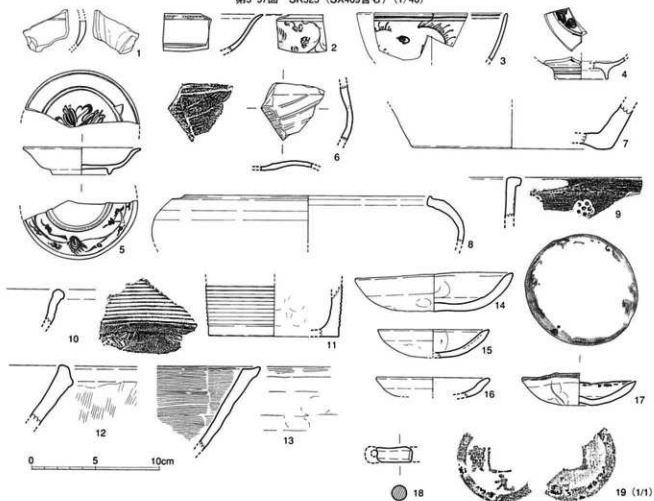
SK325 (E地区) (第3-97図、図版41) L42区(西4区画)のB層上面で検出した不整形円形的大型土坑であるが、第2焼土層に対応する層が内部に堆積している。長さ3.6m、幅2.0m、深さ0.5m。SK378と重なるように掘り込まれている。A層上面あるいはⅡ層上面からの掘り込みとみられる。埋没後に石列SX469が面を北にそろえて設けられたり、SK324・SK326、SP327に切られる。内部には礫や土器の多量廃棄が認められる。最新の遺物は京都系土師器3期の皿や中国涇州窯系青花碗である。SX469は北に面をそろえた石列で、SK325埋没後に設けられている。

石列SX469

SK325出土遺物 (第3-98図) 1は中国製青磁の香炉。2は中国景德鎮窯系青花碗B群。3と



第3-97図 SK325 (SX469含む) (1/40)



第3-98図 SK325出土遺物 (1~18=1/3, 19=1/1)



## 華南三彩

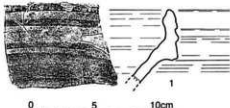
4は景德鎮青花碗E群。5は景德鎮青花皿B1群。6は被熱した華南三彩の鳥形水注の羽の部分の破片。7はいわゆるルソン壺とよばれる中国褐釉陶器底部。8は備前焼の無須壺口縁。9は外面に刻印のある瓦質火鉢口縁。10は瓦質鉢口縁。11は瓦質火鉢の底部。12は土師質播鉢の口縁。13は土師質鍋の口縁。14は京都系土師器2期の皿。15~17は京都系土師器2期の小皿(17は完形の灯明皿)。18は棒状土鍾。19は中国銅銭の〇〇元寶と読める。ほかに中国龍泉窯系青磁碗2点。白磁皿2点。中国景德鎮窯系青花碗9点。同じく青花碗E群口縁1点。青花皿F群1点。中国漳州窯系青花4点。中国焼締陶器1点。中世陶器壺胴部1点。瀬戸美濃天目碗1点・皿1点。備前焼壺胴部1点・甕12点(胴部5:1点はSK123出土破片と接合)。瓦質火鉢6点・鍋2点。瓦質土師器碗底部1点。底部糸切の在地系土師器の坏2点。内面にロクロ痕を残す土師器多数。京都系土師器2期の皿4点。京都系土師器3期の皿1点。丸瓦2点・平瓦2点。土師器転用するつば1点。銅銭破片2点。鉄釘4点。鉄製品3点。土壁1点。以上の破片が出土している。

## そのほかの遺構(第3-99回)

SP73 (E地区) L42区(西4区画)のA層上面で検出した隅丸方形の柱穴で、S150、SK173を切る。柱痕は確認できなかった。中国景德鎮窯系青花碗E群、大内系土師器の破片が出土している。

SP130 (E地区) L42区(西4区画)のB層上部で検出したが、S190を切るのでA層上面から掘り込まれた円形の柱穴と考えられる。底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

SK133 (E地区) L42区(西4区画)のB層上部で検出した円形の小土坑であるが、出土遺物が浮いていることから、A層またはII層上部から掘り込まれたと推定される。径0.5m。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む砂主体の暗褐色土である。1の中世6b期の備前焼播鉢や土師器の破片が出土している。



第3-99回 SK133出土遺物(1/3)

SK134 (E地区) L42区(西4区画)のB層上面で検出したが、S191を切るのでA層上面からの可能性が高い円形の小土坑である。長さ0.9m、幅0.7m。断面は円形で内部からは拳大の礫や5mm大の炭・焼土を含む砂混じりの暗褐色土の単層である。遺物は土師器片が出土しているのみである。

SP151 (E地区) L42区(西4区画)で検出した円形の柱穴で、A層上面またはII層上面から掘り込まれたと推定される。SP205とSK375を切る。底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

SK152 (E地区) L42区(西4区画)で検出した円形の土坑で、A層上面またはII層上面から掘り込まれたと推定される。長さ0.9m、幅0.7m。SK378とSK315を切る。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む砂混じりの暗褐色土である。白磁小坏、信楽系陶器壺の底部、底部糸切の在地系土師器の小片が出土している。

SK174 (E地区) L42区(西4区画)のA層上面から掘り込まれたと推定される廃棄土坑である。焼けた礫の集中廃棄が認められ。埋土は10mm大の炭焼土を含む暗茶褐色土である。京都系土師器は小片が出土している。

SK191 (E地区) L42区(西4区画)で検出したもので、内部の礫の高さから見てA層上面から掘り込まれたと推定される円形の土坑である。長さ1.1m、幅0.9m。1587年以後の土坑SK134と同じくSK190に切られる。焼けた礫の廃棄が認められる。埋土は5mm大の炭焼土を含む暗褐色土である。底部糸切の在地系土師器と京都系土師器の小片が出土している。

## 集石土坑

小結

**SX228 (F地区) L43区(西4区画)**で検出した小さな溝状の遺構で、A層中からの掘り込みと推定される。長さ1.0m、幅0.3m。1587年以後の復興面での町割りにあたる西3区画と西4区画の境界に関係する遺構の可能性がある。備前巻・搦鉢、平瓦、鉄釘、古墳時代の土師器製の口縁部の小片が出土している。

**SP314 (F地区) L43区(西4区画)**のB層上部1回目掘下げ後に検出した円形のピットで、第2焼土層の上より掘り込まれているのでこの時期とした。瓦質鍋1点の破片が出土している。

**SP318 (E地区) L42区(西4区画)**のA層上面から掘られたと見られる柱穴である。出土遺物なし。

**SK324 (E地区) L42区(西4区画)**で検出したが、SK325を切っているのでA層上面から掘られたと見られる円形の上坑である。SP176に切られている。備前焼の巻、底部系切の在土系土師器、内面にクロコ裏を残す土師器底部、京都系土師器2期の皿口縁部の小片が出土している。

**SK326 (E地区) L42区(西4区画)**のSK325を掘下げ中に検出した円形の小土坑である。埋土は炭が多く入る黒褐色軟質土の単一層である。SK325中の堆積土のブロックの可能性が高い。中国景德鎮窯系青花碗と、古代の土師器破片が出土したが、前者はSK325出土の破片と接合し、切り合い関係を証明した。

ほかにSP175もこの時期の遺構である。

#### 小結

土坑SK325の埋め戻し後の陥没がまだ残っており、その中に第2焼土層の堆積が認められる。その復興の際に、SK325は完全に埋められ西3区画の境界に面して石列SX469が部分的に設けられたり、小さな溝状の遺構SX228が存在するので、1587年の火災後も以前の境界を踏襲して、西4区画が再生されている。その内部は小規模な土坑が比較的多く、柱穴は比較的低く、宅地の中でも建物のない裏側の空間と考えられる。

区画の概

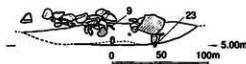
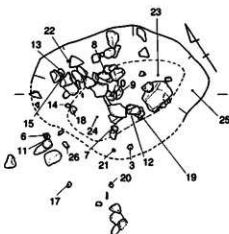
#### ③第1焼土層以後(1596年～1602年直後)(第3-84図参照)

A層上面

以下に区別したのはA層上面から掘り込まれた遺構のうち、埋土の内容から見て1596年の慶長大地震の際の焼土と考えられる第1焼土層堆積後に掘られたと考えられる遺構である。

第1焼土層後の状況

西1区画にはこの時期に礎石建物が存在した可能性がある。同時に道路SF70の内側に建物が張り出していく。一方西2区画は遺構が少なく、建物は復興した状況ではない。西3区画では掘立柱建物SB338はなくなったらしく、火災処理土坑のSK81が同じ場所に掘られている。ほかにわずかの柱穴が発見されているので、一定の建物の復興が行われているが、前代にくらべると少ない。



第3-100図 SK188 (1/40)

#### 土坑

火災処理土坑

**SK188 (F地区) (第3-100図、図版40) L44区**の西2区画と西3区画の境界にまたがって掘られた不整形の火災処理土坑である。長さ1.9m、幅1.4m、深さ0.4m。A層を切っているので、第1焼土層直後の火災処理土坑と推定される。底面

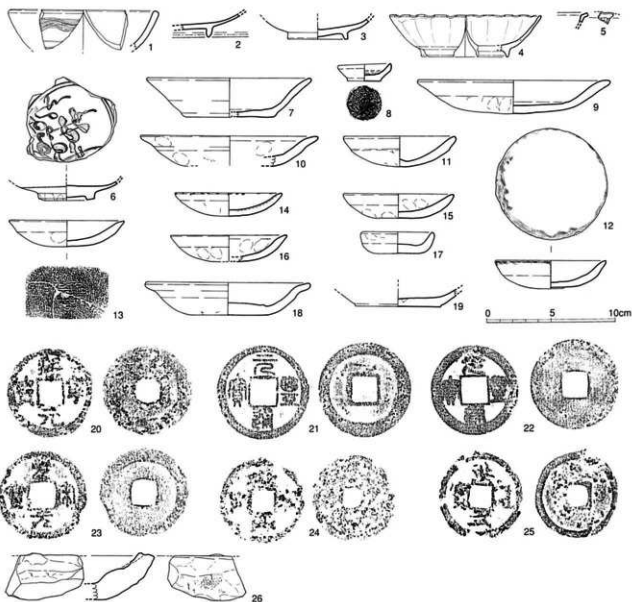
銭貨埋没

には銅銭が数枚置かれており、敷地再建のための祭祀行為を行った上で、火災処理を行ったものと推定される。埋土は大量の被熱礫が廃棄された炭焼土を多量に含む暗褐色土である。

**SK188出土遺物** (第3-101図) 1は中国龍泉窯青磁碗C3類。2と3は白磁皿E-2類の底部。4は白磁皿E-4類の稜花皿。5は中国産翡翠軸青釉陶器小皿。6は中国漳州窯系青花碗底部。7は底部糸切の在地系土師器皿。8は口縁の一部を打ち欠いた内面にロクロ痕を残す土師器小皿のミニチュア。9は内面に煤の付着した京都系土師器2期の大皿。10は京都系土師器2期の皿。11は完形の京都系土師器2期の小皿。12~16は京都系土師器2期小皿で、12は接合すると完形になった煤の付着する灯明皿。13の底面には板状の圧痕が残る。17は京都系土師器2期小型の小皿。18は京都系土師器3期の皿。19は16世紀後半の底部糸切の在地系土師器の皿。20~25は完形の中国銅銭である。20は熙寧元寶(北宋1068年初鑄)。21と22は元豊通寶(北宋1078年初鑄)。23は聖宋元寶(北宋1101年初鑄)。24と25は洪武通寶(明1368年初鑄)。26は銅を溶かした土製大型のるつぼ。

銭貨6枚

ほかに備前焼の甕4点(1点はL44区に第2焼土層出土破片と接合、1点はSK504出土破片と接合、1点はL44区B層上面出土破片と接合)・播鉢1点(放射すり目)。瓦質播鉢3点・鍋2点(底



第3-101図 SK188出土遺物 (1~19・26=1/3、20~25=1/1)

部1)。底部糸切の在地系土師器18点。京都系土師器2期の大皿1点・皿9点。銅銭片1点。銅製品1点。鉄釘3点・鉄棒1点。以上の破片が出土している。

#### そのほかの遺構 (第3-102図)

**SK76** (G地区) L44区A層上面からの掘り込まれた円形の小土坑である。長さ0.7m、幅0.6m。層位関係から1596～1602年の遺構であると考えられる京都系土師器3期の皿と繊維の付着した銭種不明の銅銭1枚が出土した。

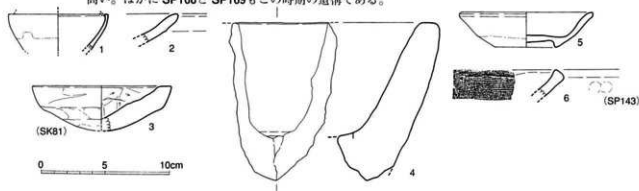
**SK81** (F地区) L44区(西2区画)のA層上面で検出した土坑で、炭焼土を多量に含む軟らかい暗褐色土からなり、焼けた礫や炭・焼土のブロックが大量に混じる。長さ0.9m、幅0.7m以上。第1焼土層の火災処理土坑と考えられる。1596年の火災直後の遺構であろう。1は瀬戸美濃産の小鉢、2は京都系土師器2期の皿口縁、3は土製の埴輪あるいは陶製の小片、4は安山岩質凝灰岩製の大型の石製鉢である。ほかに中国景德鎮窯系青花皿B群、瓦質の鉢、底部糸切の在地系土師器、土師質の鍋、鉄釘の破片が出土している。

**SP142** (F地区) L43区(西3区画)で検出した円形柱穴で、A層上面から掘り込まれたと推定される。埋土はSP140と同じだが焼土のブロックがままとっている。

**SP143** (F地区) L43区(西3区画)で検出した長円形の柱穴で、A層上面から掘り込まれたと推定される。内部に焼土のブロックがままとっている。5は瀬戸美濃産大皿3期の葎筒底の皿、6は瓦質掃鉢の口縁部で河野D2類。ほかに底部糸切の在地系土師器、京都系土師器1期の皿の破片が出土している。

**SP144** (F地区) L43区(西3区画)で検出した円形の柱穴で、A層上面またはII層上面から掘り込まれたと推定される。内部に焼土のブロックがままとっている。

以上のSP142～144は内部に焼土ブロックが多いので、第1焼土層の上から掘り込まれた可能性が高い。ほかに**SP168**と**SP169**もこの時期の遺構である。



第3-102図 16世紀第4四半期③ (1596年以後)の遺構出土遺物(1/3)

#### まとめ (第3-103図)

焼土層と生活面を境界にして、以下の3小期に区分可能であった。

#### ①第2焼土層形成以前の16世紀第4四半期 (推定1575～1587年)

西1～4区画の4つの宅地が上市町の道路SF70に直交する形で分割される。その境界は整地層の段差あるいは柱穴列として認識され、各区画の内部には掘立柱建物のほか礎石が認められる。道路から離れるにつれて土坑が増加するが、調査範囲内には井戸は発見されなかった。上市町の第1南北街路の両側に道路に開口に向けた短冊型地割が第3四半期について設定される。

#### ②第2焼土層以後の16世紀第4四半期 (推定1587～1596年)

SX287のように西2区画と西3区画との境界の段差を再生する石列がもうけられたり、SP235、SP182、SP249、SP247のような道路と直交する方向に柱穴がならぶので、第2焼土層形成の火災

火災処理土坑

短冊型地割

植土整地

後の復興における、新たな整地嵩上げの際にも西1区画と西2区画は同じ位置に再生されている。火災処理に際して焼土層を除去するのではなく、その上に整地層を積み増して嵩上げし、短冊型地割を再建している。掘立柱建物SB336も整地して建てられている。



第3-103図 上市町西側の1587年の戦災復興後の遺構 (1/150)

### ③第1焼土層以後の16世紀第4四半期 (推定1596～1602年直後)

最後の復興

この時期に特定できる遺構は限られている。しかし境界施設は設けられなかったようで、短冊型地割は認められない。しかし1596年の火災後放棄されたわけではなく、火災処理土坑SK188のような遺構が作られており、火災後の再建行為が行われているが、しかし再建は一部に限られ、道路に面した区画はかなり前代とは異なっていたようである。

## VI. 包含層・整地層出土の遺物 (第3-104図)

### I層・II層：出土遺物省略。

**第1焼土層** 1596年の慶長大地震による火災層。1は中国景德鎮窯系青花皿E群。2は翡翠軸の青釉陶器小皿。3は外面に刻印のある瓦質火鉢口縁。4はやや変形の京都系土師器4期の小皿。5は銅を溶かした京都系土師器転用のつば。6は鉄振動板巻きの小柄の柄。

華南三彩

**A層**：1587年の火災後の整地層。7は白磁皿E2群。8は白磁小坏底部。9は中国五彩。10は中国景德鎮青花碗E群いわゆる饅頭心碗。11は景德鎮青花皿E群。12は下部出土の毛彫りの中国景德鎮窯系青花皿。13は華南三彩の鳥形水注の羽の破片。14は火を受けて変色した中国製黒釉陶器の小壺でSK72出土破片と接合 (図版50)。15は中国褐釉陶器壺いわゆるルソン壺。16はタイムナムノイ窯産四耳壺。17は瓦質土器碗の底部。18は土師質火鉢口縁。19は京都系土師器2期の皿。20と21はいずれも煤が付着し灯明皿として使用された京都系土師器2期の小皿。22は京都系土師器3期の皿。23は在地系土師器転用のつば。24～26は管状土鍾A類小型。以下は完形の中国銅銭。27は祥符通寶 (北宋1008年初鑄)。28と29は皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。30は治平元寶 (北宋1064年初鑄)。31は元祐通寶 (北宋1086年初鑄)。32は用途不明の青銅製品で、先端部は中空である。33は鉄製の大型の針か。34と35は鉄製の金具。36は硯。

ほかに景德鎮青花皿B1群1点。同じく青花皿E群、タイ産黒褐釉陶器壺1点 (D区S122出土破片と接合)。斜めすり目の近世1期の備前焼播鉢1点。瓦質土器1点。底部糸切の在地系土師器1点。京都系土師器2期の皿1点・小皿1点。京都系土師器3期の皿1点。鉄斧1点。以上の破片が出土している。

**第2焼土層**：1587年の火災層。37は15世紀後半の中国龍泉窯青磁碗B-IV類の口縁。38は同じく14世紀の青磁盤口縁。39～45は中国景德鎮窯系青花。39は青花碗C群 (蓮子碗) 底部。40は荻筒

## 漳州窯青花

底の青花皿 C 群。41～43は青花皿 E 群。44は16世紀後半の青花小杯。45は毛彫りの青花碗。46～48は中国漳州窯系青花。46は漳州青花碗。47は漳州青花皿。48は萁筒底の C 群模倣青花皿。49は中国黒軸陶器蓋の肩部把手。50は中国黒軸陶器の茶入れ蓋。51は中国焼締陶器の鉢底部。52は近世 1 b 期の備前焼播鉢口縁。53は一對の雷文の刻印のある瓦質火鉢口縁。54は瓦質火鉢脚部。55は底部糸切の在地系土師器環。56は京都系土師器 2 期の皿。57～59は京都系土師器 2 期の小皿 (57と59は灯明皿で破砕されている)。60は管状土錘 A 類。61は土製するつばあるいは銚型。62は銅製の飾り金具。以下は完形の中国銅銭。63と64は景祐通寶 (北宋1024年初鑄)。65と66は皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。67と68は嘉寧元寶 (北宋1068年初鑄)。69は元豊通寶 (北宋1078年初鑄)。70は紹聖元寶 (北宋1094年初鑄)。71は大觀通寶 (北宋1107年初鑄)。72と73は洪武通寶 (明1368年初鑄)。74は鉄鑿。75は鉄釘。76は鉄板。77は底行。

ほかに中国景德鎮窯系青花皿 E 群 1 点。中国黒軸輪蓋 1 点。古瀬戸の瓶子 1 点。中世 6 期の備前焼播鉢 1 点。斜めすり目の備前焼播鉢 2 点。備前焼甕底部 1 点は SK188 出土破片と接合。底部糸切の在地系土師器環 1 点。底部糸切の在地系土師器 1 点。内面にロクロ痕を残す土師器皿 3 点。京都系土師器 2 期の皿 7 点。京都系土師器皿 1 点。完形の中国銅銭の元豊通寶 (北宋1078年初鑄) 1 点。完形の中国銅銭の元祐通寶 (北宋1086年初鑄) 1 点。以上の破片が出土している。

残留遺物。78は摩滅のはげしい古代土師器の瓶把手。

B 層上面：B 層上面の生活面直上の遺物。全体に焼けた遺物が多い。79は青磁盤の口縁。80と81は16世紀の白磁皿 E 2 類。82は中国景德鎮窯系青花碗 E 群の口縁。83は中国漳州窯系煎青花蓋口縁。84は中国漳州窯系青花碗口縁で C 群を模倣。85は中国漳州窯青花碗。86は瓦質火鉢の口縁。87は外面底部に格子タタキのある土師質銅口縁。88は京都系土師器 1 期の皿。89～91は京都系土師器 2 期の皿。92～94は京都系土師器 2 期の小皿 (92は口縁に打ち欠きがある)。95と96は京都系土師器 3 期の皿。97は内面に緑青が付着して硬化した土師器転用のつば。以下は完形の中国銅銭。98は淳化元寶 (北宋990年初鑄)。99は祥符通寶 (北宋1008年初鑄)。100は天聖元寶 (北宋1023年初鑄)。101は皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。102と103は嘉祐通寶 (北宋1056年初鑄)。104～108は元豊通寶 (北宋1078年初鑄)。109と110は元祐通寶 (北宋1086年初鑄)。111は洪武通寶 (明1368年初鑄)。112は鉄製の刀子の茎。113は鉄のみか。114は長さ三寸相当の鉄釘。

ほかに白磁皿 E 群 1 点。中国焼締陶器播鉢口縁 1 点。古瀬戸の瓶 1 点。瀬戸美濃陶器の小皿 1 点。瓦質火鉢の口縁 1 点。底部糸切の在地系土師器 1 点。京都系土師器 2 期の皿 1 点。京都系土師器 3 期の皿 3 点。完形の中国銅銭 1 点。「元」一字のみが残る中国銭貨片 1 点。以上の破片が出土している。

B 層：1587年の火災前の整地層 (16世紀第 4 四半期)。115は中国景德鎮窯系青花皿 B 1 群。116は同じく青花小杯口縁。117は中世 5 期の備前焼播鉢口縁で、D 層下部出土片と接合。118は瓦質火鉢口縁。119は瓦質鉢口縁。120は京都系土師器を模倣した16世紀後半の底部糸切の在地系土師器皿。121は管状土錘 A 類。122は鉄製の釘あるいは楔。ほかに朝鮮王朝産陶器碗 1 点。京都系土師器 2 期の皿 1 点。京都系土師器 3 ないし 4 期の皿 1 点。以上の破片が出土している。

B-2層：第 3 焼土層堆積後の最初の整地層 (16世紀第 3 四半期)。123は15世紀の中国龍泉窯産青磁接花皿口縁。124は中世 6 b 期の備前焼播鉢口縁。125は瓦質火鉢底部。126は瓦質播鉢口縁。127は底部糸切の在地系土師器環。128～130は京都系土師器 1 期の皿。131と132は京都系土師器 1 期の小皿。133は口縁に打ち欠きのある京都系土師器 2 期の火皿。134～136は京都系土師器 2 期の皿。137は口縁に打ち欠きのある京都系土師器 2 期の小皿。138と139は京都系土師器 3 期の皿と小皿 (139は煤が付着した灯明皿)。140は回転糸切の土師器燗台 A 類。141と142は銅製の刀装具の切羽 (図版51)。143は銅製の太匙 (図版51)。144は「開〇〇寶」と読める銅銭片。以下は完形の中国銅銭。

## 土師器燗台

145は祥符通寶(北宋1008年初鋳)。146は皇宋通寶(北宋1038年初鋳)。147は嘉祐通寶(北宋1056年初鋳)。148は治平元寶(北宋1064年初鋳)。149と150は紙包みの残る熈寧元寶(北宋1068年初鋳)。151と152は元豊通寶(北宋1078年初鋳)。153は元祐通寶(北宋1086年初鋳)。154は紹聖元寶(北宋1094年初鋳)。155は聖宋通寶(北宋1101年初鋳)。156は鉄釘。157は粘板岩製の仕上げ砥石。158と159は砥石。

ほかに中国景德鎮窯系青花皿F群1点。中国焼締陶器1点。底部糸切の在地系土師器坏1点。内面にロクロ痕を残す土師器1点。京都系土師器2期の皿1点。海部産の平瓦1点。完形の銅銭7点。鉄釘3点の破片が出土している。

#### B-2層 整地の地層

F地区西3区B-2層 160と161は第3焼土層直上に置かれた京都系土師器1期の皿と底部糸切の在地系土師器のミニチュア(161は煤が付着し、口縁に1箇所打ち欠きがある)。B-2層の整地に先立つ祭祀行為である。

第3焼土層:16世紀第Ⅲ四半期の火災層。162はガラス片。163は白磁皿E類。164は中国景德鎮窯系青花碗C群のいわゆる蓮子碗。165は中国漳州窯系青花碗。166は「寿」の銘のある蒜筒底の中国漳州窯系青花皿。167は中世6a期の備前焼播鉢口縁。168～172は底部糸切の在地系土師器坏(171は京都系土師器を模倣したもの)。173は底部糸切の在地系土師器小皿。174～176は京都系土師器1期の皿(174は口縁に煤の付着した灯明皿)。177は京都系土師器2期の皿。178と179は平瓦。180は管状土錘A型の超小型完形品。181は土製の鈴。182は銅製の留金具。以下は完形の中国銅銭である。183は景德元寶(北宋1004年初鋳)。184は祥符通寶(北宋1008年初鋳)。185は天聖元寶(北宋1023年初鋳)。186は熈寧元寶(北宋1068年初鋳)。187と188は紹聖元寶(北宋1094年初鋳)。189と190は鉄製火箸の先端部。191と192は鉄製刀子。

ほかに中国漳州窯系青花碗1点。中国焼締陶器鉢底部1点。備前焼播鉢2点、うち1点は放射すり目。底部糸切の在地系土師器3点。内面にロクロ痕を残す土師器1点。京都系土師器1期の皿1点。海部産平瓦1点。平瓦1点。完形の銅銭4点。第3焼土層直上出土の関元通寶と思われる銅銭の破片1点。鉄釘5点。以上の破片が出土している。

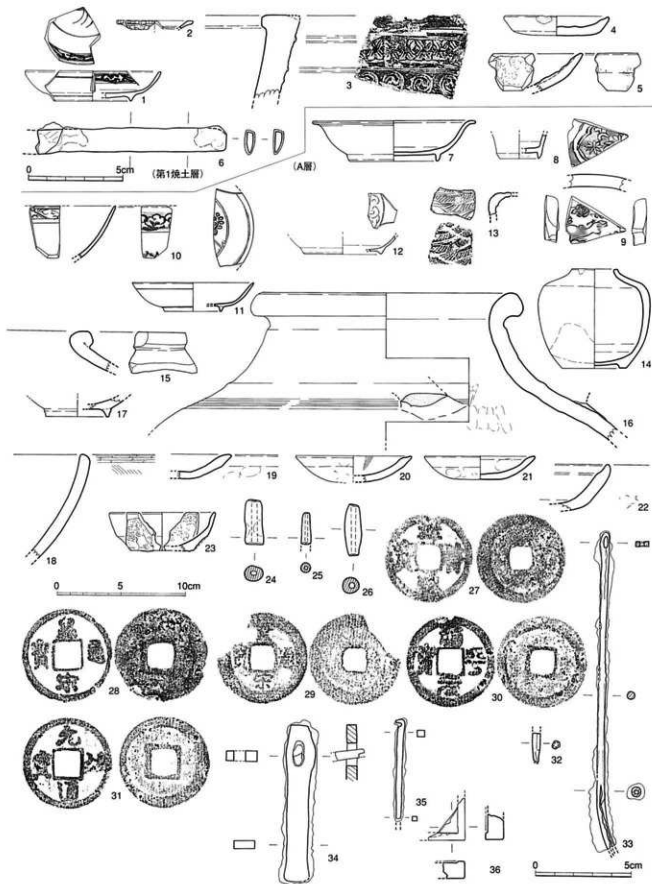
C層上面:第3焼土層堆積の直前の遺物(16世紀第3四半期)。193は蒜筒底の中国漳州窯系青花皿。194は菊花文の刻印のある瓦質火鉢口縁。195は瓦質鉢口縁。196は外面にヘラケズリのある瓦質播鉢口縁。197は京都系土師器1期の皿口縁。198は京都系土師器2期の皿。199は平瓦。200は土製の鈴。201は完形の中国銅銭の景祐元寶(北宋1004年初鋳)。ほかに丸瓦1点の破片が出土している。

C層:16世紀第1四半期の整地層。202と203は内面にロクロ痕を残す土師器皿。204はその小皿。205は穿孔のある鉄金具(図版49下)。以下は完形の中国銅銭。206は皇宋通寶(北宋1038年初鋳)。207は元豊通寶(北宋1078年初鋳)。208は政和通寶(北宋1111年初鋳)。209は正隆元寶(金1157年初鋳)。ほかに放射すり目の備前焼播鉢1点。底部糸切の在地系土師器坏1点・小皿1点。海部産平瓦1点。以上の破片が出土している。残留した210は13世紀の瓦質鍋口縁。

第4焼土層:内面にロクロ痕を残す土師器の破片が出土している。

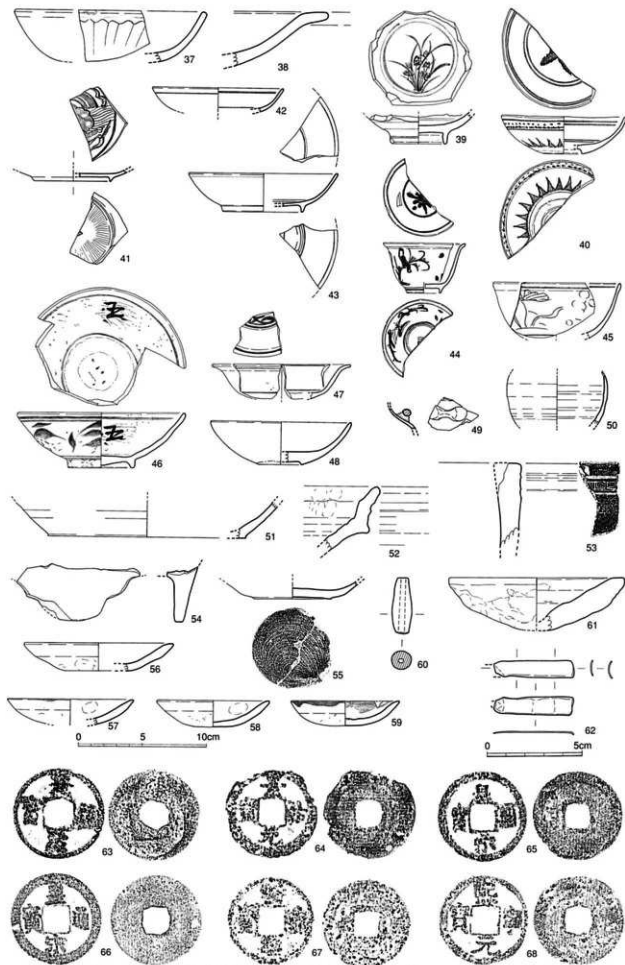
F・G地区D層上面 211は内面にロクロ痕を残す土師器皿。ほかに14世紀の鍋蓋弁文の中国龍泉窯産青磁碗1点、中国焼締陶器1点の破片が出土している。

D層:15世紀から16世紀第1四半期の包含層。212は下部出土の15世紀の中国龍泉窯青磁碗口縁。213は14世紀後半の備前焼播鉢口縁。214は中世5b期の備前焼播鉢。215は瓦質火鉢脚部。216は河野B-2型の瓦質鍋口縁。217は内面にロクロ痕を残す土師器の小皿。218～220は底部糸切の在地系土師器坏。221は下部出土の底部糸切の在地系土師器小皿。222と223は口縁の低い14世紀形の在地系土師器小皿。224は口縁の高い15世紀の在地系土師器小皿。225は銅製の金具。226は銅製の石突

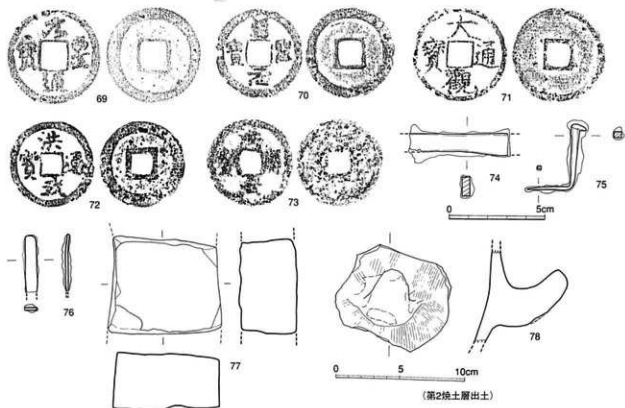


第3-104図① 包含層・整地層出土遺物（第1焼土層、A層）（1～5・7～26・34～36=1/3、6・32・33=1/2、27～31=1/1）

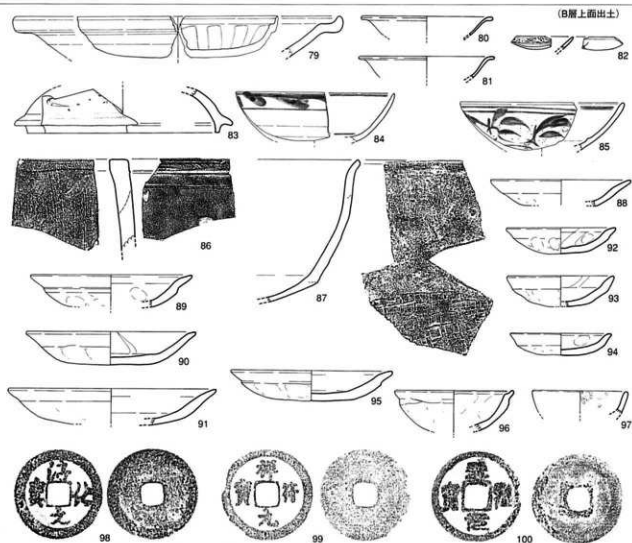




第3-104図② 包含層・整地層出土遺物 (第2焼土層) (37~61=1/3, 62=1/2, 63~68=1/1)

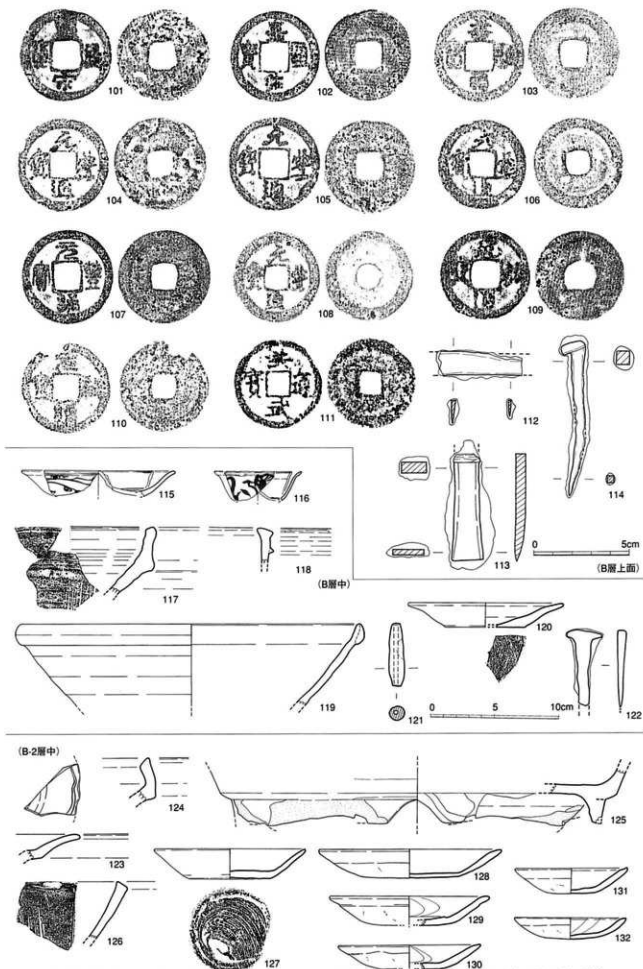


(第2焼土層出土)

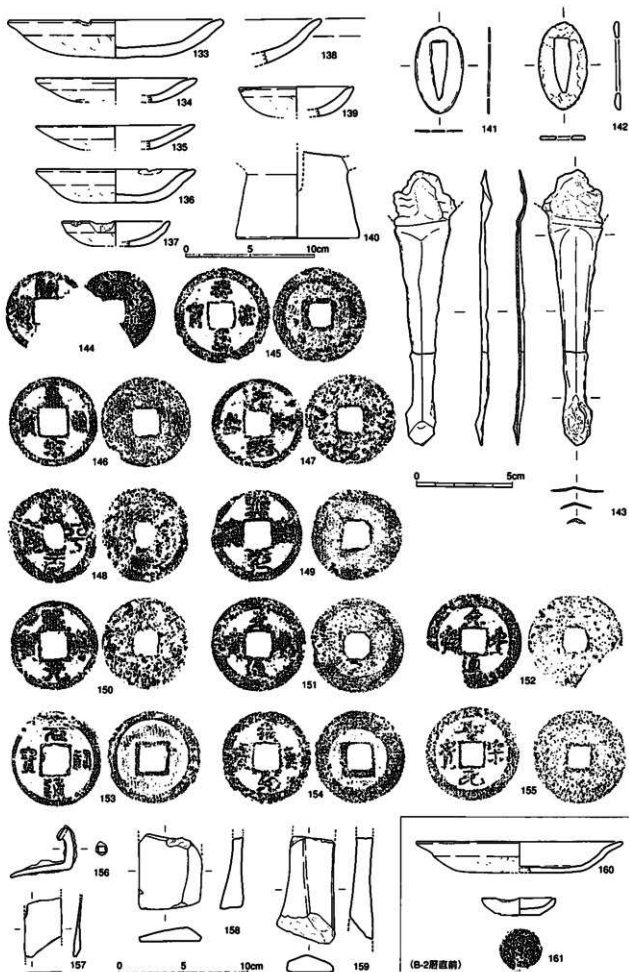


(B層上面出土)

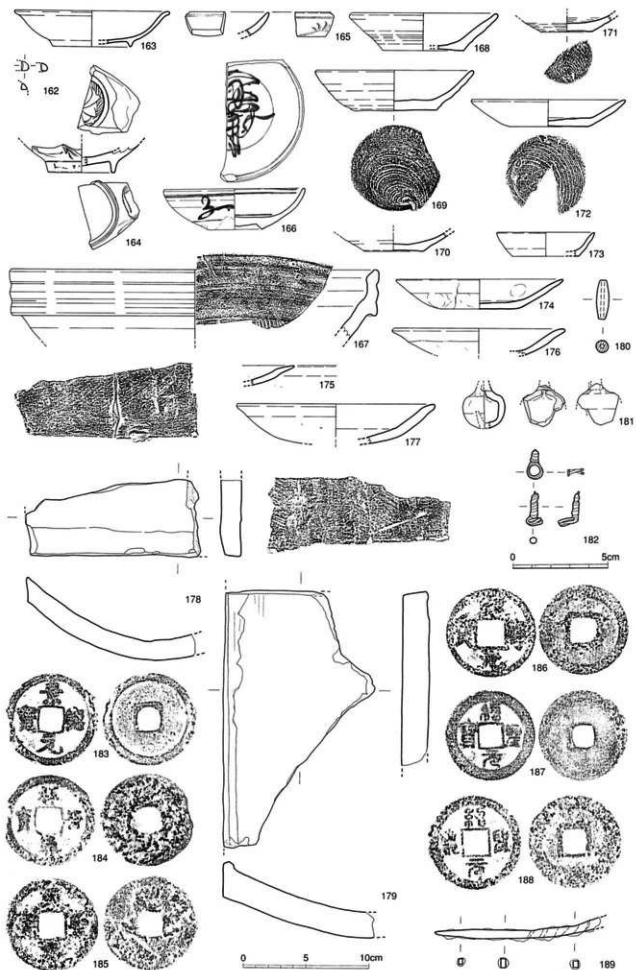
第3-104図③ 包含層・整地層出土遺物 (第2焼土層、B層上面) (74・75=1/2、69~73・98~100=1/1、それ以外は1/3)



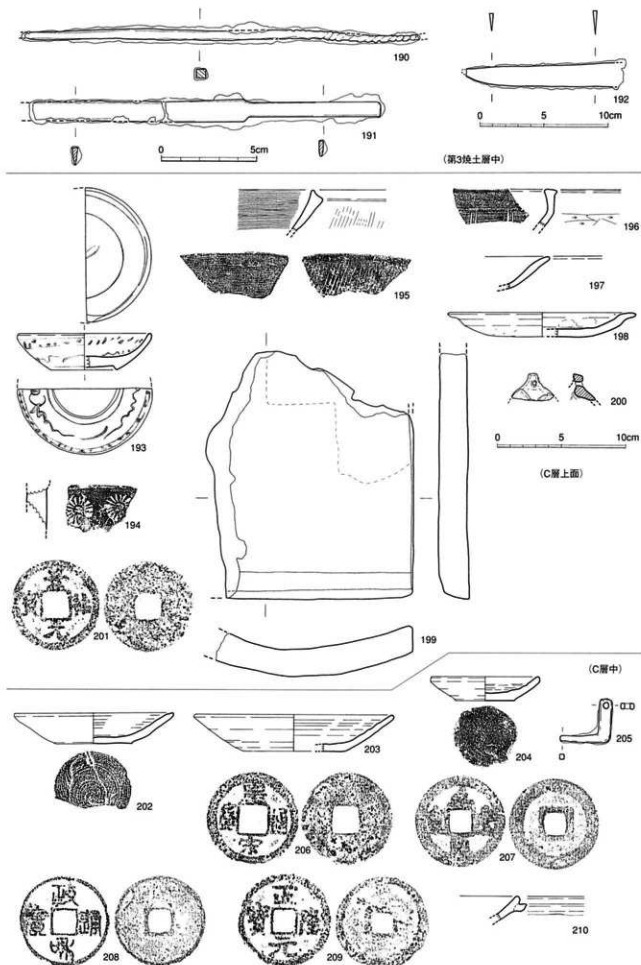
第3-104図④ 包含層・整地層出土遺物 (B面上面、B層、B-2層) (101~111=1/1、112~114=1/2、115~132=1/3)



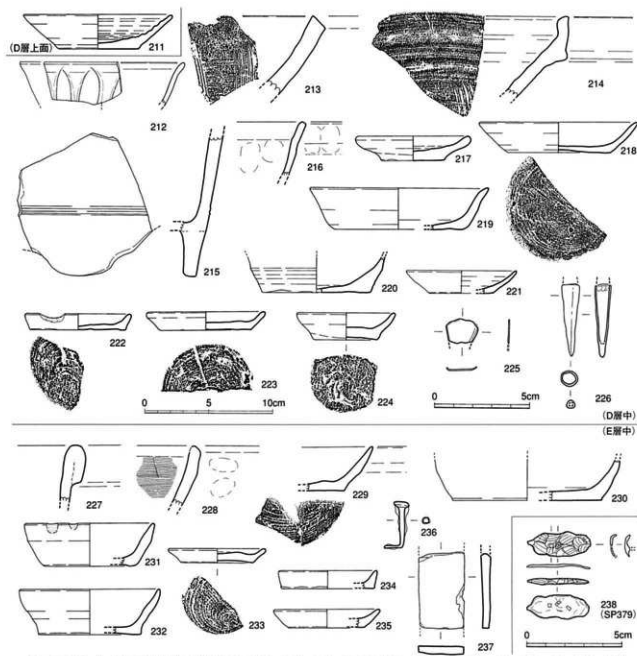
第3-104図⑤ 包含厨・壁地層出土遺物 (B-2層) (133~140・156~161=1/3, 141~143=1/2, 144~155=1/1)



第3-104図⑥ 包含層・整地層出土遺物 (第3焼土層) (162~181・189=1/3, 182=1/2, 183~188=1/1)



第3-104図(7) 包含層・整地層出土遺物 (第3焼土層、C面上面、C層)  
 (190・191=1/2、192~200・202~205・210=1/3、201・206~209=1/1)



第3-104図⑧ 包含層・整地層出土遺物 (D層上面、D層、E層、SP379) (211~224・227~237=1/3、225・226・238=1/2)

きか。ほかに底部糸切の在地系土師器坏1点。完形の銅銭2点。F地区西2区の下層トレンチから放射すり目の備前焼播鉢2点を取りあげているが、これらは認識できなかった上からの混入の可能性が高い。

**第5焼土層：**底部糸切の在地系土師器の破片のみが出土している。15世紀代である。

**E層：**15世紀の包含層。227は中世4ないし5期の備前焼甕口縁。228は瓦質鍋口縁。229と230は底部糸切の在地系土師器坏の大型品。231と232は在地系土師器の坏。233~235は14世紀形の口縁の低い在地系土師器小皿。236は鉄釘。237は仕上げ砥石。ほかに底部糸切の在地系土師器と大内系土師器1点の破片が出土している。

**Ⅲ層：**基盤V層に対応するE地区B層4回目からは、白磁鉢貼り花の破片が出土している。

そのほかにSP379から238の銅製の金具が出土している。

## 第7節 上市町東側の遺構と遺物（H地区）

## 1. 遺構と層序の概要（第3-105図、付図3-4、図版33～35）

H地区の呼称

以下に層序に従ってその概要をのべる。H地区は西よりに撤去された建物のコンクリート基礎によって大きく破壊されていた。その基礎の西側と、その内部、東側の分けて調査した。そのため便宜的に、その3区分をH区西、H区中、H区東とよんだ。以下その区分による位置表示を併用する。

## I層：現耕作土

1596年

**第1焼土層**：1596年の慶長大地震によると推定される火災層。最新の遺物は京都系土師器2期の皿であるが、層序の対応から見て1596年の慶長大地震による火災層である可能性が高い。

**A層**：1587年の火災後の整地層。A層は1587年の烏津氏の豊後侵入による府内炎上後の復興時の整地層であり、その上面から掘られた遺構は1587年から1596年の遺構と考えられる。中国景德鎮窯系青花皿F群や近世1期の斜めすり目の備前焼播鉢がふくまれるが、土師器においては京都系土師器2期の皿が多い。

1587年

**第2焼土層**：1587年の火災層。中国景德鎮窯系青花碗E群と漳州窯系青花のほかに、京都系土師器2・3期の皿と近世1期の斜めすり目の備前焼播鉢が、この焼土層とそれを除去したB層上面で検出されている。第1南北街路SF70（上市町道路）の第3硬化面上に広がる。第7次調査区の第1焼土層に対応すると考えられる。

**B-1層**：1587年の火災前の整地された生活面（16世紀第4四半期）。朝鮮王朝産舟徳利と京都系土師器2期の小皿が最も新しい遺物である。

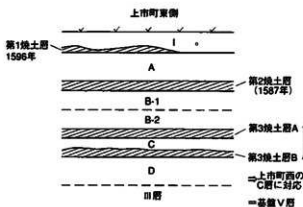
**B-2層**：この層の上面でも生活面がある。その年代は第3焼土層の年代第3四半期からB-1層の整地までの1587年の直前。京都系土師器2期の皿がふくまれ、近世1期の備前焼播鉢と京都系土師器3期の皿、景德鎮青花E群と漳州窯青花は含まれない。第3焼土層堆積後の最初の整地層（16世紀第3四半期）と考えられる。なお第3焼土層に対応するが、焼土層でない層をB-3層とした。

火災層

**第3焼土層A**：16世紀第3四半期の火災層。道路SF70の第6硬化面上からH地区のB層トレンチのC層上面の全域に広がる焼土層で、薄い間層をはさんで2枚に分かれる。京都系土師器1期の皿が多く、2期の皿も入るが3期の皿は例外である。中国漳州窯系青花は景德鎮窯系青花C群蓮子碗の模倣品である。朝鮮王朝産舟徳利もふくまれ1550～1575年の16世紀第3四半期にあたる。

**C層**：内面にロクロ目を残す土師器、京都系土師器1期の皿を含む。

**第3焼土層B**：内面にロクロ目を残す土師器、京都系土師器1期または2期の皿が含まれるので、第3四半期にあたる可能性がある。D層上面に広がる火災層で、道路SF70の第11硬化面上から東側のH地区特にM46区では明瞭にひろがる。



第3-105図 上市町東側層序模式図

上市町西側の第4焼土層とは異なる時期の焼土層である可能性が高い。

**D層**：16世紀第1四半期の整地層。この層の上面で生活面が形成されている。掘り下げたのは下層トレンチのみであるが、そこでは糸切りの在地系土師器・内面にロクロ目を残す土師器のみが出土し、土師器には京都系土師器を含まないので1500～25年の第1四半期と考えられる。



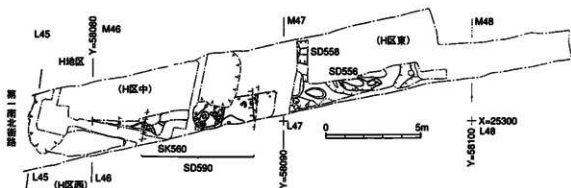
## Ⅱ. 16世紀第1四半期の遺構と遺物

概要 (第3-106図) (第3-107図)

道の埋没と道路の建設

南北方向の大溝 SD590が16世紀初頭に埋没すると、上市町の道路 SF70が建設され始める。その道路の建設に伴って両側に区画が形成される。ただし道路の方向と直交する溝 SD556と SD558があり、15世紀代と同じく溝で区画された状態である。ほかに土坑が発見されたのみである。

溝 SD590がまだ存在していた段階までは、道路 SF70の東側には何の遺構も存在せず、SD590が埋没後東西方向の溝 SD558と SD556が掘られている。



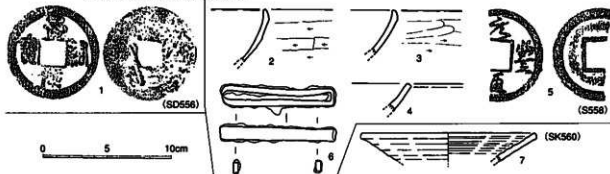
第3-106図 16世紀第1四半期の遺構 (1/200)

**SD556 (H区東)** M47区の東1区トレンチ内でB-3層除去後のC層上で検出した不整な短い溝である。内部はB-3層土が充填し、B層による整地の際に埋め戻されたと考えられる。長さ2.3m以上、幅0.8m。1は完形の中国銭で景祐通寶(北宋1034年初鑄)。ほかに中国龍泉窯系青磁皿、備前焼壺、瓦質播鉢・鍋、内面にロクロ目を残す土師器、糸切りの在地系土師器の小片が含まれるが、京都系土師器はない。

東西溝

**SD558 (H区東)** M47区の東1区トレンチB-3層除去後に検出した落ち込みで、東西方向に伸びる大きな溝の可能性が高い。深さは1m以上確認したが底には達していない。2と3は瓦質土師器の碗で、外面にヘラ削りがある。4は糸切りの在地系土師器口縁、5は半分に折れた中国銭の元景通寶(北宋1078年初鑄)、6は鉄製の毛抜き。ほかに中国景徳鎮窯系青花碗C群、瓦質火鉢、土師質土鍋、平瓦、鉄片と内面にロクロ目を残す土師器・糸切りの在地系土師器のみで京都系土師器はない。

**SK560 (H区中)** ML46区(東2区)の第3焼土層除去後のC層上面で検出した土坑である。大溝 SD590の埋没後に掘られ、第3四半期の土坑 SK526に切られている。長さ1.9m以上、幅0.9m以上。7は内面にロクロ目を残す土師器口縁で、H地区D層出土の破片と接合した。ほかに端反りの白磁皿E2類、外面が深いカキメを施す瓦質火鉢と内面にロクロ目を残す土師器の破片のみ出土し、京都系土師器はない。



第3-107図 SD556、S558、SK560出土遺物 (1・5=1/1、2~4・6・7=1/3)

### 小結

直前まで上市町の道路の東側に平行して大溝 SD590があり、武家屋敷のような広大な区画が存在したと考えられる。町屋ではなくその内部と想定される溝の東側には明確な遺構を伴わない。

大溝の埋没

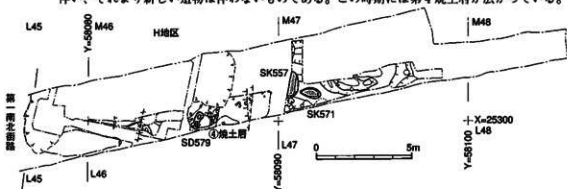
16世紀第1四半期に、その溝が埋没した後は、今度は東西方向の溝が掘られており、区画の変更があったことが確かめられるが、遺構が少ないという内部の状況にかわりはない。

### Ⅲ. 16世紀第2四半期の遺構と遺物

概要（第3-108図、付図3-4参照）

D層上面

16世紀第2四半期とした遺構はD層上面で検出したもので、埋土中に京都系土師器1期の皿を伴い、それより新しい遺物は伴わないものである。この時期には第4焼土層が広がっている。



第3-108図 16世紀第2四半期の遺構 (1/200)

**SK557 (H区東) (図版44)** M47区の下層トレンチのB-3層除去後に検出した長円形の土坑で、C層あるいはD層上面から掘り込まれている。長さ1.4m以上、幅0.5m以上。埋土はB-3層土と基盤Ⅲ層土の混層である。人為的に埋められたものである。出土遺物は内面にロクロ目を残す土師器・京都系土師器1期の皿の破片のみである。

**SK571 (H区東)** M47区の下層トレンチのB-3層除去後に検出した長円形の土坑で、C層あるいはD層上面から掘り込まれている。長さ1.1m、幅0.6m。埋土は5mm大の炭焼土を多く含む暗褐色土=B-3層土と5cm大の黄色土ブロック=基盤Ⅲ層土の混層である。人為的に埋められたものである。出土遺物は土師器の破片のみである。B-3層が上に重なる状況と埋土が同一で人為的に埋められているので、隣接するSK557とSK571は同じ性格の土坑である。

小溝

**SD579 (H区東)** ML46区のD層上面で検出した南北方向の小溝だが、一部第4焼土層上から切っている。出土遺物は底部糸切りの在系土師器・内面にロクロ目を残す土師器のみで京都系土師器はない。

### 小結

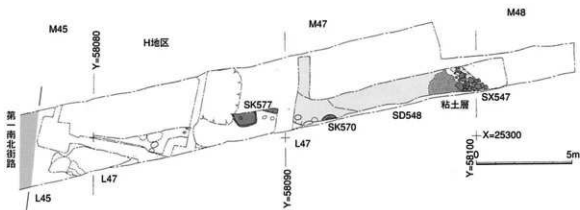
第4焼土層下の遺構は大変少なく、このあたりは前代に引き継ぎ、町屋ではない。別の性格の敷地として利用された可能性が高い。

### Ⅳ. 16世紀第3四半期の遺構と遺物

概要

3焼土の前と後

第3四半期の遺構は、第3焼土層以前のC層上面において掘られた遺構群と、第3焼土層埋積後にその上から掘られた遺構群に分けることができる。また以下の記述の中で16世紀後半とした遺構はB層掘下げ時に検出されたもので、B層中で終わるか、第3焼土層を抜きC層上面の深い並



第3-109図 16世紀第3四半期(第3焼土層以前)の遺構 (1/200)

地層に達して止まっている。少なくとも第3焼土層を形成した火災後の復興整地(B層積土)時、すなわち16世紀第3四半期に作られたか、あるいは第2焼土層堆積時には埋没しているので遅くとも1587年までの遺構である。後者と考えられる遺構は16世紀後半と付記した。

①第3焼土層以前の第3四半期(第3-109図)

C層上面

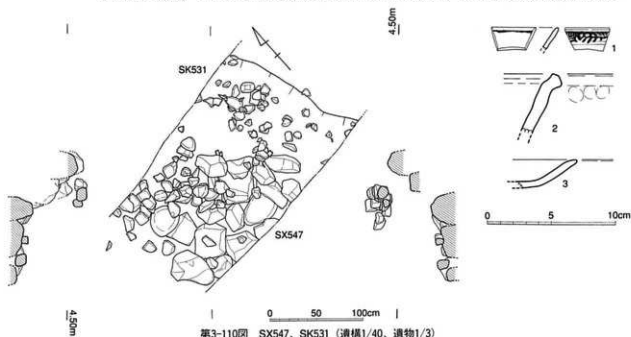
第3焼土層除去後のC層上面で発見されて遺構である。まず中央に東西方向の幅は広いが比較的浅い溝SD548が掘られている。この溝の東斜面には石垣SX547が葺かれている。この溝の範囲が後の東1区画にはほぼ対応する。しかしこの溝はすぐに埋め戻されたようで、第3焼土層形成の火災の際は完全に埋没し、この溝を破壊して土坑が掘られている。

遺構

石積み

SX547(H地区)(第3-110図、図版43・44) M47区(東1区画)のSD548の北斜面に設けられた石積みで、東0区画と東1区画の境界となっている。改修時にSK531に切られる。石積みは下部と上部に別れ、下部の石積みは平坦面に人頭大の円礫による敷石を施した後、斜め上方に立ち上げている。石積みはB-1層上に乗る形で設けられており1587年以前に改修されている。上部石積みは砂混じりの粘土で下部の石積みを被覆した後、やや小さな円礫を積み上げたもので、斜面のみに施されている。B層上面に対応する。

SX547出土遺物 1と2は上部石積みの下から出土したもので、1は中国景德鎮窯系青花碗C

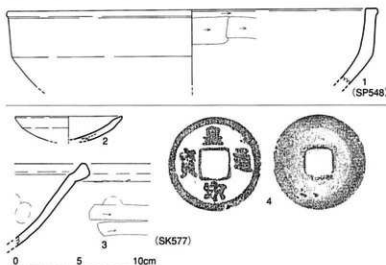


第3-110図 SX547、SK531 (遺構1/40、遺物1/3)

群、2は瓦質土鍋で河野B-2類の口縁。3は下部石積みの下から出土した京都系土師器2期の皿。ほかに上部石積みの裏込めからは中世陶器の甕胴部、土師質土鍋の底、鉄釘。下部石積みの裏込めからは底部糸切りの在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器の破片が出土している。

そのほかの遺構 (第3-111図)

SD548 (H区東) ML47区の落ち込みで、後の東1区画に対応する位置に掘りこまれた東西方向の溝で、幅は5mを超える。内部にはB-3層が堆積し、途中に第3焼土層が堆積している。1は瓦質火鉢口縁。SX547は溝SX548の東斜面にしかれた石敷きである。人頭大の円礫を配置している。



第3-111図 SD548、SK577出土遺物 (1~3=1/3、4=1/1)

SK570 (H区東) ML47

区下層トレンチの第3焼土層除去後にC層上面で検出した円形の土坑で、南半分は壁にかかっている。長さ0.8m以上、幅0.3m以上。SD548を切っている。京都系土師器2期の皿、糸切りの在地系土師器の小片が出土した。

SK577 (H区東) L46区の第3焼土層除去後のC層上面で検出した円形の土坑である。長さ1.3m、幅0.7m以上。2は京都系土師器2期の小皿。3は瓦質鍋の口縁部で外面にヘラケズリが入る河野B-2類。4は完形の中国銭の皇宋通寶(北宋1038年初鑄)。ほかに中国漳州窯系青花の小片、備前焼の甕、搬入の薄手白色の京都系土師器、糸切りの在地系土師器の小片出土。土師質火鉢の小片は第3焼土層出土破片と接合。

### 小結

第3焼土層以前のこの時期にはまだ短冊型地割の町屋の区画は形成されていないが、後の区画は溝SD548をうめたその場所が原型となっており、以前から方向を同じくする境界が存在していたと考えられる。地山の高さは北側に行くほど高いので、SD548を含む北側にはかなり大きな区画の存在が予想される。

### ②第3焼土層

道路SF70の第6硬化面上からH地区のB層トレンチのC層上面の全域に広がる焼土層で、薄い間層(C層)をはさんで2枚に分かれる。この焼土層の広がりの高さを追うと、東0区画、東1区画、東2区画に対応する段差を見出すことはできない。したがって第3焼土層が堆積する火災以前には、その後の地割につながる短冊型地割はまだ施工されていないといえる。

### ③第3焼土層～1575年 (第3-112図)

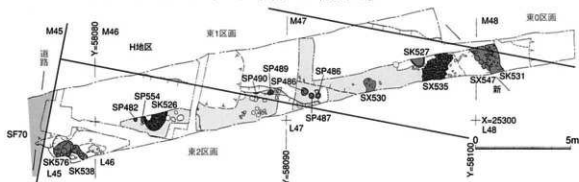
H地区のB-2層上面で検出され、遺物の内容から16世紀第3四半期と推定される遺構である。土層観察からこの第3焼土層後の整地造成の際に、道路SF70に面し東に伸びる短冊型の地割が形成され、第16次調査区内では東0区画、東1区画、東2区画の3つの区画が南に行くほど低くなる段

東西溝

大区画

短冊型地割

差をもって区画されている。以下は区画ごとに記述する。



第3-112図 上市町東側 (H地区)の16世紀第3四半期 (第3焼土層以後)の遺構 (1/200)

#### 東0区画

遺構面が高くすでにほとんどが削平されている上、調査面積がごく狭いので、この時期の遺構はない。

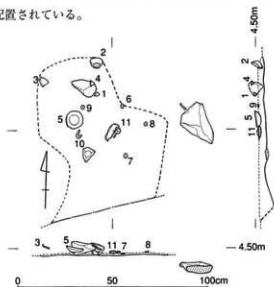
#### 東1区画

東0区画との境界には段差があり、東1区画側が一段低い。幅は5m弱で、長さは21m以上を検出した。敷地の東側には祭祀遺構とSD548が埋まりきらないまま残ったくぼみが広がり、内部には糠が廃棄される一方、SX547の石垣が再配置されている。

#### 祭祀遺構

SX530 (H区東) (第3-113図、図版43)

M47区 (東1区) トレンチのB-2層中の間層で検出した炭混じりの砂層のブロックで、長さ幅ともに1m前後の範囲である。第3焼土層より上の整地層中にあり、中央に土師器の完形の小皿が正位に置かれ、その周囲に青花碗、白磁、つり針、鎌、複数の銭貨などが出土した。鉄鎌 (11) を取り巻くように銭貨と土師器皿が置かれているようにも見える。第3焼土層後の整地による東1区画造成を行う際の地鎮等の祭祀と考えられる。



第3-113図 SX530 (1/20)

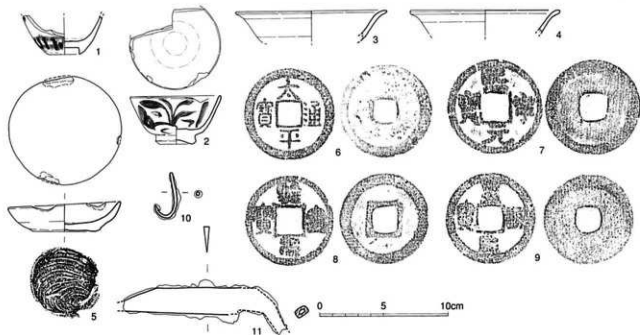
**SX530出土遺物** (第3-114図遺物) 1は中国景德鎮窯系青花の小坏底部。2は中国漳州窯系青花小坏でH区東B-3層出土破片と接合し、故意に口縁を打ち欠いて破砕している。3と4は白磁碗E2類の口縁。5は内外に煤が付着し被熱した底部糸切りの在地系土師器の坏の完形品である。正位で置かれ、口縁に3箇所の打ち欠きがある。6~9の銅銭5枚はいずれも完形品で、別に1枚は破損している。6は太平通寶 (北宋976年初鑄)。7と8は熙寧元寶 (北宋1068年初鑄)、9は皇宋通寶 (北宋1078年初鑄)。10と11は鉄製品で、10は釣針、11は鎌。ほかに釘2点が出土している。第3焼土層形成後の整地すなわち東側区画の造成を示す良好な一括資料である。

**SX535 (H区東) (第3-115図、図版43)** M47区 (東1区) のB層埋没途中の集石遺構である。

長さ2.1m、幅1.2mの範囲に置かれる。窪みにたまったような堆積で、あるいは造成土のブロックかもしれない。白色粘質のB-1層の造成土で埋没している。窪の間からは動物骨が多く出土した。京都系土師器2期の皿が最新の遺物である。

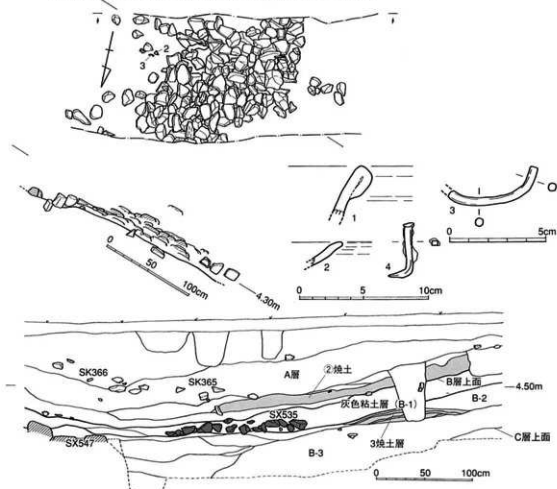
区画造成の地鎮

集石遺構



第3-114図 SX530出土遺物 (1~5・10=1/3, 6~9=1/1)

**SX535出土遺物** 1は備前焼甕の口縁部で中世6期。2は京都系土師器2期の皿口縁部。3は太い針金状の屈曲した銅の金具。4は先端が90度曲がった鉄釘の完形品。ほかに白磁皿E2群、えぐりのある新しい形式の瓦質火鉢底部、土師質鍋、京都系土師器1期の皿、糸切りの在地系土師器、内面にクロロ目を残す土師器、鉄釘の破片が出土している。



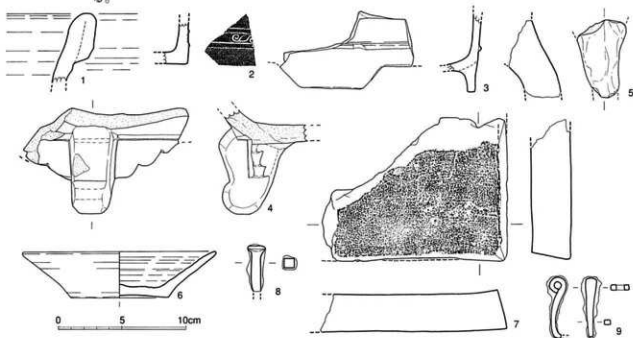
第3-115図 SX535 (遺構1/40, 遺物1~2・4=1/3, 3=1/2)

土坑

裏込め土坑

**SK531** (H区東) (第3-110図参照) M47区(東1区画)のB-C層上で検出しSD548の北側に設けられた石垣SX547背後の土坑である。SX547改修時の裏込めのための土坑といえる。背後の掘形はSK525に切られている。出土遺物から時期を判断した。

**SK531出土遺物** (第3-116図) 1は備前甕口縁で中世6期にあたる。2は瓦質火鉢底部で、外面に双頭麻手流雲文の刻印がある。3と4は瓦質火鉢の底部で、3は脚部の作りは挟りを入れる新しい形式である。4は脚部である。5は防長系の足鍋の脚部で搬入品である。6は内面にロクロ目を残す土師器の皿であるが、胎土に大量の金雲母を含む。7は埴の破片である。8は大型の鉄釘の頭。9は鉄製の楔か。ほかに備前焼の甕、京都系土師器2期と3期の皿、鉄釘、土壁の破片がある。



第3-116図 SK531出土遺物 (1/3)

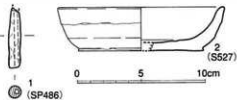
そのほかの遺構 (第3-117図)

**SP486** (H区東) M47区(東1区)のB-1層除去時に検出した掘形円形の柱穴で、B-1層が覆う。1は管状土錘A類定形の超小型に分類できる。

**SP487** (H区東) M47区(東1区)のB-1層除去時に検出した掘形円形の柱穴で、B-1層が覆う。

**SP488** (H区東) M47区(東1区)のB-1層除去時に検出した柱穴で、B-1層が覆う。

**S527** (H区東) M47区(東1区)トレンチのB-1層中で検出した掘り込み。長さ0.7m、幅0.6m以上。埋土は暗灰黒色土である。2は15世紀の底部



第3-117図 SP486、S527出土遺物 (1/3)

糸切の在地系土師器の坏。ほかに内面にロクロ目を残す土師器・瓦質鉢・丸瓦の破片が出土している。

東2区画

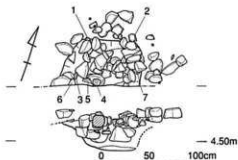
土坑や柱穴が散在するが、調査面積が少ないので、宅地として利用されているという以上のことは言えない。

## 土坑

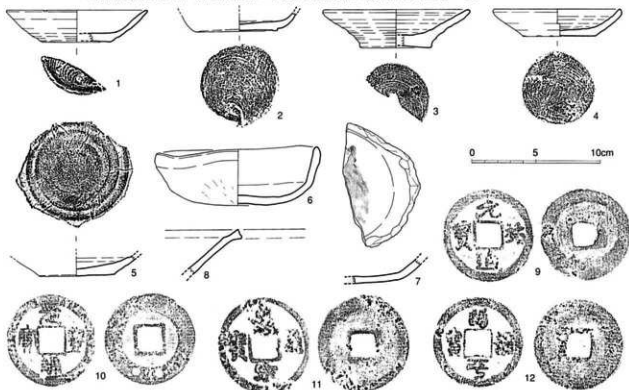
集石土坑

**SK526** (H地区) (第3-118図、図版43) M46区(東2区画)の第3焼土層上面で検出した集石土坑でSP559を切る。長さ1.2m、幅1.2m以上、深さ40cmの範囲である。円礫が充填し上面はB2砂層が覆っている。遺物は礫に混じる形で多量に出土した。京都系土師器3期の皿が一定量出土した。

**SK526出土遺物** (第3-119図) 1は糸切りの在  
地系土師器坏。2は口縁の全周を打ち欠いた糸切り  
の在地系土師器底部片。3~5は内面にロクロ目を残す土師器皿(5は口縁全周を打ち欠く)。6  
は京都系土師器3期の皿。7は煤の付着した京都系土師器の皿。8は瓦質鍋で外面がナテ調整に退  
化した河野B-3類。9~12は完形の中国銅銭で、9は元祐通寶(北宋1086年初鑄)、10は元豊通寶  
(北宋1078年初鑄)、11は皇宋通寶(北宋1038年初鑄)、12は治平通寶(北宋1064年初鑄)。ほかに  
大型石英粒を多量に含む海部産の平瓦、火鉢底部の破片が出土している。



第3-118図 SK526 (1/40)



第3-119図 SK526出土遺物 (1~8=1/3、9~12=1/1)

## そのほかの遺構 (第3-120図)

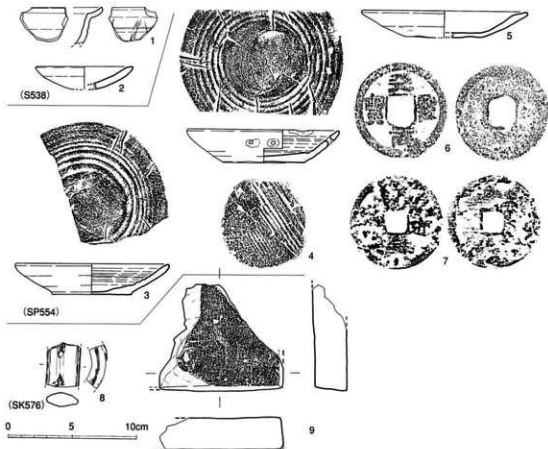
**SP482** (H区中) ML46区(東2区)のB-1層(砂層2回目後)除去時に検出した円形の柱穴で、B-1層が覆う。

**SP489** (H区東) ML46区(東2区)のB-1層除去時に検出した円形の柱穴で、B-1層が覆う。底部に礫が混じる。

**SP490** (H区東) ML46区(東2区)のB-1層除去時に検出した円形の柱穴で、B-1層が覆う。

**S538** (H区西) M45区(東2区)の第3焼土層上面で検出した不整な掘り込みである。内部から1の中国龍泉窯系青磁の盤口縁部、2は内面に煤の付着した京都系土師器2期の小皿のほかに糸切りの在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、鉄釘の破片が出土している。





第3-120図 S538、SP554、SK576出土遺物 (1~5・8・9=1/3、6・7=1/1)

**SP554** (H区中) ML46区の第3焼土層除去後のC層上面で検出した円形の柱穴で、SK526を切る。3と4は内面にロクロ目を残す土師器皿(4は口縁部を打ち欠いている)。5は内面に煤の付着した京都系土師器1期の皿。6と7は完形の中国銅銭で、6は天聖元寶(北宋1023年初鑄)、7は永樂通寶(明1408年初鑄)。ほかに平瓦片が出土している。

**SK576** (H区西) 16世紀後半 M45区(東2区)の第3焼土層上面で検出した不整な土坑である。長さ1.1m、幅0.9m。8は中国景德鎮窯系青花の壺の把手。9は埴の破片である。ほかに中国龍泉窯青磁、備前焼の甕、糸切りの在地系土師器の小片が出土している。

#### V. 16世紀第4四半期から17世紀初頭の遺構と遺物

##### 概要 (図版34)

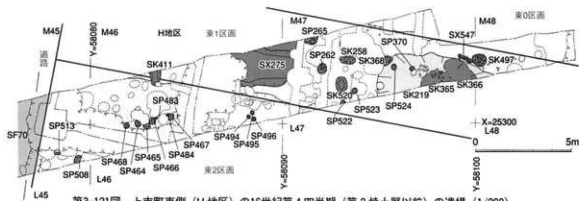
3小期に区分 東0区画と東1区画では、第2焼土層以上とB層整地層の上面がすでに後世の削平をうけているので、そのB層上面で検出された遺構は層序的には、1587年以前、1587年以後、1596年以後のⅢ時期の可能性をのこしている。以下3時期に分けて記述する。

##### ①第2焼土層以前の第4四半期 (第3-121図)

B層上面 B層上面で検出された遺構である。上市町の道路より東側全体が整地層による遺構であり、東0区画、東1区画、東2区画の3つの区画が南にいくほど低くなる段差をもって区画されている。整地は区画毎に別個になされたのではなく、調査区内の3つの区画は同時に一括して造成されたものと考えられる。以下は区画ごとに記述する。

##### 東0区画 (第3-122図)

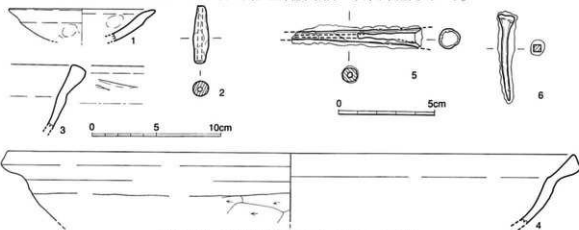
調査区内で発見された区画のうち最も高い位置にある区画である。そのため逆にもっとも後世の



第3-121図 上市町東側 (H地区) の16世紀第4 四半期 (第2 焼土層以前) の遺構 (1/200)

削平をうけており、整地層以外にこの時期と特定できる遺構は極めて少ない。

**SP497 (H区東) ML48区 (東0区) のB-1層除去時に検出した柱穴である。東1区画との境界に位置している。16世紀第3 四半期の土坑 SK531を切る。1は京都系土師器2期の皿口縁部、2は管状土錘A類で定形の小型に分類される。3と4は瓦質鍋の口縁部、ともに河野B1類で16世紀前半の製品。5は鉄製の石突のような小型品。6は鉄釘。ほかに備前焼播鉢の底部、糸切りの在地系土師器、内面にロクロ目を残す土師器、鉄釘の小片が出土している。**



第3-122図 SP497出土遺物 (1~4=1/3、5・6=1/2)

#### 東1区画

短冊型地割

東西に長く伸びる短冊型の区画である。東0区画とは整地層の段差を作り、東1区画の方が低くなっている。幅はほぼ4.8mである。東2区画との境界も段差があり東1区画の方が高いが、東2区画の端には柱穴があり、建物あるいは堀で境をなしていたものと考えられる。

内部には整地層の一部であるSX275のほか大きな窪みSX219・277があり、その埋没過程で、石列SX547上部が作られている。ほかに柱穴が多数検出されたが、掘立柱建物を推定するまとはりはない。

#### 土坑

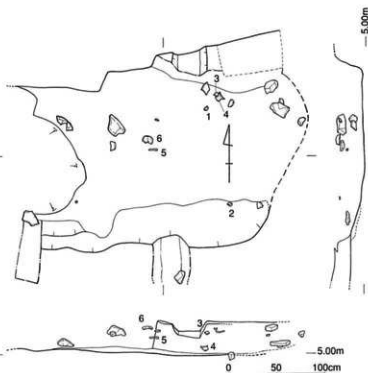
整地層

**SX275 (H区東) (第3-123図、図版40) M46・47区 (東1区画) のB層上面の整地層を構成する一単位の造成土である。長さ4m以上、幅2m、深さ40cm。上面に敷かれたはずのB層上部に当たる粘土層の床土はすでに削平されていた。そのため最初は大きな土坑として掘下げていた。埋土は粗砂混じりの軟らかい暗褐色土で、土器片や礫は少ない。以下の1587年以後の土坑 SK98、SK103、SK104に切られている。最上部の中央に京都系土師器2期の完形の皿(6)が正位で埋置さ**

土師器埋置

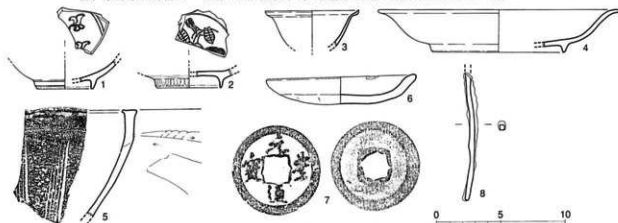
れていた。東1区画のB層整地の際の遺構である。第3焼土層形成後、1587年以前の遺構である。

**SX275出土遺物** (第3-124図) 1と2は中国景徳鎮窯系青花碗で、C群とE群。3は受け口口縁の白磁小坏。4は被熱した白磁皿E2群。5は瓦質擂鉢口縁部。6は京都系土師器2期の皿。7は中国銭の元豊通寶(北宋1078年初鑄)で、星形孔をもつ。8は鉄製の火箸である。ほかに中国龍泉窯系青磁碗、中国漳州窯系青花底部、備前焼壺・甕、瓦質火鉢・土鍋、土師質土鍋・壺、内面にロクロ目を残す土師器、京都系土師器2・3期の皿、銭種不明の銅銭、土壁の破片が出土している。



第3-123図 SK275 (1/40)

中国龍泉窯系青磁碗、中国漳州窯系青花底部、備前焼壺・甕、瓦質火鉢・土鍋、土師質土鍋・壺、内面にロクロ目を残す土師器、京都系土師器2・3期の皿、銭種不明の銅銭、土壁の破片が出土している。



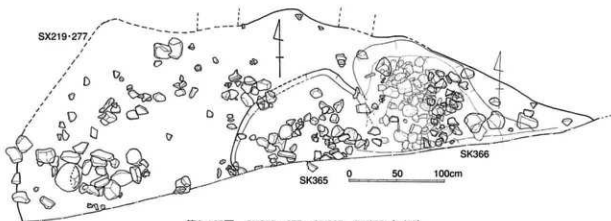
第3-124図 SK275出土遺物 (1~6・8=1/3, 7=1/1)

掘り込み

**SX219・277** (H区東) (第3-125図、図版41・44) SX219はM47区(東1区画)のB層上面で検出した土坑でA層上からの掘り込みらしいが輪郭ははっきりしない。長さ6m以上、幅3m以上、深さ0.8m。礫の集中が認められる。SX277は東1区画に沿った落ち込みで、SK115・SP116、SK365、SK366に切られる。西側に排水溝らしい石組みが存在したが、調査中の降雨で崩壊し記録を残せなかった。内部からは備前焼の斜めすり目の擂鉢が出土している。同一の落ち込みを別の遺構として掘ったので、SX219出土遺物は上層、SX277は底部に堆積した第2焼土層を中心とした下層出土遺物である。

土師器燗台

**SX219・277出土遺物** (第3-126図) 上層のSX219から、1の中国景徳鎮窯系青花皿B1群の口縁。2の中国漳州窯系青花大皿には、高台登付に楞殻が付着している。3は中国産焼締陶器の壺底部。4は瀬戸美濃産皿の口縁。5は瓦質土鍋の口縁で河野B1類。6は土師器の燗台で、穿孔は貫通せず底部は回転糸切り離して、ロクロ目の残る土師器と同じ製作技法であるA2類。7は鉄製の

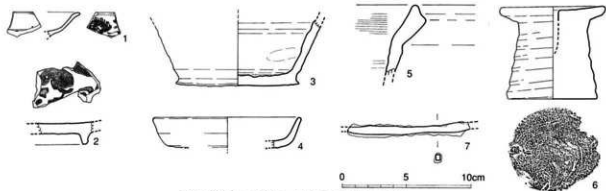


第3-125図 SX219・277、SK365、SK366 (1/40)

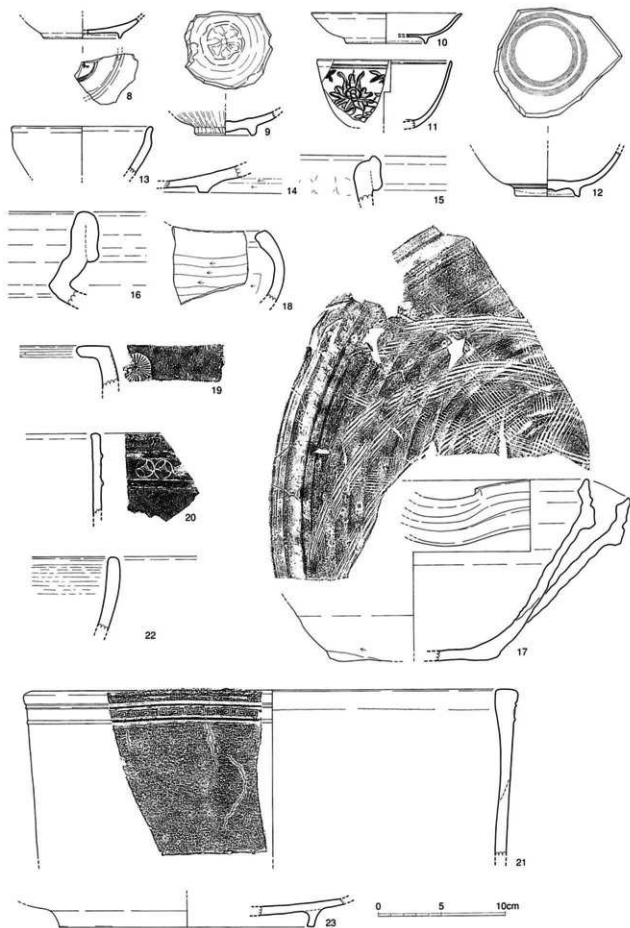
火箸。ほかに底部内面は蛇の目軸刺ぎのある中国景德鎮系青花碗C群1点と分類不能の青花1点、漳州窯系青花皿1点、備前焼2点、瓦質火鉢底部1点、瓦質甕胴部1点・鍋1点、糸切りの在地系土師器1点、京都系土師器1期の皿1点、丸瓦2点・平瓦1点、鉄の鏝1点、などの破片が出土している。

2 焼土層の埋積

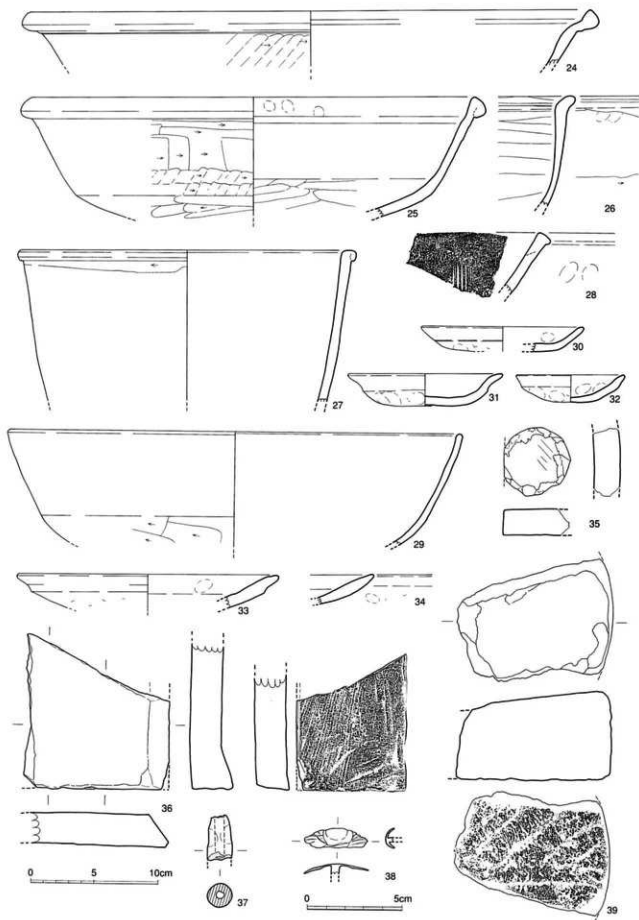
下層のSX277には第2焼土層が落ち込んでおり、第2焼土層の年代を決定する良好な一括資料である。以下はその下層出土遺物である。8と9は白磁E-4類の菊花皿。8の外底の銘は「天下泰平」か。10は白磁皿E群。11は中国景德鎮青花碗E群の饅頭心碗。12は中国漳州窯青花碗底部。13は瀬戸美濃産天目碗。14は備前焼の鉢の可能性の高い陶器皿の底部。15は常滑焼の甕口縁。16は中世6期の備前焼播鉢で、SK365出土破片と接合。17は斜め掃り目の近世1a期の備前焼播鉢。18は瓦質釜口縁。19は外面に菊花文の刻印のある瓦質火鉢口縁。20は外面に七宝文の刻印のある瓦質火鉢。21は一對の雷文の刻印のある瓦質火鉢口縁。22は瓦質火鉢の口縁。23は瓦質火鉢の底部。24と25は瓦質鍋の河野B-1類口縁。26は瓦質鍋口縁で、SK261出土破片と接合。27は瓦質鍋口縁で、SK221とM47区A層出土破片と接合。28は土師質播鉢口縁。29は土師質鍋口縁で、SK365出土破片と接合。30と31は京都系土師器2期の皿。32は京都系土師器2期の小皿。33は京都系土師器3期の大皿。34は京都系土師器3期の皿。35は平瓦の二次加工したメンコ。36は埴。37は半分に折れた管状土鍾中型B類。38は打ち出し細工の青銅製の金具。39は安山岩製の石皿の下白。ほかに中国龍泉窯青磁1点。中国景德鎮窯系青磁皿1点。白磁1点。中国景德鎮窯系器種不明青花2点と青花碗3点。中国漳州窯青花碗3点。中国羯軸陶器2点(底部1)。朝鮮灰青軸陶器1点。中世陶器甕胴部1点。備前焼壺7点(胴部3、底部2)・甕14点(胴部10、底部4)・播鉢1点・徳利1点。瓦質火鉢10点(胴部1、底部2)・播鉢1点・鍋胴部1点。土師質鍋口縁1点。糸切りの在地系土師器2点。平瓦2点。完形の銭貨1枚。鉄釘4点。以上の破片が出土している。



第3-126図① SX219・277上層出土遺物 (1/3)



第3-126図② SX219・277下層出土遺物 (1/3)

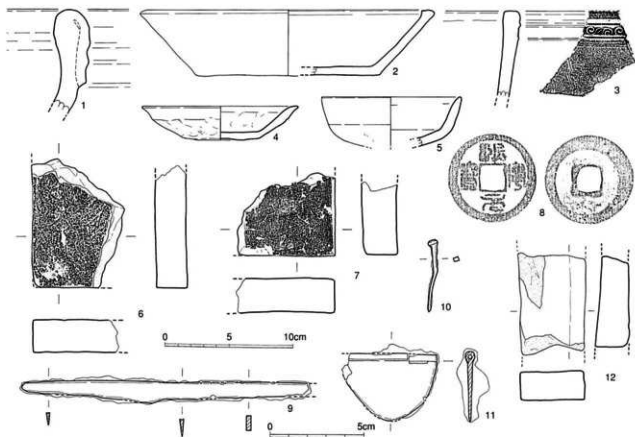


第3-126図③ SX219・277下層出土遺物 (24~37・39=1/3, 38=1/2)

以下の3つの遺構はこの窪みSX277の埋没過程で掘られた遺構である。

**SK365 (H区東)** (第3-125図参照、図版42) M47区(東1区画)のSX277を掘下げ途中で検出した円形皿状の集石土坑で、礫の下には炭の層が堆積していた。SK366に切られる廃棄土坑である。遺物の出土状態は破片が被熱した礫の間に混じるように入っていた。

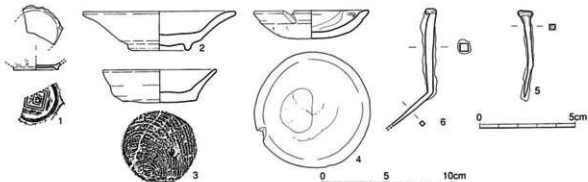
**SK365出土遺物** (第3-127図) 1は1570年以後の近世1期の備前焼口縁部。2は浅めの瓦質火鉢口縁。3は瓦質火鉢の口縁部で、双頭麻手流雲文の刻印がある。4は京都系土師器2期の皿。5は京都系土師器3期の皿。6と7は埴の破片。8は中国銅銭の熙寧元寶(北宋1068年初鑄)である。9は鉄製刀子の刃部。10は2寸の鉄釘の完形品。11は下端の尖った鉄製の金具。12は砥石。ほかに備前焼壺・甕、土師質火鉢、糸きり土師、平瓦の破片が多く混じる。また食物の残滓と思われる大型の巻貝が3点出土した。いずれもサザエ類であった。



第3-127図 SK365出土遺物 (1~7・10・12=1/3、8=1/1、9・11=1/2)

**SK366 (H区東)** (第3-125図参照) M47区(東1区画)のSX277を掘下げ途中で検出した不整形皿状の集石土坑で、SK365を切る。長さ1.9m以上、幅1.2m。SX277の埋没過程でのひとつの廃棄単位である可能性もある。遺物の出土状態は遺物の破片が被熱した礫の間に混じるように入っていた。

**SK366出土遺物** (第3-128図) 1は翡翠軸の青軸陶器小皿の底部で、外底に型押しした銘がある。2は中国龍泉窯青磁の梅花皿で15世紀後半の産。3は糸切りの在系土師器小皿。4は京都系土師器2期の小皿の完形品。灯明皿として使用され、被熱による剥離があり、廃棄時に口縁を打ち欠いている。5と6は鉄釘の完形品。ほかに備前焼の壺、瓦質播鉢底部・土鍋、糸切りの在系土師器底部、京都系土師器3期の皿、平瓦の破片が出土している。

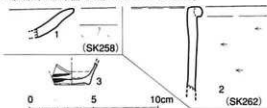


第3-128図 SK366出土遺物 (1~4・6=1/3, 5=1/2)

## そのほかの遺構 (第3-129図)

**SK258** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した不整長円形の小土坑で、埋土は10mm大の炭焼土を多く粗砂混じりの暗褐色軟質土である。長さ0.8m、幅0.4m。中央上部に浮いて一個の礎石風の大型礫があった。出土遺物は1の京都系土師器2期の皿のみである。

**SK262** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した平面円形の小土坑で、1596年以後の土坑SK106に切られる。長さ0.6m、幅0.5m。内部には被熱礫が充満した廃棄土坑である。埋土は5mm大の炭焼土を少量含む砂礫混じり暗褐色土である。遺物は礫に混じって破片の状態に混じりこむ。2は瓦質火鉢口縁部、ほかに瓦質土鍋、土師質火鉢、鉄釘の破片が出土している。



第3-129図 K258、SK262、SK411出土遺物 (1~3=1/3, 4=1/2)

**SP265** (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した方形柱穴で、区画の方向と一致する。中央に柱の根石と見られる礫が置かれていた。埋土からは京都系土師器2期の小皿片が出土している。

集石土坑

方形柱穴

根石

**SK368** (H区東) M47区(東1区画)のB層より上から掘り込まれた小土坑で、1587年以後の土坑SK261に切られている。長さ0.5m、幅0.4m以上。埋土は1cm大の炭焼土とB層土のブロックを含む暗褐色土である。出土遺物は土師質土鍋の底のみである。

**SP370** (H区東) M47区(東1区画)のSX277の底面で検出した円形の柱穴である。

**SK411** (H区中) ML46区(東1区画)のB層上面で検出した溝状の土坑で、埋没後礎石が置かれている。長さ0.8m以上、幅0.7m。3の中国景徳鎮産青花小坏底部は16世紀のもの。4は鉄製の鑿か。ほかに瓦質鉢が出土している。16世紀後半。

以下のSP522~524は検出層位と埋土が類似し同一時期の遺構である。

**SP522、SP523、SP524** (H区東) 16世紀後半 ML47区(東1区画)のB層上面から掘り込まれた円形の柱穴である。埋土は1mm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色軟質土の単一層である。

このほかに層序から見て**SK520**もこの時期と考えられる。

## 小結

SX275を整地層の一単位とする全体的な整地により東1区画が造成される。東端に大きな窪みSK277が掘られ、ながく窪んだままであったと推定される。排水溝のような石組みが取り付け、埋没の過程でSK365・SK366のような土坑が途中でほられたり、堆積したりする。この窪みSX277



の北側の検出ラインと東0-1区画の境界ラインが平行し、かつ1mほどの空間がある。内部には窪みのほかに柱穴が散在するが、明確な遺物はない。

#### 東2区画(第3-130図)

東西に伸びる区画だが、道路 SF70に接する間口の部分は深い擾乱のためどうなっていたか不明である。また南限も調査区内では把握できていない。北限にあたる東1区画との境界は造成時には

段差による境界

段差で表現されている。内部は柱穴がかなり密集し、土壌はすくない。以下の柱穴はすべて掘形円形である。

**SP464** (H区中) 16世紀後半 ML46区(東2区画)のB-1層除去時に検出した柱穴で、中央に柱痕がのこる。第3焼土層の火災後の整地層上からの掘り込み。

**S465** (H区中) 16世紀後半 ML46区(東2区画)のB-1層除去時に検出した浅い掘り込みで、埋土は砂層に若干黄色粘土ブロックが混じる。

**SP466** (H区中) 16世紀後半 ML46区(東2区画)のB-1層除去時に検出した柱穴で、中央に柱痕がのこる。埋土は砂層に若干黄色粘土ブロックが混じる。出土遺物は糸切りの在地系土師器の小片のみである。

**SP467** (H区中) ML46区(東2区画)のB-1層除去時に検出した柱穴で中央に柱痕がのこる。

**SP468** (H区中) ML46区(東2区画)のB-1層除去時に検出した柱穴で中央に柱痕がのこる。

**S483** (H区中) ML46区(東2区画)のB-1層除去時に検出した小ピットである。

**SP484** (H区中) ML46区(東2区画)のB-2層上面で検出した柱穴で、B-1層が覆う。

以下のSP494～496は埋土形態ともよく似て近接する。

**SP494**、**SP495**、**SP496** (H区東) M46区(東2区画)の段差の下のB層上面で検出した浅いピットで、単なる窪みの可能性もある。第2焼土層が上に乗るので1587年以前の遺構である。

**SP508** (H区西) 16世紀後半 ML45区(東2区画)の第2焼土層除去後のB層上面で検出した柱穴である。SP513と同じ。1は中国陶輪陶器のいわゆるルソン壺の把手。ほかに京都系土師器1期の皿、糸切りの在地系土師器、瓦質鍋、土甕が出土している。



**SP513** (H区西) 16世紀後半 ML45区(東2区画)の第2焼土層除去後のB層上面で検出した柱穴である。SP508と同じ。中央に被熱した人頭大の円鏝が置かれている。柱穴の横行であろうか。糸切りの在地系土師器の小片のみ出土。

0 5cm

第3-130図 SP508  
出土遺物 (1/3)

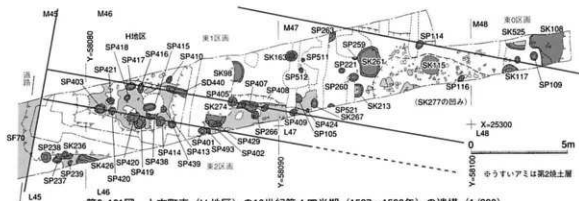
#### 小結

柱穴が多いが、土坑が少ないという遺構の分布状態から見て、掘立柱建物が存在していた可能性が大きい。短冊型の区画のなかで道路に近い位置に建物が建つ点で、町屋遺構の状況と一致する。

#### ②第2焼土層以後の16世紀第4四半期(第3-131図、図版35)

1587年の震災に由来すると考えられる第2焼土層の直上から掘り込まれた遺構と、その上の整地による復興面であるA層上面から掘り込まれた遺構を、この時期と推定する。別にA層上面に分布する1596年の慶長大地震に由来すると想定される第1焼土層よりも上から掘られた遺構は分離した。

A層上面



第3-131回 上市町東 (H 地区) の16世紀第4 四半期 (1587~1596年) の遺構 (1/200)

### 東0区画 (第3-132回)

南限にあたる東1区画との境界となっていた整地層の段差はすでに削平で失われているが、遺構がほとんどなくなる点で、前代の東1区画と同じ状況なので、1587年後復興時にもこの区画は再現されたと推定される。

**SK108 (H区東) M48区 (東0区画)** のA層上部から掘り込まれた不整形の土坑で、断面も半円形をなす。長さ1.8m以上、幅2m以上。内部にはB層土のブロックと土器の破片が少量混じり、

掘削してすぐに埋め戻された状況である。1は瓦質土鍋口縁の河野B3類。ほかに放射すり目の備前焼播磨、瓦、糸切りの在地系土師器の坏と小皿の破片が出土している。

**SP109 (H区東) M48区 (東0区画)** のB層上面で検出した掘形円形の柱穴だが、A層中から掘り込まれた可能性高い。出土遺物はない。

**SK525 (H区東) M48区 (東0区画)** のB層上面で検出した土坑で、西半分は近世の侵食で消失している。長さ1m以上、幅0.4m以上。内部に第2焼土層に対応するブロックの堆積があり、その上にはA層の整地層がのっている。1587年の戦災復興時の火災処理土坑の遺構である。下層から糸切りの在地系土師器、鉄釘、土壁の破片などが出土している。

火災処理土坑

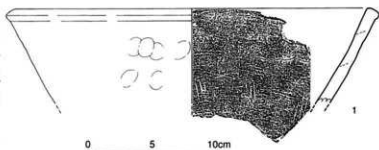
### 小結

この部分にも本来火災による焼土層が広がっていたことは、火災処理土坑と考えられるSK525の存在からわかる。その後土坑SK108がほられているが、柱穴は極めて少ない。おそらく東0区画のなかでも、この付近は道路から15~20m隔たっている。建物建っていたのではなく、その裏側の空地の部分であったと考えられる。

### 東1区画

削平のためこの時期の生活面は失われている。そのため東0区画との境界は不明瞭となっている。東2区画とは段差が残り明瞭に境界を指摘できる。東0区画との境に存在した路地はこの段階では消失したらしく、路地にあたる場所に土坑が掘られている。

内部にはSK261のような何らかの施設が設けられている。その西では柱穴が散在するが土坑は



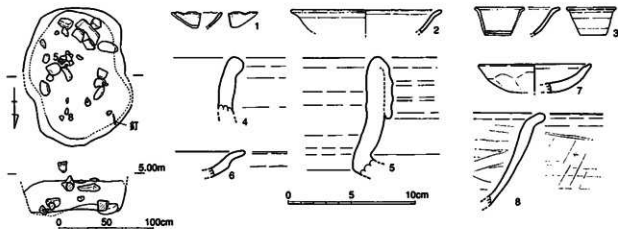
第3-132回 SK108出土遺物 (1/3)

ない。一方東側では土坑が多くなる。

#### 土坑

**SK261 (H区東) (第3-133図) M47区 (東1区画) のB層上面で検出した不整長円形の土坑で、1587年以前の土坑SK368を切り、1596年以後の遺構SP112とSP227に切られる。長さ1.6m、幅1.2m、深さ40cm。第2焼土層上から掘り込まれたもので東2区画の地割の方向に一致し、底面も平坦にほられており、宅地内の穴倉等の施設として設けられた遺構である。内部には被熱した際が多く、安山岩の川原石のほか凝灰岩礫が混じる。埋土は上下に別れ、下層は1~2cm大の炭焼土を多量に含む暗黄褐色土層で、ところどころ粗砂ブロックを含む。中央には粘土ブロックと焼土炭屑が堆積し、火災処理土坑に転用されたことを示している。京都系土師器3期の皿を最新の遺物とする。1587年後の復興時に掘られ1596年に廃棄か。**

火災処理に転用



第3-133図 SK261 (遺構1/40、遺物1/3)

**SK261出土遺物** 1は中国製白磁皿E4群の菊花皿。2と3は白磁皿E-2群。4は備前焼窯の口縁で14~15世紀代の製品。5は備前焼窯の口縁部で近世1期のもの。6は京都系土師器2期の皿口縁。7は京都系土師器3期の小皿。8は外面ヘラケズリの在地系の瓦質土鍋の口縁部。ほかに中国景德鎮窯系青花碗、朝鮮王朝産舟德利、中国産焼磚陶器、瓦質火鉢、大型完形の鉄釘の破片が出土している。

#### その他の遺構 (第3-134図遺物)

**SK98 (H区東) M46区 (東1区画) のB層上面で検出した円形土坑で、断面も円形になる。長さ1.1m、幅0.6m以上。1587年以前の遺構SX275を切る。埋土は上下二層に別れ、上層は炭焼土を多く含む暗褐色砂礫層、下層は茶褐色土のブロックが堆積する。遺物は小片が散在する状況である。出土遺物は1の外面ヘラケズリの瓦質土鍋口縁。2は完形の中国銭の熙寧元寶 (北宋1068年初鑄)。3は長さ3寸の鉄釘完形品。ほかに中国漳州窯系青花皿、備前焼の甕、大内系土師器、糸切りの在地系土師器の破片が出土している。**

**SK103 (H区東) M47区 (東1区画) のB層上面で検出した平面円形の小土坑で、B層の整地層の一部である1587年以前の遺構SX275を切る。長さ0.7m、幅0.5m、深さ50cm。内部には被熱層が充満し、凝灰岩礫と結晶片礫が混じる廃棄土坑である。埋土は炭焼土の多い暗褐色土である。遺物は礫に混じって破片の状態に混じりこむ。中国龍泉窯系青磁碗、備前焼摺鉢の破片が出土している。**

**SP105 (H区東) M47区 (東1区画) で検出した柱穴だが、東1区画は上面が削平されている**

紫石土坑

ため、さらに上の層からの掘り込みの可能性があり、埋土に大粒の炭焼土ブロックを含むところから第2焼土層を切る遺構と判断した。4の被熱した京都系土師器2期の小皿口縁部が出土している。口縁に煤の付着した灯明皿である。

**SP114 (H区)** M47区(東1区画)で検出したが、A層中から掘り込まれたと推定される掘形円形の柱穴である。埋土は、B層上部の整地層に由来する黄灰色土のブロックが入る。5の煤の付着した京都系土師器2期の皿口縁部片は、隣接するSK115出土破片と接合した。ほかに中国景德鎮窯系青花、土師質土鍋、糸切りの在地系土師器の小片が出土している。

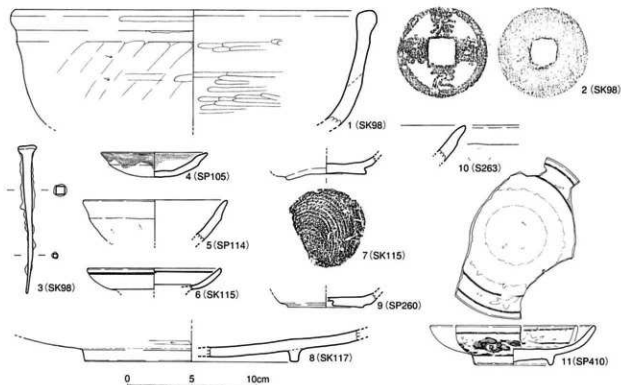
**SK115 (H区東)** M47区(東1区画)で検出した平面円形断面皿状の土坑である。長さ1.1m、幅0.9m。完全に埋没したSX219を切っているところからA層中からほりこまれたと推定される。埋土は1cm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色軟質土の単一層である。遺物はいずれも破片が散在する状況である。6は中国景德鎮窯系青花皿E群。7は糸切りの在地系土師器坏底部。ほかに中国産褐釉陶器のいわゆるルソン壺底部、瀬戸美濃大窯3期の小皿口縁部、備前焼室形部・堯・掃鉢、瓦質火鉢・土鍋、瓦質土師器2期の皿、鉄釘などの小片が出土している。

以上のSP114とSK115は出土遺物が接合するので、同時期の遺構と見られる。

**SP116 (H区東)** M47区(東1区画)のA層上面から掘り込まれた柱穴である。完全に埋没したSX219を切っているところからこの時期と推定される。中国漳州窯系青花碗、瓦質土器、埴の破片が出土している。

**SK117 (H区)** M48区(東1区画)のB層上面で検出した円形の土坑で、東0区画との境界付近に位置し南壁にかかる。長さ0.9m、幅0.4m以上。断面は半円形で、埋土は灰炭焼土を多量に含む暗茶褐色軟質土の単一層であるところから第2焼土層の火災処理土坑であると推定される。だとすれば1587年直後の遺構である。8は瓦質火鉢の底部。ほかに瓦質土器、糸切りの在地系土師器、京都系土師器1期の皿、土壁の破片が出土している。

火災処理土坑



第3-134図 そのほかの遺構出土遺物 (1・3~11=1/3, 2=1/1)

SK213 (H区東) M47区(東1区画)のA層下部1回目掘り下げ後に検出した長円形の小土坑で、内部には焼土ブロックと灰色粘土・砂がまぎれあって堆積していた。長さ0.7m、幅0.5m。鉄釘の破片が出土している。

SP221 (H区東) M47区のA層1回目後で検出したピットで、1点の瓦質鍋口縁はSK219出土破片と接合。ほかに瓦質火鉢1点。糸切りの在地系土師器2点の破片が出土している。

SP259 (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した掘形円形の柱穴である。

SP260 (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した掘形円形の柱穴である。出土遺物は9の15世紀代の糸切りの在地系土師器の小皿のみである。底部外面に窪みがある。

S263 (H区東) M47区(東1区画)のB層上面で検出した掘り込みで、性格不明。内部から10の京都系土師器3期ないし4期の皿の口縁部が発見され、ほかに青磁の小片が出土している。

SP410 (H区中) M46区(東1区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土の内容からA層中から掘り込まれたと推定される。埋土はB層上部の整地層に由来する黄灰色土のブロックが入る。11の中国涇州窯系青花皿が出土し、その破片は第2焼土層出土品と接合したもので掘削の際の混入である。

SP511 (H区東) M47区(東1区画)のB層南北サブトレで検出した掘形円形の柱穴で、SX275を切る。

SP512 (H区東) M47区(東1区画)のB層南北サブトレで検出した掘形円形の柱穴で、SX275を切る。京都系土師器2期の皿の破片が出土した。

SP521 (H区東) 16世紀後半 ML47区(東1区画)のA層上面から掘り込まれた円形の柱穴である。

### 小結

#### 大災後の整地

第2焼土層が堆積した1587年の火災層を片付けるためにSK117が掘られて、同時に整地が行われて、整地層に高低の段差をつけることで区画を造成している。区画内には中央に掘られたSK261は穴倉等の何らかの建物に伴う施設と考えられる。その遺構の西側には柱穴が散在し、土坑が少ない状況から掘立柱建物が道路に面した間口からSK261付近まで立てられていたものと推定される。一方東側では土坑はあるが柱穴は少なく、建物のない空地であったとみられる。

### 東2区画

#### 柱穴列

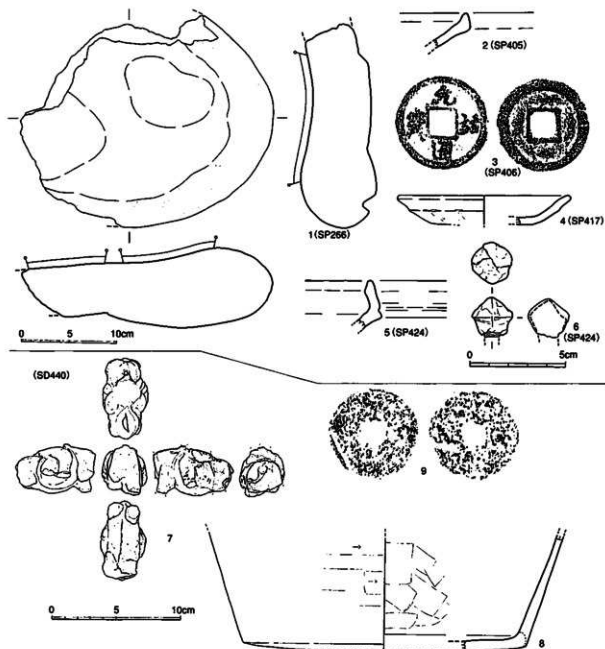
道路に面する部分と南限ははっきりしないが、東1区画と接する北限は明瞭で、段差を持つと同時に、境界線の東2区画側に、柱穴列が密に発見されている。またその並びから2mほど南に平行して柱穴列が認められる。北限は網列による区画が行われていた可能性が高い。

以下の柱穴は1587年の火災後の復興時の東1区画と東2区画の境界の段下に設けられた柱列である。(第3-135回) SP266~SP409・SP42A、SD440からなり、柱穴の掘形はすべて円形である。

SP266 (H区東) L46区(東2区画)のA層中で検出した柱穴で、第1焼土層の火災処理土坑であるSK100に切られる。埋土は大型礫と石皿の破片が埋没していた。1は安山岩製の被熱した石皿である。

SP405 (H区東) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じなので第2焼土層より上から掘り込まれたものである。2の瓦質碗の口縁のほかに、土師器、炭化木材の破片が出土している。

SP406 (H区東) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘



第3-135図 東1区画と東2区画間の柱穴列出土遺物 (1=1/4, 2・4・5・7・8=1/3, 6=1/2, 3・9=1/1)

り込まれたものである。SP407を切る。3は中国銭の元祐通寶（北宋1086年初鑄）の完形品。ほかに糸切りの在地系土師器、瓦質土器碗口縁、瓦質鍋、残留した須恵器売削部の破片が出土している。

**SP407** (H区東) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘り込まれたものである。SP406に切られている。埋土はSP401と同じである。

**SP408** (H区東) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘り込まれたものである。埋土はSP401と同じである。

**SP409** (H区東) M47区(東2区画)で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘り込まれたものである。埋土はSP401と同じである。

**SP416** (H区中) M45区(東2区画)で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じである。埋土の内容からA層上から掘り込まれたと推定される。層序からこの時期とした。

SP417 (H区中) M45区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層上からの掘り込みである。4は京都系土師器2期の皿で、第2焼土層出土の破片と接合した。したがって第2焼土上から掘り込んだ際の混入品である。

SP424 (H区東) M47区(東2区画)で検出した柱穴で、A層から掘り込まれたものである。埋土はSP401と同じである。5は備前焼播鉢口縁部で中世6期。6は銅製の金具の頭部片。ほかに京都系土師器1期皿の破片が出土している。

小溝

SD440 (H区中) M45区(東2区画)のB層上面で検出した東西方向の小さな溝で、境界の方向と並行する。埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層上から掘り込まれたと推定される。その層序からこの時期とした。7は中国羯鞠陶器馬形水注(図版50)。8は瓦質火鉢底部。9は完形の銅銭で銭文はさびで読めない。ほかに糸切りの在地系土師器、京都系土師器1期の皿、土師器土鍋や壺、鉄釘の破片が出土している。

馬形水注

### 東2区画の内部を区画する柱穴列 (第3-136図)

柱穴列

SP401~SP439 柱穴のすべて掘形は円形である。以下の柱穴には切り合い関係があり、1587年後にもさらに建替え改修が行われたことを示す。

SP493 (H区東) L46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、第2焼土層より上から掘り込まれたものである。SP401に切られている。遺物は残留した須恵器坏片のみである。

SP401 (H区東) L46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土の内容から第2焼土層より上から掘り込まれたものと考えられる。埋土は3~5cm大の焼土ブロックと、1cm大の炭焼土を多量に含む粗砂と暗褐色土ブロック(B層上面整地層)混じりの暗褐色土の単一層である。1は鉄製の金具。ほかに土師器の破片が出土している。

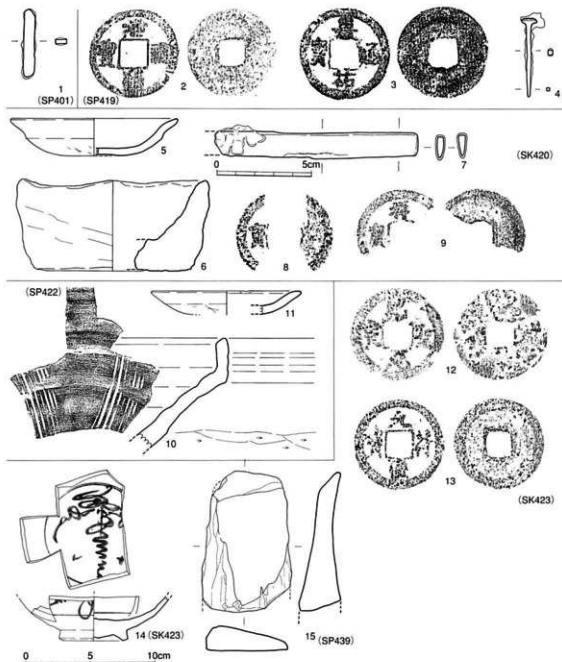
SP414・241 (H区中) L46区(東2区画)のSK172に切られて、その底面で検出した柱穴である。埋土はSP401とよく似ている。埋土の内容から第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。京都系土師器1期の皿口縁片と鉄釘の破片が3点出土した。

SP419 (H区中) L46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、SP420に切られている。埋土はSP417と同じである。埋土の内容から第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。2と3の中国銭2枚はともに完形品、2は元祐通寶(北宋1086年初鋳)、3は嘉祐通寶(北宋1056年初鋳)。4は完形の2寸の鉄釘。ほかに中国景德鎮窯系青花碗、備前焼壺胴部、瓦質火鉢底部の破片が出土している。

SK420 (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した小土坑で、SP419を切る。柱穴の可能性もある。埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。層序と中国漳州窯系青花碗が出土した点からこの時期とした。5は京都系土師器2期の皿。6は凝灰岩製の小型の石鉢の破片。7は銅板をまいた小柄の柄。8と9は銅銭破片2枚で、8は「宝」のみが読める。9は「祥」「宝」がよめる。ほかに四方禪文を描く中国景德鎮窯系青花碗E群、青磁棧花瓶、瓦質火鉢胴部、土師質火鉢底部、京都系土師器1・2期の皿、鉄滓の破片が出土している。

SP422 (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土は基本的にSP417と同じである。中央に底面から浮いて円環が出土した。精査の結果、第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。層序からこの時期とした。10は放射すり目の備前焼播鉢口縁で中世6a期(1500~1530年頃)、東1区画の第2焼土層中発見の破片と接合している。11は京都系土師器2期の皿。

SK423 (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した小土坑で、柱穴の可能性もある。埋土はSP401と同じである。A層上から掘り込まれたと推定される。12と13は完形の中国銭で、



第3-136図 東2区画内の柱穴列出土遺物 (1・4~6・10・11・14・15=1/3, 7=1/2, 2・3・8・9・12・13=1/1)

12は接合した紹聖通寶(北宋1094年初鑄)、13は元符通寶(北宋1098年初鑄)、ほかに糸切りの在地位系土師器小皿底部と鉄釘の破片が出土している。

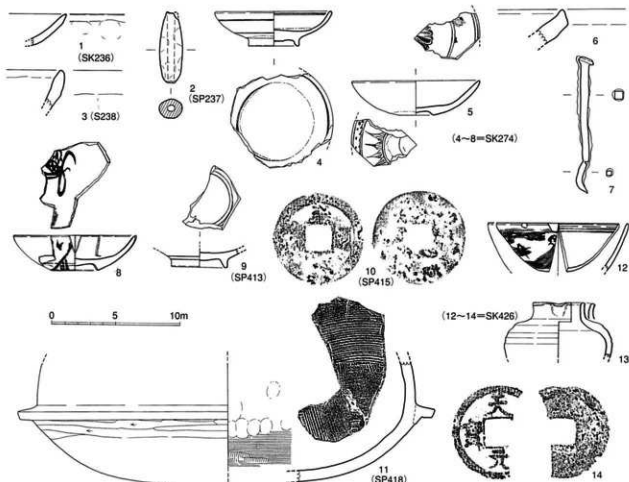
SP439(H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層を切って掘り込まれたと推定される。層序と中国漳州窯系青花碗が出土した点からこの時期とした。14は中国漳州窯系青花碗底部。15は結晶片岩製の砥石片。ほかに備前焼堯の胴部の破片が出土している。

#### そのほかの遺構(第3-137図)

以下の遺構はA層上面から掘り込まれて層位的に、この時期と考えられる遺構である。

SK236(H区西) L46区(東2区画)のA層上面から掘り込まれた円形の土坑で、北半はすで





第3-137図 そのほかの遺構出土遺物 (1~9・11~13=1/3、10・14=1/1)

に消失していた。長さ0.8m以上、幅0.5m以上。SP237とSD437を切る。埋土は暗褐色土と黄色土ブロックの互層である。短期間に埋没している。1は京都系土師器2期の小皿。ほかに中国景徳鎮窯系青花碗口縁、白磁皿E2群の破片が出土している。

**SP237** (H区西) L46区(東2区画)で検出した柱穴で、SD437を切るが、SK236に切られている。埋土はB層上部の整地層である白色粘土のブロックを多量に含む。2は小型完形の管状土錘B類。ほかに土師質土鍋、糸切りの在地系土師器の破片が出土している。

**S238** (H区西) L45区(東2区画)で検出したほりこみで、埋土は1~2mm大の炭焼土を多く含む砂礫の互層である。B層上面を覆う砂礫層と同質の土で、1587年の火災以後の復興整地の際に掘られたものである。性格は不明。3の京都系土師器3期ないし4期の皿口縁のほか、備前焼の甕、京都系土師器2期の皿の小片が出土している。

**SX269** (H区東) L46区(東2区画)の第2焼土層の堆積で、SK101に切られる。1587年に形成されたと推定される。

**SK274** (H区東) L46区(東2区画)で検出した不整形の浅い小土坑で、SP402を切り、SP273=402に切られる。長さ1.1m、幅0.6m以上。埋土は炭焼土を多く含む暗茶褐色土の単一層である。口縁を打ち欠いた中国漳州窯系青花の碗が中央上部に浮いて置かれていた。出土遺物は4の口縁の全周を打ち欠いた中国景徳鎮産青花碗、5の中国景徳鎮産茶筒底の青花皿C群(SK100出土破片と接合)で、両者はともに焼けている。6は瓦質土鍋の口縁部である。7は鉄釘の先端部。ほかに中国産褐釉陶器のいわゆるルソン壺、糸切りの在地系土師器、京都系土師器1期2期の皿、鉄釘の破片が出土している。なおSK402(H区東)はSK274の下部と考えられる。その底部から8の葦

筒底の中国漳州窯系青花皿が出土している。

SP492 (H区東) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、第2焼土層を切る。SP404に切られる。京都系土師器1期の皿口縁部の破片が出土している。

SP273・404 (H区) L46区(東2区画)で検出した柱穴で、SK274を切る。柱痕埋土は暗黄褐色土の単層、掘形埋土はSP401と同じである。A層からの掘り込み。

SP413 (H区中) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、SK257に切られる。埋土はSP401と同じである。A層上から掘り込まれたと推定される。9は中国景德鎮窯系青花碗C群(蓮子碗)。

SP415 (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、SK257に切られる。埋土はSP401と同じである。A層上から掘り込まれたと推定される。10は中国銭の至和通寶(北宋1054年初鑄)の完形品。ほかに瓦質火鉢、京都系土師器2期の皿、鉄釘の破片が出土している。

SP418 (H区中) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、埋土はSP417と同じである。埋土の内容から第2焼土層上から掘り込まれたと推定される。11は土師質釜で、第2焼土層出土の破片と接合した。したがって第2焼土層上から掘り込んだ際の混入品である。

SP421 (H区東) M46区(東2区画)で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層上から掘り込まれたと推定される。中国景德鎮窯系青花碗、京都系土師器2期の皿の破片が出土している。

SK426 (H区西) L45・L46区(東2区画)のA層上面から掘り込まれた土坑で、南半は調査区外になる。12は中国景德鎮窯系青花碗E群(饅頭心碗)。13は備前焼の小皿口縁。14は中国銭で「天〇元寶」と読め、天智元寶か。ほかに瓦質土器、鉄釘の破片が出土している。

SP438 (H区中) M46区(東2区画)のB層上面で検出した柱穴で、埋土はSP401と同じである。埋土の内容から第2焼土層上から掘り込まれたと推定される。内部には被熱した円罫が入っていた。

### 小結

第2焼土層をそのまま埋めて整地している。東1区画との境界には柱穴を用いる板塀が建てられ、さらに内部には北限境界線に平行した柱穴列があるところから、道路に接した掘立柱建物が建てられていた可能性が高い。建物と北側に通路という構成は、西1区画と西2区画でも認められた。

### ③第1焼土層以後(1596~1602直後)(第3-138図)

第1焼土層以後の最終段階では東0~2区画の境界はなくなっている。遺構の大半は廃棄土坑と柱穴である。A層上面で検出したものである。

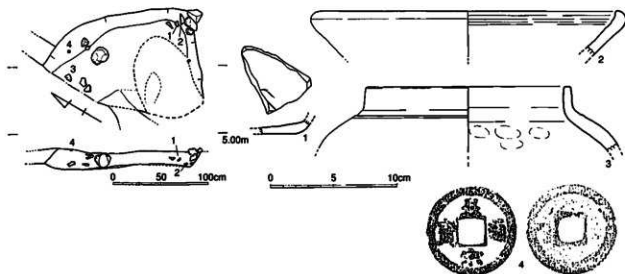
短冊形地割



第3-138図 上市町東側(H地区)の16世紀屋末期(1596年以後)の遺構(1/200)

### 土坑

SK100 (H区東)(第3-139図) M46区のA層上面で検出した不整形の土坑で、SP266を切る。



第3-139図 SK100 (遺構1/40、遺物1~3=1/3、4=1/1)

長さ1.7m以上、幅1.1m、深さ25m。近代の擾乱と重なったため、正確な形状は不明である。下部に焼土層が広がり、被熱した礫と多量の遺物が含まれ、第1焼土層上から掘り込まれた火災処理土坑である。埋土は1~2cm大の炭焼土と黄色土ブロックを多く含む暗茶褐色軟質土の単一層である。

華南三彩

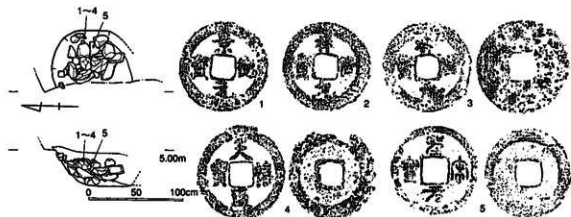
**SK100出土遺物** 1は華南三彩の盤底部。2は備前焼鉢の口縁部。3は土師器の蓋口縁、SD440出土品と似る。4は中国銭の皇宋通寶(北宋1038年初鑄)の完形品。ほかに中国景德鎮窯系青花碗と青花皿E群、白磁皿、備前焼甕胴部、底部糸切りの在地系土師器、土師質火鉢、平瓦、土壁、鉄片の破片が出土している。そのうち1点の中国景德鎮窯系青花皿C群(蒜筒底)はSK274出土破片と接合した。

墓石土坑

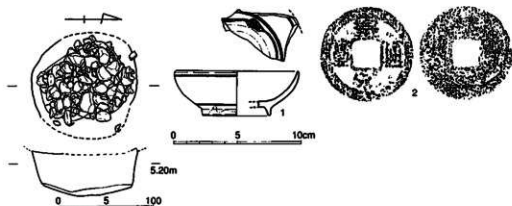
銭貨埋納

**SK163 (H区中)** (第3-140回) M46区のA層上面で検出した不整形の土坑で、断面も半円形をなす。長さ0.8m、幅0.7m以上、深さ0.4m。内部には被熱した礫が充満し、あわせて銭貨5枚が出土したが、土坑の形状と火きき、さらに離魔薬による廃棄土坑としての利用から、墓ではないと考えられる。埋土は下部に焼土を多く含む砂混じり暗茶褐色土が堆積し、礫群をはさんで上部に1cm大の炭焼土を多く含む暗茶褐色土が堆積し、銭貨5枚は礫群の上に位置する。銭貨埋納遺構である。礫の大半は凝灰岩で被熱して破砕している。

**SK163出土遺物** 1~5は完形の中国銭で、1~4は5枚セットで鑄着していた。1は景德通寶(北宋1004年初鑄)、2と3は祥符通寶(北宋1008年初鑄)、4は天禧通寶(北宋1017年初鑄)、5は聖宋通寶(北宋1101年初鑄)である。ほかに備前焼の甕胴部、京都系土師器1期の皿、鉄釘、土壁、瓦石の破片が出土している。



第3-140図 SK163 (遺構1/40、遺物1/1)



第3-141図 SK257 (道構1/40、遺物1=1/3、2=1/1)

新石土坑

**SK257** (H区中) (第3-141図、図版40) M46区のA層中で検出した不整形の土坑で、断面も半円形をなす。長さ1.2m、幅1.1m、深さ0.5m。SP415を切る。埋土は暗褐色軟質土の単一層である。内部には被熱した礫が充満し、遺物や食物残渣が混じっているので廃棄土坑として利用されたものである。安山岩の被熱礫に混じり、凝灰岩と結晶片岩の礫と焼土ブロックが多い。層序からこの時期とした。

**SK257出土遺物** 1は中国涼州窯系青花碗の底部。2は中国銭の皇宋通寶(北宋1038年初鑄)の完形品、大型の巻貝が出土している。巻貝はすべてサザエおよびサザエ類である(第4章第2節参照)。ほかに備前焼の壺・甕底部、瓦質火鉢・播鉢、土師質土鍋底部、鉄釘の破片が出土している。

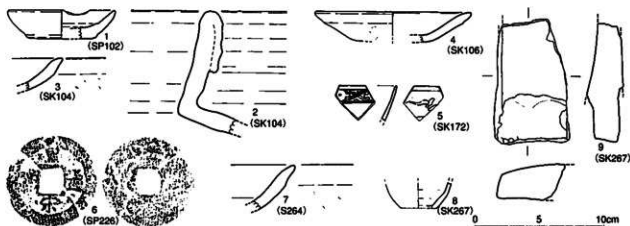
#### その他の遺構(第3-142図)

**SK99** (H区東) M46区(東1区画)で検出された不整形の小土坑であるが、A層上面から掘り込まれた可能性がある。長さ0.7m、幅0.4m。埋土は3~4ミリ大の炭焼土と掘り込まれたB層上の白色粘土がブロック上に混じる砂泥じりの茶褐色土である。斜めすり目の備前焼播鉢と壺の破片が出土している。

廃棄土坑

**SK101** (H区東) L46区(東2区画)のA層上面から掘り込まれた廃棄土坑である。長さ0.7m、幅0.3m以上。第2焼土層の東2区画での広がりであるSX269を切っている。層序から最も新しい道構のひとつと考えられる。内部には被熱した礫が充満している。備前焼の壺胴部、瓦質火鉢底部、糸切りの在来系土師器、京都系土師器1期の皿の小片が礫の間に入り込んでいた。

**SP102** (H区東) M46・47区(東1区画)のB層上面で検出した掘形円形の柱穴である。出土遺物は1の15世紀代の糸切りの在来系土師器小皿のみである。11線に打ち欠きがある。



第3-142図 そのほかの遺構出土遺物(1~5・7~9=1/3、6=1/1)

**SK104 (H区東)** M47区のA層上面で検出した不整長円形の土坑で、底面も整っていないのでごみ処理用の廃棄土坑として掘られたものと推定される。長さ1.4m、幅1m。埋土は1cm大の炭焼土を多量に含む砂混じり暗褐色軟質土層で、A層上部の粘土ブロックを多く含む。2は備前焼の莖口縁部で近世1期にあたる。3は京都系土師器3ないし4期の皿の口縁部。ほかに中国景徳鎮窯系青花皿、備前焼の莖胴部、平瓦、土壁の破片が出土している。

**SK106 (H区東)** M47区のA層上面で検出した不整円形の土坑で、底面も整っていないのでごみ処理用の廃棄土坑として掘られたものと推定される。長さ1m以上、幅1.2m。内部には被熱した礫が集中し、埋土は5mm大の炭焼土を多く含む砂混じり暗褐色土層の単一層である。4は京都系土師器2期の皿。ほかに白磁皿E1群・E2群、景徳鎮窯系青花、漳州窯系青花、中国産焼締陶器、備前焼の莖胴部、瓦質火鉢、糸切りの在地系土師器、鉄釘の破片が出土している。

**SP112 (H区東)** M47区(東1区画)のB層上面で検出したがA層中から掘り込まれたと推定される掘形円形の柱穴である。SK261を切る。瓦質火鉢の胴部片が出土している。

**SP113 (H区)** M47区(東1区画)のA層上面で検出した掘形円形の柱穴で、南壁にかかっている。白磁皿E2群の口縁部片が出土している。

**SK172 (H区中)** L46区(東2区画)のA層1回目掘下げ後に検出したおおよそ不整円形の土坑で、底面は平坦になっている。A層上面から掘り込まれたものと考えられる。長さ1.1m、幅0.5m以上。廃棄土坑と考えられるが遺物は少ない。埋土は1cm大の炭焼土を多量に含む茶褐色軟質土の単一層で、第2焼土層を掘りぬいているため焼土ブロックを多量に含む。遺物はいずれも破片が散在する状況である。5は中国景徳鎮窯系青花碗E群。ほかに京都系土師器3期の皿口縁部片が出土している。

**SP224 (H区東)** M47区のA層上面で検出した掘形円形のピットで、1596年以前の土坑SK261を切る。埋土は同時期の土坑SK104とSK106と同じである。京都系土師器2期皿の口縁の破片が出土している。

**SP225 (H区東)** M47区のB層上面で検出した掘形円形の柱穴で、SP226に切られる。第1焼土層を切っていると思われるのでA層中からの掘り込みと考えられる。

**SP226 (H区東)** M47区で検出した掘形円形の柱穴で、SP225を切る。第1焼土層を切っていると見られるのでA層中からの掘り込みと考えられる。6は中国銭の皇宋通寶(北宋1038年初鑄)の完形品。

**SP227 (H区東)** M47区のA層中で検出した掘形円形の柱穴で、1596年以前の土坑SK261を切る。内部には礫と焼土の堆積があったが、遺物はない。切り合い関係からこの時期とした。

**S264 (H区東)** M47区のB層上面で検出した掘り込みで、内部から7の京都系土師器3ないし4期の皿口縁部が出土した。口縁を打ち欠いた上に破砕している。ほかに白磁の破片が出土している。

**SK267 (H区東)** M47区(東1区画)のB層上面で検出した長円形の土坑で、第2焼土層の一部であるSX268を切る。長さ0.4m、幅0.3m。おそらくA層上からの掘り込み。8は中国産陶器茶入れ小甕の底部。9は結晶片岩製の砥石。ほかに中国漳州窯系青花碗底部1点、京都系土師器1期皿1点の破片が出土している。

このほかに掘形円形のピットであるSP270、SP271、SP272もこの時期の遺構と考えられる。

#### 小結

第1焼土層以前に存在していた東0区画、東1区画、東2区画の境界の段差はなく、柱穴列等は、認められない。

## まとめ 3小期に区分可能

## ①推定1575～1587年 第2焼土層以前

短冊型地割 上市町の道路より東側全体が整地層による遺構であり、東0区画、東1区画、東2区画の3つの区画が南にいくほど低くなる段差をもって区画されている。整地は区画毎に別個になされたのではなく、調査区内の3つの区画は同時に一括して造成されたものと考えられる。東1区画は東西に長く伸びる短冊型の区画である。東0区画とは整地層の段差を作り、東1区画の方が低くなっている。幅はほぼ4.8mである。東2区画との境界も段差があり東1区画の方が高いが、東2区画の端には柱穴列があり、建物あるいは柵列で境をなしていたものと考えられる。東2区画は、柱穴が多いが土坑が少ないという遺構の分布状態から見て、掘立柱建物が存在していた可能性が大きい。短冊状の区画のなかで道路に近い位置に建物が建つ点で、町屋遺構の状況と一致する。

## ②推定1587～1596年 第2焼土層以後

短冊型地割 継続して、東0区画、東1区画、東2区画の3つの区画が維持されている。第1焼土層が堆積する火災を受けている。この焼土層は中世大友府内町跡第4次調査の第1焼土層に対応するものと推定される。東0区画にも本来火災による焼土層が広がっていたことは、火災処理土坑の存在からわかる。その後土坑がはられているが、柱穴は極めて少ない。おそらく東0区画は、道路から15～20m隔たっているため、裏側の空閑地の部分であったと考えられる。東2区画では第2焼土層をそのまま埋めて整地している。東1区画との境界には柱穴を用いる柵列が建てられ、さらに内部には北限境界線に平行した柱穴列があるところから、道路に接した掘立柱建物が建てられていた可能性が高い。

## ③推定1596～1620直後 第1焼土層以後

第1焼土層以後の最終段階では東0～2区画の境界はなくなっている。遺構の大半は廃棄土坑と柱穴である。最終段階まで町屋として使用されたものと推定される。第1焼土層以前に存在していた東0区画、東1区画、東2区画の境界の段差はなく、柱穴列等は認められない。

## VI. 包含層・整地層出土の遺物 (第3-143図)

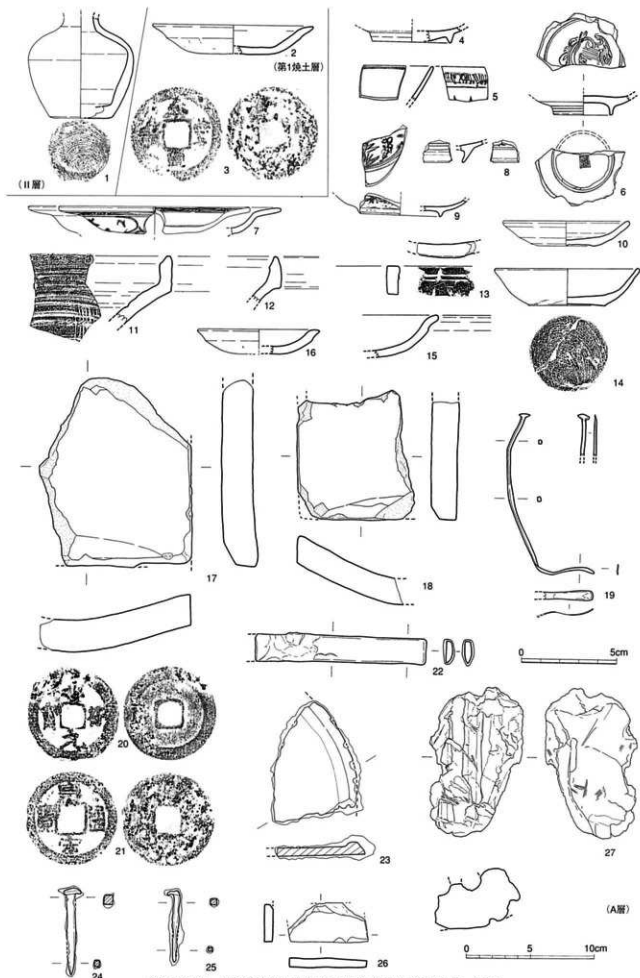
Ⅱ層：(H地区I B表土層下層) 1は備前焼の茶入れ小壺。

1596年 第1焼土層：1596年の慶長大地震による火災層。2は京都系土師器2期の皿。3は定形の中国銅銭の元豊通寶(北宋1078年初鋳)。

青花E-F群 A層：1587年の火災後の整地層。4は16世紀後半の白磁碗。5は中国景德鎮窯系青花碗C群の蓮子碗。6は中国景德鎮窯系青花碗E群の饅頭心碗。7は中国景德鎮窯系青花碗F群口縁。8は中国五彩碗口縁。9は中国五彩碗底部。10は大窯3期の瀬戸美濃産小皿。11は中世6b期の備前焼の播鉢。12は近世1a期の備前焼の播鉢口縁。13は瓦質の把手か。14は口縁に打ち欠きのある定形の糸切りの在地系土師器の坏。15は内面に煤の付着した京都系土師器2期の皿。16は京都系土師器2期の小皿。17と18は平瓦。19は長さ十数cmの銅製の小匙あるいは耳掻きか。20は定形の中国銅銭の祥符通寶(北宋1008年初鋳)。21は定形の中国銅銭の皇宋通寶(北宋1038年初鋳)。22は鉄芯銅板巻きの小柄の柄。23は鉄製農具のへら先。24と25は定形の鉄釘。26は仕上げ砥石。27は竹の裏の残る土壁。

ほかに中国景德鎮窯系青花碗C群1点。瀬戸美濃大窯3期の皿。斜めすり目の近世1期の備前焼の播鉢5点。瓦質火鉢底部の1点はSK11出土破片と接合。内面にクログロ目を残す土師器皿1点。京都系土師器2期の皿1点。定形銅銭1点。さびで銭種不明の定形の銅銭1点。銅銭の破片4点。以上の破片が出土している。

1587年 第2焼土層：1587年の火災層。28は16世紀の瓦質土師碗底部。29は京都系土師器1期の皿。30は



第3-143図① H地区含包層・整地層出土遺物 (II層、第1焼土層、A層)  
 (3・20・21=1/1, 19・22~25=1/2, そのほかは1/3)

完形の中国銅銭の元祐通寶（北宋1086年初鑄）。31は鉄釘。32は砥石。ほかに中国漳州窯系皿1点はSK410出土破片と接合。完形の京都系土師器1点が出土している。

**B層上面** 33は白磁皿。34は中国五彩皿底部。35は近世1b期の備前焼播鉢口縁。36は京都系土師器3期に近い2期の皿。37は管状土錘B類の超小型品。38と39は完形の鉄釘。40は完形の仕上げ砥石。41は用途不明の石製品。

ほかに中国景德鎮系青花皿B2群1点。斜めすり目の近世1期の備前焼の播鉢1点。京都系土師器1点はSK417出土破片と接合。

**B-1層**：1587年の火災前の整地された生活面（16世紀第4四半期）。42は中国龍泉窯青磁瓶口縁。43は白磁皿E-2群。44は朝鮮王朝産舟德利。45は瓦質播鉢河野C-2類口縁。46は京都系土師器2期の小皿。47は京都系土師器転用のつば。

**B-2層**：第3焼土層堆積後の最初の整地層（16世紀第3四半期）。48は剣先選弁文の中国龍泉窯青磁碗口縁。49は中世6a期の備前焼播鉢。50は口縁全周を打ち欠いて破砕した糸切りの在地系土師器の坏、51は九州型の丸瓦。

**第3焼土層面上**（ほとんど第3焼土層に含まれる）：52は内面が露胎の16世紀の白磁皿。53は中国景德鎮系青花碗C群の蓮子碗口縁。54と55は京都系土師器1期の皿。56は京都系土師器1期ないし2期の皿。57は口縁に煤の付着した灯明皿として使用された京都系土師器2期の小皿。58は口縁に打ち欠きのある京都系土師器のミニチュアの完形品。59は胎土が海部産の平瓦。60～63は完形の中国銅銭。60は祥符通寶（北宋1008年初鑄）。61は治平元寶（北宋1064年初鑄）。62は元豊通寶（北宋1078年初鑄）。63は2枚錯着した完形の銅銭で、1枚は元祐通寶（北宋1086年初鑄）。ほかに白磁皿E2類1点。銘で銭種不明の完形の銅銭1点が出土している。

#### 第3四半期

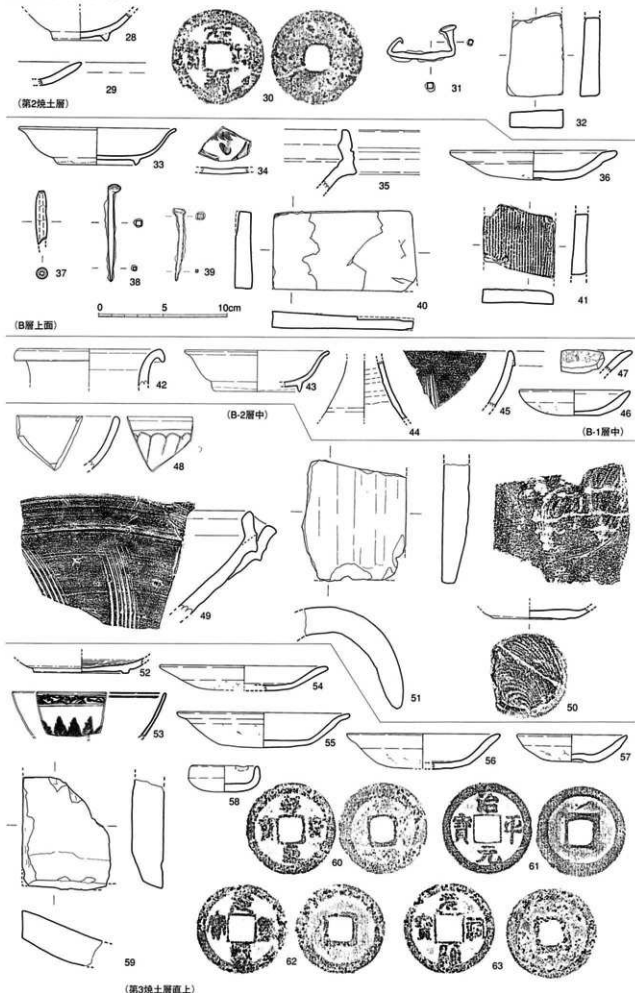
**第3焼土層A**：16世紀第3四半期の火災層。64は中国景德鎮系青花皿B1群。65は蓮子碗模倣の中国漳州窯系青花碗。66は13世紀の中国磁壺黄釉鉄絵陶器、67は朝鮮王朝産陶器舟德利底部。68は中世6b期の備前焼播鉢口縁。69は反頭順手流雲文の刻印のある瓦質火鉢口縁。70～72は瓦質鍋口縁。73は瓦質土器碗の底部。74は糸切りの在地系土師器。75はクロロ裏をナデ消した本来はクロロ目を残す土師器の皿。76は内面にクロロ目を残す土師器の小皿。77～80は京都系土師器1期の皿。81は京都系土師器1期の小皿口縁。82は京都系土師器2期の皿。83は京都系土師器3期の皿。84は灯心押さえに使用した土製有孔円盤。85は完形の管状土錘A類小型。86は完形の管状土錘A類。87は土器片を転用したメノコ形土製品。88は鉄芯銅板巻きの小柄の柄。89は銅製の金具。以下は完形の中国銅銭である。90は開元通寶（唐621年初鑄）。91は大聖元寶（北宋1023年初鑄）。92は皇宋通寶（北宋1038年初鑄）。93と94は憲寧元寶（北宋1065年初鑄）。95は元豊通寶（北宋1078年初鑄）。96は元符通寶（北宋1098年初鑄）。97は政和通寶（北宋1111年初鑄）。98は永樂通寶（明1408年初鑄）。99は「〇祐〇寶」と読める中国銅銭の破片。100は「〇祐元〇」と読める中国銅銭である。101は肩部が頸環で、90度に曲がる鉄製品。

ほかに中国龍泉窯系青磁1点。16世紀の白磁皿1点。中国漳州窯系青花1点。備前焼の甕1点・播鉢1点、瓦質火鉢7点・播鉢3点・鍋2点。糸切りの在地系土師器の坏3点。糸切りの在地系土師器3点。大内系土師器1点。内面にクロロ目を残す土師器3点。京都系土師器1期の皿6点。京都系土師器2期の皿4点。分類不能の京都系土師器1点。埴1点。銘で銭種不明の完形の銅銭6点。銭貨2枚。鉄釘多数。残留遺物として須恵器甕1点。以上の破片が出土している。

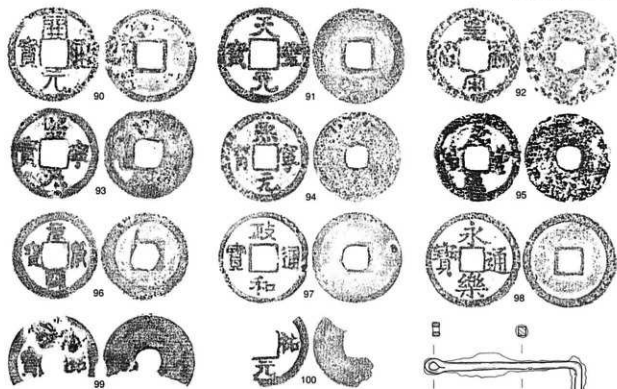
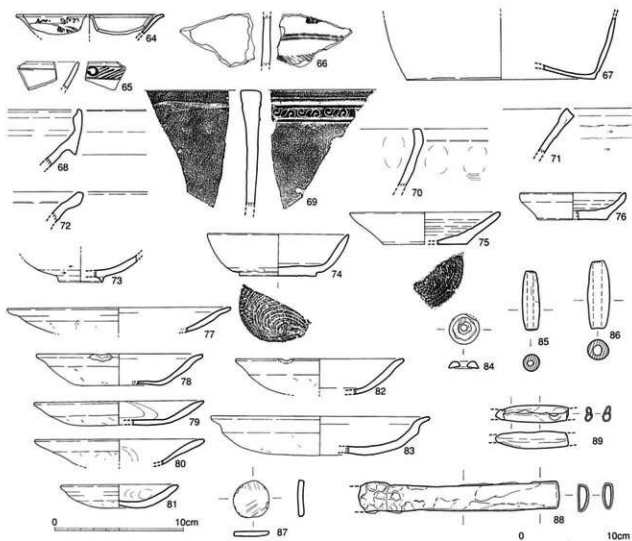
**C層上面**：102は中国製焼締陶器壺胴部。103は「〇平通寶」と読める中国銅銭の完形品。

**C層**：104は中国景德鎮系青花皿B1群。105は糸切りの在地系土師器小皿の大製品。106は埴。107は砥石。ほかに銘で銭種不明の完形の銅銭1点が出土している。

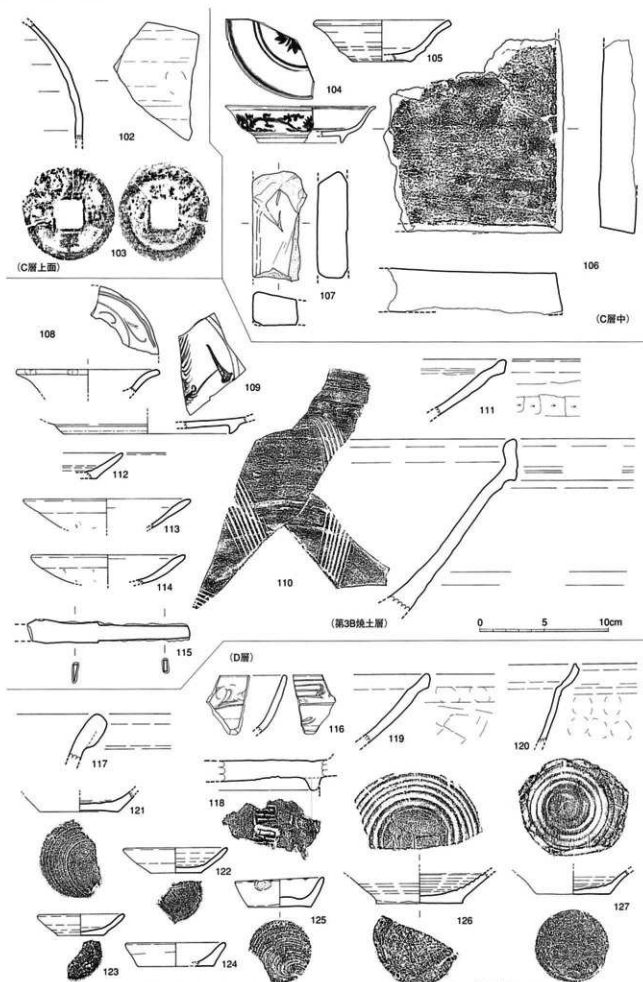




第3-143図② H地区包含層・整地層出土遺物 (第2焼土層、B層上面、B-1層、B-2層、第3焼土層直上)  
(30・60~63=1/1, そのほかは1/3)



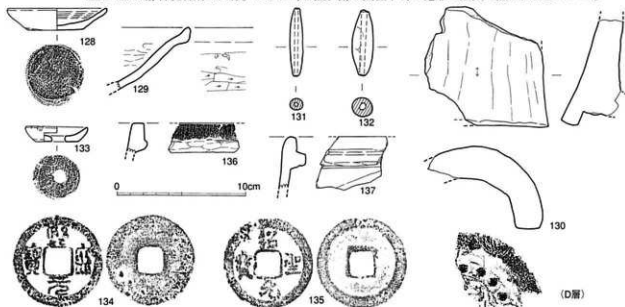
第3-143图③ H地区包含層・整地層出土遺物(第3A検土層)(64~87=1/3, 88・89・101=1/2, 90~100=1/1)



第3-143図④ H地区包含層・整地層出土遺物 (C層上面、C層、第3B焼土層、D層) (1/3、103=1/1)

**第3 焼土層 B** : 108は15世紀の中国龍泉窯青磁花皿。109は中国景德鎮窯系青花皿 B群。110は摩滅した中世6a期の備前焼播鉢口縁。111は瓦質鍋口縁。112は内面にロクロ目を残す土師器の小皿。113は京都系土師器1期の皿。114は京都系土師器2期の皿。115は鉄製刀子の先端。ほかに糸切りの在地系土師器の坏1点。1590~1610年の唐津碗1点は混入か。京都系土師器1期の皿1点。錯で銭種不明の完形の銅銭2点。以上の破片が出土している。

**D層** : 116は15世紀の中国龍泉窯青磁碗 C3類。117は15世紀の備前焼堿口縁。118は底部外面に刻印のある瓦質火鉢。119は瓦質鍋口縁の河野 B-2類。120は瓦質鍋口縁。121は糸切りの在地系土師器の坏底部。122~125はいずれも口縁に打ち欠きのある糸切りの在地系土師器の小皿(125は煤の付着した灯明皿)。126と127は内面にロクロ目を残す土師器の皿(127は口縁全周を打ち欠く)。128は口縁を打ち欠いた上破砕した、完形の内面にロクロ目を残す土師器の小皿。129は河野 B-2類の瓦質鍋口縁。130は軒丸瓦。131と132は完形の管状土鍾 B類小型品。133は底部に焼成後の穿孔を施して紡錘車に転用した可能性の高い糸切り土師器の小皿で、口縁に打ち欠きがある。134は完形の中国銅銭の熙寧元寶(北宋1068年初鑄)。135は完形の中国銅銭の紹聖元寶(北宋1094年初鑄)。136と137は滑石製石鍋の口縁。ほかに埴1点、錯で銭種不明の完形の銅銭1点が出土している。



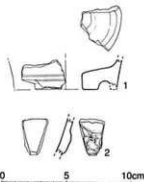
第3-143図⑤ H地区包含層・整地層出土遺物(D層)(128~133・136・137=1/3、134・135=1/1)

そのほかの遺物(第3-144図) ここであふれる遺物は、耕作土や近現代の畑道構や掘乱内から採集した遺物のうちから、選択した遺物である。

1は青磁香炉底部。2は中国産褐釉陶器貼り花龍文壺胴部片。

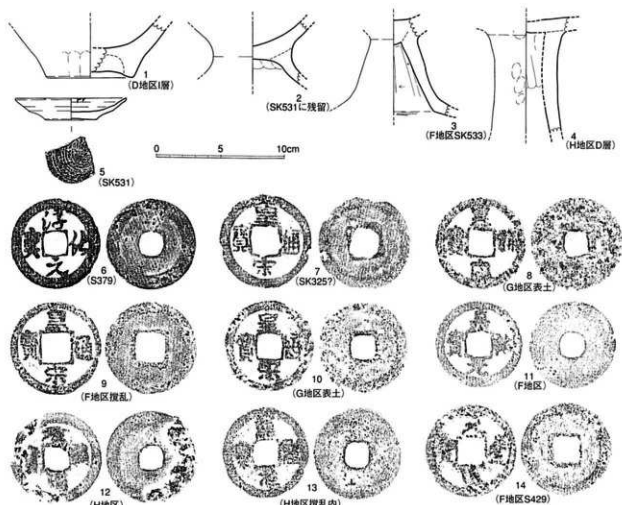
#### 第16次調査区出土遺物の補遺(第3-145図)

以下に記述する遺物は、包含層や新しい遺構に残留した遺物である。1は結晶片岩を胎土に含む海部産の弥生時代前期末の甕底部。2はH地区SK531出土の弥生時代後期末の台付鉢。3は古墳時代前期の土師器高坏の脚部。4は弥生時代中期の高坏脚部で、坏部と脚部は別つくり。5はH地区SK531出土の在地系の糸切土師器で、口縁に1回のみ煤の付着した灯明皿。6はF地区SK379出土の淳化通寶(北宋990年初鑄)。7はF地区SK325出土の皇宋通寶(北宋1038年初鑄)。8と10はG地区近世溝出土



第3-144図 そのほかの遺物(1/3)

の皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。9はF地区攪乱坑出土の皇宋通寶 (北宋1038年初鑄)。11はF地区SK188近くの壁面から採集した嘉祐通寶 (北宋1056年初鑄)。12はH地区東1区画出土の元祐通寶 (北宋1086年初鑄)。13はH地区攪乱坑出土の紹聖元寶 (北宋1094年初鑄)。14はF地区西3区SK429出土の元寶通寶か。



第3-145図 第16次調査区出土遺物補遺 (1~5=1/3, 6~14=1/1)

## 第8節 小結

### I. 遺構の変遷

各時期の遺構の変遷については、各節の小結において述べたが、ここでは要点をまとめておきたい。古代の遺構についてはSK31以外にまとまった遺構はないので、ここでは中世の遺構をまとめる。

### 15世紀の遺構

A・B地区において、のちに御所小路の道路が造られるラインの北側に、並行する東西方向の大溝SD18が存在する。おそらく第7次調査区の第1南北街路の東西で発見された大溝SD192やSD295と同一の性格の大規模な区画溝であろう。そのように考えてよければ、15世紀の段階でいち早くその後御所小路が造られる位置に、道路あるいは何らかの境界が存在した可能性が高い。

いっぽう第1南北街路の遺構をSF70として確認した。この道路は第7次調査区のSF183に対応するもので、SF183に比べてより上層まで残っていたため、少なくとも16面の道路舗装面を確認することができた。同時にSF70の下には南北方向の大小の溝が平行して掘られていることが確認され、そのうちSD565は15世紀前半までさかのぼり、第7次調査区のSD192に対応する可能性がある。またSD597とSD598にはさまれた空間にはSF70の最初の掘削で削平された整地層があり、第7次調査区C地区の層に近似する。この整地層はおそらく第7次調査区C地区の15世紀後半の道路跡SF293と対応するものであろう。以上のように、この周辺では第7次調査区同様、第1南北街路はすでに存在しているが、両側は溝で区画された状態である。その内部と考えられる場所には同時代の遺構は非常に少ない。したがって商工業者が集住しのに「上町」と呼ばれる町屋が、15世紀に成立していたとはどういおもえない。

### 16世紀前半の遺構

まず最も重大な変化は、その後17世紀初頭まで使われることになる道路遺構SF70が初めて建設されることである。この道路面の下層道路の積土の中にはロクロ目を残す土師器が含まれないので、15世紀にさかのぼる可能性を残している。その点は、第7次調査区のSF183と同じである。

上町町の道路遺構については、掘り下げて版築状に積みを重ねて造成された豊後大友遺跡道路と考えられてきたものであるが、実際には一単位の舗装が何度も繰り返された結果としてそうなるにすぎない。一単位の舗装とは通常砂を敷き、貝殻を混ぜた粘土を路面とする舗装道路である。時代が新しくなるにつれて粘土に砂利混じりが多くなる傾向がある。道幅は当初から、幅7～8mで1596年の慶長大地震のころまでは道幅は維持されている。

道路の東西では、前代まで繰り返し掘られていた道路に並行する溝がほぼ埋没し、その後あらたに掘られることはなくなる。西側にはD層とした整地層が認められる。遺構の密度こそ少ないが、第7次調査区と同様に道路に面して入り口を持って、溝によって閉ざされていない町屋が出現したものと考えられる。一方東側にはSD590などがあり、まだ15世紀と同じ状況がつついている。御所小路側では南北溝SD17が、第1南北街路に平行してから西に約70m隔てて掘られている。この溝は2005年発掘の第58次調査区(大分市教委)のSD020と方向と時期が一致するので、同一のものと考えてよい。

以上のように第2四半期までは、第7次調査区の状況ときわめてよく似ている。溝による区画はなくなり、新たに第1南北街路が建設され、それに伴った両側に整地が行われている。このように16世紀の初頭に都市整備のひとつの期がある。

### 16世紀後半の遺構

この時期の特徴は短冊型地割の形成である。第3焼土層堆積後の復興時の16世紀第3四半期に上町町の両側に短冊状の地割が出現する。その後第2焼土層復興後にも再生されるが、最終段階にあ

大溝 SD18

第1南北街路

両側は区画溝

第1南北街路の付帯

舗装道路  
幅7～8m

上町町西

上町町東

短冊型地割

## 段差と欄列

たる17世紀初頭の、おそらく上市町の道路が狭められる段階では、東西両側にはこの地割はなくならぬ。特に第1南北街路の東西では、間口2間と考えられる短冊型地割が出現する。これは第3焼土層を形成する火災の復興時の整地に伴うもので、道路もSF70第5硬化面として舗装されている。短冊型地割は、整地の際に段差を伴い、境界には柱穴列が設けられている。施設の配置や景観などの町屋の内容をうかがう資料には乏しいが、西1区画では銅工房と考えられる床面を発見している。また瓦と礎石らしき石がこの時期から増えてくることから、おそらく短冊型地割の導入にともなって一定の礎石立ち瓦葺の建築様式の導入がなされたものと推定される。

一方御所小路町では、16世紀第3四半期の道路遺構（溝溝SD278、SD21・22と3面の舗装面）が発見されている。道路の北側の一部を調査したのみなので、道路の建設がさらにさかのぼる可能性も否定できないが、16世紀初頭に造られる第1南北街路SF70や、SF183より後出することは明らかである。この道路の建設に伴って御所小路町の北側にも区画が設定されたもようであるが、上市町と清忠寺町の町屋とは異なっている。

## 境界

上市町と御所小路町の境界は、第3四半期には整地層A層の有無でたどることができるが、第4四半期にはSD110によって区分できる。しかしこの溝は北西-東南方向に斜行しており、なおその性格を見定めがたい。

## 武家と町人

以上のように16世紀後半を通して、御所小路町と上市町はまったく性格の異なる町並みとして推移したことは明白である。あえていえば、御所小路町は武家屋敷、上市町は町人屋敷と考えられる。特に上市町の両側の短冊型地割は1587年と推定される第2焼土層堆積後も、整地をして再び同じ位置に地割を行っている。さらにその上には、その後におこった1596年の慶長大地震の火災と推定される第1焼土層が堆積している。その復興後には、短冊型地割を形成していた整地の段差も欄列も認められなくなり、厳密な意味での復興はなされなかった可能性が高い。それを傍証するように第1南北街路SF70の道路の最終路面と考えられる第0硬化面は、これまでの道路幅の半分以下の3mに狭まり、両側から建物SB304が張り出してくる。ある程度の復興は行われているが、島津侵襲後の復興が大友義統による従来の位置での都市再建をめざしたものと考えられるので、復興の規模方法も大規模かつ復興前の関係を復活するものであったが、慶長大地震後においては大友氏はすでに除国されている。豊臣氏蔵入地として奉行の支配する時代の府内では、復興も極めて安易なものになっていたと考えられる。

## 最終段階

## II. 焼土層の時期と対応関係

## 火災と復興

すでに本文中に記述したことであるが、府内町跡第16次調査区とくに上市町の第1南北街路とその両側において、繰り返し火災が発生し焼土層が形成されていることが判明した。当時小規模な火災は絶えず発生したであろうが、局地的な火災の多くは焼土を含めて除去され、府内町跡でも大小の火災処理土層が存在する。しかし大規模で一定の広さが火災にあった場合には火災による焼土層を除去せず、その上に整地を行ってあらたな生活面を形成して復興している。第16次調査区では、上市町西側のG・F地区において5回の焼土層とそれに対応する整地層を確認し、上市町東側では4回の焼土層と整地層を確認した。その対応関係は西側の15世紀の焼土層である第5焼土層を除くと、道路SF70の道路の舗装面との関係から以下のように推定できる。

## 順序との対応

- ・上市町西側第4焼土層（D層上面）=SF70第11硬化面=上市町東側では対応する焼土なし。
- ・上市町西側第3焼土層AとB（C層上面）=SF70第6硬化面=上市町東側第3焼土層AとB（D層上面）。第3焼土層は上下2つの堆積として認識できるが、その間の整地層は生活面を形成していないので、別の火災焼土層と考えるよりもB層整地の際の移動によるものとする。
- ・上市町西側第2焼土層（B層上面）=SF70第3硬化面=上市町東側第2焼土層（B層上面）。

・上市町西側第1焼土層(A層上面) = SF70第1硬化面 = 上市町東側第1焼土層(A層上面)。

さてこの焼土層形成の火災の年代を考えるために、焼土層とその直後に行われた整地層に含まれる遺物を検討してみよう。

ロクロ目土師器

**第4焼土層とC層整地層** まず土師器の組成では、内面にロクロ目を残す土師器が主体で、在地系土師器を含むが、京都系土師器は含まない。備前焼も中世5期ないし6期のものである。内面にロクロ目を残す土師器が主体となる点を重視して16世紀第1四半期と考える。

16世紀第1四半期

京都系土師器

**第3焼土層とB-2層整地層** 土師器には京都系土師器1期の皿が多く、京都系土師器2期の皿が一定量ふくまれるが、3期の皿はほとんどない。中国景德鎮窯系青花ではC群の碗皿が主体で、E群はほとんどない。朝鮮王朝産青徳利と中国漳州窯系青花が出現する。漳州窯青花は、中国景德鎮窯系青花のC群の蓮子碗と萸筒底の皿を模倣したものに限られる。備前焼播鉢は中世6b期が多く、斜めすり目の近世1期の播鉢は含まない。以上の特徴から16世紀第3四半期の比較的新しい時期と考えておきたい。

16世紀第3四半期

16世紀第4四半期

**第2焼土層とA層整地層** 土師器は京都系土師器2期皿が主体でと3期の皿が一定量含まれる。中国景德鎮窯系青花はC群よりE群の瓶頸心碗が主体、五彩も含まれる。また中国漳州窯系青花がかなり含まれるようになる。中国や東南アジア産の黒褐釉陶器や焼締陶器、華南三彩も目立つようになる。備前焼は近世1期の壺と斜めすり目の近世1期の播鉢が主体。この第2焼土層が各焼土層の中でもっとも厚かつ広がりを持つところから、16世紀第4四半期のものと考えられる。

16世紀末

**第1焼土層** 陶磁器と土師器の組成としては第2焼土層とほとんど変わらないが、SF70の第0硬化面に伴う遺構からは、中国景德鎮窯系青花F群の皿と唐津焼灰釉陶器の皿が加わるほかに、京都系土師器4期の皿といってもよいが手ものも出現する。したがって16世紀の末、1590年代と考えられる。

第4焼土層

以上の年代観にあてはまる具体的な歴史的事件を考えてみると、16世紀第1四半期の第4焼土層の前後の時期については、府内に関わる騒乱記事は多い。まず明応3(1494)年の田原親宗による府中襲撃。明応5(1496)年の御所の辻合戦、府内騒乱と伝える永正13(1516)年の朽網親満の乱、府内來迎寺で一族75人が根絶された大永2(1522)年の大神親照の成敗、府内市町の武家屋敷を襲った享祿3(1530)年の府内における氏姓遺恨事件などがその候補である。今のところ具体的に指摘する手がかりがないので今後の研究をまちたいが、氏姓遺恨事件の記事からみて1530年に市の町すなわち上市町ないし下市町など第1南北街路沿いに、武家屋敷が存在したことを推測させることは重要である。

第3焼土層

第3四半期と推定した第3焼土層について、府内の一部が焼亡した可能性があるのは次の2つの事件である。ひとつは天文22(1553)年の一方田隆相・宗像鑑久・服部右京助の反乱で、その際火災が発生し、商人と武家の屋敷約300戸が消失したという。もうひとつは弘治2(1556)年の小原鑑元の乱で、府内の町で多数の死者がでる騒乱となっている。1540年代から1570年代で文献に記録されて火災を伴う騒乱はこの2回しかない。さしあたりこの1550年代の騒乱による火災の可能性を考えておきたいが、出土遺物の組成とは、必ずしも合致しない。

第2焼土層

第1焼土層

第4四半期の第2焼土層は、従来から言われているように、1587年の烏津侵攻時の火災に、第1焼土層は河野史郎氏が考えたように1596年の慶長大地震にともなう火災を考えるのが妥当であろう<sup>12)</sup>。

道路舗装  
8年・造

ところでこの実年代観を検証するために、焼土層の間に道路が舗装された回数を考えてみよう(第3-44図)。まず道路SF70の舗装面については、部分的な硬化面はさらに多いが、御溝まで整備されるような道路の舗装は、第0から15硬化面までの16回を明確に認識できた。この道路遺構の開始は15世紀末から16世紀初頭の時点で、終末は1602年の近世府内城下町建設から数年のうちに



あるから、ほぼ100年強の間に15回道路面の更新がなされていることになる。単純に割り算をしても6年ないし7年に1回という計算となる。ただしその間に焼土層が堆積する面が4回あるので、その場合は舗装の直後でも両側の整地に合わせて舗装しなおしているから、4回の使用年数は平均の半分(4÷2=2)として計算すると、100年強で13回(15回-2回)の通り直しであるから、約8年に一度の舗装したこととなる。等間隔に計画的に道路が舗装されたとは到底考えられないが、仮にそう仮定して考えてみよう。

1586年以後

まず1586年の火災のあと第0硬化面の舗装をして復興して以来、舗装が行われていないのは、近世城下町への移転が始まる年代が1602年と、火災の6年後であり、残ったとしても移転が間近であるので、道路の整備は行わないからであろう。

1587～1596年

次に、1587年と推定した第2焼土層の直後には第2硬化面が舗装され、その後第1硬化面が舗装されて、その面で1596年の火災を迎えると考えられるので、1587年と1596年の間に1回更新されるのは、8年に1回の計算に合致する。

第3焼土層

その下の第3四半期と推定した第3焼土層と、第2焼土層の間には、直後に第5硬化面のあと第4と第3の2回の更新がある。8年1回では長く見ても23年(8年×2回+7年=23年)であるから1564年ということになる。それも長く見た場合で、短く見れば16年(8年×2回+0年=16年)で1571年ということになり、8年一舗装の仮定で計算した場合第3焼土層の年代は1564年から1571年の間ということになる。同様の計算を第2焼土層=1587年を起点におこなうと、第1焼土層の年代は1524年から1531年ということになる。別に9年一舗装と仮定すると第3焼土層は1561～69年、第4焼土層は1516～1524年となり、SF70の構築開始年代は1488年以前となる。10年一舗装と仮定すると第3焼土層は1558～67年、第4焼土層は1509～1517年となり、SF70の構築開始年代最も新しく見て1477年以前となる。

以上のような仮定の計算では8年一舗装がもっともよく合致するが、必ずしも文献による事件と一致しない。しかし道路の舗装が定期的におこなわれたという保証もない。実際には時期によって道路の舗装が短期間に繰り返されたり、長期にわたって同じ路面が使われることがあったのが実情であろう。したがって以上の計算はあくまでも試算にすぎず、ここでは大雑把に想定される年代幅に対応して道路の更新の回数が多いという事実を確認しておきたい。

以上の検討から、筆者は第1焼土層と第2焼土層の年代観は、道路の更新の状況ともよく合致すると考えるが、第3焼土層と、第4焼土層についてはなお検討の余地があり、あくまでも仮説的な考えを述べたに過ぎないことを断っておきたい。

最後に第7次調査区の焼土層との対応で出土遺物の内容が類似するのは以下のとおりである。

- ・第7次調査区第3焼土層=SF183第6硬化面上=16次調査区第4焼土層⇒16世紀第1四半期
- ・第7次調査区第2焼土層=SF183第4硬化面上=16次調査区第3焼土層⇒16世紀第3四半期
- ・第7次調査区第1焼土層=SF183第3硬化面上=16次調査区第2焼土層⇒1587年

また、第4次調査区との対応はⅣ期の焼土層が第16次調査区の第2焼土層に、Ⅴ期の焼土層が第1焼土層に対応する<sup>(註2)</sup>。

註2 河野史郎『大友府内』4、2002、大分市教育委員会

## 第4章 自然科学的分析

### 第1節 中世大友府内町跡第7次調査出土人骨について

石川健・田中良之\*

(\*九州大学大学院比較社会文化研究院)

#### 1. はじめに

2000～2001年に大分県教育委員会によって大分県大分市に位置する中世大友府内町跡の第7次調査が行われ、人骨が出土した。そのため、九州大学大学院比較社会文化研究院基幹構造講座に人骨調査の依頼があり、田中・石川らが現地へ赴き、発掘・観察・取り上げを行った。その後、人骨は九州大学に搬送され、本講座において整理・分析を行った。以下にその結果を記載・報告する。なお、人骨は九州大学大学院比較社会文化研究院考古人類学資料室に保管されている。

#### 2. 出土状態

##### 2-1 E地区 ST135出土人骨

頭部が墓竈東側に位置し、頸椎・胸椎・腰椎・寛骨がほぼ北東-南西方向に沿って位置する。頭蓋骨は、頭頂部を下にし頭蓋底・下顎下面が上を向いた状態である。顎関節は関節した状態を保持する。

頸椎は頭蓋骨の西側に近接して位置し、その西南の延長線上に胸椎及び腰椎・寛骨が残存する。頸椎から腰椎にかけての椎骨はいずれも棘突起を上面にした状態である。

上肢骨は、右の肩甲骨・上腕骨が頭蓋骨の西側に位置し、関節状態を保つ。上腕骨はほぼ南北に長軸をとり、前腕骨は尺骨が上腕骨と関節した状態を維持し、肘をほぼ90度曲げて、手を内側した状態である。また肘関節の部分は右膝関節の上のつた状態である。左上腕骨は、骨体部のみ遺存するが、長軸をほぼ東西にとり、左肘骨及び椎骨より上位に位置する。右上肢骨と同様に肘を90度近く折り曲げた状態である。

下肢骨は、寛骨が墓竈西側に位置し外側を上面にした状態であり、また整理時に精査した結果、左寛骨腸骨翼上に、左右は不明であるが手指骨がのつた状態であった。大腿骨は、寛骨と関節した状態であり、左右共に近位がほぼ西側、遠位がほぼ東側に位置する。遠位端は脛骨と関節状態を保つ。胫骨・腓骨は左右共に遠位を西側にとり、大腿骨の下位に位置する。

以上から、頭蓋骨が頸椎と外れた状態である他は、ほぼ関節状態を保ち、埋葬時の状態を保持しているものと考えられる。椎骨が後面を上にした状態であり、また寛骨も外側が上面を向くことから上体を前面に倒した姿勢であると考えられる。上肢骨は、左右ともに肘をほぼ直角に折り曲げ右上肢は内側した状態であり、レベル的には右は下肢骨の上位、左も助骨や椎骨より高いレベルから出土していることから、左右の上肢が仰臥背面に回っていた可能性が高い。また、下肢骨は大腿骨と脛骨・腓骨が長軸をほぼそろえ上下に重なった状態であることから、正座した状態と考えられる。これらから、本人骨は埋葬時、正座した状態で後ろ手に縛られた状態で埋葬されていた可能性が高いものと考えられる。頭蓋骨に関しては、二つの可能性が考えられる。一つは軟部組織の腐朽後に転落したことになろう。もう一つは、埋葬時に体部とは別に、頭蓋のみ下にした状態でおかれた可能性である。出土位置や正座して後ろ手に縛られていたという特異な埋葬姿勢を勘案すると、より可能性があるかと思えるが、頸椎の保存が悪いこともあり、頭部を離断した証拠は得られていない。

##### 2-2 G地区 ST748出土人骨

頭部を南にした右側臥屈肢葬である。頭蓋骨は後頭部が南側木棺推定位置に接して位置し、顔面を北に向けた

状態である。上下の歯牙は咬合した状態であることから、顎関節が関節した状態と考えられる。

距腕骨は、肋骨は頭蓋の西側に位置し、その南側から肩甲骨が出土している。墓壙西壁にはほぼ並行して胸椎から腰椎・寛骨がほぼ関節した状態で出土している。寛骨から肋骨が遺存する部分までは、ほぼ墓壙西壁に並行しているが、肋骨あるいは肩甲骨あたりから頭蓋へ至る部位は東西に背を強く曲げた状態である。

上肢は、左上腕骨が骨面を上面にし、近位側が頭蓋側に位置し長軸を南北にした状態である。前腕骨は顔面北側に長軸を東西にした状態である。上腕骨との位置関係から関節状態を保持しており、肘をほぼ直角に曲げた状態である。

下肢は、大腿骨近位が寛骨付近に位置し、大腿骨と脛骨が左右とも関節状態を保持し、強屈した状態である。右腓骨も右脛骨の南側から出土し、原位置を保った状態である。

以上のような埋葬姿勢及び人骨の出土範囲から50～60cm×100cm程度の箱形木棺に埋葬されていたと考えられる。棺内からは鏡が出土しており、足下で棺底に置かれた状態である。また、寛骨東側から土器が出土するが、人骨下端よりやや浮いた位置から割れた状態で出土していることから、棺上に置かれたものが、棺蓋の腐朽により転落したと考えられる。さらに釘も出土しているが、人骨下端より浮いた位置あるいは人骨上にのった状態であることから、棺の腐朽により棺内に転落したものと考えられる。

### 3. 人骨所見

#### 3-1 E地区 ST135出土人骨

##### 【保存状態】

本人骨の保存状態はあまり良好ではない。頭蓋骨は、頭頂骨右後方から右側頭骨、左鱗状縫合・冠状縫合付近の頭頂骨・側頭骨を欠く。後頭骨はラムダ状縫合及び外後頭隆起付近が一部遺存する。前頭骨は左右の眉弓から眼窩上縁が失われている他はほぼ遺存する。頬骨は、左右とも遺存するが、右頬骨弓・左眼窩周辺部は失われている。上顎骨は右上半と左歯槽部が一部遺存する。下顎はほぼ完存する。頭蓋主縫合はいずれも内板・外板とも一部閉じている。残存歯牙の歯式は、以下の通りである。

M <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	/	/	/	/	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	
M <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	X	/	/	/	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>

歯牙の咬耗度は橋原の2°aである(橋原1957)。

上肢骨は、左上腕骨・桡骨、および右尺骨が遺存する。右上腕骨は骨体中位から遠位端まで遺存し、左上腕骨は骨体中位のみ遺存する。三角筋粗面はやや発達している。右桡骨及び尺骨は近位端付近が遺存し、左桡骨は骨体中位が遺存する。その他に中手骨1、基節骨片1、指骨3が遺存する。いずれも遺存状況は良くなく左右は不明である。

距腕骨は頸椎・胸椎・腰椎・左右肋骨が遺存する。頸椎は椎体片が遺存するが、胸椎は遺存状況が悪く詳細は不明である。腰椎は椎体片と、椎弓板4が遺存する。

下肢骨のうち寛骨は、右が腸骨翼片、仙腸関節付近から寛骨臼にかけて遺存し、左は恥骨以外はほぼ遺存する。大坐骨切痕角は大きい。右大腿骨は骨頭部・骨体中位・遠位端付近が遺存し、左大腿骨は大転子・遠位端付近を除きほぼ遺存する。右膝蓋骨上半が遺存する。脛骨及び腓骨は左右とも骨体中位が遺存する。大腿骨粗線はやや発達する。大腿骨・脛骨ともに骨体は華奢である。足指骨は10個が遺存するが、左右・部位など詳細は不明である。

##### 【年齢・性別】

年齢は、歯牙咬耗度がやや進行していることや頭蓋主縫合の癒合状況から、成年後半と推定される。性別は、大坐骨切痕角が大きく、下肢骨が華奢であることから、女性の可能性が高いと考えられる

##### 【計測値】

本人骨は遺存状況がよくないことから、いずれの部位も計測は不能であったが、顔面については顔高が高く若

干面長な印象であった。また、上下顎も咬合した取り上げ時の観察から、中世人に一般的とされる、歯槽性突頭が認められた。

#### 【特記事項】

本人骨は、出土状況において記載したとおり、後ろ手で正座した状態で埋葬されており、また、頭蓋については、軟部組織腐朽後の転落の可能性に加え、離断した頭を埋葬時に置かれた可能性も考えられた。そのため頭椎における刀傷などの受傷の痕跡が認められるかどうかは注目されたが、頸椎は椎体片が遺存するのみであり、受傷の有無については不明であった。

### 3-2 G地区 ST748出土人骨

#### 【保存状態】

本人骨の保存状態は悪い。頭蓋骨は前頭骨前頭鱗右上半・頭頂骨右半部及び矢状縫合付近の頭頂骨左側と、後頭骨ラムダ状縫合から外後頭隆起付近及び左右後頭顆付近が遺存する。下顎骨は左歯槽部がわずかに遺存する。外後頭隆起は発達している。頭蓋主縫合は矢状縫合外板が一部閉じかけである。残存歯牙の歯式は以下の通りである。

$$\begin{array}{cccccccccccccccccccc} / & / & / & / & / & / & \Delta & I^1 & | & I^1 & I^2 & C & P^1 & P^2 & M^1 & / & / \\ \hline / & / & / & / & / & / & / & / & | & / & I_2 & C & P_1 & P_2 & M_1 & M_2 & M_3 \end{array}$$

歯牙咬耗度は橋原2°bである(橋原1957)。

軀幹骨は、胸椎9、腰椎片、及び肋骨片多数が遺存する。

上肢は右上腕骨近位側の骨体部、左上腕骨体中位から遠位端にかけてが遺存する。前腕は左右とも一部残存するが遺存状態が悪いことから、詳細な部位については不明である。上腕三角筋粗面は発達している。

下肢骨は、左寛骨腸骨翼、大坐骨切痕付近が遺存する。大腿骨は左右とも骨端部付近を除く骨体部が遺存する。脛骨は左右とも骨体部が遺存し、腓骨は右腓骨近位端付近の骨体部が遺存する。大腿骨粗線はやや発達し、大腿骨・脛骨とも骨体は太い。足骨は痕跡のみが遺存するため詳細は不明である。

#### 【年齢・性別】

年齢は、歯牙咬耗度から熟年と推定される。性別は、外後頭隆起、上腕三角筋粗面が発達し、大腿骨粗線がやや発達し、下肢の骨体も太いことなどから、男性と判定される。

### 5. おわりに

以上、出土人骨についての記載・報告を行ってきた。本遺跡からは2体の人骨が出土した。これらの人骨は保存状態が不良で、計測に耐えうるものはなく、したがって形質的比較を行える個体は得られなかった。ただし、ST135号墓出土人骨は、顔が高い印象であり、歯槽性突頭が認められた。

埋葬姿勢については、ST748出土人骨は、右側臥屈肢葬であり、このような埋葬姿勢は近隣地域では久住遺跡や神ノ原遺跡、九州以外では吉母浜遺跡などの中世墓においてみられる埋葬姿勢と共通するものである(板倉2005、下関市教育委員会1985)。

一方、ST135出土人骨は、正座して後ろ手に縛られていた可能性が高い。また、頭蓋については、軟部組織腐朽後に転落した可能性とともに、頭骨の出土位置や特異な埋葬姿勢である点などから、頭を離断した後に検出時の位置に置かれた可能性が考えられた。しかし頸椎・頭蓋底の遺存状況が悪いことから、刀傷などの受傷痕の有無が不明であることから、確証を得ることはできなかった。

最後に、本報告にあたり、大分県教育委員会の田中裕介氏にはご便宜を賜り、かつご迷惑をおかけした。感謝したい。

参考文献

- 板倉有大・田中良之，2005：5. 久住遺跡出土人骨について，久住町教育委員会編，久住遺跡（久住御茶屋跡），  
下関市教育委員会，1985：吉母浜遺跡。  
梶原博，1957：日本人歯牙咬耗に関する研究，熊本医学会雑誌，31，補冊4。



ST135出土人骨 四肢骨



ST748出土人骨 右大腿骨

## 第2節 中世大友府内町跡第7・16次調査区出土遺物の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

大分市中世大友府内町跡は、市内中心部に所在し、鎌倉時代から戦国時代まで豊後守護として君臨した大友氏の本拠地である。今回は、主に4つの調査課題を設定し、分析調査を実施する。まず、その出土状況から、当時の食糧や道路構築材として用いられたと考えられる貝類の同定を行う。また、中世道路構築面の構造や構築材の由来を調べる目的で、珪藻分析、土壌理化学分析、貝類同定を実施する。さらに、焼土から検出された炭化材の同定を行い、当時の建築用材に関する情報を得る。最後に、燻台とされる土器に付着した黒色物質の由来を知る目的で、付着物の脂質分析と、顕微鏡による表面観察を実施する。

## 1. 試料

貝類同定を行う試料は、第7次調査E地区のSK112、SK114、SK126、SK133、SK136、SK40、D地区のSF183、SD192、SK196、SE19、P171 (SA312)、P237、D地区下層トレンチ、G地区のSK712、SD791、第16次調査F地区・G地区のSF70、H地区のSK257、H地区のSK365、Ib表土下層、K39区No.2 (B層上面)、L45区No.3 (SF70第2硬化面) からそれぞれ採取されている。これらの試料は、1試料中に複数の貝類が認められる試料や土塊状の試料がみられる。試料の詳細は結果と併せて示す。珪藻分析、土壌理化学分析、胎土薄片作成に用いるのはSF70 (道路遺構) の硬化面と、貝混じり層の2点である。試料は、F地区、F・G地区、G地区、H地区の第2焼土層および第3焼土層から出土した炭化材8点である。脂質分析ならびに顕微鏡観察は、燻台とされる土器2点 (第7次調査区G地区SD791No.138、SK104No.8) を用いる。その他比較試料として、当時のろうそくの原材料として一般的であったハゼノキの実と、現在市販されている和ろうそくを比較対照試料として分析する。

## 2. 分析方法

## (1) 貝類同定

試料に付着した泥分を水に浸した筆で静かに除去する。自然乾燥後、一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合を行う。試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、貝類の生態については、奥谷編著 (2000) に基づく。

## (2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の調線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する (化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか (1998)、Krammer (1992)、Krammer & Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991b) などを参照し、分類体系は Round et al. (1990) に従った。

同定結果は、淡水・汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度 (pH)・流水に対する適応能を示す。また、環境指標種はその内容を示す。産出個体数100個体以上の試料は、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、定形殻の出現率を求める。堆積環境を解析するにあたって、海水・汽水生種は小杉 (1988)、淡水生種は安藤 (1990)、陸生珪藻は伊藤・堀内 (1991)、汚濁耐性は、Asai & Watanabe (1995) の環境指標種を参考とする。

### (3) 土壌理化学分析

土壌硬化の要因は、乾湿の繰り返しによる脱水収縮や踏圧などの物理的要因、塩分や石灰などの反応による化学的要因など様々である。ここでは、硬化土壌の特性を調査するために、土壌硬化の化学的要因について調査を行う。調査は、基本項目である pH、電気伝導度 (EC) のほか、塩分や石灰がどの程度含まれているかを確認する項目として全カルシウム (Ca)、全マグネシウム (Mg)、水溶性塩素イオン濃度 (Cl<sup>-</sup>) について行う。

pH (H<sub>2</sub>O) はガラス電極法、電気伝導度 (EC) は白金電極法、全カルシウム、マグネシウムは硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法、水溶性塩素は水抽出-イオン電極法 (土壌環境分析法編集委員会, 1997) でそれぞれ行った。以下に各項目の操作工程を示す。

#### ・分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して 2 mm の篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を孔鉢で粉砕し、0.5mm 篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で 4 時間乾燥し、分析試料水分を求める。

#### ・pH (H<sub>2</sub>O)

風乾細土 10.0g を秤量し、25ml の蒸留水を加えてガラス棒で攪拌する。30分間放置後、再びガラス棒で懸濁状態とし、pH メーター (ガラス電極法) で pH (H<sub>2</sub>O) を測定する。

#### ・電気伝導度 (EC)

風乾細土 10.0g を秤量し、50ml の蒸留水を加えて 1 時間振とうする。振とう後、すみやかに EC メーター (白金電極法) で電気伝導度を測定する。

#### ・全カルシウム、マグネシウム

粉砕土試料 1.0g ケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸 (HNO<sub>3</sub>) 約 5 ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸 (HClO<sub>4</sub>) 約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計 (AAS) によりカルシウム (Ca) 及びマグネシウム (Mg) を定量し、試料中の全カルシウム、マグネシウム量 (%) を求める。

#### ・水溶性塩素イオン

風乾細土試料 10g をポリエチレン瓶に秤量し、5 倍量の蒸留水を加え、1 時間振とう後、乾燥濾紙で濾過する。濾液を回収し、酢酸緩衝液を加え、塩化物イオン電極を用いて電位差を測定し、塩素イオンを定量する。この定量値と加熱減量法で求めた試料中の水分から、水溶性塩素イオン濃度 (mg/100g) を求める。

### (4) 胎土薄片作製鑑定

薄片は、試料の一部を樹脂による固化の後、ダイヤモンドカッターで切断、正確に 0.03mm の厚さに研削して作製する。薄片は岩石学的手法を用いて観察し、胎土中に含まれる砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を明らかにする。また、胎土の基質は、孔隙の分布する程度と砂の配列や孔隙などの方向性の確認や、基質を構成する粘土が焼成の結果、どの程度ガラス化してどの程度粘土鉱物として残存しているか、酸化鉄などの鉄分の含まれる程度について定性的に記載する。

### (5) 炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・柀目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東 (1982) および Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林 (1990)、伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

### (6) 脂肪酸分析

分析は、坂井ほか (1996) に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。土器の黒色部分が 9 層に十分なクロロホルム：メタノール (2 : 1) を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポ

レーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップバックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム (ULBON, HR-SS-10, 内径0.25mm, 長さ30m) を装着したガスクロマトグラフィー (GC-14A, SHIMADZU) を使用した。注入温度は250°C、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム (J&W SCIENFIC, DB-1, 内径0.36mm, 長さ30m) を装着する。注入口温度は320°C、カラム温度は270°C恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

### (7) 顕微鏡写真撮影

燭台に付着した炭化物の状況を確認するため、表面を双眼実体顕微鏡による観察を行い、同時に写真撮影を実施する。

## 3. 結果

### (1) 貝同定

検出された分類群の一覧を表1に示す。また、海棲貝類の分布・生息域等について、表2に示す。以下、第16次調査 SF70と第7次調査 SK112・SK196、およびそれ以外の遺構について述べていく。

表1 検出分類群一覧

軟体動物門	Phylum Mollusca
腹足綱	Class Gastropoda
前鰓亜綱	Subclass Prosobranchia
古腹足目	Order Vetigastropoda
ニシキウスガイ科	Family Trochidae
イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>
サザエ科	Family Turbinidae
サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i>
盤足目	Order Discopoda
ウミナナ科	Family Batillariidae
ウミナナ	<i>Batillaria multiformis</i>
イボウミナ	<i>Batillaria zonalis</i>
フトヘナタリ科	Family Potamididae
ヘナタリ	<i>Cerithidea (Cerithideopsis) cingulata</i>
新腹足目	Order Neogastropoda
アッキガイ科	Family Muricidae
レイシガイ亜科	Subfamily Rapaninae
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>
ムシロガイ科	Family Nassariidae
アラムシロ	<i>Relicunassa festiva</i>
有肺亜綱	Subclass Pulmonata
柄貝目	Order Stylomatophora
曲輪原管貝目	Suborder Sigmurethra
マイマイ類	Fam. et. gen. indet.
二枚貝綱	Class Bivalvia
翼形亜綱	Subclass Pteriomorpha
フネガイ目	Order Arcoida
フネガイ科	Family Arcidae
サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
異歯亜綱	Order Heterodonta
マルスダレガイ目	Order Veneroida
マルスダレガイ科	Family Veneridae
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
硬骨魚綱	Class Osteichthysae
条鰭亜綱	Subclass Actinopterygii
ニシン目	Order Clupeiformes
ニシン科	Family Clupeidae
イワシ類	Gen. et. sp. indet.
スズキ目	Order Perciformes
スズキ亜目	Suborder Percoidei
タイ科	Family Sparidae
マダイ亜科	Subfamily Pagrinae
マダイ	<i>Pagrus major</i>
哺乳綱	Class Mammalia
ウシ目 (偶蹄目)	Order Artiodactyla
ウシ科	Family Bovidae
ウシ?	<i>Bos taurus?</i>



表2 出土骨殖類の分布と産出域

イボキサゴ	北海道南部～九州	潮間帯付近および砂底～砂泥底
サザエ	北海道南部～九州・朝鮮半島	潮間帯下部～水深20m
ウミニナ	北海道南部～九州までの日本各地	大きな湾の干潟・潮間帯の泥底上
イボウミナ	北海道南部以南のインド・西太平洋域	やや開放的な内湾の潮間帯中部～下部の泥底
ヘナタリ	房総半島・山口県北部以南・インド・西太平洋域	汽水域・潮間帯・内湾の干潟
アカニシ	北海道南部～台湾・中国沿岸	水深30m以上の砂泥底
アラムシロ	北海道南部以南の西太平洋	潮間帯砂底
サルボウガイ	東京湾～有明海・沿海州南部～韓国・費海・南シナ海	潮下帯上部から水深20mの砂泥底
アサリ	サハリン・北海道～九州・朝鮮半島・中国大陸沿岸	潮間帯中部から水深10mの砂泥底

・第16次調査 SF70および第7次調査 SK112・SK196

結果を表3に示す。いずれの遺構もイボキサゴ・キサゴ類が多く検出される。保存状態が悪く、表面が剥離しているものをキサゴ類としたが、大半がイボキサゴと思われる。これに次いで、サザエ類の破片が少量みられる。ただし、SK196とSK112は、SF70と出現傾向が若干異なり、両遺構ともにマイマイ類を伴う。さらに、SK112は、これらの種類に加えて、ウミニナ・イボウミナ・ヘナタリ・アカニシ・アラムシロ・マイマイ類・サルボウガイが検出され、またイワシ類の椎骨など魚骨片も僅かにみられる。

表3 第16次調査 SF70および第7次調査 SK112・SK196における貝類等調査結果

調査	地区	遺構	試料	イボキサゴ・キサゴ類	サザエ	ウミニナ	イボウミナ	ヘナタリ	アカニシ	アラムシロ	マイマイ類	魚類	魚類			
				破片	殻	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	椎骨	破片	鱗
7次	D地区	G44区	No.1-2	多							13					
			道中	49+												
	E地区	SK112	No.10				1						1	3	4	
			No.11①						1						2	1
			No.11②				2		1					1		
			No.11～12				1	1								1
			No.12				1	1		1				1	11	
			No.12	多								84+				
			No.13				13									1
			No.19				1									
			No.20							1						
			下部貝層					2	1	1	2	1	2			ウミニナ1点は幼貝
			下部貝層											1	1	1
16次	G地区	SF70	第1間層	7+												
			No.4				1+									
			第1間層	20										2		
			第2間層	10+												
			第4間層	21+												
			第5間層	多												
			第6硬化面上No.4					4+								
			第6間層 貝					23+								
			第6～8間層	多	1	2										サザエは幼貝
			土中の貝	3+												土塊状
土中の貝	*												土塊(印象化石)			

・第16次調査 SF70および第7次調査 SK112・SK196を除く遺構

結果を表4に示す。第7次調査区では、SF183でイボキサゴ・キサゴ類が、SD192でアサリとウシ?白歯片が、SE19でサザエ類が、P171(SA312)で貝類片が、P237でアサリが、D地区下層トレンチで腹足綱が、SK114でサザエ類が、SK126でアカニシ?と貝類片が、SK133でアカニシ?が、SK136で貝類片が、SK40でイボキサゴ・キサゴ類が、SK712でアカニシ?が、SD791でマダイ上後頭骨の焼骨が確認される。第16次調査区では、SK

表4 各遺構における貝類等同定結果 (表3掲載分を除く)

調査次	地区	遺構	試料	イボキサゴ・キサゴ類		サザエ類		アカニシ?		限定綱		アサリ			貝類		マダイ		ウシ?					
				破片	殻	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片		
7次	D地区	SF183	(遺)土手第3~4硬化面まで	11																				
		SD192	最下層										2			6					接合試料有			
		SE19	抜きとり穴下層			1																1		
		P171																				6		
		P237	No.1										2	1	1	1								
													2	6	3	19							接合試料有	
	D地区	下層トレンチ	No.1(G43.d)										1	1										
			SK114	土手																				
			SK126	No.40			1																	
				No.43					2															
				No.92					3															
		G地区	SK712	No.1																				
				No.17																				
				No.26																				
19																								
SD791				No.412																			1	
16次	H地区	SK257	No.1																					
			No.2																					
			No.3																					
			No.3																					
			No.4																					
			No.4																					
			No.5																					
			No.6																					
			No.6																					
			No.23																					
		SK365	No.24																					
			No.25																					
			1b 表土下層																					
			K39区	No.2																				
L45区	No.3																							

257・SK365でサザエ類が、1b表土下層でアサリが、K39区でイボキサゴ・キサゴ類が、L45区でサザエ類が確認される。なお、H地区中SK257のNo.4の内1試料は、1区がみられず、裸である。

## (2) 珪藻分析

結果を表5、図1に示す。また、珪藻化石の生態区分や環境指標種群の説明を表6に示す。2試料とも珪藻化石が産出する。完形殻の出現率は、70%前後である。産出分類群数は、合計で26属54分類群である。試料別に珪藻化石群集の特徴を述べる(図版1)。

第13硬化面の試料は、陸上のコケや土壌表面など好氣的環境に耐性のある陸生珪藻が約70%と優占する。主な産出種は、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群の *Amphora montana*、*Diademsis contenta* var. *biceps*、*Hantzschia amphioxys*、*Luticola mutica* が15%前後産出する。また水生珪藻としては、止水性で湖沼浮遊性種群の *Aulacoseira nipponica*、*Cyclotella radiosa* 等が産出する。湖沼浮遊性種群の *Aulacoseira nipponica* は、これまで *Melosira solida* あるいは *Melosira solida* var. *nipponica* として同定されてきた種で

あるが、近年琵琶湖固有種であることが判明し、別種とされた種である。

表5 建群分析結果

種 類	生態性			環境	SF70	
	水分	pH	淡水		硬化度	土中の貝
<i>Nitzschia inconspicua</i> Grunow	Ogh-Meh	al-II	ind		1	1
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.) W. Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	4	3
<i>Pseudostaurastrum brevistriatum</i> (Grun.) Williams & Round	Ogh-Meh	al-II	l-ph	U	-	1
<i>Pseudostaurastrum subaenariense</i> (Hust.) Morales	Ogh-Meh	al-II	ind		2	-
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunow	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	1	-
<i>Achnanthes subhudsonis</i> Husted var. <i>subhudsonis</i>	Ogh-ind	al-II	r-ph	T	1	1
<i>Achnantheidium minutissimum</i> (Kuetz.) Czarn.	Ogh-unk	unk	unk	U	-	1
<i>Amphora copulata</i> (Kuetz.) Schoeman et R.E.M. Archibald	Ogh-ind	al-II	ind	U	1	-
<i>Amphora montana</i> Kraske	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	28	-
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow var. <i>pediculus</i>	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	5
<i>Aulacoseira alpigena</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-II	l-bi	NU	3	3
<i>Aulacoseira nipponica</i> (Skvortzow) Tuji	Ogh-unk	al-II	l-ph	M,T	16	24
<i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-ind	al-II	ind	RA	2	-
<i>Coconeis euglypta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-II	r-ph	T	2	4
<i>Coconeis placenticula</i> Ehr. var. <i>placenticula</i>	Ogh-ind	al-II	ind	U	-	2
<i>Coconeis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	U	-	1
<i>Cyclotella ecostata</i> Pantoczek	Ogh-ind	al-II	l-bi	T	1	2
<i>Cyclotella radiosa</i> (Grun.) Lemm.	Ogh-ind	al-II	l-bi	M,U	14	3
<i>Cyclotella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
<i>Cymbella turgidula</i> Grunow	Ogh-ind	al-II	r-ph	K,T	-	1
<i>Diademes confervacea</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	-	1
<i>Diademes contenta</i> (Grun. ex Van Heurck) D.G.Mann	Ogh-ind	al-II	ind	RA,T	6	2
<i>Diademes contenta</i> var. <i>biceps</i> (Arnott ex Grunow) Hamilton	Ogh-ind	al-II	ind	RA,T	26	1
<i>Diademes perpusilla</i> (Grun.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-II	ind	RI	1	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve var. <i>ovalis</i>	Ogh-ind	al-II	ind	T	1	-
<i>Encyonema minutum</i> (Hilse ex Rhabenhorst) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	1
<i>Encyonema silasticum</i> (Bleisch) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	1	1
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind	ind	1	1
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres var. <i>capucina</i>	Ogh-ind	al-II	ind	T	1	-
<i>Geissleria decussata</i> (Oestrup) Lange-B. et Metzger	Ogh-ind	al-II	r-ph	K,T	-	1
<i>Gomphonema clevei</i> Frick	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	1	1
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-II	l-ph	O,U	-	1
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	2	-
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-II	ind	RA,U	17	2
<i>Luticola cohnii</i> (Hilse) D.G.Mann	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	1	-
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-II	ind	RA,S	33	7
<i>Navicula protracta</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hil	ind	ind	U	-	1
<i>Navicula tridentata</i> Kraske	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	1
<i>Navicula</i> sp.-1	Ogh-unk	unk	unk		7	11
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	4
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow var. <i>amphibia</i>	Ogh-ind	al-bi	ind	S,U	-	1
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-ind	al-II	ind	RB,U	1	-
<i>Nitzschia parvuloides</i> Cholnoky	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-
<i>Nitzschia perminuta</i> (Grun.) Peragallo	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-
<i>Nitzschia solgensis</i> Cleve-Euler	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	2
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	4	-
<i>Pinnularia obscura</i> Kraske	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	-
<i>Pinnularia schoenleideri</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	3	-
<i>Pinnularia schroederii</i> (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-
<i>Pinnularia silvatica</i> Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-II	ind	RB,S	2	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> var. <i>paucistriata</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-II	ind	O,U	2	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
<i>Planothidium lanceolatum</i> (Breb.) Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-II	r-ph	K,T	4	9
<i>Planothidium rostratum</i> (Oestrup) Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-II	r-ph	U	-	1
<i>Reimeria sinuata</i> (W.Greg.) Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	al-II	r-ph	K,T	1	1
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (C. Agardh) Lange-B.	Ogh-hil	al-II	r-ph	K,T	-	2
<i>Stauroneis boricchii</i> (Pet.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	9	1
<i>Stauroneis japonica</i> H.Kobayasi	Ogh-ind	ac-bi	r-ph	T	-	1
<i>Stephanodiscus</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
海水生種					0	0
海水～汽水生種					0	0
汽水生種					0	0
淡水～汽水生種					7	5
淡水生種					201	104
珪藻化石種数					208	109

## 凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C.R. : 淡水に対する適応性
Ogh-Meh : 淡水～汽水生種	al-bi : 弱アルカリ性種	l-bi : 弱酸性種
Ogh-hil : 食塩好塩性種	al-II : 好アルカリ性種	l-ph : 好酸性種
Ogh-ind : 食塩不定性種	ind : pH不定性種	ind : 淡水不定性種
Ogh-hop : 食塩嫌塩性種	ac-II : 好酸性種	r-bi : 好淡水性種
Ogh-unk : 食塩不明種	ac-bi : 弱酸性種	r-ph : 弱淡水性種
	unk : pH不明種	unk : 淡水不明種

## 環境指標群

K : 中～下流性河川指標種, M : 湖沼浮遊性種, N : 湖沼沼澤地指標種,  
O : 沼澤地付着性種 (以上は安藤, 1990), S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種,  
T : 好清水性種 (以上は Asai and Watanabe, 1995)

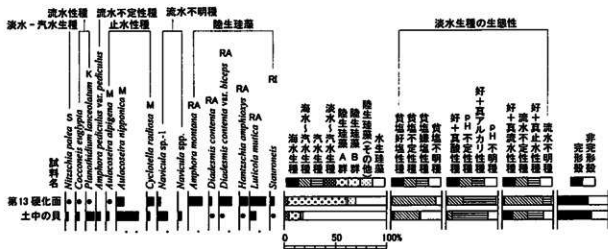


図1 主要珪藻化石群集

海水-汽水-淡水性種産出率・各種産出率・変形種産出率は全体基数、淡水性種の生態性の比率は淡水性種の合計を基数として百分率で算出した。  
いづれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満の産出を示す。

環境指標種群

K: 中〜下流性河川指標種, M: 湖沼浮遊性種 (安藤, 1990)

S: 好汚濁性種, U: 広域適応性種, T: 好流水性種 (Asai and Watanabe, 1995)

R: 陸生珪藻 (RA: A群, RB: B群, Rf: 未区分, 伊藤・堀内, 1991)

土中の貝試料では、水生珪藻が約80%と優出し、陸生珪藻を伴う。淡水性種の生態性(塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能)の特徴は、貧塩不定性種、真+好アルカリ性種、真+好流水性種〜真+好止水性種が多産する。主な産出種の特徴は、止水性で湖沼浮遊性種群の *Aulacoseira nipponica* が多産し、流水性で中〜下流性河川指標種群の *Planorbulidium lanceolatum*、淡水不定性の *Amphora pediculus var. pediculus*、種不明の *Navicula sp.-1*、それに陸生珪藻A群の *Luticola mutica* を伴う。

(3) 土壌理化学分析

結果を表7に示す。両試料とも、土壌pH(H<sub>2</sub>O)は中性〜微アルカリ性を示す。臨海地など海水の影響を受けた土壌に、普通に見られる範囲内のpH値である。また、全カルシウムは1.0%程度、マグネシウム量も0.3%程度と一般的な範囲にあり、過剰な石灰が存在している状態にもないことから、石灰が膠着剤として土壌硬化に寄与している可能性は考えにくい。

一方、塩類濃度の指標となる電気伝導度(EC)と塩素イオン濃度に関しても、電気伝導度は低く、かつ塩素イオン濃度も1.0mg/100g程度と少ないことから、土壌中の塩類が土壌硬化に寄与しているとも考えにくい。

(4) 胎土薄片作製鑑定

結果を表8に示す。2点の試料は、主体となる砂粒の種類構成が互いに類似する(図版2)。鉱物片の主体は斜長石であり、これに少量または微量の石英と不透明鉱物を伴い、他にカンラン石、斜方輝石、単斜輝石、角閃石、黒雲母などの鉱物片が微量含まれる。岩石片の主体は安山岩であり、これに少量の流紋岩・アイサイトと微量の花崗岩類および少量または微量の火山ガラスが含まれる。また、SF70土中の貝試料には、少量の軽石と頁岩、凝灰岩、スコリア、溶結凝灰岩、ひん岩、粘板岩などの岩石片も微量認められる。

一方、砂粒の種類構成は類似するものの、その粒径と含有量については、硬化面試料と土中の貝試料との間で差異が認められた。すなわち、硬化面試料では、土中の貝試料に比べて、砂粒が全体的に細粒であり、また、砂粒間を埋める基質の粘土量が多い傾向が看取された。また、硬化面試料の基質には、非晶質の酸化鉄が比較的多く含まれていることも特徴である。

(5) 炭化材同定

樹種同定結果を表9に示す。第16次調査区のF・G地区第2焼土層中とG地区第2焼土層中の試料には2種

表6 珪藻化石の生態性区分および環境指標種群

塩分濃度に対する区分 Lowe (1974) による	
海水生種	強塩性種 塩分濃度40.0%以上の高濃度海水域に生育する種
	真塩性種 (海水生種) 塩分濃度40.0~30.0%に生育する種
汽水生種	中塩性種 (汽水生種) 塩分濃度30.0~0.5%に生育する種
淡水生種	真淡水性種 (淡水生種) 塩分濃度0.5%以下に生育する種
淡水生種の生態性区分	
塩分	貧塩好塩性種 少量の塩分がある方が良く生育する種
	貧塩不定性種 少量の塩分があってもこれに良く耐えることができる種
	貧塩嫌塩性種 少量の塩分にも耐えることができない種
	広塩性種 淡水~汽水域まで広い範囲の塩分濃度に適応できる種
pH	真酸性種 pH7.0以下に生育し、特に pH4.5以下の酸性水域で最も良く生育する種
	好酸性種 pH7.0付近に生育し、pH7.0以下の水域で最も良く生育する種
	pH不定性種 pH7.0付近の中性水域で最も良く生育する種
	好アルカリ性種 pH7.0付近に生育し、pH7.0以上の水域で最も良く生育する種
Hustedt (1937-38) による	真アルカリ性種 pH7.0以上に生育し、特に pH8.5以上のアルカリ性水域で最も良く生育する種
流水	真止水性種 止水域にのみ生育する種
	好止水性種 止水域に特異的であるが、流水域にも生育する種
	流水不定性種 止水域にも流水域にも普通に生育する種
	好流水性種 流水域に特異的であるが、止水域にも生育する種
Hustedt (1937-38) による	真流水性種 流水域にのみ生育する種

主に海水域での指標種群 (小杉, 1988による)	
外洋指標種群 (A)	塩分濃度が約35%の外洋水中で浮遊生活するもの
内海指標種群 (B)	塩分濃度35~26%の内海水中で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群
海水藻場指標種群 (C1)	塩分濃度35~12%の海域で海藻(草)に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
汽水藻場指標種群 (C2)	塩分濃度12~4%の汽水域で海藻(草)に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
海水砂質干潟指標種群 (D1)	塩分濃度35~26%の砂底の砂に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
汽水砂質干潟指標種群 (D2)	塩分濃度26~5%の砂底の砂に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
海水泥質干潟指標種群 (E1)	30~12%の閉鎖性の高い塩性湿地など泥底の泥に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
汽水泥質干潟指標種群 (E2)	塩分濃度12~2%の汽水化した塩性湿地などの泥に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
淡水底生種群 (F)	2%以下の淡水域の底質の砂、泥、水生植物などに付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群
淡水浮遊種群 (G)	塩分濃度2%以下の湖沼などの淡水域で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群
河口浮遊種群 (H)	塩分濃度20~2%の河口域で浮遊生活、あるいは付着生活することからそのような環境を指標することのできる種群

主に淡水域での指標種群 (安藤, 1990による)	
上流性河川指標種群 (J)	河川上流部の峡谷部に集中して出現することから上流部の環境を指標する可能性の大きい種群
中~下流性河川指標種群 (K)	河川中~下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群
最下流性河川指標種群 (L)	最下流部の三角洲の部分に集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群
湖沼浮遊性種群 (M)	水深が約1.5m以上ある湖沼で浮遊生活する種群で湖沼環境を指標する可能性の大きい種群
湖沼沼沢地指標種群 (N)	湖沼における浮遊性種としても沼沢地の付着性種としても優勢に出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群
沼沢地付着性種群 (O)	沼よりも浅く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地で優勢な出現の見られることからそのような環境を指標する可能性の大きい種群
高沼原指標種群 (P)	ミスゴウを主体とした環境や泥炭が形成される環境に集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群
陸域指標種群 (Q)	水中でなく、多少の湿り気のある土壌表面、岩の表面、コケなどに大気に乗された好氧的環境(陸域)に集中して出現することからそのような環境を指標する可能性の大きい種群
陸域での指標種群 (伊藤・堀内, 1991による)	
陸生珪藻 A 群 (RA)	陸生珪藻の中でも、分香がほぼ陸域に限られる耐乾性の高い種群
陸生珪藻 B 群 (RB)	陸生珪藻 A 群に隣接し、陸域にも水中にも生育する種群
水区分珪生珪藻 (RI)	陸生珪藻に相当すると考えられるが、乾燥に対する適応性の不明なもの

類が認められた。これらの炭化材は、広葉樹2種類(コナラ属コナラ亜属クスギ節・サカキ)とイネ科タケ亜科に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す(図版3)。

・コナラ属コナラ亜属クスギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) プナ科

環孔材で、孔間部は1-2列、孔間外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射方向に配列する。道



酸が多く、ステアリン酸、ミスチリン酸がこれに次いで多い。その他の脂肪酸も少量含むが、第7次調査区G地区SD791No.138の方が検出される脂肪酸の種類が多い。ステロール組成をみると、第7次調査区G地区SD791No.138では、動物性であるコプロスタノールとコレステロールの割合が高く、菌類由来のエルゴステロール、植物由来のカンベステロール、スティグマステロールが少量検出される。SK104No.8は、コレステロールのみが検出される。

当時のろうそくの原料であるハゼノキの果実を果皮と種子に分け、比較試料としてそれぞれ分析を行った。果皮、種子ともにパルチミン酸が最も多く検出される。種子では、オレイン酸、 $\alpha$ リノレン酸が次いで多いが、果皮においては、オレイン酸が多い。ステロールは種子のみ検出され、シトステロールが多くみられる。

さらに、比較の意味で現在市販されている和ろうそくについても、同様の分析を実施した。組成は、ステアリン酸とパルチミン酸がともに35%程度、エライジン酸とオレイン酸がともに15%程度含む。また、ステロールは動物由来のステロール（コプロスタノール、コレステロール）が半分以上を占め、菌類由来のエルゴステロールも40%近く含まれる。日本古来のろうそくは、全て植物原料から作られているが（動物油脂から作られるようになったのは明治以降）、この市販品は、動物油脂がかなりの割合で混じっている。また、生物が合成できないエライジン酸を含む。このことから、比較試料として分析を行った市販品の和ろうそくは、動物油脂を原料に化学合成を行って人工的に作られた脂質が混ざっていると判断されるため、今回の参照資料とはしないことにする。

表10 脂質分析結果

種 類	試料名	SD791-138	SK104-8	ハゼの実 中身	ハゼの実 外皮	和ろうそく
<b>脂肪酸組成</b>						
	ミスチン酸 (C14)	7.1	19.2	0.4	4.1	1.7
	パルミチン酸 (C16)	38.0	46.5	57.9	66.3	32.9
	パルミトレイン酸 (C16:1)	1.7	2.9	0.3	0.4	1.5
	ステアリン酸 (C18)	28.2	24.9	4.6	5.1	36.3
	エライジン酸 (C18:1 trans)	—	—	—	—	12.3
	オレイン酸 (C18:1 cis)	2.5	—	12.7	21.0	14.3
	リノール酸 (C18:2)	0.8	—	22.3	1.2	0.5
	$\alpha$ リノレン酸 (C18:3)	—	—	0.4	0.3	0.1
	アラキジン酸 (C20)	2.9	2.8	1.0	1.2	0.4
	イコセン酸 (C20:1)	0.8	—	0.1	0.2	—
	アラキドン酸 (C20:4)	—	—	—	—	—
	ベヘン酸 (C22)	1.7	3.7	0.3	0.2	—
	ドコセン酸 (C22:1 trans)	—	—	—	—	—
	エルカ酸 (C22:1 cis)	—	—	—	—	—
	イコサペンタエン酸 (C20:5)	2.4	—	—	—	—
	リグノセリン酸 (C24)	—	—	—	—	—
	テトラコセン酸 (C24:1)	13.9	—	—	—	—
	ドコサヘキサエン酸 (C22:6)	—	—	—	—	—
<b>ステロール組成</b>						
	コプロスタノール	23.4	—	—	—	30.3
	コレステロール	43.3	100.0	—	—	28.5
	エルゴステロール	12.2	—	19.1	—	36.3
	カンベステロール	15.8	—	7.0	—	—
	スティグマステロール	5.3	—	2.2	—	4.8
	シトステロール	—	—	71.7	—	—

### (7) 電子顕微鏡写真撮影

黒色部分の写真を図版4に示す。第7次調査区G地区SD791No.138は、表面に煤が全面に付着しているほか、一部に厚さ1mm程度の「おこげ」状炭化物が厚く付着している。これらは発泡しており、形状から元の物質を推定することは困難である。「おこげ」状炭化物の表面には炭化した植物遺体が数個付着する。最大のもの、長さ15mm、幅1.5mm程度である。イネ科などの草本類の破片にも見えるが、はっきりしたことは不明である。SK104No.8は、全体の2/3煤が付着している。煤は薄く付着しているのみで、構造等はみられない。

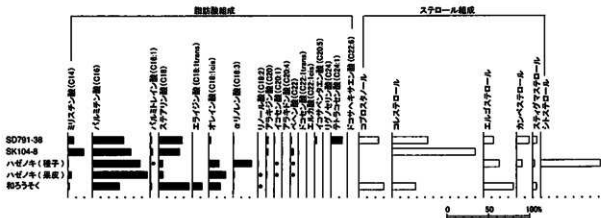


図2 胆酸・ステロール組成

#### 4. 考察

##### (1) 貝類の種類構成

中世(16世紀代)の道路遺構とされる第16次調査区SF70では、イボキサゴ・キサゴ類が多産し、サザエ類を伴う組成であり、他の種類が検出されない。これに対し、同時期の遺構である第7次調査区SK196・SK112では、イボキサゴ・キサゴ類が多産し、サザエ類を伴うことで共通するが、ウミナ・イボウミナ・ヘナタリ・アカニシ・アラムシロ・サルボウガイ、魚骨、さらに陸産貝類のマイマイ類など、他の貝類・魚骨等が認められる点が特徴である。

このことからみて、道路遺構SF70では、イボキサゴ・キサゴ類を主体として、サザエ類を選択的に集めて道路面に混ぜていたと考えられる。一方、同時期の土坑SK196およびSK112では、陸産貝のマイマイ類が検出されている。これは、遺構が埋積される段階で、周辺から混入したものであろう。すなわち、両遺構ともにある程度の期間、開口していたと思われる。

さらに、SK112は、選択されていない状態のもので埋積されていると考えられる。僅かに検出されたウミナ・イボウミナ・ヘナタリ・アラムシロなどは、採取された段階から紛れ込んでいたであろう。イボキサゴ・キサゴ類を初めて他の種類は、生態性から考えて周辺にみられた潮間帯付近、おそらく別府湾沿岸部などから採取されたと推測される。なお、土城内にみられたアカニシ、サルボウガイ、イワシ類、魚骨などは、食糧資源等として遺跡内に持ち込まれ、食用後に廃棄されたものと思われる。これらの種類も、周辺の内湾で漁獲されたと考えられる。

第16次調査区SF70および第7次調査区SK112・SK196を除く遺構の内、SF183、SK40、K39区No.2は、イボキサゴ・キサゴ類のみが検出されており、他の種類がみられない。このような状況を考慮すると、これらの遺構も道路遺構と関連している可能性もある。この点については、考古学的な所見も含めて検討する必要があると思われ、今後の検討課題として残される。

他の遺構では、サザエ類、アカニシ?、アサリなどの貝類、マダイの上後頭骨、ウシ?の臼歯片がみられた。二枚貝類であるアサリは、合貝の状態も確認される。いずれも当時、上述したサルボウガイ、イワシ類などとともに食糧資源等として利用され、廃棄されたと考えられる。特に、多数の種類が混在しない点から、人為的な影響を色濃く反映しているとも考えられ、また比較的短期間の内に埋積した可能性もある。哺乳類では、ウシ?がみられたが、これがどのように利用されていたか、臼歯片のみであるため詳細不明である。

##### (2) 道路面の構造

薄片観察の結果、硬化面試料および土中の貝試料とともに砂粒の種類構成は、大分平野背後の地質と整合する。大分平野背後の地質については、日本の地質「九州地方」編集委員会(1992)や吉岡ほか(1997)により確認することができる。これらの記載によれば、岩片の主体を占める安山岩は、新第三紀鮮新世から第四紀更新世にかけて噴出した火山岩類を主体とする須崎層群や大分層群および旧更新世に噴出した小龍山火山の噴出物



などに由来すると考えられ、流紋岩・デイサイトとした岩石片も、同じ頃南群層や大分群層中のデイサイト質の火山噴出物や小虎山の後に噴出した高崎山火山のデイサイト質の噴出物、さらには後期更新世に噴出した阿蘇火山の火砕流堆積物などにも由来すると考えられる。この阿蘇火山の火砕流堆積物は、また、両試料中に認められた火山ガラスの給源とも考えられる。両試料に微量認められた花崗岩類については、おそらく、大分川上流域の山地に分布する白亜紀の花崗岩類に由来すると考えられる。今回分析を行った砂粒の種類構成からは、硬化面を構成している土の地質学上の特性は認められない。上述したように、薄片観察で認められた硬化面試料と土中の貝試料との違いは、砂の粒径と基質の粘土の量および基質に含まれる酸化鉄であった。これらのことから、おそらく「硬い」という性質は、粘土分の硬化と酸化鉄の生成に起因する可能性がある。

珪藻分析の結果、硬化面試料からは陸生珪藻 A 群が優占して検出され、これに伴って湖沼浮遊性種群を含む止水性種等や流水指標種が産出する。一方土中の貝試料では、陸生珪藻が少なかった他は珪藻化石群集が硬化面試料に近似していた。よって、硬化面、土中の貝試料ともに母材の一部に河川性の堆積物が使われていることがわかる。このことは、薄片観察や土壌理化学性からみても、両者にほとんど差がないことが確かめられており、調和的である。唯一の違いは陸生珪藻の産出傾向であるが、これは硬化面試料が地表に曝されていたため、陸生珪藻が表面に発生したことに由来するとみられる。

一方、土壌の化学的見地から土壌硬化の要因を見いだすことを試みたが、一般的な土壌の範囲内であり、特性を見いだすことは難しい。また、貝同定の結果、SF70ではイボキサゴ・キサゴ類を主体として、サザエ類を選択的に集めて道路面に混ぜていたと考えられる。

日本建築の土間などに使われた三和土（たたき）には、河川砂、赤土など粘土分の多い土、にがり（塩化マグネシウム等）、貝灰（水酸化カルシウム）などの石灰、等の混和物が使われる。SF70では、珪藻分析等から河川性の堆積物が母材の一部として利用されたと推測され、シルト、粘土分も比較的多く含まれていることから、突き固めれば硬化面を形成可能と思われる。貝は石灰の代わりに入れられた可能性もあるが、焼成していない貝は、消石灰とは化学構造が異なるので、硬化に関して効果があるかどうかは不明である。今後民族事例なども含めて検討していく必要がある。なお、SF70の中でも硬化面と貝を含む部分とでは、構造等の顕著な違いは認められなかった。おそらく、両者の違いは土壌の母材や化学性の違いによるのではなく、表面を物理的に突き固めたことが主要因と思われる。

### (3) 炭化材の樹種

各地区の焼土層は、道路の構築層と考えられている。炭化材は、構築層から出土しており、炭化していることから何らかの理由により火を受けていることが明らかであるが、炭化した理由や構築層中に混入された背景は不明である。

炭化材は、第2焼土層と第3焼土層から出土しているが、いずれもタケ重料が多い。木材は、第2焼土層から常緑広葉樹のサカキ、第3焼土層から落葉広葉樹のクスギ節が出土している。これらの結果から、第2焼土層と第3焼土の炭化材は、タケ重料を主とし、木材が若干混じる構成であったことが確定される。

クスギ節とサカキは、いずれも重硬で強度が高い。タケ重料も比較的硬いことから、硬い木材を選択している傾向がある。サカキは暖温帯常緑広葉樹林の構成種、クスギ節は二次林構成種として、現在の本地域でも沖積地・丘陵・低山に普通にみられる種類であり、本道跡周辺に生育していた木材を利用した可能性がある。

### (4) 土師器獨合付着物の検証

燭台の脂肪酸分析の結果、脂肪酸組成では、パルミチン酸、ステアリン酸、ミスチリン酸の順に割合が高く、第7次調査区G地区SD791No.138ではテトラコセン酸が含まれる。今回分析を行ったハゼノキの結果をみると、パルミチン酸が最も多く、次いでオレイン酸が多い。また、種子にはαリノレン酸も比較的多く含まれる。ハゼノキから採取された木蠟の脂肪酸組成は、栽培品種によって違いがみられるものの、パルミチン酸が非常に多く(60-70%)、オレイン酸、リノール酸、ステアリン酸、アラキジン酸の順で少なくなる(徐・河内, 1988)。これらの結果を比較すると、燭台から抽出された脂質と木蠟との間には、パルミチン酸が多いなどの共通点もみ

られるほか、第7次調査区G地区SD791No.138では、木ロウを構成する脂肪酸の全てが含まれている。一方、植物に多く含まれ、木ロウ中にも多く含まれるオレイン酸が燭台にはほとんど含まれないといった違いもみられる。脂肪酸の分解は、炭素原子(C)が2つずつ失われることによって進み、不飽和脂肪酸については、その隣二重結合が一つずつ少なくなっていく(丸山, 1999など)。このような経過をたどることにより、遺物の分析においては、パルチミン酸など化学的に安定な脂肪酸が相対的に増加する(坂井・小林, 1995など)。今回燭台においてパルチミン酸が高いのは、黒色物質に多く含まれていた可能性以外に、経年変化により化学的に安定な脂肪酸が相対的に増加したことも理由の一つとして考えられる。また、オレイン酸がほとんど含まれないのは、本来含まれていなかった可能性以外に、二重結合を持つ脂肪酸は化学的に不安定なため、経年変化により分解された可能性も推測される。

ステロール組成をみると、第7次調査区G地区SD791No.138、SK104No.8ともに動物性のステロール(コプロスタノールとコレステロール)の割合が高い。先にも述べたように、当時のろうそくの原料は植物であることから、分析対象とした黒色物が全てロウ由来するならば、動物性のステロールは検出されないはずである(ハゼノキのステロール組成参照)。また、ハゼノキの種実によく含まれるシステロールは、燭台からは検出されていない。これらのことから、炭化物の中に動物性のものが多く混っていたか、あるいは使用、廃棄、埋設、出土等、燭台がたどった履歴の中で、動物(人?)の油脂が付着したことが推測される。

ところで、顕微鏡観察の結果、「おこげ」状炭化物の表面に草本類?の植物遺体が付着していた。現在行われている伝統的なろうそくの灯心には、和紙とイグサの葉が使われることから、草本類が付着していることは、燭台としての用途と照らし合わせてみても、矛盾しない。

今回の分析の結果、脂肪酸組成は経年変化により化学的に安定な脂肪酸が多くなっており、オレイン酸などは、仮に含まれていたとしても経年変化により激減したと推測される。No.138については、割合は異なるが木ロウ中に含まれる主要な脂肪酸を全て含んでいることから、炭化物の中に木ロウが含まれている可能性はないとはいえない。そうであれば、その中に含まれる植物片は灯心の一部であった可能性もある。しかし、ステロール組成において、動物由来のステロールの割合が高いことと矛盾し、炭化物が動物由来の可能性もある。

脂質分析や顕微鏡観察で得られた結果は、遺物がたどってきたさまざまな履歴が最終的に混じり合ったものを見ていることになる。このため、燭台として使われていたときの残存物が最小限の要質のみで残っていたかどうか、廃棄後に汚染の影響を打ち消すほど高濃度で付着していたかが重要になる。今回の試料の場合、火災によって形成された焼土層なども基本層序にみられることから、本来燭台として燃焼されたときの付着物に加え、火災などによる後天的な付着物の形成も充分想定されるところである。さらに経年変化による変質などの条件が加わることで、燭台で燃焼されていた物質の特定はさらに難しいこととなり、今回は様々な可能性を指摘するにとどまった。今後は、調査事例を増やして類例の脂肪酸組成を蓄積していくとともに、ロウの原料となる物質(たとえば西洋で主流であった蜜ロウなど)についても、可能性のある比較資料について情報を集めていく必要がある。

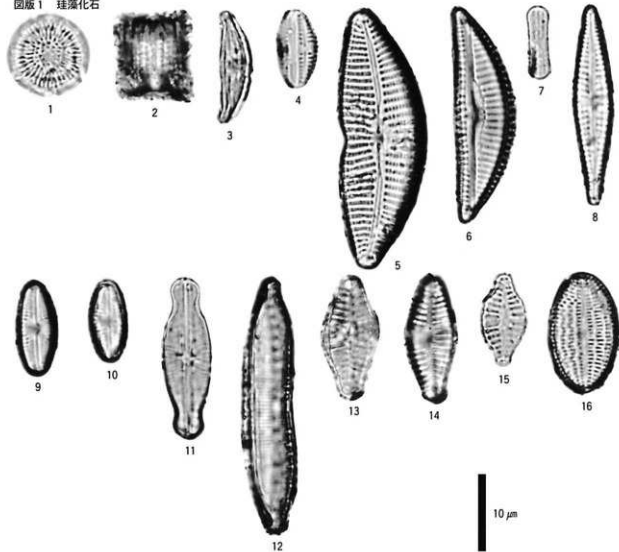
#### 引用文献

- 安藤 一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, 35-47.
- 土壤環境分析法編集委員会編, 1997, 土壤環境分析法. 博友社, 427p.
- 原口 和夫・三友 清史・小林 弘, 1998, 埼玉の産類 珪藻類. 埼玉県植物誌, 埼玉県教育委員会, 527-600.
- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- Hustedt, F., 1937-1938, *Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra*. Nach dem Material der Deutschen limnologischen Sunda-Expedition, Teil I

～Ⅲ, Band. 15, p. 131-506, Band. 16, p. 1-155, 274-394.

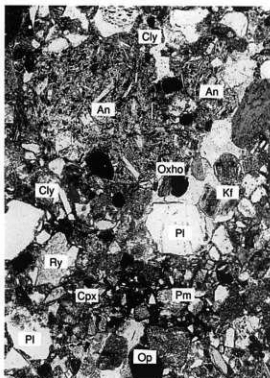
- 伊藤 良水・堀内 誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 小杉 正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
- Krammer, K., 1992, *PINNULARIA. eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26*. J. CRAMER, 353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1986, *Bacillariophyceae. 1. Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/1*. Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1988, *Bacillariophyceae. 2. Teil: Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/2*. Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991a, *Bacillariophyceae. 3. Teil: Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/3*. Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991b, *Bacillariophyceae. 4. Teil: Achnanthaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/4*. Gustav Fischer Verlag, 248p.
- Lowe, R.L., 1974, *Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms*. 334p. In Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.
- 丸山 工作, 1999, 生化学入門, 188p., 裳華房.
- 日本の地質「九州地方」編集委員会, 1992, 日本の地質9 九州地方, 共立出版, 371p.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修, 1967, 新版標準土色帖.
- 奥谷 喬司・窪寺 恒己・黒住 耐二・斎藤 寛・佐々木 猛智・土田 英治・土屋 光太郎・長谷川 和範・濱谷 巖・速水 格・堀 成夫・松隈 明彦, 2000, 日本近海産貝類図鑑. 奥谷喬司編, 東海大学出版会, 1173p.
- ペドロジスト懇談会編, 1984, 土壤調査ハンドブック. 博友社, 156p.
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G. 1990, *The diatoms. Biology & morphology of the genera*. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- 坂井 良輔・小林 正史, 1995, 脂酸分析の方法と問題点. 考古学ジャーナル, 386, 9-16, ニューサイエンス社.
- 坂井 良輔・小林 正史・藤田 邦雄, 1996, 灯明皿の脂酸分析. 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 第7集 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)第二分冊, 財団法人富山県文化振興財団, 24-37.
- 徐 金森・河内 進策, 1988, Characteristics of Major Fatty Acid Components of Haze Wax from Different Cultivars and Habitats. *Mokuzai Gakkaishi*, 34(5), 436-442.
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].
- 吉岡敏和・星住英夫・宮崎一博, 1997, 大分地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 65p.

图版1 珪藻化石

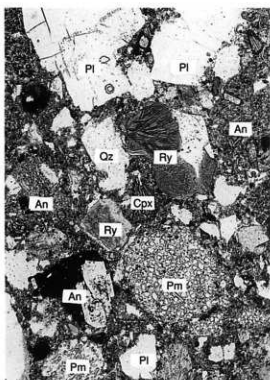


1. *Cyclotella radiosa* (Grun.) Lemm. (SF70; 13硬化面)
2. *Aulacoseira nipponica* (Skvortzow) Tuji (SF70; 13硬化面)
3. *Amphora montana* Krasske (SF70; 土中の貝)
4. *Amphora pediculus* (Kuetz.) Grunow (SF70; 土中の貝)
5. *Cymbella turgidula* Grunow (SF70; 土中の貝)
6. *Encyonema silesiacum* (Bleisch) D.G.Mann (SF70; 土中の貝)
7. *Diadesmis contenta* var. *biceps* (Arnott ex Grunow) Hamilton (SF70; 13硬化面)
8. *Gomphonema gracile* Ehrenberg (SF70; 土中の貝)
9. *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (SF70; 13硬化面)
10. *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (SF70; 13硬化面)
11. *Stauroneis japonica* H.Kobayasi (SF70; 土中の貝)
12. *Hantzschia amphioxys* (Ehren.) Grunow (SF70; 13硬化面)
13. *Planothidium lanceolatum* (Breb.) Round et Bukhtiyarova (SF70; 13硬化面)
14. *Planothidium lanceolatum* (Breb.) Round et Bukhtiyarova (SF70; 13硬化面)
15. *Planothidium rostratum* (Oestrup) Round et Bukhtiyarova (SF70; 土中の貝)
16. *Cocconeis euglypta* Ehrenberg (SF70; 土中の貝)

図版2 胎土薄片



1. 16次 G地区 SF70 第13硬化面



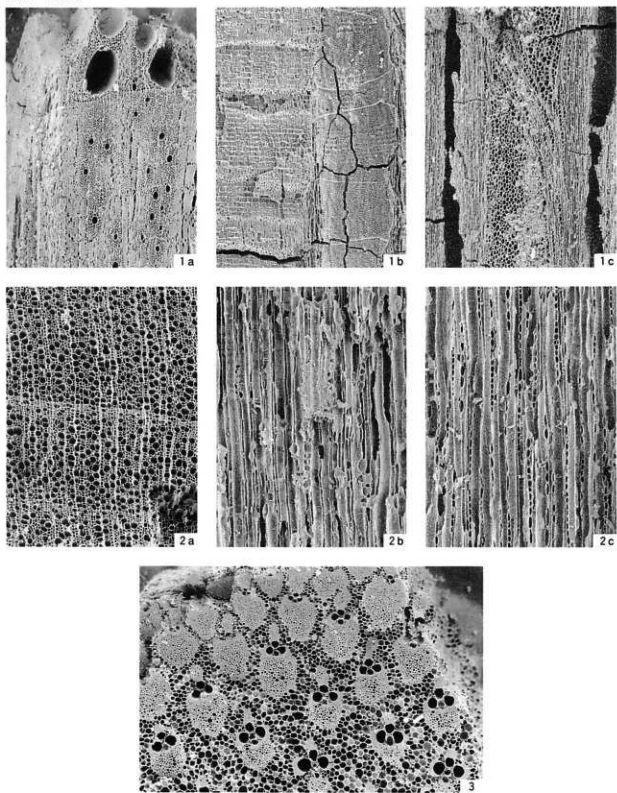
2. 16次 SF70 (土中の貝)



Qz: 石英 Pl: 斜長石 Kf: カリ長石 Cpx: 単斜輝石 Oxho: 酸化角閃石  
Op: 不透明鉱物 Ry: 流紋岩 An: 安山岩 Pm: 軽石 Cly: 粘土  
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

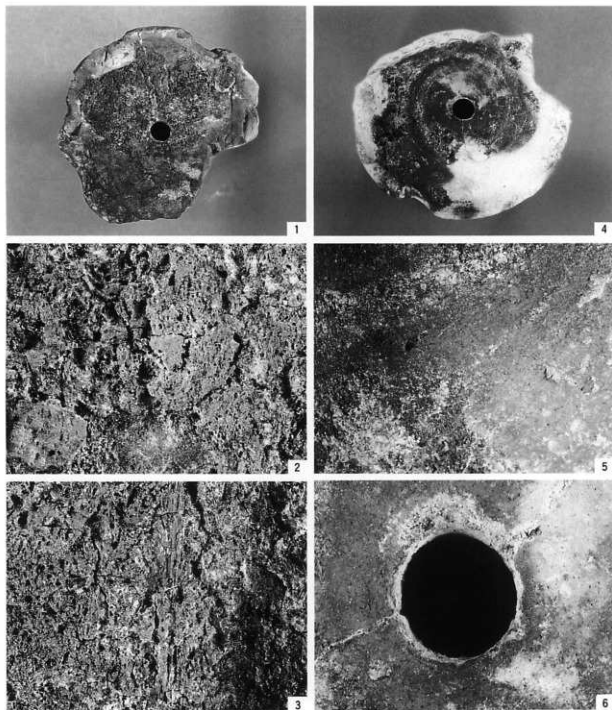
0.5mm

図版3 炭化材

200  $\mu\text{m}$  : 1-2a-3200  $\mu\text{m}$  : 1-2b,c

1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (H区中東2区画; 第3焼土層)a: 木口, b: 木目, c: 板目
2. サカキ (F・G地区; 第2焼土層中) a: 木口, b: 木目, c: 板目
3. イネ科タケ亜科 (H地区中; 第2焼土層中) 横断面

図版4 土器(燭台)



1 cm 5 mm  
(1, 4) (2, 3, 5, 6)

1. 燭台 (SD791-138)
2. 燭台 (SD791-138)
3. 燭台 (SD791-138)
4. 燭台 (SK104-8)
5. 燭台 (SK104-8)
6. 燭台 (SK104-8)

## 第5章 総括

JR日豊・豊肥線の高架化事業に伴う中世大友城下町跡の発掘調査は1999年度に開始され、2002年度に現場での作業はほぼ終了した。発掘調査区は、東は大分川の河畔から大友氏館の南側を通り、西は「府内古園」の西側にあたる低湿地部におよび、その間は約700mであり、中世都市「豊後府内」を東西に横断する形状となった。本書はその2冊目の調査報告書である。掲載された調査位置は、「府内古園」上で、西は大友氏館前を南北に貫く街路（第2南北街路）の東側から、東は第1南北街路を經由して、大分川の川原敷までである。この発掘調査範囲は、いずれの「府内古園」でも、御所小路町、上市町と清忠寺町にあたり、なかでも第1南北街路そのものが検出されることが想定された。

調査の結果、この調査範囲のなから、14世紀から17世紀初頭にいたる遺構が継続的に認められた。特に第1南北街路の道路遺構は推定どおりの位置に発見された。同時に「府内古園」に描かれた16世紀後葉の遺構として、府内町跡第7次調査区において第1南北街路の東西に清忠寺町の地割を、府内町跡第16次調査区では上市町の地割を確認した。いずれも同じ2間を最小とする短冊型地割であることから、この付近が町人町であったという推定を裏付けた。一方の御所小路町でも、東西に伸びる道路の一端と、その南北に連なる区画を確認し、この町が武家屋敷からなることを推定した。

さらに第7次調査区の下層からは、8世紀末から9世紀中葉の掘立柱建物群を確認し、その建物群を大分川をわたる渡河点に設けられた古代官衙関連施設であることを推定した(第2章第10節)。また新しいところでは、太平洋戦争末期の高射機砲撃地帯を発見している。

以下に第7次調査と第16次調査に共通するいくつかの問題を指摘し、将来の調査・検討に備えたい。

### 1) 中世以前の府内

古代の大規模な遺跡が第7次調査区を中心に広がることはすでに、第2章で詳述したが、その後をふくめて大分川西岸の微高地の土地利用の歴史をふり返ることが必要であろう。

まず縄文時代後期ないし晩期の遺物が府内町跡第7次調査区や府内町跡第5次調査区で見つかっている。いずれも包含層や中世の遺構に残留したものであるが、そのほとんどは摩滅している。第7次調査区では井戸の底の標高1m前後にあたる透水層の砂礫堆積から縄文土器片が出土しているの、本来そのような標高の低い位置に存在していた遺物が、後世の井戸や溝の掘削で上に上がってきたものと考えられる。

同様に弥生時代から古墳時代前期の遺物も遺構を伴っていない。多くは、中世の遺構に残留した遺物であって、一部は中世の溝や土坑の壁面にかかって採集されたものである。いずれも標高3~4mの暗褐色の粘土層(基盤V層と呼んだ堆積)から出土したものである。遺構は明確ではないが、古代や中世の遺構検出前のかなり下に、弥生時代から古墳時代の生活面あるいは包含層が存在している可能性がある。そこで、その時期をやや詳しく見ると、土器は弥生時代前期末の罌に始まり、下城式土器の罌、後期の安河寺式の罌、古墳時代前期の高坪・罌など、ほぼ時期的に途絶えることなく遺物が採集されている。したがってその時期には比較的安定した微高地が形成され、規模は不明だが集落が形成され継続していたものと考えられる。

ところが以上の包含層の上には1mあまりの砂層(基盤III層あるいはIV層とした無遺物層)がある。おそらく微高地が不安定となって大分川の洪水に繰り返し遭遇したものと推定される。それ



集落の後退	<p>を表付けるように古墳時代中後期から7世紀の遺物がほとんど発見されなくなる。特にこの時期の指標となる須恵器と土師器はほとんどない。わずかに府内跡第5次調査区で土師器の瓶が出土しているに過ぎない(「豊後府内1」P206第248図8)。おそらく微高地の不安定化に伴って、集落は撤退し、この場所は荒野となり、それまでの土地利用のありかたが変化した可能性が高い。かわりに注目される遺物は、円筒埴輪である。第7次調査区F地区の中世溝SD538に残留した円筒埴輪の底部片(第2-63図57)は、中期後半から後期前半の近畿南部に起源する淡輪型埴輪の底部によく似ている。さらに第5次調査区B区からは突帯が低くなった後期前半の円筒埴輪の胴部片2点がいずれも中世の遺構に残留して発見されている(「豊後府内1」P206第248図8)。この2種の埴輪は明らかに時期が異なるので、少なくとも2基の古墳からもたらされたものである。後者に類似する川西福年V期の円筒埴輪<sup>(41)</sup>は、大分川を隔てた対岸の下郡遺跡第99次調査区でも発見されている(「下郡遺跡群」Ⅲ、P221第181図SX057-001、2005、大分市教育委員会)。今近隣にこの埴輪を樹立した古墳を見出すことができないが、おそらく近接地の古墳から流出したものと考えられる。出土した、埴輪はそれほど摩滅していないので、比較的近くから移動したものと推定される。したがってこの微高地付近に埴輪を有する古墳が存在した可能性が高いのである。だとすれば荒野と化したこの地は、墓地として利用されていた可能性がでてくる。</p>
古代	<p>その後再び集落がこの微高地に進出するのは、8世紀から9世紀にかけてである。この時期には豊後国府から海部郡街に向かう「海部路」とよんだ古代道路がこの微高地に存在したことが想定され、第7次調査区ではその道路の渡河点に關わる官衙的遺跡を発見している。ほかに府内町跡第6次調査区や第10次調査区では同時代の井戸が発見されているので、道路や官衙のみではなく集落もまた進出していることは明らかである(「南雲都市・豊後府内」2001、大分市教委・中世都市研究会)。遺物の面でも8世紀後半の須恵器と土師器、9世紀の土師器のほか、黒色土器A類碗、緑釉陶器、越州窯青磁などが出土している。古代の道路を設けることが可能であったことから考えると、再びこの微高地は安定化したものと考えられる。</p>
10～13世紀の空白	<p>しかし、その後不思議なことに、この場所は10世紀から13世紀の遺構をほとんど見出すことができない。遺物は少数ながらその時代の白磁・青磁が発見されているので、人の出入りがあったことは確実であるが、集落やまして都市が存在した可能性は極めて少ない。事実この付近は11世紀の文献資料では「藤津留田」として記載され、後世に都市府内となるほとんど全域が「荒野空間の地」として開発の申請が行われているのである(木村幾多郎「高国府・藤津留考」「大分・大友土器研究」18・19、1997、大分・大友土器研究会)。当時の開発申請が桑島などを意図したもので、水田開発でないことは明らかであり、11世紀の遺構遺物が<sup>(42)</sup>存在しない調査成果とよく符合する。</p>
14世紀以後	<p>そして14世紀ごろからは中世府内全域で、密度と内容の差がありながら、多数の遺構や遺物を見出すことができるようになる。おそらく徳治元(1306)年の万寿寺建設が開発の端緒となった可能性がたかい。飯沼賢治氏によれば、万寿寺は中世府内で最古の寺院であり、寺院を中心として都市</p>
都市化	<p>に発展する姿は博多とよく似ているという。しかしそう考えると11世紀の文献にみえる「田中寺」や1242年の府内を対象とした都市法「新御成敗状」の記載とはなほ矛盾することとなる。万寿寺以前の遺構がほとんどないところからみて、「新御成敗状」は13世紀中ごろのこの遺跡の実態にあった法令ではない。13世紀の府内がこの場所ではないと考えない限り、1242年の豊後府内には発達した町場が開闊していた可能性が低いという山村重希氏の見解<sup>(42)</sup>が妥当性を持っていると言えるだろう。</p>

註1 川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』64-2、1978、日本考古学会

註2 山村重希「中世前期都市の空間構造と都市像」『人文地理』54-6、2002、

## 2) 16世紀初頭における都市府内の画期

第7次調査区と第16次調査区の成果として、16世紀の第3四半期に起こった大規模な復興時に、清忠寺町と上市町に短冊型地割が導入され、それまでの区画を分割ないしは再区分した、いわば都市整備が行われたことが明らかになった。それは中世都市府内の歴史の上でも大きな画期といえるが、それ以前の15世紀末から16世紀の初めごろにも大規模な都市整備が行われている。まず、第1南北街路がSF70とSF183という新しい道路として付け替えられ、その工事に伴って両側では新たな整地が行われている。その時点での都市整備の要点は①やや西に幅7m強の新たな第1南北街路を建設する。②第1南北街路の両側に整地を行う。③その結果15世紀までの道路に並行する溝が埋没し、道路に面して開かれた宅地が区画される。道路に並行する溝がなくなることで、道路に面した区画の一端が、町屋として利用できるようになる。したがって16世紀初頭の府内整備の特色は第1南北街路の両側に道路に面した両側町が建設されたことにあると推定される。おそらく清忠寺町・上市町などの16世紀後半の両側町の形成は、この時点にさかのぼると考えられることである。

さらにその時期の府内の都市整備は第1南北街路とその周辺の清忠寺町や上市町のみでなく、府内跡第5次B調査区では、林小路町とのこぎり町と第4南北街路の接点となる三叉路（SD151、SD153、SD413など）が整備されている<sup>註3</sup>。それだけでなく、第4南北街路に入口を設ける寺院を調べると、臨濟宗南禅寺派の大智寺は、はじめ14世紀に海部郡の丹生郷に建てられた後、大友義右が明応2（1493）年に現在地に再興したものである。同じく大雄院は大友義右創建とも大友義長が永正年中（1504～1521年）に建立したのもという。また横小路と西小路も、そこに入口が取り付く浄土宗米連寺が大友親治によって文亀年中（1501～1504）年に創建されている。こうしてみると15世紀の末から16世紀の初めごろは、中世都市府内における寺院成立の画期でもあることがわかる。しかもこれらの寺院は、それまで寺院のなかった第4南北街路や、同じく西小路・横小路に初めて造られたことが注目される。おそらく寺院建設に先立って、あるいはほぼ同時に、第1南北街路と同様な道路整備が行われて、そこに面して寺院を配置したと考えられる。したがってこの15世紀末から16世紀初頭の都市府内の整備は、第2と第3南北街路を除く、第1南北街路と第4南北街路と林小路町に通じる東西の街路、横小路と西小路に及ぶ広範囲のものであった可能性が高い。

以上のように、16世紀初頭前後のこの段階でほぼ戦国時代の都市府内の主要街路の骨格ができあがったものと推定される。その意味で、中世府内の歴史の中でもこの時期は注目すべき画期と考えられる。

16世紀初頭の  
都市整備第1南北街路  
の付け替え

両側町の形成

第4南北街路

横小路・西小  
路16世紀初頭の  
都市整備

註3 吉田寛「中世大友府内町跡第5次調査A区」「豊後府内」1（大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告1）2005、大分県教育庁埋蔵文化財センター

# 遺構一覽表

第 7 次調査区遺構一覽表①

本報告での遺構番号	調査番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	埋没深	
第 1 層土層	S9-1	築土層	C 地区 (C 5 区)	G45区	1977年	自衛隊事務所	240
第 2 層土層	S9-2	築土層	C 地区 (C 4 ~ 6 区)	G44~G45区	16世紀第 3 期半葉	—	235
第 3 層土層	S9-3	築土層	C 地区 (C 4 ~ 6 区)	G44~G45区	16世紀第 1 期半葉	—	—
S9301	S9-1	竪立柱建物	C 地区 (C 5 ~ 6 区)	G44b~G45a 区	現代	—	263
S9302	S9-2	竪立柱建物	G 地区	F35区	16世紀第 4 期半葉	—	61
	P-984	柱穴	G 地区	F35a 区	—	—	61
	P-939	柱穴	G 地区	F35C 区	—	—	61
	P-962	柱穴	G 地区	F35C 区	—	—	61
	P-941	柱穴	G 地区	F35c 区	—	—	61
	P-937	柱穴	G 地区	F35C 区	—	—	61
	P-934	柱穴	G 地区	F35d 区	—	—	61
	P-935	柱穴	G 地区	F35d 区	—	—	61
	P-914	柱穴	G 地区	F35d 区	—	—	61
	P-963	柱穴	G 地区	F35b 区	—	—	61
S9303	S9-3	竪立柱建物	G 地区	F35区	16世紀第 4 期半葉	—	62
	P-922	柱穴	G 地区	F35d 区	—	—	62
	S-707	柱穴	G 地区	F35ab 区	—	—	62
	P-922	柱穴	G 地区	F35c 区	—	—	62
	S-760	柱穴	G 地区	F35c 区	—	—	62
	P-916	柱穴	G 地区	F35d 区	—	—	62
	P-977	柱穴	G 地区	F35d 区	—	—	62
	P-933	柱穴 (≠P1005)	G 地区	F35d 区	—	—	62
	P-955	柱穴	G 地区	F35d 区	—	—	62
	P-905	柱穴	G 地区	F35d 区	—	—	62
S9304	S9-4	竪立柱建物	G 地区		古代	—	20
	S-708	柱穴	G 地区	F35b	古代	—	20
	S-767	柱穴	G 地区	F35b	—	—	20
	S-768	柱穴	G 地区	F35d	—	—	20
	S-769	柱穴	G 地区	F35d	—	—	20
S9305	S9-5	竪立柱建物	G 地区	E32	古代	帯状建物	15
	P-1026	柱穴	G 地区	E32	—	—	15
	P-1027	柱穴	G 地区	E32	—	—	15
	P-1028	柱穴	G 地区	E32	—	—	15
	P-1029	柱穴	G 地区	E32	—	—	15
	P-1030	柱穴	G 地区	E32	—	—	15
S9306	S9-6	竪立柱建物	G 地区	F33, F33a, F34, E34	古代	8 ~ 9 世紀、2 箇の遺て替え	16
S9306A	P-1079	柱穴	G 地区	F33a	古代	柱礎、周囲に小礫瓦	16
	P-1073	柱穴	G 地区	F33c	古代	柱礎、周囲に小礫瓦	17
	P-767	柱穴	G 地区	F33c	古代	南側に小礫瓦、土師器小段埴輪、帯状遺構	17
	SP-785	柱穴	G 地区	E33a	古代	下層、周囲に小礫瓦。	17
	SP-786	柱穴	G 地区	E33a	古代	—	19
	SP-788	柱穴	G 地区	E33a	古代	—	20
S9306B	P-1092	柱穴	G 地区	F33a	古代	—	20
	P-1044	柱穴	G 地区	F33c	古代	—	20
	P-1093	柱穴	G 地区	F33c・E33a	古代	—	20
	SP-785	柱穴	G 地区	E33a	古代	上層、礫石あり。	20
	P-1078	柱穴	G 地区	F33b	古代	柱礎不明	20
	P-1075	柱穴	G 地区	F33d	古代	—	20
	P-1067	柱穴	G 地区	F33d	古代	—	20
	S-808	柱穴	G 地区	E33b	古代	—	22
	S-774	柱穴	G 地区	E33b	古代	—	22
S9306C	P-1051	柱穴	G 地区	F33c	古代	柱礎あり、土師器埴輪残片	23
	P-1043	柱穴	G 地区	F33c	古代	—	23
	P-1054	柱穴	G 地区	F33a	古代	—	23
	S-804	柱穴	G 地区	E33a	古代	—	23
	S-783	柱穴	G 地区	E33a	古代	—	23
	S-778	柱穴	G 地区	E33b	古代	—	23
	S-777	柱穴	G 地区	E33b	古代	—	23
	P-1074	柱穴	G 地区	F33d	古代	—	23
	S-795	柱穴	G 地区	F33d	古代	—	23
	SP-809	柱穴	G 地区	E33b	古代	—	23
	P-1033	柱穴	G 地区	E33b	古代	—	23
	P-1066	柱穴	G 地区	F34c	古代	—	23
	P-1037	柱穴	G 地区	F34c	古代	—	23
	SP-807	礫石	G 地区	F34c	古代	—	23
	SP-806	礫石	G 地区	E34a	古代	—	23
	SP-805	礫石	G 地区	E34a	古代	—	23
S9307	S9-7	竪立柱建物	G 地区	G32d	古代	—	16
	P-905	柱穴	G 地区		—	—	16
	P-929	柱穴	G 地区		—	—	16
S9308	S9-8	竪立柱建物	G 地区	F33, E33区	中層 (15世紀)	—	36
	S-742	柱穴	G 地区	F33c 区	15世紀	P1069と同じ。	—
	S-794	柱穴	G 地区	E33a 区	15世紀	—	36
	P-1031	柱穴	G 地区	E33a 区	15世紀	—	36
	P-1082	柱穴	G 地区	E33c 区	15世紀	—	36

第7次調査区遺構一覧表②

本調査での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の名称	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	総頁	
	S-779	柱穴	G 30区	E33a 区	15世紀	柱礎あり	37
	P-1011	柱穴	G 30区	E33a 区	15世紀	—	37
	S-781	柱穴	G 30区	E33a 区	15世紀	—	37
	P-1036	柱穴	G 30区	E33a 区	15世紀	—	37
	P-1032	柱穴	G 30区	E33a 区	15世紀	—	39
	P-1034	柱穴	G 30区	E33a 区	15世紀	—	39
SB309	SB-9	竪立柱礎物	F 30区	古代	—	28	
	P-714	柱穴	F 30区	G37d	古代	柱礎あり	28
	P-713	柱穴	F 30区	F37b	古代	柱礎あり	28
	P-712	柱穴	F 30区	F37b	古代	柱礎あり	28
	P-706	柱穴	F 30区	F37b	古代	柱礎あり	28
	P-705	柱穴	F 30区	F37d	古代	柱礎あり	28
	P-704	柱穴	F 30区	F37d	古代	柱礎あり	28
	P-701	柱穴	F 30区	G37d	古代	柱礎あり、覆書土層(1号)出土	28
	P-700	柱穴	F 30区	G38c	古代	柱礎あり	28
	P-703	柱穴	F 30区	F37d	古代	柱礎あり	28
	P-702	柱穴	F 30区	F37d	古代	柱礎あり(≒P611)	29
	P-699	柱穴	F 30区	G38c	古代	柱礎あり(≒P657)	29
	P-698	柱穴	F 30区	F38a	古代	柱礎あり(≒P651)	29
	P-697	柱穴	F 30区	F38a	古代	柱礎あり	29
	P-696	柱穴	F 30区	F38c	古代	柱礎あり(≒P641)	30
	P-695	柱穴	F 30区	F38c	古代	柱礎あり(≒P643)	30
	P-694	柱穴	F 30区	F38c	古代	柱礎あり(≒P680)	30
	P-711	柱穴(礎)	F 30区	F38a	古代	柱礎あり	30
	P-710	柱礎(礎)	F 30区	F38a	古代	—	30
	P-693	柱穴(礎)	F 30区	F38c	古代	柱礎あり	30
	S-567	柱穴(礎)	F 30区	F38c	古代	柱礎あり(≒P639)	30
SA311	SA-1	溝列	G 30区	E32-33区	16世紀第1期半葉	喪失	48
	P-1020	柱穴	G 30区	E32d	々	—	48
	P-1018	柱穴	G 30区	E32d	々	—	48
	P-913	柱穴	G 30区	E32d	々	—	48
	P-912	柱穴	G 30区	E32d	々	—	48
	P-911	柱穴	G 30区	E32d	々	—	48
	P-910	柱穴	G 30区	E33c 区	々	変化した柱礎	48
	P-909	柱穴	G 30区	E33c 区	々	変化した柱礎	48
	P-908	柱穴	G 30区	E33c 区	々	変化した柱礎	48
	P-902	柱穴	G 30区	E33c 区	々	—	48
	P-900	柱穴	G 30区	E33d 区	々	—	48
	P-1059	柱穴	G 30区	E33d 区	々	変化した柱礎	48
SA312	SA-2	柱穴列	D 30区	G43b 区	16世紀後半	何層も再建された区画施設	137
	SK173	土塊	D 30区	G43a 区	16世紀第4期半葉	—	138
	P-125	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	16世紀後半	—	138
	P-136	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	赤切土層1点	138
	P-137	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	管線跡	138
	P-138	柱穴	D 30区	G43a 区	16世紀第4期半葉	赤切土層跡、覆書土層跡3層1点	138
	P-139	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	—	138
	P-140	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	鏡筒1枚、赤土層	138
	P-114	P140の礎石	D 30区	G43a 区	中世	赤切土層1点、S145を切る	138
	P-141	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	—	138
	P-142	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	—	138
	P-143	柱穴	D 30区	G43a 区	16世紀後半	—	139
	P-144	柱穴	D 30区	G43a 区	16世紀後半	—	139
	P-145	柱穴	D 30区	G43b 区	16世紀後半	赤切土層跡正位で埋没。	139
	P-164	(人土)	D 30区	G43a 区	16世紀第4期半葉	—	139
	P-168	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	赤切土層	139
	P-169	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	赤切土層	139
	P-170	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	管線跡1点。	139
	P-171	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	赤切土層	139
	P-172	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	赤切土層ほか。	139
	P-173	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-174	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	赤切土層ほか。	139
	P-179	柱穴	D 30区	G43a 区	16世紀	赤切土層1点、鏡筒1枚埋没の層に	139
	P-180	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-181	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-182	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-183	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-187	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-189	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-190	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-195	柱穴	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-196	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	16世紀	赤切土層、口口目土層ほか	139
	P-197	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	—	139
	P-198	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	16世紀第3期半葉	柱穴列の一つ	139
	P-205	(人土) ビット	D 30区	G43a 区	中世	—	139
SA313	SA-3	柱穴列	D 30区	G42/43区	16世紀後半	—	139

第7次調査区遺構一覧表③

本報告での 遺構番号	田遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載 頁	
	P-82	(人海)	D地区	G42d区	16世紀	—	139
	P-83	柱穴	D地区	G43c区	中世	—	139
	P-84	柱穴	D地区	G43c区	不明	古代土師器1点	139
	P-88	柱穴	D地区	G42d区	16世紀後半	—	139
	P-90	柱穴	D地区	G43c区	中世	—	139
	P-132	(人海) ビット	D地区	G42d区	不明	—	139
	P-133	(人海) ビット	D地区	G42d区	不明	—	139
	P-158	(人海)	D地区	G43c区	中世	—	139
	P-193	(人海) ビット	D地区	G43c区	不明	—	139
	P-194	(人海) ビット	D地区	G43c区	中世	—	139
SA314	SA-4	柱穴列	C地区	16世紀第3四半期	—	234	
	P-216	(人海) ビット	C地区	G45a区	16世紀第3四半期	—	235
	P-217	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	IV層上面、遺物なし。	235
	P-218	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	IV層上面、遺物なし。	235
	P-227	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列、青花1点。	235
	P-228	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列、白磁皿2点	235
	P-229	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列、★銅製鍵(ツ3)	235
	P-230	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列	235
	P-251	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列	235
	P-252	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列	235
	P-253	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列	235
	P-256	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列	235
	P-257	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列	235
	P-274	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列	235
	P-297	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第3四半期	IV層上面、ビット列	235
SD321	SD-1	溝	D地区	G41～44区	近現代	—	263
SD322	SD-2	2つの土坑	D地区	G42区	17世紀	SK140とSK141に解消。	195
SE331	SE-1	井戸	D地区	G41～F41区	16世紀第4四半期	井桁は構と凝灰岩板石の組み合わせ。	179
	SX-1	浅い層上面のくぼみ	C地区 (C6区)	G44b区	1587年	→第1積土層	—
SK342	SX-2	浅い窪み	C地区	G44d区	近代以後	—	265
SK343	SX-3	性格不明	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第4四半期	—	240
SK344	SX-4	高材貯倉跡	E地区	G40・F40区	1945	製塩と接続	263
SK345	SX-5	廃家残	E地区	F38bd区	1945	廃棄土坑	264
SK346	SX-6	惣領屋の一部・多くは土坑(土層:111-113・120・127-128・135-136)に9層	E地区	G38・39区、F39区	16世紀第4四半期	—	163
SK347	SX-7	3つの土坑	E地区	F39a区	1596～17世紀初頭	—	189
SK348	SX-8	不明	E地区	F39b区	不明	—	—
SK349	SX-9	惣領屋の一部	E地区	F39d区	—	遺構ではない	—
SK350	SX-10	土坑	E地区	G39a区	16世紀後半	—	149
SK1	SK-1	土坑	C地区 (C1・2区)	G46b～G47a区	16世紀第2四半期	火災処理土坑	232
SK2	SK-2	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	火災処理土坑	240
SK3	SK-3	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	—	240
SK4	SK-4	長方形土坑	C地区 (C4区)	G45b区	1596～17世紀初頭	—	246
SK5	SK-5	土坑	C地区 (C6区)	G44b区	1587年—	火災処理土坑	245
SK6	SK-6	土坑	C地区 (C6区)	G44b区	17世紀初頭	—	246
SK7	SK-7	小土坑	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第4四半期	—	240
SK8	SK-8	土坑	C地区	G44b区	16世紀第4四半期	—	240
SK9	SK-9	土坑	D地区	G43d区	16世紀第1四半期	銅銭9枚と土師器を埋めた祭祀遺構	125
	SK-10	浅いくぼみ	D地区	—	文書	地下中心に消失	—
SK11	SK-11	墓石土坑	D地区	F41a区	16世紀第4四半期	廃棄土坑、鎌倉中廃棄	151
SK12	SK-12	土坑	D地区	G41d区	16世紀第3四半期	廃棄土坑	145
SK13	SK-13	祭祀のち廃家残	D地区	G43a区	16世紀第4四半期(1587前後)	京都系土師器・小皿3枚埋置	188
SK14	SK-14	墓石	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	—
	SK-15	→SK184	C地区 (C4区)	G45c区	—	—	—
	SK-16	—	C地区 (C4区)	G45c区	—	—	—
SK17	SK-17	廃家残	D地区	G41b区	16世紀第3四半期	廃棄土坑	145
SK18	SK-18	土坑	D地区	G42cd区	16世紀第4四半期	廃棄土坑、鎌倉中廃棄	151
SE19	SE-19	井戸	D地区	G41bd区	16世紀第3四半期	井桁は構使用、柱取り痕。	146
SK20	SK-20	土坑	D地区	G43d区	16世紀	糸切土師器小皿1粒置きに埋置	203
SK21	SK-21	土坑	D地区	G43d区	16世紀	—	203
SK22	SK-22	土坑	E地区	F39c区	1596～17世紀初頭	—	190
SK23	SK-23	(自然)	E地区	—	—	遺構ではない	—
SK24	SK-24	土坑	E地区	F39b区	16世紀第4四半期	—	174
SK25	SK-25	土坑	E地区	F39a区	不明	—	—
SK26	SK-26	土坑	E地区	F39a区	中世	糸切土師のみ	—
SK27	SK-27	土坑	E地区	F39c区	近現代	—	265
SK28	SK-28	土坑	E地区	F39b区	中世	瓦貫火打片1点。	—
SK29	SK-29	惣領屋の一部	E地区	—	—	遺構ではない	—
SK30	SK-30	土坑	E地区	G39cd区	16世紀後半	—	149
SK31	SK-31	土坑	E地区	G39d区	16世紀第2四半期	—	136
SK32	SK-32	土坑	E地区	G39c区	不明	遺物なし。SK33を切る。	—
SK33	SK-33	土坑	E地区	G39c区	16世紀	—	202
SK34	SK-34	土坑	E地区	G39d～G40c区	16世紀第3四半期	—	140
SK35	SK-35	土坑	E地区	G39d区	16世紀第4四半期	—	184
SK36	SK-36	土坑	E地区	G39d区	16世紀第4四半期	—	163

第7次調査区遺構一覧表④

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	総頁	
SK37	SK-37	土坑	E地区	G39c区	16世紀第4四半期	産業土坑	161
SK38	SK-38	土坑	E地区	G39d区	16世紀第3四半期	—	141
SK39	SK-39	土坑	D地区	G40区	17世紀初頭	産業土坑	201
SK40	SK-40	土坑	E地区	G40c区	16世紀第4四半期	産業土坑	158
SK41	SK-41	産業坑	E地区	F41a区	16世紀第4四半期	赤切土師器2枚埋置後、産業土坑に転用。	155
SK42	SK-42	土坑	E地区	G39d区	不明	—	—
SK43	SK-43	集石土坑	E地区	F41a区	16世紀第4四半期	産業土坑	—
SK44	SE108内部土坑	土坑	E地区	G41c区	17世紀初頭	産業土坑	191
SK45	SE311内部土坑	土坑	D地区	G42d~F41b区	17世紀初頭	産業土坑	194
SK101	SK-101	土坑	E地区	G40d区	16世紀第3四半期	産業土坑	149
SK102	SK-102	土坑	E地区	G40d区	16世紀第2四半期	産業土坑に転用	133
SK103	SK-103	土坑	E地区	G40c~G41a区	16世紀後半	産業土坑	149
SK104	SK-104	産業坑	E地区	G40d区	16世紀第4四半期	産業土坑	159
SK105	S-105	土坑	E地区	G40d~G41c区	16世紀第3四半期	京都系土師器小皿1枚埋置	141
SK106	SK-106	土坑	E地区	F39c区	1596~17世紀初頭	—	190
SK107	SK-107	土坑	E地区	F40a区	1935~1945	戦争遺跡	265
SE108	SE-108	井戸	E地区	G41c・F41a区	16世紀第4四半期	井戸は補修跡。採取り痕。	175
SK109	SK-109	産業坑	E地区	F40b~F41a区	16世紀第4四半期(1575~1587)	産業土坑	143
SK110	SK-110	産業坑	E地区	F41a区	16世紀後半	産業土坑	152
SD111	SD-111	溝	E地区	G39c~F39a区	16世紀第2四半期	南北溝	134
SK112	SK-112	産業坑	E地区	G40c区	16世紀第4四半期	貝類の産業土坑	156
SK113	SK-113	土坑	E地区	G40d区	16世紀第4四半期	産業土坑	159
SK114	SK-114	産業坑	E地区	G39c~F39a区	16世紀第4四半期	産業土坑、青花水注器手、16次 SP311と接合	163
SK115	SK-115	産業坑	D地区	G43c区	16世紀	15世紀の土坑 SK119を切る	—
SK116	SK-116	土坑	D地区	G42d~43c区	不明	3つの小土坑の重層	—
SK117	SK-117	土坑	D地区	G42d区	不明	PS5を切る。	—
SK118	S-118	土坑	D地区	G42d区	14~15世紀	—	115
SK119	S-119	土坑	D地区	G42d~G43c区	15世紀	—	114
S-120	遺構でないかも	土坑	D地区	G43c区	—	赤切土師1点	—
S-121	(入倉)	土坑	D地区	G43od区	現代	埋没	—
SP122	S-122	柱穴	E地区	G40c区	中世	中世陶器片1点。	263
SK123	SK-123	土坑	E地区	F39b区	16世紀	ロウロ目土師1点の破片が出土	—
SK124	S-124	土坑	E地区	GF40~41区	16世紀前半	3つの小土坑の重層	130
SK125	S-125	土坑	D地区	G41d区	16世紀第2四半期	産業土坑	133
SK126	SK-126	産業坑	E地区	G38d~G39c区	16世紀第4四半期	産業土坑	171
SK127	SK-127	土坑	E地区	G39c区	16世紀第4四半期	産業土坑	167
SK128	SK-128	土坑	E地区	G39c区	16世紀第4四半期	産業土坑	174
SK129	SK-129	埋納坑	E地区	F40a区	16世紀第3四半期	京都系土師器小皿1枚埋置	142
SK130	SK-130	土坑	E地区	G39c区	16世紀第4四半期	産業土坑	169
SK131	S-131	土坑	E地区	G40d区	16世紀第3四半期	—	149
SK132	SK-132	土坑	E地区	G40d区	16世紀第3四半期	赤切土師2枚埋置	145
SK133	SK-133	土坑	E地区	G40c区	16世紀第4四半期	産業土坑	157
SK134	S-134	土坑	D地区	G41d区	16世紀第2四半期	産業土坑	133
ST135	S-135	墓	E地区	G39c区	16世紀第3四半期	積石による塚群。	148
SK136	SK-136	土坑	E地区	G38d区	16世紀第4四半期	—	171
SK137	SK-137	土坑	E地区	G40c区	16世紀第3四半期	—	140
SK138	S-138	土坑	D地区	G41d区	16世紀第4四半期	産業土坑	153
SK139	S-139	方形土坑	D地区	G41c区	近現代	地下倉	263
SK140	S-140	石箱み土坑	D地区	G42c区	1596~17世紀初頭	産業土坑	196
SK141	SK-141	埋納?	D地区	G42c区	1596~17世紀初頭	地下倉あるいは便所	158
SK142	SK-142	土坑	E地区	G41d区	古代	—	31
SK143	S-143	竪地層	D地区	G42bd~G43c区	16世紀第2四半期	生活面のくぼみを埋めた竪地層。	131
SK144	S-144	土坑	D地区	G42d区	16世紀第1四半期	ロウロ目土師皿1枚埋置	128
SK145	S-145	整理した床面	D地区	G42b区~G43a区	16世紀第4四半期	1587年以前	164
SK146	SK-146	穴瓦埋置坑	D地区	G42b区	16世紀第4四半期	1587年直後	185
SK147	S-147	土坑	D地区	G42a区	15世紀第3四半期	産業土坑	150
SK148	SK-148	産業坑	D地区	G42a区	16世紀第2四半期	産業土坑	113
SK149	S-149	産業土坑	D地区	G42a区	15世紀末	—	134
SK150	S-150	土坑	D地区	G42b区	16世紀第1四半期	—	129
SK151	SK-151	土坑	D地区	G42d~G43c区	16世紀第1四半期	ロウロ目土師皿2枚埋置	129
SK-152	SK-152	土坑	D地区	G43~44区	埋没	—	105
SE153	S-153	土坑	D地区	G42b区	15世紀	—	115
SK154	SK-154	小土坑	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第4四半期~1587	—	248
SK155	S-155	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第4四半期	—	230
SK156	S-156	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第4四半期~1587	—	247
SK157	S-157	土坑	D地区(C4区)	G45a区	17世紀初頭	—	266
SK158	S-158	船型土坑	D地区(C4区)	G45ab区	1596~	土敷り痕。船上位に焼土層	243
SK159	SK-159	土坑	D地区	G42bd区	16世紀第1四半期	産業土坑	128
SK160	SK-160	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	—	241
SK161	S-161	(整地層)	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	—	239
SK162	S-162	土坑	C地区(C6区)	C44d区	16世紀第1四半期	—	209
SK163	S-163	土坑	C地区(C3区)	G46c区	16世紀第1四半期	土師器皿1枚埋置後産業土坑に	210
SK164	S-164	土坑	C地区	G46b区	15世紀	—	214
SK165	SK-165	土坑	C地区(C3区)	G46a区	16世紀第4四半期	—	138
SK166	SK-166	方形土坑	C地区	G46b区	16世紀第4四半期	円筒瓦溝	238

第7次調査区遺構一覧表(5)

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載 頁	
SK167	S-167	壁土層	D地区	G42d区	16世紀第2四半期	生活面のくぼみを埋めた壁土層。	133
SK168	SK-168	土坑	D地区	G42d~G43a区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	127
SK169	SK-169	土坑	D地区	G42d~G43a区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	127
SK170	S-170	土坑	C地区(C3区)	G46a区	1587~1596	—	245
SK171	S-171	土坑	C地区(C2区)	G46b区	中世	青磁1点、赤切土跡3点。	—
SK172	SK-172	竪穴	D地区	G43a区	16世紀第1四半期	コウロ目土師器2枚埋置	125
	S-173	⇒SK312	D地区	G43a区	16世紀第4四半期	—	—
SK174	S-174	土坑	D地区	G43a区	16世紀第2四半期	コウロ目土師器1枚埋置	134
SD175	SD-175	溝	C地区(C2~4区)	G45b~G46区	16世紀第2四半期	礎石	234
SK176	SK-176	船底形土坑	C地区(C3区)	G46a区	1587以後	—	245
SK177	SK-177	土坑	C地区(C3区)	G46a区	16世紀第2四半期	—	232
SK178	SK-178	土坑	C地区(C5区)	G46b区	16世紀第3四半期~1587	—	236
SK179	SK-179	土坑	E地区	G41a区	16世紀後半	—	150
SK180	S-180	土坑	C地区(C3区)	G46a区	16世紀後半	—	236
SK181	S-181	土坑	D地区	G43bd区	16世紀	—	203
SK182	S-182	土坑	D地区	G43cd区	16世紀	—	203
SF183	S-183	溝跡	D地区	G44区	16世紀	10箇	118
SK184	S-184	方形土坑	C地区(C4区)	G45d区	1587~1596	—	241
SK185	S-185	土坑	D地区	G43c区	16世紀	—	203
SK186	S-186	土坑	C地区(C2区)	G46b区	中世	瓦葺跡1点、赤切土跡3点。	—
SK187	S-187	土坑	D地区	G43d区	16世紀第1四半期	—	124
SK188	S-188	土坑	C地区	G46a区	15世紀	—	115
SK189	S-189	土坑	C地区(C3区)	G46c区	15世紀	4層上面。	115
	S-190	⇒SK170	C地区(C3区)	G46a区		(遺構ではない)	
	S-191	⇒SK164	C地区				
SD192	SD-192	溝	D地区	G43・G44区	15世紀	大規模な掘り直しあり。	163
SK193	SK-193	土坑	C地区(C6区)	G44d~G45c区	16世紀第2四半期	—	233
SK194	SK-194	土坑	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	—	233
	S-195	C地区				遺構ではない	
SK196	SK-196	小土坑	D地区	G44c区	16世紀	溝 SF183跡6礎石面上。	119
SK197	SK-197	土坑	C地区(C3区)	G45d区	16世紀	瓦葺跡2点、赤切土跡2点。	—
SK198	SK-198	土坑	C地区(C1区)	G47a区	16世紀後半	—	236
SK199	SK-199	土坑	C地区(C4区)	G45b区	17世紀初頭	埋戻し。	247
	SK-200	⇒SK263	C地区				
SK201	SK-201	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1~2四半期	土取り坑	224
SK202	SK-202	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	土取り坑	224
	S-203	⇒SK189	C地区				
SK204	SK-204	土坑	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	—	222
SK205	SK-205	小土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	祭祀行為を伴う廃棄土坑。	226
SK206	SK-206	小土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	227
SK207	SK-207	小土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	祭祀行為を伴う廃棄土坑。	227
	SK-208	⇒SK184	C地区(C4区)	G45d区			
SK209	S-209	土坑	D地区	G44c区	15世紀	SF183の付属施設か。	115
SK210	S-210	土坑	C地区	G45b区	16世紀第2四半期	—	233
SK211	S-211	土取り坑	C地区(C4区)	G45a区	16世紀第1四半期	—	218
	SK-212	土坑	C地区(C3区)	G46a区			
SK213	SK-213	土坑	C地区				
SK213	S-213	土坑	D地区	G43b区	15世紀	SD192の西側テラスで検出。	109
SK214	SK-214	土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀	V層上面で検出。瓦葺1点、漆器類1点の埋置あり。	210
SK215	S-215	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀	赤切土跡のみ出土	—
	S-216	⇒SK5の下部	C地区(C6区)	G44b区			
SK217	SK-217	長方形土坑	C地区	G44b~G45a区	16世紀第1四半期	—	227
SK218	S-218	土坑	C地区(C2区)	G45b区	中世	赤切土跡1点	—
SK219	SK-219	土坑	C地区	G45a区	16世紀第1四半期	—	228
SK220	SK-220	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	—	228
SK221	SK-221	土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	—	226
SK222	SK-222	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	廃棄土坑、摩多磨産。	226
SK223	S-223	土坑	C地区(C5区)	G44d区	15世紀	赤切土跡1点の破片	—
SK224	SK-224	土坑	C地区(C6区)	G44b~G45a区	16世紀第1四半期	—	228
SK225	S-225	土坑	C地区(C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	217
SK226	SK-226	小土坑	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	—	228
SK227	SK-227	土坑	C地区(C5区)	G45ac区	16世紀第1四半期	—	210
SK228	SK-228	土坑	C地区(C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	SK234と同じ	225
SK229	SK-229	土坑	C地区(C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	廃棄土坑	222
	S-230	壁土層のある面	C地区			(遺構ではない)	228
S231	S-231	不明	C地区(C6区)	G44d区	時期不明	—	—
SK232	SK-232	小土坑	C地区(C3区)	G44b区	16世紀第1四半期	—	215
SK233	S-233	土坑	C地区	G44ad区	15世紀	—	115
	SK-234	⇒SK228	C地区				
SK235	S-235	土坑	C地区(C3区)	G44d区	16世紀第1四半期	—	215
	S-236	ピット2つ	C地区(C6区)				
	S-237	C地区				別の遺構	
SK238	S-238	土坑	C地区	G44bd区	15世紀	—	115
SK239	S-239	土坑	C地区(C6区)	G44d区	中世	備前焼土1点、赤切土跡1点。	—
S240	S-240	浅いくぼみ	C地区(C6区)	G44d区	中世	赤切土跡1点。	—



第7次調査区遺構一覧表⑤

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK241	S-241	土坑	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	—	215
SK242	S-242	土坑	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	—	215
	S-243		C地区 (C6区)			(遺構ではない)	
	S-244		C地区			(遺構ではない)	
SK245	S-245	土坑	C地区	G44b区	15世紀	—	115
	S-246		C地区			(遺構ではない)	
	S-247		C地区			(遺構ではない)	
SK248	SK-248	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	223
SK249	S-249	土坑2基	C地区 (C4区)	G45a区	16世紀第1四半期	廃棄土坑-	213
SK250	S-250	土坑	C地区	G45a区	15世紀後半	S-273の一部か	115
SK251	S-251	小土坑	C地区 (C3区)	G46a区	中世	青花1点、瓦質鉢1点	
	S-252		C地区			自然のしみ	
	S-253		C地区			(遺構ではない)	
SK254	S-254	土坑	C地区	G45c区	15世紀	—	115
SK255	SK-255	土坑	C地区 (C3区)	G45a区	16世紀第1四半期	土坑内に伊をつくっている。	214
S256	S-256	ピット	C地区 (C3区)	G45b区	16世紀第4四半期	—	241
SK257	S-257	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	229
SK258	S-258	土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	—	229
SK259	S-259	土坑	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀	赤切土師小皿1点	
S260	S-260	不明	C地区 (C6区)	G44a区	16世紀	鉄質1点	
SK261	S-261	鈔	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	土坑内に伊をつくっている。	212
	S-262	V B層のくぼみ	C地区				
SK263	SK-263	土坑	C地区 (C3・4区)	G45b-G46a区	16世紀第1四半期	土坑内に伊をつくっている。祭祀行為	216
SP264	S-264	柱穴	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第2四半期	—	233
S265	S-265	不明	C地区 (C3区)	G46a区	時期不明	—	
SD266	SD-266	溝	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀第2四半期	区画溝	234
SK267	SK-267	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	223
SK268	SK-268	土坑	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	廃棄土坑-	213
	SK-269	土坑	C地区			遺構ではない	
SK270・271	S-270・271	土坑	C地区	G45c区	15世紀	—	115
SK272	SK-272	土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	—	229
S273	S-273	不明	C地区 (C5区)	G45a区	時期不明	瓦質楕円1点、鉄釘1点。	
SK274	S-274	土坑	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀第1四半期	—	229
S275	S-275	ピット	C地区 (C3区)	G46a区	時期不明	赤切土師1点。	
SK276	SK-276	方形土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	土師器2枚埋没後廃棄土坑に。	212
SK277	SK-277	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	廃棄土坑-	211
SK278	S-278	土坑	C地区 (C5区)	G45b区	16世紀第2四半期	廃棄土坑-	210
SK279	S-279	土坑	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀	遺物なし	
	S-280		C地区 (C4区)	G45b区		遺構ではない	
	S-281	段落ち	C地区			遺構ではない	
SK282	S-282	土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	遺物なし	
SK283	S-283	土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	遺物なし	
	S-284		C地区 (C5区)	G45a区		V層上面の窪み	
S285	S-285	土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	遺物なし	
SK286	S-286	土坑	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第1四半期	—	211
SK287	S-287	土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	赤土師1点	
SK288	S-288	土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	遺物なし。	
SK289	S-289	土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	→SK259	
	S-290		C地区			自然のしみ	
	S-291	→S239	C地区				
SD292	SD-292	溝	C地区	G44b区	15世紀	SP293の遺跡側溝	113
SP293	S-293	溝	C地区	G44-G45区	15世紀	遺跡	113
SD294	SD-294	溝	C地区	G45区	15世紀	曲溝に土坑が二基掘られる。	109
SD295	SD-295	溝	C地区	G45b区	15世紀	墓塚	109
SK296	S-296	堀り込み	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	遺跡下の遺構	119
SK297	S-297	堀り込み	C地区 (C6区)	G45b区	16世紀第1四半期	遺跡下の遺構	119
	S-298	[文書]	C地区				
SK501	S-501	土坑	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
SK502	S-502	土坑	F地区	E36b区	16世紀第1四半期	—	42
SK503	SK-503	祭祀坑	F地区	F36c区	15世紀	土師器坪を正位に埋置	53
	S-504	[人魚]	F地区		現代	埋没	
SK505	S-505	土坑	F地区	F37c区	16世紀	赤土師製陶器口縁1点と赤土師製1点の陶片が出土	
	S-506	[人魚]	F地区	F37c区	現代	埋没	
SK507	S-507	土坑	F地区	F37c区	古代	—	30
SK508	S-508	方形掘穴	F地区	G36C・F36a区	16世紀第4四半期	—	96
SK509	S-509	土坑	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	廃棄土坑、祭祀行為あり	95
SK510	S-510	土坑	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	—	97
SK511	SK-511	土坑	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	廃棄土坑、祭祀行為あり	85
	S-512	→SK542	F地区				
	S-513	→SK542	F地区				
	S-514	[人魚]	F地区		現代	埋没	
SK515	S-515	廃棄坑	F地区	F37a区	16世紀	赤土師製陶器口縁1点と赤土師製陶器口縁1点の陶片が出土	
SD516	SD-516	溝	F地区	F37区	現代	堀の境界溝	
SD517	SD-517	溝	F地区	G37・F38区	現代	堀の境界溝	
SK518	S-518	土坑	F地区	F37b区	中世	赤切土師器1点。	

第7次調査区遺構一覧表(7)

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	埋蔵
SK519	S-519	土坑	F地区	F37d区・G37b区	16世紀後半	—	59
SD520	SD-520	溝	F地区	G37・F36区	現代	畑の境界溝	—
SK521	S-521	土坑	F地区	G36c区	古代	—	31
SK522	S-522	土坑	F地区	G36c区	中世	糸切土師器2点。	—
SK523	S-523	土坑	F地区	G37d区	16世紀後半	—	59
SK524	S-524	柱穴	F地区	F37b区	16世紀後半	—	60
SK525	S-525	土坑	F地区	F37b区	中世	鉄釘1。古代土師片2	—
SK526	S-526	土坑	F地区	F37b・d区	不明	古代土師器多い	—
SK527	S-527	土坑	F地区	E36c区	16世紀第1四半期	—	52
SK528	S-528	土坑	F地区	G36c区	16世紀第4四半期	—	98
	S-529	⇒SK541	F地区	G36c区	16世紀第4四半期	—	—
S530	S-530	土坑	F地区	F36a区	16世紀後半	SD563をきる	—
S531	S-531	小土坑	F地区	F36a区	16世紀後半	SD563をきる長円形の小土坑	—
SE532	SE-532	井戸	F地区	F36a区	16世紀第3四半期	小型の井筒	58
SK533	S-533	土坑	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	—	97
S534	S-534	溝い窪み	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	—	97
	S-535	土坑	F地区	F36b区	現代	覆土	—
SK536	S-536	土坑	F地区	F36b	9世紀	一気に埋没	30
SK537	S-537	土坑	F地区	F36a区	15世紀	—	44
SD538	SD-538	溝	F地区	E36・F36区	16世紀第4四半期	—	73
SK539	S-539	土坑	F地区	G36c区	16世紀第4四半期	—	98
SK540	S-540	土坑	F地区	E37a区	16世紀第1四半期	—	52
SE541	SE-541	井戸	F地区	G36cd区	16世紀第4四半期	井筒は補修の小型	78
SK542	S-542	土坑	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	産業土坑	84
S543	S-543	土坑	F地区	F36d	15世紀以前	古代土師器1点	—
SK544	S-544	土坑	F地区	F36d	古代	15世紀の遺構に切られる	30
	S-545	⇒GD538	F地区				
SD546	S-546	土坑	F地区	F37a区	現代	畑の境界溝	—
SK547	S-547	土坑	F地区	F36a区	16世紀	16世紀の青花皿と古代土師器の破片が出土	—
	S-548		F地区			遺構ではない	—
	S-549	墓石	F地区		16世紀第4四半期	SD538内のブロック	77
	S-550		F地区			文書	—
	S-551	土坑	F地区			文書	—
SK552	S-552	土坑	F地区	F36a区	16世紀後半	—	59
SK553	S-553	土坑	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	産業土坑	80
SK554	S-554	土坑	F地区	F36ac区	16世紀第4四半期	産業土坑	80
	S-555		F地区			遺構ではない	—
SK556	S-556	土坑	F地区	F36ac区	16世紀第4四半期	産業土坑	80
SK557	SK-557	土坑	F地区	F36c区	16世紀第4四半期	産業土坑	81
SE558	SE-558	井戸	F地区	F36a区	16世紀第2四半期	小型	56
	S-559		F地区			SD538内の産業単位	77
SK560	S-560	土坑	F地区	F37c区	中世	—	—
SK561	S-561	土坑	F地区	F37c区	古代	—	31
SK562	S-562	土坑	F地区	F37c区	古代	—	31
SD563	SD-563	溝	F地区	F36区	16世紀第2四半期	南北溝	55
SK564	S-564	土坑	F地区	G36c区	16世紀第2四半期	—	57
S565	S-565	土坑	F地区	F37d区	不明	—	—
SK566	S-566	土坑	F地区	F37b区	古代	—	31
	S-567	SB-9の柱穴	F地区				—
S568	S-568	土坑	F地区	F36c区	中世	溝い窪み層か。	—
SK569	S-569	土坑	F地区	G36a区	1587～	—	98
SK570	S-570	土坑	F地区	G36a区	1587～	—	98
SK571	S-571	土坑	F地区	F36c・E36a区	16世紀第4四半期	産業土坑	86
	S-572	⇒地倉層のしき	F地区	F36区			
SK669	P-669	(人丸)	F地区	F37c区	古代	—	—
SK701	S-701	土坑	G地区	E35b区	16世紀第3四半期	産業土坑	59
SK702	S-702	土坑	G地区	F35d区	近世	16世紀前半の掘削跡付	—
SK703	S-703	土坑	G地区	E35b区	16世紀第4四半期	—	96
SK704	S-704	土坑 (⇒S762)	G地区		産業	—	—
SK705	S-705	土坑	G地区	F35d区	16世紀第1四半期	産業土坑に転用	50
SK706	S-706	土坑	G地区	F35b区	16世紀第4四半期	—	96
	S-707	SB303の柱穴	G地区				—
	S-708	土坑	G地区			SB304の柱穴	—
S709	S-709	土坑	G地区	F35	16世紀後半	遺跡の跡にG14・G17D区土坑・F36区土師器の破片が出土	—
SD710	SD-710	溝	G地区	F35・E35・E34	古代	—	26
SD711	S-711	土坑	G地区	F35c区	中世	糸切土師器片	—
SK712	S-712	土坑	G地区	E35a区	16世紀第1四半期	口ノ口目土師大量発見	51
SK713	S-713	土坑	G地区	E34d区	不明	—	—
SK714	S-714	土坑	G地区	E34b区・E35a区	15世紀	—	43
S715	S-715	小土坑	G地区	E34d区	不明	—	—
S716	S-716	土坑	G地区	E35a区	中世	糸切土師器片	—
S717	S-717	土坑	G地区	F34b区	不明	遺物なし	—
SK718	S-718	土坑	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	—
SK719	S-719	土坑	G地区	F34b・E34b区	16世紀後半	SD766をきる	—
SK720	SK-720	穴尻埋戻状	G地区	F34b区	16世紀第4四半期	—	97

第7次調査区遺構一覧表⑧

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	総頁	
SK721	S-721	土坑	G地区	F34b区	16世紀第4四半期	—	97
SK722	S-722	土坑	G地区	F34b区	16世紀後半	—	60
SK723	S-723	土坑	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる方形土坑。	
SK724	S-724	土坑	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる長内形の土坑。	
SK725	S-725	土坑	G地区	F34c区	16世紀後半	—	60
SK726	S-726	小土坑	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる小型長内形の土坑。	
SK727	S-727	土坑	G地区	E34a区	16世紀後半	SD766をきる。	
SK728	S-728	土坑	G地区	F34c区	中世	線が中央に集中。備前焼。	
SK729	S-729	土坑	G地区	F34a区	中世	糸切土器残片	
S730	S-730	SE773の一部	G地区				
SK731	S-731	土坑	G地区	E33b区	奈良	SB306周辺	26
SK732	S-732	土坑	G地区	E34a区	16世紀後半	SD775をきる。	
S733	S-733	小土坑	G地区	F34c区	不明	遺物なし	
SK734	S-734	土坑	G地区	F33区	16世紀第4四半期	1587年の火災処理土坑	88
S-735	S-735	(新設)	G地区				
SK736	S-736	土坑	G地区	F33d区	16世紀第4四半期	火災処理土坑	94
SK737	S-737	土坑	G地区	E33d区	16世紀後半	SD775をきる。	
SK738	S-738	土坑	G地区	E33a区	古世?	遺物なし。S779とP1036を切る	
SK739	S-739	土坑	G地区	E33a区	古世?	遺物なし。P1032を切る	
S740	S-740	土坑	G地区	F33c区	古代	SB309の柱穴に解消。	24
SK741	S-741	土坑	G地区	F33c区	16世紀後半	SD775をきる。	
S742	S-742	土坑	G地区	F33c区		SB308の柱穴	
S743	S-743	ピット	G地区	F32d区	不明	遺物なし	
S744	S-744	土坑	G地区	E32bd区	不明	遺物なし	
S-745	S-745	G地区				遺構ではない	
S-746	S-746	G地区				遺構ではない	
S-747	S-747	G地区				遺構ではない	
ST748	S-748	墓	G地区	E32b区	16世紀第1四半期	本埋葬。南側の構組崩壊。土器器割跡。	50
S-749	S-749	G地区	E35b区			遺構ではない	
S750	S-750	ピット	G地区	E34a区	16世紀	15世紀の井戸 SE775を切る	
S751	S-751	箱倉	G地区	F32・E32D区	16世紀	遺構ではない	
S752	S-752	浅いほり込み	G地区	E32区	16世紀	—	
S753	S-753	小土坑	G地区	E31d区	古世	SD791を切る。	
SD-754	SD-754	⇒SD757	G地区				
SD755	SD-755	溝	G地区	E31区	16世紀後半	地味境界溝	262
S756	S-756	土坑	G地区	E31b区	現代	—	
SD757	SD-757	溝	G地区	E31区	16世紀後半	地味境界溝	262
S-758	S-758	しみ	G地区			遺構ではない	
S-759	S-759	しみ	G地区			遺構ではない	
S-760	S-760	SB303の柱穴	G地区				
S761	S-761	土坑	G地区	F35c区	不明	糸切土器残片	
SK762	S-762	土坑	G地区	F35cd	9世紀	S-764の本家の形	28
SK763	S-763	土坑	G地区	F34b区	不明	遺物なし	52
SK764	S-764	土坑	G地区	E34b区	16世紀第1四半期	—	
SK765	S-765	土坑	G地区	E34d区	不明	須置器残片	
SD766	SD-766	溝	G地区	F34・E34E	15世紀	大溝	39
SP-767	SP-767	柱穴	G地区			⇒SB304	
SP-768	SP-768	柱穴	G地区			⇒SB304	
SP-769	SP-769	柱穴	G地区			⇒SB304	
SK770	S-770	土坑	G地区	F35c区	16世紀第1四半期	—	50
S771	S-771	土坑	G地区	F35c区	16世紀	SK705を切る。	
SK772	S-772	土坑	G地区	F34a区	16世紀第4四半期	1587年の火災処理土坑	95
SE773	SE-773	井戸	G地区	E33区	15世紀	水位が高い。	45
SP-774	SP-774	柱穴	G地区			⇒SB306B	
SD775	SD-775	溝	G地区	F32-F34E	15世紀後半	区画溝	41
S776	S-776	土坑	G地区	F35b区	中世	糸切土坑	
S-777	S-777	柱穴	G地区			⇒SB306C	
S-778	S-778	柱穴	G地区			⇒SB306C	
S-779	S-779	柱穴	G地区			⇒SB308	
S-780	S-780	G地区				欠番	
S-781	S-781	柱穴	G地区			⇒SB308	
SK782	S-782	土坑	G地区	E33b区	奈良	SB306周辺	25
S-783	S-783	柱穴	G地区			⇒SB306C	
SP-784	SP-784	柱穴	G地区			⇒SB308	
SP-785	SP-785	柱穴	G地区			⇒SB306A	
SP-786	SP-786	柱穴	G地区			⇒SB306A	
SP-787	SP-787	柱穴	G地区			⇒SB306A	
SP-788	SP-788	柱穴	G地区			⇒SB306A	
S789	S-789	土坑	G地区	E33a区	不明	遺物なし	
SD790	SD-790	溝	G地区	F32, E31, E32区	16世紀第1四半期	16世紀末まで利用される。	46
SD791	S-791	溝	G地区	F31, E31, G31区	16世紀第4四半期	最終埋没は17世紀初め	62
S-792	S-792	G地区				遺構ではない	
S-793	S-793	G地区				遺構ではない	
SK794	S-794	土坑	G地区	E31d区	16世紀第4四半期	SD791の一部か	73
S-795	S-795	SB-6の柱穴	G地区				

第7次調査区遺構一覧表⑨

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK796	S-796	土坑	G地区	F34a区	16世紀第1四半期	—	52
SK797	S-797	土坑	G地区	F34d~35c	古代	土師器研宄品を正位に埋置	27
SK798	S-798	土坑	G地区	F34d	古代	—	27
S799	S-799	土坑	G地区		不明	製塩土器	
SE800	SE 800	井戸	G地区	E32区	15世紀	水位が高い。	44
SK801	S-801	土坑	G地区	F33c区	8世紀後半	P-1061から変更, SB306周辺	24
	S-802	(=SD791)	G地区	F31d区	16世紀第4四半期	商業単位	73
	S-803	(=SD791)	G地区	F32d区	16世紀第4四半期	商業単位	73
	S-804	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	SP-805	礎石	G地区			⇒SB306C	
	S-806	礎石	G地区			⇒SB306C	
	S-807	礎石	G地区			⇒SB306C	
	S-808	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	S-809	柱穴	G地区				
SP810	SP-810	柱穴	G地区	F33a区	古代	SB306周辺	24
SK811	S-811	土坑	G地区	F34d区	古代	SB306周辺	26
	S-812	S-775の張り直し	G地区				
	S-813		G地区			欠番	
SK814	S-814	土坑	G地区	F34c区	古代	土師SB306周辺	26

第7次調査区遺構一覧表(P番号)①

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
	P-1	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		(遺構ではない)	
P2	P-2	(人海) ビット	C地区(C6区)	G44b区	1587~	京都系土師器2期Ⅱ1点	
P3	P-3	(人海) ビット	C地区(C6区)	G44b区	1587~	SK8とP4とP5に切られる。中国銅鏡片1	
P4	P-4	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	246
P5	P-5	(自然)	C地区(C6区)	G44b区	1587~	P3を切りP4に切られる。	
	P-6	(自然)	C地区(C6区)	G44b区	1587~	自然のしみ	
P7	P-7	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	
	P-8	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		(遺構ではない)	
	P-9	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		(遺構ではない)	
P10	P-10	(人海) ビット	C地区(C6区)	G44b区	近世	18世紀前半津田陶胎染付焼1点の破片が出土	
P11	P-11	(人海) ビット	C地区(C6区)	G44b区	1587~	P12に切られる	
P12	P-12	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	P11を切る	
P13	P-13	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	赤切土師と京都系土師器の破片が出土	
P14	P-14	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	
	P-15	(自然)	C地区(C6区)	G44b区		自然のしみ	
P16	P-16	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	
P17	P-17	柱穴	C地区(C6区)	G44b区	1587~	—	
P18	P-18	柱穴	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第4四半期	瓦貫樋口縁と赤切土師器3点の破片が出土	
P19	P-19	(人海) ビット	(人海) ビット	(人海) ビット	16世紀後半	—	
P20	P-20	(人海) ビット	C地区(C6区)	G44b区	近現代	—	
P21	P-21	柱穴	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第4四半期	京都系土師器3期Ⅲ2点の破片が出土	
P22	P-22	(人海) ビット	C地区(C5区)	G45a区	16世紀第4四半期	瀬戸系透天焼1点, 土師3点, ロク口土師1点の破片が出土	
	P-23	(自然)	C地区			木の根	
P24	P-24	(人海) ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	朝鮮船徳利1点	
P25	P-25	(人海) ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	—	
P26	P-26	(人海) ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀第3四半期	—	236
P27	P-27	(人海) ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
P28	P-28	(人海) ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
P29	P-29	(人海) ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
P30	P-30	(人海) ビット	C地区(C5区)	G45c区	16世紀後半	遺物なし。	
P31	P-31	柱穴	C地区(C5区)	G45b区	16世紀後半	遺物なし。	
	P-32	浅いくぼみ	C地区			(遺構ではない)	
P33	P-33	(人海)	C地区	G45d区	16世紀後半	丸瓦1点, 瀬戸美濃1点。	
	P-34		C地区			(遺構ではない)	
P35	P-35	(人海) ビット	E地区	F39d区	中世	—	
P36	P-36	(人海) ビット	E地区	F39d区	不明	—	
P37	P-37	(人海) ビット	E地区	F39c区	近現代	SK106を切る	
P38	P-38	(人海) ビット	E地区	F39c区	近現代	SK106を切る	
P39	P-39	(人海) ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P40	P-40	(人海) ビット	E地区	F39c区	不明	—	
	P-41	(人海)	E地区			覆土	
P42	P-42	(人海) ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P43	P-43	(人海) ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P44	P-44	(人海) ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P45	P-45	(人海) ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P46	P-46	(人海) ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P47	P-47	(人海) ビット	E地区	F39a区	不明	—	
P48	P-48	(人海) ビット	E地区	F39a区	不明	—	
	P-49	(欠番)	E地区				

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ②

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	総頁
P50	P-50	(人海) ビット	E地区	F39b区	不明	—	
P51	P-51	(人海) ビット	E地区	F39b区	不明	—	
P52	P-52	(人海) ビット	E地区	F39b区	不明	—	
P53	P-53	(人海) ビット	E地区	F39b区	不明	—	
P54	P-54	(人海) ビット	E地区	F39d区	不明	炭焼土多量	
P55	P-55	(人海) ビット	E地区	F39d区	不明	—	
	P-56	(人海) ビット	E地区			覆土	
P57	P-57	(人海) ビット	E地区	E39b区	16世紀	京都高土師器の破片が出土	
P58	P-58	(人海) ビット	E地区	E39b区	中世	—	
P59	P-59	(人海) ビット	E地区	E39b区	不明	—	
P60	P-60	(人海) ビット	E地区	E39b区	不明	—	
	P-61	(自然)	E地区			自然のしみ	
	P-61	(人海)	E地区		縄代	覆土	
	P-62	(人海)	E地区		縄代	覆土	
	P-63	(人海)	E地区		縄代	覆土	
P64	P-64	柱穴	E地区	G39d区	古代	—	31
P65	P-65	(人海) ビット	E地区	G39d区	中世	SK38に切られる	
P66	P-66	(人海) ビット	E地区	G39d区	中世	SK36に切られる	
P67	P-67	(人海) ビット	E地区	G39d区	中世	骨出土。	
P68	P-68	(人海) ビット	E地区	G39d区	中世	—	
P69	P-69	柱穴	E地区	G40c区	不明	—	
P70	P-70	(人海) ビット	E地区	F40a区	16世紀末	日置上層からの掘り込み	
P71	P-71	(人海) ビット	E地区	F40b区	近現代	—	
P72	P-72	(人海) ビット	E地区	F40a区	中世	糸切土師1点	
P73	P-73	(人海) ビット	E地区	F40a区	不明	古代土師器1点	
P74	P-74	(人海) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P75	P-75	(人海) ビット	E地区	F40a区	16世紀代	京都高土師器O類品の破片が出土	
P76	P-76	(人海) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P77	P-77	(人海) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
	P-78	自然の凸凹	E地区			—	
P79	P-79	(人海) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P80	P-80	(人海) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P81	P-81	(人海) ビット	E地区	F40a区	中世	糸切土師1点	
P81	P-81	柱穴・埋納	E地区	G40c区	16世紀第3四半期	銭取り時に土器埋納	150
	P-82	⇒SA313	D地区	G42d区	16世紀	—	
	P-83	⇒SA313	D地区	G43c区	中世	—	
	P-84	⇒SA313	D地区	G43c区	不明	古代土師器1点	
P85	P-85	(人海) ビット	D地区	G41b区	不明	炭焼土多量。SK117に切られる。	
P86	P-86	柱穴	D地区	G41d区	不明	—	
	P-87	(自然)	D地区			自然のしみ	
	P-88	⇒SA313	D地区	G42d区	16世紀後半	—	
	P-89	(人海)	D地区	G42d区	16世紀後半	S143を切る。	
	P-90	⇒SA313	D地区			—	
	P-91	(自然)	D地区			自然のしみ	
	P-92	(自然)	D地区			自然のしみ	
	P-93	(自然)	D地区			木の痕	
P94	P-94	(人海) ビット	D地区	G41b区	不明	—	
P95	P-95	(人海) ビット	D地区	G41d区	不明	—	
P96	P-96	柱穴	E地区	G40c区	中世	糸切土師1点	
P97	P-97	柱穴	E地区	G40c区	16世紀	糸切土師1点。ロウロ目土師1点が出土	
P98	P-98	(人海) ビット	E地区	G40c区	不明	—	
P99	P-99	(人海) ビット	E地区	G40c区	16世紀	16世紀の糸切土師1点の破片が出土	
P100	P-100	柱穴	E地区	G40c区	不明	—	
P101	P-101	(人海)	E地区	G40c区	不明	—	
	P-102	(自然)	E地区			—	
P103	P-103	柱穴	E地区	G40c区	不明	—	
P104	P-104	柱穴	E地区	G41c区	16世紀第3四半期	京都高土師器2類品の破片が2点出土	
P105	P-105	(人海) ビット	D地区	G41d区	16世紀第4四半期	—	
P106	P-106	(人海) ビット	E地区	F40b区	近世	唐津陶器焼17世紀後半が出土。	
P107	P-107	(人海) ビット	E地区	F40b区	不明	備前焼土1点	
P108	P-108	(人海) ビット	E地区	F40a区	不明	—	
P109	P-109	(人海) ビット	D地区	G41d区	16世紀第3四半期	井戸SK19の井筒が完全に埋没した後に掘り込まれている	150
	P-110	柱穴	D地区			—	
	P-111	(人海)	D地区		縄代	覆土	
P112	P-112	(人海) ビット	D地区	G43b区	時期不明	—	
P113	P-113	(人海) ビット	D地区	G43b区	時期不明	—	
P114	P-114	P145の柱敷	D地区	G43a区	近世	糸切土師1点。S145を切る	
	P-115	(人海)	D地区	G43a区		浅いくぼみ	
	P-116	(人海)	D地区	G43a区		浅いくぼみ	
P118	P-118	柱穴	D地区	G42d区	16世紀	16世紀の遺構 SK119を切る	
P119	P-119	柱穴	D地区	G42d区	16世紀	—	
P120	P-120	(人海) ビット	D地区	G43b区	中世	S143に切られる。	
P121	P-121	(人海) ビット	D地区	G43b区	中世	S143に切られる。	
P122	P-122	(人海) ビット	D地区	G43b区	中世	S143に切られる。	
P123	P-123	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺構なし。	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ③

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P124	P-124	(人鳥) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	儀前焼室1点、クワコ目土鉢1点	
P125	P-125	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	
P126	P-126	(人鳥) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	
P127	P-127	柱穴	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第4四半期	⇒SA314	
P128	P-128	(人鳥) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第4四半期	⇒SA314	
P129	P-129	小土坑	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第4四半期	⇒SA314	
P130	P-130	ビット	E地区	F39b区	古代	—	31
P131	P-131	ビット	E地区	F39b区	中世	—	
	P-132	⇒SA313	D地区	G42a区			
	P-133	⇒SA313	D地区	G42a区	不明	—	
P134	P-134	(人鳥) ビット	D地区	G42b区	不明	—	
	P-135	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀後半	—	
	P-136	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	赤切土師1点	
	P-137	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	青磁鉢	
	P-138	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀	定形土師器片、京都系土師器3期1点	
	P-139	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	—	
	P-140	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	銭貨2枚、赤切土師	
	P-141	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	—	
	P-142	⇒SA312	D地区	G43a区	中世	—	
	P-143	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀後半	—	
	P-144	⇒SA312	D地区				
	P-145	⇒SA312	D地区				
P146	P-146	(人鳥) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	瓦質鍋1点、赤切土師1点。	
P147	P-147	(人鳥) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	
P148	P-148	(人鳥) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	遺物なし。	
P149	P-149	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	8世紀C形土師器1点、9世紀土師器1点、10世紀土師器1点、11世紀土師器1点	241
P150	P-150	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第4四半期	IV層土師、土師器1点	
P151	P-151	柱穴	C地区 (C5区)	G45b区	16世紀	遺物なし。	
P152	P-152	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	遺物なし。	
P153	P-153	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	遺物なし。	
P154	P-154	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	遺物なし。	
P155	P-155	(人鳥) ビット	C地区 (C4区)	G45a区	16世紀第4四半期	S161を切る。	
P156	P-156	(人鳥) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	S161を切る、瓦質鍋1点、赤切土師2点、鉄釘1点。	
P157	P-157	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀第4四半期	柱根内赤切土師片1点。	
	P-158	⇒SA313	D地区				
P159	P-159	(人鳥) ビット	D地区	G43c区	16世紀	埴、1点。	
P160	P-160	柱穴	D地区	G43c区	16世紀後半	京都系土師器1期目の破片が出土	
P161	P-161	(人鳥) ビット	D地区	G43c区	不明	—	
	P-162		D地区	G43c区		遺構ではない。	
	P-163		D地区		覆代	覆瓦	
	P-164	⇒SA312	D地区	G43a区	16世紀第4四半期		
P165	P-165	小土坑	C地区 (C4区)	G45d区	16世紀第4四半期(16世紀)	90344c、90354cの瓦、赤切土師2点、京都系土師器1期1点。	
P166	P-166	(人鳥) ビット	D地区	G43d区	15世紀以前	赤切土師1点。	
P167	P-167	(人鳥) ビット	D地区	G44d区	15世紀以前	出土遺物なし。	
	P-168	⇒SA312	D地区				
	P-169	⇒SA312	D地区				
	P-170	⇒SA312	D地区				
	P-171	⇒SA312	D地区				
	P-172	⇒SA312	D地区				
	P-173	⇒SA312	D地区				
	P-174	⇒SA312	D地区				
P175	P-175	(人鳥) ビット	D地区	G43c区	16世紀	—	
P176	P-176	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	赤切土師片2点。	
P177	P-177	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	赤切土師片4点。	
P178	P-178	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	赤切土師片2点。	
	P-179	⇒SA312	D地区				
	P-180	⇒SA312	D地区				
	P-181	⇒SA312	D地区				
	P-182	⇒SA312	D地区				
	P-183	⇒SA312	D地区				
P184	P-184	(人鳥) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	IV層中、白磁合子1点、赤切土師4点、鉄刀子1点。	116
P185	P-185	(人鳥) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	IV層中、赤切土師片3点、大内系土師器1点。	
P186	P-186	(人鳥) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	IV層中、赤切土師片1点。	
	P-187	⇒SA312	D地区				
	P-188	⇒P198	D地区				
	P-189	⇒SA312	D地区				
	P-190	⇒SA312	D地区				
P191	P-191	(人鳥) ビット	D地区	G44c区	16世紀	—	
	P-192	⇒P83と同じ	D地区				
	P-193	⇒SA313	D地区				
	P-194	⇒SA313	D地区		古代		
	P-195	⇒SA312	D地区				
	P-196	⇒SA312	D地区				
	P-197	⇒SA312	D地区				
	P-198	⇒SA312	D地区				

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ④

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性状	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	埋蔵層
P199	P-199	(人角) ビット	D地区	G44a区	近世	道路 SR183上のビット。近世陶器出土1点	
P200	P-200	(人角) ビット	D地区	G44a区	16世紀	道路 SR183上のビット。	
P201	P-201	(人角) ビット	D地区	G44a区	16世紀	道路 SR183上のビット。赤切土層1点の破片が出土	119
P202	P-202	(人角) ビット	D地区	G44a区	16世紀	道路 SR183上のビット。	
P203	P-203	(人角) ビット	D地区	G44a区	16世紀	道路 SR183上のビット。	119
	P-205	⇒SA312	D地区				
P206	P-206	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2換土層以前	236
P207	P-207	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2換土層以前	236
P208	P-208	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2換土層以前。P212切る。	236
P209	P-209	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第3四半期	第2換土層以前	236
P210	P-210	くぼみ	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2換土層以前。遺構跡1点	236
P211	P-211	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2換土層以前	236
P212	P-212	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2換土層以前	236
P213	P-213	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2換土層以前。P208に切られる。	236
P214	P-214	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第3四半期	第2換土層以前	236
P215	P-215	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	V層上面。瓦葺茶室1点。碇石1点。	
P216	P-216	⇒SA314	C地区	G45a区	16世紀第3四半期	—	
P217	P-217	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	V層上面。遺物なし。	
P218	P-218	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	V層上面。遺物なし。	
P219	P-219	(人角)	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層5回目後。赤切土層2点。	116
P220	P-220	柱穴	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層5回目後。赤切土層5点。	
P221	P-221	柱穴	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層5回目後。赤切土層6点。	
P222	P-222	柱穴	C地区 (C3区)	G44a区	16世紀	V層5回目後。京都系土器器1期1点。	
	P-223	(自然)	C地区			自然のしみ	
P224	P-224	柱穴	C地区 (C5区)	G45d区	16世紀第3四半期	V層上面。ビット列	
P225	P-225	柱穴	C地区 (C5区)	G45d区	16世紀第3四半期	V層上面。ビット列	
P226	P-226	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45b区	16世紀第3四半期	V層上面。	
P227	P-227	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	V層上面。ビット列。黄灰1点。	
P228	P-228	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	V層上面。ビット列。白磁土点	
P229	P-229	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	V層上面。ビット列。銅製鎖	
P230	P-230	⇒SA314	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	V層上面。ビット列	
P231	P-231	小土坑	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	V層上面。筆箱3点1点。	236
P232	P-232	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層5回目後。赤切土層3点。	
P233	P-233	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層5回目後。瓦葺茶室1点。赤切土層5点。	
P234	P-234	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層5回目後	
P235	P-235	柱穴	C地区 (C2区)	G44b区	15世紀	V層5回目後	
P236	P-236	(人角) ビット	C地区 (C2区)	G44b区	15世紀	口縁を打ち欠いた赤切土層底部1点	116
P237	P-237	(人角) ビット	D地区	G44区	16世紀	—	
P238	P-238	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44区	16世紀	—	
P239	P-239	(人角) ビット	C地区	G44区	16世紀	—	
	P-240	(自然)	C地区			木の根	
P241	P-241	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層5回目後。遺物なし。	
P242	P-242	柱穴	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。遺物なし。	
P243	P-243	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。遺物なし。	
P244	P-244	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。遺物なし。瓦葺茶室1点。赤切土層1点。口コ目土器1点。	
P245	P-245	(人角) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層1回目後。赤切土層1点。	
P246	P-246	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀第4四半期	SK01を切る。斜めすり目の近世1期の備前焼磁器	
P247	P-247	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。遺物なし。	
P248	P-248	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。遺物なし。	
P249	P-249	柱穴	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。遺物なし。	
P250	P-250	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。赤切土層1点。壁土1点。	
	P-251	⇒SA314	C地区				
	P-252	⇒SA314	C地区				
	P-253	⇒SA314	C地区				
P254	P-254	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	—	236
P255	P-255	柱穴	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。赤切土層1点。壁土4点。	
	P-256	⇒SA314	C地区				
	P-257	⇒SA314	C地区				
P258	P-258	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。碇石1点。	241
P259	P-259	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀第4四半期	V層1回目後。	
P259	P-259	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層1回目後。赤切土層4点。備前焼磁器1点/碇石1点。	
P259	P-259	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。	
P260	P-260	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。赤切土層4点。鉄釘1点。	
P261	P-261	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。赤切土層4点。有輪1点。赤切土層6点。	
P262	P-262	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。	
P263	P-263	小土坑	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。赤切土層。口コ目土器10A。瓦葺茶室1点。	
P264	P-264	(人角) ビット	C地区 (C2区)	G44b区	15世紀	V層7回目後。白磁1点。赤切土層2点	
P265	P-265	(人角) ビット	C地区 (C2区)	G44b区	15世紀	V層7回目後。赤切土層2点	
P266	P-266	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。赤切土層4点	
P267	P-267	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。	
P268	P-268	(人角) ビット	C地区 (C3区)	G44a区	15世紀	V層7回目後。	
P269	P-269	(人角) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	V層2回目後。遺物なし。	
P270	P-270	(人角) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第3四半期	第2換土層以前	236
P271	P-271	(人角) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	V層上面で検出。赤切土層。口コ目土層の破片が出土	
P272	P-272	(人角) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	V層上面で検出	

第7次調査区遺構一覽表 (P番号) ⑤

本報告での遺構番号	旧調査番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P273	P-273	(人海) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第2四半期	京都系土師器1期出土口1点	
	P-274	⇒SA314	C地区				
P275	P-275	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	B層2回目後。遺物なし。	
P276	P-276	(人海) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	B層7回目後。	
P277	P-277	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G46b区	15世紀	B層7回目後、京師系土師器1点、瓦葺土師器1点、磁器1点、116	
P278	P-278	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	3層中から	
P279	P-279	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	3層中から	
P280	P-280	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	3層中から、備前焼土師器1点、京都系土師器1期出土1点、	
P281	P-281	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	3層中から、赤切土師器1点。	236
P282	P-282	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀後半	～	
P283	P-283	(人海) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	第3地土層除去後に出土	
P284	P-284	(人海) ビット	C地区	G44d区	16世紀第1四半期	第3地土層除去後に出土	
P285	P-285	(人海) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	第3地土層除去後に出土	
P286	P-286	(人海) ビット	C地区	G44b区	16世紀第1四半期	第3地土層除去後に出土	
P287	P-287	(人海) ビット	C地区 (C2区)	G46b区	15世紀	赤切土師器1点。V層最下部	
P288	P-288	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	B層上面。	
P289	P-289	(人海) ビット	C地区	G45a区	16世紀第1四半期	V層上面出土。クワロ目土師器1点の破片が出土	
P290	P-290	柱穴	C地区 (C5区)	G45区	16世紀	瓦葺土師器1点、京師系土師器1点、磁器1点、116	
P291	P-291	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45区	16世紀後半	B層上面	
P292	P-292	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	B層上面、瓦葺土師器1点、赤切土師器2点。	
P293	P-293	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	B層上面、赤切土師器1点。	
P294	P-294	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	B層上面。	
P295	P-295	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	B層上面、青磁1点	
P296	P-296	⇒P251	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層上面。	
	P-297	⇒SA314	C地区				
P298	P-298	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G46b区	16世紀	V層上面。平瓦1点。	
P299	P-299	(人海) ビット	C地区	G45a区	16世紀第1四半期	V層上面出土。京師系土師器1点、京師系土師器1点、磁器1点、116	
P300	P-300	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀後半	V層上面。赤切土師器1点、鉄釘1点。	
P301	P-301	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	B層上面。青花磁器1群	
P302	P-302	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層上面。平瓦1点。	
P303	P-303	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	B層上面。遺物なし。	
P304	P-304	(人海) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀	V層上面出土。平瓦1点の破片が出土	
P305	P-305	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層上面。壁土1点。	
P306	P-306	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	V層除去後、中灰瓦葺1点、瓦葺土師器2点、赤切土師器1点。	
P307	P-307	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	V層除去後。	
P308	P-308	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	V層除去後。	
P309	P-309	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	V層除去後。赤切土師器1点。クワロ目土師器1点。	229
P310	P-310	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層除去後。	
P311	P-311	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層除去後。SK255を切る。青磁1点。	
P312	P-312	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層除去後。	
P313	P-313	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層除去後。	
	P-314	⇒P309の下層	C地区 (C5区)	G45a区			
P315	P-315	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層除去後。鉄釘1点。	
P316	P-316	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層除去後。遺物なし。	
P317	P-317	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層除去後。遺物なし。	
P318	P-318	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	V層除去後。クワロ目土師器一枚埋蔵。	229
	P-319	(自然)	C地区			(遺構ではない)	
P320	P-320	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層除去後。遺物なし。	
P321	P-321	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層除去後。赤切土師器2点。	
P322	P-322	柱穴	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀	V層3回目後	
P323	P-323	深いくぼみ	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀	V層3回目後	
P324	P-324	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	V層3回目後。瓦葺土師器1点、赤切土師器1点。	
P325	P-325	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	V層3回目後	
P326	P-326	柱穴	C地区 (C6区)	G45b区	16世紀後半	B層上面。	
P327	P-327	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G44d区	16世紀	V層2回目後。赤切土師器1点。	
P328	P-328	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。遺物なし。	
P329	P-329	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。遺物なし。	
P330	P-330	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。赤切土師器1点	
P331	P-331	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。遺物なし。	
P332	P-332	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。赤切土師器1点	
P333	P-333	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。青磁1点。白磁1点。赤切土師器3点。	
P334	P-334	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。遺物なし。	
P335	P-335	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。遺物なし。	
P335	P-335	(人海) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀	V層3回目後	
P336	P-336	柱穴	C地区	G45c区	16世紀第1四半期	V層除去後に出土。京師系土師器1点、京師系土師器1点、磁器1点、116	
P337	P-337	(人海) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	V層上面。備前焼土師器1点。	
P339	P-339	(人海) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	V層3回目後	
P340	P-340	(人海) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀第1四半期	V層2回目後、クワロ目土師器1点の破片が出土	
P341	P-341	(人海) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	V層3回目後	
P342	P-342	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	V層3回目後。赤切土師器1点。鉄釘1点。	
P343	P-343	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層2回目後	
P344	P-344	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層2回目後。赤切土師器1点。	
P348	P-348	小土壇	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	V層1回目後。赤切土師器1点	
P349	P-349	(人海) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	16世紀前半	V層1回目後。赤切土師器2点	
P350	P-350	(人海) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	V層上面。SK255を切る。	



第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑤

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	埋蔵頁
P-351	⇒P271		C地区				
P352	P-352	(人馬) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	V層上面検出。糸切土師、口クロ土師の破片が出土	
	P-353	⇒P271	C地区				
P354	P-354	C地区 (C6区)	C地区 (C6区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層下層検出。瓦葺土師1点、糸切土師4点、口クロ土師3点出土	
P355	P-355	(人馬) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀前半	Va層から	
P356	P-356	(人馬) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀前半	Va層から、平瓦1点	
P357	P-357	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、糸切土師1点。	
P358	P-358	(人馬) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀前半	Vb層1回目後、	
P359	P-359	(人馬) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀前半	Vb層1回目後、	
P360	P-360	C地区 (C6区)	C地区 (C6区)	G44b区	16世紀第1四半期	Vb層2回目後から検出。瓦葺土師1点、口クロ土師1点の破片が出土	
P361	P-361	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、鉄釘1点	
P362	P-362	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、遺物なし。	
P363	P-363	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、遺物なし。	
P364	P-364	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、土師1点、糸切土師	
P365	P-365	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、遺物なし。	
P366	P-366	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Va層上、遺物なし。	
P367	P-367	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、遺物なし。	
P368	P-368	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、遺物なし。	
P369	P-369	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、古代土師器1点。	
P370	P-370	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、遺物なし。	
P371	P-371	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、遺物なし。	
P372	P-372	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Va層2回目後、糸切土師3点。	
P374	P-374	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	V層上面、鉄釘1点。	
P375	P-375	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	V層上面、口クロ土師1点。	
P376	P-376	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	V層上面。	
P377	P-377	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	中世	—	
P378	P-378	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	中世	糸切土師2点。	
P379	P-379	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	16世紀	Vb層2回目後、遺物なし。	
P380	P-380	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀	Vb層2回目後、遺物なし。	
P381	P-381	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	中世	Vb層2回目後、瓦葺土師1点、糸切土師1点。	
P382	P-382	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	中世	Vb層2回目後、遺物なし。	
P383	P-383	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層2回目後、遺物なし。	
P384	P-384	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層2回目後、遺物なし。	
P385	P-385	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	中世	Vb層2回目後、糸切土師3点、大内土師器1点。	
P386	P-386	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	中世	Vb層2回目後、遺物なし。	
P387	P-387	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	中世	Vb層2回目後、瓦葺土師1点、糸切土師1点、平瓦1点。	
P388	P-388	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀	Vb層2回目後、瓦葺土師1点、鉄釘1点、鉄釘1点。	
P389	P-389	柱穴	C地区 (C3区)	G46a区	16世紀	V層7回目後	
P390	P-390					土師器3点	
P391	P-391	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G46a区	15世紀	Vb層4回目後、遺物なし。	
P392	P-392	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、糸切土師1点。	
P393	P-393	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、遺物なし。	
P394	P-394	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、遺物なし。	
P395	P-395	(人馬) ビット	C地区 (C3区)	G45a区	15世紀	Vb層4回目後、遺物なし。	
P396	P-396	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	中世	Vb層3回目後、遺物整理1点、糸切土師1点。	
P-396	(自然)		C地区 (C5区)	G45c区		木の根	
P397	P-397	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	1587～	第1土師上	
P398	P-398	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	1587～	第1土師上	
P399	P-399	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	1587～	第1土師上	246
P400	P-400	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	1587～	第1土師上	
P401	P-401	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	第2土師上層以前出土 SK193を切る。	
P402	P-402	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀後半	貼り床のブロック	
P403	P-403	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	中世	糸切土師1点	
P404	P-404	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	中世	瓦葺土師1点、糸切土師1点。	
P405	P-405	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第3四半期	—	
P406	P-406	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	瓦葺土師1点。	
P408	P-408	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	銅銭1点	
P409	P-409	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	遺物なし。埋土砂。	
P410	P-410	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	糸切土師4点。	
P411	P-411	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	糸切土師4点。	
P-412	整地層のブロック		C地区 (C5区)	G45a区			
P413	P-413	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層7下層除去後	
P-414	(自然)		C地区			木の根	
P415	P-415	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層7下層除去後、遺物なし	
P416	P-416	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層7下層除去後、糸切土師1点。	
P-417	整地層のブロック		C地区 (C5区)	G45a区			
P-418	整地層のブロック		C地区 (C5区)	G45a区			
P419	P-419	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層7下層除去後	
P420	P-420	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層7下層除去後	
P421	P-421	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層7下層除去後	
P422	P-422	柱穴	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層7下層除去後、糸切土師4点	
P-423	⇒P411						
P424	P-424	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Vb層4回目後、SK27を切る。糸切土師2点、鉄釘1点。	
P425	P-425	(人馬) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Vb層4回目後、	
P426	P-426	(人馬) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層4除去後	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑦

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P427	P-427	柱穴	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層1段去除後	
P428	P-428	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層1段去除後	
P429	P-429	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層1段去除後	
P430	P-430	柱穴	C地区 (C5区)	G45c区	16世紀第1四半期	Va層1段去除後、赤切土跡1点。	
P431	P-431	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Va層1段去除後、赤切土跡1点。	
P432	P-432	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Vb層上面	
P433	P-433	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Vb層上面	
P434	P-434	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Vb層上面	
P435	P-435	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	16世紀第1四半期	Vb層上面	
P437	P-437	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	15世紀	遺層上面	
P438	P-438	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	15世紀	遺層上面	
P439	P-439	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45c区	15世紀	遺層上面	
P440	P-440	(人魚) ビット	C地区 (C5区)	G45a区	15世紀	Vb層1段去除後、赤切土跡4点。	
P441	P-441	(人魚) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	16世紀	Vb層4段去除後、	
P442	P-442	(人魚) ビット	C地区 (C4区)	G44b区	現代	スレート出土。	
P443	P-443	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	Vb層上面	
P444	P-444	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後、赤切土跡1点。	
P445	P-445	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後	
P446	P-446	(人魚) ビット	C地区 (C4区)	G45a区	15世紀	Vb層中、鉄釘1点。	
P447	P-447	(人魚) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層中	
P448	P-448	(人魚) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層中	
P449	P-449	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層中	
P450	P-450	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層中、古代土跡跡1点。	
P451	P-451	柱穴	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	Vb層中	
P451	P-451	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後	
P452	P-452	柱穴	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後、赤切土跡1点。	
P453	P-453	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後	
P454	P-454	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後	
P455	P-455	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後	
P456	P-456	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後	
P457	P-457	柱穴	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後、大内系土跡跡1点。	
P458	P-458	柱穴	C地区 (C6区)	G44d区	15世紀	遺層面下層後	
P459	P-459	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44d区	15世紀	—	
P460	P-460	小土坑	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺層面下層後、中世陶器類1点、瓦葺積1点。	
P-466			C地区			—	
P467	P-467	(人魚) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	鏡片1点。	
P468	P-468	(人魚) ビット	C地区 (C4区)	G45b区	15世紀	遺層面層上1点。	
P469	P-469	(人魚) ビット	C地区 (C4区)	G45c区	15世紀	中世陶器1点。	
P470	P-470	(人魚) ビット	C地区 (C6区)	G44b区	15世紀	遺跡跡、赤切土跡1点。	
P601	P-601	(人魚) ビット	F地区		中世	備前磨	
P602	P-602	(人魚) ビット	F地区	E36b区	不明	遺物なし	
P603	P-603	(人魚) ビット	F地区	F36d区	中世	赤切土跡跡	
P604	P-604	(人魚) ビット	F地区	F36d区	古代	古代土跡跡の破片が出土	
P605	P-605	(人魚) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P606	P-606	(人魚) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P607	P-607	(人魚) ビット	F地区	F36d区	中世	備前磨	
P608	P-608	(人魚) ビット	F地区	F36d区	中世	赤切土跡跡	
P609	P-609	(人魚) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P610	P-610	(人魚) ビット	F地区	F36b区	古代	古代土跡跡の破片が3点出土	
P611	P-611	P702の積層	F地区			⇒SR309	
P612	P-612	(人魚) ビット	F地区	F36b区		—	
P613	P-613	(人魚) ビット	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	—	
P614	P-614	(人魚) ビット	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	—	
P615	P-615	(人魚) ビット	F地区	F36b区	16世紀第4四半期	—	
P616	P-616	(人魚) ビット	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	—	
P617	P-617	(人魚) ビット	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	—	
P618	P-618	(人魚) ビット	F地区	F36a区	16世紀第4四半期	—	
P619	P-619	(人魚) ビット	F地区	G36a区	16世紀第4四半期	SK50を切る。屋敷跡と赤切土跡跡の破片が出土	
P620	P-620	(人魚) ビット	F地区	G36d区	16世紀第4四半期	P620を切る。	
P-621		⇒SK542	F地区			SK511を切り、内側に切られる。赤切土跡跡の破片3点が出土	
P-622		⇒SK542	F地区				
P623	P-623	(人魚) ビット	F地区	F37b区	不明	遺物なし	
P624	P-624	(人魚) ビット	F地区	F37a区	16世紀	遺物なし	
P625	P-625	(人魚) ビット	F地区	F37a区	中世	16世紀1四半期のSK60を切る。赤切土跡跡の破片が出土	
P626	P-626	(人魚) ビット	F地区	F37a区	8世紀末	赤切土跡跡	
P627	P-627	(人魚) ビット	F地区	F37a区	古代	—	31
P628	P-628	(人魚) ビット	F地区	F37a区	不明	P665を切る。古代の土跡跡の破片が数点出土	
P629	P-629	(人魚) ビット	F地区	F37a区	不明	遺物なし	
P630	P-630	(人魚) ビット	F地区	F37a区	中世	遺物なし	
P-631		自然の凸凹	F地区	F37a区		土跡跡類	
P632	P-632	(人魚) ビット	F地区	G37a区	中世	土跡跡類	
P633	P-633	(人魚) ビット	F地区	E37a区	16世紀第2四半期	定形土跡跡類	
P634	P-634	(人魚) ビット	F地区		16世紀後半	宮原系土跡跡類和用瓦葺、瓦葺土跡跡の破片が出土	57
P635	P-635	(人魚) ビット	F地区	F38b区	16世紀後半	SD561を切る。中世和用陶器と赤切土跡跡の破片が出土	
P636	P-636	(人魚) ビット	F地区	F38b区	16世紀後半	SD563を切り、大内系土跡跡と備前磨類の破片が出土	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑧

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
P637	P-637	(人海) ビット	F地区	F38c区	中世	糸切土師坪	
P638	P-638	(人海) ビット	F地区	F38c区	不明	土師器	
P639	P-639	S567の柱礎	F地区			⇒SB309	
P639	P-639	(人海) ビット	F地区	F38d区	10世紀後半	S563をきる	
P640	P-640	(人海) ビット	F地区	F38c区	中世	糸切土師坪	
P641	P-641	P696の柱礎	F地区			⇒SB309	
P642	P-642	自然の凸凹	F地区	F38c区			
P643	P-643	P695の柱礎	F地区			⇒SB309	
P644	P-644	(人海) ビット	F地区	F38d区	10世紀後半	S563をきる、糸切土師坪の破片が出土	
P645	P-645	(人海) ビット	F地区	F38d区	10世紀後半	S563をきる	
P646	P-646	(人海) ビット	F地区		10世紀後半	—	
P647	P-647	(人海) ビット	F地区	F37b区	不明	遺物なし	
P648	P-648	(人海) ビット	F地区	G38c区	10世紀第2四半期	京都系土師器1期の皿と糸切土師坪の破片が出土	57
P649	P-649	(人海) ビット	F地区	G38c区	不明	遺物なし	
P650	P-650	(人海) ビット	F地区	G38c区	中世	糸切土師坪	
P651	P-651	P698の柱礎	F地区			⇒SB309	
P652	P-652	(人海) ビット	F地区	F38a区	不明	遺物なし	
P653	P-653	(人海) ビット	F地区	F38b区	10世紀後半	S563をきる	
P654	P-654	(人海) ビット	F地区	F38b区	不明	遺物なし	
P655	P-655	(人海) ビット	F地区	F38b区	10世紀後半	S563をきる	
P656	P-656	(人海) ビット	F地区	F38b区	10世紀後半	S563をきる	
P657	P-657	P699の柱礎	F地区	G38c区	古代	⇒SB309	
P658	P-658	(人海) ビット	F地区	F38a区	10世紀第4四半期	10世紀1四半期のSE12を切る、クワ型土師坪の破片1点が出土	
P659	P-659	(人海) ビット	F地区		不明	古代土師器	
P660	P-660	(人海) ビット	F地区	E36b区	不明	遺物なし	
P661	P-661	(人海) ビット	F地区	F37c区	不明	遺物なし	
P662	P-662	(人海) ビット	F地区	F37c区	古代	古代土師器坪底部の破片が出土	
P663	P-663	(人海) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P664	P-664	(人海) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P665	P-665	(人海) ビット	F地区	F37c区	古代	P671に切られ、古代土師器の破片が3点出土	
P666	P-666	(人海) ビット	F地区	E37a区	古代	古代土師器の破片が数点出土	
P667	P-667	(人海) ビット	F地区	F36d区	不明	遺物なし	
P668	P-668	(人海) ビット	F地区	F37c区	古代	P671に切られ、古代土師器の破片が2点出土	
P669	P-669					⇒SK669	
P670	P-670	(人海) ビット	F地区	F37c区	不明	遺物なし	
P671	P-671	(人海) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P672	P-672	(人海) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P673	P-673	(人海) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P674	P-674	(人海) ビット	F地区	F37b区	古代	古代土師器口縁部破片が1点出土	
P675	P-675		F地区			欠番	
P676	P-676	(人海) ビット	F地区	F36c区	不明	遺物なし	
P677	P-677	(人海) ビット	F地区	F36a区	10世紀後半	京都系土師器II期皿と、古代土師坪底部の破片が出土	
P678	P-678	(人海) ビット	F地区	F36a区	古代	土師器の破片が1点出土	
P679	P-679	(人海) ビット	F地区	F36a区	不明	遺物なし	
P680	P-680	(人海) ビット	F地区	F38c区	不明	遺物なし	
P680	P-680	P694の柱礎	F地区			⇒SB309	
P682	P-682	(人海) ビット	F地区	F36a区	10世紀後半	SE556をきる	
P683	P-683	(人海) ビット	F地区	F36a区	不明	遺物なし	
P684	P-684	(人海) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P685	P-685	(人海) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P686	P-686	(人海) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P687	P-687	(人海) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P688	P-688	(人海) ビット	F地区	F37c区	古代	—	
P689	P-689	(人海) ビット	F地区	F37d区	不明	遺物なし	
P690	P-690	(自然)	F地区			木の根	
P691	P-691	柱穴	F地区	F37d区	中世	自然物	
P692	P-692	(人海) ビット	F地区	F38a区	10世紀後半	S5627をきる	
P693	P-693	柱穴	F地区			⇒SB309	
P694	P-694	柱穴	F地区			⇒SB309	
P695	P-695	柱穴	F地区			⇒SB309	
P696	P-696	柱穴	F地区			⇒SB309	
P697	P-697	柱穴	F地区			⇒SB309	
P698	P-698	柱穴	F地区			⇒SB309	
P699	P-699	柱穴	F地区			⇒SB309	
P700	P-700	柱穴	F地区			⇒SB309	
P701	P-701	柱穴	F地区			⇒SB309	
P702	P-702	柱穴	F地区			⇒SB309	
P703	P-703	柱穴	F地区			⇒SB309	
P704	P-704	柱穴	F地区			⇒SB309	
P705	P-705	柱穴	F地区			⇒SB309	
P706	P-706	柱穴	F地区			⇒SB309	
P707	P-707	(人海) ビット	F地区	G38c区	不明	遺物なし	
P708	P-708	(人海) ビット	F地区	F38d区	中世	糸切土師坪	
P709	P-709	(人海) ビット	F地区		不明	遺物なし	
P710	P-710	柱穴	F地区			⇒SB309	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑨

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
	P-711	柱穴	F地区		⇒SB309	
	P-712	柱穴	F地区		⇒SB309	
	P-713	柱穴	F地区		⇒SB309	
	P-714	柱穴	F地区		⇒SB309	
P715	P-715	柱穴	F地区	G37d区	中世	糸切土器片
P716	P-716	(人魚)	F地区	F36a区	古世	—
P717	P-717	(人魚)	F地区	F36a区	近世	—
P801	P-801	(人魚) ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし
P802	P-802	(人魚) ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし
P803	P-803	(人魚) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし
P804	P-804	(人魚) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし
	P-805	柱穴	G地区		⇒SB303	
P906	P-806	(人魚) ビット	G地区	F35a区	15~16世紀	備前焼壺胴部
P907	P-807	(人魚) 盛り込み	G地区	E35d区	16世紀第2四半期	祭祀遺構あるいは乳児墓か。
P908	P-808	(人魚) ビット	G地区	F35b区	不明	—
P909	P-809	(人魚) ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし
P910	P-810	(人魚) ビット	G地区	F35b区	16世紀代	16世紀第1四半期のSK05を切る
P911	P-811	(人魚) ビット	G地区	F35b区	16世紀後半	16世紀第1四半期のSK05を切る
P912	P-812	(人魚) ビット	G地区	F35b区	16世紀代	京都系土器第2期皿1点が出土。
P913	P-813	(人魚) ビット	G地区	F35d区	16世紀代	鉄製小刀・16世紀の青花焼1点と瓦葺火鉢1点の破片が出土
	P-814	柱穴	G地区		⇒SB302	
P915	P-815	(人魚) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし
	P-816	柱穴	G地区		⇒SB302	
P917	P-817	(人魚) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし
P918	P-818	(人魚) ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし
P919	P-819	(人魚) ビット	G地区	F35b区	不明	—
P920	P-820	(人魚) ビット	G地区	F35d区	不明	須恵系
P921	P-821	(人魚) ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし
	P-822	柱穴	G地区		⇒SB303	
P923	P-823	(人魚)	G地区	F35b区	16世紀代	京都系土器第1期皿の破片が出土
	P-824	(自然)	G地区			
P925	P-825	(自然)	G地区	F35b区	古代	自然のしみ? 古代の土器破片が出土
P926	P-826	(人魚) ビット	G地区	F35a区	不明	古代土器器
P927	P-827	(人魚) ビット	G地区	F35a区	不明	糸切土器片
P928	P-828	(人魚) ビット	G地区	F35c区	古代	土器器の破片が1点出土
P929	P-829	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	—
P930	P-830	(人魚) ?	G地区	F35c区	不明	古代土器器
P931	P-831	(人魚) ビット	G地区	F35c区	中世	中国東南陶器
P932	P-832	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	—
P933	P-833	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	—
P934	P-834	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし
P935	P-835	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	古代土器器
P936	P-836	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	—
P937	P-837	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	古代土器器
P938	P-838	(人魚) ビット	G地区	F35c区	16世紀	ロク口目土器
P939	P-839	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし
P940	P-840	(人魚) ビット	G地区	F35c区	古代	古代土器器の小片が4点出土
P941	P-841	(人魚) ビット	G地区	E34d区	15~16世紀	遺物なし
P942	P-842	(人魚) ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし
P943	P-843	(人魚) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	—
P944	P-844	(人魚) ビット	G地区	F35c区	16世紀代	SD719を切る。中世6期の備前焼壺口縁の破片が出土
P945	P-845	(人魚) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	京都系土器器皿が出土。
P946	P-846	(人魚) ビット	G地区	F34b区	不明	—
P947	P-847	(人魚) ビット	G地区	F34b区	不明	遺物なし
P948	P-848	(人魚) ビット	G地区	F34b区	不明	—
P949	P-849	(人魚) ビット	G地区	F34b区	不明	—
P950	P-850	(人魚)	G地区	F34b区	16世紀代	ロク口目土器1点と美戸美天目織の破片が出土
P951	P-851	(人魚) ビット	G地区	F34b区	古代	—
P952	P-852	(人魚) ビット	G地区	F34d区	古代	土器器の破片が1点出土
P953	P-853	(人魚) ビット	G地区	F34d区	古代	土器器の破片が1点出土
P954	P-854	柱穴	G地区	F34d区	16世紀代	鉄製小刀・16世紀の青花焼1点と瓦葺火鉢1点の破片が出土
P955	P-855	(人魚) ビット	G地区	F34d区	古代	土器器の破片が1点出土
P956	P-856	(人魚) ビット	G地区	E34b区	古代	土器器の破片が3点出土
P957	P-857	(人魚) ビット	G地区	E34b区	古代	土器器の破片が3点出土
P958	P-858	(人魚) ビット	G地区	E34b区	不明	遺物なし
P959	P-859	(人魚) ビット	G地区	E34b区	古代	土器器の破片が1点出土
P960	P-860	(人魚)	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる
	P-861	(人魚) ?	G地区	F34d区		遺構かどうか不明
P962	P-862	(人魚) ?	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる
P963	P-863	(人魚) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる
P964	P-864	(人魚) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる
P965	P-865	(人魚) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	—
P966	P-866	(人魚) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる
P967	P-867	(人魚) ビット	G地区	F34d区	16世紀後半	SD766をきる
P968	P-868	(人魚) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑩

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
P669	P-669	(人海) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P670	P-670	(人海) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P671	P-671	(人海) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P672	P-672	(人海) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P673	P-673	(人海) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P674	P-674	(人海) ビット	G地区	F34b区	16世紀後半	SD766をきる	
P675	P-675	(人海) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P676	P-676	(人海) ビット	G地区	E34a区	16世紀後半	SD766をきる	
P677	P-677	(人海) ビット	G地区	E34a区	16世紀後半	SD766をきる	
P678	P-678	(人海) ビット	G地区	E34a区	16世紀後半	SD766をきる	
P679	P-679	(人海) ビット	G地区		不明	遺物なし	
P680	P-680	(人海) ビット	G地区		中世	糸切土師	
P681	P-681	(人海) ビット	G地区		中世	糸切土師	
P682	P-682	(人海) ビット	G地区	F34c区	中世	糸切土師	
P683	P-683	(人海) ビット	G地区	E34a区	16世紀後半	SD775をきる	
P684	P-684	(人海) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P685	P-685	(人海) ビット	G地区	F34c区	不明	遺物なし	
P686	P-686	(人海) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P687	P-687	(人海) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P688	P-688	(人海) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P689	P-689	(人海) ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	SD766をきる	
P690	P-690	(人海) ビット	G地区	F34a区	16世紀後半	SD766をきる	
P691	P-691	(人海) ビット	G地区	F34a区	中世	糸切土師	
P692	P-692	(人海) ビット	G地区	F34a区	中世	糸切土師	
P693	P-693	(人海) ビット	G地区	F34c区	不明	遺物なし	
P694	P-694	(人海) ビット	G地区	F34c区	不明	遺物なし	
P695	P-695	柱穴	G地区	F33d区	不明	古代土師器	
P696	P-696	柱穴	G地区	F33d区	16世紀後半	SD775をきる	
P697	P-697	柱穴	G地区	E33b区	16世紀後半	SD775をきる	
P698	P-698	(人海) ビット	G地区	E33d区	不明	古代土師器	
P699	P-699	(人海) ビット	G地区	E33d区	16世紀	—	
	P-900	柱穴	G地区			⇒SA311	
P901	P-901	(人海) ビット	G地区	E33c区	古代	—	26
	P-902	柱穴	G地区			⇒SA311	
P903	P-903	柱穴	G地区	E33c区	不明	古代土師器	
P904	P-904	(人海) ビット	G地区	E32a区	中世	糸切土師、動物骨	
P905	P-905	柱穴	G地区	E32b区	不明	遺物なし	
P906	P-906	(人海) ビット	G地区	F33d区	古代	SD775をきる	
P907	P-907	柱穴	G地区	F33d区	16世紀後半	SD775をきる	
	P-908	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-909	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-910	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-911	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-912	柱穴	G地区			⇒SA311	
	P-913	柱穴	G地区			⇒SA311	
P914	P-914	(人海) ビット	G地区	E32b区	不明	遺物なし	
P915	P-915	(人海) ビット	G地区	E32b区	不明	遺物なし	
P916	P-916	(人海) ビット	G地区	F32d区	不明	遺物なし	
P917	P-917	(人海) ビット	G地区	F32d区	16世紀後半	SD775をきる	
P918	P-918	(人海) ビット	G地区	F33c区	16世紀後半	SD775をきる	
	P-919	SD775の一部	G地区			—	
P920	P-920	(人海) ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P921	P-921	(人海) ビット	G地区	F35b区	16世紀後半	S709を切る	
	P-922	柱穴	G地区			⇒SB302	
P923	P-923	(人海) ビット	G地区	E32d区	16世紀	—	
P924	P-924	(人海) ビット	G地区	F35a区	不明	遺物なし	
	P-925	柱穴	G地区			⇒SB307	
P926	P-926	(人海) ビット	G地区	E32b区	16世紀第2四半期	京都系土師器1類品の破片が出土	57
P927	P-927	(人海) ビット	G地区	F34b区	不明	—	
	P-928	柱穴	G地区			⇒SB307	
P929	P-929	(人海) ビット	G地区	E35c区	16世紀第4四半期	SK711を切る、京都系土師器1類口縁、3類口縁が出土	
P930	P-930	ビット	G地区	F35b区	古代	—	28
P931	P-931	(人海) ビット	G地区	F35b区	不明	—	
P932	P-932	ビット	G地区	F35b区	古代	—	28
	P-933	柱穴	G地区			⇒9B303	
	P-934	柱穴	G地区			⇒9B302	
	P-935	柱穴	G地区			⇒9B302	
	P-936	(誤植)	G地区			—	
	P-937	柱穴	G地区			⇒9B302	
P938	P-938	(人海) ビット	G地区	F35a区	中世	糸切土師	
	P-939	柱穴	G地区			⇒9B302	
P940	P-940	(人海) ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
	P-941	柱穴	G地区			⇒9B302	
P942	P-942	(人海) ビット	G地区	F35c区	不明	—	
P943	P-943	(人海) ビット	G地区	F35c区	不明	—	

第7次調査区遺構一覧表（P番号）⑪

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	発掘 頁	
P944	P-944	ビット	G地区	F35c区	古代	—	28
P945	P-945	(人魚)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P946	P-946	(人魚)ビット	G地区	E34b区	16世紀後半	SD766をみる	
	P-947	(自然)	G地区				
	P-948	(自然)	G地区				
P949	P-949	(人魚)ビット	G地区	E34b区	不明	遺物なし	
P950	P-950	(人魚)ビット	G地区	F34b区	不明	遺物なし	
P951	P-951	(人魚)ビット	G地区	F34b区	16世紀第4四半期	備前焼酎のすり目の楕円片1点	
P952	P-952	(人魚)ビット	G地区	F34b区	16世紀	ロウロ目土師器	
P953	P-953	(人魚)ビット	G地区	F34c区	中世	糸切土師	
P954	P-954	(人魚)ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
	P-955	柱穴	G地区			⇒SB303	
P956	P-956	(人魚)ビット	G地区	F35d区	中世	中国陶磁	
P957	P-957	(人魚)ビット	G地区	F35d区	不明	遺物なし	
P958	P-958	(人魚)ビット	G地区	F34c区	16世紀後半	—	
P959	P-959	(人魚)ビット	G地区	F34c区	不明	古代土師器	
P960	P-960	(人魚)ビット	G地区	E34b区	16世紀後半	SD766をみる	
P961	P-961	(人魚)ビット	G地区	F34d区	中世	—	
P962	P-962	(人魚)ビット	G地区	E34b区	中世	糸切土師	
P963	P-963	(人魚)ビット	G地区	F34b区	中世	銅銭	
P964	P-964	(人魚)ビット	G地区	F34b区	不明	古代土師器	
P965	P-965	(人魚)ビット	G地区		16世紀後半	青花皿B2類が出土	
P966	P-966	(人魚)ビット	G地区	F34b区	中世	—	
P967	P-967	(人魚)ビット	G地区	F35c区	古代	ミガキの施された土師器の破片が1点出土	
P968	P-968	(人魚)ビット	G地区	F34d区	不明	古代土師器	
P969	P-969	(人魚)ビット	G地区	F34d区	不明	古代土師器	
P970	P-970	(人魚)ビット	G地区	E35d区	不明	古代土師器	
P971	P-971	(人魚)ビット	G地区	E34b区	不明	—	
P972	P-972	(人魚)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P973	P-973	(人魚)ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
P974	P-974	(人魚)ビット	G地区	F35c区	不明	遺物なし	
P975	P-975	(人魚)ビット	G地区	F35b区	古代	古代土師器の小片が4点出土	
P976	P-976	(人魚)ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし	
	P-977	柱穴	G地区			⇒SB303	
P978	P-978	(人魚)ビット	G地区	F35b区	不明	遺物なし	
P979	P-979	(人魚)ビット	G地区	F35a区	不明	遺物なし	
P980	P-980	(人魚)ビット	G地区		不明	古代土師器	
P981	P-981	(人魚)ビット	G地区	F34d区	不明	古代土師器	
	P-982	柱穴	G地区			⇒SB302	
	P-983	柱穴	G地区			⇒SB302	
	P-984	柱穴	G地区			⇒SB302	
P985	P-985	(人魚)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P986	P-986	(人魚)ビット	G地区	F35a区	中世	—	
P987	P-987	(人魚)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P988	P-988	(人魚)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P989	P-989	(人魚)ビット	G地区	F35c区	不明	古代土師器	
P990	P-990	(人魚)ビット	G地区	F35a区	16世紀代	—	
P991	P-991	ビット	G地区	F35c区	不明	自然の凸部が、	
P992	P-992	(人魚)ビット	G地区	F34b区	古代	S763に切られる。土師器の破片が3点出土	
P993	P-993	(人魚)ビット	G地区		不明	古代土師器	
P994	P-994	(人魚)ビット	G地区	F34a区	中世	糸切土師	
P995	P-995	(人魚)ビット	G地区	F35a区	不明	古代土師器	
P996	P-996	(人魚)ビット	G地区	E34b区	16世紀後半	京都系土師器出土	
P997	P-997	(人魚)ビット	G地区	F34b区	16世紀第4四半期	青花碗C群片1点、京都系土師器3期皿口縁1点	
P998	P-998	柱穴	G地区	F34b区	中世	—	
P999	P-999	(人魚)ビット	G地区	F34b区	古代	—	28
P1000	P-1000	(人魚)ビット	G地区	F34b区	中世	—	
P1001	P-1001	(人魚)ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1002	P-1002	(人魚)ビット	G地区		不明	古代土師器	
P1003	P-1003	(人魚)ビット	G地区	F35a区	不明	遺物なし	
P1004	P-1004	(人魚)ビット	G地区		不明	遺物なし	
	P-1005	柱穴	G地区			⇒SB303	
P1006	P-1006	(人魚)ビット	G地区	F35a区	不明	—	
P1007	P-1007	(人魚)ビット	G地区	F35b区	不明	—	
P1008	P-1008	(人魚)ビット	G地区	F36b区	不明	遺物なし	
P1009	P-1009	(人魚)ビット	G地区	F35a区	16世紀第4四半期	京都系土師器2～3期皿が1点出土	97
	P-1010	柱穴	G地区			⇒SB308	
	P-1011	柱穴	G地区			⇒SB308	
P1012	P-1012	(人魚)ビット	G地区	F33a区	16世紀第4四半期	土師器埋納	97
P1013	P-1013	(人魚)ビット	G地区	F33c区	不明	遺物なし	
P1014	P-1014	(人魚)ビット	G地区		不明	—	
P1015	P-1015	(人魚)ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1016	P-1016	(人魚)ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1017	P-1017	(人魚)ビット	G地区		16世紀代	京都系土師器の破片が出土	
	P-1018	柱穴	G地区			⇒SA311	

第7次調査区遺構一覧表 (P番号) ⑫

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	相継 頁	
P1019	P-1019	(人魚) ビット	G地区	不明	遺物なし		
	P-1020	柱穴	G地区		⇒SA311		
P1021	P-1021	(人魚) ビット	G地区	不明	古代土師器		
P1022	P-1022	(人魚) ビット	G地区	不明	遺物なし		
P1023	P-1023	(人魚) ビット	G地区	不明	古代土師器		
P1024	P-1024	(人魚) ビット	G地区	中世	—		
P1025	P-1025	(人魚) ビット	G地区	中世	—		
	P-1026	柱穴	G地区		⇒SB305		
	P-1027	柱穴	G地区		⇒SB305		
	P-1028	柱穴	G地区		⇒SB305		
	P-1029	柱穴	G地区		⇒SB305		
	P-1030	柱穴	G地区		⇒SB305		
	P-1031	柱穴	G地区		⇒SB308		
	P-1032	柱穴	G地区		⇒SB308		
	P-1033	柱穴	G地区		⇒SB306C		
	P-1034	柱穴	G地区		⇒SB308		
	P-1035	(自然)	G地区				
	P-1036	柱穴	G地区		⇒SB308		
	P-1037	柱穴	G地区		⇒SB306C		
	P-1038	SB-6 柱穴	G地区				
	P-1039	(自然)	G地区				
P1040	P-1040	柱穴	G地区	F33C区	古代	SB306周辺	25
	P-1041	P-1043となる	G地区				
	P-1042	P-1043となる	G地区				
	P-1043	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1044	柱穴	G地区			⇒SB306B	
P1045	P-1045	土坑	G地区	F33C区	古代	SB306周辺	25
P1046	P-1046	(人魚) ビット	G地区	不明	遺物なし		
P1047	P-1047	(人魚) ビット	G地区	F33b区	不明	—	
P1048	P-1048	(人魚) ビット	G地区	不明	遺物なし		
P1049	P-1049	(人魚) ビット	G地区	不明	遺物なし		
	P-1050	柱穴	G地区		⇒SB306C		
	P-1051	柱穴	G地区		⇒SB306C		
	P-1052	柱穴	G地区		⇒SB306B		
	P-1053	柱穴	G地区		⇒SB306B		
	P-1054	柱穴	G地区		⇒SB306C		
P1055	P-1055	柱穴	G地区	F35a区	古代	—	28
P1056	P-1056	(人魚) ビット	G地区	E34b区	中世	糸切土師	
P1057	P-1057	(人魚) ビット	G地区		不明	—	
P1058	P-1058	土坑	G地区	E34b区	古代	S270c, c671cを併せて作成した。土師器片の破片が出土している。	
	P-1059	柱穴	G地区			⇒SA311	
P1060	P-1060	土坑	G地区	F33d区	古代	SB306周辺	25
	P-1061	S-821に変更	G地区				
	P-1062	SB-9の柱穴	G地区				
P1063	P-1063	(人魚) ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1064	P-1064	(人魚) ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1065	P-1065	(人魚) ビット	G地区		不明	遺物なし	
P1066	P-1066	(人魚) ビット	G地区		不明	遺物なし	
	P-1067	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	P-1068	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1069	柱穴	G地区			⇒SB308	
	P-1070	(自然)	G地区				
P1071	P-1071	(人魚) ビット	G地区	E34a区	16世紀	—	
P1072	P-1072	(人魚) ビット	G地区	F34a区	古代	SB306周辺	26
	P-1073	柱穴	G地区			⇒SB306A	
	P-1074	柱穴	G地区			⇒SB306C	
	P-1075	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	P-1076	土坑	G地区	F34a区	古代	SB306周辺	
P1077	P-1077	土坑	G地区	F35a区	古代	SB306周辺	25
	P-1078	柱穴	G地区			⇒SB306B	
	P-1079	柱穴	G地区			⇒SB306A	
P1080	P-1080	(人魚) ビット	G地区	E33b区	16世紀後半	京都系土師器2類品の破片が出土	

第16次調査区遺構一覧表①

(ゴチックは、本文あり)

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP 1	S-1	柱穴	A地区 (御所小路町北)	J-36区	16世紀	平瓦1点。	
SP 2	S-2	柱穴	A地区 (御所小路町北)	J-36区	16世紀	赤切土跡2点	
SP 3	S-3	柱穴	A・B地区 (御所小路町北)	J-36区	16世紀	庭が段になる。	
SK 4	S-4	小土坑	B地区 (御所小路町北)	J37区	16世紀第3四半期	溝い	290
SK 5	S-5	小土坑	B地区 (御所小路町北)	J37区	16世紀第4四半期	焼融穴充填	295
SP 6	S-6	柱穴	B地区 (御所小路町北)	J-37区	16世紀後半	II層上面、瓦貫跡1点。	
SP 7	S-7	SP119の柱礎	B地区 (御所小路町北)	J-37区			
SP 8	S-8	柱穴	B地区 (御所小路町北)	J-37区	中世	II層上面、遺物なし。	
SK 9	S-9	土坑	B地区 (御所小路町北)	J-37区	中世	II層上面、古代土師器	
SP10	S-10	柱穴	C地区 (御所小路町北)	J-38区	16世紀	II層上面、備前焼鉢1点。クワ口目土師1点。	
SP11	S-11	柱穴	B地区 (御所小路町北)	J-37区	16世紀後半	II層上面、京都系土師器2期皿1点。	
SP12	S-12	柱穴	B地区 (御所小路町北)	J-37区	16世紀後半	II層上面、遺物なし。	
SP13	S-13	柱穴	C地区 (御所小路町北)	K39区	16世紀後半	II層上面、大内系土師器1点。	
SK14	S-14	土坑	B地区 (御所小路町北)	J37区	16世紀第4四半期	土坑または溝の先端である。草摺一括、覆りなしあり。	294
SK15	S-15	廃棄土坑(長円形)	C地区 (御所小路町北)	K39区	16世紀第4四半期	底部平墳、二段段り。廃棄土坑。	295
SK16	S-16	方形土坑	B地区 (御所小路町北)	J37区	16世紀第4四半期	用途不明	298
SD17	S-17	溝	B地区 (御所小路町北)	J37区	16世紀前半	一括資料	286
SD18	S-18	溝	A・B地区 (御所小路町北)	J36・37区	16世紀前半	御所小路の北に流行する大溝	283
SP19	S-19	小土坑	B地区 (御所小路町北)	J37区	16世紀後半	II層上面、瓦貫跡1点。	
SK20	S-20	土坑	B地区 (御所小路町北)	J37区	16世紀後半	II層上面、古代土師器皿1点。クワ口目土師皿1点	
SD21・22	S-21, S-22	溝 (道路側溝)	A地区 (御所小路町北)	J35区	16世紀第3四半期	御所小路の側溝	289
SD23	S-23	溝	A地区 (御所小路町北)	J35区	16世紀第4四半期	確実な	293
SP24	S-24	柱穴	C地区 (御所小路町北)	K40区	近代の新しいピット	II層上面以上。	
SK25	S-25	覆土	C地区 (御所小路町北)			極めて軟らかい土	
SP26	S-26	柱穴	C地区 (御所小路町北)	K40区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP27	S-27	小ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	中世	II層上面以上。瓦貫跡1点。	
SP28	S-28	小ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	不明	II層上面、土師1点、鉄釘1点。	
S29	S-29	木の根か?	C地区 (御所小路町北)			遺構ではない	
SP30	S-30	柱穴	C地区 (御所小路町北)	K40区	中世	II層上面以上。土師器1点。	
SK31	S-31	土坑	B地区 (御所小路町北)	J37区	9世紀	溝の先端の可能性あり。	280
SP32	S-32	小ピット	C地区 (御所小路町北)	K39区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP33	S-33	小ピット	C地区 (御所小路町北)	K39区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SK34	S-34	土坑	C地区 (御所小路町北)	K39区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP35	S-35	柱穴	C地区 (御所小路町北)	K39区	16世紀第4四半期	—	298
SK36	S-36	方形土坑	C地区 (御所小路町北)	K39区	16世紀第4四半期	用途不明	296
SK37	S-37	土坑	C地区 (御所小路町北)	K39区	16世紀第4四半期	—	298
S38	S-38	小ピット	A地区 (御所小路町北)	J36区	16世紀後半	II層上面以上。京都系土師器1期1点。	
SP39	S-39	柱穴	B地区 (御所小路町北)	K38区	8～9世紀	II層上面以上。古代土師器鉢1点。	280
SP40	S-40	小ピット	B地区 (御所小路町北)	K38区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP41	S-41	柱穴	B地区 (御所小路町北)	J38区	16世紀第3四半期	—	291
SP42	S-42	柱穴	A地区 (御所小路町北)	J36区	16世紀第3四半期	—	290
SP43	S-43	柱穴	B地区 (御所小路町北)	J38区	8～9世紀	—	280
SP44	S-44	小ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	不明	B-II層上面以上。	
SP45	S-45	ピット	C地区 (御所小路町北)	K39区	不明	B-II層上面以上。	
SP46	S-46	ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	不明	B-II層上面以上。土師1点。	
SP47	S-47	ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	中世	B-II層上面以上。赤切土師3点。	
SP48	S-48	ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	中世	B-II層上面以上。白磁1点。赤切土師1点。	
SP49	S-49	ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	不明	B-II層上面以上。遺物なし。	
SP50	S-50	ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	不明	B-II層上面以上。遺物なし。	
SP51	S-51	ピット	C地区 (御所小路町北)	K40区	中世	B-II層上面以上。赤切土師3点。	
SP52	S-52	ピット	B地区 (御所小路町北)	K38区	15～16世紀	II層上面、備前焼鉢1点。赤切土師1点。	
SP53	S-53	ピット	B地区 (御所小路町北)	K38区	不明	B-II層上面以上。遺物なし。	
SP54	S-54	柱穴	B地区 (御所小路町北)	K38区	8～9世紀	—	280
SP55	S-55	柱穴	B地区 (御所小路町北)	K38区	8～9世紀	—	280
SP56	S-56	ピット	D地区 (御所小路町北)	K40区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP57	S-57	ピット	D地区 (御所小路町北)	K40区	中世	II層上面以上。瓦貫土器1点。	
SP58	S-58	ピット	D地区 (御所小路町北)	K40区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP59	S-59	ピット	D地区 (御所小路町北)	K40区	16世紀	II層上面以上。クワ口目土師1点。	
SK60	S-60	土坑	D地区 (御所小路町北)	K40区	16世紀第2四半期	—	
SP61	S-61	ピット	C地区 (御所小路町北)	K38区	16世紀後半	SK60=16世紀後半を切る。遺物なし。	
SP62	S-62	ピット	C地区 (御所小路町北)	K38区	16世紀後半	SK60=16世紀後半を切る。遺物なし。	
SP63	S-63	ピット	C地区 (御所小路町北)	K38区	16世紀後半	SK60=16世紀後半を切る。遺物なし。	
SP64	S-64	ピット	C地区 (御所小路町北)	K38区	16世紀後半	SK60=16世紀後半を切る。管状土師1点。	
SP65	S-65	ピット	C地区 (御所小路町北)	K38区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SK66	S-66	窪みを埋めた管状物	B地区 (御所小路町北)	K38区	16世紀第3四半期	—	290
SP67	S-67	ピット	D地区 (御所小路町北)	K40区	16世紀	II層上面以上。瓦貫跡1点。	
SP68	S-68	ピット	D地区 (御所小路町北)	K40区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP69	S-69	ピット	D地区 (御所小路町北)	K40区	不明	II層上面以上。遺物なし。	
SP70	S-70	溝跡	G地区	L44・45区	16世紀	上町町の遺溝	309
SK71	S-71	土坑	F地区 (上町町南3区画)	L43区	16世紀第4四半期 (1587～)	—	348
SK72	S-72	廃棄土坑	F地区 (上町町南3区画)	L43区	16世紀第4四半期 (1587～)	—	346
SP73	S-73	柱穴	E地区 (上町町南4区画)	L42区	16世紀第4四半期 (1587～)	塊状方形	352
SP74	S-74	小ピット	E地区 (上町町南)	L42区	16世紀	A層上面、赤切土師2点。	
S-75	S-75	遺構ではない	F地区				
SK76	S-76	小土坑	G地区 (上町町跡路上)	L44区	1596～17世紀初頭	—	305



第16次調査区遺構一覧表②

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	埋蔵頁	
SK77	S-77	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP78	S-78	溝	G地区(上市町道路上)	L44区	1596~17世紀初頭	—	317
SO79	S-79	穴	G地区(上市町道路上)	L45区	17世紀初頭	道路廃絶後の遺構	319
SP80	S-80	柱穴	G地区(上市町道路上)	L44区	1596~17世紀初頭	—	317
SK81	S-81	土坑	F地区(上市町西2区画)	L44区	1596~17世紀初頭	—	355
SP82	S-82	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1587~17世紀初頭	—	348
SP83	S-83	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1587~17世紀初頭	—	348
SP84	S-84	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1587~17世紀初頭	—	348
SK85	S-85	廃棄土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	1596~17世紀初頭	確度裏	318
SK86	S-86	土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	近現代	—	—
SK87	S-87	土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	近現代	—	—
SK88	S-88	土坑	G地区(上市町道路上)	LM45区	近現代	—	—
S-89		遺構ではない	H地区				
S-90		遺構ではない	H地区				
SK91	S-91	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	H層上面、赤切土器0点、瓦質土器1点	
SX92	S-92	ビット	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	B層上面、遺物なし。	
SP93	S-93	ビット	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	B層上面、遺物なし。	
SK94	S-94	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	B層上面、青花磁2点、赤切土器2点。	
SK95	S-95	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀	B層上面、遺物なし。	
SK96	S-96	廃棄土坑	D地区(御所小路町北)	L41区	16世紀第3四半期	—	290
SO97	S-97	小溝	D地区(御所小路町北)	K41区	中世	H層上面、瓦質土器1点	
SK98	S-98	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	386
SK99	S-99	小土坑	H地区東(上市町東)	M46区	1596~17世紀初頭	—	395
SK100	S-100	廃棄土坑	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	火災焼埋土坑	353
SK101	S-101	廃棄土坑	H地区東(上市町東2区画)	L46区	1596~17世紀初頭	—	395
SP102	S-102	柱穴	H地区東(上市町東)	M46・47区	1596~17世紀初頭	—	395
SK103	S-103	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	確度裏	386
SK104	S-104	土坑	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP105	S-105	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	1587~17世紀初頭	—	386
SK106	S-106	土坑	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SI07	S-107		H地区				
SK108	S-108	土坑	H地区東(上市町東0区画)	M48区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	385
SP109	S-109	柱穴	H地区東(上市町東0区画)	M48区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	395
SD110	S-110	溝	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀第4四半期	確度裏	294
S-111	S-111	埋土	H地区				396
SP112	S-112	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP113	S-113	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP114	S-114	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	1596~17世紀初頭	—	386
SK115	S-115	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	1596~17世紀初頭	—	395
SP116	S-116	柱穴	H地区(上市町東1区画)	M47区	1587~17世紀初頭	—	386
SK117	S-117	廃棄土坑	H地区東(上市町東1区画)	M48区	1587前後	火災焼埋土坑	386
SP118	S-118	ビット	D地区(御所小路町北)	L41区	16世紀第4四半期	京都系土器類1期1点	
SP119	S-119	柱穴	B地区(御所小路町北)	J37区	16世紀後半(SD17を切る)	H層上面、青花磁E器1点、土師器2点、コウロ土器1点。	
S-120	S-120	SI22と同じ	D地区(御所小路町北)				
SP121	S-121	柱穴	B地区(御所小路町北)	J37区	不明	H層上面以上、遺物なし。	
SK122	S-122	土坑	E地区(上市町西4区画)	L41区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	297
SK123	S-123	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	337
SP124	S-124	柱穴	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半(Sa123を切る)	遺物なし。	
S-125	S-125	(女壺)	E地区(上市町西)			—	
SP126	S-126	小土坑	E地区(上市町西)	—	不明	B層上面、遺物なし。	
SP127	S-127	土坑	E地区(上市町西)	L42区	中世	B層上面、遺物なし。	
SP128	S-128	柱穴	E地区(上市町西)	L42区	16世紀第3四半期	—	328
SP129	S-129	柱穴	E地区(上市町下層)(上市町西)	L42区	15世紀?	B層上面、赤切土器4点、京都系土器器0期1点。	
SP130	S-130	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SP131	S-131	ビット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面、遺物なし。	
SP132	S-132	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	B層上面、赤切土器2点。	
SK133	S-133	小土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SK134	S-134	小土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SK135	S-135	土坑	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	B層上面、赤切土器2点。	
SP136	S-136	ビット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面、遺物なし。	
SP137	S-137	ビット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面、土製品1点。	
SK138	S-138	土坑	E地区(上市町西)	L42区	16世紀第3四半期	B層上面、赤切土器2点。	328
SP139	S-139	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP140	S-140	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP141	S-141	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP142	S-142	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1596~17世紀初頭	—	355
SP143	S-143	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1596~17世紀初頭	—	355
SP144	S-144	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	1596~17世紀初頭	—	355
SK145	S-145	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP146	S-146	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP147	S-147	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP148	S-148	ビット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面、遺物なし。	
SP149	S-149	ビット	E地区(上市町西)	L42区	中世	B層上面、備前焼埋1点。	
SI50	S-150	窪み	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	339
SP151	S-151	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352

第16次調査区遺構一覧表③

本報告での遺構番号	日通構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	総頁	
SK152	S-152	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SK153	S-153	小土坑	F地区(上市町西3区画)	K42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
S154	S-154	(不明)	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	—	—
SP155	S-155	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP156	S-156	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP157	S-157	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層中から	344
SP158	S-158	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層中から	344
SP159	S-159	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SK160	S-160	(不明)	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	包舎留のしみか	—
SP161	S-161	ビット	C地区(御所小路町北)	K39区	不明	B層上面以上。遺物なし。	—
SP162	S-162	ビット	C地区(御所小路町北)	K39区	16世紀	B層上面。青磁焼1点。	—
SK163	S-163	土坑	H地区中(上市町東)	M45区	1596~17世紀初頭	銭貨埋納遺構→炭灰土坑	394
SP164	S-164	ビット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	—
SP165	S-165	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半(SK165を切る。)	B層上面。あち土師3点。	—
SP166	S-166	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP167	S-167	ビット	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	B層上面。遺物なし。	—
SP168	S-168	ビット	E地区(上市町西)	L42区	17世紀初頭	A層上面。遺物なし。	355
SP169	S-169	ビット	E地区(上市町西)	L42区	17世紀初頭	A層上面。漆器1点。あち土師小皿1点。京町土師1皿1点。	355
SP170	S-170	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP171	S-171	柱穴	E地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	A層中から	348
SK172	S-172	土坑	H地区中(上市町東)	L46区	1596~17世紀初頭	—	396
SK173	S-173	土坑	E地区(上市町西)	L42区	16世紀第3四半期	—	328
SK174	S-174	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	礎痕	352
SP175	S-175	ビット	E地区(上市町西)	L42区	17世紀初頭	A層上面。口クロ目土師あり。	353
SP176	S-176	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	339
SP177	S-177	ビット	B地区(御所小路町北)	J37・38区	16世紀第4四半期(SK14-20を切る。)	B層上面。遺物なし。	—
SP178	S-178	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀(SK135に切られる)	B層上面。遺物なし。	—
SK179	S-179	(不明)	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	348
SP180	S-180	ビット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	—
	S-181	(文倉)	F地区				
SP182	S-182	柱穴	G地区(上市町西1・2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	1587年後の復興期の建物の一部→SP243	341
	S-183	(文倉)	H地区				
SP184	S-184	柱穴	D地区(御所小路町北)	J40区	16世紀後半	—	291
SK185	S-185	土坑	D地区(御所小路町北)	K40区	16世紀(S67に切られる)	B層上面。瓦質土1点。あち土師杯1点。	—
	S-186	土坑 S281の上部	D地区(御所小路町北)				
SK187	S-187	土坑	G地区	LM45区	近代	—	—
SK188	S-188	土坑	F地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1596~)	銭貨土師埋納。礎痕。	353
SK189	S-189	方形土坑	G地区(上市町西路上)	LM45区	1596~17世紀初頭	炭灰土坑	319
SK190	S-190	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	350
SK191	S-191	土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	352
SP192	S-192	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀	B層上面。あち土師1点。	—
SK193	S-193	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀(SD110とSP55に切られる)	B層上面。備前焼土1点。	—
SK194	S-194	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀第3四半期	—	291
SK195	S-195	土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀(SD110に切られる)	B層上面。遺物なし。	—
SP196	S-196	ビット	D地区(御所小路町北)	—	不明	B層上面。遺物なし。	—
S197	S-197	浅い窪み	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀第3四半期	—	291
SP198	S-198	柱穴	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	S197に付属	291
SK199	S-199	小土坑	D地区(御所小路町北)	K41区	16世紀後半	—	291
SP200	S-200	ビット	E地区(上市町西)	L42区	—	SK136C。	—
SP201	S-201	ビット	E地区(上市町西)	L42区	—	SK136C。	—
S-202	S-202	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	A層中。遺物なし。	—
SP203	S-203	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	A層中。炭土灰。鉄釘1点。	—
S-204	S-204	→SK173	E地区(上市町西)	L42区	—	—	—
SP205	S-205	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	A層中。炭灰。	—
S206	S-206	ビット	E地区(上市町西)	L42区	—	SK136C。	—
SP207	S-207	ビット	E地区(上市町西)	L42区	不明	B層上面。遺物なし。	—
S208	S-208	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀	B層上面。京町系土師器1類品1点。	—
S209	S-209	ビット	E地区(上市町西)	L42区	16世紀後半	B層上面。澤州焼2点。	—
SK210	S-210	土坑	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
	S-211	土坑 SK315と同じ	E地区			S-315と同じ	
	S-212	土坑 (=S-316)	E地区			S-316と同じ	
SK213	S-213	小土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SK214	S-214	小土坑	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	火葬・土師器埋納	343
SP215	S-215	ビット	H地区東(上市町東)	M48区	不明	B層上面。遺物なし。	—
SP216	S-216	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
S217	S-217	浅い窪み	F地区(上市町西)	L44区	16世紀後半	B層上面。京町系土師器2類品1点。	—
SP218	S-218	柱穴	F地区(上市町西3区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	349
	S-219	(=SK277)					
S220	S-220	覆土	H地区				
SP221	S-221	ビット	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~)	—	388
SK222	S-222	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	礎痕	346
SK223	S-223	土坑	F地区(上市町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	349
SP224	S-224	ビット	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP225	S-225	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396
SP226	S-226	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頭	—	396

第16次調査区遺構一覧表④

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	発掘頁	
SP227	S-227	柱穴	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頃	—	396
SK228	S-228	小溝	F地区(上市町西4区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	353
SK229	S-229	石割	F地区(上市町西)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	SB338に伴うか。	346
SP230	S-230	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP231	S-231	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP232	S-232	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP233	S-233	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP234	S-234	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP235	S-235	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	342
SK236	S-236	小土坑	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	391
SP237	S-237	柱穴	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	392
S238	S-238	(不明)	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	392
SP239	S-239	ビット	H地区(上市町東)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	A層上。遺物なし。	—
SP240	S-240	ビット	H地区(上市町東)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	第1熟土層より下。	—
—	S-241	SP414と同じ	H地区中	—	—	—	—
SK242	S-242	塚跡	F地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	土師器。かんざし埋納	343
—	S-243	コSP182	G地区	—	—	—	—
SK244	S-244	土坑	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	335
S245	S-245	浅い窪み	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	335
SP246	S-246	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	341
SP247	S-247	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	西1区画と西2区画の境界	342
SP248	S-248	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	西1区画と西2区画の境界	335
SP249	S-249	柱穴	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	西1区画と西2区画の境界	342
SP250	S-250	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層上。遺物なし。	—
SP-251	S-251	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	—	344
SP252	S-252	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層上。鉄釘1点。	—
SP253	S-253	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層上。ロウ目土師1点。	—
SP254	S-254	ビット	G地区(上市町西)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層上。粘土充満。	342
SP255	S-255	柱穴	G地区(上市町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	西1区画と西2区画の境界	342
—	S-256	(欠番)	—	—	—	—	—
SK257	S-257	灰層土坑	H地区中(上市町東)	M46区	1596~17世紀初頃	—	395
SK258	S-258	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
SP259	S-259	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SP260	S-260	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SK261	S-261	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	火災処理土坑に転用	388
SK262	S-262	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
S263	S-263	(不明)	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
S264	S-264	(不明)	H地区東(上市町東)	M47区	1596~17世紀初頃	—	396
SP265	S-265	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
SP266	S-266	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	第1区画と第2区画の境界柱	388
SK267	S-267	土坑	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	396
SK268	S-268	熟土層の堆積	H地区東(上市町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587)	第2熟土層	392
SK269	S-269	熟土層の堆積	H地区東(上市町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587)	第2熟土層	392
SP270	S-270	ビット	H地区(上市町東)	L46区	1596~17世紀初頃	A層上。赤切土師片1点。	—
SP271	S-271	ビット	H地区(上市町東)	L46区	1596~17世紀初頃	A層上。遺物なし。	—
SP272	S-272	ビット	H地区(上市町東)	L46区	1596~17世紀初頃	A層上。青花瓦1点。	—
SP273	S-273	SP404の柱礎	H地区東(上市町東2区画)	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SK274	S-274	土坑	H地区東(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	382
SK275	S-275	塾地層ブロック	H地区東(上市町東1区画)	M46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	377
SK-276	S-276	埋込	G地区	—	—	—	—
SK277	S-277	窪み	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	378
SD278	S-278	溝(遺跡側溝)	A地区(御所小路町東)	J37区	16世紀第3四半期	御所小路の側溝。種商業。	289
SD279	S-279	溝(遺跡側溝)	A地区(上市町道路上)	L44区	1587~1596	SP70道路第1硬化面に伴う。掘りなしあり。	317
SP280	S-280	ビット	D地区(御所小路町東)	K41区	不明	B層上。遺物なし。	—
SP281	S-281	ビット	D地区(御所小路町東)	K41区	15世紀	B層上。種商業。	—
SK282	S-282	土坑	D地区(御所小路町東)	K41区	不明	B層上。遺物なし。	—
SK283	S-283	小土坑	D地区(御所小路町東)	K41区	15世紀	—	284
SK284	S-284	土坑	D地区(御所小路町東)	K41区	15世紀	—	284
SK285	S-285	土坑	D地区(御所小路町東)	K41区	15世紀	—	284
SK286	S-286	石割	F地区(上市町西2・3区画)	L44区	16世紀第4四半期(1587~)	A層造成時に西2区画と西3区画の段差に設置された石割。	345
SK287	S-287	瓦面の堆積物	G地区(上市町西1区画)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	上市町の道路に面した金属工物	—
SK288	S-288	土坑	D地区(御所小路町東)	K41区	15世紀	—	284
SP289	S-289	ビット	D地区(御所小路町東)	K41区	16世紀前半以前	遺物なし。	—
—	S-290	(木の根)	D地区(御所小路町東)	L41区	—	—	—
SP291	S-291	柱穴	D地区(御所小路町東)	L41区	中世	遺物なし。	—
SP292	S-292	柱穴	D地区(御所小路町東)	L41区	16世紀第4四半期	—	298
SP293	S-293	柱穴	G地区(上市町道路上)	L45区	1596~17世紀初頃	SB304を構成する柱穴	318
SP294	S-294	ビット	G地区(上市町西)西1区画	不明	不明	B層上。	—
SP295	S-295	ビット	G地区(上市町西)西1区画	不明	不明	B層上。	—
SP296	S-296	柱穴	G地区(上市町西)西1区画	不明	不明	B層上。	—
SP297	S-297	柱穴	D地区(御所小路町東)	K41区	15~16世紀	底部に石を置く。	—
SP298	S-298	柱穴	G地区(上市町道路上)	L45区	1596~17世紀初頃	SB304を構成する柱穴	318
SK299	S-299	土坑	F地区(上市町西2区画)	L43・44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	336
SK300	S-300	土坑	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587)	第2熟土層の火災処理土坑	342
SK301	S-301	土坑	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	種商業	346

第16次調査区遺構一覧表⑤

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載 頁	
S302	S-302	小ピット	G地区(上布町跡路上)	L45区	1596~17世紀初頃	SF70道路第1硬化面上	317
SX303	S-303	(不明)	G地区(上布町跡路上)	L45区	1596~17世紀初頃	SF70道路第1硬化面上	318
SB304	S-304	独立柱建物	G地区(上布町跡路上)	L45区	1596~17世紀初頃	SF70道路第1硬化面上	318
SP305	S-305	ピット	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀後半	B層土層。遺物なし。	—
SK306	S-306	臺石土坑	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	339
SK307	S-307	臺石土坑	F地区(上布町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	339
SK308	S-308	臺石土坑	F地区(上布町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	—
SK309	S-309	掘り込み	F地区(上布町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	—
SK310	S-310	土坑	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀後半	B層土層, B層土層2区画, B層土層第1層1区画, B層土層第2層1区画	—
SP311	S-311	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	青花木遣は。7次SK114と接合	347
SK312	S-312	石列	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	西3区画と西4区画の間の通路か	336
SP313	S-313	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	350
SP314	S-314	ピット	F地区(上布町西4区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	B層土層。瓦質跡1点。	353
SK315	S-315	土坑	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	SK211	340
SK316	S-316	産業土坑	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	SK212	349
SP317	S-317	ピット	F地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀後半	B層土層。僅かな検骨1点。	—
SP318	S-318	柱穴	F地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	353
SP319	S-319	ピット	E地区(上布町西)	L42区	不明	B層中。遺物なし。	—
SP320	S-320	浅い窪み	E地区(上布町西)	L42区	不明	B層中。遺物なし。	—
SP321	S-321	柱穴	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SP322	S-322	柱穴	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SP323	S-323	柱穴	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SK324	S-324	土坑	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	353
SK325	S-325	土坑	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	350
SK326	S-326	小土坑	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	SK235の一部の可能性あり。	353
SP327	S-327	柱穴	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SP328	S-328	柱穴	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
—	S-329	—	F地区(上布町西)	—	—	大内系土跡1点	—
SP330	S-330	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	SB330を構成する柱穴	—
SP331	S-331	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀後半	—	—
SP332	S-332	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀後半	—	—
SP333	S-333	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀後半	—	—
SP334	S-334	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	—
SP335	S-335	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	独立柱建物SB-336	—
SP336	S-336	ピット	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀後半	遺物なし。	—
SP337	S-337	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	SB330を構成する柱穴, 京都系土跡第2期遺構。	346
SB338	S-338	独立柱建物	F地区(上布町西3区画)	L43-44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	345
SP339	S-339	柱穴	G地区(上布町西2区画)	L44区	16世紀第4四半期(3層土層~1575)	—	336
SP340	S-340	ピット	G地区(上布町西2区画)	L44区	16世紀後半	B-1層除去後。瓦質1点。	—
SK341	S-341	土坑	E地区(上布町西)	L42区	16世紀前半以前	—	327
SK342	S-342	土坑	E地区(上布町下層)	L42区	15世紀	B-2層除去後で検出された長方形の土坑。B層土層の整地の間に すでに存在している。在産赤瓦土器破片のみが出土している。	307
SK343	S-343	土坑	E地区(上布町西)	L42区	不明	B-1層除去後。遺物なし。	—
SP344	S-344	ピット	E地区(上布町西)	—	—	—	—
SP345	S-345	柱穴	E地区(上布町西)	L42区	16世紀第2四半期	—	327
SP346	S-346	方形柱穴	E地区(上布町下層)	L42区	15世紀	B層2回目掘り下げ後に検出された方形の柱穴で、その位置を尊重し、 出土土器の年代を1580年代前半に推定されたと見做されている。	308
SP347	S-347	ピット	E地区(上布町西)	L42区	中世	B-1層除去後。遺物なし。	—
SP348	S-348	ピット	E地区(上布町西)	L42区	中世	B-1層除去後。赤切土跡1点。	—
SP349	S-349	ピット	E地区(上布町西)	L42区	中世	B-1層除去後。瓦質跡1点。	—
SP350	S-350	ピット	E地区(上布町西)	L42区	中世	A層土層。遺物なし。	—
SP351	S-351	ピット	E地区(上布町西)	L42区	中世	B-1層除去後。遺物なし。	—
SP352	S-352	柱穴	E地区(上布町下層)	L42区	15世紀	—	—
—	S-353	—	E地区(上布町西)	L42区	中世	青花1点	—
SP354	S-354	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	独立柱建物SB-338	346
SP355	S-355	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	独立柱建物SB-338	—
SP356	S-356	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	独立柱建物SB-338	—
SP357	S-357	ピット	E地区(上布町西)	L42区	中世	B-1層除去後。赤切土跡1点。	—
SK358	S-358	土坑(=S-458)	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SK359	S-359	(欠番)	F地区	—	—	—	—
SP360	S-360	ピット	F地区(上布町西)	—	16世紀	B層土層。京都系土跡第1層1点。	—
SP361	S-361	ピット	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀後半	B層土層。京都系土跡第2層2点。	—
SP362	S-362	柱穴	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	336
SK363	S-363	土坑	F地区(上布町西3区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	B層土層。青花小坏1点。	336
SP364	S-364	ピット	H地区東(上布町東1区画)	MA7区	—	—	—
SK365	S-365	土坑	H地区東(上布町東1区画)	MA7区	16世紀第4四半期(1575~1587)	産業土坑	362
SK366	S-366	土坑	H地区東(上布町東1区画)	MA7区	16世紀第4四半期(1575~1587)	産業の一単位か。	362
SP367	S-367	ピット	H地区東(上布町東1区画)	MA7区	不明	—	—
SK368	S-368	土坑	H地区東(上布町東1区画)	MA7区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
SP369	S-369	柱穴	H地区東(上布町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	—
SP370	S-370	柱穴	H地区東(上布町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
—	S-371	聖地窟	H地区東	#NAME?	遺構ではない	—	—
SP372	S-372	柱穴	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
SP373	S-373	柱穴	E地区(上布町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340

第16次調査区遺構一覧表⑥

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	総ページ	
SP174	S-174	ビット	G地区(上町町道沿)	L44区	16世紀第4四半期(1575~1587)	第3号化土上	
SP175	S-175	ビット	G地区(上町町道沿)	L45区	16世紀第4四半期(1587~1596)	第4号化土上	
SK376	S-376	土坑	F地区(上町町道沿)西3区画	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	—	350
SK377	S-377	土坑	F地区(上町町道沿)3区画	L43区	16世紀第3四半期(1550~1575)	S462と同じ	332
SK378	S-378	土坑	F地区(上町町道沿)4区画	L42区	16世紀第4四半期(1587~)	—	338
SP179	S-179	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀以前	—	
SD380	S-380	石垣道路側溝	G地区(上町町道沿)	M44・45区	16世紀第4四半期(1575~1587)	道路に面する建物への入口	317
SP381	S-381	ビット	F地区(上町町道沿)	—	16世紀	白土・白目録,赤切土師4点,京都土師器1期1点	
SK382	S-382	小土坑	F地区(上町町道沿)4区画	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	集石土坑	340
SP383	S-383	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,青花碗1点	
SP384	S-384	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP385	S-385	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP386	S-386	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP387	S-387	ビット	H地区(上町町道沿)	M47区	16世紀	銭貨1点,古代土師器1点	
SP388	S-388	ビット	H地区(上町町道沿)	M47区	16世紀	赤切土師1点,青花碗1点	
SP389	S-389	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP390	S-390	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP391	S-391	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP392	S-392	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP393	S-393	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP394	S-394	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP395	S-395	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,赤切土師4点,大内系土師器1点	
SP396	S-396	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,遺物なし。	
SP397	S-397	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	B-II層上土,瓦質焼1点	
SK398	S-398	土坑	F地区(上町町道沿)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3機土師)	—	329
SK399	S-399	土坑	F地区(上町町道沿)	L43区	16世紀第1四半期	突形土師器埋蔵層	324
SK400	S-400	小土坑	F地区(上町町道沿)	L43区	16世紀第2四半期	—	327
SP401	S-401	柱穴	H地区(上町町道沿)上町町道2区画	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
	S-402	SK274の下部	H地区東・東2区	—	—	—	
	S-403	SP271の下部	H地区(上町町道沿)東2区	L45区	—	—	
SP404	S-404	柱穴(=SP273)	H地区東(上町町道沿)2区画	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP405	S-405	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	L46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	388
SP406	S-406	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	389
SP407	S-407	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	389
SP408	S-408	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	389
SP409	S-409	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	389
SP410	S-410	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	388
SK411	S-411	土坑	H地区中(東1区画)	M46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	383
	S-412	(欠番)	H地区中・東2区	—	—	—	
SP413	S-413	柱穴	H地区中(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP414	S-414	柱穴(=SP241)	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SP415	S-415	柱穴	H地区中(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	389
SP416	S-416	柱穴	H地区中(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	389
SP417	S-417	柱穴	H地区中(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	390
SP418	S-418	柱穴	H地区中(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	390
SP419	S-419	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SK420	S-420	土坑あるいは柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SP421	S-421	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP422	S-422	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	390
SK423	S-423	土坑あるいは柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	390
SP424	S-424	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界柱列	390
SP425	S-425	ビット	H地区中(上町町道沿)2区画	M45区	16世紀後半	B層上土,青花碗B群1点	
SK426	S-426	土坑	H地区中(上町町道沿)2区画	L46・47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	B層中,遺物なし。	383
SP427	S-427	ビット	F地区(上町町道沿)3区画	—	不明	B層中,遺物なし。	
SP428	S-428	ビット	F地区(上町町道沿)3区画	—	不明	B層中,赤切土師1点	
SK429	S-429	土坑	F地区(上町町道沿)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3機土師)	—	330
SP430	S-430	土坑	F地区(上町町道沿)3区画	L43区	16世紀第4四半期(1587~)	S8338を構成する柱穴	346
SK431	S-431	一時的な竈	F地区(上町町道沿)3区画	L43区	16世紀第3四半期(1550~3機土師)	—	329
SP432	S-432	ビット	E地区(上町町道沿)	L42区	中世	SK378に切られる。	
SK433	S-433	土坑	E地区(上町町道沿)	L42区	16世紀	SK378に切られる。	
SK434	S-434	土坑	E地区(上町町道沿)4区画	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	340
S435	S-435	土坑	E地区(上町町道沿)	L42区	中世	SK434に切られる。遺物なし。	
SK436	S-436	(不明)	F地区(上町町道沿)	L43区	16世紀	C層上土からの不整な層り込みである。SK398とSK400/16世紀第2四半期に切られる。土土土師器は赤切土師のみ。	308
SD437	S-437	溝	H地区(上町町道沿)	L45区	不明	SK236/237に切られる。	
SP438	S-438	柱穴	H地区中(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—	393
SP439	S-439	柱穴	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列	391
SD440	S-440	土坑	H地区東(上町町道沿)2区画	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東1区画と東2区画の境界溝	390
SP441	S-441	ビット	E地区(上町町道沿)	L44区	16世紀	赤切土師1点	
SP442	S-442	柱穴(=SP544)	F地区(上町町道沿)3区画	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—	336
SP443	S-443	ビット	F地区(上町町道沿)	L43区	16世紀	C層上土,ロウロ目土師1点	
SP444	S-444	ビット	G地区	L44区	16世紀	B層中。	
SK445	S-445	土坑	F地区(上町町道沿)3区画	L43区	16世紀第3四半期(1550~1575)	—	332
SP446	S-446	柱穴	F地区(上町町道沿)3区画	L43区	16世紀第3四半期	—	332
SP447	S-447	柱穴	F地区(上町町道沿)4区画	L43区	16世紀第4四半期(1575~2機土師)	—	336

第16次調査区遺構一覧表⑦

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
S-448	⇒SK71	F地区				
SP449	S-449	ピット	F地区(上市町西3区)	L43区	16世紀	C層上面。遺物なし。
SP450	S-450	ピット	G地区	L44区	16世紀後半	すべてB層上面の柱
SP451	S-451	柱穴	G地区	L44区	16世紀後半	すべてB層上面の柱
SP452	S-452	柱穴	G地区	L44区	16世紀後半	すべてB層上面の柱
SP453	S-453	柱穴	G地区(上市町西)	L44区	16世紀後半	—
SP454	S-454	柱穴	G地区(上市町西)	L44区	16世紀後半	—
SP455	S-455	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第3四半期(3機土層-1975)	—
SP456	S-456	柱穴	F地区(上市町西2区画)	L43区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SP457	S-457	ピット	C地区(御所小路南北)	K39区	16世紀	B層上面。瓦質土器破片1点。
S-458	(⇒SK-358)					
SP459	S-459	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	不明	遺物なし。
SP460	S-460	ピット	E地区(上市町西)	L42区	中世	A層上面。遺物なし。
SP461	S-461	柱穴	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
S-462	(⇒SK377)					
S-463	⇒SP335					
SP464	S-464	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
S465	S-465	(不明)	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SP466	S-466	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SP467	S-467	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SP468	S-468	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SX469	S-469	石列	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第4四半期(～1587)	SK378の一部
SP470	S-470	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	15世紀以前	遺物なし。
SP471	S-471	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	中世	B層上面。遺物なし。
S-472	復乱		A地区(御所小路南北)			
SP473	S-473	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	中世	B層上面。遺物なし。
SP474	S-474	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	中世	B層上面。遺物なし。
SP475	S-475	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	中世	B層上面。遺物なし。
SP476	S-476	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	中世	B層上面。遺物なし。
SP477	S-477	(不明)	A地区(御所小路南北)	J35区	16世紀第4四半期	—
SP478	S-478	(不明)	A地区(御所小路南北)	J35区	16世紀第4四半期	—
SP479	S-479	ピット	A地区(御所小路南北)	J35区	中世	B層上面。遺物なし。
SP480	S-480	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	中世	B層上面。遺物なし。
SP481	S-481	ピット	B地区(御所小路南北)	J37区	中世	B層上面。遺物なし。
SP482	S-482	柱穴	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第3四半期(3機土層-1975)	—
S483	S-483	小ピット	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SP484	S-484	(不明)	H地区中(上市町東2区画)	ML46区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
S485	S-485	(不明)	F地区(上市町西)			
SP486	S-486	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第3四半期(3機土層-1975)	—
SP487	S-487	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(3機土層-1975)	—
SP488	S-488	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第3四半期(3機土層-1975)	—
SP489	S-489	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	L47区	16世紀第3四半期(3機土層-1975)	—
SP490	S-490	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	L47区	16世紀第3四半期(3機土層-1975)	—
SP491	S-491	ピット	H地区東(上市町東2区画)	L47区	16世紀第3四半期(3機土層-1975)	B-1層除去後。遺物なし。
SP492	S-492	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	M46区	1587~17世紀初頭	—
SP493	S-493	柱穴	H地区東(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(1587~1596)	東2区画内の柱穴列
SP494	S-494	(不明)	H地区(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(～1587)	—
SP495	S-495	(不明)	H地区(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(～1587)	—
SP496	S-496	(不明)	H地区(上市町東2区画)	M46区	16世紀第4四半期(～1587)	—
SP497	S-497	柱穴	H地区東(上市町東0区画)	L48区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SP498	S-498	柱穴	F地区(上市町下層)	L43区	16世紀	C層中から掘出した破片がある。此土層は非土器層の可能性がある。
SP499	S-499	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層中。遺物なし。
SP500	S-500	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	16世紀	C層中。土器破片2点。
SP501	S-501	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層上。遺物なし。
SP502	S-502	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層上。遺物なし。
SP503	S-503	ピット	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	C層上。遺物なし。
SK504	S-504	産業土坑	F地区(上市町西3区画)	L44区	16世紀第3四半期(3機土層-)	—
SP505	S-505	ピット	H地区(上市町東)	L46区	16世紀	B-1層除去後。遺物なし。
SP506	S-506	ピット	H地区(上市町東)	L46区	16世紀後半	B層上面
SP507	S-507	ピット	H地区(上市町東)	L46区	16世紀後半	B層上面
SP508	S-508	柱穴	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SK509	S-509	小土坑	F地区(上市町下層)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3機土層)	—
SK510	S-510	産業土坑	E地区(上市町西4区画)	L42区	16世紀第3四半期(3機土層-1975)	下層土器層埋藏層集中。上層遺物は第4四半期。
SP511	S-511	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—
SP512	S-512	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	M47区	16世紀第4四半期(1587~1596)	—
SP513	S-513	柱穴	H地区西(上市町東2区画)	L45区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—
SK514	S-514	障壁中分布	F地区(上市町下層)	L43区	15世紀	SK534の一部
SK515	S-515	土坑	F地区(上市町下層)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3機土層)	—
SK516	S-516	小土坑	F地区(上市町下層)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3機土層)	—
SK517	S-517	浅い窪み	F地区(上市町下層)	L44区	16世紀第2四半期	—
SK518	S-518	土坑	F地区(上市町下層)	L44区	16世紀第3四半期(1550~3機土層)	—
SK519	S-519	土坑	G地区(上市町御路上)	L45区	16世紀第3四半期(3機土層以後)	SF70第6硬化面上で検出
SP520	S-520	ピット	H地区(上市町東)	M47区	16世紀	B-1層除去後。遺物なし。
SP521	S-521	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	1587~17世紀初頭	—
SP522	S-522	柱穴	H地区東(上市町東1区画)	L47区	16世紀第4四半期(1575~1587)	—

第16次調査区遺構一覧表⑧

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の名称	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	積層	
SP223	0-523	柱穴	H地区(上海市町1区画)	L47区	16世紀4前半期(1575-1597)	—	263
SP254	0-524	柱穴	H地区(上海市町1区画)	L47区	16世紀4前半期(1575-1597)	—	263
SK325	0-525	土坑	H地区(上海市町0区画)	M48区	16世紀4前半期(1567前後)	穴状掘土坑	265
SK326	0-526	掘土坑	H地区(上海市町1区画)	M48区	16世紀3後半期(1515-1575)	穴状掘土の掘土坑	275
SK27	0-527	掘土坑	H地区(上海市町1区画)	L47区	16世紀3後半期(1515-1575)	—	274
SP228	0-528	ビット	H地区(上海市町)	M48区	16世紀	0-1層跡未検。遺物なし。	—
SK259	0-529	溝	F地区(上海市町)	L43区	16世紀1前半期	南北方向	322
SK330	0-530	新設ブロック	H地区(上海市町2区画)	L47区	16世紀3後半期(1515-1575)	京都市区域外の掘土遺構	272
SK331	0-531	土坑	H地区(上海市町1区画)	M47区	16世紀3後半期(1515-1575)	—	374
SP332	0-532	ビット	G地区(上海市町)	L46区	16世紀末1前半期	道路跡6層化層上	—
SK333	0-533	土坑	F地区(上海市町)	L43区	16世紀1前半期	—	324
SK334	0-534	土坑	F地区(上海市町)	L43区	15世紀	土砂採取坑	267
SK335	0-535	島石	H地区(上海市町1区画)	L47区	16世紀3後半期(1515-1575)	SX54の收葬時の土坑	372
SK336	0-536	小土坑	H地区(上海市町2区画)	—	16世紀3後半期	第3土層上。京都基土層跡2層1点。	—
SK337	0-537	小土坑	E地区(上海市町)	L42区	15世紀	第1土層上。京都基土層跡の4層の遺構跡	366
SK38	0-538	(不明)	H地区(上海市町2区画)	L45区	16世紀3後半期(1515-1575)	—	275
SP339	0-539	柱穴	F地区(上海市町1区画)	L44区	16世紀4前半期(1575-1597)	第1区画と第2区画の境界	335
SP440	0-540	柱穴	F地区(上海市町)	L43区	16世紀3後半期(1550-1515)	—	329
SP441	0-541	ビット	F地区(上海市町)	L43区	16世紀	D層上層。遺物なし。	—
SP442	0-542	ビット	F地区(上海市町)	L43区	16世紀後半	D層上層。遺物なし。	—
SK43	0-543	土坑?	E地区(上海市町)	L42区	16世紀	D層上層。遺物なし。	—
	0-544	(=SP442)	F地区				
SP445	0-545	ビット	H地区(上海市町2区画)	—	不明	—	—
S-546	0-546	ビット	H地区(上海市町)	—	不明	—	—
SK447	0-547	忍堀	H地区(東区+貫区+東1区)の境界	M47区	16世紀3後半期(1550-1515)	SX54の立ち上がり部に、第3土層に收葬。	370
SK448	0-548	犬洞	H地区(上海市町)	M46-47区	16世紀3後半期(1550-1515)	—	370
SK449	0-549	柱穴	G地区(上海市町2区画)	L44区	16世紀1前半期(1515-1575)	—	332
SP450	0-550	ビット	H地区(上海市町)	M47区	16世紀後半	8層上層。遺物なし。	—
SK451	0-551	小土坑	F地区(上海市町3区画)	L43区	16世紀3後半期(1515-1575)	京都基土層跡の4層の遺構跡	332
SK452	0-552	土坑	F地区(上海市町)	L44区	15世紀	D層上層で検出された円形の土坑である。16世紀1前半期の溝 SX52Cに埋められ、出土遺物は赤土層跡のみである。	308
SK453	0-553	土坑	F地区(上海市町)	L44区	15世紀	2つの土坑からなる	308
SP454	0-554	柱穴	H地区(上海市町)	L46区	16世紀3後半期(1515-1575)	—	376
S555	0-555	小溝	H地区(上海市町)	M47区	16世紀代	—	—
SK456	0-556	溝	H地区(上海市町)	M47区	16世紀1前半期	—	368
SK457	0-557	土坑	H地区(上海市町)	M47区	16世紀2後半期	—	368
SK458	0-558	溝か?	H地区(上海市町)	M47区	16世紀1前半期	—	368
SP459	0-559	ビット	H地区(上海市町)	M47区	16世紀1前半期	第4土層跡を切る。	—
SK460	0-560	土坑	H地区中(上海市町)	M46区	16世紀1前半期	—	368
SP461	0-561	ビット	H地区(上海市町)	M46区	中世	—	—
SP462	0-562	ビット	H地区(上海市町)	M46区	中世	—	—
SK463	0-563	—	H地区(上海市町)	M46区	中世	—	—
SK464	0-564	—	H地区(上海市町)	M46区	中世	—	—
SK465	0-565	溝	G地区(上海市町)	L44区	15世紀	穴状の土層跡一箇所検出	262
SK466	0-566	土坑	F地区(上海市町)	L43区	16世紀1前半期	—	326
SP467	0-567	ビット	F地区(上海市町)	L43区	15世紀	D層上層。	—
SK468	0-568	土坑	F地区(上海市町)	L43区	15世紀	切り合い土層の遺構で、出土遺物は赤土層跡のみである。	308
SK469	0-569	ビット	G地区(上海市町)	L43区	15世紀	—	—
SK470	0-570	土坑	H地区(上海市町)	M47区	16世紀3後半期(1550-1515)	—	370
SK471	0-571	土坑	H地区(上海市町)	M47区	16世紀2後半期	—	269
SP472	0-572	ビット	H地区(上海市町)	—	中世	—	—
SP473	0-573	ビット	G地区(上海市町)	—	中世	—	—
SP474	0-574	ビット	G地区(上海市町)	—	中世	—	—
SP475	0-575	ビット	G地区(上海市町)	—	中世	—	—
SK476	0-576	土坑	H地区(上海市町2区画)	M46区	16世紀3-4前半期(1515-1575)	—	376
SK477	0-577	土坑	H地区(上海市町)	L46区	16世紀3後半期(1550-1515)	—	371
SP478	0-578	ビット	H地区(上海市町)	—	中世	—	—
SK479	0-579	小溝	H地区(上海市町)	M46区	16世紀2後半期	—	369
SK480	0-580	(不明)	F地区(上海市町)	L43区	16世紀1前半期	—	—
SK481	0-581	小土坑	F地区(上海市町)	L43区	16世紀2後半期	土層跡増築	327
	0-582	中世の溝	G地区				
SP483	0-583	ビット	G地区(上海市町)	L44区	15世紀?	—	—
SK484	0-584	不明	G地区(上海市町)	L44区	不明	—	—
SK485	0-585	不明	F地区(上海市町)	L43区	不明	—	—
SK486	0-586	小溝	G地区(上海市町)	L44区	15世紀?	—	—
SK487	0-587	土坑	H地区(上海市町)	M45-46区	15世紀	前庭跡。D層上層跡の境界に検出された京都市にない平層な赤土層跡の土坑。溝 SX600の埋没後に掘られている。出土遺物は白クワ白土層・京都基土層跡を含まない。	308
SK488	0-588	不明	G地区(上海市町)	L44区	不明	—	—
SK489	0-589	溝	G地区(上海市町)	L44区	16世紀1前半期	—	330
SK490	0-590	犬洞	H地区(上海市町)	M45-46区	15世紀から16世紀1前半期	南北方向	308
SK491	0-591	不明	H地区(上海市町)	M46区	15世紀	—	308
SK492	0-592	不明	H地区(上海市町)	M45-46区	不明	—	—
SK493	0-593	(不明)	H地区(上海市町)	M45-46区	15世紀	の基礎3層上で検出したビット。SK600を切る。赤土層と薄土層の赤土層跡の境界の小片が出土している。	308

第16次調査区遺構一覧表 9

本調査での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置		遺構の時期	特記事項	掲載 頁
SD54	S 584	不明	G地区(上中町南)	LC区	不明	—	
SD585	S 585	溝	G地区(上中町下層)	LM区	19世紀	—	306
SD596	S 586	ピット	G地区(上中町南)	LM区	19世紀後半	遺跡 SF79の第14層化面上。	312
SD597	S 587	溝	G地区(上中町下層)	LM区	19世紀	—	305
SD598	S 588	溝	G地区(上中町下層)	LM区	19世紀	—	305
SD599	S 589	溝	M地区(上中町下層)	ML45・46区	19世紀	—	305
SD600	S 600	溝	M地区(上中町下層)	ML45・46区	19世紀	—	305



# 遺物觀察表



第7次調査区観察表①(土器・陶磁器類)

探検No.	器種	生産地	法位(単位:m)			遺物名	備考	図録No.	
			口徑	底徑	高さ				
探2-4001	古代土師器	坪	在池	(12.6)	--	S8305	P1026		
探2-4002	古代土師器	坪	在池	--	--	S8306A	P1079		
探2-4002	古代土師器	甕	在池	(16.4)	--	S8306A	P1079(甕形内)		
探2-4003	古代土師器	甕	在池	--	--	S8306A	P1073 甕の取手		
探2-4004	古代土師器	製磁土器	--	--	--	S8306A	P1073 六道式埴輪用 駒土北九州産		
探2-4005	古代土師器	製磁土器	--	--	--	S8306A	P1073 六道式埴輪用 駒土北九州産		
探2-4006	古代土師器	坪身	在池	(19.7)	--	S8306A	S767		
探2-4007	古代土師器	坪身	在池	--	--	S8306A	S767 へろ切り		
探2-4008	古代土師器	高台付小甕	在池	7.3	6.9	S8306A	S767 高台付小甕	45	
探2-4009	古代土師器	甕	在池	16.5	9.1	3.0	S8306A	S767 蓋のみ	45
探2-4010	古代土師器	坪	在池	(13.2)	--	S8306A	S767		
探2-4011	古代土師器	坪	在池	(14.7)	--	S8306A	S765下部		
探2-4012	古代土師器	坪	在池	(17.8)	--	S8306A	S765下部		
探2-4013	古代土師器	甕	在池	(16.4)	--	S8306A	S765下部		
探2-4014	古代土師器	甕	在池	(15.8)	--	1.9	S8306A	S765下部	
探2-4015	古代土師器	甕	在池	--	--	S8306A	S768		
探2-1002 1	古代土師器	甕	在池	--	(13.6)	--	S8306B	P1052	
探2-1002 2	古代土師器	坪	在池	(18.4)	--	--	S8306B	P1076	
探2-1002 3	古代土師器	小甕の甕	在池	(11.2)	--	--	S8306B	P1075	
探2-1002 4	古代土師器	坪	在池	(18.5)	--	--	S8306B	P1067	
探2-1002 5	古代土師器	甕	在池	(16.4)	(14.0)	--	S8306B	S808	
探2-1008 6	古代土師器	坪	在池	(14.8)	7.5	3.6	S8306B	S774	
探2-1007 7	古代土師器	坪	在池	(15.4)	--	--	S8306B	S774	
探2-1008 8	古代土師器	坪身	在池	--	--	--	S8306B	S774	
探2-1008 9	古代土師器	坪	在池	(15.4)	--	4.2	S8306B	S774	
探2-1008 10	古代土師器	坪	在池	(15.4)	--	4.2	S8306B	S774	
探2-1008 11	古代土師器	坪	在池	(16.0)	--	(1.8)	S8306B	S774	
探2-1008 12	古代土師器	甕	在池	(18.2)	(16.0)	1.5	S8306B	S774	
探2-1202 1	古代土師器	坪	在池	--	(8.2)	--	S8306C	P104(甕形内) 口縁全周打ち欠	
探2-1202 2	古代土師器	甕	--	--	--	S8306C	P104( 金襴型)		
探2-1202 3	古代土師器	製磁土器	--	(11.8)	--	S8306C	P104( 六道式埴輪用)		
探2-1202 4	古代土師器	坪	在池	--	--	S8306C	P1054		
探2-1202 5	古代土師器	製磁土器	--	--	--	S8306C	P1054 六道式埴輪用		
探2-1202 6	古代土師器	甕	在池	(26.0)	--	--	S8306C	S778甕形内	
探2-1202 7	古代土師器	高台付甕	在池	--	(6.9)	--	S8306C	S778甕形内	
探2-1202 8	古代土師器	甕	在池	--	--	S8306C	P1074甕内		
探2-1202 9	古代土師器	坪	在池	--	--	S8306C	P1074甕内		
探2-1202 10	古代土師器	坪	在池	(18.0)	--	--	S8306C	S809	
探2-1202 11	古代土師器	坪	在池	--	--	--	S8306C	S809	
探2-1202 12	古代土師器	坪	在池	(13.2)	(9.2)	--	S8306C	P1068	
探2-1302 1	古代土師器	製磁土器	--	--	--	S8306D	S740 六道式埴輪用 駒土北九州産		
探2-1302 2	古代土師器	坪身	在池	17.9	11.8	6.4	S8306D	S8081	
探2-1302 3	古代土師器	坪身	在池	(14.0)	(9.0)	--	S8306D	S8081 へろ切り	
探2-1302 4	古代土師器	坪	在池	--	(8.0)	--	S8306D	S8081	
探2-1302 5	古代土師器	坪	在池	--	(7.4)	--	S8306D	S8081	
探2-1302 6	古代土師器	坪	在池	14.2	8.0	4.1	S8306D	P1045 甕内	
探2-1302 7	古代土師器	製磁土器	--	--	--	S8306D	P1045 六道式埴輪用		
探2-1302 8	古代土師器	製磁土器	--	--	--	S8306D	P1045 六道式埴輪用 轆轤		
探2-1302 9	古代土師器	坪	在池	--	--	S8306D	P1060		
探2-1302 10	古代土師器	甕	在池	--	--	S8306D	P1046		
探2-1302 11	古代土師器	坪	在池	--	--	S8306D	SK782		
探2-1302 12	古代土師器	坪	在池	--	--	S8306D	SK782		
探2-1302 13	古代土師器	坪	在池	(17.8)	--	--	S8306D	SK782	
探2-1302 14	古代土師器	坪	在池	(15.9)	--	--	S8306D	SK782	
探2-1302 15	古代土師器	坪	在池	--	--	--	S8306D	SK782	
探2-1502 1	古代土師器	甕	在池	14.0	--	--	SD710		
探2-1502 2	古代土師器	甕	在池	(16.8)	(13.0)	2.6	SD710		
探2-1502 3	古代土師器	甕	--	(16.4)	(12.0)	2.1	SD710	赤色系磁土	
探2-1502 4	古代土師器	坪	在池	(15.0)	(8.2)	4.0	SD710		
探2-1502 5	古代土師器	製磁土器	--	(6.4)	--	--	SD710	六道式埴輪用 内面七ビ割れ 轆轤	
探2-1502 6	古代土師器	製磁土器	--	(13.2)	--	--	SD710	六道式埴輪用 轆轤	
探2-1502 7	古代土師器	製磁土器	--	(6.4)	--	--	SD710	六道式埴輪用	
探2-1502 10	古墳系土師器	小甕	在池	8.3	6.4	1.3	SD710	口縁部に打ち欠	
探2-1502 11	瓦質土器	文鉢	--	--	--	--	SD710		
探2-1502 12	瓦質土器	鉢	--	--	--	--	SD710		
探2-1702 1	古代土師器	坪	--	14.2	7.5	4.1	SD710	SK797	
探2-1702 2	古代土師器	甕	--	(16.6)	--	--	SD710	SK798	
探2-1702 3	黒色土器	甕	--	(16.4)	--	--	SD710	SK762 A 層	
探2-1702 4	黒色土器	甕	--	--	--	--	SD710	SK762 A 層	
探2-1702 5	古代土師器	坪	在池	(11.0)	(5.0)	3.7	SD710	P944	
探2-1702 6	古代土師器	坪	在池	--	--	--	SD710	P828	
探2-1702 7	古代土師器	高台付坪身	在池	(14.0)	(8.6)	4.0	SD710	P825	
探2-1902 1	古代土師器	坪	在池	--	--	--	S8309	P714	
探2-1902 2	古代土師器	坪	在池	(14.6)	--	--	S8309	P701 外周上部に蓋有「宅」	46
探2-1902 3	古代土師器	坪	在池	--	--	--	S8309	P701付内	

第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

探検No.	器 種	生産地	位置 (単位cm)			遺 物 名	備 考	図録 No.	
			口徑	底徑	高さ				
第2-19024	古代土師器	坪倉	—	—	—	SB309	P701		
第2-19025	古代土師器	高台付椀	在池	(18.8)	—	SB309	P700		
第2-19026	古代土師器	椀	在池	—	—	SB309	P702		
第2-19027	古代土師器	椀	在池	(16.1)	(14.6)	SB309	P698		
第2-19028	古代土師器	坪	在池	—	—	SB309	P694		
第2-20021	埴輪陶器	埴	—	—	5.2	SB309周辺	SK336 古代 埴輪		
第2-20022	古代土師器	埴	在池	—	—	SB309周辺	SK336		
第2-20023	古代土師器	埴	在池	—	—	SB309周辺	SK562		
第2-20024	古代土師器	高台付大甕	在池	—	—	SB309周辺	SK669		
第2-26021	陶器	磨鉢	埴前	(26.4)	—	SD766			
第2-26022	瓦質土器	火鉢	—	(35.0)	—	13.0	SD766		
第2-26023	瓦質土器	埴	—	—	—	—	SD766		
第2-26024	瓦質土器	埴	—	—	—	—	SD766		
第2-26025	瓦質土器	埴	—	—	—	—	SD766		
第2-26026	瓦質土器	埴	—	(10.4)	4.5	4.8	SD766	高台廻り付け 列器ヘラケスリ	
第2-26027	在池系土師器	坪	—	(11.3)	7.5	3.4	SD766	勸土師器	
第2-26028	在池系土師器	坪	在池	12.7	9.5	3.6	SD766		
第2-26029	在池系土師器	坪	在池	12.4	10.0	3.2	SD766		
第2-26030	在池系土師器	坪	在池	12.5	9.2	3.9	SD766		
第2-26031	在池系土師器	坪	在池	—	(7.0)	—	SD766		
第2-26032	在池系土師器	坪	在池	(12.2)	—	—	SD766		
第2-26033	在池系土師器	坪	在池	13.0	9.5	3.1	SD766		
第2-26034	在池系土師器	小皿	在池	(8.8)	(8.0)	2.3	SD766		
第2-26035	口口目土師器	皿	在池	(12.0)	(5.0)	2.1	SD766		
第2-26036	京橋系土師器	小皿	在池	—	—	—	SD766		
第2-26037	京橋系土師器	皿	在池	13.3	—	2.3	SD766	1期	
第2-26038	土師質土器	鍋	—	—	—	—	SD766	3足 勸土系 椀類?	
第2-26039	土師質土器	鍋	在池	—	—	—	SD766		
第2-26040	土師質土器	鍋	在池	—	—	—	SD766		
第2-26041	土師質土器	鍋	在池	—	—	—	SD766		
第2-26042	古代土師器	門部椀	在池	—	—	—	SD766	古代	45
第2-26043	埴輪陶器	皿	—	—	—	—	SD766		
第2-26044	埴輪陶器	皿	—	—	—	—	SD766		
第2-26045	埴輪陶器	皿	—	—	—	—	SD766		
第2-26046	古代土師器	埴	在池	—	—	—	SD766		
第2-26047	古代土師器	埴	在池	(16.0)	(9.0)	5.2	SD766		
第2-26048	古代土師器	高台付椀	在池	(21.4)	(17.0)	2.1	SD766	高台廻り付け	
第2-26049	古代土師器	坪倉	在池	(16.4)	—	1.6	SD766		
第2-26050	古代土師器	埴	在池	(22.8)	—	—	SD766		
第2-26051	古代土師器	埴	在池	—	—	—	SD766	口縁部に付る欠き	
第2-26052	古代土師器	製造土器	—	(7.0)	—	—	SD766	穴通式製造	
第2-26053	陶器	埴	—	(45.2)	—	—	SD775	中骨	
第2-26054	陶器	磨鉢	埴前	—	—	—	SD775	15世紀前半	
第2-26055	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD775	一部にスス付着	
第2-26056	在池系土師器	坪	在池	(12.4)	(7.0)	3.1	SD775		
第2-26057	在池系土師器	坪	在池	(12.4)	(9.0)	3.1	SD775		
第2-26058	在池系土師器	小皿	在池	7.2	4.6	1.2	SD775	内部に二次焼結のスス付着	
第2-26059	在池系土師器	小皿	在池	(8.8)	4.8	2.3	SD775	15世紀	
第2-26060	京橋系土師器	小皿	—	—	—	—	SD775	購入品	
第2-26061	土師質土器	鉢	在池	—	—	—	SD775		
第2-26062	古代土師器	小皿	在池	(6.6)	—	—	SD775	ミニチュア土器 竈通時代	
第2-26063	古代土師器	皿	在池	(16.4)	(14.0)	1.9	SD775		
第2-26064	古代土師器	坪倉	在池	—	—	—	SD775		
第2-26065	古代土師器	埴	在池	—	—	—	SD775	製の器手	
第2-26066	在池系土師器	小皿	在池	8.2	6.4	1.2	SK714	14世紀	
第2-26067	在池系土師器	小皿	在池	(8.2)	(8.0)	1.3	SK714	14世紀	
第2-30021	在池系土師器	坪	在池	11.6	6.9	2.4	SK303	管轄 口縁部付る欠き	
第2-31021	古代土師器	坪	—	(19.0)	—	—	SE800	購入品	
第2-31022	古代土師器	高台付坪	在池	—	(8.4)	—	SE800		
第2-31023	古代土師器	坪倉つまみ	在池	—	—	—	SE773		
第2-31024	古代土師器	坪	在池	(14.2)	—	—	SE773	9世紀	
第2-31025	古代土師器	皿	在池	(15.0)	(11.8)	—	SE773		
第2-31026	古代土師器	埴	在池	—	—	—	SE773		
第2-36021	瓦砂	埴	中国	—	—	—	SD790		
第2-36022	埴輪陶器	注口付甕	中国	(8.5)	(9.2)	—	SD790	未定	
第2-36023	陶器	天目碗	瀬戸前田	(11.3)	—	—	SD790		
第2-36024	陶器	磨鉢	埴前	(30.6)	—	—	SD790	中骨の 埴 口縁部に付着物	
第2-36025	陶器	磨鉢	埴前	—	—	—	SD790	近世18 期 斜めスリ目	
第2-36026	陶器	磨鉢	埴前	—	—	—	SD790	閉り廻し高倉	
第2-36027	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SD790	帯文瓦	
第2-36028	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD790		
第2-36029	在池系土師器	坪	在池	(12.4)	(7.2)	2.3	SD790		
第2-36030	口口目土師器	皿	在池	12.2	6.4	3.4	SD790	口縁部にスス付着 打明	

第7次調査区観察表③(土器・陶磁器類)

種別No.	種 類	生産地	流量(単位cm)			流 速 名	備 考	図版 No.
			11.9	底層	静置			
第2-36011	ロウロ目土師器	煎	在池	11.9	6.5	2.9	SD790	口縁部打ち欠き
第2-36012	ロウロ目土師器	小皿	在池	(16.0)	(7.2)	2.2	SD790	口縁部打ち欠き
第2-36013	ロウロ目土師器	小皿	在池	7.6	4.8	2.0	SD790	スス付筒 打明確
第2-36014	京師系土師器	煎	在池	13.4	6.6	2.4	SD790	1周
第2-36015	京師系土師器	煎	在池	(14.0)	—	2.2	SD790	1周 蓋形
第2-36016	京師系土師器	小皿	在池	(8.4)	—	2.2	SD790	1周 スス付筒
第2-36017	京師系土師器	小皿	在池	(8.2)	(3.8)	1.7	SD790	1周 スス付筒 打明確
第2-36018	京師系土師器	煎	在池	(12.0)	—	—	SD790	2周
第2-36019	京師系土師器	特小型煎	在池	5.4	3.2	1.9	SD790	2周 ミニチュア土師
第2-3701	京師系土師器	坪	在池	(12.2)	(8.8)	3.4	SA311	P1020
第2-3901	ロウロ目土師器	煎	在池	13.3	7.2	3.5	ST748	
第2-4101	瓦質土師	煎	在池	13.5	7.4	3.3	ST748	
第2-4102	瓦質土師	煎	—	—	—	—	SK705	
第2-4102	瓦質土師	煎	—	—	—	—	SK705	
第2-4102	瓦質土師	煎	在池	15.9	8.2	3.7	SK705	
第2-4106	古代土師器	煎	在池	—	—	—	SK705	
第2-4107	陶磁	煎	在池	—	—	—	SK705	
第2-4301	陶磁	煎	在池	30.3	—	—	SK712	中層5周
第2-4302	在池系土師器	坪	在池	—	—	—	SK712	
第2-4303	在池系土師器	坪	在池	—	—	—	SK712	
第2-4304	ロウロ目土師器	煎	在池	13.3	7.1	3.3	SK712	
第2-4305	ロウロ目土師器	煎	在池	(13.0)	(7.2)	3.1	SK712	から秋庄産 外面側部から底部によごれ
第2-4306	ロウロ目土師器	煎	在池	(12.8)	6.5	2.8	SK712	継続しての産産
第2-4307	ロウロ目土師器	煎	在池	(12.6)	—	—	SK712	内面スス付筒 打明確
第2-4308	ロウロ目土師器	煎	在池	(12.6)	(6.4)	3.0	SK712	縁状に成形
第2-4309	ロウロ目土師器	煎	在池	(12.6)	(6.8)	3.5	SK712	内面スス付筒 打明確
第2-43010	ロウロ目土師器	煎	在池	—	6.8	—	SK712	
第2-43011	ロウロ目土師器	煎	在池	(12.2)	(7.2)	2.8	SK712	
第2-43012	ロウロ目土師器	煎	在池	12.4	5.9	3.2	SK712	打明確
第2-43013	ロウロ目土師器	煎	在池	12.1	6.0	2.8	SK712	縁状圧痕
第2-43014	ロウロ目土師器	煎	在池	11.6	5.9	3.2	SK712	
第2-43015	ロウロ目土師器	煎	在池	11.7	6.3	2.8	SK712	口縁部打ち欠き
第2-43016	ロウロ目土師器	煎	在池	(11.2)	(6.1)	2.5	SK712	縁状圧痕
第2-43017	ロウロ目土師器	煎	在池	(11.8)	(5.4)	2.9	SK712	
第2-43018	ロウロ目土師器	煎	在池	(11.8)	(6.0)	3.2	SK712	縁状圧痕
第2-43019	ロウロ目土師器	煎	在池	(11.4)	(6.0)	2.9	SK712	
第2-43020	ロウロ目土師器	煎	在池	11.0	6.2	2.7	SK712	内面スス付筒 打明確
第2-43021	ロウロ目土師器	煎	在池	11.2	6.0	2.7	SK712	
第2-43022	ロウロ目土師器	煎	在池	10.2	5.9	2.8	SK712	縁状圧痕
第2-43023	ロウロ目土師器	煎	在池	—	5.2	—	SK712	縁状圧痕
第2-43024	ロウロ目土師器	煎	在池	—	6.9	—	SK712	
第2-43025	ロウロ目土師器	煎	在池	—	5.7	—	SK712	円筒状に成形
第2-43026	ロウロ目土師器	煎	在池	—	5.7	—	SK712	
第2-43027	ロウロ目土師器	煎	在池	—	(6.0)	—	SK712	縁状圧痕
第2-43028	ロウロ目土師器	煎	在池	—	(6.4)	—	SK712	縁状圧痕
第2-43029	ロウロ目土師器	小皿	在池	10.0	5.8	2.1	SK712	縁状圧痕 煎煎 胎土分州流域
第2-43030	ロウロ目土師器	小皿	在池	10.2	6.0	2.5	SK712	縁状圧痕 口縁部スス付筒 打明確 胎土分州流域
第2-43031	ロウロ目土師器	小皿	在池	9.8	5.6	2.7	SK712	縁状圧痕 口縁部打ち欠き スス付筒 特殊打明確
第2-43032	ロウロ目土師器	小皿	在池	10.1	4.7	2.7	SK712	縁状圧痕 スス付筒 打明確 口縁部 打ち欠き
第2-43033	ロウロ目土師器	小皿	在池	(10.0)	—	—	SK712	スス付筒 打明確
第2-43034	ロウロ目土師器	小皿	在池	(8.0)	5.0	2.0	SK712	煎煎 縁状
第2-43035	陶磁	縁状	備前	—	—	—	SK712	中層3周
第2-4501	古代陶磁器	煎	在池	(14.4)	9.4	2.2	SD663	9世紀 へうせり
第2-4502	古代土師器	製磁土師	—	(7.6)	—	—	SO663	六溝式地用 内外に製造によるヒビ割れ
第2-4701	陶磁	煎	中層	—	(7.7)	—	SE508	
第2-4702	瓦質土師	煎	—	—	4.2	—	SE508	混合製り付け
第2-4703	京師系土師器	煎	在池	13.4	—	—	SE508	1周 スス付筒?
第2-4704	土師系土師	煎	在池	—	6.8	—	SE508	A1周 口縁全周打ち欠き ロウロ底形左側面
第2-4705	土師系土師	煎	在池	—	—	—	SE508	縁状によるあむ状変質 硬化 外側に煎付筒
第2-4706	陶磁	坪	瀬戸	(12.4)	—	—	SE508	古層14世紀
第2-4801	陶磁	縁状	備前	—	—	—	P807	中層9周
第2-4802	京師系土師器	小皿	在池	8.4	—	2.1	P807	1周
第2-4803	京師系土師器	煎	在池	10.6	—	2.2	P833	1周 縁状 内外面ともにスス付筒
第2-4805	京師系土師器	煎	在池	10.4	—	2.0	P848	1周
第2-4806	京師系土師器	煎	在池	8.5	—	1.8	P926	1周
第2-4101	陶磁	天目煎	中層	—	6.9	—	SE533	胎土分州産か? 胎土2周だけ
第2-5101	京代土師器	煎付坪	在池	10.2	3.4	7.5	SE532	口縁部全周に打ち欠き
第2-5101	京師系土師器	煎	在池	(10.2)	—	2.2	SK701	2周
第2-5102	煎煎三つ	島形水注	中層	—	—	—	SK552	物の器縁部片
第2-5102	煎煎三つ	島形水注	中層	—	—	—	SK552	物の器縁部片
第2-5103	京師系土師器	煎	在池	(14.0)	—	2.5	SK552	2周
第2-5401	土師系土師	あつば	在池	—	—	—	SK524	京師系土師器2周産の縁用 内面に煎付筒
第2-5501	京師系土師器	特小型煎	在池	5.4	—	2.0	SK722	ミニチュア土師
第2-5504	瓦質土師	文鉢	—	—	—	—	SK725	
第2-5505	ロウロ目土師器	煎	在池	(13.2)	(6.8)	2.8	SK725	10世紀前半 縁状によるスス付筒

第7次調査区観察表④ (土器・陶磁種類)

神田 No.	器 種	生産地	施設 (単位cm)			遺 物 名	備 考	観察 No.	
			口徑	底径	高さ				
002-0008	口く口目土師器	神小笠原	(6.0)	3.0	0.9	SK25	ミニチュア土器		
002-0001	埴輪	埴	中国 (龍谷窯)	--	--	SD791			
002-0002	埴輪	埴	中国 (龍谷窯)	(11.6)	--	SD791	B-M' 煎刺 先達神文		
002-0003	命埴	埴	中国	(13.3)	(7.9)	SD791	口縁部打ち欠き		
002-0004	荷花	埴	中国 (湯河原)	--	4.5	SD791			
002-0005	陶器	天目釉	中国	--	--	SD791	輪郭2度上げ		
002-0006	瓦輪陶器	陶瓦器	中国	--	--	SD791			
002-0007	埴輪陶器	埴	中国	--	(8.1)	SD791			
002-0008	陶器	天目釉	瀬戸黄瀬	11.2	4.3	6.1	SD791	削り出し品台	
002-0009	陶器	天目釉	瀬戸黄瀬	12.4	4.3	7.5	SD791	削り出し品台	
002-00010	陶器	天目釉	瀬戸黄瀬	12.2	--	--	SD791		
002-00011	鉄物陶器	埴	瀬戸黄瀬	--	--	--	SD791		
002-00012	陶器	埴	常滑	--	--	--	SD791	16世紀	
002-00013	陶器	埴	備前	--	(8.0)	--	SD791		
002-00014	陶器	埴	備前 (10.4)	--	--	--	SD791		
002-00015	陶器	広口器	備前	--	--	--	SD791		
002-00016	陶器	埴	備前 (5.6)	--	--	--	SD791		
002-00017	陶器	埴	備前 (5.6)	--	--	--	SD791		
002-00018	陶器	埴	備前 3.3	--	--	--	SD791		
002-00019	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	中世5期	
002-00020	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	中世5期	
002-00021	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	中世5期	
002-00022	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	近世1期	
002-00023	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	近世1期	
002-00024	陶器	埴	備前	--	(32.2)	--	SD791		
002-00025	陶器	埴	備前 (26.2)	--	--	--	SD791	中世6期	
002-00026	陶器	埴	備前 (29.6)	--	--	--	SD791	中世6期	
002-00027	陶器	埴	備前 (25.6)	--	--	--	SD791	近世16期	
002-00028	陶器	埴	備前 (24.0)	--	--	--	SD791	中世6期	
002-00029	陶器	埴	備前	--	13.0	--	SD791	中世6期	
002-00030	陶器	埴 (片口)	備前 (26.2)	--	--	--	SD791	近世	
002-00031	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	近世1期 斜めすり目	
002-00032	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791		
002-00033	陶器	埴	備前 (10.6)	--	--	--	SD791	内面磨耗 16世紀	
002-00034	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00035	陶器	埴	備前 (28.2)	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00036	陶器	埴	備前 (26.2)	--	--	--	SD791	中世6期	
002-00037	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	近世16期	
002-00038	陶器	埴	備前 (13.0)	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00039	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00040	陶器	埴	備前 (33.0)	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00041	陶器	埴	備前 (12.6)	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00042	陶器	埴 (片口)	備前 (29.2)	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00043	陶器	埴	備前 (11.2)	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00044	陶器	埴	備前 (15.0)	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00045	陶器	埴	備前 (12.0)	--	--	--	SD791	近世16期 斜めすり目	
002-00046	陶器	埴	備前 (18.2)	--	--	--	SD791		
002-00047	陶器	埴	備前	--	--	--	SD791		
002-00048	陶器	水取し	備前 (16.7)	--	--	--	SD791	茶碗	
002-00049	瓦質土器	埴	--	36.0	--	--	SD791		
002-00050	瓦質土器	埴	--	(31.6)	--	--	SD791		
002-00051	瓦質土器	茶碗	--	(12.2)	--	--	SD791		
002-00052	瓦質土器	茶碗	--	--	--	--	SD791	寛政下にスス付前	
002-00053	瓦質土器	茶碗	--	(31.4)	--	--	SD791	内面にスス付前 16世紀半ば	
002-00054	瓦質土器	茶碗	--	--	--	--	SD791	胎土赤	
002-00055	瓦質土器	茶碗	--	--	--	--	SD791	胎土赤 内面に黒斑	
002-00056	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SD791	方形	
002-00057	瓦質土器	火鉢	--	(34.5)	--	--	SD791		
002-00058	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SD791	方形	
002-00059	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SD791	雷文 貼り付け突縁	
002-00060	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SD791		
002-00061	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SD791		
002-00062	瓦質土器	鉢	--	--	--	--	SD791		
002-00063	瓦質土器	鉢	--	--	--	--	SD791		
002-00064	瓦質土器	鉢	在池 (37.0)	--	--	--	SD791	内面にスス付前 口縁部打ち欠きあり	
002-00065	瓦質土器	鉢	--	--	--	--	SD791		
002-00066	瓦質土器	鉢	--	(27.6)	--	--	SD791		
002-00067	瓦質土器	火鉢	--	(32.2)	(25.4)	--	SD791		
002-00068	瓦質土器	鉢	--	--	--	--	SD791		
002-00069	瓦質土器	鉢	--	(34.6)	--	--	SD791		
002-00070	土師質土器	脚付鉢	--	(13.0)	--	5.5	SD791	黒斑 3足?	
002-00071	土師質土器	脚付鉢	--	(36.6)	--	--	SD791	内面にコケ付前	
002-00072	在池系土師器	鉢	在池 (14.2)	(8.6)	3.6	--	SD791	内面黒斑?	
002-00073	在池系土師器	鉢	在池 (11.4)	6.2	3.3	--	SD791	胎土黄褐色を帯び?	
002-00074	在池系土師器	小皿	在池 (7.6)	(6.0)	1.3	--	SD791		

第 7 次調査区観察表⑤(土器・陶磁器類)

神田 No.	種類	産地	法量(単位:m)			遺物名	備 考	図説 No.	
			口径	底径	高さ				
第2-00275	埴土系土師器	小皿	—	(8.2)	(6.0)	SD79	現状保存? 汚石多い 崩入品		
第2-00276	ロウロ口土師器	小皿	在焼	9.2	6.0	SD79	口縁部打ち欠き		
第2-00277	ロウロ口土師器	小皿	在焼	(12.2)	6.4	2.6	SD79	現状保存	
第2-00278	ロウロ口土師器	皿	在焼	13.2	6.8	3.0	SD79	現状保存 口縁部打ち欠き?	
第2-00279	ロウロ口土師器	皿	在焼	(11.8)	6.2	3.3	SD79	現状保存 内面スス付物	
第2-00280	ロウロ口土師器	小皿	在焼	(8.6)	(5.2)	1.8	SD79	蓋部穿孔	
第2-00281	ロウロ口土師器	小皿	在焼	(8.4)	4.8	2.0	SD79	現状保存	
第2-00282	ロウロ口土師器	小皿	在焼	(10.0)	(5.8)	1.7	SD79	現状保存	
第2-00283	埴土系土師器	皿	在焼	13.3	—	2.6	SD79	1層 一級瓦葺?	
第2-00284	埴土系土師器	皿	在焼	(11.0)	4.5	2.5	SD79	1層	
第2-00285	埴土系土師器	皿	在焼	(15.8)	—	2.1	SD79	1層 瓦葺?	
第2-00286	埴土系土師器	皿	在焼	(12.0)	—	2.4	SD79	1層 一級瓦葺?	
第2-00287	埴土系土師器	小皿	在焼	(8.6)	—	1.8	SD79	1層 スス付物 灯明皿 蓋部剥離	
第2-00288	埴土系土師器	小皿	在焼	9.1	—	2.3	SD79	1層 口縁部打ち欠き 全体の歪みあり	
第2-00289	埴土系土師器	小皿	在焼	(8.8)	—	—	SD79	1層 スス付物 灯明皿	
第2-00290	埴土系土師器	小皿	在焼	(9.0)	—	2.0	SD79	1層 内外面スス付物 打ち欠きあり	
第2-00291	埴土系土師器	小皿	在焼	(9.0)	—	—	SD79	1層 内面スス付物	
第2-00292	埴土系土師器	皿	在焼	11.8	—	2.8	SD79	2層 口縁部に小欠角・割傷 歪みあり	
第2-00293	埴土系土師器	皿	在焼	13.1	—	2.8	SD79	2層	
第2-00294	埴土系土師器	皿	在焼	(12.6)	—	—	SD79	2層	
第2-00295	埴土系土師器	小皿	在焼	9.1	—	2.6	SD79	2層 口縁部に近いスス付物 灯明皿	
第2-00296	埴土系土師器	皿	在焼	—	—	—	SD79	2層 現状保存 スス付物 灯明皿	
第2-00297	埴土系土師器	皿	在焼	—	—	—	SD79	2層 内面印部あり 外周瓦葺	
第2-00298	埴土系土師器	皿	在焼	(12.6)	(9.8)	2.5	SD79	2層 覆形物	
第2-00299	埴土系土師器	皿	在焼	10.8	—	2.6	SD79	2層 一級瓦葺 口縁部打ち欠き	
第2-00300	埴土系土師器	皿	在焼	(12.6)	—	2.6	SD79	2層 瓦葺?	
第2-00301	埴土系土師器	皿	在焼	(12.6)	—	2.6	SD79	2層 蓋部剥離?	
第2-00302	埴土系土師器	皿	在焼	(13.0)	—	2.6	SD79	2層 スス付物	
第2-00303	埴土系土師器	小皿	在焼	(9.0)	—	2.3	SD79	2層 スス付物 灯明皿	
第2-00304	埴土系土師器	皿	在焼	(12.6)	—	2.1	SD79	2層	
第2-00305	埴土系土師器	皿	在焼	(12.4)	—	—	SD79	2層	
第2-00306	埴土系土師器	小皿	在焼	(10.2)	—	2.5	SD79	2層	
第2-00307	埴土系土師器	小皿	在焼	9.0	—	2.3	SD79	2層 口唇部スス付物 灯明皿	
第2-00308	埴土系土師器	小皿	在焼	(8.8)	—	1.9	SD79	2層 蓋部による変形	
第2-00309	埴土系土師器	小皿	在焼	8.6	—	2.3	SD79	2層 スス付物 灯明皿 灯明穴打ち欠きあり	
第2-00310	埴土系土師器	小皿	在焼	(9.2)	—	—	SD79	2層	
第2-00311	埴土系土師器	小皿	在焼	(8.6)	—	2.1	SD79	2層	
第2-00312	埴土系土師器	皿	在焼	(17.6)	—	—	SD79	3層 内外両面に部分の歪み(スス?)	
第2-00313	埴土系土師器	皿	在焼	(16.6)	—	—	SD79	3層 内周部スス付物 割傷	
第2-00314	埴土系土師器	小皿	在焼	(9.6)	—	1.7	SD79	2層	
第2-00315	埴土系土師器	皿	在焼	(17.8)	—	2.8	SD79	2層	
第2-00316	埴土系土師器	皿	在焼	12.6	—	2.5	SD79	3層 外周部部に皮肉	
第2-00317	埴土系土師器	皿	在焼	(13.0)	—	3.0	SD79	3層 内面ススによる変形 蓋部	
第2-00318	埴土系土師器	皿	在焼	(12.4)	—	2.6	SD79	3層 内面ススによる変形	
第2-00319	埴土系土師器	皿	在焼	(12.8)	—	2.3	SD79	3層	
第2-00320	埴土系土師器	皿	在焼	(12.2)	—	2.4	SD79	3層 瓦葺? スス付物	
第2-00321	埴土系土師器	皿	在焼	(12.2)	—	—	SD79	3層 外周スス付物 蓋部による変形	
第2-00322	埴土系土師器	皿	在焼	(12.4)	—	2.5	SD79	3層	
第2-00323	埴土系土師器	皿	在焼	(12.2)	—	2.8	SD79	3層	
第2-00324	埴土系土師器	皿	在焼	12.2	—	2.3	SD79	3層 口唇部打ち欠き	
第2-00325	埴土系土師器	皿	在焼	(13.6)	—	2.3	SD79	3層	
第2-00326	埴土系土師器	皿	在焼	(11.6)	—	2.1	SD79	3層 口縁部打ち欠き 蓋部による変形	
第2-00327	埴土系土師器	皿	在焼	(11.2)	—	2.1	SD79	3層 現状保存	
第2-00328	埴土系土師器	皿	在焼	(10.6)	—	2.1	SD79	3層	
第2-00329	埴土系土師器	皿	在焼	(12.2)	(6.2)	2.5	SD79	3層	
第2-00330	埴土系土師器	皿	在焼	11.7	6.5	3.8	SD79	3層 瓦葺 内外面にスス付物 蓋部	
第2-00331	埴土系土師器	皿	在焼	11.2	—	3.8	SD79	3層	
第2-00332	埴土系土師器	皿	在焼	(10.8)	—	—	SD79	3層	
第2-00333	埴土系土師器	皿	在焼	(11.8)	—	3.4	SD79	3層 スス付物	
第2-00334	埴土系土師器	皿	在焼	(12.4)	—	2.6	SD79	3層 スス付物 蓋部の破損あり	
第2-00335	埴土系土師器	小皿	在焼	(8.4)	—	2.4	SD79	3層 口縁部スス付物 灯明皿	
第2-00336	埴土系土師器	特小型皿	在焼	4.9	(3.0)	1.8	SD79	ミニチュア土器	
第2-00337	埴土系土師器	皿	在焼	(12.0)	(7.8)	2.3	SD79	現状保存 埴土系土師器を模倣	
第2-00338	土師系土師器	燈台	—	(7.5)	—	(7.0)	SD79	8層 埴土系土師器と同一成形	
第2-00339	土師系土師器	多つば	在焼	—	(7.0)	—	SD79	埴土系土師器 1層目を転用 内面に倒付物	
第2-00340	古代瓦葺器	在焼	—	(6.8)	—	—	SD79		
第2-00341	古代土師器	坪皿	在焼	(14.8)	—	—	SD79		
第2-00342	古代土師器	坪皿	在焼	—	—	—	SD79		
第2-00343	古代土師器	坪皿	在焼	—	—	—	SD79		
第2-00344	古代土師器	坪皿	在焼	(12.0)	—	2.5	SD79		
第2-00345	古代土師器	坪皿つぎみ	在焼	—	—	—	SD79		
第2-00346	古代土師器	高台付坪	在焼	(14.4)	(10.0)	3.7	SD79	内外ともに瓦葺あり	
第2-00347	古代土師器	高台付坪	在焼	—	(6.0)	—	SD79		
第2-00348	古代土師器	在焼	(13.4)	(10.4)	2.0	SD79			
第2-00349	古代土師器	皿	在焼	(16.2)	(12.6)	2.5	SD79		

第7次調査区観察表⑥(土器・陶磁器類)

発見No.	器名	生産地	法位(単位cm)			遺物名	備考	図録No.
			口径	底径	高さ			
第2-020170	古代土師器	坪	在埴	(14.0)	—	—	S0791	
第2-020171	古代土師器	埴	在埴	—	—	—	S0791	全形型 2次焼成 スス付
第2-020172	古代土師器	埴	在埴	(23.8)	—	—	S0791	全形型 焼物による変変
第2-020174	古代御原器	埴	在埴	—	—	—	S0791	
第2-020175	陶磁	広口器	埴前	—	—	—	S0791	貼り付け変
第2-020176	瓦葺土師	火鉢	—	(31.6)	—	—	S0791	厚胎陶手塗書文
第2-020177	京都系土師器	皿	在埴	(11.2)	—	2.2	S0791	2脚
第2-020178	京都系土師器	皿	在埴	(12.4)	—	2.8	S0791	3脚
第2-020179	古代土師器	製瓶土師	—	—	—	—	S0791	六渡式地陶用 焼物による変色あり
第2-0201	青磁	瓦形煎茶釜	中国(福泉系)	—	—	—	S0538	
第2-0202	青磁	碗	中国(福泉系)	—	3.7	—	S0538	煎茶の打ちつき 煎り出し高合
第2-0203	青磁	碗	中国(福泉系)	—	5.6	—	S0538	
第2-0204	青磁	碗	中国(福泉系)	—	6.0	—	S0538	C-25 煎 煎茶の打ちつき
第2-0205	青磁	碗	中国(福泉系)	—	3.3	—	S0538	見込に赤線文字「丁」
第2-0206	青花	壺	中国(景德鎮系)	—	—	—	S0538	
第2-0207	青花	碗	中国(景德鎮系)	(14.1)	5.2	6.1	S0538	C 群
第2-0208	青花	碗	中国(景德鎮系)	—	5.3	—	S0538	E 群 磨胎心
第2-0209	青花	碗	中国(景德鎮系)	—	(4.0)	—	S0538	E 群 磨胎心
第2-02010	青花	碗	中国(景德鎮系)	—	—	—	S0538	
第2-02011	青花	皿	中国(景德鎮系)	(15.6)	(9.0)	—	S0538	B 1 群
第2-02012	青花	皿	中国(景德鎮系)	—	(4.6)	—	S0538	C 群 磨胎底
第2-02013	青花	皿	中国(景德鎮系)	—	—	—	S0538	E 群 高合内「天下平」
第2-02014	瓦相陶磁	壺	中国	(13.5)	—	—	S0538	16世紀
第2-02015	朝鮮王様陶磁	碗	朝鮮	—	5.4	—	S0538	貴土色陶 磨胎 丹草文
第2-02016	陶磁	壺	埴前	—	(15.2)	—	S0538	
第2-02017	陶磁	燈鉢	埴前	(27.3)	(10.6)	13.4	S0538	中世6c 群
第2-02018	陶磁	燈鉢	埴前	—	—	—	S0538	中世 6 群
第2-02019	陶磁	燈鉢	埴前	—	—	—	S0538	中世 6 群
第2-02020	陶磁	燈鉢	埴前	—	—	—	S0538	中世 6 群
第2-02021	陶磁	壺	埴前	(22.0)	—	—	S0538	中世 6 群
第2-02022	瓦葺土師	火鉢	—	—	—	—	S0538	書文
第2-02023	瓦葺土師	火鉢	—	(27.0)	—	—	S0538	
第2-02024	瓦葺土師	火鉢	—	—	—	—	S0538	
第2-02025	瓦葺土師	火鉢	—	—	(30.2)	—	S0538	
第2-02026	瓦葺土師	煎茶器	—	(16.6)	—	—	S0538	
第2-02027	在埴系土師器	皿	在埴	(12.4)	(6.6)	2.5	S0538	焼物による変変
第2-02028	在埴系土師器	皿	在埴	12.8	7.9	2.8	S0538	
第2-02029	在埴系土師器	小皿	在埴	(8.6)	5.6	1.8	S0538	
第2-02030	在埴系土師器	小皿	在埴	(8.6)	4.8	1.9	S0538	
第2-02031	在埴系土師器	小皿	在埴	(8.6)	4.7	1.9	S0538	
第2-02032	口ノ口土師器	皿	在埴	12.6	6.8	2.7	S0538	煎又は草紙底
第2-02033	口ノ口土師器	皿	在埴	—	6.2	—	S0538	口縁全周打ちつき
第2-02034	口ノ口土師器	小皿	在埴	(8.4)	(5.2)	1.9	S0538	草紙底 すす付 灯明皿
第2-02035	京都系土師器	皿	在埴	(12.7)	—	2.6	S0538	1 脚 磨胎
第2-02036	京都系土師器	皿	在埴	13.1	—	2.5	S0538	1 脚
第2-02037	京都系土師器	皿	在埴	12.3	—	2.3	S0538	1 脚 磨胎 スス付 灯明皿 磨胎
第2-02038	京都系土師器	皿	在埴	(13.8)	—	—	S0538	1 脚
第2-02039	京都系土師器	皿	在埴	12.9	—	2.6	S0538	1 脚
第2-02040	京都系土師器	皿	在埴	(16.4)	—	2.1	S0538	1 脚 磨胎 スス付
第2-02041	京都系土師器	皿	在埴	16.3	—	2.2	S0538	1 脚
第2-02042	京都系土師器	皿	在埴	(13.0)	—	—	S0538	2 脚 一筋スス付 磨胎
第2-02043	京都系土師器	皿	在埴	(12.4)	—	2.4	S0538	2 脚
第2-02044	京都系土師器	小皿	在埴	8.2	—	2.3	S0538	2 脚 スス付 灯明皿
第2-02045	京都系土師器	小皿	在埴	8.7	—	1.9	S0538	2 脚
第2-02046	京都系土師器	小皿	在埴	8.1	—	1.9	S0538	2 脚 内面スス付 灯明皿
第2-02052	土製品	多つぼ	—	—	—	—	S0538	厨下目
第2-02053	土製品	多つぼ	在埴	(13.0)	—	2.1	S0538	京都系土師器1 類部の転用 磨胎付
第2-02054	土製品	多つぼ	在埴	(13.0)	—	—	S0538	京都系土師器1 類部の転用
第2-02055	土製品	多つぼ	在埴	—	—	—	S0538	京都系土師器2 類部の転用 貴金属の付着物
第2-02057	土師	円筒	在埴	—	—	—	S0538	流液器
第2-02058	青磁	碗	中国(福泉系)	—	(5.6)	—	S0538	9世紀
第2-02059	黄色土師	碗	—	—	(7.4)	—	S0538	A 類 高合貼り付
第2-02060	黄色土師	碗	—	—	(11.6)	—	S0538	A 類 高合貼り付
第2-02061	古代土師器	坪器つまみ	在埴	—	—	—	S0538	9世紀 つまみ貼り付
第2-02062	古代土師器	坪器	在埴	(13.6)	(7.6)	4.0	S0538	9世紀 へうり
第2-02063	古代土師器	製瓶土師	—	—	—	—	S0538	六渡式地陶用
第2-02064	白磁	碗	中国	(14.1)	—	—	S0538	11-12世紀
第2-02065	瓦葺土師	火鉢	—	(19.5)	(12.0)	—	S0538	SK549
第2-02066	瓦葺土師	火鉢	—	—	—	—	S0538	SK549 厚胎陶手塗書文
第2-02067	京都系土師器	皿	在埴	(15.6)	—	2.4	S0538	SK549 1 脚
第2-02068	陶磁	皿	在埴	—	6.7	—	S0538	5599 E 4 群 磨胎 磨胎
第2-02069	陶磁	壺	中国	(13.5)	—	—	S0538	
第2-02070	陶磁	燈鉢	埴前	—	—	—	S0538	近世1 脚 斜めすり目
第2-02071	京都系土師器	皿	在埴	13.0	—	2.2	S0538	1 脚
第2-02072	京都系土師器	皿	在埴	12.2	—	2.2	S0538	2 脚 口縁打ちつき 磨胎

第 7 次調査区観察表⑦(土器・陶磁器類)

探出 No.	器 種	生産地	位置 (単位m)			発見名	備 考	探出 No.	
			口徑	底径	高さ				
第2-40273	古代土師器	甕	—	—	—	SD438	新石器時代 銅器類		
第2-4028	瓦質土器	火鉢	—	—	—	SE541	堀形内		
第2-40402	ロウロ目土師器	甕	(11.0)	6.4	2.3	SE541	堀形内	横状底	
第2-40403	京都系土師器	甕	(13.2)	—	2.5	SE541	堀形内	3期	
第2-40405	京都系土師器	甕	(12.6)	—	—	SE541	井筒内	3期	
第2-40407	陶器	天目碗	瀬戸内国	(11.0)	—	SE541	中央土	新物	
第2-40408	陶器	磁鉢	備前	—	—	SE541	中央土	近世1期 斜めすり目	
第2-40409	ロウロ目土師器	甕	在池	—	5.8	SE541	中央土	横状底 口縁全周打ち欠き	
第2-40410	ロウロ目土師器	甕	在池	(11.0)	(5.4)	2.1	SE541	中央土	
第2-40411	京都系土師器	小甕	在池	8.6	—	2.1	SE541	中央土	2期 口縁打ち欠き スス付 灯明器
第2-40412	瓦質土器	甕	—	—	—	SE541	中央土		
第2-40414	地持陶器	鉢	中国	—	—	SE541		C類	
第2-40415	瓦質土器	甕	—	—	—	SE541			
第2-40416	京都系土師器	甕	在池	13.2	—	2.9	SE541	3期	
第2-40417	京都系土師器	甕	在池	—	—	SE541	4期	横鉢による割製	
第2-40420	土製品	もつば	在池	—	—	SE541	京都系土師器1期小皿軽周 銅付着		
第2-40421	青磁	鉢	中国(魯州産)	(11.1)	—	SK553	C-10		
第2-40422	青磁	甕	中国	(11.3)	—	SK553			
第2-40423	青花	甕	中国(魯州産)	—	(11.0)	—	SK553	E類	
第2-40424	京都系土師器	甕	在池	—	—	SK553	2期		
第2-40425	京都系土師器	小甕	在池	9.6	—	—	SK553	3期 スス付 灯明器	
第2-40426	在池系土師器	甕	在池	(12.4)	(7.2)	2.3	SK553	横状底 京都系土師器横鉢	
第2-40427	在池系土師器	甕	在池	(11.2)	(5.0)	2.5	SK553	京都系土師器横鉢	
第2-40428	在池系土師器	甕	在池	—	—	SK556	全土師器(内西のみ)		
第2-40429	在池系土師器	甕	在池	—	—	SK556	全土師器(全西)		
第2-40430	白磁	小坪	中国	—	2.8	—	SK556	マンコ状 腹底の打ち欠き 横鉢	
第2-40434	青磁	鉢	中国(魯州産)	—	—	SK556		蓮弁文	
第2-40435	青花	大甕	中国(魯州産)	—	(16.4)	—	SK556	E類	
第2-40436	青花	小坪	中国	—	(2.1)	—	SK556	写模物	
第2-40437	京都系土師器	甕	在池	12.0	—	2.6	SK556	1期 横鉢	
第2-40438	京都系土師器	甕	在池	12.0	—	2.1	SK556	2期 内面スス付	
第2-40439	京都系土師器	小甕	在池	(8.6)	—	2.0	SK556	2期	
第2-40440	白磁	鉢	中国	(10.6)	(5.2)	3.0	SK556	E-4期	
第2-40441	白磁	小坪	中国	(6.4)	—	—	SK556		
第2-40442	陶器	磁鉢	備前	—	—	—	SK556		
第2-71021	白磁	甕	中国	(12.7)	—	—	SK557(上)	E類 青花甕	
第2-71022	青花	鉢	中国(魯州産)	—	(5.0)	—	SK557(上)	C類	
第2-71023	陶器	磁鉢	備前	(26.6)	(12.8)	12.8	SK557(上)	中世6期	
第2-71024	陶器	磁鉢	備前	—	(12.0)	—	SK557(上)		
第2-71025	陶器	磁鉢(片口)	備前	—	12.4	—	SK557(上)	近世1期 斜めすり目	
第2-71026	瓦質土器	甕戸	—	(12.4)	(6.8)	—	SK557(上)	横状底	
第2-71027	在池系土師器	坪	在池	(12.6)	—	2.6	SK557(上)		
第2-71028	京都系土師器	甕	在池	(11.6)	—	2.3	SK557(上)	2期 内外面にスス付 横鉢 磁鉢	
第2-71029	京都系土師器	甕	在池	(10.6)	—	—	SK557(上)	2期	
第2-71030	京都系土師器	小甕	在池	(18.2)	—	—	SK557(上)	2期	
第2-71031	京都系土師器	小甕	在池	8.8	—	2.0	SK557(上)	2期 2期スス付 灯明器	
第2-71032	土師系土器	陶台	在池	—	(8.0)	—	SK557(上)	A2期 受け輪跡欠	
第2-71034	青磁	甕	中国(魯州産)	—	5.8	—	SK557(下)	青花甕	
第2-71035	陶器	磁鉢	備前	(32.2)	—	—	SK557(下)		
第2-71036	陶器	磁鉢	備前	—	—	—	SK557(下)		
第2-71037	ロウロ目土師器	甕	在池	(11.0)	(6.0)	2.7	SK557(下)		
第2-71038	ロウロ目土師器	甕	在池	12.4	6.8	2.7	SK557(下)	横状底	
第2-71039	京都系土師器	甕	在池	(12.4)	—	2.3	SK557(下)	1期	
第2-71040	京都系土師器	甕	在池	11.8	—	2.4	SK557(下)	1期	
第2-71041	京都系土師器	甕	在池	16.2	—	2.8	SK557(下)	2期 スス付 横鉢	
第2-71042	京都系土師器	甕	在池	(13.0)	—	1.6	SK557(下)	京都系土師器横鉢	
第2-71043	青花	甕	中国(魯州産)	(13.1)	—	—	SK557(一)	B1期 横底	
第2-71044	瓦質土器	磁鉢	—	(22.6)	—	—	SK557(一)	表面に施す割製	
第2-71045	瓦質土器	磁鉢	—	—	—	—	SK557(一)		
第2-71046	瓦質土器	甕	—	—	(6.4)	—	SK557(一)	瓦合器付付	
第2-71047	京都系土師器	甕	在池	13.4	—	2.4	SK557(一)	1期 横鉢	
第2-71048	京都系土師器	甕	在池	(10.0)	—	2.1	SK557(一)	1期	
第2-72021	陶器	磁鉢	備前	—	—	—	SK542	中世6期 外面横鉢	
第2-72022	京都系土師器	甕	在池	(14.0)	—	—	SK542	2期	
第2-72023	京都系土師器	甕	在池	(21.6)	—	3.0	SK542	3期	
第2-74021	青磁	甕	中国(魯州産)	—	(5.5)	—	SK511	青花甕 胎面薄緑色 外面白色	
第2-74022	白磁	甕	中国	(12.4)	—	—	SK511	E-4期 青花甕	
第2-74023	陶器	天目碗	瀬戸内国	(11.2)	(3.6)	6.3	SK511		
第2-74024	青花	鉢	中国(魯州産)	—	6.4	—	SK511	斜り出し高	
第2-74025	陶器	止口甕	備前	—	—	—	SK511	口縁段等文	
第2-74026	京都系土師器	甕	在池	13.3	—	2.7	SK511	2期	
第2-74027	京都系土師器	甕	在池	(12.8)	—	2.7	SK511	2期	
第2-74028	京都系土師器	甕	在池	12.0	—	2.7	SK511	2期	
第2-74029	京都系土師器	小甕	在池	(8.6)	—	2.2	SK511	2期 内外面にスス付 外面割製 横鉢	
第2-74030	京都系土師器	小甕	在池	8.9	—	2.3	SK511	2期 スス付 灯明器 内面一部割製 横鉢	



第7次調査区観察表⑧(土器・陶磁器類)

神田 No.	器種	生産地	原産 (推定cm)			遺物名	備考	観察 No.
			口径	底径	高さ			
第2-7601	苜皿	中国 (唐山製)	(14.8)	--	--	SK571	鉢蓋仲文 13世紀	
第2-7602	白磁 磁片器	中国	--	--	--	SK571	14世紀 取手	
第2-7603	苜花	中国 (岳陽製)	(15.7)	--	--	SK571	E群	
第2-7604	苜花	中国 (岳陽製)	--	4.8	--	SK571	E群 高台内「真珠地陶」	
第2-7605	苜花	中国 (岳陽製)	--	(7.2)	2.6	SK571	B群	
第2-7606	苜花	中国 (岳陽製)	11.2	3.8	3.1	SK571	C群 磨面	
第2-7607	陶磁 壺	岳陽	--	--	--	SK571	中径3~4層	
第2-7608	陶磁 樽鉢	岳陽	--	--	--	SK571	近巻1層	
第2-7609	瓦質土器 火鉢	--	--	--	--	SK571	--	
第2-7610	土師製土器 火鉢	在来	--	--	--	SK571	貼り付け突帯	
第2-7611	口ノ目土師製 小皿	在来	(7.6)	4.4	1.8	SK571	現状直置	
第2-7612	口ノ目土師製 皿	在来	--	6.5	--	SK571	外面部へラ記号 スス付器 磨熱 口縁全周打ち交り	
第2-7613	京都市土師製 皿	在来	10.5	--	1.9	SK571	1層 スス付器 灯明皿	46
第2-7614	京都市土師製 皿	在来	(13.0)	--	1.9	SK571	2層 内面磨熱による赤変	
第2-7615	京都市土師製 皿	在来	(12.2)	--	2.4	SK571	2層 磨熱	
第2-7616	京都市土師製 皿	在来	(13.0)	--	2.7	SK571	2層 外面スス付器 磨熱	
第2-7617	京都市土師製 皿	在来	(13.0)	--	--	SK571	2層 外面磨熱による赤変	
第2-7618	京都市土師製 皿	在来	(12.6)	--	2.1	SK571	2層	
第2-7619	京都市土師製 皿	在来	12.9	--	2.6	SK571	2層 内面磨熱による割傷	
第2-7620	京都市土師製 皿	在来	13.2	--	2.6	SK571	2層	
第2-7621	京都市土師製 小皿	在来	10.4	--	2.3	SK571	2層 外面部中央から打撃して破砕	
第2-7622	京都市土師製 小皿	在来	(8.2)	--	1.9	SK571	2層 内外面にスス付器 磨熱 灯明皿	
第2-7623	京都市土師製 小皿	在来	12.5	--	2.4	SK571	3層	
第2-7624	苜皿	中国	(12.2)	--	--	SK734	B+群 蓮弁文	
第2-7625	苜花	中国 (岳陽製)	--	(7.2)	--	SK734	E群 磨熱	
第2-7626	苜花	中国 (岳陽製)	--	(7.6)	--	SK734	E群	
第2-7627	苜花	中国 (岳陽製)	(6.8)	--	--	SK734	蓋かぶり	
第2-7628	苜花	中国 (岳陽製)	(33.2)	--	--	SK734	--	
第2-7629	苜花	中国 (岳陽製)	--	--	--	SK734	--	
第2-7630	草履形鉢	水注	中国	--	(8.0)	SK734	--	
第2-7631	黒角陶磁器 磁片器	中国	(36.6)	(42.4)	--	SK734	--	
第2-7632	黒角陶磁器 鉢	中国	(30.2)	--	--	SK734	--	
第2-7633	黒角陶磁器 鉢	中国	(16.4)	--	--	SK734	--	
第2-7634	黒角陶磁器 鉢	中国	(10.3)	--	--	SK734	--	
第2-7635	黒角陶磁器 小皿	中国	(2.1)	--	--	SK734	--	
第2-7636	黒角陶磁器 磁片器	タイ	--	--	--	SK734	胎土灰色のとけた発子多い	
第2-7637	陶磁 壺	岳陽	(17.5)	--	--	SK734	--	
第2-7638	陶磁 壺	岳陽	--	--	--	SK734	--	
第2-7639	陶磁 壺	岳陽	(39.2)	(44.7)	--	SK734	--	
第2-7640	陶磁 壺	岳陽	--	14.4	--	SK734	--	
第2-7641	陶磁 樽鉢	岳陽	--	--	--	SK734	内面磨熱	
第2-7642	陶磁 樽鉢	岳陽	(22.2)	--	--	SK734	中巻6層	
第2-7643	陶磁 樽鉢	岳陽	(26.2)	--	--	SK734	近巻10層 斜めすり目	
第2-7644	陶磁 樽鉢	岳陽	--	--	--	SK734	近巻10層 斜めすり目	
第2-7645	陶磁 樽鉢	岳陽	(29.6)	(13.0)	14.0	SK734	近巻10層 斜めすり目	
第2-7646	陶磁 磁片	岳陽	(4.7)	--	--	SK734	--	
第2-7647	瓦質土器 壺	--	(30.8)	--	--	SK734	中巻6層	
第2-7648	瓦質土器 火鉢	--	--	--	--	SK734	現調手洗盆文	
第2-7649	瓦質土器 火鉢	--	--	--	--	SK734	現調手洗盆文 貼り付け突帯	
第2-7650	瓦質土器 火鉢	--	--	--	--	SK734	胎土赤褐色	
第2-7651	瓦質土器 火鉢	--	(43.0)	--	--	SK734	--	
第2-7652	瓦質土器 火鉢	--	(30.0)	--	--	SK734	--	
第2-7653	瓦質土器 火鉢	--	(33.4)	--	--	SK734	--	
第2-7654	瓦質土器 火鉢	--	--	--	--	SK734	磨面文 貼り付け突帯	
第2-7655	瓦質土器 厨付火鉢	--	(41.2)	46.0	10.0	SK734	--	
第2-7656	瓦質土器 火鉢	--	(32.0)	--	--	SK734	--	
第2-7657	瓦質土器 鉢	--	(22.0)	--	--	SK734	--	
第2-7658	瓦質土器 樽鉢	--	(26.8)	--	--	SK734	--	
第2-7659	瓦質土器 鉢	--	(30.8)	--	--	SK734	--	
第2-7660	瓦質土器 平皿	--	--	5.7	--	SK734	--	
第2-7661	瓦質土器 鉢	--	(10.0)	--	--	SK734	--	
第2-7662	瓦質土器 鉢	--	--	5.3	--	SK734	高台貼り付け	
第2-7663	口ノ目土師製 皿	在来	--	6.6	--	SK734	現状直置 磨熱の打ち交り	
第2-7664	京都市土師製 皿	在来	(16.7)	--	--	SK734	1層	
第2-7665	京都市土師製 皿	在来	(14.0)	--	2.5	SK734	1層	
第2-7666	京都市土師製 皿	在来	(11.5)	--	2.2	SK734	2層 磨熱による赤変	
第2-7667	京都市土師製 小皿	在来	(8.2)	--	2.1	SK734	2層	
第2-7668	京都市土師製 小皿	在来	(10.4)	--	1.9	SK734	2層	
第2-7669	京都市土師製 小皿	在来	(11.5)	--	2.2	SK734	2層 内面磨熱による赤変	
第2-7670	京都市土師製 小皿	在来	(8.8)	--	--	SK734	2層 スス付器 灯明皿	
第2-7671	京都市土師製 小皿	在来	--	--	--	SK734	2層	
第2-7672	京都市土師製 小皿	在来	(8.8)	--	--	SK734	2層 スス付器 灯明皿	
第2-7673	京都市土師製 皿	在来	--	(8.6)	--	SK734	3層 磨熱による赤変・割傷	

第7次調査区観察表③(土器・陶磁器類)

群団No.	遺 跡	発見地	法量(単位m)			遺 物 名	備 考	図説No.
			口幅	底径	高さ			
第2-70250	古代前期土器	坪身	空地	(16.5)	11.0	5.6	SK734	8世紀末
第2-70251	土師器	小壺	空地	(5.2)	—	—	SK734	前期の埴土か
第2-70252	古代土師器	壺	空地	(16.7)	—	—	SK734	—
第2-70253	古代土師器	坪	空地	—	(7.6)	—	SK734	ヘラ切り 被熱
第2-70254	苜花	壺	中国(洛陽府)	—	(11.6)	—	SK736	—
第2-70255	陶器	埴輪	埴野	—	(11.6)	—	SK736	近世1b 群 群のすり目
第2-70256	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK736	前期後半遺文
第2-90201	陶器	壺	埴野	—	—	—	SK772	14世紀
第2-90202	京都系土師器	壺	空地	(12.4)	—	—	SK772	2層
第2-91011	陶器	天目碗	瀬戸黄瀬	—	—	—	SK509	—
第2-91012	陶器	壺	埴野	(17.6)	—	—	SK509	—
第2-91013	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK509	スタンプ文
第2-91014	京都系土師器	小壺	空地	8.9	—	2.3	SK509	2層 スス付遺文
第2-92011	苜花	壺	中国(洛陽府)	(14.1)	—	—	SK509	E群
第2-92012	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK509	粉文文
第2-92013	京都系土師器	壺	空地	(11.8)	—	2.0	SK509	2層 内面被熱による変色
第2-94011	陶器	壺	埴野	—	—	—	SK720	近世1層
第2-94012	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK721	—
第2-94013	瓦質土器	壺	—	—	—	—	SK721	—
第2-94014	京都系土師器	壺	空地	(11.4)	—	2.4	SK528	P1000 2~3期スス付 打明燭
第2-94015	白磁	壺	中国	—	(9.8)	—	SK528	E群 甌托曲が被熱
第2-94017	土師器土器	壺	空地	—	—	—	SK569	内面スス付
第2-95011	各地系土師器	坪	—	11.8	6.6	2.1	包含層1層	8世紀後半 器入品
第2-95012	古代前期土器	高台付壺	空地	(12.5)	(9.8)	4.2	包含層1層	8世紀末 高台付リ付
第2-95013	埴輪陶器	坪	—	(8.6)	—	—	包含層1層	赤切り
第2-95014	古代土師器	壺	空地	—	—	—	包含層1層	器手 露後製
第2-95015	古代土師器	坪	空地	(13.4)	—	3.2	包含層1層	ヘラ切り
第2-95016	古代土師器	坪	空地	(14.0)	—	3.5	包含層1層	ヘラ切り
第2-95017	古代土師器	坪	空地	(13.4)	—	4.0	包含層1層	内面押し出し
第2-95018	古代土師器	壺	空地	(15.0)	—	1.7	包含層1層	—
第2-95019	白磁	壺	中国	(14.3)	—	—	包含層1層	D群 施灰リ?
第2-95020	苜花	壺	中国(洛陽府)	—	—	—	包含層1層	E群 埴野心 高台内「天下太平」
第2-95021	苜花	壺	中国(洛陽府)	—	(7.7)	—	包含層1層	E群
第2-95022	埴輪陶器	壺	中国	(26.4)	—	—	包含層1層	C層
第2-95023	朝鮮王朝高麗白磁	壺	朝鮮	—	—	4.9	包含層1層	崩り出し高台
第2-95024	陶器	埴輪	瀬戸	(8.2)	—	—	包含層1層	—
第2-95025	瓦質土器	壺	—	(5.4)	—	—	包含層1層	—
第2-95026	各地系土師器	小壺	空地	9.3	4.9	1.8	包含層1層	3ニチュア土器
第2-95027	京都系土師器	特小壺	空地	(5.8)	(5.0)	1.5	包含層1層	—
第2-95028	埴輪陶器	壺	—	—	(7.0)	—	包含層1層	古代
第2-95029	古代土師器	坪蓋つまみ	空地	—	—	—	包含層1層	—
第2-95030	古代土師器	坪蓋つまみ	空地	—	—	—	包含層1層	—
第2-95031	埴輪陶器	小壺	中国	(8.6)	—	—	包含層1層	—
第2-95032	陶器	天目碗	瀬戸黄瀬	—	4.6	—	包含層1層	口縁高筒打り欠き
第2-95033	陶器	天目碗	瀬戸黄瀬	—	—	—	包含層1層	—
第2-95034	陶器	天目碗	瀬戸黄瀬	—	—	—	包含層1層	—
第2-95035	陶器	壺	唐津	—	—	—	包含層1層	唐津
第2-95036	京都系土師器	小壺	空地	(8.4)	—	2.0	包含層1層	2層
第2-95037	古代前期土器	壺	空地	—	4.8	—	包含層1層	ヘラ切り
第2-95038	古代土師器	高坪	空地	17.5	12.2	13.1	E34地区	高台形被熱半 口縁部・肩部打り欠き
第2-95039	埴輪	壺	中国(洛陽府)	—	(7.8)	—	G地区	胎土目
第2-95040	灰褐色土器	壺	—	(4.8)	—	—	G地区	古代
第2-95041	黒色土器	壺	空地	—	(7.0)	—	F34地区	A層 ヘラ切り 高台付リ付
第2-95042	黒色土器	壺	空地	—	—	—	F35地区	A層
第2-95043	古代土師器	壺	空地	(14.0)	—	—	F32地区	ヘラ切り 唐津
第2-95044	古代土師器	坪身	空地	(15.6)	—	—	F33地区	—
第2-95045	古代土師器	坪身	空地	(13.2)	(10.0)	3.5	F33地区	—
第2-95046	古代土師器	坪身	空地	(12.8)	(7.4)	3.7	E34地区	ヘラ切り
第2-95047	古代土師器	坪	空地	—	(8.8)	—	F34地区	被熱区 へら切り
第2-95048	古代土師器	坪	空地	(14.0)	—	—	F35地区	—
第2-95049	古代土師器	高台付壺	空地	—	(17.8)	—	F34地区	高台付リ付
第2-95050	古代土師器	壺	空地	(16.0)	(12.6)	2.1	F35地区	ヘラ切り
第2-95051	古代土師器	坪	空地	(13.4)	(6.8)	3.7	F34地区	ヘラ切り
第2-95052	古代土師器	坪蓋つまみ	空地	—	—	—	E34地区	—
第2-95053	古代土師器	埴輪	埴野	(19.6)	—	2.6	F35地区	ヘラ切り
第2-95054	土師器土器	埴輪	—	—	(13.0)	—	F33地区	六邊式被熱周 被熱による酸化・灰化・変色
第2-95055	陶器	埴輪	—	(36.0)	—	—	G地区	G地区
第2-95056	瓦質土器	壺	—	(15.0)	—	—	F35地区	被熱により一部変色
第2-95057	黒色土器	壺	—	(6.8)	—	—	P906	A層 高台付リ付
第2-95058	黒色土器	壺	—	—	—	—	SK713	A層 高台付リ付
第2-95059	古代土師器	胎土目	—	—	—	—	SK713	六邊式被熱周 被熱による酸化・灰化・変色
第2-95060	古代土師器	坪蓋つまみ	空地	—	—	—	P926	—
第2-95061	陶器	壺	中国(洛陽府)	—	—	—	P965	—
第2-95062	陶器	壺	中国(洛陽府)	—	—	—	S968	—

第7次調査区観察表①(土器・陶磁器類)

探検No.	器種	生産地	数量(単位:個)			遺物名	備考	図解No.
			口徑	底径	高さ			
探2-08002	在来系土器類	小皿	—	—	—	P891		
探2-08003	土師質土器	文鉢	—	—	—	SK560	粘土海胆産	
探2-08004	古代土師器	鍋	—	—	—	P1025	取手	
探2-08007	土製品	5つば	—	—	—	P643	京都系土師器? 福岡福岡 内周折付	
探2-08008	古代土師器	鉢	—	(10.4)	—	SK526	全数没	
探2-08009	青磁	碗	中国(福自窯)	—	(6.1)	SK535		
探2-08070	鉢	鉢	中国(福自窯)	—	(11.0)	—	SS50	
探2-08071	土師質土器	燗台	在来地	8.4	6.6 7.4	SS04	8割 スス付 京都系土師器と同一致形	48
探2-08071	青磁	碗	中国(福自窯)	—	(5.4)	—	SD192下野	鉢部 破片
探2-08072	青磁	碗	中国(福自窯)	—	(5.4)	—	SD192下野	13~14世紀
探2-08073	白磁	皿	中国	—	3.3	—	SD192下野	口縁全周打ち欠
探2-08074	白磁	鉢	中国	(11.2)	—	—	SD192下野	
探2-08075	陶磁	甕	備前	—	—	—	SD192下野	中世2期
探2-08076	陶磁	甕	備前	—	—	—	SD192下野	中世2期
探2-08077	瓦器	碗	在来地	—	—	—	SD192下野	瓦葺瓦葺 3期
探2-08078	瓦質土器	甕	在来地	2.2	3.5	—	SD192下野	ミネチュア瓦葺 口縁全周に小き打ち欠
探2-08079	瓦質土器	鉢	—	(31.2)	—	—	SD192下野	破入品
探2-08080	瓦質土器	漆鉢	—	—	—	—	SD192下野	
探2-08081	在来系土器類	洋	在来地	(12.2)	(8.4) 2.9	—	SD192下野	破片 破状圧痕
探2-08082	在来系土器類	洋	在来地	—	(8.0)	—	SD192下野	破片 破状圧痕
探2-08083	在来系土器類	洋	在来地	(12.3)	9.3 2.7	—	SD192下野	
探2-08084	在来系土器類	洋	在来地	12.1	8.6 3.0	—	SD192下野	粘土海胆産 破状圧痕
探2-08085	在来系土器類	洋	在来地	12.2	8.0 3.4	—	SD192下野	海胆部
探2-08086	在来系土器類	洋	在来地	(12.4)	8.0 2.9	—	SD192下野	
探2-08087	在来系土器類	洋	在来地	(13.0)	9.0 3.0	—	SD192下野	破状圧痕?
探2-08088	在来系土器類	洋	在来地	—	8.1	—	SD192下野	口縁全周打ち欠
探2-08089	在来系土器類	洋	在来地	(13.2)	(8.6) 2.7	—	SD192下野	
探2-08090	在来系土器類	洋	在来地	(14.0)	(9.5) 2.9	—	SD192下野	
探2-08091	在来系土器類	洋	在来地	12.7	8.3 3.1	—	SD192下野	破状圧痕
探2-08092	在来系土器類	洋	在来地	12.5	9.2 3.1	—	SD192下野	破状圧痕
探2-08093	在来系土器類	洋	在来地	(12.8)	(7.8) 3.0	—	SD192下野	
探2-08094	在来系土器類	洋	在来地	(12.8)	(10.0) 3.6	—	SD192下野	
探2-08095	在来系土器類	小皿	在来地	8.3	6.8 1.8	—	SD192下野	破状圧痕
探2-08096	在来系土器類	小皿	在来地	(8.0)	7.0 0.9	—	SD192下野	
探2-08097	在来系土器類	小皿	在来地	7.7	6.3 1.5	—	SD192下野	瓦葺 スス付
探2-08098	在来系土器類	小皿	在来地	7.5	5.6 1.4	—	SD192下野	粘土海胆産 破片
探2-08099	在来系土器類	小皿	在来地	(8.2)	(5.5) 2.2	—	SD192下野	
探2-08090	在来系土器類	小皿	在来地	7.2	5.1 2.1	—	SD192下野	
探2-08092	陶器	脚盆	瀬戸黄瀬	—	—	—	SD192上野	中世
探2-08093	東播磨古代青磁器	鉢	—	—	—	—	SD192上野	
探2-08094	青磁	小鉢	中国	(12.0)	—	—	SD192上野	
探2-08095	青磁	皿	中国(福自窯)	—	—	—	SD192上野	緑花皿 破入
探2-08096	陶器	皿	瀬戸黄瀬	(16.0)	—	—	SD192上野	破片?
探2-08097	陶器	菓子	瀬戸	—	10.0	—	SD192上野	瓦葺 骨付にスス付
探2-08098	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD192上野	
探2-08099	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SD192上野	
探2-08090	瓦質土器	漆鉢	—	(22.4)	—	—	SD192上野	
探2-08091	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SD192上野	
探2-08092	瓦質土器	鍋	—	(30.8)	—	—	SD192上野	
探2-08093	瓦質土器	鍋	—	—	—	—	SD192上野	
探2-08094	瓦質土器	鍋	—	(31.0)	—	—	SD192上野	
探2-08095	土師質土器	鍋	—	—	—	—	SD192上野	
探2-08096	土師質土器	鍋	—	(34.6)	—	—	SD192上野	外周スス付
探2-08097	在来系土器類	洋	在来地	12.8	8.5 3.0	—	SD192上野	破片
探2-08098	在来系土器類	洋	在来地	(12.6)	(9.6) 3.0	—	SD192上野	破状圧痕
探2-08099	在来系土器類	洋	在来地	(12.7)	(8.8) 2.9	—	SD192上野	破状圧痕
探2-08090	在来系土器類	洋	在来地	(13.5)	(10.2) 2.6	—	SD192上野	破状圧痕
探2-08091	在来系土器類	洋	在来地	(12.4)	(9.0) 3.4	—	SD192上野	
探2-08092	在来系土器類	洋	在来地	(12.7)	(8.4) 2.8	—	SD192上野	
探2-08093	在来系土器類	洋	在来地	12.3	8.6 3.5	—	SD192上野	破状圧痕 内面コケ付
探2-08094	在来系土器類	洋	在来地	13.1	9.0 2.9	—	SD192上野	破状圧痕
探2-08095	在来系土器類	洋	在来地	(12.6)	8.5 4.0	—	SD192上野	
探2-08096	在来系土器類	洋	在来地	(12.6)	8.2 3.5	—	SD192上野	破状圧痕 破片
探2-08097	在来系土器類	洋	在来地	(12.6)	(8.6) 3.5	—	SD192上野	
探2-08098	在来系土器類	洋	在来地	—	8.2	—	SD192上野	
探2-08099	在来系土器類	洋	在来地	13.0	8.5 3.9	—	SD192上野	鉢部の破片
探2-08090	在来系土器類	洋	在来地	(13.3)	9.0 3.6	—	SD192上野	破状圧痕
探2-08091	在来系土器類	洋	在来地	(13.2)	(9.3) 3.5	—	SD192上野	破状圧痕 破片 破入品
探2-08092	在来系土器類	洋	在来地	—	—	—	SD192上野	口縁全周打ち欠
探2-08093	在来系土器類	洋	在来地	(13.0)	(9.2) 3.3	—	SD192上野	
探2-08094	在来系土器類	洋	在来地	(11.6)	(7.0) 2.8	—	SD192上野	口縁全周スス付 灯明皿 破入品
探2-08095	土師質土器	燗台	在来地	—	—	—	SD192上野	底面破片
探2-08096	在来系土器類	小皿	在来地	8.2	6.0 2.5	—	SD192上野	
探2-08097	在来系土器類	小皿	在来地	7.8	5.6 1.5	—	SD192上野	
探2-08098	在来系土器類	小皿	在来地	8.0	6.9 2.5	—	SD192上野	

第7次調査区観察表①(土器・陶磁器類)

調査No.	器種	生産地	法位(単位cm)			遺物名	備考	図録No.
			口徑	底徑	高さ			
第2-00270	在来系土器類	小皿	在来地	7.9	5.4	2.5	SD192上層	
第2-00271	在来系土器類	小皿	—	(7.6)	(5.2)	2.1	SD192上層	商人品
第2-00272	在来系土器類	小皿	在来地	(7.9)	6.5	2.8	SD192上層	楕状圧痕 口縁金剛打ち欠き
第2-00273	土師質土器	樽	—	—	6.3	—	SD192上層	
第2-00274	京系系土器類	皿	—	—	—	—	SD192上層	器内よりの商人品
第2-00275	京系系土器類	皿	—	—	—	—	SD192上層	商人品
第2-00276	京系系土器類	小皿	—	(10.6)	—	—	SD192上層	商人品
第2-00277	口ノコ目土器類	皿	在来地	—	(7.4)	—	SD192上層	楕状圧痕 口縁金剛打ち欠き
第2-00283	白磁	碗	中国	(13.0)	—	—	SD192	玉縁
第2-00284	青磁	碗	中国(福建系)	—	—	—	SD192	底部褐色に黄色(黄斑)入り
第2-00285	瓦器	罐	—	—	—	—	SD192	
第2-00286	青磁	碗	中国(福建系)	(17.2)	—	—	SD192	SK152 B-1層 墨弁文
第2-00289	青磁	香炉	中国	—	—	—	SD192	SK152 款足付 口入
第2-00290	白磁	碗	中国	(10.0)	—	—	SD192	SK152 口縁
第2-00291	青花	罐	中国(雲南系)	—	—	—	SD192	SK152 高倉内「清武忠重」
第2-00292	在来系土器類	坪	在来地	13.1	10.0	3.0	SD192	SK152
第2-00293	在来系土器類	坪	在来地	13.0	9.2	3.0	SD192	SK152
第2-00294	在来系土器類	坪	在来地	12.3	(8.5)	3.5	SD192	SK152
第2-00295	在来系土器類	小皿	在来地	(8.0)	(5.6)	2.2	SD192	SK152 楕状圧痕
第2-00296	在来系土器類	小皿	在来地	7.8	6.8	1.2	SD192	SK152
第2-00297	口ノコ目土器類	小皿	在来地	(8.8)	(5.6)	1.8	SD192	SK152 口縁部スス付部 灯明皿
第2-00298	土製品	もつば	—	(5.6)	—	—	SD192	SK152
第2-0029 1	瓦質土器	罐	—	(31.4)	—	—	SD295	
第2-0029 2	瓦質土器	罐鉢	—	(15.2)	—	—	SD295	内外側に付着物 摩耗痕
第2-0029 3	在来系土器類	坪	在来地	12.4	9.0	3.7	SD295	内外とも部分的に灰色
第2-0029 4	在来系土器類	坪	在来地	(12.0)	8.6	3.5	SD295	楕状圧痕
第2-0029 5	在来系土器類	小皿	在来地	—	—	—	SD295	16世紀代
第2-0029 1	陶磁	皿	瀬戸黄瀬	(7.5)	—	—	SD294	釉熱による黄色
第2-0029 2	陶磁	器	備前	—	(7.4)	—	SD294	ヘラ記号
第2-0029 3	陶磁	器	備前	—	—	—	SD294	
第2-0029 4	陶磁	罐鉢	備前	—	—	—	SD294	14世紀後半 磨し目
第2-0029 5	瓦質土器	罐	—	—	—	—	SD294	
第2-0029 6	瓦質土器	罐	—	—	—	—	SD294	
第2-0029 7	瓦質土器	蓋	—	—	—	—	SD294	
第2-0029 8	瓦質土器	罐鉢	—	—	—	—	SD294	
第2-0029 9	土師質土器	罐鉢(片口)	在来地	(28.2)	11.4	11.1	SD294	粘土海綿産
第2-0029 10	土師質土器	罐	—	—	—	—	SD294	
第2-0029 11	土師質土器	罐	在来地	—	—	—	SD294	河野A層
第2-0029 12	在来系土器類	坪	在来地	(13.0)	(8.4)	4.0	SD294	外面磨耗による黒変
第2-0029 13	在来系土器類	坪	在来地	(13.2)	8.6	2.6	SD294	楕状圧痕 磨耗
第2-0029 14	在来系土器類	坪	在来地	(11.8)	(8.6)	2.8	SD294	
第2-0029 15	在来系土器類	坪	在来地	13.0	9.0	3.6	SD294	楕状圧痕
第2-0029 16	在来系土器類	坪	在来地	(12.4)	(8.2)	3.0	SD294	
第2-0029 17	在来系土器類	坪	—	—	8.2	—	SD294	粘土海綿産
第2-0029 18	在来系土器類	坪	在来地	(13.0)	(8.4)	3.6	SD294	
第2-0029 19	在来系土器類	坪	在来地	(12.0)	(8.0)	2.9	SD294	
第2-0029 20	在来系土器類	小皿	在来地	(10.2)	(8.0)	1.5	SD294	
第2-0029 21	在来系土器類	小皿	在来地	(8.2)	(7.8)	1.3	SD294	
第2-0029 22	在来系土器類	小皿	在来地	—	—	—	SD294	
第2-0029 23	在来系土器類	小皿	在来地	—	—	—	SD294	
第2-0029 24	在来系土器類	小皿	在来地	—	—	—	SD294	
第2-0029 25	在来系土器類	小皿	在来地	(7.0)	5.0	2.6	SD294	
第2-0029 30	陶磁	罐鉢	備前	—	—	—	SD294土塊1	中世海 類
第2-0029 31	瓦質土器	罐鉢	—	(22.4)	—	—	SD294土塊1	
第2-0029 32	瓦質土器	罐鉢	—	—	—	—	SD294土塊1	
第2-0029 33	在来系土器類	坪	在来地	(15.0)	(8.8)	4.1	SD294土塊1	
第2-0029 34	在来系土器類	坪	在来地	(12.2)	(10.6)	3.7	SD294土塊1	
第2-0029 35	在来系土器類	坪	在来地	(13.5)	(8.6)	2.9	SD294土塊2	
第2-0029 36	在来系土器類	小皿	在来地	(6.8)	(5.4)	1.3	SD294土塊2	
第2-0029 1	瓦質土器	蓋	—	—	—	—	SF293	口縁取り付
第2-0029 2	在来系土器類	小皿	在来地	(6.8)	5.2	2.0	SF293	
第2-0029 3	陶磁	天目碗	中国	(11.8)	—	—	SF293	
第2-0029 1	横紋陶器	鉢	中国	(28.4)	(15.2)	—	S149	口縁 口縁部磨り減し
第2-0029 2	瓦質土器	罐	在来地	—	—	—	S149	河野B-2層
第2-0029 3	在来系土器類	坪	在来地	(11.6)	(7.3)	2.7	S149	
第2-0029 4	在来系土器類	小皿	在来地	(8.0)	(6.6)	1.3	S149	楕状圧痕
第2-0029 2	陶磁	罐鉢	備前	—	—	—	SK189	
第2-0029 3	在来系土器類	坪	在来地	(12.2)	(7.8)	3.5	SK189	
第2-0029 4	白磁	碗	中国	(12.2)	—	—	S271	玉縁
第2-0029 5	在来系土器類	小皿	在来地	(7.4)	(5.6)	1.4	S270	灯明皿 スス付部
第2-0029 6	白磁	金子	中国	—	—	—	P184	
第2-0029 7	在来系土器類	坪	在来地	—	(5.0)	—	P219	楕状圧痕 口縁金剛打ち欠き
第2-0029 8	在来系土器類	坪	在来地	—	6.2	—	P236	楕状圧痕 口縁金剛打ち欠き
第2-0029 9	在来系土器類	坪	在来地	11.6	8.4	2.8	P277	楕状圧痕
第2-1040 1	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SR183	墨弁文

第7次調査区観察表④(土器・陶磁器類)

神庫 No.	器 種	生産地	法量 (容積cc)			遺 構 号	備 考	図庫 No.
			口積	底積	高さ			
第2-10453 3	陶器	飯	中国 (福建系)	--	--	SR183	口縁一部剥離 口縁部付自物あり	
第2-10454 4	青磁	飯	中国 (福建系)	--	--	SR183		
第2-10456 6	口ク口目土師器	皿	在池	(11.2)	(7.4)	2.9	SR183	破状圧痕
第2-10701 1	陶器	漆鉢	備前	--	--	SK187	中世2~3期	
第2-10702 2	在池系土師器	小皿	在池	(8.2)	(7.0)	1.2	SK187	
第2-10921 1	白磁	皿	中国	--	(5.0)	--	SK9	
第2-10922 2	野山陶器	小皿	中国	--	--	--	SK9	青花磁 煎茶鉢
第2-10923 3	瓦質土器	茶釜	--	(14.2)	--	--	SK9	
第2-10924 4	瓦質土器	鍋	--	--	--	--	SK9	
第2-10925 5	口ク口目土師器	小皿	在池	(8.4)	(5.8)	2.0	SK9	破れによる剥離
第2-10926 6	口ク口目土師器	小皿	在池	--	5.4	--	SK9	破状圧痕 口縁全周打ち欠き
第2-10927 7	口ク口目土師器	小皿	在池	(8.8)	(5.0)	1.7	SK9	破状圧痕
第2-10928 8	口ク口目土師器	小皿	在池	9.9	5.8	2.1	SK9	破状圧痕
第2-10929 9	口ク口目土師器	小皿	在池	(8.8)	(5.6)	2.1	SK9	
第2-10929 10	京都市土師器	皿	在池	--	--	--	SK9	1期焼物による剥離
第2-11021 1	口ク口目土師器	皿	在池	12.0	6.5	2.5	SK172	破状圧痕
第2-11022 2	口ク口目土師器	皿	在池	(12.0)	(6.2)	2.4	SK172	破状圧痕
第2-11023 3	青磁	鍋	中国 (福建系)	--	(7.0)	--	SK172	蓮弁文 目入
第2-11221 1	瓦質土器	茶釜	--	--	--	--	SK188	
第2-11222 2	陶器	漆鉢	備前	--	--	--	SK188	中世3~4期
第2-11321 1	土師系土器	両台	--	--	(7.1)	--	SK159	A1期 底の方が僅小さい
第2-11421 1	口ク口目土師器	皿	在池	--	6.5	--	SK144	破状圧痕 口縁全周打ち欠き
第2-11422 2	口ク口目土師器	皿	在池	11.9	6.4	2.7	SK144	破状圧痕
第2-11521 1	口ク口目土師器	小皿	在池	(9.8)	6.0	1.5	SK150	
第2-11522 2	口ク口目土師器	小皿	在池	(8.2)	(4.6)	1.6	SK150	内外に黒斑
第2-11621 1	口ク口目土師器	皿	在池	11.7	6.4	2.5	SK151	破状圧痕
第2-11622 2	口ク口目土師器	皿	在池	--	7.0	--	SK151	破状圧痕 口縁全周打ち欠き
第2-11721 1	青花	碗	中国 (景德鎮系)	--	--	--	SK124	C群
第2-12021 1	青花	皿	中国 (景德鎮系)	(14.2)	--	--	SK143	B1群
第2-12022 2	瓦質土器	鍋	--	--	--	--	SK143	
第2-12023 3	口ク口目土師器	皿	在池	--	(8.0)	--	SK143	破状圧痕 口縁全周打ち欠き 黒斑
第2-12024 4	口ク口目土師器	小皿	在池	(7.8)	(4.4)	1.5	SK143	
第2-12121 1	白磁	皿	中国 (宋)	(16.3)	(9.5)	2.6	SK102	E-2群 髹漆
第2-12221 1	瓦質土器	瓦鉢	山口	--	--	--	SK134	餅長基 山入 スス付
第2-12321 1	陶器	漆鉢	備前	--	--	--	SK148	中世6期
第2-12322 2	瓦質土器	鍋	在池	--	--	--	SK148	河野8-3期
第2-12323 3	在池系土師器	小皿	在池	(8.6)	(3.8)	2.0	SK148	
第2-12324 4	京都市土師器	皿	在池	(10.0)	2.0	--	SK148	1期 髹漆
第2-12421 1	口ク口目土師器	皿	在池	(13.0)	5.0	2.5	SK174	口縁部打ち欠き
第2-12621 1	白磁	皿	中国	--	(8.7)	--	SD111	E-2群
第2-12622 2	白磁	皿	中国	--	(8.2)	--	SD111	
第2-12623 3	青花	碗	中国 (景德鎮系)	(10.3)	--	--	SD111	E群
第2-12624 4	青花	碗	中国 (景德鎮系)	--	(5.7)	--	SD111	B群 欠損一部が黒斑か
第2-12625 5	青花	碗	中国 (景德鎮系)	--	(8.3)	--	SD111	C群
第2-12626 6	青花	碗	中国 (景德鎮系)	--	(5.9)	--	SD111	C群
第2-12627 7	陶器	天目鉢	中国	(10.9)	--	--	SD111	口縁部打ち欠き きめが細かい
第2-12628 8	朝鮮王朝産磁器	碗	朝鮮	--	(6.4)	--	SD111	
第2-12629 9	陶器	漆鉢	備前	--	(8.2)	--	SD111	
第2-12629 10	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SD111	
第2-12629 11	瓦質土器	火鉢(割付)	--	(38.8)	(33.4)	--	SD111	3足? 髹漆文 竹文
第2-12629 12	瓦質土器	碗	--	--	6.0	--	SD111	高台輪り付
第2-12629 13	瓦質土器	碗	--	--	(6.0)	--	SD111	高台輪り付
第2-12629 14	瓦質土器	皿	--	(28.4)	(28.2)	4.5	SD111	髹漆
第2-12629 15	在池系土師器	坪	在池	13.6	8.0	2.3	SD111	胎土黒斑あり
第2-12629 16	口ク口目土師器	小皿	在池	7.8	4.6	1.9	SD111	口縁部スス付 灯明皿 口縁部打ち欠き
第2-12629 17	京都市土師器	皿	在池	(17.0)	--	--	SD111	1期 煎茶鉢
第2-12629 18	京都市土師器	皿	在池	(13.0)	--	2.1	SD111	1期 煎茶 破鉢
第2-12629 19	京都市土師器	皿	在池	(16.2)	--	2.2	SD111	1期
第2-12629 20	京都市土師器	皿	在池	(15.0)	--	2.5	SD111	1期
第2-12629 21	京都市土師器	皿	在池	(12.4)	--	2.6	SD111	2期
第2-12629 22	京都市土師器	皿	在池	(12.4)	--	2.6	SD111	1期
第2-12629 23	京都市土師器	小皿	在池	8.2	--	1.8	SD111	2期 口縁部打ち欠き
第2-12629 24	京都市土師器	小皿	在池	(8.4)	--	1.9	SD111	1~2期 内周部付 破れしもの裏蓋 (もつばか)
第2-12629 25	在池系土師器	小皿	在池	8.9	5.3	1.9	SD111	
第2-12629 26	京都市土師器	皿	在池	(12.8)	(11.4)	2.5	SD111	3期
第2-12629 27	土製品	もつば	在池	(8.6)	--	2.1	SD111	京都市土師器1期付の私用 内周部付
第2-12629 28	青磁	鍋	中国 (福建系)	--	4.8	--	SD111	メソコに私用
第2-12629 29	土製品	もつば	在池	(11.2)	--	2.2	SD111	京都市土師器2期小皿付 産部内周部付
第2-12629 30	古代土師器	坪	--	(28.8)	--	--	SD111	
第2-12629 31	古代土師器	坪	在池	--	--	--	SD111	
第2-12629 32	古代土師器	製塩土器	--	--	--	--	SD111	胎土黒斑又は北九州産
第2-13021 1	土師系土器	鍋	在池	(32.2)	--	--	SA312	SK173 河野8-3期 外周スス付
第2-13022 2	青磁	鉢	中国 (福建系)	(13.0)	--	--	SA312	P137
第2-13023 3	京都市土師器	皿	在池	11.1	--	2.5	SA312	P138 3期 内周スス付 髹漆 灯明皿

第7次調査区観察表④(土器・陶磁器類)

調査No.	器種	生産地	法尺(単位cm)			器種名	備考	図録No.
			口徑	底徑	高さ			
第2-1300 4	在来土器類	洋	(12.0)	—	3.6	SA312	P140	
第2-1300 5	京都系土器類	小皿	(9.0)	—	2.4	SA312	P143 1期	
第2-1300 7	ロウロ目土器類	甕	(11.6)	6.2	2.8	SA312	P179 内外に黒染 口縁全周打ち欠き	
第2-1300 12	瓦質土器	鍋	(40.2)	—	—	SA312	P148 内野 B-2期	
第2-1300 14	白磁	中国	(15.0)	—	—	SA312	内3	
第2-131 01	青磁	中国(龍泉窯)	—	—	—	SK34	鉢蓋	
第2-131 02	青瓷	中国(龍泉窯)	(4.2)	—	—	SK34	白粉文	
第2-131 03	京都系土器類	甕	—	—	—	SK34	2期 縁線による剥離・赤変	
第2-131 04	陶器	甕	(7.2)	—	—	SK34	當代片	
第2-132 01	京都系土器類	甕	(12.0)	—	—	SK34	2期	
第2-134 01	ロウロ目土器類	甕	—	7.2	—	SK105	有状圧痕 口縁全周打ち欠き	
第2-134 02	土器類土器	燗盆	(7.8)	—	—	SK105	A2期 口縁全周打ち欠き	
第2-134 03	京都系土器類	甕	8.2	—	2.1	SK105	2期 スス付痕	
第2-135 01	横断陶器	鉢	(25.8)	—	—	SK110	—	
第2-135 01	土師器	洋	12.8	—	2.5	SK129	京都系土器類を模倣	
第2-135 03	南北朝土器類	甕	(16.8)	—	—	SK129	古墳時代 口縁部に黒染 スス付痕	
第2-135 04	瓦質土器	甕	(15.8)	—	—	SK129	A型 縁飾	
第2-137 01	在来土器類	洋	(10.8)	7.3	2.9	SK132	燗入品	
第2-137 02	在来土器類	洋	(12.8)	7.2	3.7	SK132	縁状圧痕	
第2-137 03	在来土器類	洋	(12.4)	7.4	2.4	SK132	燗入品 縁状圧痕	
第2-138 01	京都系土器類	甕	(10.1)	—	2.0	SK12	1期 スス付痕 灯明痕	
第2-138 02	京都系土器類	甕	10.7	—	2.4	SK12	1期	
第2-138 03	京都系土器類	甕	10.2	—	2.1	SK12	1期	
第2-138 04	白磁	中国	(18.0)	—	—	SK12	—	
第2-138 05	青瓷	中国(龍泉窯)	—	—	—	SK12	白粉 漆文	
第2-138 06	青瓷	中国(漳州窯)	(14.6)	—	—	SK12	白粉縁線 C群の模倣	
第2-138 07	朝鮮王朝朝陶器	碗	—	4.0	—	SK12	—	
第2-138 08	陶器	燗鉢	(26.0)	—	—	SK12	中野 6 期	
第2-138 09	瓦質土器	火鉢	—	—	—	SK12	縁り付け突帯	
第2-138 10	瓦質土器	鍋	(43.4)	—	—	SK12	内野 B-2期 外周スス付痕	
第2-138 11	瓦質土器	鍋	(34.2)	—	—	SK12	内野 B-2期 黒染スス付痕	
第2-138 12	在来土器類	洋	(11.4)	(6.6)	2.5	SK12	—	
第2-138 13	ロウロ目土器類	甕	(11.8)	6.4	2.5	SK12	—	
第2-138 14	ロウロ目土器類	特小型甕	—	—	—	SK12	ミニチュア土器	
第2-138 15	土師器土器	燗盆	(6.7)	—	—	SK12	A2期 金属「飾」を入れたものか	
第2-138 16	京都系土器類	甕	(11.4)	—	—	SK12	1期	
第2-138 17	京都系土器類	甕	(11.2)	—	2.0	SK12	1期 内面縁線による剥離	
第2-138 18	京都系土器類	甕	(12.2)	—	2.3	SK12	1期	
第2-138 19	京都系土器類	甕	(14.8)	—	2.4	SK12	1期 燗入品	
第2-138 20	京都系土器類	甕	(16.6)	—	2.0	SK12	1期 口縁部打ち欠き	
第2-138 21	京都系土器類	甕	(11.2)	—	2.0	SK12	1期	
第2-138 22	京都系土器類	甕	(12.6)	—	1.8	SK12	1期 外周縁線による赤変	
第2-138 23	京都系土器類	小皿	(8.0)	—	1.9	SK12	1期 内外スス付痕 灯明痕	
第2-138 24	京都系土器類	甕	(18.5)	—	2.0	SK12	2期 内外スス付痕	
第2-138 25	京都系土器類	甕	—	—	—	SK12	3期	
第2-138 26	土師器土器	燗盆付鉢	(17.0)	—	—	SK12	燗盆縁り付け	
第2-142 01	京都系土器類	甕	(15.6)	—	2.1	SK17	2期	
第2-142 01	ロウロ目土器類	小皿	(8.4)	(5.8)	1.8	SE19	内外に黒い黒染	
第2-142 03	青磁	中国(龍泉窯)	—	—	—	SE19	—	
第2-142 04	瓦質土器	茶釜	—	—	—	SE19	菊花文 突帯部スス付痕	
第2-142 07	白磁	中国	—	—	—	SE19	—	
第2-142 08	朝鮮王朝朝陶器	碗	(16.0)	—	—	SE19	—	
第2-142 09	瓦質土器	燗	—	—	—	SE19	—	
第2-142 10	瓦質土器	燗	(14.0)	—	—	SE19	—	
第2-142 11	在来土器類	洋	(13.0)	(9.0)	2.8	SE19	縁状圧痕 縁線による赤変	
第2-142 12	在来土器類	洋	(12.2)	(7.5)	2.1	SE19	京都系土器類を模倣 底部内面黒染	
第2-142 13	在来土器類	小皿	(9.0)	(7.8)	1.3	SE19	縁状圧痕	
第2-142 14	在来土器類	小皿	—	4.5	—	SE19	内外に黒染 スス付帯部熱	
第2-142 15	京都系土器類	甕	(12.8)	—	—	SE19	1期 内面縁線による赤変	
第2-142 16	京都系土器類	甕	(12.8)	—	2.3	SE19	2期	
第2-142 17	京都系土器類	小皿	8.4	—	1.9	SE19	1期	
第2-142 19	養生土器	甕	(14.4)	—	—	SE19	養生投筒末 笠筒付式燗口縁部	
第2-144 01	青瓷	中国(龍泉窯)	—	—	—	ST125	E群 縁飾	
第2-144 02	瓦質土器	鍋	—	—	—	ST125	内野 B-2期	
第2-144 03	瓦質土器	鍋	—	—	—	ST125	内野 B-2期	
第2-144 04	在来土器類	洋	(12.0)	(9.4)	2.3	ST125	—	
第2-144 05	在来土器類	洋	—	—	—	ST125	—	
第2-144 06	京都系土器類	甕	(13.4)	—	—	ST125	1期	
第2-144 07	京都系土器類	甕	(15.4)	—	2.3	ST125	2期 外周縁線	
第2-144 08	京都系土器類	甕	(13.2)	—	1.9	ST125	2期	
第2-144 09	京都系土器類	甕	(12.4)	—	2.7	ST125	2期	
第2-144 10	京都系土器類	小皿	(5.2)	—	0.2	ST125	—	
第2-145 01	青磁	中国(龍泉窯)	—	5.5	—	SK290	—	
第2-145 03	青瓷	中国(龍泉窯)	(11.2)	—	—	SK147	C群	
第2-145 04	在来土器類	小皿	(10.1)	(5.6)	2.1	SK147	縁飾	

第7次調査区観察表④(土器・陶器類)

発見No.	器種	生産地	位置(方位m)			遺物名	備考	記録No.	
			口数	数量	高さ				
第2-14505	京都系土師器	皿	在池	(16.0)	--	SK147	2層		
第2-14507	土製品	もつば	在池	(7.0)	--	SK147	銅付着		
第2-14508	陶器	天目輪	瀬戸黄瀬	(11.5)	(5.5)	SK179			
第2-14509	京都系土師器	皿	在池	(11.2)	--	SK179	1層 雑物による参入		
第2-14510	京都系土師器	皿	在池	10.2	-- 2.2	SK179	2層		
第2-14701	青磁	盤	中国(福建系)	(30.0)	--	SK11			
第2-14702	瓦質土器	火鉢	--	(30.4)	--	SK11			
第2-14703	京都系土師器	皿	在池	--	--	SK11	2層		
第2-14801	瓦質土器	火鉢	--	--	--	SK18	発掘調査報告文		
第2-14901	口ク口目土師器	皿	在池	(11.6)	(7.4)	2.5	SK130		
第2-14902	京都系土師器	皿	在池	--	--	SK130	1層		
第2-15101	白磁	皿	中国	(20.9)	--	SK109	緑花皿		
第2-15102	陶器	天目輪	瀬戸黄瀬	(11.9)	4.8	5.7	SK109		
第2-15103	陶器	磁鉢	備前	(29.0)	--	SK109	中世6a 類		
第2-15104	陶器	磁鉢	備前	(32.4)	--	SK109	近世1c 類 斜めすり目		
第2-15105	瓦質土器	皿	--	--	--	SK109	スタンプ文		
第2-15106	瓦質土器	磁鉢	在池	(30.0)	(14.0)	12.0	SK109	河野C-1層 ステッチカ	
第2-15107	瓦質土器	鉢	--	(29.4)	--	SK109			
第2-15108	土師器	鉢	在池	(41.2)	--	SK109	河野B 類		
第2-15109	京都系土師器	皿	在池	(12.4)	--	2.1	SK109	1層	
第2-15110	京都系土師器	皿	在池	--	--	SK109	3層 雑物による参入		
第2-15113	古代灰草器	鉢	--	(22.9)	--	SK109			
第2-15301	在池系土師器	坪	在池	12.2	7.8	3.2	SK41	緑色の磁鉢	
第2-15302	在池系土師器	坪	在池	12.5	8.0	3.0	SK41	緑色の磁鉢	
第2-15303	青磁	水注	中国(福建系)	--	--	SK41	辻が口		
第2-15304	瓦質土器	茶釜	--	(30.4)	--	SK41	外側スリ目		
第2-15305	在池系土師器	小皿	在池	--	--	SK41			
第2-15306	口ク口目土師器	皿	在池	(13.2)	--	SK41			
第2-15307	京都系土師器	皿	在池	--	--	SK41	2層		
第2-15501	青磁	皿	中国(福建系)	--	--	SK112	B-4層 遺物文		
第2-15502	白磁	皿	中国	--	(5.9)	--	SK112		
第2-15503	白磁	小坪	中国	--	(2.8)	--	SK112		
第2-15504	青花	皿	中国(景德鎮系)	(12.3)	--	SK112	E 群		
第2-15505	青花	皿	中国(景德鎮系)	(12.6)	--	SK112	F 群 鉢皿		
第2-15506	陶器	磁鉢	備前	--	--	SK112	中世6A 類		
第2-15507	陶器	磁鉢	備前	--	--	SK112	近世1層		
第2-15508	陶器	磁鉢	備前	--	--	SK112	近世1a 類 斜めすり目		
第2-15509	在池系土師器	皿	在池	--	7.0	--	SK112	口縁表面打ち欠き	
第2-15510	京都系土師器	皿	在池	(14.4)	--	SK112	2層 雑物による参入		
第2-15511	京都系土師器	皿	在池	(12.0)	--	2.3	SK112	2層	
第2-15512	京都系土師器	皿	在池	(12.6)	--	2.3	SK112	3層 雑物による参入・変形	
第2-15513	京都系土師器	皿	在池	(12.4)	--	SK112	3層 雑物による参入・変形		
第2-15514	京都系土師器	小皿	在池	(8.6)	--	1.8	SK112	3層 内側スリ目付 打明透	
第2-15516	土製品	もつば	--	--	--	SK112	内側銅付着		
第2-15517	土製品	もつば	--	--	--	SK112	内側銅付着		
第2-15518	陶文土器	漆鉢	在池	--	--	SK112	磁周 ローリングはげしい		
第2-15519	陶文土器	漆鉢	在池	--	--	SK112	磁周 ローリングはげしい		
第2-15520	古代土師器	坪	在池	--	(8.0)	--	SK112	奈良時代	
第2-15521	緑釉陶器	不明	畿内	--	(6.1)	--	SK112	古代 畿内産	
第2-15701	青花	皿	中国(景德鎮系)	(12.3)	--	SK133	E 群		
第2-15702	在池系土師器	坪	在池	(13.6)	8.8	2.2	SK133	口縁部打ち欠き	
第2-15703	土製品	もつば	在池	(4.2)	--	2.1	SK133	銅付着 雑物による参入・変形	
第2-15704	土製品	もつば	在池	--	--	SK133	京都系土師器2層目の転用 内側銅付着		
第2-15705	土製品	もつば	在池	(9.6)	--	SK133	京都系土師器2層目の転用 口縁内面に灰黄色色付目物		
第2-15901	青花	皿	中国(景德鎮系)	--	--	SK140	C又はE 群		
第2-15902	焼酎樽	鉢	中国	(18.6)	(9.4)	--	SK40	A 類 磁器モミガら	46
第2-15903	陶器	磁鉢	備前	--	--	SK40			
第2-15904	陶器	磁	備前	--	--	SK40	近世1-a 類		
第2-15905	瓦質土器	火鉢	--	--	--	SK40	磁花文		
第2-15906	瓦質土器	火鉢	--	--	(25.6)	--	SK40	磁花取り付	
第2-15907	在池系土師器	坪	在池	(14.4)	(8.4)	3.3	SK40	磁鉢	
第2-15908	在池系土師器	坪	在池	(11.4)	(7.6)	2.7	SK40		
第2-15909	在池系土師器	坪	在池	(12.2)	7.4	3.0	SK40	内側スリ目	
第2-15910	在池系土師器	小皿	在池	(7.8)	5.4	2.5	SK40		
第2-15911	京都系土師器	皿	在池	(12.0)	--	2.3	SK40	2層 内側スリ目付 長皿	
第2-15912	京都系土師器	皿	在池	(12.4)	--	2.2	SK40	2層 内外部分の異質 雑物による参入	
第2-15913	京都系土師器	小皿	在池	8.6	--	2.1	SK40	3層	
第2-15914	土師器土器	陶台	--	7.5	6.8	7.2	SK40	A2 類 管乳	48
第2-15915	古代土師器	坪	在池	(15.0)	--	SK40	奈良時代		
第2-16201	白磁	皿	中国	--	(8.1)	--	SK104	E-1層	
第2-16202	瓦質土器	鉢	--	(37.8)	--	SK104			
第2-16203	京都系土師器	皿	在池	(12.4)	--	SK104	2層		
第2-16204	白磁	鉢	中国	--	(8.3)	--	SK104		
第2-16205	陶器	磁鉢	備前	--	--	SK104	近世1層 斜めすり目		
第2-16206	在池系土師器	小皿	在池	8.0	5.8	2.0	SK104	緑色の磁鉢	

第7次調査区観察表⑤(土器・陶磁器類)

神田No.	器種	生産地	法量(単位mm)			遺物名	備考	図録No.		
			口徑	底径	胎高					
第2-16207	京都系土器類	小皿	在焼	(8.6)	—	SK104	2層	内外に黒跡か		
第2-16208	土師系土器	椀	—	(7.8)	7.0	SK104	8層	口縁金周行も欠き 大変良い		
第2-16209	青花	皿	中国(晉陽窯)	—	(11.5)	—	SK104	E群		
第2-16401	青磁	小坪	中国	—	—	SK37	16世紀後半	晉陽窯か		
第2-16402	白磁	皿	中国	(11.0)	(8.7)	2.1	SK37	E2-b群		
第2-16403	白磁	皿	中国	—	(9.0)	—	SK37	—		
第2-16404	青花	皿	中国(晉陽窯)	—	(6.4)	—	SK37	E群	高倉内「資四長命」	
第2-16405	青花	皿	中国(晉陽窯)	—	(7.3)	—	SK37	E群	—	
第2-16406	陶磁	磁	磁胎	—	—	—	SK37	中世6a 群	—	
第2-16407	陶磁	磁鉢	磁胎	(30.6)	—	—	SK37	近世10 群	斜めすり目	
第2-16408	陶磁	磁鉢	磁胎	(31.0)	(11.4)	11.5	SK37	近世16 群	磁器状況区画	斜めすり目
第2-16409	陶磁	磁鉢	磁胎	(29.4)	—	—	SK37	近世16 群	斜めすり目	—
第2-16410	瓦葺土器	茶碗	—	—	—	—	SK37	外面スリ目	—	
第2-16411	京都系土器類	皿	在焼	—	—	—	SK37	2層	—	
第2-16412	京都系土器類	小皿	在焼	(8.3)	—	1.5	SK37	2層	—	
第2-16413	京都系土器類	小皿	在焼	(8.3)	—	2.2	SK37	2層	破損による変質・割傷	
第2-16501	青花	皿	中国(揚州窯)	—	—	—	SK36	晉陽窯F群の磁胎	—	
第2-16502	青花	皿	中国	—	(3.8)	—	SK36	—	—	
第2-16503	地持陶器	鉢	中国	—	—	—	SK36	—	—	
第2-16504	京都系土器類	皿	在焼	12.2	—	2.2	SK36	2層	内面スリ目	行も欠き
第2-16505	京都系土器類	小皿	在焼	8.2	—	2.0	SK36	2層	スリ目	打明ぬ
第2-16506	土師系	おつば	在焼	—	—	—	SK36	京都系土器類1種類の使用	内面削付	
第2-16601	青磁	皿	中国(磁胎)	—	—	—	SK346	—	—	
第2-16602	白磁	小坪	中国	(6.3)	—	—	SK346	見込みは純の磁胎	—	
第2-16603	青花	盤	中国(晉陽窯)	—	—	—	SK346	—	—	
第2-16604	青花	皿	中国(晉陽窯)	—	—	—	SK346	B1 群	—	
第2-16605	青花	皿	中国(晉陽窯)	—	(8.3)	—	SK346	E 群	—	
第2-16606	青花	皿	中国(晉陽窯)	—	(6.7)	—	SK346	E 群	—	
第2-16607	青花	皿	中国(揚州窯)	—	(5.3)	—	SK346	—	—	
第2-16608	青花	皿	中国(揚州窯)	(16.8)	—	—	SK346	—	—	
第2-16609	青花	皿	中国(揚州窯)	(16.3)	—	—	SK346	磁胎	—	
第2-16610	瓦葺土器	皿	—	(10.6)	(4.6)	4.6	SK346	番倉部	高倉内すり目	
第2-16611	京都系土器類	皿	在焼	(13.5)	—	2.4	SK346	2層	磁胎	
第2-16612	京都系土器類	小皿	在焼	(6.0)	—	1.6	SK346	2層	—	
第2-16613	青磁	鉢	中国(磁胎)	—	—	—	SK114	—	—	
第2-16614	白磁	皿	中国	(11.5)	—	—	SK114	磁胎	—	
第2-16615	白磁	皿	中国	(13.9)	—	—	SK114	E-2群	—	
第2-16616	白磁	皿	中国	(12.6)	—	—	SK114	E-2群	内外ともに純の磁胎	
第2-16617	白磁	皿	中国	(14.4)	(6.3)	3.1	SK114	E-2群	—	
第2-16618	青花	皿	中国(晉陽窯)	(14.7)	—	—	SK114	E 群	磁胎心	
第2-16619	青花	皿	中国(晉陽窯)	(11.6)	—	—	SK114	E 群	磁胎心	
第2-16620	青花	皿	中国(晉陽窯)	—	(6.2)	—	SK114	E 群	磁胎心	
第2-16621	青花	皿	中国(揚州窯)	—	—	—	SK114	—	—	
第2-166210	青花	皿	中国(揚州窯)	—	—	5.5	SK114	—	—	
第2-166211	青花	皿	中国(揚州窯)	(31.3)	—	—	SK114	—	—	
第2-166212	青花	文庫	中国(揚州窯)	—	—	—	SK114	—	—	
第2-166213	地持陶器	皿	中国	—	(7.8)	—	SK114	—	—	
第2-166214	地持陶器	小皿	中国	—	(5.7)	—	SK114	重入	—	
第2-166215	地持陶器	坪	中国	10.1	5.0	—	SK114	—	—	
第2-166216	磁胎玉明成陶器	舟形	磁胎	—	(10.2)	—	SK114	—	—	
第2-166217	磁胎	磁鉢	磁胎	(34.4)	(16.6)	12.6	SK114	近世16 群	斜めすり目	
第2-166218	陶磁	磁鉢	磁胎	(12.6)	—	—	SK114	近世1 群	—	
第2-166219	陶磁	磁鉢	磁胎	—	(8.8)	—	SK114	近世16 群	—	
第2-166220	瓦葺土器	火鉢	—	—	—	—	SK114	—	—	
第2-166221	瓦葺土器	火鉢	—	—	—	—	SK114	野船原手取書文	—	
第2-166222	瓦葺土器	火鉢	—	—	—	—	SK114	書文	—	
第2-166223	瓦葺土器	火鉢	—	(22.2)	—	—	SK114	—	—	
第2-166224	瓦葺土器	磁鉢	—	—	—	—	SK114	—	—	
第2-166225	瓦葺土器	磁鉢	—	—	—	—	SK114	野船原	—	
第2-166226	瓦葺土器	鉢	在焼	—	—	—	SK114	跡目B-2群	—	
第2-166227	京都系土器類	小皿	在焼	(8.2)	—	1.7	SK114	1 群	口縁部行も欠き	スリ目
第2-166228	京都系土器類	小皿	在焼	8.5	—	2.1	SK114	2 群	—	—
第2-166229	京都系土器類	皿	在焼	(12.6)	—	2.2	SK114	2 群	スリ目	打明ぬ
第2-166230	京都系土器類	小皿	在焼	8.5	—	1.9	SK114	2 群	内外に黒跡	—
第2-166231	京都系土器類	小皿	在焼	(8.4)	—	1.9	SK114	2 群	—	—
第2-166232	京都系土器類	小皿	在焼	(10.6)	—	2.1	SK114	2 群	磁胎	—
第2-166233	京都系土器類	皿	在焼	(11.6)	—	3.0	SK114	3 群	—	—
第2-166234	京都系土器類	皿	在焼	(11.4)	—	3.1	SK114	3 群	—	—
第2-166235	京都系土器類	皿	在焼	(12.0)	—	—	SK114	3 群	—	—
第2-166236	京都系土器類	皿	在焼	(11.6)	—	2.1	SK114	3 群	—	—
第2-166243	古代煎茶器	皿	—	—	—	—	SK114	—	—	
第2-17001	白磁	碗	中国(磁胎)	—	—	—	SK127	瀬戸文	—	
第2-17002	青花	皿	中国(晉陽窯)	—	—	—	SK127	磁胎	—	
第2-17002	青花	皿	中国(揚州窯)	(12.6)	—	—	SK127	磁胎	—	
第2-17002	青花	皿	中国	(15.0)	—	—	SK127	B 群	—	



第7次調査区観察表⑥(土器・陶磁器類)

発見No.	品名	生産地	位置(単位m)			遺物名	備考	図面No.	
			口徑	底径	高さ				
第2-17005	陶器	濠前	--	--	--	SK127	中世5層		
第2-17006	陶器	濠前	--	(10.2)	--	SK127	中世6層		
第2-17007	陶器	濠前	--	--	--	SK127	中世9層		
第2-17008	瓦質土器	火鉢	--	--	--	SK127	原始期手置器文 内外に黒刷		
第2-17009	瓦質土器	火鉢	--	(36.2)	--	SK127	原始期手置器文		
第2-170010	瓦質土器	火鉢	--	--	--	SK127	器文		
第2-170011	京橋系土師器	皿	空地	(13.4)	--	SK127	2層 内面黒刷		
第2-170012	京橋系土師器	皿	空地	(12.8)	--	SK127	2層		
第2-170013	京橋系土師器	皿	空地	(12.6)	--	SK127	2層		
第2-170016	弥生土器	鉢	--	--	7.6	SK127	前期		
第2-170017	古代遺物	鉢	--	--	(11.1)	SK127			
第2-17101	青花	皿	中国(景德鎮)	(10.9)	(6.7)	2.1	SK130	E群	
第2-17102	陶器	濠前	--	--	(15.0)	--	SK130	透世1b層 斜めすり目	
第2-17103	土製品	もつば	--	--	--	--	SK130	内面鉄付目	
第2-17104	弥生土器	皿	--	--	--	--	SK130	中世 下城式 磁胎による華変	
第2-17301	青花	皿	中国(景德鎮)	(11.3)	--	--	SK136	E群	
第2-17302	青花	皿	中国(漳州)	(11.5)	--	--	SK136	貫入	
第2-17303	陶器	天目碗	瀬戸島田	(11.3)	(5.5)	--	SK136		
第2-17304	陶器	濠前	瀬戸島田	(22.2)	--	--	SK136		
第2-17305	陶器	濠前	瀬戸島田	(33.0)	--	--	SK136	中世物 皿	
第2-17306	陶器	濠前(片口)	瀬戸島田	--	--	--	SK136	中世物 皿	
第2-17307	瓦質土器	火鉢	--	(30.6)	--	--	SK136	原始期手置器文	
第2-17308	瓦質土器	火鉢	--	(36.2)	--	--	SK136	原始期手置器文	
第2-17309	瓦質土器	火鉢	--	(31.2)	--	--	SK136	原始期手置器文	
第2-173010	瓦質土器	鉢	--	--	--	--	SK136	ステンプ文	
第2-173011	瓦質土器	鉢	空地	--	--	--	SK136	汚野 B-2層	
第2-173012	京橋系土師器	皿	--	(13.0)	--	2.3	SK136	2層	
第2-173013	京橋系土師器	皿	空地	(13.4)	--	2.1	SK136	2層	
第2-173014	京橋系土師器	皿	空地	(12.2)	--	2.5	SK136	3層	
第2-173015	京橋系土師器	小皿	空地	(4.8)	--	1.4	SK136		
第2-173016	土製品	もつば	空地	--	--	--	SK136	京橋系土師器2層目の転用 内面に付替物	
第2-173017	土製品	もつば	空地	--	--	--	SK136	京橋系土師器2層目の転用	
第2-173018	土製品	もつば	--	(5.4)	--	--	SK136	口縁部鉄付目	
第2-17501	青磁	皿	中国(慶雲宮)	--	(7.7)	--	SK126	墓室の打ち欠き 加工品か	
第2-17502	青磁	皿	中国(慶雲宮)	(15.0)	--	--	SK126	C-II層	
第2-17503	青磁	皿	中国	(12.0)	(6.2)	--	SK126	E-2群	
第2-17504	青磁	皿	中国	(13.0)	(7.1)	--	SK126	内面黒刷	
第2-17505	青花	皿	中国(景德鎮)	(14.0)	(7.6)	2.9	SK126	E群	
第2-17506	青花	皿	中国(景德鎮)	(14.4)	--	--	SK126	E群	
第2-17507	青花	小皿	中国(景德鎮)	(10.5)	--	--	SK126	B群	
第2-17508	瓦質土器	皿	中国	--	--	--	SK126		
第2-17509	青花	皿	中国(漳州)	--	--	--	SK126		
第2-175010	青花	皿	中国(漳州)	(10.0)	(2.9)	2.4	SK126	原始期土師器C群後部 墓陪成	
第2-175011	青花	皿	中国(漳州)	--	(4.4)	--	SK126	原始期土師器C群後部 墓陪成	
第2-175012	朝鮮瓦磁器陶器	皿	朝鮮	--	--	--	SK126		
第2-175013	陶器	濠前	瀬戸島田	(20.8)	--	--	SK126	中世9層	
第2-175014	陶器	濠前	瀬戸島田	(25.6)	(14.0)	10.3	SK126	中世9層 スス付目	
第2-175015	陶器	濠前	瀬戸島田	--	--	--	SK126		
第2-175016	瓦質土器	皿	空地	(53.2)	--	--	SK126	胎土黒刷	
第2-175017	空地系土師器	皿	空地	(12.2)	(8.4)	2.2	SK126	京橋系土師器後部	
第2-175018	瓦質土器	火鉢	--	(30.6)	--	--	SK126	原始期手置器文	
第2-175019	瓦質土器	火鉢	--	(32.2)	--	--	SK126	器文	
第2-175020	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SK126	器文	
第2-175021	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SK126	器文	
第2-175022	瓦質土器	濠前	--	(23.0)	--	--	SK126		
第2-175023	瓦質土器	火鉢	--	--	(35.6)	--	SK126		
第2-175024	空地系土師器	鉢	空地	12.0	6.8	2.1	SK126		
第2-175025	京橋系土師器	皿	空地	(10.6)	--	2.2	SK126	1層	
第2-175026	京橋系土師器	皿	空地	(12.6)	--	2.4	SK126	2層	
第2-175027	京橋系土師器	皿	空地	(10.2)	--	2.3	SK126	2層 内外スス付目	
第2-175028	京橋系土師器	皿	空地	(11.8)	--	2.2	SK126	2層	
第2-175029	京橋系土師器	皿	空地	(12.8)	--	--	SK126	2層	
第2-175030	京橋系土師器	小皿	空地	8.6	--	1.9	SK126	2層	
第2-175031	京橋系土師器	小皿	空地	(9.2)	--	1.9	SK126	2層 磁室の磁鉢	
第2-175032	土製品	もつば	空地	(8.2)	--	2.3	SK126	京橋系土師器2層小皿の転用 内面に付替物	
第2-175033	京橋系土師器	皿	空地	(10.0)	--	--	SK126	3層	
第2-175034	京橋系土師器	皿	空地	(13.0)	--	1.9	SK126	3層	
第2-175035	土師瓦土器	甕	--	--	(7.7)	7.3	SK126	B層	
第2-175042	土製品	もつば	--	(9.6)	--	--	SK126	内面鉄付目	
第2-175043	土製品	もつば	空地	--	--	--	SK126	京橋系土師器1層目の転用 内面鉄付目	
第2-175044	土製品	もつば	空地	(9.0)	--	--	SK126	京橋系土師器1層目の転用	
第2-175045	土製品	もつば	空地	--	--	--	SK126	京橋系土師器1層目の転用 内面に付替物	
第2-175046	土製品	もつば	空地	--	--	--	SK126	京橋系土師器1層目の転用 内面鉄付目	
第2-175047	緑地陶器	皿	--	--	--	--	SK126	古代	
第2-17701	青花	鉢	中国(漳州)	(14.0)	--	--	SK128		

第7次調査区観察表⑩(土器・陶磁器類)

探検No.	器 種	生産地	通量(単位cm)			通 名	備 考	図録 No.	
			口徑	底径	脚高				
第2-17702	瓦質土器	火鉢	—	(40.6)	—	SK128	内面灰質		
第2-17703	瓦質土器	燈鉢	在場	(24.0)	—	SK128			
第2-17704	瓦質土器	火鉢	—	(41.2)	—	SK128	高台形付付け		
第2-17705	在場系土器類	坪	在場	(12.4)	(8.4)	2.9	SK128	打ち文目	
第2-17706	在場系土器類	小皿	在場	8.2	5.8	2.1	SK128	内外スス付 灯明面 打ち文目	
第2-17707	在場系土器類	小皿	在場	9.0	5.4	1.8	SK128	底状灰質	
第2-17708	在場系土器類	小皿	在場	(8.6)	—	—	SK128	1層 内面スス付 灯明面	
第2-17709	在場系土器類	皿	在場	(13.2)	—	2.6	SK128	2層 内面スス付	
第2-17710	在場系土器類	皿	在場	(13.4)	—	2.4	SK128	2層 破砕	
第2-17711	在場系土器類	皿	在場	(12.6)	—	—	SK128	2層 破砕による赤変	
第2-17712	在場系土器類	小皿	在場	(8.6)	—	1.9	SK128	2層 内外スス付 灯明面	
第2-17713	在場系土器類	小皿	在場	9.0	—	2.1	SK128	2層 口縁スス付 灯明面 破砕による赤変	
第2-18001	青磁	鉢	中国(福建)	—	—	—	SE108	縁線赤文	
第2-18002	青磁	大皿	中国	31.0	17.3	—	SE108		
第2-18003	青磁	鉢	中国(福建)	12.8	—	—	SE108		
第2-18004	白磁	皿	中国	—	7.3	—	SE108	E群	
第2-18005	白磁	小坪	中国	—	3.1	—	SE108		
第2-18006	青花	皿	中国(景德鎮)	6.6	—	—	SE108	E群	
第2-18007	五彩	鉢	中国	—	—	—	SE108		
第2-18008	陶磁	天音鐘	中国	10.2	—	—	SE108		
第2-18009	磁南三彩	合子	中国	5.8	—	1.8	SE108	皿	
第2-18010	陶磁	器	朝鮮	9.2	—	—	SE108		
第2-18011	陶磁	漆鉢	朝鮮	35.6	—	—	SE108	中世6層	
第2-18012	瓦質土器	火鉢	—	34.6	—	—	SE108	管文	
第2-18013	瓦質土器	火鉢	—	44.0	—	—	SE108	スタンブ文	
第2-18014	瓦質土器	漆鉢	—	27.0	10.8	6.0	SE108		
第2-18015	口フ口目土器類	皿	在場	10.4	5.8	1.8	SE108		
第2-18016	口フ口目土器類	小皿	在場	8.8	5.4	1.6	SE108	蓋物	
第2-18017	在場系土器類	皿	在場	15.0	—	—	SE108	3層	
第2-18018	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SE108	もつばか?	
第2-18020	青磁	鉢	中国(福建)	16.1	—	—	SE108併用内	B2層 縁線赤文	
第2-18021	青磁	鉢	中国(福建)	13.0	—	—	SE108併用内		
第2-18022	瓦質土器	火鉢	—	34.8	—	—	SE108併用内	管文	
第2-18023	青花	鉢	中国(景德鎮)	13.2	—	—	SE108併用内	C群	
第2-18024	瓦質土器	鉢	—	48.4	—	—	SE108併用内		
第2-18025	在場系土器類	皿	在場	12.6	—	—	SE108併用内	2層	
第2-18028	漆器	鉢	—	—	7.4	—	SE108併用内	見込み「井」の赤文字	
第2-18029	青磁	鉢	中国	13.0	—	—	SE108	C-10層	
第2-18030	青花	鉢	中国(景德鎮)	—	5.8	—	SE108	C群 縁線?	
第2-18031	青花	鉢	中国(景德鎮)	—	5.2	—	SE108	D群	
第2-18032	青花	皿	中国(景德鎮)	—	—	—	SE108	内面	
第2-18033	陶磁	漆鉢	朝鮮	—	—	—	SE108	中世5層	
第2-18034	青磁	皿	中国(福建)	—	7.5	—	SE331		
第2-18035	青磁	鉢	中国(福建)	11.7	—	—	SE331	B-9層 縁線赤文	
第2-18036	青磁	皿	中国	—	—	—	SE331	C10	
第2-18037	青磁	皿	中国	13.4	—	—	SE331	E-2層 縁取り 内面にスス付	
第2-18038	青磁	皿	中国	—	—	—	SE331	E-2層 縁取り	
第2-18039	青磁	皿	中国	—	8.2	—	SE331	E-2層 縁取り	
第2-18040	青磁	皿	中国	—	8.2	—	SE331	E-2層 縁取り	
第2-18041	青磁	小坪	中国	7.0	—	—	SE331	内面無飾	
第2-18042	青磁	鉢	中国(福建)	—	—	—	SE331	C-10層	
第2-18043	青花	鉢	中国(景德鎮)	12.2	—	—	SE331	C群	
第2-18044	青花	鉢	中国(景德鎮)	—	5.4	—	SE331	C群	
第2-18045	青花	皿	中国(景德鎮)	—	—	—	SE331	C群	
第2-18046	青花	皿	中国(景德鎮)	9.2	4.7	2.0	SE331	B1層 縁取り	
第2-18047	青花	皿	中国(景德鎮)	20.0	—	—	SE331	E群	
第2-18048	磁釉陶器	不明	中国	12.4	—	—	SE331		
第2-18049	磁釉陶器	皿	中国	15.0	—	—	SE331		
第2-18050	陶磁	天目碗	瀬戸内海	9.4	—	—	SE331		
第2-18051	陶磁	香炉	畿内	—	4.6	—	SE331		
第2-18052	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SE331		
第2-18053	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SE331	管文	
第2-18054	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SE331		
第2-18055	瓦質土器	漆鉢	—	26.3	—	—	SE331		
第2-18056	瓦質土器	鉢	—	37.0	—	—	SE331		
第2-18057	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SE331		
第2-18058	瓦質土器	大鉢	—	—	15.8	—	SE331		
第2-18059	在場系土器類	坪	在場	13.0	6.6	4.3	SE331		
第2-18060	口フ口目土器類	小皿	在場	9.8	6.4	2.1	SE331	縁線に縁線	
第2-18061	在場系土器類	皿	在場	10.6	—	2.3	SE331	1層 縁線に縁線	
第2-18062	在場系土器類	皿	在場	17.0	—	2.2	SE331	2層	
第2-18063	在場系土器類	皿	在場	11.8	—	2.6	SE331	2層	
第2-18064	在場系土器類	大皿	在場	20.2	—	3.2	SE331	3層 灯明面 内面にスス付	
第2-18065	在場系土器類	皿	在場	10.6	—	3.2	SE331	3層 破砕による赤変と刷毛	

第7次調査区観察表⑥（土器・陶磁器類）

検出No.	種類	産地	数量(単位個)			遺物名	備考	国庫No.	
			口数	底数	底高				
検2-182941	白磁	唐	11.0	--	--	SE331 井筒内	E-4群 菊花蓋		
検2-182942	瓦質土器	唐	--	--	--	SE331 井筒内			
検2-182943	京都系土師器	唐	12.6	--	2.6	SE331 井筒内	3期		
検2-182945	瓦胎陶器	唐	--	11.3	--	SE331			
検2-182946	青花	唐	11.2	5.5	3.5	SE331	香炉蓋 C群 磁器 香爐底		
検2-182947	陶器	唐	32.0	10.6	13.3	SE331	近世1b層 斜めすり目		
検2-182948	瓦質土器	唐	--	25.1	--	SE331			
検2-182949	瓦質土器	唐	--	34.0	--	SE331	植物による彫刻		
検2-182950	瓦質土器	唐	--	13.0	--	SE331	加土海胆殻		
検2-182951	瓦質土器	火鉢	--	23.2	--	SE331			
検2-182952	瓦質土器	火鉢	--	30.2	--	SE331	底部内面にスス付		
検2-182953	瓦質土器	鉢	--	35.4	--	SE331			
検2-182956	吉代土師器	唐	--	11.0	--	SE331	香炉式		
検2-18391	青花	唐	中国(香炉蓋)	--	5.8	SK35	C群		
検2-18392	緑釉陶器	唐	--	4.5	--	SK35			
検2-18393	京都系土師器	唐	在池	11.0	--	S145	3期 灯明籠 口縁部にスス付		
検2-18501	青花	唐	中国(香炉蓋)	10.0	4.0	2.8	SK146	C群 香爐底	47
検2-18502	青花	唐	中国(香炉蓋)	12.4	4.6	5.8	SK146	C群 底部外面にのみスス付	47
検2-18503	陶器	天目碗	瀬戸奥田	9.7	--	--	SK146		
検2-18504	瓦質土器	火鉢	--	--	--	SK146	スタンプ文		
検2-18505	瓦質土器	鉢	--	11.2	--	SK146	底部に磁化痕		
検2-18506	瓦質土器	鉢	--	37.6	--	SK146	内面に黒線、外面にスス付		
検2-18507	瓦質土器	鉢	--	--	--	SK146			
検2-18508	土師系土器	鉢	在池	--	--	SK146			
検2-18509	在池系土師器	小皿	在池	6.3	6.6	2.0	SK146	底部磁系帯り磁化痕	
検2-185010	京都系土師器	唐	在池	13.0	--	SK146	2期 植物による彫刻		
検2-185011	京都系土師器	唐	在池	12.0	--	SK146	2期		
検2-185012	京都系土師器	唐	在池	11.8	--	SK146	2期		
検2-185013	京都系土師器	唐	在池	13.2	--	SK146	3期		
検2-18701	京都系土師器	唐	在池	8.9	--	2.1	SK13	2期	
検2-18702	京都系土師器	唐	在池	12.5	--	2.6	SK13	3期	
検2-18703	京都系土師器	唐	在池	11.1	--	3.5	SK13	3期	
検2-18704	白磁	唐	中国	10.0	3.0	2.8	SK13	E4群 菊花蓋 足込みは他の白磁製	
検2-18705	瓦質土器	火鉢	--	--	--	SK13	管文 口唇部にスス付		
検2-18706	京都系土師器	唐	在池	13.4	--	3.6	SK13	3期	
検2-18901	京都系土師器	小皿	在池	9.6	--	--	SK347	1期	
検2-18902	陶器	鉢	藤岡	--	--	SK347	10世紀末～17世紀初期		
検2-18904	吉代土師器	唐	在池	13.5	--	--	SK347	磁胎	
検2-189011	白磁	鉢	中国	--	--	SK22	12～13C		
検2-189021	陶器	磁	唐	--	--	SK22	1600年前後		
検2-19001	青花	唐	中国(香炉蓋)	--	5.6	--	SK106	B1群 底部外面に砂付	
検2-19002	京都系土師器	唐	在池	14.0	--	--	SK106	3～4期	
検2-19003	土師系	きつば	在池	--	--	--	SK106	京都系土師器 3期底を転用	
検2-19201	白磁	唐	中国(香炉蓋)	--	7.0	--	SK44		
検2-19202	白磁	唐	中国	13.1	--	--	SK44		
検2-19203	青花	唐	中国(香炉蓋)	--	--	--	SK44		
検2-19204	陶器	磁胎	藤岡	--	--	--	SK44	中世3期	
検2-19205	陶器	磁胎	藤岡	30.9	--	--	SK44	近世1b層 斜めすり目	
検2-19206	陶器	磁胎	藤岡	30.6	13.4	11.2	SK44	近世1c層 斜めすり目	
検2-19207	瓦質土器	小皿	--	9.2	--	--	SK44		
検2-19208	瓦質土器	火鉢	--	30.2	--	--	SK44		
検2-19209	瓦質土器	火鉢	--	29.8	--	--	SK44	外面に黒線	
検2-192010	瓦質土器	鉢	--	--	--	--	SK44		
検2-192011	瓦質土器	鉢	在池	--	--	--	SK44	外面にスス付	
検2-192012	瓦質土器	鉢	--	33.0	--	--	SK44		
検2-192013	瓦質土器	鉢	--	--	--	--	SK44		
検2-19401	白磁	唐	中国(香炉蓋)	--	4.2	--	SK45		
検2-19402	青花	唐	中国(香炉蓋)	--	--	--	SK45	B1群 磁反り	
検2-19403	瓦胎陶器	唐	中国	14.2	--	--	SK45		
検2-19404	朝鮮玉明器陶器	角地利	朝鮮	--	10.4	--	SK45	検2-19404と同一個体	
検2-19405	朝鮮玉明器陶器	角地利	朝鮮	--	--	--	SK45	検2-19404と同一個体	
検2-19406	瓦質土器	唐	--	16.0	--	--	SK45	外面にスス付	
検2-19407	京都系土師器	唐	在池	--	--	--	SK45	金釘行文文書	
検2-19408	京都系土師器	唐	在池	13.0	--	2.9	SK45	4期 灯明籠 植物による彫刻	
検2-19501	白磁	唐	中国	15.4	--	--	SD332	E2群	
検2-19502	青花	唐	中国(香炉蓋)	12.6	--	--	SD332	D群	
検2-19503	青花	唐	中国(香炉蓋)	--	--	--	SD332	E群 植物心	
検2-19504	青花	唐	中国(香炉蓋)	--	--	--	SD332	E群	
検2-19505	青花	唐	中国(香炉蓋)	10.0	--	--	SD332	E群 脚	
検2-19506	青花	唐	中国(香炉蓋)	--	--	--	SD332	F群 扉面	
検2-19507	陶器	天目碗	瀬戸奥田	10.5	--	--	SD332		
検2-19508	土師系土師器	陶台	在池	--	5.0	--	SD332	A2群	
検2-19701	青花	唐	中国(香炉蓋)	11.2	5.0	2.7	SK140	C群 香爐底	
検2-19702	瓦胎陶器	唐	中国	5.0	--	3.3	SK140	16世紀後半	
検2-19703	陶器	天目碗	瀬戸奥田	10.8	--	--	SK140		

第7次調査区観察表⑨(土器・陶磁器類)

押印No.	器種	生産地	法量(単位cm)			通称名	備考	図録No.
			口径	底径	高さ			
第2-15702 4	陶鉢	焼	瀬戸美濃	6.4	--	SK140	全周打文書	
第2-15702 5	陶鉢	焼	瀬戸美濃	6.0	--	SK140		
第2-15702 6	陶鉢	焼	尾津	11.4	--	SK140	1600~1630年	
第2-15702 7	陶鉢	焼	焼前	--	--	SK140	近世1層	
第2-15702 8	陶鉢	焼	焼前	33.8	--	SK140	中世6層	
第2-15702 9	陶鉢	焼	焼前	--	--	SK140	中世6層	
第2-15702 10	陶鉢	焼	焼前	27.2	13.4	10.4	SK140	近世16層 斜めすり目
第2-15702 11	瓦質土器	焼	山口	--	--	SK140	防鳥蓋	
第2-15702 12	瓦質土器	焼	--	30.0	--	SK140		
第2-15702 13	瓦質土器	火鉢	在焼	--	--	SK140	筒形内型 羽織帯手取蓋文	
第2-15702 14	瓦質土器	火鉢	--	--	--	SK140		
第2-15702 15	京都系土器類	小皿	在焼	8.2	--	SK140	2層	
第2-15702 16	京都系土器類	皿	在焼	--	--	SK140	4層	
第2-15702 17	土師質土器	燗合	在焼	8.6	--	6.0	SK140	A2層 受け筋にスス付物
第2-15702 23	弥生土器	器	在焼	--	--	SK140	焼通	
第2-19802 1	白磁	器	中国	10.6	--	SK141	E-2層	
第2-19802 2	青花	碗	中国(景德鎮)	10.2	--	SK141	C群	
第2-19802 3	青花	碗	中国(景德鎮)	14.2	--	SK141	C群	
第2-19802 4	青花	皿	中国(景德鎮)	--	15.0	--	SK141	B1群
第2-19802 5	青花	皿	中国(景德鎮)	--	7.2	--	SK141	E群
第2-19802 6	陶器	器	焼前	--	13.6	--	SK141	
第2-19802 7	陶器	膳鉢(片口)	焼前	29.2	--	--	SK141	近世1層 斜めすり目
第2-19802 8	瓦質土器	茶碗	--	27.2	--	--	SK141	スス付物
第2-19802 9	瓦質土器	鉢	--	37.6	--	--	SK141	
第2-19802 10	瓦質土器	鉢	--	31.6	--	--	SK141	焼跡による割傷
第2-19802 11	瓦質土器	鉢	--	31.8	--	--	SK141	
第2-19802 12	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	SK141	底面に嵌状圧痕
第2-19802 13	瓦質土器	火鉢	--	--	12.8	--	SK141	
第2-19802 14	瓦質土器	火鉢	--	32.0	21.2	9.7	SK141	
第2-19802 15	瓦質土器	台付鉢	--	--	16.6	--	SK141	
第2-19802 16	瓦質土器	鉢	--	40.4	--	--	SK141	
第2-19802 17	在地系土器類	杯	在焼	17.0	10.0	3.1	SK141	
第2-19802 18	在地系土器類	杯	在焼	12.4	7.8	2.7	SK141	
第2-19802 19	ロク口目土器類	皿	在焼	11.6	6.4	2.4	SK141	底縁部斜め切り地嵌状圧痕 焼跡
第2-19802 20	ロク口目土器類	小皿	在焼	5.7	3.2	1.4	SK141	灯明皿 口縁部にスス付物
第2-19802 21	京都系土器類	皿	在焼	11.6	--	2.2	SK141	2層
第2-19802 22	京都系土器類	皿	在焼	12.6	--	--	SK141	3層 焼跡による変変
第2-20002 1	在地系土器類	皿	在焼	10.6	4.6	2.3	SK20	外器スス付物 焼跡による変変
第2-20002 2	天目織	瀬戸美濃	11.0	--	--	SK105		
第2-20002 4	在地系土器類	杯	在焼	--	--	SK102		
第2-20002 5	在地系土器類	小皿	在焼	8.2	6.8	1.3	SK102	
第2-20002 7	ロク口目土器類	皿	在焼	--	6.0	--	SK101	
第2-20102 1	青花	碗	中国(漳州)	--	4.8	--	E地区土器	
第2-20102 2	京都系土器類	皿	在焼	10.8	--	2.2	E地区土器	1層 焼跡による変変
第2-20102 3	土師系	おつば	在焼	--	--	--	E地区土器	京都系土器類1層小皿を転用 内面割付物
第2-20102 4	白磁	碗	中国	12.7	--	--	E地区土器	16世紀
第2-20102 5	青花	碗	中国(漳州)	--	5.6	--	E地区土器	
第2-20102 6	青花	碗	中国(景德鎮)	12.1	--	--	E地区土器	E群 縁部心
第2-20102 7	青花	碗	中国(漳州)	--	5.2	--	E地区土器	
第2-20102 8	土師系	おつば	在焼	--	--	--	E地区土器	
第2-20102 9	白磁	碗	中国	12.0	--	--	D地区土器	京都系土器類1層小皿を転用 内面割付物
第2-20102 10	白磁	碗	中国	--	--	--	D地区土器	E-2群
第2-20102 11	青花	皿	中国(景德鎮)	--	--	--	D地区土器	E-2群
第2-20102 12	青花	皿	中国(景德鎮)	--	9.0	--	D地区土器	E群 焼跡
第2-20102 13	青花	皿	高足坪	8.7	--	--	D地区土器	
第2-20102 15	五代土器類	器	在焼	26.0	--	--	器類	
第2-20102 16	五代土器類	皿	在焼	16.0	13.0	--	器類	奈良時代 縁部の焼跡
第2-20102 17	五代土器類	皿	在焼	15.8	--	--	器類	奈良時代
第2-20102 18	伊賀	香伊	中国(福泉)	--	--	--	器類	三重の香伊
第2-20102 19	伊賀	碗	中国(福泉)	16.3	--	--	器類	伊賀 縁部焼跡
第2-20102 20	伊賀	碗	中国(景德鎮)	--	--	--	器類	E群
第2-20102 21	伊賀	碗	中国(景德鎮)	--	13.9	--	器類	E群 外面底面に砂付物
第2-20102 22	伊賀	皿	中国(景德鎮)	--	--	--	器類	F群 割傷
第2-20102 23	伊賀	大皿	中国(漳州)	--	13.1	--	器類	高台にもみ殻
第2-20102 24	伊賀	碗	中国(漳州)	13.2	--	--	器類	
第2-20102 25	伊賀	皿	中国(漳州)	--	--	--	器類	
第2-20102 26	伊賀	碗	中国(漳州)	11.9	--	--	器類	
第2-20102 27	伊賀	皿	中国(漳州)	12.9	8.1	3.4	器類	
第2-20102 28	伊賀陶器	小皿	中国	--	--	--	器類	
第2-20102 29	陶器	天目織	瀬戸美濃	12.1	--	--	器類	
第2-20102 30	陶器	天目織	瀬戸美濃	11.1	--	--	器類	焼跡
第2-20102 31	陶器	皿	瀬戸美濃	11.4	--	--	器類	
第2-20102 32	陶器	膳鉢	焼前	--	--	--	器類	中世加群
第2-20102 33	瓦質土器	火鉢	--	--	--	--	器類	蓋文
第2-20102 34	瓦器	碗	--	16.2	7.4	6.1	器類	底面凹型

第7次調査区観察表④(土器・陶磁器類)

探跡No.	遺物	生産地	法量(原寸mm)			遺物名	備 考	図録No.
			口徑	底径	高さ			
探2-20125	瓦質土器	焼	—	11.6	5.7	3.7	破鉢	
探2-20126	灰地系土師器	坪	直地	11.9	7.6	3.5	草履	
探2-20137	灰地系土師器	坪	直地	10.8	7.4	3.0	草履	外周にスス付 破鉢
探2-20138	ロウロ目土師器	小皿	直地	8.8	5.3	1.8	草履	
探2-20139	土師質土器	燗台	—	—	5.8	—	草履	跡土角部産
探2-20140	土師器	壺つぼ	直地	—	—	—	草履	宮部系土師器1期産と推定 内周削付
探2-20141	土師器	壺つぼ	直地	—	—	—	草履	宮部系土師器1期産と推定 内周削付
探2-20142	土師器	壺つぼ	直地	11.8	—	—	草履	宮部系土師器2期産と推定 付着物あり
探2-20143	土師器	壺つぼ	直地	—	—	—	草履	宮部系土師器2期産と推定 内周削付
探2-20144	土師器	壺つぼ	直地	—	—	—	草履	宮部系土師器2期産と推定 内周削付
探2-20145	土師器	壺つぼ	直地	—	—	—	草履	宮部系土師器2期産と推定 内周削付
探2-20148	土師器	壺つぼ	直地	—	—	—	草履	宮部系土師器2期産と推定 内周削付
探2-20201	緑釉陶器	甕	中国(福建)	—	—	—	甕	
探2-20202	青磁	甕	中国(福州)	—	—	5.2	甕	
探2-20203	朝鮮王城産陶器	甕	朝鮮	9.0	3.1	4.2	甕	跡土角 灰釉 口縁部にスス付 灯明皿
探2-20204	青代土師器	甕	直地	21.2	—	—	A地区	古坟時代中頃
探2-20601	ロウロ目土師器	皿	直地	—	7.0	—	SK163	
探2-20701	青磁	甕	中国(福建)	11.1	4.4	2.6	SK227	破草履 足込みに破の青物刺す
探2-20702	朝鮮王城産陶器	甕	朝鮮	—	—	—	SK227	足込みに砂目
探2-20703	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK227	破鉢
探2-20704	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	SK227	青花文
探2-20801	陶器	燗鉢(片口)	甕形	30.6	14.4	10.6	SK277	中巻6期
探2-20802	瓦質土器	燗鉢	—	—	—	—	SK277	
探2-20803	灰地系土師器	小皿	直地	7.8	5.0	2.2	SK277	
探2-20901	青磁	甕	中国(福建)	12.0	—	—	SK278	鍋蓋 甕A型
探2-20902	ロウロ目土師器	小皿	直地	9.4	5.8	1.9	SK278	
探2-21201	灰地系土師器	坪	直地	11.7	8.0	3.5	SK276	底面に磨粒赤切り痕状圧痕
探2-21202	灰地系土師器	小皿	直地	7.0	3.8	2.5	SK276	
探2-21203	陶器	燗鉢	甕形	—	—	—	SK276	中巻6期
探2-21204	灰地系土師器	皿	直地	13.8	5.6	2.8	SK276	
探2-21205	灰地系土師器	小皿	直地	3.5	2.8	1.6	SK276	ミニチュア土器
探2-21301	土師器	小皿	—	5.8	4.6	0.9	SK261	大内系
探2-21302	ロウロ目土師器	皿	直地	17.4	8.8	4.0	SK261	破状圧痕
探2-21401	陶器	燗鉢	甕形	—	—	—	SK268	中巻3期
探2-21402	ロウロ目土師器	小皿	直地	6.8	4.0	2.0	SK268	灯明皿 口縁部にスス付
探2-21501	陶器	燗鉢(片口)	甕形	28.2	13.2	12.7	SK249	中巻6期
探2-21701	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK255	
探2-21702	ロウロ目土師器	皿	直地	—	5.2	—	SK255	
探2-21703	土師器	皿	—	—	6.0	—	SK255	大内系 破状圧痕
探2-21801	瓦質土器	甕	—	10.8	—	—	SK242	
探2-21802	ロウロ目土師器	皿	直地	11.4	5.2	2.9	SK242	
探2-22001	ロウロ目土師器	皿	直地	—	7.2	—	SK232	
探2-22301	青磁	皿	中国(福建)	10.7	4.2	—	SK263	破花瓶
探2-22302	青磁	皿	中国(福建)	15.1	—	—	SK263	破花瓶
探2-22303	陶器	天目鉢	中国	—	—	—	SK263	鉢を2産出
探2-22304	陶器	甕	甕形	—	—	—	SK263	中巻5期
探2-22305	瓦質土器	黒伊	—	—	—	—	SK263	青花文
探2-22306	瓦質土器	火鉢	—	—	29.2	—	SK263	鉢
探2-22307	瓦質土器	甕	—	11.2	—	—	SK263	
探2-22308	瓦質土器	鉢	—	28.6	—	—	SK263	
探2-22309	灰地系土師器	皿	直地	11.2	5.0	2.8	SK263	
探2-223010	灰地系土師器	小皿	直地	7.4	4.8	1.6	SK263	
探2-223011	灰地系土師器	小皿	直地	8.0	3.5	2.3	SK263	
探2-223012	ロウロ目土師器	坪	直地	11.7	3.0	5.3	SK263	
探2-223013	ロウロ目土師器	皿	直地	12.2	7.0	2.5	SK263	破状圧痕
探2-223014	ロウロ目土師器	皿	直地	12.0	7.0	2.3	SK263	破状圧痕
探2-223015	ロウロ目土師器	小皿	直地	7.8	4.4	2.0	SK263	破鉢
探2-223017	青代土師器	高坪	直地	—	4.8	—	SK263	
探2-22401	陶器	燗鉢	甕形	28.0	—	—	SK225	中巻5期
探2-22402	瓦質土器	鉢	直地	38.4	—	—	SK225	内周にへら跡
探2-22601	青磁	皿	中国(福建)	—	5.2	—	SK211	破鉢で高さが変色
探2-22602	陶器	小甕	中国	5.1	—	—	SK211	
探2-22603	朝鮮王城産陶器	甕	朝鮮	—	—	—	SK211	
探2-22604	瓦質土器	火鉢	直地	34.4	—	—	SK211	青花文
探2-22605	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK211	
探2-22606	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK211	
探2-22607	灰地系土師器	坪	直地	13.0	2.6	6.0	SK211	
探2-22608	灰地系土師器	坪	直地	—	7.0	—	SK211	
探2-22609	灰地系土師器	小皿	直地	7.6	3.0	2.5	SK211	
探2-226010	灰地系土師器	小皿	直地	5.6	5.6	2.2	SK211	灯明皿 口縁部にスス付
探2-226011	灰地系土師器	小皿	直地	3.6	2.2	1.6	SK211	ミニチュア土器
探2-226012	ロウロ目土師器	皿	直地	12.0	6.6	2.6	SK211	破状圧痕
探2-226013	ロウロ目土師器	小皿	直地	8.6	5.0	1.9	SK211	破状圧痕
探2-226031	陶器	厚坪	—	12.3	—	—	SK211	薄緑色 砂目 1000~1630年
探2-226032	宮部系土師器	皿	直地	12.4	—	2.3	SK211	2期

第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

検出No.	器種	生産地	法長(単位cm)			遺構名	備考	図面No.	
			口徑	高さ	器底				
第2-22801	瓦質土器	火鉢	—	—	—	SK229	菊花文		
第2-22802	瓦質土器	火鉢	—	—	—	SK229	霞文		
第2-22803	口口目土師器	甕	37.6	—	—	SK229	口縁部にスス付着 灯明皿		
第2-22901	口口目土師器	甕	12.5	6.8	2.5	SK267	横状瓦葺		
第2-23001	瓦質土器	鉢	—	46.0	—	SK202	外側にスス付着		
第2-23101	瓦質土器	灰皿	—	—	—	SK228			
第2-23401	骨毛	皿	中国(魯侯家)	12.6	6.5	2.4	SK222	白1群	
第2-23402	口口目土師器	甕	竈地	13.5	7.4	2.5	SK222	横状瓦葺	
第2-23501	瓦質土器	鉢	—	—	—	SK221			
第2-23601	在来系土師器	甕	竈地	—	6.0	—	SK205		
第2-24001	骨毛	皿	中国(魯侯家)	9.3	—	—	SK217		
第2-24002	骨毛	皿	中国(魯侯家)	11.5	—	—	SK217	B-N' 類 継線透弁文	
第2-24003	横線瓦葺陶磁器	皿	朝鮮	—	—	—	SK217		
第2-24004	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK217		
第2-24005	土師質土器	鉢	竈地	28.4	—	—	SK217		
第2-24006	土師器	皿	—	14.0	7.0	3.0	SK217	大内系 横状瓦葺	
第2-24101	口口目土師器	小甕	竈地	8.8	5.5	1.7	SK219	灯明皿	
第2-24301	陶磁	横鉢	朝鮮	27.0	—	—	SK226	中群B-6a 類 内面にスス付着	
第2-24302	瓦質土器	鉢	竈地	—	—	—	SK272	横線による赤変	
第2-24303	在来系土師器	小甕	—	—	—	—	SK274	胎土中含有多し 胎入品	
第2-24304	在来系土師器	小甕	竈地	—	—	—	SK274		
第2-24305	在来系土師器	小甕	竈地	9.0	7.4	1.4	SK274		
第2-24306	在来系土師器	甕	竈地	—	—	—	SK274		
第2-24307	瓦質土器	鉢	竈地	40.4	—	—	P309	外側にスス付着	
第2-24308	口口目土師器	甕	竈地	11.2	5.6	2.8	P318	内外面に薄く黒炭	
第2-24601	白磁	皿	中国	17.5	—	—	SK 1	11-12世紀	
第2-24602	白磁	皿	中国	10.9	—	—	SK 1	E-2群 横鉢	
第2-24603	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK 1		
第2-24604	瓦質土器	皿	—	11.0	6.6	2.8	SK 1		
第2-24701	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK177		
第2-24702	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK177		
第2-24901	在来系土師器	甕	竈地	—	7.6	—	SD066		
第2-25001	陶磁	横鉢	朝鮮	14.0	—	—	SD175	中群B類	
第2-25101	青花	皿	中国(魯侯家)	14.3	—	—	SA314	P129 B2群 横底リ	
第2-25102	在来系土師器	小甕	竈地	9.0	5.2	2.2	SA314	P227 内面スス付着	
第2-25201	横線陶磁器	皿	中国(羅漢家)	—	—	—	P208		
第2-25202	緑南三彩	種子形水注	中国	—	—	—	P231	横線による変色	
第2-25203	青花	皿	中国(漳州系)	—	4.4	—	P258	青磁	
第2-25204	瓦質土器	鉢	—	36.6	—	—	P282	外側にスス付着	
第2-25205	陶磁	横線器	朝鮮	—	—	—	SK180		
第2-25401	京橋系土師器	皿	竈地	10.2	—	—	SK154	1群 横鉢	
第2-25601	陶磁	不明	中国(漳州系)	19.8	—	—	SK166		
第2-25701	青花	皿	中国(漳州系)	14.5	—	—	SK181		
第2-25702	横線瓦葺陶磁器	皿	朝鮮	9.2	4.3	2.6	SK161	胎土目	
第2-25801	陶磁	天目鉢	瀬戸貞清	11.4	—	—	—	SK7	
第2-25802	京橋系土師器	皿	竈地	—	—	—	SK155	2群	
第2-25803	瓦質土器	鉢	—	—	11.8	—	SK156	外側にスス付着	
第2-25804	白磁	小甕	中国	—	—	—	SK160	変形小甕	
第2-25805	土師質土器	燗合	竈地	—	6.7	—	SK160	A2群	
第2-26001	横線陶磁器	皿	中国	—	—	—	SK184中群		
第2-26002	瓦質土器	鉢	竈地	40.4	—	—	SK184中群		
第2-26003	土師質土器	鉢	竈地	43.6	—	—	SK184中群	外側にスス付着	
第2-26004	京橋系土師器	皿	竈地	12.8	—	2.3	SK184中群	2群	
第2-26005	京橋系土師器	皿	竈地	14.0	—	2.5	SK184中群	2群	
第2-26006	京橋系土師器	皿	竈地	12.4	—	2.3	SK184中群	2群	
第2-26007	京橋系土師器	皿	竈地	13.0	—	2.3	SK184中群	2群	
第2-26008	京橋系土師器	皿	竈地	14.0	—	2.2	SK184中群	2群	
第2-26009	京橋系土師器	小甕	竈地	8.7	—	2.2	SK184中群	2群	
第2-26010	京橋系土師器	小甕	竈地	8.7	—	2.2	SK184中群	2群	
第2-26011	京橋系土師器	小甕	竈地	8.7	—	2.2	SK184中群	2群	
第2-26012	京橋系土師器	小甕	竈地	14.0	—	—	SK184中群	3群	
第2-26013	土師質土器	燗合	竈地	7.7	6.7	6.8	SK184中群	B群 京橋系土師器と同一様式、胎土	
第2-26201	青花	皿	中国	12.8	4.8	—	SK158	E群 横鉢	
第2-26202	青花	皿	中国(漳州系)	13.3	4.4	—	SK159	F群 見込み縁の自輪脚	
第2-26203	瓦質土器	鉢	—	33.2	—	—	SK158		
第2-26204	白磁	皿	中国	—	5.7	—	SK159	16世紀	
第2-26205	陶磁	横鉢	朝鮮	—	—	—	SK159	道管16群 斜めすり目	
第2-26206	瓦質土器	火鉢	—	33.2	23.6	9.2	SK158		
第2-26207	瓦質土器	鉢	—	26.8	—	—	SK158		
第2-26208	瓦質土器	鉢	—	37.4	—	—	SK158		
第2-26209	京橋系土師器	皿	竈地	10.6	—	1.8	SK158	1群	
第2-26210	京橋系土師器	皿	竈地	12.0	—	2.3	SK158	2群 内面にスス付着	
第2-26211	京橋系土師器	皿	竈地	12.8	—	2.3	SK158	2群 スス付着	
第2-26212	京橋系土師器	甕	竈地	11.8	—	3.0	SK158	3群 内外面に黒炭	
第2-26301	白磁	皿	中国	—	4.4	—	SK170	E-2群	
第2-26302	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK170		
第2-26303	瓦質土器	鉢	—	31.0	—	—	SK170		

第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

標本 No.	器 種	生産 地	法度 (単位cm)			遺 物 名	備 考	記録 No.
			口径	底径	高さ			
昭2-26304	在来土器類	坪	在来	—	—	SK170		
昭2-26401	白磁	磁	中国	6.5	—	SK176		
昭2-26501	青花	磁	中国(岳陽鎮)	—	12.1	P4	E1層	
昭2-26601	陶磁	磁	瀬戸産	7.6	—	SK4		
昭2-26701	瓦製土器	焼	—	—	—	SK6		
昭2-26703	瓦製土器	焼	—	—	—	SK109	外面にスス付	
昭2-26801	青花	磁	中国	4.3	—	—	1層 C器 磁磁	
昭2-26802	陶磁	焼	唐津	—	4.4	—	1層 陶瓦器文様 17世紀後半	
昭2-26803	白磁	坪	—	6.1	3.1	2.2	1層 近代	
昭2-26804	陶磁類	磁	中国	16.6	—	—	2層	
昭2-26805	白磁	磁	中国(岳陽鎮)	—	6.4	—	3層下部	
昭2-26806	白磁	磁	中国	15.8	—	—	3層下部	玉縁 11~12世紀
昭2-26807	白磁	磁	中国	10.8	—	—	3層下部	
昭2-26808	陶磁	磁鉢	岳陽	—	—	—	3層下部	近世1a~b層 割めすり目
昭2-26809	陶磁	鉢	唐津	23.0	—	—	3層下部	陶瓦器文様 17世紀後半
昭2-26810	陶磁	大鉢	肥前	36.3	—	—	3層下部	18世紀初期
昭2-26821	京都市土器類	磁	在来	—	—	—	3層下部	4層 磁片による赤変
昭2-26823	青花	磁	中国(岳陽鎮)	14.8	—	—	SS1	3層 磁片 磁反り
昭2-26824	京都市土器類	磁	在来	—	—	—	SS1	1層
昭2-26828	白磁	磁	中国(岳陽鎮)	—	6.2	—	SSa・b層	
昭2-26829	青花	磁	中国(岳陽鎮)	10.8	—	—	SSa・b層	B1層
昭2-26820	青物陶器	小皿	中国	6.1	—	—	SSa・b層	磁磁物
昭2-26821	瓦製土器	焼	—	39.4	—	—	SSa・b層	
昭2-26822	土製瓦土器	焼	在来	—	—	—	SSa・b層	
昭2-26823	在来土器類	小皿	在来	9.4	5.4	1.7	SSa・b層	内部にスス付
昭2-26824	京都市土器類	皿	在来	16.5	—	2.0	SSa・b層	1層 外面に黒斑
昭2-26825	京都市土器類	皿	在来	12.9	—	2.6	SSa・b層	2層
昭2-26826	京都市土器類	小皿	在来	5.1	3.5	1.8	SSa・b層	2~3層
昭2-26827	京都市土器類	皿	在来	12.6	—	—	SSa・b層	2層
昭2-26828	京都市土器類	皿	在来	11.8	—	2.7	SSa・b層	2層
昭2-26829	京都市土器類	皿	在来	11.2	—	2.4	SSa・b層	2層 磁片に磁片 内外面に黒斑
昭2-26830	京都市土器類	皿	在来	17.6	—	2.3	SSa・b層	3層
昭2-26831	土製品	もつば	在来	4.4	—	1.5	SSa・b層	外面に赤色・緑色の付着物
昭2-26839	朝鮮王明瓦陶器	内障子	朝鮮	—	11.1	—	SS2	
昭2-26840	陶磁	磁磁	岳陽	12.8	—	—	SS2	陶物
昭2-26841	瓦製土器	火鉢	在来	34.4	26.0	8.9	SS2	磁片による割傷・磁片 内外面に黒斑
昭2-26842	瓦製土器	焼	在来	—	—	—	SS2	
昭2-26843	在来土器類	小皿	在来	8.8	7.0	1.5	SS2	
昭2-26844	在来土器類	小皿	在来	7.5	5.4	2.1	SS2	
昭2-26845	京都市土器類	皿	在来	16.8	—	2.4	SS2	1層 磁片による赤変
昭2-26846	京都市土器類	皿	在来	10.7	—	2.0	SS2	1層
昭2-26847	京都市土器類	皿	在来	11.0	—	—	SS2	1層
昭2-26848	京都市土器類	皿	在来	11.4	—	1.9	SS2	1層
昭2-26849	京都市土器類	小皿	在来	8.5	—	4.6	SS2	1層
昭2-26850	京都市土器類	小皿	在来	10.2	—	—	SS2	1層 外面磁片にスス付
昭2-26851	京都市土器類	皿	在来	17.2	—	—	SS2	2層
昭2-26852	京都市土器類	皿	在来	12.6	—	2.4	SS2	3層
昭2-26854	土製品	もつば	在来	10.4	—	—	SS2	京都市土器類1層小皿も使用
昭2-26857	口ク口目土器類	皿	在来	17.6	9.4	4.0	Wa層上部	大皿
昭2-26858	京都市土器類	小皿	在来	8.0	—	1.6	Wa層上部	1層 内外面にスス付付
昭2-26859	白磁	磁	中国(岳陽鎮)	16.8	—	—	Fa層	
昭2-26870	青花	磁	中国(岳陽鎮)	13.9	—	—	Fa層	B1層
昭2-26871	青花	磁	中国(岳陽鎮)	—	7.0	—	Fa層	B1層 磁反り 外面磁片に磁片
昭2-26872	瓦製土器	香炉	—	10.4	—	—	Fa層	磁文・磁片
昭2-26873	在来土器類	小皿	在来	8.0	4.5	1.9	Fa層	灯明皿 内外面にスス付
昭2-26874	在来土器類	小皿	在来	8.6	5.6	1.7	Fa層	
昭2-26875	口ク口目土器類	皿	在来	—	4.6	—	Fa層	磁片磁片 全面にスス付
昭2-26876	口ク口目土器類	小皿	在来	5.7	3.4	1.5	Fa層	
昭2-26879	青花	磁	中国(岳陽鎮)	—	—	—	Fa層	E層
昭2-26880	瓦製土器	磁	—	11.4	4.9	4.9	Fa層	
昭2-26881	瓦製土器	磁	—	—	—	—	Fa層	
昭2-26882	白磁	磁	中国(岳陽鎮)	—	—	—	SS3	
昭2-26883	白磁	磁	中国	—	—	—	SS3	見込みは磁の目物割り 内面に黒斑
昭2-26884	陶磁	不明	志野	—	—	—	SS3	1590~1610年代
昭2-26885	陶磁	磁鉢(口口)	岳陽	26.1	13.0	12.7	SS3	中層部~b層
昭2-26886	瓦製土器	鉢	—	37.6	—	—	SS3	
昭2-26887	口ク口目土器類	小皿	在来	8.8	5.0	1.5	SS3	灯明皿 口縁面にスス付
昭2-26888	口ク口目土器類	瓦磁	在来	5.7	3.2	1.5	SS3	
昭2-26889	在来土器類	坪	在来	—	6.0	—	V層上部	外面に黒斑
昭2-26892	口ク口目土器類	小皿	在来	9.6	5.8	1.9	V層上部	底面磁片磁片付後磁磁磁片 全面にスス付
昭2-26893	口ク口目土器類	坪	在来	10.4	6.0	2.3	V層上部	磁片による赤変・割傷
昭2-26894	土製品	もつば	在来	6.6	—	1.7	V層上部	外面に黒付物 磁片による変化・変色
昭2-26895	白磁	磁	中国(岳陽鎮)	15.0	—	—	Vb層上部	磁片による変色・外面の黒変
昭2-26896	白磁	磁	中国(岳陽鎮)	—	7.0	—	Vb層上部	
昭2-26897	白磁	磁	中国(岳陽鎮)	—	6.5	—	Vb層上部	見込みは磁の目物割り

第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

検体No.	器種	生産地	量器(単位cm)			遺物名	備考	図録No.	
			口径	底径	高さ				
第2-268098	甕	中国(龍泉窯)	13.4	—	—	Vb層上層	後花園 15世紀		
第2-268099	甕	中国	11.5	4.1	2.8	Vb層上層	後花園 15世紀		
第2-268100	瓦質土器	瓦	—	28.0	—	Vb層上層	後花園による割破		
第2-268101	瓦質土器	瓦	—	4.8	—	Vb層上層			
第2-268102	瓦質土器	瓦	—	—	—	Vb層上層			
第2-268103	在来系土器類	小皿	在来	7.6	6.6	1.2	Vb層上層		
第2-268104	ロクロ目土器類	皿	在来	12.2	5.6	2.5	Vb層上層		
第2-268105	ロクロ目土器類	皿	在来	—	5.8	—	Vb層上層		
第2-268106	ロクロ目土器類	小皿	在来	7.8	5.0	1.9	Vb層上層	後花園産 全面にスス付	
第2-268107	ロクロ目土器類	小皿	在来	8.6	4.6	1.8	Vb層上層	後花園産	
第2-268109	甕	中国(龍泉窯)	18.6	—	—	Vb層			
第2-268110	甕	中国(龍泉窯)	—	13.2	—	Vb層			
第2-268111	陶器	瓦	龍戸貞道	5.5	—	Vb層		鉄軸	
第2-268112	陶器	瓦	龍戸貞道	—	—	Vb層			
第2-268113	陶器	瓦	龍戸貞道	15.9	—	Vb層		短軸	
第2-268114	陶器	瓦	龍戸貞道	—	—	Vb層		中管3期	
第2-268115	瓦質土器	瓦	—	—	—	Vb層		短軸	
第2-268116	瓦質土器	瓦	—	—	—	Vb層			
第2-268117	在来系土器類	小皿	在来	10.0	8.4	1.5	Vb層		
第2-268118	在来系土器類	小皿	在来	6.1	4.8	1.7	Vb層		
第2-268119	ロクロ目土器類	皿	在来	12.0	5.8	3.1	Vb層		後花園産
第2-268120	ロクロ目土器類	皿	在来	10.2	6.0	1.9	Vb層	後花園産 口縁部にスス付	灯明
第2-268121	陶器	瓦	中国(龍泉窯)	15.6	—	—	Vb層	鉢蓋	鉢蓋 13-14世紀
第2-268124	陶器	瓦	龍戸貞道	—	—	—	Vb層		
第2-26821	陶器	瓦	中国(龍泉窯)	15.0	—	—	C1-2-3期	B-V層	龍泉窯
第2-26822	陶器	瓦	中国(龍泉窯)	—	6.9	—	C1-2-3期	B層	
第2-26823	陶器	瓦	中国(龍泉窯)	—	5.2	—	C1-2-3期	B層	
第2-26824	陶器	瓦	中国(龍泉窯)	—	—	—	C1-2-3期	B層	鉄軸
第2-26825	陶器	瓦	中国(龍泉窯)	—	7.4	—	C1-2-3期	B層	
第2-26826	京系土器類	皿	在来	13.2	—	2.1	C1-2-3期	1層	
第2-26827	京系土器類	皿	在来	12.8	—	2.1	C1-2-3期	2層	
第2-26828	白磁	皿	中国	—	6.1	—	C1-2-3期	B層	
第2-26829	白磁	小皿	中国	—	—	—	C1-2-3期	冥形小皿	
第2-26830	陶器	瓦	中国(龍泉窯)	13.1	—	—	C1-2-3期		
第2-26831	陶器	瓦	龍戸貞道	11.6	—	—	C1-2-3期		
第2-26832	京系土器類	皿	在来	11.2	—	2.1	C1-2-3期	2層	
第2-26833	瓦質土器	瓦	—	—	—	C1-2-3期			
第2-26834	瓦質土器	瓦	—	—	—	C1-2-3期			
第2-26835	京系土器類	皿	在来	12.2	—	—	C1-2-3期	3期	内面に黒付
第2-26836	陶器	瓦	中国(龍泉窯)	—	4.2	—	C1-2-3期	B層	鉢蓋
第2-26837	陶器	瓦	龍戸貞道	28.0	—	—	C1-2-3期	中管4期	
第2-26838	瓦質土器	瓦	—	—	—	C1-2-3期			
第2-26839	瓦質土器	瓦	—	—	—	C1-2-3期			
第2-26840	在来系土器類	皿	在来	13.2	6.2	3.5	C1-2-3期		粘土中含鉄多し 磨入品
第2-26841	在来系土器類	皿	在来	10.8	7.8	2.8	C1-2-3期		
第2-26842	在来系土器類	小皿	在来	7.4	5.4	1.4	C1-2-3期		後花園産
第2-26843	在来系土器類	小皿	在来	7.4	6.2	1.2	C1-2-3期		後花園産
第2-26844	白磁	皿	中国(龍泉窯)	—	—	—	C1-2-3期	鉢蓋	鉢蓋 13-14世紀
第2-26845	瓦質土器	瓦	—	—	—	C1-2-3期			
第2-26846	土器類	小皿	—	8.6	—	—	C1-2-3期		磨入品
第2-26847	土師系土器	皿	—	—	—	C1-2-3期		磨入品	
第2-26848	土師系土器	皿	—	—	—	C1-2-3期		磨入品	
第2-26849	土師系土器	皿	—	—	—	C1-2-3期		磨入品	
第2-26850	土師系土器	皿	—	—	—	C1-2-3期		磨入品	
第2-26851	土師系土器	皿	—	—	—	C1-2-3期		磨入品	
第2-26852	在来系土器類	皿	—	11.6	7.0	3.4	C1-2-3期		磨入品
第2-26853	在来系土器類	小皿	在来	7.2	6.4	1.3	C1-2-3期		磨入品
第2-26854	在来系土器類	小皿	在来	8.6	7.0	1.1	C1-2-3期		後花園産
第2-26855	土師系土器	皿	在来	23.0	—	—	C1-2-3期		
第2-27001	陶器	瓦	龍戸貞道	13.0	—	—	P123		
第2-27002	瓦質土器	瓦	—	13.4	—	—	P215		
第2-27003	在来系土器類	小皿	在来	4.2	3.2	1.6	P243		ミニチュア
第2-27004	砂土土器	皿	在来	—	—	—	P381		下城式
第2-27201	陶器	瓦	龍戸貞道	—	5.5	—	SD755		後花園 18世紀前半
第2-27202	陶器	瓦	龍戸貞道	12.0	—	—	SD755		18世紀前半
第2-27203	陶器	瓦	龍戸貞道	37.2	—	—	SD755		18世紀
第2-27204	陶器	瓦	龍戸貞道	17.4	—	—	SD755		18世紀
第2-27205	陶器	瓦	龍戸貞道	13.3	7.2	3.0	SD755		透き 五弁花文(コンチャク印)



第7次調査区観察表②(土器・陶磁器類)

探検 No.	器 種	生産地	法位 (単位cm)			遺 名	備 考	図録 No.
			口徑	底徑	高さ			
第2-27206	申付	瓦	—	—	—	SO755	18世紀代	
第2-27207	陶輪	瓦	肥前	—	4.6	—	SO755	18世紀代
第2-27208	近世土師器	大甕	—	—	20.6	—	SO755	近世
第2-27209	陶輪	不明	本野	—	—	—	SO755	17世紀物
第2-27211	陶輪	輪	肥前	10.4	—	—	SO755	17世紀後半
第2-27501	陶輪	輪	肥前	—	3.9	—	SX345	熟土器
第2-27502	青花	小坪	—	5.4	2.4	—	SX345	昭和10年代 国産
第2-27503	朝鮮王朝産陶器	輪	朝鮮	—	—	—	SX342	
第2-27701	熟土土器	甕	—	20.0	—	—	C地区	後期前半
第2-27702	古代土師器	瓦坪	在池	—	—	—	C地区	宮内時代 坪産部に属す
第2-27703	古代土師器	甕	—	—	15.2	—	C地区 SK2	
第2-27704	青磁	輪	中国(福建)	14.2	—	—	D地区	B-N期 御蔵通弁文
第2-27705	青花	輪	中国(福建)	12.6	5.0	4.5	D地区	E期 磨心
第2-27706	京都系土師器	瓦	—	11.8	—	3.0	—	表紙 1期 磨入品
第2-27707	古代土師器	甕	—	15.2	—	—	F地区 SE558	古墳時代前期 口縁部に属す
第2-27708	古代土師器	坪器	—	14.0	—	—	G地区 SO791	
第2-27709	古代土師器	瓦坪?	—	—	—	—	G地区	割縁
第2-27710	古代土師器	坪器つまみ	—	—	—	—	F地区 SE558	
第2-27711	古代土師器	甕	—	18.0	—	—	G地区	8世紀 内面 割縁
第2-27712	古代土師器	坪	—	13.6	—	9.4	G地区	熟土海部産
第2-27713	古代土師器	坪	—	—	6.6	—	F地区 SK511	
第2-27714	古代土師器	坪	—	—	9	—	G地区 SO790	
第2-27715	藍色土器	甕	—	—	7.6	—	G地区 SK705	A期
第2-27716	藍色土器	甕	—	—	7.4	—	G地区 SK705	A期 磨蝕による磨変
第2-27717	古代土師器	坪	—	13.8	8.8	3.1	G地区 SK712	8世紀
第2-27718	古代土師器	坪	—	14.8	—	—	G地区	8世紀
第2-27719	古代土師器	坪	—	14.4	—	—	G地区 SK771	内外面にスス付
第2-27720	古代土師器	坪	—	12.8	—	—	G地区 SK705	9世紀
第2-27721	古代土師器	坪	在池	15.0	—	—	G地区 SK705	9世紀
第2-27722	古代土師器	坪	—	11.0	—	3.6	F地区 SE558	9世紀
第2-27723	古代土師器	坪	—	14.0	—	—	G地区 SO790	8-9世紀 熟土海部産
第2-27724	古代土師器	瓦	在池	14.8	9.4	2.3	G地区 SK705	
第2-27725	古代土師器	瓦	在池	18.6	—	—	G地区 SO796	
第2-27726	古代土師器	瓦	—	16.6	—	—	G地区 SO796	
第2-27727	古代土師器	瓦坪	—	—	—	—	G地区 SK712	熟土海部産
第2-27728	古代土師器	瓦坪	—	—	—	—	G地区 SK791	宮内時代

第7次調査区観察表(土製品)

拝見No.	品名	材質	部位	寸法(単位cm)				重量(g)	遺物名	備考	図解No.	
				長さ	(4.6)	幅	1.4					孔径
R2-1509 8	土器	土師灰	底	長さ	(4.6)	幅	1.4	孔径	(6.3)	SD710	半分が割れている	
R2-1509 9	土器	土師灰	底	長さ	(2.4)	幅	0.9	孔径	—	SD710		
R2-260022	土器	土師灰	底	長さ	5.8	幅	1.5	孔径	12.8	SD766		
R2-260023	土器	土師灰	底	長さ	6.4	幅	1.6	孔径	13.2	SD766		
R2-26010	土器	土師灰	底	長さ	(4.3)	幅	(1.0)	孔径	4.8	SD775		
R2-2903 3	土器	土師灰	底	長さ	(2.0)	幅	1.0	孔径	(2.4)	SE714	両端が割れている	
R2-3302 1	土器	土師灰	底	長さ	(3.6)	幅	1.4	孔径	(7.2)	SE773	両端が割れている	
R2-3302 2	土器	土師灰	底	長さ	(2.8)	幅	0.9	孔径	(2.4)	SE773		
R2-3302 3	土器	土師灰	底	長さ	(3.1)	幅	0.9	孔径	(2.7)	SE773		
R2-4102 3	土器	土師灰	底	長さ	5.6	幅	1.5	孔径	12.6	SK705	A部 両端切部	
R2-4102 4	土器	土師灰	底	長さ	(3.0)	幅	1.7	孔径	(8.0)	SK705	A部 両端切部	
R2-600139	土器	土師灰	底	長さ	5.4	幅	1.8	孔径	13.0	SD791	A部 片面切部	
R2-600140	土器	土師灰	底	長さ	(4.1)	幅	1.1	孔径	(5.0)	SD791	両端欠部 底灰	
R2-600141	メソコ	陶磁	底	—	—	—	—	—	—	SD791	底前縁部	
R2-600142	メソコ	陶磁	底	長さ	4.2	幅	4.1	厚さ	1.3	32.4	SD791	底前縁部
R2-600143	メソコ	陶磁	底	長さ	3.5	幅	4.0	厚さ	1.5	30.4	SD791	底前縁部
R2-600144	メソコ	陶磁	底	長さ	3.1	幅	3.7	厚さ	0.7	15.1	SD791	底前縁部
R2-600145	メソコ	土師灰	底	長さ	7.5	厚さ	7.2	厚さ	—	—	SD791	京都系土師器用 スズ材部?
R2-600146	メソコ	瓦質	底	長さ	4.1	幅	3.8	厚さ	0.8	14.4	SD791	瓦質土師器用
R2-600147	メソコ	瓦質	底	長さ	6.5	厚さ	6.4	厚さ	2.4	—	SD791	軒瓦瓦器用
R2-600157	土製	土製	底	—	—	—	—	—	—	—	SD791	縁部 変質、変色あり
R2-6202 47	土器	土師灰	底	長さ	4.3	幅	1.0	厚さ	5.7	SD538	B部 底削	
R2-6202 48	土器	土師灰	底	長さ	(4.0)	幅	1.1	孔径	(5.7)	SD538	B部	
R2-6202 49	土器	土師灰	底	長さ	(4.6)	幅	1.0	孔径	(5.1)	SD538	B部	
R2-6402 18	土器	土師灰	底	長さ	(3.1)	幅	1.4	孔径	(7.5)	SE541-3	両端欠部	
R2-6402 19	土器	土師灰	底	長さ	5.2	幅	1.5	孔径	10.8	SE541-3	A部 両端切部	
R2-760224	土器	土師灰	底	長さ	(2.1)	幅	0.7	孔径	(1.0)	SK371		
R2-760225	メソコ	陶磁	底	長さ	3.9	幅	3.8	厚さ	0.7	14.3	SK371	中唇縁部
R2-760254	土器	土師灰	底	長さ	5.0	幅	1.5	孔径	(8.5)	SK734	B部	
R2-8302 4	土器	土師灰	底	長さ	(3.2)	幅	1.2	孔径	(4.2)	SK308	両端欠部	
R2-8402 5	犬形土製品	土師灰	胴	長さ	—	—	—	—	—	SK539		
R2-8502 18	土器	土師灰	底	長さ	(5.4)	幅	1.2	孔径	(7.4)	包含層I部	B部 小型 両端欠部	
R2-8502 29	土器	土師灰	底	長さ	3.5	幅	1.2	孔径	4.5	包含層II部	両端欠部 底削 B部	
R2-8502 30	メソコ	陶磁	底	長さ	3.7	幅	4.6	厚さ	1.1	28.4	包含層III部	底前縁部
R2-8502 31	土製	土製	底	—	—	—	—	—	—	包含層III部	縁部による酸化・変色(砂化)	
R2-8502 54	土器	土師灰	底	長さ	(5.8)	幅	1.1	孔径	—	15.6	包含層III部	B部
R2-8502 65	土器	土師灰	底	長さ	8.3	幅	5.3	孔径	(142.6)	包含層III部	器入品 有溝	
R2-8802 87	土器	土師灰	底	長さ	(4.1)	幅	1.3	孔径	(8.2)	SD192	B部 中型	
R2-9802 1	土器	土師灰	底	長さ	(5.2)	幅	1.9	孔径	14.3	SK164	B部 小型	
R2-1202 10	土器	土師灰	底	長さ	3.9	幅	1.2	孔径	4.5	SK143	B部	
R2-1202 11	土器	土師灰	底	長さ	(4.0)	幅	1.0	孔径	(4.7)	SK143	A部 底削	
R2-1260 29	土器	土師灰	底	長さ	(4.5)	幅	1.3	孔径	(7.7)	SD111	A部 小型 底削	
R2-1270 1	土器	土師灰	底	長さ	4.8	幅	1.2	孔径	5.7	SK31	A部 小型 両端切部	
R2-1420 18	メソコ	土師灰	底	長さ	3.6	幅	3.3	厚さ	0.5	—	SE19	京都系土師器用
R2-1680 28	メソコ	陶磁	底	長さ	4.0	幅	4.1	厚さ	1.0	—	SK114	底前縁部
R2-1680 29	犬形土製品	土師灰	胴	長さ	—	—	—	—	—	—	SK114	
R2-1702 14	土器	土師灰	底	長さ	4.8	幅	1.0	孔径	4.2	SK127	A部 両端切部	
R2-1750 36	土器	土師灰	底	長さ	(4.0)	幅	1.0	孔径	(4.0)	SK126	A部 小型 底削	
R2-1800 37	土器	土師灰	底	長さ	3.7	幅	1.0	—	3.8	SE331	A部 小型	
R2-1902 19	土器	土師灰	底	長さ	5.1	幅	1.0	—	5.6	SK44	A部 小型	
R2-1902 20	メソコ	陶磁	底	長さ	10.4	厚さ	9.7	—	—	—	SK44	底前縁部
R2-1902 25	土器	土師灰	底	長さ	5.1	幅	1.4	—	—	—	SK141	A部 小型
R2-1902 26	土器	土師灰	底	長さ	5.0	幅	1.4	—	—	—	SK141	A部 小型
R2-2010 4	土製	土製	底	—	—	—	—	—	—	—	器入品	
R2-2102 6	土製	土製	底	—	—	—	—	—	—	—	縁部による酸化・変質	
R2-2260 28	打芯のり土	土師灰	底	長さ	2.3	厚さ	0.5	—	—	—	SK276	
R2-2260 29	土器	土師灰	底	長さ	4.1	幅	1.2	—	—	—	SK211	土師器用
R2-2260 30	土製	土製	底	—	—	—	—	—	—	—	SK211	
R2-2310 2	土器	土師灰	底	長さ	2.8	幅	1.2	—	—	—	SK201	
R2-2300 1	メソコ	土師灰	底	長さ	3.0	幅	2.9	厚さ	0.5	—	SK207	在地系土師器用
R2-2402 7	土器	土師灰	底	長さ	4.6	幅	1.3	—	—	—	SK217	A部 小型
R2-2602 15	土器	土師灰	底	長さ	5.7	幅	2.7	—	—	—	33.1	SK184中層
R2-2602 22	土製	土製	底	—	—	—	—	—	—	—	Vb層	
R2-2602 8	土器	土師灰	底	長さ	4.6	幅	1.9	—	—	—	16.8	A部
R2-2602 55	土製	土製	底	—	—	—	—	—	—	—	C1-2-3区	
R2-2702 8	メソコ	陶磁	底	長さ	2.6	幅	2.4	厚さ	0.9	—	C1-2-3区	底削による酸化・変色
R2-2702 10	犬形土製品	土製	全身	長さ	4.8	幅	1.7	高さ	3.5	—	SD755	陶磁器用

第7次調査区観察表(石製品)

探頭 No.	品名	材質	寸法(単位mm)						重量(g)	遺物名	備考	図録 No.
			厚さ	長さ	幅	孔径	底径	高さ				
探2-260206	緑石	結晶片層	—	長さ	—	幅	7.0	厚さ	5.8	838.0	SK766	
探2-260207	緑石	—	—	長さ	—	幅	—	厚さ	6.6	16.1	SK766	
探2-260208	石鏡	滑石	口縁部	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK766	皿b 底(木戸痕) 探頭スス付
探2-47007	碧玉	凝灰岩	—	長さ	1.7	幅	—	厚さ	6.5	2.4	SE358	
探2-51023	—	—	火焼	幅	—	—	—	—	—	—	SE332	
探2-4000195	凝灰	安山岩	下臼	口径	—	幅	—	高さ	—	—	SK791	受け面部片 スス付部 磨蝕
探2-4000196	凝灰	砂岩	下臼	口径	—	幅	—	高さ	—	—	SK791	2次加熱により磨蝕
探2-4000198	五輪塚	凝灰岩	高輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK791	
探2-4200256	凝灰	安山岩	下臼	口径	—	幅	—	高さ	11.0	—	SE338	
探2-6400113	石臼	安山岩?	上臼	口径	(40.4)	底径	(39.4)	高さ	10.4	—	SE341中央土塊	
探2-760256	灰白	—	上臼	口径	(19.2)	幅	—	高さ	—	—	SK734	摩耗
探2-760257	凝灰	砂岩(和泉)	下臼	口径	(25.8)	幅	—	高さ	—	—	SK734	受け面部 磨蝕による磨蝕・割傷
探2-760258	凝灰	安山岩	上臼	口径	(18.8)	幅	—	高さ	—	—	SK734	磨蝕による磨蝕・割傷
探2-760259	石臼	—	下臼	口径	—	幅	—	高さ	—	—	SK734	洗石
探2-83007	碧玉	—	—	長さ	2.1	幅	—	厚さ	0.7	4.4	SK508	
探2-860078	石鏡	滑石	口縁部	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK192上層	皿b 底(木戸痕)
探2-860079	不明	滑石	—	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK192上層	石鏡の軸用
探2-860086	石鏡	滑石	口縁部	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK192	皿b 底(木戸痕)
探2-860089	凝石	—	—	長さ	—	幅	—	厚さ	0.6	14.7	SK294	断面上部あり
探2-104002	凝灰	安山岩質凝灰岩	下臼	口径	—	幅	—	高さ	—	—	SK183	受け面部片 外面磨蝕による磨蝕
探2-114003	凝 赤褐色	—	—	長さ	—	幅	—	厚さ	1.4	219.8	SK144	
探2-134005	凝石	砂岩	—	長さ	10.5	幅	7.8	厚さ	3.3	509.7	SK105	
探2-1390233	石臼	安山岩	上臼	口径	—	底径	(34.6)	高さ	11.0	1.9	SK12	口縁一部磨蝕による磨蝕
探2-142005	石鏡	滑石	口縁部	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	BE119	11~12世紀 遺石として転用か
探2-147004	石臼	安山岩	上臼	口径	—	底径	(37.6)	高さ	9.8	1.9	SK11	割れたもの被蝕 スス付部
探2-1500215	凝 灰白	安山岩質凝灰岩	割口	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK132	
探2-1640014	五輪塚	凝灰岩	空風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK37	
探2-1640015	不明	凝灰岩	—	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK37	磨蝕不明
探2-1680241	凝 花崗岩	花崗岩	割口	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK114	
探2-1680242	石臼	—	上臼	口径	—	底径	(29.2)	高さ	10.8	—	SK114	磨蝕以外スス付部
探2-1700215	五輪塚	凝灰岩	空風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK127	
探2-1730219	凝 灰白	凝灰岩	割口	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK136	
探2-1750239	五輪塚	凝灰岩	空風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK126	
探2-1750240	五輪塚	凝灰岩	空風輪	長さ	—	幅	—	厚さ	—	—	SK126	
探2-1800227	五輪塚	凝灰岩	火焼	—	—	—	—	—	—	—	SE106非磨蝕内	
探2-1820240	不明	—	—	径	2.8	—	—	—	—	9.9	SE331	ボタン状(半球状の形に孔3つ)
探2-1820255	石臼	安山岩	上臼	径	28.9	高さ	10.3	—	—	—	SE331	
探2-1850227	凝灰	凝灰岩	上臼	上径	21.4	高さ	15.0	底径	19.8	—	SK146	磨き手穴あり
探2-1850228	石臼	安山岩	上臼	径	28.0	高さ	5.5	—	—	—	SK146	
探2-1850229	凝石	結晶片層	—	長さ	15.3	幅	9.3	厚さ	7.0	1129.2	SK146	
探2-1920204	石臼	安山岩	下臼	径	32.0	高さ	6.3	孔径	2.4	—	SK44	
探2-1920205	不明	軽質砂岩	—	—	—	—	—	—	—	—	SK44	
探2-1970020	五輪塚	凝灰岩	高輪	最大径	31.0	上径	25.5	高さ	27.0	—	SK140	
探2-1970021	五輪塚	凝灰岩	火焼	長さ	32.0	幅	29.0	高さ	15.5	—	SK140	
探2-1970022	凝石	—	—	長さ	10.1	幅	3.7	厚さ	3.8	206.4	SK140	
探2-1990030	石臼	安山岩	上臼	上径	32.4	底径	33.0	高さ	6.4	—	SK141	
探2-1990031	石臼	安山岩	上臼	上径	33.0	底径	36.5	高さ	12.4	—	SK141	磨蝕による磨蝕
探2-2000203	凝石	—	—	長さ	8.3	幅	3.7	厚さ	1.3	96.1	SK276	
探2-2230016	凝石	滑石	—	長さ	5.2	幅	3.5	厚さ	0.9	49.2	SK263	磨蝕孔
探2-242001	石臼	玄武岩	—	—	—	—	—	厚さ	5.8	822.4	SK220	磨蝕による一部磨蝕
探2-2600019	凝石	結晶片層	—	長さ	9.6	幅	6.1	厚さ	1.9	129.6	SK184中層	
探2-2600038	凝灰	凝灰岩	下臼	—	—	—	—	—	—	117.4	皿a・b 磨	
探2-2600066	凝石	結晶片層	—	長さ	30.0	幅	5.6	厚さ	3.2	1095.6	皿2	
探2-2600126	石鏡	滑石	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	皿磨	木戸痕磨蝕E-1磨
探2-2600010	凝石	結晶片層	—	長さ	9.5	幅	4.0	厚さ	1.2	74.5	C1-2-365	
探2-2600230	凝灰	凝灰岩	下臼	—	—	—	—	—	—	308.7	C1-2-365	

第7次調査区観察表(瓦製品)

母体No.	品種	寸法(単位cm)				造り名	造り名	図説No.	
		厚さ	幅	長さ	高さ				
02-262018	平瓦					SD766			
02-262020	平瓦					SD790	古代		
02-47008	平瓦		10.7	幅 8.3	厚さ	SE558	古代		
02-4002148	塼		6.1	幅 5.8	厚さ 2.9	SD791			
02-4002149	辺瓦		11.2	幅 9.8	厚さ 2.4	SD791			
02-4002150	塼		14.5	幅 10.8	厚さ 2.1	SD791			
02-4002173	平瓦		6.4	幅 4.6	厚さ	SD791	古代 ローリング兼しい		
02-712113	丸瓦					SK557上部	内蔵有目		
02-762053	軒丸瓦		15.2	幅	厚さ 3.1	SK734			
02-04208	丸瓦				12.5	厚さ 2.6	SK589		
02-105211	塼		15.4	幅	13.5	厚さ	SK 9		
02-120205	平瓦		14.6	幅	13.7	厚さ	SK143		
02-120206	丸瓦?						SK143		
02-120207	丸瓦	玉縁部					SK143		
02-120208	平瓦		12.3	幅	11.8	厚さ	SK143	粘土海部産	
02-120209	平瓦		20.5	幅	13.3	厚さ	SK143		
02-134204	平瓦					2.0	SK105		
02-136202	平瓦		23.1	幅	21.4	厚さ	SK129	古代 崎寄き通り	
02-136207	平瓦		18.9	幅	9.6	厚さ	SK12	粘土海部産	
02-142202	平瓦		18.3	幅	11.0	厚さ	SE19		
02-142206	平瓦		20.0	幅	10.6	厚さ	SE19	粘土海部産	
02-151211	平瓦		11.3	幅	6.0	厚さ	SK109		
02-166237	平瓦		11.8	幅	11.4	厚さ	SK114		
02-175237	埴間瓦		12.3	幅	9.3	厚さ	SK126		
02-175248	平瓦						SK126	古代	
02-180226	平瓦		14.3	幅	13.4	厚さ	SE108併用内		
02-182244	塼		18.1	幅	13.3	厚さ	SE331併用内		
02-182254	塼		14.3	幅	11.1	厚さ	SE331	縁飾	
02-182214	丸瓦		12.1	幅	8.9	厚さ 3.1	SK44	内蔵有目	
02-182215	平瓦		27.0	幅	11.0	厚さ 2.1	SK44		
02-182216	平瓦		13.9	幅	13.4	厚さ 2.1	SK44		
02-182217	平瓦		21.4	幅	11.5	厚さ 2.2	SK44		
02-182218	平瓦		21.2	幅	9.3	厚さ	SK44		
02-194209	平瓦		10.7	幅	9.8	厚さ	SK45	粘土海部産	
02-197218	塼		9.4	幅	5.0	厚さ 2.3	SK140		
02-197219	塼		10.8	幅	7.1	厚さ 2.1	SK140		
02-198223	塼		9.2	幅	7.9	厚さ 2.4	SK141	粘土海部産	
02-198224	塼		13.2	幅	13.1	厚さ 2.7	SK141		
02-217204	塼		6.1	幅	6.5	厚さ	SK255		
02-222202	平瓦		5.6	幅	6.9	厚さ	SK232	古代	
02-224203	平瓦		11.6	幅	8.6	厚さ 2.0	SK225	粘土海部産	
02-224204	平瓦		13.6	幅	11.8	厚さ	SK225	粘土海部産	
02-226214	軒平瓦	瓦縁部				3.6	SK211		
02-226215	丸瓦		11.3	幅	8.8	厚さ 2.0	SK211	内蔵有目と縁飾	
02-226216	丸瓦		9.1	幅	9.0	厚さ 2.0	SK211	内蔵有目 粘土海部産	
02-226217	丸瓦	玉縁部	10.3	幅	9.5	厚さ 2.5	SK211	内蔵有目 粘土海部産	
02-226218	丸瓦	玉縁部	13.5	幅	11.0	厚さ 2.7	SK211	内蔵有目 粘土海部産	
02-226219	丸瓦		12.0	幅	10.2	厚さ 2.3	SK211	内蔵有目と縁飾 粘土海部産	
02-226220	平瓦		9.8	幅	9.5	厚さ	SK211		
02-226221	平瓦		12.0	幅	11.4	厚さ	SK211	粘土海部産	
02-226222	平瓦		10.8	幅	9.5	厚さ	SK211		
02-226224	平瓦		17.0	幅	14.1	厚さ	SK211	縁飾による変形 屋根瓦か?	
02-226224	平瓦		9.5	幅	8.8	厚さ	SK211	古瓦産	
02-226225	平瓦		15.5	幅	13.0	厚さ	SK211		
02-226226	平瓦		15.8	幅	8.7	厚さ	SK211	粘土海部産	
02-226227	塼		11.3	幅	7.9	厚さ	SK211	粘土中金管等を含む	
02-231201	平瓦		19.1	幅	17.2	厚さ 2.0	SK201	粘土海部産	
02-234203	丸瓦	玉縁部	13.2	幅	13.1	厚さ 2.2	SK222	内蔵有目と縁飾 粘土海部産	
02-234204	塼		10.0	幅	7.4	厚さ	SK222		
02-246201	塼		27.9	幅	12.9	厚さ 2.3	SK210		
02-254202	平瓦		12.1	幅	9.4	厚さ 1.9	SK154		
02-262214	丸瓦						SK184中層	内蔵有目	
02-266202	平瓦		14.8	幅	14.6	厚さ	SK 4		
02-267202	塼		17.4	幅	13.5	厚さ 2.2	SK 6		
02-268219	埴間瓦		11.4	幅	7.5	厚さ 2.5	C1-2-3区		
02-270201	軒丸瓦	瓦縁部	15.0	幅	3.1	厚さ	P33	粘土海部産	

第7次遺物観察表(銭貨)

押印 No.	銭貨名	初出 年号	国・王明名	直径 (g)	直径 (mm)	貨幣	遺 集 名	備 考	図録 No.
第2-28011	銭貨通寶	1111	北宋	2.8	27.5	蕃幣	SD775		
第2-28012	不明	—	—	3.4	23.5	—	SD775		
第2-47016	永通通寶	1408	明	2.3	24.0	—	SE558		
第2-48013	元祐通寶	1085	北宋	2.7	24.5	行幣	P807		
第2-55023	熙寧元寶	1068	北宋	3.1	24.8	蕃幣	SK722		
第2-6001153	元祐通寶	1085	北宋	2.9	24.5	行幣	SD791		
第2-6001154	元祐通寶	1078	北宋	3.0	23.9	行幣	SD791		
第2-60200	元祐通寶	1085	北宋	2.6	24.2	行幣	SD538		
第2-64016	阜寧通寶	1038	北宋	1.8	—	真幣	DE541		
第2-72014	不明	—	—	1.9	22.9	—	SK542		
第2-76027	不明	—	—	3.0	23.8	—	SK371		
第2-85025	熙寧元寶	1094	北宋	2.3	24.4	行幣	G ⅧG E34E		
第2-85086	元祐通寶	1078	北宋	2.1	—	蕃幣	P963		星野丸
第2-86080	興元通寶	621	唐	1.7	—	—	SD192上層		
第2-90016	不明	—	—	2.4	—	—	SD295		
第2-92026	阜寧通寶	1038	北宋	2.6	25.2	真幣	SD294		
第2-98011	阜寧通寶	1038	北宋	3.4	24.8	真幣	SK188		
第2-101021	不明	—	—	1.7	23.3	—	SK187		
第2-109012	天禧通寶	1017	北宋	2.5	24.0	真幣	SK 9		
第2-109013	治平元寶	1064	北宋	2.5	2.41	蕃幣	SK 9		
第2-109014	治平元寶	1064	北宋	3.2	24.6	蕃幣	SK 9		
第2-109015	熙寧元寶	1068	北宋	3.3	24.2	真幣	SK 9		
第2-109016	元祐通寶	1078	北宋	2.6	23.8	蕃幣	SK 9		
第2-109017	元祐通寶	1078	北宋	2.3	24.2	蕃幣	SK 9		
第2-109018	元祐通寶	1085	北宋	2.2	24.8	蕃幣	SK 9		
第2-109019	洪武通寶	1368	明	3.1	24.4	—	SK 9		
第2-109020	不明	—	—	2.6	24.6	蕃幣	SK 9		「元」「寶」のみ判読可
第2-113021	興元通	—	—	2.5	2.27	—	SK199		
第2-120012	熙寧元寶	1068	北宋	2.4	24.4	蕃幣	SK143		
第2-130015	元祐通寶	1085	北宋	3.1	23.5	行幣	SA312 P140		
第2-130018	興元通寶	621	唐	3.0	23.9	—	SA312 P179		
第2-130019	淳熙元寶	1174	南宋	2.9	23.9	真幣	SA312 P179		背銀
第2-130020	洪武通寶	1368	明	2.8	22.9	—	SA312 P179		
第2-130021	永通通寶	1408	明	2.4	25.5	—	SA312 P179		
第2-130023	不明	—	—	3.0	2.44	—	SA312 P198		星野丸「通」「寶」のみ
第2-139028	發揚元寶	1004	北宋	2.9	22.9	—	SK12		
第2-139029	天聖元寶	1023	北宋	2.7	24.8	真幣	SK12		
第2-139030	不明	—	—	1.2	—	—	SK12		「元」「元」「寶」のみ
第2-139031	熙寧元寶	1068	北宋	3.2	23.6	真幣	SK12		
第2-139032	不明	—	—	1.5	22.3	—	SK12		興元通?
第2-145012	阜寧通寶	1038	北宋	2.4	24.9	蕃幣	SK350		
第2-145016	元祐通寶	1085	北宋	2.6	23.3	蕃幣	SK147		
第2-151012	元祐通寶	1085	北宋	1.1	—	行幣	SK109		「元」「通」のみ
第2-168040	元祐通寶	1078	北宋	2.5	24.1	蕃幣	SK114		
第2-182034	聖初元寶	1054	北宋	3.4	24.1	真幣	SE 1		
第2-182035	不明	—	—	2.5	23.2	—	SE 1		
第2-182036	不明	—	—	1.2	—	蕃幣	SE 1		「元」「寶」のみ
第2-185014	宣和通寶	1119	北宋	2.4	23.5	真幣	SK146		
第2-185015	元祐通寶	1078	北宋	2.8	25.3	蕃幣	SK146		
第2-185016	不明	—	—	3.0	23.5	—	SK146		「登」「寶」のみ
第2-185017	洪武通寶	1368	明	2.6	22.5	—	SK146		
第2-185018	不明	—	—	2.7	22.6	—	SK 7		
第2-185021	元祐通寶	1085	北宋	2.6	24.1	蕃幣	SK144		
第2-185022	熙寧元寶	1101	北宋	2.1	23.7	行幣	SK144		
第2-185023	興元通	—	—	2.0	22.3	—	SK144		
第2-194019	元祐通寶	1085	北宋	3.1	24.1	行幣	SK145		
第2-199027	元祐通寶	1078	北宋	3.2	24.0	行幣	SD 2		
第2-199028	不明	—	—	2.7	22.4	—	SD 2		
第2-200013	元祐通寶	1078	北宋	3.0	25.3	行幣	SK185		
第2-201014	天聖元寶	1023	北宋	2.6	23.8	真幣	D 地区 Ⅱ 層		
第2-201017	不明	—	—	1.2	—	—	E 地区 Ⅱ 層		「通」「通」のみ
第2-205011	不明	—	—	2.8	—	—	SK182		
第2-207015	元祐通寶	1085	北宋	2.8	23.8	行幣	SK227		
第2-217015	熙寧元寶	1068	北宋	2.6	23.6	蕃幣	SK255		
第2-240018	祥符通寶	1020	北宋	1.7	23.8	—	SK217		
第2-251012	不明	—	—	2.3	24.0	—	SA314 P120		
第2-251016	興元通寶	621	唐	2.5	23.5	—	SA314 P224		
第2-256012	不明	—	—	1.5	23.0	—	SK186		
第2-256016	興元通寶	621	唐	2.3	23.9	—	P258		
第2-260012	熙寧元寶	1068	北宋	3.6	24.1	真幣	SK184上層		
第2-260016	發揚元寶	1004	北宋	2.4	24.2	—	SK184中層		
第2-260017	元祐通寶	1078	北宋	3.1	23.9	行幣	SK184中層		
第2-260020	興元通寶	1085	北宋	2.6	24.9	蕃幣	SK184下層		
第2-262014	元祐通寶	1078	北宋	2.8	23.7	蕃幣	SK158上層		
第2-262015	不明	—	—	2.0	23.0	—	SK158上層		

第7次遺物観察表 (銭貨)

標本 No.	銭貨名	国・王朝名	直径 (mm)	厚さ (mm)	容体	遺 跡 名	備 考	図版 No.
第2-268021	不明	—	2.4	25.0	—	P4		
第2-268012	淳平元寶	1064	北宋	3.2	22.9	真背	C 地区 B 層下層	
第2-268015	聖宗元寶	1101	北宋	3.0	24.5	真背	SS1	
第2-268016	興寧通寶	1423	寧夏朝鮮	2.7	23.8	—	SS1	
第2-268017	元祐通寶	1078	北宋	—	—	—	—	
第2-268033	天聖元寶	1023	北宋	2.9	25.1	真背	C 地区 Ⅱa・b 層	10枚張り付いている
第2-268034	天聖元寶	1023	北宋	2.7	24.8	真背	C 地区 Ⅱa・b 層	
第2-268035	皇寧通寶	1036	北宋	2.1	23.7	真背	C 地区 Ⅱa・b 層	裏彫孔
第2-268036	不明	—	—	2.3	23.8	—	C 地区 Ⅱa・b 層	
第2-268095	熙寧元寶	1068	北宋	3.2	24.4	真背	SS2	
第2-268096	熙寧元寶	1068	北宋	2.5	24.0	真背	SS2	
第2-268097	元祐通寶	1078	北宋	2.2	24.5	真背	SS2	
第2-268098	元祐通寶	1086	北宋	3.9	24.4	真背	SS2	
第2-268099	元祐通寶	1086	北宋	2.6	24.1	行背	SS2	
第2-268060	聖宗元寶	1101	北宋	2.9	24.2	行背	SS2	
第2-268061	不明	—	—	3.1	25.6	—	SS2	
第2-268062	不明	—	—	2.8	24.2	—	SS2	
第2-268063	不明	—	—	1.4	23.4	—	SS2	物文銭?
第2-268077	不明	—	—	1.3	—	—	C 地区 V 層	「真」「背」のみ
第2-268089	元祐通寶	1078	北宋	2.6	24.5	行背	SS3	
第2-2680108	永興通寶	1408	明	3.4	24.6	—	C 地区 Vb 層	
第2-2680220	不明	—	—	0.7	—	—	C1-2-3区	「甲」のみ
第2-2680229	元祐通寶	1086	北宋	2.8	24.4	真背	C1-2-3区	
第2-2680295	天聖元寶	1023	北宋	2.9	24.3	真背	C1-2-3区	
第2-2680236	皇寧通寶	1036	北宋	3.5	24.3	真背	C1-2-3区	
第2-2680237	紹寧通寶	1225	南宋	2.1	24.1	—	C1-2-3区	背五
第2-2680238	不明	—	—	0.8	—	—	C1-2-3区	「武」のみ
第2-2680245	咸平通寶	998	北宋	2.6	25.0	—	C1-2-3区	
第2-2680246	元祐通寶	1078	北宋	3.4	24.5	真背	C1-2-3区	
第2-270207	嘉寧通寶	1201	南宋	2.4	24.5	—	P409	背四
第2-270209	夏竦元寶	995	北宋	1.9	22.4	真背	C 地区 SK260	
第2-270230	元祐通寶	1086	北宋	2.4	23.4	真背	C 地区	
第2-270231	洪武通寶	1368	明	2.3	21.9	—	D 地区	背一銭
第2-270232	不明	—	—	0.8	—	真背	C 地区 P361	「元」「背」のみ
第2-270233	不明	—	—	1.3	—	真背	C 地区 P3	「背」のみ
第2-270234	不明	—	—	1.4	23.3	—	C 地区	
第2-270235	不明	—	—	2.6	23.4	—	D 地区 P109	
第2-270236	不明	—	—	1.2	—	真背	E 地区 SK44	「元」のみ
第2-270237	不明	—	—	1.8	20.6	—	E 地区 SK346	

第7次調査区観察表①(金属製品)

探跡No.	品名	材質	形状	寸法(単位cm)				重量(g)	遺物名	備考	図録No.		
				長さ	幅	厚	高さ						
探2-13016	金具	鉄	一	長径	(3.5)	短径	—	高さ	1.1	12.0	S8306周辺	SKP82 六角形 目釘有り	49
探2-150113	銅金具	銅	一	長さ	(4.9)	幅	0.9	厚さ	0.5	1.4	SD710		
探2-150214	不明	鉄	一	長さ	(5.9)	幅	0.5	厚さ	—	—	SD710		
探2-260224	鍋?	鉄	一	長さ	—	幅	—	厚さ	0.6	—	SD766		
探2-260225	火打金	鉄	一	長さ	9.0	短径	2.9	厚さ	0.4	46.9	SD766	結露穴	49
探2-26023	釘	鉄	一	長さ	(4.6)	幅	0.3	厚さ	—	—	ST748	結露穴	
探2-26024	釘	鉄	一	長さ	(4.4)	幅	0.4	厚さ	—	—	ST748	結露穴	
探2-26025	釘	鉄	一	長さ	(5.4)	幅	0.3	厚さ	—	—	ST748	上層打撃によりつぶれている	
探2-26026	釘	鉄	一	長さ	(4.1)	幅	0.4	厚さ	—	—	ST748	結露穴	
探2-26027	釘	鉄	一	長さ	(4.9)	幅	0.3	厚さ	—	—	ST748	上層穴	
探2-05022	金具	銅	一	長さ	5.0	幅	0.5	厚さ	0.5	7.2	SK722		
探2-4002151	金具	鉄	一	長さ	(5.0)	幅	1.4	厚さ	—	9.1	SD791	穿孔あり	
探2-4002152	不明	銅	一	長さ	10.0	幅	0.5	厚さ	0.4	4.3	SD791		
探2-4202951	現状跡金具	銅	実形	長さ	1.4	幅	1.4	厚さ	0.2	1.2	SD638		
探2-44024	金具	銅	一	長さ	(2.7)	幅	0.6	厚さ	0.6	1.3	SE541埋形内	中空	
探2-710221	金具	鉄	一	長さ	(4.3)	幅	1.5	穴径	0.4	(7.9)	SK557-様	目釘穴に挿入製品	
探2-740211	鍋	鉄	口縁部	口徑	—	底径	—	高さ	—	(32.6)	SK511		
探2-760226	鍋	銅	一	長さ	8.8	幅	0.6	厚さ	0.2	20.5	SK571		49
探2-760265	鍋	鍍金銅	一	長さ	(4.5)	幅	1.2	厚さ	2.3	18.0	SK734		
探2-83025	火管	鉄	一	長さ	(14.9)	幅	0.4	穴径	0.2	(24.7)	SK508	中または中空	
探2-83026	火管	鉄	一	長さ	(19.8)	幅	0.4	厚さ	0.5	36.7	SK508	先が穴	49
探2-050219	不明	鉄	一	長さ	3.3	幅	0.3	厚さ	0.3	0.8	I層	挿入	
探2-090231	鉄磨玉	一	種	1.2	—	—	—	—	8.4	—	—	—	
探2-050272	止め金具	銅	一	長さ	1.4	幅	1.4	厚さ	0.2	1.6	G地底 S752		
探2-060231	小銅	銅	一	長さ	8.2	幅	1.5	厚さ	0.6	20.6	SD1827層	鉄釘跡	
探2-060281	刀子	鉄	柄	長さ	(6.5)	幅	1.1	厚さ	0.4	(12.6)	SD1827層		
探2-060282	金具	鉄	一	長さ	(7.9)	幅	0.5	厚さ	—	(19.5)	SD1827層	先端丸く内側をつくる	
探2-020227	鍍金金具	銅	一	長さ	2.5	幅	2.4	厚さ	0.4	5.1	SD294		51
探2-020228	釘	鉄	実形	長さ	6.1	幅	0.7	厚さ	0.5	—	SD294		
探2-104025	金具	銅	一	長さ	1.7	幅	1.7	厚さ	0.2	1.6	SR183		
探2-100221	不明	鉄	一	長さ	7.5	幅	0.5	厚さ	0.5	7.4	SK 9	挿入	
探2-100222	小銅	銅	柄	長さ	(9.9)	幅	—	厚さ	0.3	22.7	SK 9	鉄釘跡	46
探2-100223	小銅	銅	柄	長さ	(9.6)	幅	0.8	厚さ	0.4	(29.2)	SK 9	鉄釘跡	46
探2-112023	火管	鉄	一	長さ	(15.5)	幅	0.5	厚さ	—	(17.4)	SK169		
探2-112024	火管	鉄	一	長さ	(8.4)	幅	0.4	厚さ	—	(7.0)	SK169		
探2-115023	釘	鉄	実形	長さ	8.4	幅	0.5	厚さ	—	—	SK150		
探2-144021	釘	鉄	実形	長さ	6.6	幅	0.8	厚さ	—	—	SK135		
探2-162029	不明金具	鉄	実形	長さ	—	幅	—	厚さ	—	34.2	SK104		49
探2-175028	銅金具	銅	一	長さ	1.0	幅	3.8	厚さ	0.1	2.0	SK126	目釘?	51
探2-177024	釘	鉄	一	長さ	(9.2)	幅	1.2	厚さ	—	(7.1)	SK128		
探2-180219	釘	鉄	実形	長さ	4.8	幅	0.6	厚さ	—	—	SE108		
探2-182026	火管	鉄	一	長さ	26.0	幅	0.5	厚さ	—	26.0	SE331		
探2-182029	火管	鉄	一	長さ	8.0	幅	0.6	厚さ	—	20.4	SE331		
探2-185018	鍋	鍍金銅	一	長さ	27.3	幅	16.3	厚さ	0.5	1071.7	SK148		47
探2-185019	鍋	鉄	一	長さ	31.5	幅	17.6	厚さ	0.6	1400.0	SK148		47
探2-185020	釜丁	鉄	一	長さ	23.9	幅	4.8	厚さ	0.3	141.6	SK148	鍋の本貫付録	
探2-185021	刀子	鉄	一	長さ	11.7	幅	1.3	厚さ	0.2	19.3	SK148		
探2-185022	釘	鉄	一	長さ	5.6	幅	1.2	厚さ	1.0	—	SK148		
探2-185023	釘	鉄	一	長さ	7.6	幅	0.6	厚さ	—	—	SK148		
探2-185024	釘	鉄	一	長さ	7.9	幅	0.6	厚さ	—	—	SK148		
探2-185025	釘	鉄	実形	長さ	4.3	幅	0.5	厚さ	—	—	SK148		
探2-185026	釘	鉄	一	長さ	8.9	幅	0.5	厚さ	—	—	SK148		
探2-192026	鍋	鉄	実形	長さ	7.0	幅	2.8	厚さ	1.3	82.2	SK44		
探2-194011	小銅	銅	一	長さ	11.8	幅	1.7	厚さ	0.5	22.4	SK45	鉄釘跡	
探2-194012	へら	鉄	一	種	6.5	—	—	厚さ	0.3	57.6	SK45		
探2-194029	不明	鉄	一	長さ	7.4	幅	0.3	厚さ	—	11.3	SK141	刀子か?	
探2-200206	金具	鉄	一	長さ	4.3	幅	1.1	厚さ	0.3	7.7	SK182		
探2-213023	不明	鉄	一	長さ	4.4	幅	0.3	穴径	0.4	2.1	SK261	管状	
探2-227021	瓦	鉄	一	種	26.0	幅	1.5	厚さ	0.5	—	SK204		
探2-240209	釘	鉄	実形	長さ	5.9	幅	0.6	厚さ	0.6	—	SK217		
探2-240215	小銅	銅	一	長さ	9.8	幅	1.3	厚さ	0.5	33.3	SK 1	鉄釘跡	
探2-240216	小銅	鉄	一	長さ	9.1	幅	1.3	厚さ	0.2	12.2	SK 1		
探2-240217	釘	鉄	一	長さ	5.8	幅	1.3	厚さ	0.7	27.5	SK 1		
探2-251024	釘	鉄	一	長さ	9.6	幅	0.9	厚さ	0.5	19.2	SA314	P229	49
探2-251025	釘	鉄	一	長さ	16.4	幅	1.2	厚さ	1.0	61.2	SA314	P268	49
探2-260211	小銅	銅	一	長さ	9.7	幅	1.0	厚さ	0.2	3.0	SK184上層		
探2-260218	鍋	鉄	一	長さ	16.9	幅	16.9	厚さ	0.2	313.5	SK184中層	目釘	
探2-262013	かんざし	銅	一	長さ	6.2	幅	0.3	厚さ	0.1	1.3	SK158上層		
探2-264032	釘	鉄	一	長さ	5.4	幅	1.0	厚さ	0.8	14.6	IIa・b層		
探2-264037	釘	鉄	一	長さ	5.1	幅	1.2	厚さ	0.6	—	IIa・b層		
探2-264053	鍋?	鉄	一	長さ	3.1	幅	3.1	厚さ	0.5	14.5	SG 2		
探2-266034	和バサミ	鉄	一	長さ	7.4	幅	2.4	厚さ	0.3	13.8	SG 2		49
探2-266035	火管	鉄	一	長さ	10.2	幅	0.5	厚さ	0.4	18.7	SG 2		
探2-266079	五徳?	鉄	一	種	16.0	幅	2.0	厚さ	0.9	41.9	Fa層		
探2-266090	釘	鉄	一	長さ	9.3	幅	0.8	厚さ	0.8	—	SG 3		

第7次調査区観察表② (金属製品)

標本No.	品名	材質	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺構名	備考	図解No.	
			長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ					
Ⅷ2-268Ⅱ121	釘	鉄	—	長さ	9.0	幅	0.7	厚さ	0.7	—	Vb層		
Ⅷ2-268Ⅱ125	刀子	鉄	—	長さ	10.1	幅	1.0	厚さ	0.2	12.5	W層		
Ⅷ2-268Ⅱ9	不明	鉄	—	長さ	6.4	幅	6.8	厚さ	0.3	7.6	C1-2-Ⅲ		
Ⅷ2-270Ⅱ5	不明	鉄	—	長さ	25.0	幅	1.8	厚さ	0.3	80.1	P3Ⅱ		
Ⅷ2-270Ⅱ9	FF(鉄線)	鋼	—	長さ	1.3	幅	1.2	厚さ	0.3	1.7	C地区	小型	51



第16次調査区道物観察表①(土器・陶磁器類)

探検No.	器種	生産地	法量(単位cm)			通称名	備考	図説No.
			口径	底径	高さ			
第3-3001	弥生土器	甕	在池	—	(8.0)	—	SD18	跡土在池産
第3-3002	弥生土器	甕	在池	(20.4)	—	—	0区	
第3-7001	河内	罎	中国(越前)	—	(9.4)	—	SK31	
第3-7002	古代土師器	かまど	在池	—	—	—	SK31	跡土在池産
第3-8001	原始土器	内丸罎	—	—	(6.6)	—	8層-8層	
第3-8002	古代土師器	罎	在池	(25.0)	—	—	8層-8層	全数無形 跡土在池産 or 北九州産
第3-11001	在池系土師器	小皿	在池	(9.8)	(8.2)	1.1	SD18	
第3-11002	陶器	罎	備前	—	—	—	SD18	中層2層
第3-11003	陶器	甕	中国(龍泉)	—	—	—	SD18	
第3-11004	瓦質土器	埴輪	在池	—	—	—	SD18	
第3-11005	瓦質土器	罎	在池	—	—	—	SD18	
第3-12001	京都系土師器	小皿	—	—	—	—	SK04	0層 遺入品
第3-12002	京都系土師器	罎	—	(11.4)	—	2.1	S283	0層 遺入品
第3-15001	ロウロ目土師器	罎	在池	(15.2)	6.0	4.0	SD17	
第3-15002	ロウロ目土師器	小皿	在池	(10.2)	(8.0)	2.0	SD17	口縁部スス付物 灯明皿
第3-15003	陶器	罎	備前	(12.4)	—	—	SD17	
第3-15004	在池系土師器	罎	在池	—	—	—	SD17	
第3-15005	在池系土師器	罎	在池	(16.0)	—	—	SD17	
第3-15006	在池系土師器	罎	在池	—	(5.5)	—	SD17	
第3-15007	在池系土師器	罎	在池	—	—	—	SD17	
第3-15008	ロウロ目土師器	罎	在池	—	(7.8)	—	SD17	
第3-15009	ロウロ目土師器	小皿	在池	10.6	5.8	2.1	SD17	
第3-190010	京都系土師器	罎	在池	(12.4)	(5.9)	1.8	SD17	遺入品 0層
第3-190011	京都系土師器	罎	在池	(14.4)	—	1.6	SD17	遺入品 0-1層
第3-17001	陶器	広口罎	備前	—	—	—	S278	裏面
第3-17002	原始陶器	甕	タイ	—	—	—	S278	
第3-17003	瓦質土器	火鉢	在池	—	—	—	S278	外面刷漆あり 襷か?
第3-18001	青花	罎	中国(景德鎮)	—	—	—	SK66	E層
第3-18002	瓦質土器	罎	中国(越前)	—	—	—	SK36	
第3-18003	瓦質土器	罎	在池	—	—	—	SK36	河野8層
第3-18004	在池系土師器	罎	在池	—	7.0	—	SK36	破状残
第3-18005	京都系土師器	小皿	在池	(9.4)	—	2.0	SK36	口縁部1ヶ所、打ち欠きあり 1層
第3-20001	ロウロ目土師器	罎	在池	(13.0)	—	2.2	SP41	ワラ庄産
第3-22001	陶器	埴輪	備前	—	—	—	SD23	近世1層 産部十字壇り目
第3-22002	京都系土師器	罎	在池	—	—	—	SD23	外面にスス付物 襷輪か? 少し赤装3層
第3-24001	青花	罎	中国	—	(9.0)	—	SD110	
第3-24002	陶器	埴輪	備前	—	—	—	SD110	
第3-24003	瓦質土器	火鉢	在池	(36.0)	—	—	SD110	筒状型
第3-24004	瓦質土器	埴輪	在池	—	—	—	SD110	
第3-24005	在池系土師器	小皿	在池	(8.0)	—	2.0	SD110	破状残?
第3-24006	京都系土師器	罎	在池	(12.4)	—	2.5	SD110	3層
第3-26001	陶器	埴輪	備前	—	—	—	SK14	近世1b層
第3-26002	瓦質土器	火鉢	在池	—	—	—	SK14	
第3-26003	在池系土師器	罎	在池	—	5.6	1.0	SK14	
第3-26004	在池系土師器	罎	在池	(12.0)	(7.0)	2.5	SK14	
第3-26005	在池系土師器	罎	在池	(11.5)	(7.4)	2.5	SK14	
第3-26006	京都系土師器	罎	在池	10.8	—	2.2	SK14	裏面あり。1層
第3-26007	京都系土師器	罎	在池	11.8	—	2.4	SK14	1層
第3-26008	京都系土師器	罎	在池	10.5	—	1.9	SK14	内面に少しスス付物 1層
第3-26009	京都系土師器	罎	在池	10.2	—	2.1	SK14	2層
第3-26010	在池系土師器	もつば	在池	(9.4)	—	2.8	SK14	内面に赤褐色と緑色の付着物あり 内面の口縁部に赤褐色の付着物あり 口縁上縁は緑色の ため、瓦質、胎土、紫色
第3-26012	在池系土師器	もつば	在池	—	—	—	SK14	
第3-28001	埴輪陶器	罎	中国(龍泉)	—	—	—	SK15	
第3-28002	青花	罎	中国(景德鎮)	(10.4)	(3.6)	4.9	SK15	E層
第3-28003	陶器	舟形埴輪	備前王領	—	—	—	SK15	
第3-28004	陶器	埴輪	備前	—	—	—	SK15	近世1層
第3-28005	瓦質土器	火鉢	在池	—	—	—	SK15	
第3-28006	瓦質土器	罎	在池	—	—	—	SK15	河野8-2層
第3-28007	京都系土師器	罎	在池	12.4	—	2.5	SK15	2層
第3-28008	京都系土師器	罎	在池	12.2	—	2.3	SK15	2層
第3-28009	土師質土器	火鉢	在池	—	—	—	SK15	
第3-29001	京都系土師器	罎	在池	(15.8)	—	2.5	SK36	3層
第3-31001	青花	罎	中国(景德鎮)	—	—	—	SK22	
第3-31002	原始陶器	甕	タイ	—	—	—	SK22	
第3-31003	埴輪陶器	罎	備前	—	—	—	SK22	
第3-31004	陶器	罎	備前	—	—	—	SK22	
第3-31005	在池系土師器	罎	在池	(12.8)	(6.8)	3.7	SK22	破状残
第3-31006	京都系土師器	罎	在池	(12.0)	—	2.6	SK22	内面、襷輪によりスス付物 2層
第3-32001	青花	—	中国(景德鎮)	—	—	—	SK36	E層
第3-32002	陶器	埴輪	備前	(34.0)	—	—	SP292	近世1層
第3-33001	青花	罎	中国(景德鎮)	—	—	—	E層	F層
第3-33002	埴輪陶器	罎	中国	—	—	—	E層	B層
第3-33003	陶器	埴輪	備前	—	—	—	E層	近世1C層
第3-33004	陶器	埴輪	備前	—	(9.2)	—	E層	近世1層

第16次調査区遺物観察表②(土器・陶磁器類)

探検No.	器種	生産地	法量(単位mm)			遺物名	備考	図録No.
			口径	底径	高さ			
第3-33025	京都系土師器	皿	在埴	(10.0)	—	2.3	8層	1層
第3-33026	京都系土師器	小皿	在埴	(8.6)	—	1.8	8層	2層
第3-33027	京都系土師器	皿	在埴	—	—	—	8層	口縁部打り欠き 3層
第3-33028	在埴系土師器	坪	在埴	(11.8)	(6.0)	2.9	A層	
第3-33029	京都系土師器	皿	在埴	(12.8)	—	1.8	A層	2層
第3-33030	京都系土師器	皿	在埴	(12.2)	—	2.0	A層	3~4層
第3-33031	在埴系土師器	坪	在埴	—	(9.0)	2.0	B層	
第3-33032	瓦質土器	鍋	在埴	—	—	—	B2層	内野 0-1層
第3-3401	綠釉陶器	甕	中国(福建系)	—	—	—	A区	
第3-3701	瓦質土器	鉢	陽明系	(23.2)	—	—	SD565	
第3-3702	在埴系土師器	坪	在埴	(12.4)	(10.3)	3.4	SD565	破状況
第3-3703	在埴系土師器	坪	在埴	(12.2)	(9.8)	3.5	SD565	
第3-3704	在埴系土師器	坪	在埴	13.1	7.7	3.8	SD565	口縁部打り欠き 破状況
第3-3705	在埴系土師器	坪	在埴	(13.6)	(11.4)	3.6	SD565	破状況
第3-3706	在埴系土師器	小皿	在埴	7.3	5.8	1.5	SD565	口縁部打り欠き 破状況 破状況
第3-3707	在埴系土師器	小皿	在埴	7.6	6.2	1.5	SD565	破状況
第3-3708	在埴系土師器	皿	—	—	—	—	SD565	大内系
第3-3709	在埴系土師器	坪	在埴	12.2	9.0	3.1	SD565	口縁部打り欠き 破状況
第3-3710	在埴系土師器	坪	在埴	(12.8)	(8.0)	3.2	SD565	口縁部打り欠き 破状況
第3-3711	在埴系土師器	坪	在埴	(12.4)	(7.6)	3.7	SD565	
第3-3712	在埴系土師器	坪	在埴	(12.4)	(9.6)	2.9	SD565	
第3-3713	在埴系土師器	坪	在埴	(12.8)	9.0	3.5	SD565	
第3-3714	在埴系土師器	小皿	在埴	(8.2)	(5.0)	1.7	SD565	半分に割られている 破状況
第3-3715	在埴系土師器	小皿	在埴	8.2	5.6	2.0	SD565	口縁部2ヶ所、打り欠き 破状況 破状況
第3-3716	在埴系土師器	坪	在埴	12.2	8.0	3.8	SD565	口縁部打り欠き 破状況
第3-3717	在埴系土師器	坪	在埴	(13.0)	9.0	3.4	SD565	破状況 破状況
第3-3718	在埴系土師器	坪	在埴	12.2	8.0	3.8	SD565	口縁部打り欠き 破状況 破状況
第3-3719	在埴系土師器	坪	在埴	(11.4)	8.4	3.6	SD565	口縁部打り欠き 破状況 破状況
第3-3720	在埴系土師器	小皿	在埴	7.6	5.6	1.8	SD565	口縁部打り欠き 破状況 破状況
第3-3721	白磁	甕	中国	—	—	—	SD565	
第3-3722	瓦質土器	甕	在埴	—	—	—	SD565	
第3-3723	瓦質土器	鍋	在埴	(26.6)	—	—	SD565	
第3-3724	瓦質土器	鍋	在埴	(33.6)	—	—	SD565	惣鉢により赤染 外周スチ付
第3-3725	在埴系土師器	坪	在埴	(12.8)	9.6	3.8	SD565	内周に赤染 破状況? 破状況
第3-3726	在埴系土師器	坪	在埴	12.6	9.2	3.2	SD565	口縁部打り欠き
第3-3727	在埴系土師器	坪	在埴	12.0	8.0	3.8	SD565	
第3-3728	在埴系土師器	坪	在埴	(12.0)	(8.4)	4.0	SD565	口縁部打り欠き 破状況
第3-3729	在埴系土師器	坪	在埴	12.4	3.6	8.4	SD565	口縁部打り欠き 口縁にスチ付 打明
第3-3730	在埴系土師器	坪	在埴	(12.2)	(8.0)	2.8	SD565	
第3-3731	在埴系土師器	坪	在埴	(12.0)	7.0	3.3	SD565	磨入品
第3-3732	在埴系土師器	坪	在埴	(13.0)	(6.2)	4.0	SD565	磨入品
第3-3733	在埴系土師器	坪	在埴	(16.6)	—	3.2	SD565	
第3-3734	在埴系土師器	坪	在埴	(13.2)	(9.2)	4.3	SD565	破状況
第3-3735	在埴系土師器	坪	在埴	(12.2)	(8.0)	4.4	SD565	破状況
第3-3736	在埴系土師器	坪	在埴	(13.4)	11.2	3.7	SD565	破状況
第3-3737	在埴系土師器	坪	在埴	13.8	10.2	3.7	SD565	破状況
第3-3738	在埴系土師器	坪	在埴	12.6	8.8	3.3	SD565	破状況
第3-3739	在埴系土師器	坪	在埴	(13.0)	9.6	3.5	SD565	破状況
第3-3740	在埴系土師器	坪	在埴	(13.0)	8.8	4.0	SD565	口縁部打り欠き 破状況
第3-3741	在埴系土師器	坪	在埴	(13.2)	(8.0)	3.1	SD565	
第3-3742	在埴系土師器	坪	在埴	(12.8)	(8.0)	3.1	SD565	破状況
第3-3743	在埴系土師器	坪	在埴	(12.8)	(8.4)	3.2	SD565	破状況
第3-3744	在埴系土師器	坪	在埴	(12.8)	(8.4)	3.1	SD565	底部に赤がみあり 破状況
第3-3745	在埴系土師器	坪	在埴	(13.2)	(10.1)	3.2	SD565	
第3-3746	在埴系土師器	坪	在埴	(13.0)	(8.8)	3.4	SD565	
第3-3747	在埴系土師器	坪	在埴	(11.8)	(8.4)	3.5	SD565	
第3-3748	在埴系土師器	小皿	在埴	7.7	6.7	2.3	SD565	
第3-3749	在埴系土師器	小皿	在埴	8.2	5.7	2.7	SD565	口縁部打り欠き
第3-3750	在埴系土師器	小皿	在埴	(7.8)	(6.4)	1.2	SD565	
第3-3751	在埴系土師器	小皿	在埴	7.6	6.4	1.6	SD565	外周、底部、破砕 口縁部打り欠き部位でつよめ 磨入土 A 磨入品 破状況
第3-3752	在埴系土師器	小皿	在埴	(9.4)	(8.0)	1.4	SD565	磨入土
第3-3753	在埴系土師器	小皿	在埴	8.4	6.8	1.4	SD565	破状況
第3-3754	在埴系土師器	小皿	在埴	(8.2)	(6.4)	1.5	SD565	
第3-3755	在埴系土師器	小皿	在埴	(7.6)	(5.8)	1.3	SD565	
第3-3756	在埴系土師器	小皿	在埴	(8.0)	(6.6)	1.5	SD565	
第3-3757	在埴系土師器	小皿	在埴	(8.2)	(7.0)	1.2	SD565	
第3-3758	在埴系土師器	小皿	在埴	7.6	6.0	1.7	SD565	破状況
第3-3759	在埴系土師器	小皿	在埴	(8.0)	(6.0)	1.6	SD565	破状況
第3-3760	在埴系土師器	小皿	在埴	(7.2)	5.8	1.8	SD565	破状況 磨入土
第3-3761	在埴系土師器	小皿	在埴	7.6	6.1	1.0	SD565	破状況
第3-3762	在埴系土師器	小皿	在埴	(7.8)	(6.0)	1.3	SD565	破状況
第3-3763	在埴系土師器	小皿	在埴	(7.8)	(5.0)	1.4	SD565	
第3-3764	在埴系土師器	小皿	在埴	(7.8)	(5.6)	1.6	SD565	破状況 磨入土
第3-3765	在埴系土師器	小皿	在埴	(7.4)	—	1.2	SD565	

第16次調査区遺物観察表③(土器・陶磁器類)

発見No.	器種	生産地	法位(単位cm)			遺物名	備考	図面No.
			口徑	底徑	高さ			
第3-37096	京師系土師器	甕	—	—	—	SD565	大内系	
第3-37097	京師系土師器	甕	—	—	—	SD565	大内系	
第3-37098	京師系土師器	甕	—	—	—	SD565	大内系	
第3-38001	陶器	甕	甕	—	—	SD599	中世3b期	
第3-38002	京師系土師器	小甕	京地	(7.0)	(5.6)	1.6	SD599	
第3-38003	京師系土師器	小甕	京地	(8.0)	(5.6)	1.6	SD599	
第3-38004	夏賀土器	鉢	京地	(23.7)	—	4.3	SD599	胎土海綿度
第3-38005	京師系土師器	坪	京地	—	(8.0)	—	SD595	
第3-38006	京師系土師器	小甕	京地	(7.2)	(5.0)	1.9	SD595	
第3-38007	京師系土師器	小甕	京地	(8.4)	(6.4)	1.4	SD595	内面、胎土により赤変
第3-40001	土師質土器	鍋	京地	—	—	—	SD588	
第3-40002	京師系土師器	坪	京地	—	—	—	SD598	胎土により赤変
第3-41001	白磁	甕	中国(福建系)	(14.6)	—	—	SD590	口入あり D型
第3-41002	白磁	甕	中国	—	—	—	SD590	A-1型
第3-41003	瓦質土器	鍋	京地	—	—	—	SD590	河野B-1型
第3-41004	瓦質土器	鍋	京地	—	—	—	SD590	
第3-41005	瓦質土器	鉢	京地	—	—	—	SD590	
第3-41006	土師質土器	鍋	京地	(28.0)	—	—	SD590	
第3-41007	京師系土師器	耳皿	京地	—	—	—	SD590	
第3-41008	ロク口目土師器	甕	京地	—	—	—	SD590	
第3-42001	陶器	漆鉢	甕	—	—	—	SK334	中世6a期
第3-42002	陶器	漆鉢	甕	—	—	—	SK334	
第3-42003	瓦質土器	鍋	京地	—	—	—	SK334	
第3-42004	ロク口目土師器	甕	京地	11.8	6.0	2.1	SK334	胎土により赤変 縦状圧痕
第3-43001	京師系土師器	坪	京地	(14.2)	(11.4)	3.7	SK337	
第3-43002	土師質土器	鍋	京地	—	—	—	SK353	胎土海綿度
第3-43003	土師質土器	鉢	京地	—	—	—	SK353	
第3-43004	京師系土師器	小甕	京地	8.8	7.6	1.3	SK353	製入品
第3-43005	京師系土師器	小甕	京地	(7.0)	5.8	1.3	SK353	
第3-43006	京師系土師器	小甕	京地	(8.8)	(7.0)	1.5	SK353	
第3-43007	京師系土師器	小甕	京地	(7.2)	(6.4)	1.4	SK353	
第3-43008	京師系土師器	小甕	京地	(8.4)	—	2.2	SK353	胎土により赤変 2期
第3-43009	瓦質土器	火鉢	京地	—	—	—	SK353	
第3-43010	瓦質土器	火鉢	京地	—	—	—	SK353	脚部(胎土)
第3-43011	京師系土師器	もつば	京地	7.8	—	—	SK353	胎土により赤変、硬化 気泡あり
第3-43013	京師系土師器	小甕	京地	(7.0)	(4.4)	1.7	SK391	
第3-43014	瓦質土器	鉢	京地	—	—	—	SK391	
第3-46001	白磁	甕	中国(福建系)	—	—	—	SF70	14世紀 B型
第3-46002	陶器	甕	甕	—	—	—	SF70	14世紀
第3-46003	瓦質土器	火鉢	京地	(24.0)	—	—	SF70	14世紀 胎土海綿度
第3-46004	土師質土器	鍋	京地	—	—	—	SF70	14世紀
第3-46005	京師系土師器	小甕	京地	—	1.2	—	SF70	14世紀 胎土A
第3-46007	灰青釉陶器	甕	朝鮮王権	(15.0)	—	—	SF70	13世紀
第3-46008	瓦質土器	鍋	京地	(45.0)	—	—	SF70	13世紀 外側にスチ付 河野B-1型
第3-46009	京師系土師器	小甕	京地	(7.4)	(4.5)	1.8	SF70	12世紀酒
第3-46010	瓦質土器	火鉢	京地	—	—	—	SF70	12世紀酒
第3-46012	青花	甕	中国(景德鎮系)	—	—	—	SF70	11世紀 甕
第3-46013	瓦質土器	火鉢	京地	—	—	—	SF70	11世紀
第3-46014	瓦質土器	鉢	京地	—	—	—	SF70	11世紀
第3-46015	瓦質土器	甕	京地	(8.4)	—	—	SF70	11世紀
第3-46016	瓦質土器	甕	京地	—	—	—	SF70	11世紀
第3-46019	京師系土師器	坪	京地	(11.8)	5.7	2.9	SF70	11世紀 河野B-1型
第3-46020	京師系土師器	小甕	京地	(8.2)	(6.0)	1.7	SF70	9世紀 縦状圧痕
第3-46021	京師系土師器	小甕	京地	—	3.7	—	SF70	9世紀 縦状圧痕
第3-46022	瓦質土器	漆鉢	胎土系	—	—	—	SF70	8世紀
第3-46023	瓦質土器	火鉢	京地	—	—	—	SF70	6世紀
第3-46024	陶器	漆鉢	甕	—	—	—	SF70	第3地土層 中世6a期
第3-46025	陶器	漆鉢	甕	—	—	—	SF70	第3地土層 中世6a期
第3-46026	京師系土師器	坪	京地	—	5.7	1.9	SK319	
第3-46027	ロク口目土師器	甕	京地	—	5.9	—	SF70	5世紀酒上 ローリングほげしい
第3-46028	ロク口目土師器	小甕	京地	(6.7)	(4.2)	1.6	SF70	5世紀酒上
第3-46029	瓦質土器	鉢	京地	(19.6)	—	—	SF70	4世紀
第3-46030	京師系土師器	火鉢	京地	(16.2)	—	2.5	SF70	3世紀酒 胎土により赤変 3期
第3-46031	瓦質土器	火鉢	京地	—	—	—	SF70	3世紀酒
第3-46032	ロク口目土師器	坪	京地	—	5.8	—	SF70	3世紀酒 縦状圧痕
第3-46033	瓦質土器	鍋	京地	—	—	—	SF70	3世紀
第3-46035	京師系土師器	甕	京地	(12.6)	—	1.9	S380	1期
第3-46036	京師系土師器	甕	京地	—	—	—	S380	2期
第3-46037	京師系土師器	甕	京地	—	—	—	SF70	第2地土層 1期
第3-46038	陶器	小甕	甕	—	4.7	—	SF70	2期
第3-46039	瓦質土器	甕	胎土	—	—	—	SF70	2期
第3-46040	磁器	小甕	朝鮮王権	—	4.5	—	SK303	内側に口入
第3-47002	陶器	甕	甕	—	—	—	SK304	SP298 近世1期
第3-49001	青花	小甕	中国(景德鎮系)	—	2.6	—	SK85	
第3-49002	陶器	鉢	甕	—	—	—	SK85	

第16次調査区遺物観察表④(土器・陶磁器類)

探検No.	器種	生産地	位置(単位m)		遺物名	備考	図録No.		
			口徑	底徑					
第3-6003	陶器	備前	(18.6)	—	SK85	中室6a層			
第3-6004	陶器	瀬戸内海	(10.6)	(6.2)	SK85	内側に窪みあり 大室3層			
第3-6005	京系土師器	小室	(9.6)	—	SK85	口縁部、器底により少し赤染 2層			
第3-5101	灰陶器	島	—	4.4	SK189	—			
第3-5102	青花	島	中国(景德鎮)	—	SK189	F層			
第3-5103	青花	島	中国(景德鎮)	(11.8)	SK189	—			
第3-5104	青磁	島	中国(唐京)	—	SK189	器底によりスチ付			
第3-5105	白磁	島	朝鮮王朝	—	SK189	内側に白磁			
第3-5106	京系土師器	島	京地	—	SK189	2層			
第3-5107	京系土師器	島	京地	(13.3)	SK189	4層			
第3-5602	在地系土師器	島	在地	(13.0)	(6.8)	SD529	ロクロ目土師器に近い		
第3-5603	在地系土師器	島	在地	—	(6.4)	2.2	SD529	ロクロ目土師器に近い	
第3-5604	ロクロ目土師器	島	在地	(13.6)	(7.0)	2.9	SD529	器状圧痕	
第3-5605	ロクロ目土師器	小室	在地	9.0	4.8	1.7	SD529	口縁部半打ち欠き	
第3-5606	ロクロ目土師器	小室	在地	(8.6)	6.0	1.9	SD529	器状圧痕	
第3-5607	陶器	備前	—	—	—	SD529	中室3b層		
第3-5608	瓦質土器	香伊	在地	(8.2)	—	4.0	SD529	—	
第3-5701	在地系土師器	小室	在地	8.6	4.5	1.9	SK399	口縁部破れ打ち欠き	
第3-5901	陶器	島	備前	—	—	SK333/S34	—		
第3-5902	在地系土師器	小室	在地	(8.4)	4.8	1.7	SK333/S34	—	
第3-5903	在地系土師器	小室	在地	9.6	—	2.1	SK333/S34	—	
第3-5907	瓦質土器	島	在地	—	—	—	SK333	—	
第3-5908	ロクロ目土師器	島	在地	(13.8)	(8.1)	2.6	SK333	器底に穿孔あり 器状圧痕	
第3-5909	在地系土師器	坪	在地	—	(11.0)	—	SK333	—	
第3-5910	在地系土師器	坪	在地	12.0	5.8	2.6	SK333	器底に打ち欠き 割っている	
第3-5912	ロクロ目土師器	島	在地	(16.0)	(7.0)	3.4	SK333	内面、器底により赤染か?	
第3-5913	在地系土師器	小室	在地	(8.7)	(5.1)	2.2	SK333	—	
第3-5914	在地系土師器	小室	在地	8.8	4.4	2.1	SK333	河野を器	
第3-5915	ロクロ目土師器	島	在地	14.0	7.0	2.6	SK333	器底により赤染 器底に破れか?	
第3-5916	在地系土師器	小室	在地	(8.6)	(5.3)	1.7	SK333	河野E-2層	
第3-5917	青花	島	中国(景德鎮)	(12.0)	—	—	SK333	B1層	
第3-5918	ロクロ目土師器	小室	在地	(10.0)	(5.6)	2.0	SK333	器底にスチ付	
第3-5920	在地系土師器	小室	在地	9.3	6.0	1.8	SK333	口縁部3ヶ所打ち欠き	
第3-5921	ロクロ目土師器	島	在地	(11.6)	(5.8)	2.9	SK333	内面、器底	
第3-5922	京系土師器	島	在地	(13.0)	—	—	SK333	0層	
第3-5923	土師土器	島	在地	—	—	—	SK333	—	
第3-5924	瓦質土器	島	在地	—	—	—	SK333	—	
第3-5925	瓦質土器	島	在地	—	—	—	SK333	—	
第3-5926	在地系土師器	島	在地	(14.2)	(8.0)	3.2	SK333	器底赤染	
第3-5927	ロクロ目土師器	島	—	—	—	—	SK333	大内系	
第3-5928	在地系土師器	島	—	(11.9)	—	1.5	SK333	大内系	
第3-5929	京系土師器	島	在地	—	—	—	SK333	器底 0層	
第3-5930	京系土師器	島	在地	—	—	—	SK333	1層	
第3-5931	京系土師器	小室	在地	(5.3)	—	1.9	SK333	—	
第3-6001	陶器	備前	—	—	—	—	SK566	中室5b層	
第3-6002	陶器	備前	—	—	—	—	SK566	中室5b層	
第3-6003	陶器	備前	—	—	—	—	SK566	内面にツルツルに 使用の磨跡残る	
第3-6004	在地系土師器	島	—	(7.2)	—	—	SK566	大内系	
第3-6005	ロクロ目土師器	島	在地	—	6.0	—	SK566	口縁部、全周を打ち欠く 破損か?	
第3-6101	在地系土師器	京	在地	—	—	—	SK580	—	
第3-6301	在地系土師器	坪	在地	11.4	6.0	3.3	SK581	口縁部に打ち欠き 器状圧痕	
第3-6401	陶器	天目鏡	中国	—	—	—	SP345	—	
第3-6402	瓦質土器	—	在地	11.8	—	3.7	SK600	内面は黒く、外面は赤染 器底か?	
第3-6501	白磁	小室	中国	(6.9)	—	—	SK128	—	
第3-6601	在地系土師器	島	在地	—	6.6	—	SK399	—	
第3-6602	在地系土師器	香伊	在地	(8.4)	(9.0)	2.6	SK399	口縁部、1ヶ所打ち欠き	
第3-6603	京系土師器	島	在地	(12.8)	—	2.3	SK399	1層	
第3-6605	瓦質土器	島	静島系	—	—	—	SX431	—	
第3-6606	在地系土師器	小室	在地	(8.2)	(4.8)	1.7	SX431	—	
第3-6607	土師土器	穴鉢	在地	—	—	—	SP540	—	
第3-6808	陶器	備前	—	—	—	—	SK518	内面少しツルツル 中室を器	
第3-6809	在地系土師器	島	在地	(13.4)	5.6	3.6	SK518	器底し、内面割削の部分あり	
第3-6810	京系土師器	島	在地	(12.2)	—	2.4	SK518	2層	
第3-6812	在地系土師器	もつば	在地	—	—	—	SK429	器底による磨跡、紫色、酸化 内面に藍色の粉状のもの(金属ではない)が付着	
第3-6813	在地系土師器	小室	在地	(7.8)	(8.0)	1.4	SK589	—	
第3-6814	在地系土師器	坪	—	(11.4)	(7.4)	3.7	SK589	磨入品	
第3-6815	在地系土師器	坪	在地	(11.4)	(8.6)	3.0	SK589	—	
第3-7001	京系土師器	島	在地	(10.8)	—	2.0	SK504	器底 1層	
第3-7101	京系土師器	島	在地	11.9	—	2.4	SK551	3層	
第3-7102	京系土師器	島	在地	11.8	—	2.3	SK551	3層	
第3-7202	京系土師器	小室	在地	(8.6)	—	2.0	SP549	1層	
第3-7401	青花	島	中国(景德鎮)	(15.4)	—	—	SK510	B1層	
第3-7402	白磁	島	中国	(13.2)	5.0	5.8	SK510	—	
第3-7403	在地系土師器	坪	在地	(13.6)	(7.2)	3.3	SK510	—	

第16次調査区道物観察表④(土器・陶磁器類)

種目 No.	種名	産地	法量(単位mm)			遺物名	備考	図録 No.
			口径	底径	高さ			
第3-7400 4	在来土器類	坪	在来地	12.4	—	3.2	SK510	
第3-7400 5	在来土器類	坪	在来地	—	5.4	—	SK510	
第3-7400 6	在来土器類	坪	在来地	(11.6)	(3.4)	3.5	SK510	
第3-7400 7	在来土器類	小皿	在来地	(8.6)	—	1.4	SK510	
第3-7400 8	瓦質土器	大鉢	在来地	—	—	—	SK510	
第3-7400 9	陶磁	鉢	備前	—	—	—	SK510	中世6層
第3-7400 10	陶磁	蓋鉢	備前	—	—	—	SK510	中世5層
第3-7400 11	瓦質土器	鉢	—	—	—	—	SK510	河野B-2層
第3-7400 12	在来土器類	坪	在来地	(13.6)	—	2.3	SK510	
第3-7400 13	京橋系土器類	小皿	在来地	(8.2)	—	2.1	SK510	2層
第3-7400 14	京橋系土器類	皿	在来地	(12.2)	—	2.4	SK510	3層
第3-7400 2	青花	陶	中国(景德鎮)	—	5.0	—	SK245	口縁部、全周打ち交差 E群
第3-7400 3	青花	皿	中国(景德鎮)	(8.6)	—	—	SK244	上部の把手が欠けている C群
第3-7400 4	白磁	梅花鉢	中国	—	—	—	SK244	波状口縁
第3-7700 1	陶磁	蓋鉢	備前	—	—	—	SK299	近世1b層
第3-7700 3	青花	皿	中国(景德鎮)	(11.6)	—	—	SP495	B1群
第3-7700 4	京橋系土器類	皿	在来地	(13.0)	—	2.2	SP496	内面にスス付 2層
第3-7700 5	京橋系土器類	皿	在来地	(15.0)	—	2.3	SP496	少し赤変 蓋鉢か? 1層
第3-7700 6	京橋系土器類	皿	在来地	(12.2)	—	2.4	SP496	3層
第3-7800 1	瓦砂	鉢	中国	(12.6)	—	—	SK312	瓦砂
第3-7800 2	陶磁	蓋鉢	備前	—	14.0	—	SP362	蓋鉢で内部割線部分あり 1507年?近世1b層
第3-7800 3	青花	小坪	中国(景德鎮)	—	2.6	—	SK363	C群
第3-7800 4	京橋系土器類	皿	在来地	12.6	—	2.1	SP442	1層
第3-8000 1	青花	陶	中国(景德鎮)	—	—	—	SK123	C群
第3-8000 2	青花	皿	中国(景德鎮)	(8.6)	—	—	SK123	B1群
第3-8000 3	陶磁	鉢	備前	(29.6)	—	—	SK123	
第3-8000 4	京橋系土器類	皿	在来地	(11.4)	—	2.7	SK123	3層
第3-8000 5	京橋系土器類	皿	在来地	—	—	—	SK123	3層
第3-8000 6	京橋系土器類	皿	在来地	—	—	—	SK123	3層
第3-8200 1	青花	皿	中国(景德鎮)	—	(8.2)	—	SK378	全体に貫入がある B群
第3-8200 2	白磁	梅花鉢	中国	(11.8)	(7.0)	3.0	SK378	E4群
第3-8200 3	青花	陶	中国(景德鎮)	(11.6)	—	—	SK378	E群
第3-8200 4	青花	陶	中国(景德鎮)	(13.2)	—	—	SK378	E群
第3-8200 5	青花	皿	中国(漳州)	(10.8)	—	—	SK378	蓋鉢成皿
第3-8200 6	青花	皿	中国(漳州)	—	—	—	SK378	蓋鉢成皿
第3-8200 7	瓦質土器	大鉢	在来地	—	—	—	SK378	
第3-8200 8	瓦質土器	大鉢	在来地	—	(28.0)	—	SK378	横状瓦直
第3-8200 9	ロク口目土器類	坪	在来地	(11.4)	6.0	2.8	SK378	
第3-8200 10	ロク口目土器類	小皿	在来地	(8.0)	(5.4)	2.3	SK378	
第3-8200 11	ロク口目土器類	小皿	在来地	(8.8)	4.8	2.2	SK378	破断されている。
第3-8200 12	京橋系土器類	皿	在来地	(10.6)	—	3.4	SK378	3層
第3-8300 1	陶磁	広口鉢	備前	—	—	—	SP176	
第3-8300 2	青花	皿	中国(景德鎮)	(11.6)	6.4	2.7	SK300	E群 底面に「万寿成興」
第3-8300 3	京橋系土器類	皿	在来地	(13.0)	—	2.2	SK315	3層
第3-8300 4	陶磁	蓋鉢	備前	—	—	—	SP323	近世1b層
第3-8300 5	青花	陶	中国(景德鎮)	—	—	—	SK356	E群
第3-8300 6	青花	皿	中国(景德鎮)	(10.0)	(6.0)	2.2	SP461	E群
第3-8500 1	瓦質土器	鉢	在来地	—	—	—	SP243	在来地の器形様式か?
第3-8500 2	陶磁	陶	中国(景德鎮)	(10.8)	—	—	SP247	C3層
第3-8500 3	青花	陶	中国(景德鎮)	—	—	—	SP249	E群
第3-8500 4	陶磁	梅花鉢	中国(景德鎮)	—	—	—	SP248	内外面に貫入あり 口縁は花弁状に波打つ
第3-8500 5	陶磁	蓋子	備前	—	—	—	SP249	
第3-8600 1	白磁	鉢	中国	21.8	6.8	6.4	SK300	口縁、3ヶ所打ち交差
第3-8600 2	白磁	皿	中国	10.8	4.8	3.0	SK300	E2群
第3-8600 3	白磁	小坪	中国	—	3.0	—	SK314	
第3-8700 1	京橋系土器類	小皿	在来地	(8.5)	—	1.8	SK214	1層
第3-8700 2	京橋系土器類	皿	在来地	(10.2)	(4.8)	2.7	SK214	京橋系系物
第3-8800 1	京橋系土器類	小皿	在来地	8.6	—	2.3	SK242	2層
第3-8800 2	京橋系土器類	小皿	在来地	(8.8)	—	1.8	SK242	蓋鉢 2層
第3-8900 1	在来土器類	ちっば	在来地	—	—	—	SP155	内面から口縁にかけ、藍色の付着物(銅) 灰濁による変質、酸化あり
第3-8900 2	青花	陶	中国(景德鎮)	—	—	—	SP156	D群
第3-8900 3	京橋系土器類	皿	在来地	(12.6)	—	—	SP231	3層
第3-9000 1	京橋系土器類	皿	在来地	12.6	—	2.4	SB338	SP337 3層
第3-9100 1	青花	皿	中国(漳州)	—	—	—	SK72	蓋鉢成皿
第3-9100 2	陶磁	陶	中国(臨泉)	(15.8)	—	—	SK72	内面に貫入がある B4層
第3-9100 3	京橋系土器類	皿	在来地	—	—	—	SK72	2層
第3-9200 1	青花	皿	中国(景德鎮)	—	(5.8)	—	SK222	E群
第3-9300 1	京橋系土器類	皿	在来地	(10.0)	—	1.8	SK301	2層
第3-9300 2	京橋系土器類	小皿	在来地	9.0	—	2.6	SK301	蓋鉢 何らかの道具として使用か? 2層
第3-9400 1	陶磁	木注	中国(景德鎮)	—	—	—	SP311	把手 7次SK114出土と連名
第3-9500 1	京橋系土器類	皿	在来地	—	—	—	SK71	内面の底面にスス付 2層
第3-9500 2	京橋系土器類	小皿	在来地	(7.2)	—	2.0	SK71	2層
第3-9500 3	京橋系土器類	小皿	在来地	(8.4)	(4.4)	1.9	SK71	内外面、スス付物 外部割線あり 打明皿
第3-9500 4	陶磁	木注	備前	—	—	—	SK77	

第16次調査区遺物観察表⑥(土器・陶磁器類)

神庫 No.	器種	産地	法量(原容m)		遺構名	備考	図版 No.	
			口徑	底径				
第3-9505	瓦質土器	焼	—	—	SK77			
第3-9507	瓦質土器	焼	在池	—	SK153			
第3-9508	陶磁	焼	中国	(11.8)	—	SK153	C3層	
第3-9509	京橋系土師器	焼	在池	(5.0)	—	SK160		
第3-9510	陶磁	焼	—	—	—	SK316		
第3-9511	陶磁	焼	畿前	—	—	SK316		
第3-9512	瓦質土器	火鉢	在池	—	—	SK316		
第3-9513	瓦質土器	焼	在池	(11.2)	—	SK316	被熱 口縁部打ち欠き	
第3-9514	京橋系土師器	小皿	在池	(9.8)	—	SK316	2層	
第3-9519	京橋系土師器	皿	在池	—	—	SK223	2層	
第3-9520	土師質土器	焼	在池	—	—	SK223	被熱	
第3-9601	瓦質土器	鉢	在池	—	—	SK190		
第3-9602	陶磁	香炉	中国	—	—	SK325		
第3-9602	荷花	焼	中国(昌徳緑釉)	—	—	SK325	B群	
第3-9603	荷花	焼	中国(昌徳緑釉)	(11.4)	—	SK325	E群	
第3-9604	荷花	焼	中国(昌徳緑釉)	(4.0)	—	SK325	E群	
第3-9605	荷花	焼	中国(昌徳緑釉)	(9.2)	(4.5)	2.1	SK325	B1群
第3-9606	藤南三彩	鳥獣水注	中国	—	—	SK325		
第3-9607	埴輪陶器	ルソン器	中国	—	(15.6)	—	SK325	
第3-9608	陶磁	焼	畿前	—	—	SK325		
第3-9609	瓦質土器	火鉢	在池	—	—	SK325		
第3-9610	瓦質土器	鉢	在池	—	—	SK325		
第3-9611	瓦質土器	火鉢	在池	(10.2)	—	SK325		
第3-9612	土師質土器	鉢	在池	—	—	SK325		
第3-9613	瓦質土器	鉢	在池	—	—	SK325		
第3-9614	京橋系土師器	皿	在池	12.2	—	3.1	SK325	2層
第3-9615	京橋系土師器	小皿	在池	(8.6)	—	2.2	SK325	被熱 何らかの器具として使用? 2層
第3-9616	京橋系土師器	小皿	在池	(8.8)	—	1.4	SK325	外側スス付部 底部を故意に削いている? 2層
第3-9617	京橋系土師器	小皿	在池	8.8	—	2.5	SK325	口縁部、内外側スス付部 灯明皿 2層
第3-9601	陶磁	鉢	畿前	—	—	SK133		
第3-10101	陶磁	瓶	中国	(10.4)	—	SK188	C3層	
第3-10102	白磁	皿	中国	—	—	SK188	E2層	
第3-10103	白磁	皿	中国	(4.8)	—	SK188	E2層	
第3-10104	白磁	雪花煎	中国	(12.0)	(8.8)	3.4	SK188	E4群
第3-10105	白磁陶器	皿	中国	—	—	SK188	職物	
第3-10106	荷花	皿	中国(汝州窯)	—	3.4	—	SK188	
第3-10107	在池系土師器	皿	在池	(13.0)	(7.0)	3.1	SK188	
第3-10108	口ワロ器土師器	特小型皿	在池	4.1	2.6	1.3	SK188	口縁部、縁部の打ち欠き
第3-10109	京橋系土師器	皿	在池	(15.0)	—	2.6	SK188	被熱より、内側スス付部 2層
第3-10110	京橋系土師器	皿	在池	(14.0)	—	2.4	SK188	2層
第3-10111	京橋系土師器	小皿	在池	8.8	—	2.4	SK188	2層
第3-10112	京橋系土師器	小皿	在池	8.6	—	2.2	SK188	口縁部、スス付部 被熱より被熱 灯明皿 2層
第3-10113	京橋系土師器	小皿	在池	9.0	—	2.1	SK188	2層
第3-10114	京橋系土師器	小皿	在池	(8.4)	—	2.0	SK188	口縁部、内外側スス付部 被熱して剥離しい 灯明皿 2層
第3-10115	京橋系土師器	小皿	在池	8.6	—	1.9	SK188	2層
第3-10116	京橋系土師器	小皿	在池	(8.1)	—	1.1	SK188	被熱 2層
第3-10117	京橋系土師器	小皿	在池	5.8	—	3.6	SK188	2層
第3-10118	京橋系土師器	皿	在池	(13.0)	—	2.6	SK188	3層
第3-10119	在池系土師器	皿	在池	(6.5)	1.4	—	SK188	
第3-10120	土師質土器	もつば	在池	—	—	—	SK188	鉢蓋か?内外面に被熱による変色と酸化あり
第3-10201	陶磁	小鉢	瀬戸焼	—	—	—	SK81	
第3-10202	京橋系土師器	皿	在池	—	—	—	SK81	2層
第3-10203	土師質土器	もつば	在池	(10.8)	—	3.4	SK81	鉢蓋か?内面に黒く変色 被熱している
第3-10205	陶磁	皿	瀬戸焼	10.4	4.8	2.7	SP143	内面に黒く変色 磁器類 大塚3層
第3-10206	瓦質土器	鉢	在池	—	—	—	SP143	河野 D-2皿
第3-10401	荷花	皿	中国(昌徳緑釉)	(16.4)	(6.1)	2.4	SK1	第1焼土器
第3-10402	埴輪陶器	小皿	中国	(5.9)	—	—	SK1	第1焼土器
第3-10403	瓦質土器	火鉢	在池	—	—	—	SK1	被熱 波状口縁
第3-10404	京橋系土師器	小皿	在池	(8.2)	—	1.5	SK1	第1焼土器
第3-10405	京橋系土師器	もつば	在池	—	—	—	SK1	外側に緑色の付着物あり 内面に黒色の付着物品等で変質陶器品用途の転用
第3-10407	白磁	皿	中国	12.7	(7.0)	3.2	A群	E-2層
第3-10408	白磁	小坪	中国	(3.0)	—	—	A群	
第3-10409	瓦砂	—	中国	—	—	—	A群	
第3-10410	荷花	焼	中国(昌徳緑釉)	—	—	—	A群	E群
第3-10411	荷花	皿	中国(昌徳緑釉)	(8.4)	4.4	—	A群	E群
第3-10412	荷花	皿	中国(昌徳緑釉)	(8.0)	—	—	A群	E群
第3-10413	藤南三彩	鳥獣水注	中国	—	—	—	A群	
第3-10414	東物陶器	小皿	中国	(3.4)	4.8	—	A群	外面に割傷と種の変色が見られる 被熱のためか?産地不明
第3-10415	埴輪陶器	ルソン器	中国	—	—	—	A群	茶道具
第3-10416	陶磁	磁器類	(メナム/イタ)	(21.4)	—	—	A群	
第3-10417	瓦質土器	鉢	在池	(5.0)	—	—	A群	
第3-10418	土師質土器	火鉢	在池	—	—	—	A群	

第16次調査区遺物観察表⑦(土器・陶磁器類)

調査No.	器種	産地	測定(高さmm)			遺物名	備考	図録No.
			口徑	底径	高さ			
第3-104019	京都系土師器	甕	空地	8.5	-	1.8	A層	2層
第3-104020	京都系土師器	小皿	空地	9.0	-	2.0	A層	被熱のため、スス付物 内面磨あり? 灯明皿 2層
第3-104021	京都系土師器	小皿	空地	8.5	-	1.8	A層	スス付物 半分にわっている 灯明皿 1~2層
第3-104022	京都系土師器	甕	空地	-	-	-	A層	被熱により変変、表面磨削 3層
第3-104023	在来土師器	もつば	空地	(8.2)	5.0	3.0	A層	付着物は破片についての、もつばに転用か?
第3-104027	苜陶	甕	中国(龍泉窯)	(16.0)	-	4.0	第2土師器	B4群
第3-104028	苜陶	甕	中国(龍泉窯)	-	-	-	第2土師器	
第3-104029	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	(9.8)	-	-	第2土師器	C群
第3-104040	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	(9.8)	(3.0)	3.0	第2土師器	C群
第3-104041	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	-	(6.2)	0.9	第2土師器	E群
第3-104042	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	(10.2)	-	-	第2土師器	E群
第3-104043	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	(11.8)	(6.4)	3.6	第2土師器	E群
第3-104044	苜陶	小坪	中国(魯陽窯)	(6.2)	2.6	3.9	第2土師器	
第3-104045	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	(9.8)	-	-	第2土師器	
第3-104046	苜陶	甕	中国(汝州窯)	(13.0)	5.0	4.4	第2土師器	
第3-104047	苜陶	甕	中国(汝州窯)	(11.0)	-	-	第2土師器	
第3-104048	苜陶	甕	中国(汝州窯)	(11.1)	(3.4)	3.4	第2土師器	
第3-104049	麻布陶器	甕	中国	-	-	-	第2土師器	把手
第3-104050	麻布陶器	小皿	中国	7.8	-	-	第2土師器	黒入れ
第3-104051	麻布陶器	鉢	中国	-	(15.4)	-	第2土師器	
第3-104052	陶器	甕	甕前	-	-	-	第2土師器	逆置1層
第3-104053	瓦質土器	火鉢	空地	-	-	-	第2土師器	
第3-104054	瓦質土器	火鉢	空地	-	-	-	第2土師器	
第3-104055	在来土師器	坪	空地	-	(6.2)	-	第2土師器	
第3-104056	京都系土師器	甕	空地	(11.6)	-	2.2	第2土師器	2層
第3-104057	京都系土師器	小皿	空地	(9.8)	-	-	第2土師器	スス付物 被熱されている 灯明皿
第3-104058	京都系土師器	小皿	空地	(8.8)	-	2.1	第2土師器	内外磨、被熱 2層
第3-104059	京都系土師器	小皿	空地	8.6	-	2.0	第2土師器	被熱の被熱 被熱し、内外面磨削 灯明皿
第3-104061	土師系土師器	もつば	空地	(13.6)	-	-	第2土師器	口縁に赤褐色の付着物あり2次被熱により変色している
第3-104078	古代土師器	甕	空地	-	-	-	第2土師器	把手 両面のみつば無し
第3-104079	苜陶	甕	中国	(25.4)	-	-	B層土師器	
第3-104080	白磁	甕	中国	(10.2)	-	1.5	B層土師器	E-2群
第3-104081	白磁	甕	中国	(10.6)	-	1.7	B層土師器	E-2群
第3-104082	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	-	-	-	B層土師器	E群
第3-104083	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	(15.0)	-	3.5	B層土師器	
第3-104084	苜陶	甕	中国(汝州窯)	(12.4)	-	-	B層土師器	C群被熱
第3-104085	苜陶	甕	中国(汝州窯)	(12.6)	-	-	B層土師器	全体的に気泡が多い
第3-104086	瓦質土器	火鉢	空地	-	-	-	B層土師器	
第3-104087	土師系土師器	甕	空地	-	-	-	B層土師器	
第3-104088	京都系土師器	甕	空地	10.9	-	2.0	B層土師器	1層
第3-104089	京都系土師器	甕	空地	(12.6)	-	2.5	B層土師器	被熱しより少し変変 2層
第3-104090	京都系土師器	甕	空地	(13.2)	-	2.6	B層土師器	被熱されている 2層
第3-104091	京都系土師器	甕	空地	(16.2)	-	2.8	B層土師器	被熱されている 2層
第3-104092	京都系土師器	小皿	空地	8.5	-	2.1	B層土師器	口縁部打ち欠き 被熱されている 1層
第3-104093	京都系土師器	小皿	空地	(8.4)	-	2.4	B層土師器	2層
第3-104094	京都系土師器	小皿	空地	(7.8)	-	1.7	B層土師器	2層
第3-104095	京都系土師器	甕	空地	(12.6)	-	2.4	B層土師器	部分的に外磨少し変変、被熱し、表面 3層
第3-104096	京都系土師器	甕	空地	(8.2)	-	3.1	B層土師器	3層
第3-104097	在来土師器	もつば	空地	(7.4)	-	-	B層土師器	口縁内面に緑白と赤褐色の付着物あり 硬化
第3-1040115	苜陶	甕	中国(魯陽窯)	(11.8)	-	-	B層	B1群
第3-1040116	苜陶	小坪	中国(魯陽窯)	(7.6)	-	-	B層	
第3-1040117	陶器	甕	甕前	-	-	-	B層	中層5層
第3-1040118	瓦質土器	火鉢	空地	-	-	-	B層	
第3-1040119	瓦質土器	火鉢	空地	(27.0)	-	-	B層	河原C-2層 胎土海産物
第3-1040120	在来土師器	甕	中国	(12.1)	(6.2)	1.9	B-2層	京都系被熱 被熱
第3-1040121	苜陶	甕	中国	-	-	-	B-2層	
第3-1040122	陶器	甕	甕前	-	-	-	B-2層	
第3-1040123	陶器	甕	甕前	-	-	-	B-2層	
第3-1040124	陶器	甕	甕前	-	-	-	B-2層	中層6層
第3-1040125	土師系土師器	火鉢	空地	-	-	-	B-2層	2次被熱で被熱
第3-1040126	瓦質土器	甕	空地	-	-	-	B-2層	
第3-1040127	在来土師器	甕	空地	(12.0)	6.2	2.4	B-2層	
第3-1040128	京都系土師器	甕	空地	(14.4)	-	2.2	B-2層	1層
第3-1040129	京都系土師器	甕	空地	(12.6)	-	2.3	B-2層	1層
第3-1040130	京都系土師器	甕	空地	(11.2)	-	1.9	B-2層	1層
第3-1040131	京都系土師器	小皿	空地	(8.8)	-	2.0	B-2層	1層
第3-1040132	京都系土師器	小皿	空地	(8.8)	-	1.7	B-2層	1層
第3-1040133	京都系土師器	甕	空地	16.8	-	3.0	B-2層	口縁部3ヶ所打ち欠きあり 3層
第3-1040134	京都系土師器	甕	空地	(12.6)	-	1.9	B-2層	2層
第3-1040135	京都系土師器	甕	空地	(12.4)	-	1.9	B-2層	2層
第3-1040136	京都系土師器	甕	空地	(12.4)	-	2.6	B-2層	被熱し、変変 2層
第3-1040137	京都系土師器	小皿	空地	8.4	-	2.0	B-2層	口縁部打ち欠き 2層
第3-1040138	京都系土師器	甕	空地	-	-	-	B-2層	3層
第3-1040139	京都系土師器	小皿	空地	(9.0)	-	2.3	B-2層	口縁部にスス付物 灯明皿 3層
第3-1040140	在来土師器	甕	空地	-	(8.6)	-	B-2層	
第3-1040160	京都系土師器	甕	空地	(16.0)	-	2.4	B-2層	被熱により変変 1層
第3-1040161	在来土師器	特小型甕	空地	5.7	3.1	1.4	B-2層	スス付物 灯明皿

第16次調査区遺物観察表⑧(土器・陶磁器類)

発掘No.	種類	産地	法量(単位m)			遺物名	備考	図録No.		
			口徑	底径	高さ					
第3-1040163	白磁	磁	中国	(12.0)	(5.2)	2.8	第3出土層	E群		
第3-1040164	青花	磁	中国(岳陽鎮)	—	(5.2)	2.2	第3出土層	C群		
第3-1040165	青花	磁	中国(汝州窯)	—	—	—	第3出土層			
第3-1040166	青花	磁	中国(汝州窯)	(11.0)	(4.2)	3.3	第3出土層	青磁瓶蓋		
第3-1040167	陶磁	磁胎	磁胎	(29.0)	—	—	第3出土層	中世6a層		
第3-1040168	壹地系土師器	坪	壹地	(11.6)	(6.4)	2.9	第3出土層	内面に少しスチ付筋	磁胎か?	
第3-1040169	壹地系土師器	坪	壹地	(12.4)	—	6.8	第3出土層	磁胎されている		
第3-1040170	壹地系土師器	坪	壹地	—	(4.0)	—	第3出土層			
第3-1040171	壹地系土師器	坪	壹地	—	(4.0)	—	第3出土層			
第3-1040172	壹地系土師器	坪	壹地	(12.0)	(6.0)	2.1	第3出土層			
第3-1040173	壹地系土師器	小皿	壹地	(7.6)	(5.2)	1.9	第3出土層			
第3-1040174	京師系土師器	磁	壹地	13.0	—	2.3	第3出土層	スチ付筋 1層		
第3-1040175	京師系土師器	磁	壹地	—	—	—	第3出土層	1層		
第3-1040176	京師系土師器	磁	壹地	(13.4)	—	2.0	第3出土層	磁胎し、赤変、割離 1層		
第3-1040177	京師系土師器	磁	壹地	(15.6)	—	3.1	第3出土層	内面、磁胎により割離? 2層		
第3-1040193	青花	磁	中国(汝州窯)	(10.5)	(5.0)	2.9	C層上面			
第3-1040194	瓦質土器	火鉢	壹地	—	—	—	C層上面			
第3-1040195	瓦質土器	鉢	壹地	—	—	—	C層上面			
第3-1040196	瓦質土器	磁胎	壹地	—	—	—	C層上面			
第3-1040197	京師系土師器	磁	壹地	—	—	—	C層上面			
第3-1040198	京師系土師器	磁	壹地	(14.6)	—	1.9	C層上面	磁胎し、赤変 2層		
第3-1040200	ロウ口土師器	磁	壹地	(12.4)	(6.0)	2.4	C層			
第3-1040203	ロウ口土師器	磁	壹地	(15.6)	(8.0)	2.9	C層			
第3-1040204	ロウ口土師器	小鍋	壹地	(8.4)	4.6	1.9	C層			
第3-1040210	瓦質土器	鉢	壹地	—	—	—	C層			
第3-1040211	ロウ口土師器	磁	壹地	(11.6)	6.4	2.8	第4出土層	口縁部、全面を打ち欠く	磁胎し、赤変、磁胎底面	
第3-1040212	陶磁	磁	中国(岳陽鎮)	(12.8)	—	—	第4出土層	D群		
第3-1040213	陶磁	磁胎	磁胎	—	—	—	第4出土層	中世3層		
第3-1040214	陶磁	磁胎	磁胎	—	—	—	第4出土層	中世5b層		
第3-1040215	瓦質土器	火鉢	壹地	—	—	—	第4出土層	使用済み		
第3-1040216	瓦質土器	鉢	壹地	—	—	—	第4出土層	河野B-2層		
第3-1040217	ロウ口土師器	小皿	壹地	(5.0)	(5.0)	2.0	第4出土層	磁胎底面		
第3-1040218	壹地系土師器	坪	壹地	12.3	—	8.1	2.4	第4出土層	磁胎底面	
第3-1040219	壹地系土師器	坪	壹地	(14.0)	(10.0)	3.2	第4出土層	磁胎底面		
第3-1040220	壹地系土師器	坪	壹地	—	(6.8)	—	第4出土層	磁胎底面		
第3-1040221	壹地系土師器	小皿	壹地	(8.6)	(5.0)	1.8	第4出土層			
第3-1040222	壹地系土師器	小皿	壹地	(8.3)	(7.4)	1.3	第4出土層	口縁部2ヶ所、打ち欠きあり	磁胎底面	
第3-1040223	壹地系土師器	小皿	壹地	(8.2)	(6.0)	1.4	第4出土層	磁胎されている	磁胎底面	
第3-1040224	壹地系土師器	小皿	壹地	(7.8)	(5.0)	2.1	第4出土層			
第3-1040227	陶磁	磁	壹地	—	—	—	E層	中世4~5層		
第3-1040228	瓦質土器	鉢	壹地	—	—	—	E層			
第3-1040229	壹地系土師器	坪	壹地	—	3.4	—	E層			
第3-1040230	壹地系土師器	坪	壹地	—	11.6	3.2	E層			
第3-1040231	壹地系土師器	坪	壹地	(10.2)	(7.4)	3.4	E層			
第3-1040232	壹地系土師器	坪	壹地	(11.0)	(8.0)	3.5	E層			
第3-1040233	壹地系土師器	小皿	壹地	(7.6)	(5.0)	1.7	E層			
第3-1040234	壹地系土師器	小皿	壹地	(7.8)	(7.4)	1.4	E層			
第3-1040235	壹地系土師器	小皿	壹地	(8.4)	(6.0)	1.5	E層			
第3-10700 2	瓦質土器	磁	壹地	—	—	—	SS56			
第3-10700 3	瓦質土器	磁	壹地	—	—	—	SS56			
第3-10700 4	壹地系土師器	坪	壹地	—	—	—	SS56			
第3-10700 7	ロウ口土師器	磁	壹地	(13.0)	—	2.3	SS56			
第3-11000 1	青花	磁	中国(岳陽鎮)	—	—	—	SX547	C群		
第3-11000 2	瓦質土器	鉢	壹地	—	—	—	SX547	河野B-2層		
第3-11000 3	京師系土師器	磁	壹地	—	—	—	SX547	磁胎し、赤変 2層		
第3-11100 1	瓦質土器	火鉢	壹地	(29.2)	—	—	SK548			
第3-11100 2	京師系土師器	小皿	壹地	(8.4)	—	1.9	SK577	磁胎し、割離部分あり 2層		
第3-11100 3	瓦質土器	鉢	壹地	—	—	—	SK577	河野B-2層		
第3-11400 1	青花	小坪	中国(岳陽鎮)	—	(2.4)	—	SX530			
第3-11400 2	青花	小坪	中国(汝州窯)	6.9	2.6	3.8	SX530			
第3-11400 3	白磁	磁	中国	(11.8)	—	—	SX530	E 2層		
第3-11400 4	白磁	磁	中国	(11.4)	—	—	SX530	E 2層		
第3-11400 5	壹地系土師器	坪	壹地	(8.8)	(4.3)	2.4	SX530	磁胎により、内外底スチ付筋	口縁部打ち欠き	
第3-11500 1	陶磁	磁胎	磁胎	—	—	—	SX535	中世6層		
第3-11500 2	京師系土師器	磁	壹地	—	—	—	SX535	2層		
第3-11600 1	陶磁	磁胎	磁胎	—	—	—	SK531	中世6層		
第3-11600 2	瓦質土器	火鉢	壹地	—	—	—	SK531	河野B-2層		
第3-11600 3	瓦質土器	火鉢	壹地	—	—	—	SK531			
第3-11600 4	瓦質土器	火鉢	壹地	—	—	—	SK531	新胎		
第3-11600 5	瓦質土器	鉢	胎底茶	—	—	—	SK531	磁胎し、赤変 使用済み		
第3-11600 6	壹地系土師器	磁	—	(15.0)	7.6	3.6	SK531	磨入		
第3-11700 2	壹地系土師器	坪	壹地	13.0	9.9	3.4	SS27			
第3-11900 1	壹地系土師器	坪	壹地	(11.0)	(5.2)	2.5	SK526	磁胎により、赤変		
第3-11900 2	壹地系土師器	磁	壹地	—	6.0	—	SK526	口縁部、全面を打ち欠く		
第3-11900 3	ロウ口土師器	磁	壹地	(8.4)	(5.4)	3.0	SK526	磁胎底面		



第16次調査区道物観察表⑨(土器・陶磁器類)

探検No.	器種	生産地	直径(単位cm)			遺物名	備考	図録No.
			口径	底径	高さ			
第3-11919 4	口口目土師器	甕	在池	(10.0)	5.5	2.1	SK325	口縁部3ヶ所、故意に打ち欠く 破砕圧痕
第3-11919 5	口口目土師器	甕	在池	—	6.0	—	SK325	口縁部全周打ち欠く 破砕圧痕
第3-11919 6	京橋系土師器	甕	在池	(13.0)	—	4.6	SK325	破砕により参差、割線あり 破砕 3箇所
第3-11919 7	京橋系土師器	甕	在池	—	—	—	SK325	破砕により、内面に参差、割線 破砕圧痕
第3-11919 8	瓦貫土師	罎	在池	—	—	—	SK325	河野B-3組
第3-12019 1	苜皿	甕	中国(魯南)	—	—	—	SK338	
第3-12019 2	京橋系土師器	小皿	在池	(7.4)	—	1.8	SK338	内面にスス付痕 灯明皿 2箇所
第3-12019 3	口口目土師器	甕	在池	12.0	5.2	2.4	SP954	破砕により、赤変 破砕圧痕
第3-12019 4	在池系土師器	罎	在池	12.1	6.5	2.6	SP954	破砕により、内面スス付痕 2つ穿丸あり 破砕圧痕
第3-12019 5	京橋系土師器	甕	在池	(13.0)	—	2.1	SP954	破砕により、内面スス付痕、外周割線あり 1箇所
第3-12019 6	苜花	甕	中国(魯南)	—	—	—	SK376	把手
第3-12219 1	京橋系土師器	甕	在池	(11.4)	—	1.5	SP497	2箇所
第3-12219 3	瓦貫土師	罎	在池	—	—	—	SP497	河野B-1組
第3-12219 4	瓦貫土師	罎	在池	(44.4)	—	—	SP497	外面にスス付痕 河野B-1組
第3-12419 1	苜花	罎	中国(魯南)	—	(4.4)	—	SK375	C群
第3-12419 2	苜花	罎	中国(魯南)	—	(5.0)	—	SK375	E群
第3-12419 3	白磁	小皿	中国	(7.4)	—	—	SK375	C群
第3-12419 4	白磁	罎	中国(魯南)	(18.8)	(10.4)	3.3	SK375	E 2群
第3-12419 5	瓦貫土師	罎	在池	—	—	—	SK375	C群
第3-12419 6	京橋系土師器	罎	在池	11.8	—	2.1	SK375	口縁部打ち欠き 破砕されている 2箇所
第3-12619 1	苜花	罎	中国(魯南)	—	—	—	SK319	B 1群
第3-12619 2	苜花	罎	中国(魯南)	—	—	—	SK319	
第3-12619 3	徳州陶器	罎	中国(魯南)	—	(8.6)	—	SK319	
第3-12619 4	陶器	罎	瀬戸美濃	(11.4)	—	—	SK319	
第3-12619 5	瓦貫土師	罎	在池	—	—	—	SK319	河野B-1組
第3-12619 6	土師質土師	罎	在池	(8.2)	7.0	7.2	SK319	
第3-12619 8	白磁	菊花蓋	中国	—	6.0	—	SK277	蓋面に「天下太平」の文字あり E-4組
第3-12619 9	白磁	菊花蓋	中国	—	4.5	—	SK277	E-4組
第3-12619 10	白磁	罎	中国	(11.8)	(6.4)	2.4	SK277	E 2群
第3-12619 11	苜花	罎	中国(魯南)	(10.4)	—	—	SK277	E 2群
第3-12619 12	陶器	罎	中国(魯南)	—	5.0	—	SK277	蓋面に1~3mmの石片が多く付着 外周に磨蝕状の腐食や欠損がある
第3-12619 13	陶器	天目鉢	瀬戸美濃	(11.0)	—	—	SK277	
第3-12619 14	陶器	鉢	備前	—	—	—	SK277	
第3-12619 15	陶器	罎	備前	—	—	—	SK277	
第3-12619 16	陶器	罎	備前	—	—	—	SK277	中唇6箇所
第3-12619 17	陶器	罎	備前	(13.2)	—	—	SK277	近世1a組
第3-12619 18	瓦貫土師	罎	在池	—	—	—	SK277	
第3-12619 19	瓦貫土師	火鉢	在池	—	—	—	SK277	
第3-12619 20	瓦貫土師	火鉢	在池	—	—	—	SK277	
第3-12619 21	瓦貫土師	火鉢	在池	—	—	—	SK277	
第3-12619 22	瓦貫土師	火鉢	在池	—	—	—	SK277	
第3-12619 23	瓦貫土師	火鉢	在池	—	(20.0)	—	SK277	内周磨蝕
第3-12619 24	瓦貫土師	罎	在池	(44.0)	—	—	SK277	河野B-1組
第3-12619 25	瓦貫土師	罎	在池	(34.8)	—	—	SK277	河野B-1組
第3-12619 26	瓦貫土師	罎	在池	—	—	—	SK277	
第3-12619 27	瓦貫土師	罎	在池	(26.4)	—	—	SK277	
第3-12619 28	土師質土師	罎	在池	—	—	—	SK277	
第3-12619 29	土師質土師	罎	在池	(35.2)	—	—	SK277	外周磨蝕のため、スス付痕
第3-12619 30	京橋系土師器	罎	在池	(12.4)	—	2.0	SK277	2箇所
第3-12619 31	京橋系土師器	罎	在池	(12.0)	—	2.5	SK277	2箇所
第3-12619 32	京橋系土師器	小皿	在池	(8.4)	—	2.2	SK277	2箇所
第3-12619 33	京橋系土師器	罎	在池	(20.4)	—	2.7	SK277	破砕? 3箇所
第3-12619 34	京橋系土師器	罎	在池	—	—	—	SK277	3箇所
第3-12719 1	陶器	罎	備前	—	—	—	SK385	近世1a組
第3-12719 2	瓦貫土師	火鉢	在池	(23.0)	(14.4)	5.2	SK385	口縁部付込にスス付痕
第3-12719 3	瓦貫土師	火鉢	在池	—	—	—	SK385	
第3-12719 4	京橋系土師器	罎	在池	(12.2)	—	2.6	SK385	破砕により参差 2箇所
第3-12719 5	京橋系土師器	罎	在池	(11.0)	—	3.8	SK385	3箇所
第3-12819 1	苜皿	小皿	中国	—	3.4	—	SK386	口縁部全周打ち欠く
第3-12819 2	苜皿	緑花皿	中国(魯南)	(11.8)	4.4	3.1	SK386	
第3-12819 3	在池系土師器	小皿	在池	—	—	—	SK366	
第3-12819 4	京橋系土師器	小皿	在池	9.0	—	2.2	SK386	口縁部スス付痕 破砕により割線 灯明皿 2箇所
第3-12919 1	京橋系土師器	罎	在池	—	—	—	SK258	
第3-12919 2	瓦貫土師	罎	在池	—	—	—	SK262	河野B-1組
第3-12919 3	苜花	小鉢	中国(魯南)	—	2.6	—	SK411	
第3-13019 1	陶器	ルソン甕	中国(魯南)	—	—	—	SP908	把手
第3-13219 1	瓦貫土師	罎	在池	—	—	—	SK008	河野B-3組
第3-13319 1	白磁	菊花蓋	中国	—	—	—	SK261	E 4群
第3-13319 2	白磁	罎	中国	(11.8)	—	—	SK261	E 2群 貝入あり
第3-13319 3	陶器	罎	中国	—	—	—	SK261	E 2群
第3-13319 4	陶器	罎	備前	—	—	—	SK261	
第3-13319 5	陶器	罎	備前	—	—	—	SK261	近世1a組
第3-13319 6	京橋系土師器	罎	在池	—	—	—	SK261	2箇所
第3-13319 7	京橋系土師器	小皿	在池	(8.8)	—	2.2	SK261	底面、破砕により磨蝕状に割線 3箇所

第16次調査区遺物観察表⑩(土器・陶磁器類)

押番号	器種	生産地	数量(部数cm)			遺物名	備考	図番No.
			口徑	底徑	高さ			
第3-13308	瓦質土器	焼	在池	--	--	SK261		
第3-13401	瓦質土器	焼	在池	(20.7)	--	SK98		
第3-13404	京阪系土器類	小皿	在池	(8.2)	--	SP105	スス付物 灯明皿 2期	
第3-13405	京阪系土器類	坪	在池	(11.2)	--	SP114	内面スス付物 2期	
第3-13406	苜花	皿	中国(魯地録)	(10.4)	--	SK115	E群	
第3-13407	京阪系土器類	坪	在池	--	6.2	SK115	横紋庄底	
第3-13408	瓦質土器	焼	在池	--	(16.8)	SK117		
第3-13409	京阪系土器類	小皿	在池	--	(6.0)	SK260		
第3-13409	京阪系土器類	皿	在池	--	--	S283	3~4期	
第3-13409	苜花	皿	中国(洛州)	--	(6.0)	3.0	SP410	
第3-13502	瓦質土器	焼	在池	--	--	SP405		
第3-13502	京阪系土器類	皿	在池	(13.4)	--	2.3	SP417	2期
第3-13503	陶磁	埴輪	埴前	--	--	BP427		
第3-13507	埴物陶器	水注	中国	--	--	SD440	高形	50
第3-13508	瓦質土器	火鉢	在池	--	(22.2)	--	SD440	
第3-13605	京阪系土器類	皿	在池	(13.0)	--	3.0	SK420	2期 横紋により、赤変 側面部分もあり
第3-13609	陶磁	埴前	埴前	--	--	BP422	内面まめつ 中世6a期	
第3-13609	京阪系土器類	皿	埴前	(11.7)	--	1.8	SP422	2期 内面、横紋により赤変
第3-13609	苜花	皿	中国(洛州)	--	(4.6)	--	SP439	
第3-13700	京阪系土器類	皿	在池	--	--	SK236	2期	
第3-13700	京阪系土器類	小皿	在池	--	--	S278	3~4期	
第3-13700	苜花	皿	中国(洛州)	(8.0)	4.0	2.7	SK274	口縁部全周打ち欠き
第3-13700	苜花	皿	中国(魯地録)	(9.8)	(2.6)	2.7	SK274	C群
第3-13700	瓦質土器	焼	在池	--	--	SK274		
第3-13700	苜花	皿	中国(洛州)	(8.4)	(3.7)	2.7	SX402	器底
第3-13700	苜花	皿	中国(魯地録)	--	(4.4)	--	SK274	C群
第3-13700	土師質土器	釜	在池	(30.0)	--	--	SP418	内面、横紋により赤変
第3-13700	苜花	皿	中国(魯地録)	(10.8)	--	--	SK426	E群
第3-13700	陶磁	小皿	埴前	4.0	--	--	SK426	
第3-13900	藤原三彩	鉢	藤原	--	--	--	SK100	
第3-13900	陶磁	鉢	埴前	(23.2)	--	--	SK100	
第3-13900	土師質土器	釜	在池	(16.0)	--	--	SK100	
第3-14000	苜花	皿	中国(洛州)	(9.6)	(5.2)	3.5	SK257	1次または2次焼成により、器物部分が赤変している
第3-14200	京阪系土器類	小皿	在池	(8.4)	(5.5)	2.2	SP102	口縁部を打ち欠き
第3-14200	陶磁	釜	埴前	--	--	--	SK104	近世1期
第3-14200	京阪系土器類	皿	在池	--	--	--	SK104	内面、横紋によりスス付物 3~4期
第3-14200	京阪系土器類	皿	在池	(15.2)	--	2.3	SK106	横紋により赤変 2期
第3-14200	苜花	皿	中国(魯地録)	--	--	--	SK172	E群
第3-14200	京阪系土器類	皿	在池	--	--	--	S284	口縁部を打ち欠き 横紋されている 3期
第3-14200	陶磁	釜	中国	--	(2.8)	--	SK267	裏入れ
第3-14300	陶磁	釜	埴前	--	(4.9)	--	II群	裏入れ
第3-14300	京阪系土器類	皿	在池	(12.0)	--	2.3	第1類土器	横紋により赤変 2期
第3-14300	白磁	焼	埴前	--	(6.2)	--	A群	
第3-14300	苜花	皿	中国(魯地録)	--	--	--	A群	C群
第3-14300	苜花	皿	中国(魯地録)	--	(4.6)	--	A群	E群
第3-14300	苜花	皿	中国(魯地録)	(18.2)	--	--	A群	F群
第3-14300	瓦形	皿	中国	--	--	--	A群	
第3-14300	瓦形	皿	中国	--	(6.2)	--	A群	
第3-14300	陶磁	小皿	藤原三彩	(10.0)	(4.4)	1.9	A群	大塚3期
第3-14300	陶磁	埴前	埴前	--	--	--	A群	中世6b期
第3-14300	陶磁	埴前	埴前	--	--	--	A群	近世1a期
第3-14300	瓦質土器	一	在池	--	--	--	A群	惣手
第3-14300	京阪系土器類	坪	在池	(11.4)	(6.0)	2.9	A群	口縁部打ち欠き 横紋により赤変
第3-14300	京阪系土器類	皿	在池	--	--	--	A群	内面スス付物 2期
第3-14300	京阪系土器類	小皿	在池	(8.6)	--	1.9	A群	窪面あり 2期
第3-14300	瓦質土器	焼	在池	--	(4.4)	--	第2類土器	はりつけ高台
第3-14300	京阪系土器類	皿	在池	--	--	--	第2類土器	1期
第3-14300	白磁	皿	中国(魯地録)	(12.2)	6.0	2.9	B群土器	
第3-14300	瓦形	皿	中国	--	--	--	B群土器	
第3-14300	陶磁	埴前	埴前	--	--	--	B群土器	近世1b期
第3-14300	京阪系土器類	皿	在池	13.0	--	2.4	B群土器	器底に口縁部を打ち欠き 横紋により赤変、スス付物 2期
第3-14300	埴物	皿	中国	(11.0)	--	--	B1群	
第3-14300	白磁	皿	中国	(11.5)	(8.8)	3.2	B1群	E2期
第3-14300	陶磁	舟形鉢	横井正朝	--	--	--	B1群	
第3-14300	瓦質土器	埴前	在池	--	--	--	B1群	河野C-2期
第3-14300	京阪系土器類	小皿	在池	8.6	--	2.0	B1群	2期
第3-14300	京阪系土器類	ちっぼ	在池	--	--	--	B1群	内面に赤褐色の付着物あり 高台による赤変、酸化激しい箇所あり
第3-14300	埴物	皿	中国(魯地録)	--	--	--	B2群	
第3-14300	陶磁	埴前	埴前	--	--	--	B2群	中世6a期
第3-14300	京阪系土器類	坪	在池	--	5.6	--	B2群	口縁部全周打ち欠き 横紋されている
第3-14300	白磁	皿	中国	--	(7.4)	--	第3類土器上	
第3-14300	苜花	皿	中国(魯地録)	(11.8)	--	--	第3類土器上	C群
第3-14300	京阪系土器類	皿	在池	(13.2)	--	1.9	第3類土器上	1期

第16次調査区遺物観察表①(土器・陶器類)

邦名 No.	種名	産地	生産地	法量(単位mm)			遺物名	備考	図録 No.
				口幅	底径	高さ			
第3-143055	京都系土師器	皿	在池	(13.6)	—	2.8	筑3土師白上	1層	
第3-143056	京都系土師器	皿	在池	(12.0)	—	2.8	筑3土師白上	被褥により赤変 1~2層	
第3-143057	京都系土師器	小皿	在池	8.6	—	2.2	筑3土師白上	口縁部にスス付着 打明燬	
第3-143058	京都系土師器	特小型皿	在池	5.2	—	2.1	筑3土師白上	口縁部1ヶ所打ち欠き 焼成後の面に転用	
第3-143064	青花	皿	中国(景德鎮)	(11.6)	—	—	筑3土師	B1群	
第3-143065	青花	碗	中国(漳州)	—	—	—	筑3土師		
第3-143066	貴様絵陶器	—	中国(福建)	—	—	—	筑3土師		
第3-143067	陶器	内徳利	朝鮮(平壤)	—	(14.6)	—	筑3土師		
第3-143068	陶器	漆鉢	備前	—	—	—	筑3土師	中世6b層	
第3-143069	瓦質土師	火鉢	在池	—	—	—	筑3土師		
第3-143070	瓦質土師	鉢	在池	—	—	—	筑3土師		
第3-143071	瓦質土師	鍋	在池	—	—	—	筑3土師	河野0-2層	
第3-143072	瓦質土師	鍋	在池	—	—	—	筑3土師		
第3-143073	瓦質土師	碗	在池	—	(3.4)	—	筑3土師	被褥により赤変	
第3-143074	在池系土師器	坪	在池	(11.0)	(6.0)	3.3	筑3土師		
第3-143075	口ク口目土師器	皿	在池	(11.6)	(6.5)	2.5	筑3土師		
第3-143076	口ク口目土師器	小皿	在池	(8.2)	(5.4)	2.1	筑3土師		
第3-143077	京都系土師器	皿	在池	(17.4)	—	1.9	筑3土師	1層	
第3-143078	京都系土師器	皿	在池	(13.0)	—	2.5	筑3土師	口縁部打ち欠き 1層	
第3-143079	京都系土師器	皿	在池	(13.2)	—	1.9	筑3土師	1層	
第3-143080	京都系土師器	皿	在池	—	—	—	筑3土師	1層	
第3-143081	京都系土師器	小皿	在池	(8.1)	—	1.8	筑3土師	1層	
第3-143082	京都系土師器	皿	在池	(13.2)	—	—	筑3土師	口縁部打ち欠き 2層	
第3-143083	京都系土師器	皿	在池	(17.0)	—	3.0	筑3土師	破断されている 3層	
第3-1430102	焼埋陶器	甕	唐	—	—	—	C層上面		
第3-1430104	青花	皿	中国(景德鎮)	(11.8)	(6.6)	2.9	C層	B1群	
第3-1430105	在池系土師器	小皿	在池	(10.4)	(4.6)	3.2	C層		
第3-1430108	青花	碗	中国(福建)	(11.2)	—	—	筑3B他土師		
第3-1430109	青花	皿	中国(景德鎮)	—	—	—	筑3B他土師	B群	
第3-1430110	陶器	漆鉢	備前	—	—	—	筑3B他土師	内底、まめつ、フルツルあり 中世6a層	
第3-1430111	瓦質土師	鍋	在池	—	—	—	筑3B他土師	河野0-2層	
第3-1430112	口ク口目土師器	小皿	在池	—	—	—	筑3B他土師	被褥により赤変	
第3-1430113	京都系土師器	皿	在池	(13.0)	—	—	筑3B他土師	1層	
第3-1430114	京都系土師器	皿	在池	(12.0)	—	—	筑3B他土師	被褥より少し赤変、割れあり 2層	
第3-1430116	青磁	碗	中国(福建)	—	—	—	D層	C3層	
第3-1430117	陶器	甕	備前	—	—	—	D層		
第3-1430118	瓦質土師	火鉢	在池	—	—	—	D層		
第3-1430119	瓦質土師	鍋	在池	—	—	—	D層	河野0-2層	
第3-1430120	瓦質土師	鍋	在池	—	—	—	D層	外側スス付着	
第3-1430121	在池系土師器	坪	在池	—	(6.2)	—	D層	口縁部全周打ち欠き 破断されている	
第3-1430122	在池系土師器	小皿	在池	(8.1)	(4.0)	2.0	D層	口縁部打ち欠き	
第3-1430123	在池系土師器	小皿	在池	(6.0)	(3.7)	1.7	D層	口縁部打ち欠き	
第3-1430124	在池系土師器	小皿	在池	(7.0)	(6.0)	1.9	D層	被褥により赤変 口縁部打ち欠き 打明燬	
第3-1430125	在池系土師器	小皿	在池	7.0	5.0	2.3	D層		
第3-1430126	口ク口目土師器	皿	在池	—	8.8	—	D層		
第3-1430127	口ク口目土師器	皿	在池	—	5.8	—	D層		
第3-1430128	在池系土師器	小皿	在池	7.8	4.2	1.7	D層	口縁部打ち欠き 破断されている	
第3-1430129	瓦質土師	鍋	在池	—	—	—	D層	河野0-2層	
第3-1430133	在池系土師器	小皿	在池	4.8	3.3	1.2	D層	口縁部打ち欠き 煎茶卓に転用か?	
第3-14401	青磁	香伊	中国	—	(6.0)	—	近代清		
第3-14402	焼埋陶器	甕	唐	—	—	—	近代清	褐色胎花繪文甕	
第3-14501	弥生土師	甕	在池	—	(6.6)	—	その他	胎土身薄	
第3-14502	弥生土師	會打鉢	在池	—	—	—	SK331	器高約6.2cm	
第3-14503	土師器	磁杯	在池	—	—	—	その他	会打鉢類	
第3-14504	弥生土師	磁杯	在池	—	—	—	その他	弥生中期	
第3-14505	在池系土師器	小皿	在池	(8.6)	(4.0)	1.7	SK331	口縁部スス付着 打明燬	
第3-143057	京都系土師器	小皿	在池	8.6	—	2.2	筑3土師白上	口縁部スス付着 打明燬 2層	
第3-143058	京都系土師器	小皿	在池	5.2	—	2.1	筑3土師白上	口縁部1ヶ所、打ち欠き 焼成後としても使用?	

第16次調査区遺物観察表①(金属製品)

発掘No.	品名	材質	形状	寸法(単位:cm)				重量(g)	遺物名	備考	図面No.	
				長さ	幅	厚さ	直径					
33-2002	銅製品	銅	長さ	4.5	幅	5.0	厚さ	1.0	4.6	S197	両端に取り付け部を持つ	
33-2407	釘	鉄	長さ	3.6	幅	0.8	厚さ	0.8	—	SD110		
33-3108	火箸?	鉄	長さ	4.5	幅	0.7	厚さ	0.5	9.6	SK122		
33-33013	鉄線	鉄	長さ	(7.3)	幅	1.2	厚さ	0.7	20.3	B層	上部欠損	
33-33014	火箸	鉄	長さ	(16.9)	幅	0.8	厚さ	0.6	19.9	B層	上下欠損 ぬじれあり	
33-3402	小柄	鉄-銅	長さ	5.3	幅	1.6	厚さ	5.0	7.4	D区	おれている 芯は鉄	
33-37069	火箸	鉄	長さ	9.8	幅	8.0	厚さ	7.0	17.6	SD985		
33-46011	釘	鉄	長さ	8.2	幅	5.0	厚さ	5.0	14.1	SF70	12酸化層	
33-46018	釘	鉄	長さ	7.3	幅	6.0	厚さ	5.0	12.6	SF70	11酸化層	
33-46034	金具	—	長さ	8.3	幅	1.5	厚さ	3.0	14.2	SF70	3酸化層	
33-4701	釘	鉄	長さ	7.1	幅	5.0	厚さ	5.0	10.7	SB304	SF293	
33-5609	刀子	鉄	長さ	8.2	幅	1.1	厚さ	0.3	10.1	SS29		
33-56090	釘	鉄	長さ	7.8	幅	0.5	厚さ	—	—	SS29		
33-6502	釘	鉄	長さ	6.4	幅	0.5	厚さ	—	—	SK173		
33-7201	火箸?	鉄	長さ	(9.2)	幅	2.0	厚さ	5.0	17.1	SK445		
33-74017	釘	鉄	長さ	3.6	幅	0.4	厚さ	—	—	SK510		
33-74018	釘	鉄	長さ	10.4	幅	0.6	厚さ	—	—	SK510		
33-74019	刀子	鉄	長さ	22.3	幅	1.2	厚さ	0.2	25.0	SK510		
33-7601	分銅	銅	長さ	1.1	幅	1.2	厚さ	5.0	3.5	SK287	49	
33-7702	貨幣製品	青銅	長さ	6.2	幅	1.4	厚さ	4.0	17.6	SP456		
33-8702	火箸	鉄	長さ	32.6	幅	0.9	穴径	0.3	50.9	SK214		
33-8802	かんざし	銅	長さ	18.9	幅	1.2	厚さ	3.0	20.7	SK242	51	
33-9501	金具	鉄	長さ	3.7	幅	1.0	穴径	0.4	4.6	SK77		
33-10406	小柄	鉄-銅	長さ	10.0	幅	1.2	厚さ	0.5	28.4	第1地土層	鉄の柄に銅線をまく	
33-10408	貨幣製品	青銅	長さ	1.5	幅	4.0	厚さ	4.0	0.4	A層		
33-10409	針	鉄	長さ	(16.7)	幅	0.4	厚さ	0.3	22.3	A層		
33-104094	金具	鉄	長さ	13.0	幅	1.6	厚さ	0.7	125.5	A層	用途不明	
33-104095	金具	鉄	長さ	7.8	幅	0.6	厚さ	—	—	A層	先端部欠損	
33-104092	鍍金品	青銅	長さ	4.2	幅	5.0	厚さ	1.0	1.9	第2地土層		
33-104094	管	鉄	長さ	5.2	幅	0.9	厚さ	0.4	15.3	第2地土層		
33-104095	釘	鉄	長さ	5.7	幅	0.4	厚さ	0.3	—	第2地土層	直角に曲がる	
33-104096	線線	鉄	長さ	4.5	幅	0.9	厚さ	0.2	6.4	第2地土層		
33-1040912	刀子	鉄	長さ	4.3	幅	1.2	厚さ	0.2	5.2	B層上部		
33-1040913	管	鉄	長さ	5.6	幅	1.2	厚さ	0.5	31.2	B層上部		
33-1040914	釘	鉄	長さ	8.2	幅	0.7	厚さ	0.7	—	B層上部		
33-1040922	釘	鉄	長さ	5.9	幅	0.9	厚さ	0.2	22.0	B層	先端部欠損 線の可能性も	
33-1040941	刀鍔具	銅	切刃	長さ	4.8	幅	2.5	厚さ	0.1	3.9	B-2層	51
33-1040942	刀鍔具	銅	切刃	長さ	4.5	幅	2.5	厚さ	0.3	8.1	B-2層	金属に刻みがある。最早のもの
33-1040943	銅	銅	長さ	14.4	幅	3.1	厚さ	0.2	16.3	B-2層	51	
33-1040956	釘	鉄	長さ	7.3	幅	1.2	厚さ	0.5	—	B-2層		
33-1040982	鍍金品	銅	長さ	1.8	幅	0.9	厚さ	0.4	1.1	第3地土層		
33-1040989	火箸	鉄	長さ	13.0	幅	0.7	厚さ	0.4	19.9	第3地土層		
33-1040990	火箸	鉄	長さ	21.0	幅	0.5	厚さ	0.5	24.9	第3地土層		
33-1040991	刀子	鉄	長さ	18.3	幅	0.8	厚さ	0.2	31.5	第3地土層		
33-1040992	刀子	鉄	長さ	(12.4)	幅	1.9	厚さ	0.4	28.3	第3地土層		
33-1040995	金具	鉄	長さ	6.8	幅	1.1	穴径	0.4	10.0	C層	穿孔あり	
33-10409225	銅製品	銅	長さ	1.3	幅	1.7	厚さ	0.5	0.5	D層		
33-10409226	石箸	銅	長さ	3.8	幅	0.9	厚さ	0.3	3.4	D層		
33-10409236	釘	鉄	長さ	4.9	幅	0.5	厚さ	0.5	3.8	E層	直角に折れる	
33-10409238	金具	銅	長さ	3.7	幅	1.1	厚さ	0.3	1.7	E層	SP379	
33-10207	毛鉤	鉄	長さ	9.0	幅	0.8	厚さ	0.5	22.9	SS59		
33-114010	釘	鉄	長さ	3.6	幅	0.2	厚さ	0.2	0.2	SK530		
33-114011	針	鉄	長さ	(12.9)	幅	2.1	厚さ	0.4	57.7	SK530		
33-11502	金具	銅	長さ	4.6	幅	0.4	厚さ	0.4	5.5	SK525		
33-115024	釘	鉄	長さ	5.7	幅	0.5	厚さ	0.4	5.2	SK525		
33-11602	釘	鉄	長さ	3.7	幅	0.8	厚さ	0.8	13.8	SK531	先端部欠損	
33-116029	管	鉄	長さ	4.8	幅	1.4	厚さ	0.4	11.7	SK531		
33-12205	石箸	鉄	長さ	6.7	外径	3.1	内径	0.8	18.7	SP497		
33-12206	釘	鉄	長さ	4.6	幅	0.4	厚さ	0.4	—	SP497		
33-12408	火箸	鉄	長さ	10.0	幅	0.4	厚さ	0.7	12.1	SK275		
33-12607	火箸	鉄	長さ	9.5	幅	0.5	厚さ	0.4	15.1	SK219		
33-126038	金具	青銅	長さ	3.4	幅	1.0	厚さ	0.1	1.7	SK277		
33-12709	刀子	鉄	長さ	(15.1)	幅	1.7	厚さ	0.2	15.1	SK365		
33-127090	釘	鉄	長さ	5.6	幅	0.4	厚さ	0.4	3.1	SK365		
33-127091	鍍金品	鉄	長さ	3.6	幅	4.7	厚さ	0.5	25.2	SK365		
33-12805	釘	鉄	長さ	4.6	幅	0.3	厚さ	0.3	—	SK366		
33-12808	釘	鉄	長さ	10.6	幅	0.6	厚さ	0.6	17.7	SK366		
33-12904	管	鉄	長さ	(10.9)	幅	1.0	厚さ	0.7	24.1	SK411		
33-13403	釘	鉄	長さ	11.5	幅	0.7	厚さ	0.5	18.4	SK398		
33-13506	金具	銅	長さ	2.0	幅	2.1	厚さ	2.1	22.5	SP424	色が多い 灰色かかる	
33-13601	金具	鉄	長さ	5.3	幅	0.9	厚さ	0.3	6.7	SP401		
33-13604	釘	鉄	長さ	6.1	幅	0.4	厚さ	0.4	6.1	SP419		
33-13607	小柄	鉄-銅	長さ	10.7	幅	1.4	厚さ	0.6	36.4	SK420		
33-13707	釘	鉄	長さ	10.7	幅	0.7	厚さ	0.7	16.9	SK274		
33-143019	小柄	青銅	長さ	8.4	幅	0.5	厚さ	0.2	2.8	A層		

第16次調査区遺物観察表②(金属製品)

標本No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺 跡 名	備 考	図録 No.
				長さ	幅	厚さ	径	高さ	厚さ				
第3-143022	小柄 鉄製	鉄	長さ	9.1	幅	1.4	厚さ	0.6	25.7	A層	鉄芯		
第3-143023	へら 鉄	鉄	長さ	15.0	幅	4.1	厚さ	0.5	61.2	A層			
第3-143024	釘 鉄	鉄	長さ	4.6	幅	0.5	厚さ	0.5	—	A層			
第3-143025	釘 鉄	鉄	長さ	3.8	幅	0.3	厚さ	0.3	—	A層			
第3-143031	釘 鉄	鉄	長さ	9.4	幅	0.5	厚さ	0.5	9.5	第2地土層			
第3-143038	釘 鉄	鉄	長さ	7.6	幅	0.4	厚さ	0.4	6.6	B1層			
第3-143039	釘 鉄	鉄	長さ	5.7	幅	0.5	厚さ	0.4	—	B1層			
第3-143088	小柄 鉄製	鉄	長さ	10.5	幅	1.3	厚さ	0.6	25.3	第3地土層			
第3-143089	金具 銅	銅	長さ	3.8	幅	0.9	厚さ	0.4	1.6	第3地土層	東西にまがいていない部分あり		
第3-1430101	鉄製品 鉄	鉄	長さ	10.0	幅	0.4	厚さ	0.4	15.6	第3地土層			
第3-1430115	刀子 鉄	鉄	長さ	12.7	幅	1.4	厚さ	0.3	30.8	第3地土層			

第16次調査区遺物観察表(土製品)

標本No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺 跡 名	備 考	図録 No.
				長さ	幅	厚さ	径	高さ	厚さ				
第3-7003	皿	土製	開口	—	—	—	—	—	—	SK31			
第3-31027	メソコ	土製	底	6.0	幅	5.7	厚さ	8.0	—	SK122	京都系土器底面を転用		
第3-33012	土埴	土製	底	4.8	幅	1.3	—	—	—	B層			
第3-56021	メソコ	土製	底	—	幅	—	厚さ	—	—	SD529	ロウロ目土器底面を転用		
第3-59024	土埴	土製	底	6.0	幅	1.7	—	—	17.0	SK331/334			
第3-590211	メソコ	土製	底	5.2	幅	5.9	厚さ	0.9	—	SK333	赤褐色土器底面を転用		
第3-600211	土埴	土製	底	3.4	幅	1.1	—	—	4.7	SK319	A層		
第3-950216	土埴	土製	底	4.5	幅	1.5	—	—	3.9	SK325	A層		
第3-960210	土埴	土製	底	2.8	幅	1.2	—	—	5.4	SK320	棒状		
第3-104024	土埴	土製	底	3.4	幅	1.5	—	—	6.9	A層	A層		
第3-104025	土埴	土製	底	2.5	幅	0.8	—	—	1.6	A層	A層		
第3-104026	土埴	土製	底	4.1	幅	1.3	—	—	7.6	A層	A層		
第3-104029	土埴	土製	底	4.3	幅	1.5	—	—	10.1	第2地土層	A層		
第3-1040121	土埴	土製	底	4.9	幅	1.2	—	—	7.0	B層	A層		
第3-1040180	土埴	土製	底	3.0	幅	1.0	—	—	3.1	第3地土層	A層		
第3-1040181	土埴	土製	側面	3.2	—	—	—	—	—	第3地土層	穿孔あり		
第3-1040200	土埴	土製	—	—	—	—	—	—	—	C層上面			
第3-117001	土埴	土製	底	4.7	幅	1.0	—	—	4.8	SP466	A層		
第3-122022	土埴	土製	底	4.5	幅	1.3	—	—	6.4	SP467	A層		
第3-1260205	メソコ	瓦製	底	5.3	幅	5.0	厚さ	2.0	—	SK277	平瓦転用		
第3-1260237	土埴	土製	底	3.4	幅	2.0	—	—	11.6	SK277	B層		
第3-137002	土埴	土製	底	5.9	幅	1.8	—	—	16.0	SP236			
第3-143027	土埴	土製	底	11.0	幅	6.6	—	—	—	A層			
第3-143027	土埴	土製	底	4.1	幅	0.9	—	—	3.2	B1層	B層		
第3-1430294	押しAのきえ	土製	底	2.3	幅	2.3	厚さ	5.5	—	第3地土層	土器に穿孔、土器片転用ではない		
第3-1430295	土埴	土製	底	4.6	幅	1.3	—	—	9.2	第3地土層	A層		
第3-1430296	土埴	土製	底	5.2	幅	1.7	—	—	12.4	第3地土層	A層		
第3-1430297	メソコ	土製	底	2.8	幅	2.7	厚さ	4.5	—	第3地土層	土器片転用		
第3-14302131	土埴	土製	底	5.3	幅	1.0	—	—	4.8	D層	B層		
第3-14302132	土埴	土製	底	5.1	幅	1.6	—	—	12.5	D層	B層		

第16次調査区遺物観察表（石製品）

拝啓 No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位:cm)				重量 (g)	遺 物 名	備 考	図録 No.
				縦	横	厚さ	厚さ				
第3-2203 3	石臼	安山岩	底	—	高さ	—	—	244.5	SD23		
第3-26011	石皿	安山岩	底	長さ	16.7	幅	8.4	厚み	4.9	1,044.5	SK15
第3-37070	石臼	凝灰岩	—	—	—	—	—	—	—	—	SD565
第3-4007 7	石臼	砂岩	下臼	—	—	—	—	—	201.4	—	SK65
第3-5020 6	緑石	粘板岩	底	長さ	(1.8)	幅	(2.5)	厚み	0.4	3.1	SK33/33M
第3-7002 2	石臼	安山岩	底	長さ	30.0	幅	5.7	—	—	3,700.0	SK504
第3-8020 6	緑石	粘板岩	底	長さ	(4.5)	幅	(4.8)	厚み	0.6	22.9	SP249
第3-8902 4	アカスリ	輝石	底	長さ	5.5	幅	4.2	厚み	1.6	11.2	SP216
第3-9002 2	緑石	結晶片岩	底	長さ	(11.3)	幅	(5.7)	厚み	2.4	314.7	SB338
第3-95017	新臼	和泉砂岩	底	—	高さ	—	—	—	211.7	—	SK316
第3-95018	新臼	和泉砂岩	底	—	高さ	—	—	—	268.2	—	SK316
第3-10001 4	石臼	凝灰岩	底	—	高さ	—	—	—	—	—	SK81
第3-104036	底	—	底	長さ	(3.3)	幅	(2.8)	厚さ	1.3	—	A層
第3-104077	緑石	—	底	長さ	(7.4)	幅	(8.7)	厚さ	4.3	497.1	第2層土層
第3-1040157	緑石	粘板岩	底	長さ	4.2	幅	2.9	厚さ	0.3	6.4	B層
第3-1040158	緑石	粘板岩	底	長さ	5.8	幅	4.8	厚さ	0.9	55.5	B層
第3-1040159	緑石	—	底	長さ	(8.1)	幅	(3.6)	厚さ	1.4	78.0	B層
第3-1040237	緑石	—	底	長さ	(5.9)	幅	3.5	厚さ	0.6	29.4	E層
第3-126030	石臼	安山岩	下臼	底	—	高さ	—	—	—	2,700.0	SK277
第3-127012	緑石	—	底	長さ	(7.8)	幅	(5.2)	厚さ	2.3	159.2	SK365
第3-12601 1	石皿	安山岩	底	(21.2)	幅	(26.2)	厚さ	6.2	5,800.0	SP266	緑物
第3-136016 6	鉢	凝灰岩	口縁	(14.2)	直径	(12.0)	高さ	7.1	—	—	SK420
第3-136015	緑石	結晶片岩	底	長さ	(11.0)	幅	(6.3)	厚さ	1.6	233.5	SP439
第3-140015 5	緑石	—	底	長さ	(7.8)	幅	(2.9)	厚さ	(1.9)	62.4	SK163
第3-14201 9	緑石	結晶片岩	底	長さ	(12.1)	幅	(6.6)	厚さ	3.3	591.5	A層
第3-143026	緑石	—	底	長さ	(6.2)	幅	(3.0)	厚さ	0.7	21.7	A層
第3-143032	緑石	—	底	長さ	(6.2)	幅	(4.3)	厚さ	1.3	65.2	第2層土層
第3-143040	緑石	—	底	長さ	11.2	幅	5.9	厚さ	1.4	144.4	B層上層
第3-143041	石製品	—	底	長さ	(4.7)	幅	5.5	厚さ	1.0	59.3	B層上層
第3-1430107	緑石	—	底	長さ	(8.2)	幅	(3.6)	厚さ	2.3	98.7	C層
第3-1430136	石鏡	滑石	—	—	—	—	—	—	—	—	D層
第3-1430137	石鏡	滑石	—	—	—	—	—	—	—	—	D層

第16次調査区遺物観察表（瓦）

拝啓 No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位:cm)				重量 (g)	遺 物 名	備 考	図録 No.
				縦	横	厚さ	厚さ				
第3-1100 6	平瓦	—	底	長さ	11.3	幅	8.1	厚さ	1.6	SD19	跡土層部
第3-26010	平瓦	—	底	長さ	7.2	幅	5.8	厚さ	1.2	SK14	
第3-26010	平瓦	—	底	長さ	6.9	幅	7.0	厚さ	1.6	SK15	
第3-43012	丸瓦	—	底	長さ	12.8	幅	7.4	厚さ	2.3	SK367	
第3-4901 6	丸瓦	—	底	長さ	10.6	幅	6.5	厚さ	2.3	SK365	
第3-99019	丸瓦	—	底	長さ	(8.1)	幅	(6.4)	厚さ	2.8	SK333	
第3-99015	丸瓦	—	底	長さ	16.2	幅	10.1	厚さ	3.2	SK318	
第3-1040178	平瓦	—	底	長さ	5.9	幅	13.3	厚さ	1.6	—	第3層土層
第3-1040179	平瓦	—	底	長さ	19.8	幅	11.9	厚さ	2.0	—	第3層土層
第3-1040199	平瓦	—	底	長さ	19.3	幅	16.1	厚さ	2.1	—	C層上層
第3-11601 7	埴	—	底	長さ	(8.8)	幅	(13.5)	厚さ	3.0	SK331	緑物によりスス付
第3-12601 9	埴	—	底	長さ	8.3	幅	9.7	厚さ	2.5	SK376	
第3-126036	埴	—	底	長さ	12.1	幅	11.4	厚さ	2.5	SK277	
第3-12701 6	埴	—	底	長さ	10.0	幅	7.1	厚さ	2.5	SK365	
第3-12701 7	埴	—	底	長さ	6.5	幅	7.7	厚さ	2.5	SK365	
第3-143017	平瓦	—	底	長さ	14.4	幅	11.7	厚さ	2.5	A層	
第3-143018	平瓦	—	底	長さ	9.2	幅	8.3	厚さ	2.0	A層	
第3-143054	丸瓦	—	底	長さ	9.1	幅	7.0	厚さ	2.0	B層	
第3-143059	平瓦	—	底	長さ	8.5	幅	6.3	厚さ	2.4	—	第3層土層上
第3-1430106	埴	—	底	長さ	13.6	幅	13.5	厚さ	3.4	C層	緑物により緑物
第3-1430130	軒丸瓦	—	底	長さ	9.6	幅	9.2	厚さ	2.9	D層	

第16次調査区遺物観察表（その他）

拝啓 No.	品 種	材質	部位	寸法 (単位:cm)				重量 (g)	遺 物 名	備 考	図録 No.
				縦	横	厚さ	厚さ				
第3-82013	赤石	ガラス	底	長さ	2.3	幅	2.3	厚さ	0.7	5.5	SK378
第3-1040162	不明	ガラス	底	長さ	(0.7)	幅	(0.5)	厚さ	0.5	0.2	第3層土層

第16次調査区遺物観察表①(銅銭)

種類 No.	調査名	発掘 層年	国・王朝名	重量 (g)	直径 (mm)	形状	遺物名	備考	図録 No.
第3-1107	元祐通寶	1086	北宋	2.7	25.0	行幣	SD18		
第3-4056B	元祐通寶	1078	北宋	3.4	26.0	鑄幣	SP298		
第3-4056I7	不明	—	—	1.1	—	—	SE70	半分欠損 「周」「唐」のみ	
第3-5056I5	不明	—	—	1.3	—	行幣	SK533, 534上層	半分欠損 「周」「唐」のみ	
第3-5056I1	不明	—	—	1.1	—	—	SK509	半分欠損 「周」「唐」のみ	
第3-4872D	嘉祐通寶	1056	北宋	2.7	2.5	高背	SK509		
第3-4872E	元祐通寶	1086	北宋	2.7	2.4	行幣	SK386		
第3-7405I5	開元通寶	621	唐	2.6	24.5	高背	SK530		
第3-7405I6	元祐通寶	1086	北宋	1.9	2.3	行幣	SK530		
第3-7720I	不明	—	—	1.8	2.4	高背	SK299	半分欠損 「平」「元」「唐」のみ	
第3-8652I	不明	—	—	1.2	—	行幣	SK300	半分欠損 「元」「唐」のみ	
第3-8952I	皇祐元寶	1004	北宋	2.5	24.5	高背	SK210		
第3-8952I5	元祐通寶	1086	北宋	2.6	24.0	高背	SP230		
第3-9052I	大観通寶	1107	北宋	2.6	24.5	高背	SB330	SP264 寶元月	
第3-9822I19	不明	—	—	1.2	—	行幣	SK325	半分欠損 「元」「唐」のみ	
第3-101202D	熙寧元寶	1068	北宋	3.2	24.0	高背	SK186		
第3-101202I	元祐通寶	1078	北宋	3.3	25.0	高背	SK186		
第3-101202J	元祐通寶	1078	北宋	2.4	24.0	高背	SK186		
第3-101202K	皇寧元寶	1101	北宋	2.7	24.5	高背	SK186		
第3-101202L	清獻通寶	1368	明	2.9	2.3	—	SK186		
第3-101202S	清獻通寶	1368	明	1.8	2.3	—	SK186		
第3-104227	祥符通寶	1008	北宋	2.6	24.0	高背	A 磨		
第3-104228	皇寧通寶	1038	北宋	2.8	25.0	高背	A 磨		
第3-104229	皇寧通寶	1038	北宋	2.2	24.5	高背	A 磨		
第3-104230	治平元寶	1064	北宋	3.5	24.0	高背	A 磨		
第3-104231	元祐通寶	1086	北宋	3.0	24.5	行幣	A 磨		
第3-104263	皇祐元寶	1034	北宋	2.4	25.0	高背	第2組土層		
第3-104264	皇祐元寶	1034	北宋	2.6	25.0	高背	第2組土層		
第3-104265	皇寧通寶	1038	北宋	2.8	24.0	高背	第2組土層		
第3-104266	皇寧通寶	1038	北宋	2.5	24.5	高背	第2組土層		
第3-104267	熙寧元寶	1068	北宋	2.6	24.0	高背	第2組土層		
第3-104268	熙寧元寶	1068	北宋	2.2	24.5	高背	第2組土層	足跡孔	
第3-104269	元祐通寶	1078	北宋	3.7	25.0	行幣	第2組土層		
第3-104270	紹聖元寶	1094	北宋	3.1	24.0	高背	第2組土層		
第3-104271	大観通寶	1107	北宋	3.2	25.0	高背	第2組土層		
第3-104272	清獻通寶	1368	明	2.9	23.0	高背	第2組土層		
第3-104273	清獻通寶	1368	明	4.0	24.0	—	第2組土層		
第3-104298	淳化元寶	960	北宋	2.5	24.0	高背	磨跡土層		
第3-104299	祥符元寶	1008	北宋	2.2	25.0	高背	磨跡土層		
第3-1042100	天聖元寶	1023	北宋	2.4	24.5	高背	磨跡土層		
第3-1042101	皇寧通寶	1038	北宋	2.5	24.5	高背	磨跡土層		
第3-1042102	嘉祐通寶	1056	北宋	2.6	24.0	高背	磨跡土層		
第3-1042103	嘉祐通寶	1056	北宋	2.3	24.5	高背	磨跡土層		
第3-1042104	元祐通寶	1078	北宋	2.7	24.5	行幣	磨跡土層		
第3-1042105	元祐通寶	1078	北宋	2.6	25.0	行幣	磨跡土層		
第3-1042106	元祐通寶	1078	北宋	2.6	24.0	行幣	磨跡土層		
第3-1042107	元祐通寶	1078	北宋	3.2	25.0	高背	磨跡土層		
第3-1042108	元祐通寶	1078	北宋	2.6	24.0	行幣	磨跡土層		
第3-1042110	元祐通寶	1086	北宋	3.3	24.0	行幣	磨跡土層		
第3-1042111	清獻通寶	1368	北宋	3.1	24.0	高背	磨跡土層		
第3-1042144	不明	—	—	1.1	—	—	磨跡土層		
第3-1042145	祥符通寶	1008	北宋	3.0	25.0	—	磨跡土層		
第3-1042146	皇寧通寶	1038	北宋	2.5	24.0	高背	磨跡土層		
第3-1042147	嘉祐通寶	1056	北宋	2.3	24.5	高背	磨跡土層		
第3-1042148	治平元寶	1064	北宋	3.4	2.5	高背	磨跡土層		
第3-1042149	熙寧元寶	1068	北宋	2.8	25.0	高背	磨跡土層		
第3-1042150	熙寧元寶	1068	北宋	3.4	24.0	高背	磨跡土層		
第3-1042151	元祐通寶	1078	北宋	2.3	25.0	行幣	磨跡土層		
第3-1042152	元祐通寶	1078	北宋	2.4	25.0	行幣	磨跡土層		
第3-1042153	元祐通寶	1086	北宋	2.6	24.5	高背	磨跡土層		
第3-1042154	紹聖元寶	1094	北宋	3.0	24.5	行幣	磨跡土層		
第3-1042155	熙寧元寶	1101	北宋	3.8	25.0	行幣	磨跡土層		
第3-1042183	皇祐元寶	1034	北宋	3.2	25.0	高背	第3組土層		
第3-1042184	祥符通寶	1008	北宋	1.9	25.0	行幣	第3組土層		
第3-1042185	天聖元寶	1023	北宋	3.3	25.0	高背	第3組土層		
第3-1042186	熙寧元寶	1068	北宋	3.4	24.0	高背	第3組土層		
第3-1042187	紹聖元寶	1094	北宋	3.3	24.0	高背	第3組土層		
第3-1042188	紹聖元寶	1094	北宋	3.7	25.0	高背	第3組土層		
第3-1042201	皇祐元寶	1034	北宋	2.7	24.0	高背	C 磨跡土層		
第3-1042206	皇寧通寶	1038	北宋	2.8	24.5	高背	C 磨		
第3-1042207	元祐通寶	1078	北宋	1.7	24.0	行幣	C 磨		
第3-1042208	清獻通寶	1111	北宋	3.0	24.5	高背	C 磨		
第3-1042209	至道元寶	1157	金	2.6	25.0	高背	C 磨		
第3-10720I	皇祐元寶	1034	北宋	2.7	25.0	高背	SO556		

第16次調査区遺物観察表②(銅銭)

探出 No.	産地名	初探 年	国・王様名	重さ (g)	直径 (mm)	形状	産地名	備考	図録 No.
第3-1079 5	元徳通寶	1079	北宋	1.7	25.0	行書	S558		
第3-1112 4	皇寧通寶	1038	北宋	2.4	25.0	行書	SK377		半分欠損
第3-1142 6	太平通寶	976	北宋	2.7	24.5	—	SK330		
第3-1142 7	熙寧元寶	1068	北宋	3.0	25.0	行書	SK330		
第3-1142 8	熙寧元寶	1068	北宋	3.4	24.0	篆書	SK330		
第3-1142 9	皇寧通寶	1038	北宋	3.0	24.0	篆書	SK330		
第3-1192 9	元祐通寶	1086	北宋	3.4	24.5	行書	SK526		
第3-1192 10	元祐通寶	1079	北宋	3.4	24.5	篆書	SK526		
第3-1192 11	皇寧通寶	1038	北宋	3.8	25.0	行書	SK526		
第3-1192 12	治平通寶	1054	北宋	3.3	24.0	篆書	SK526		
第3-1202 6	天聖元寶	1023	北宋	3.3	25.0	篆書	S554		
第3-1202 7	永樂通寶	1406	北宋	3.7	25.0	—	S554		
第3-1242 7	元祐通寶	1079	北宋	3.2	24.0	行書	SK275		星形孔
第3-1272 8	熙寧元寶	1068	北宋	2.7	24.0	篆書	SK365		
第3-1342 9	熙寧元寶	1068	北宋	3.0	24.5	篆書	SK398		
第3-1352 3	元祐通寶	1086	北宋	3.1	25.0	行書	SP406		
第3-1352 9	不明	—	—	3.3	24.0	—	SK440		磨付跡のため判読不可
第3-1362 2	元祐通寶	1086	北宋	3.2	24.0	篆書	SP419		
第3-1362 3	皇寧通寶	1056	北宋	2.7	25.0	行書	SP419		
第3-1362 8	不明	—	—	0.7	—	—	SK420		「背」の部分のみ
第3-1362 9	不明	—	—	1.2	—	—	SK420		半分欠損 「背」「背」のみ
第3-1362 12	紹聖元寶	1094	北宋	2.9	25.0	行書	SP423		
第3-1362 13	元祐通寶	1086	北宋	3.3	24.0	行書	SP423		
第3-1372 10	皇和通寶	1054	北宋	3.4	24.5	篆書	SP415		
第3-1372 14	不明	—	—	2.2	25.0	篆書	SK426		1/3欠損 「天」「元」「背」のみ
第3-1392 4	皇寧通寶	1038	北宋	2.8	24.5	篆書	SK100		
第3-1402 1	皇德元寶	1004	北宋	5.3	2.5	—	SK163		2枚磨り切っている
第3-1402 2	祥符元寶	1056	北宋	6.1	25.0	—	SK163		2枚磨り切っている
第3-1402 4	天聖通寶	1017	北宋	2.9	24.0	篆書	SK163		
第3-1402 5	熙寧元寶	1101	北宋	3.0	24.0	篆書	SK163		
第3-1412 2	皇寧通寶	1038	北宋	4.1	25.0	篆書	SK257		
第3-1422 6	皇寧通寶	1038	北宋	2.2	24.0	篆書	SP226		
第3-1432 3	元祐通寶	1079	北宋	2.9	25.0	行書	M46, L46		
第3-1432 20	祥符元寶	1056	北宋	3.4	25.0	—	M46, L46		
第3-1432 21	皇寧通寶	1038	北宋	2.5	25.0	篆書	M46, L46		
第3-1432 30	元祐通寶	1086	北宋	2.1	25.0	篆書	M46 裏2株土層		
第3-1432 80	祥符通寶	1056	北宋	2.6	24.0	—	M46 裏3株土層上		
第3-1432 81	治平元寶	1054	北宋	3.1	24.5	篆書	M46 裏3株土層上		得上げ
第3-1432 82	元祐通寶	1079	北宋	3.3	25.0	篆書	M46 裏3株土層上		
第3-1432 83	元祐通寶	1086	北宋	6.0	24.5	篆書	M46 裏3株土層上		2枚磨り切っている
第3-1432 84	開元通寶	671	唐	3.0	25.0	—	M46 裏3株土層		
第3-1432 89	天壽元寶	1023	北宋	3.2	25.5	篆書	M46 裏3株土層		
第3-1432 92	皇寧通寶	1038	北宋	2.6	25.0	篆書	M46 裏3株土層		
第3-1432 93	熙寧元寶	1068	北宋	2.3	24.0	篆書	M46 裏3株土層		
第3-1432 94	熙寧元寶	1068	北宋	2.5	24.0	篆書	M46 裏3株土層		
第3-1432 95	元祐通寶	1079	北宋	2.3	2.4	行書	M46 裏3株土層		
第3-1432 96	元祐通寶	1086	北宋	2.8	24.0	篆書	M46 裏3株土層		
第3-1432 97	治平通寶	1111	北宋	2.8	24.5	篆書	M46 裏3株土層		
第3-1432 98	永樂通寶	1406	明	3.1	25.0	—	M46 裏3株土層		
第3-1432 99	不明	—	—	1.8	25.0	行書	M46 裏3株土層		下層欠損 「他」「背」のみ判読可
第3-1432 100	不明	—	—	1.0	—	篆書	M46 裏3株土層		上層欠損 「他」「元」のみ
第3-1432 103	不明	—	—	2.3	24.0	—	M47 C層上層		「平」「通」「背」のみ判読可
第3-1432 134	熙寧元寶	1068	北宋	2.7	24.0	篆書	M46 D層		
第3-1432 135	紹聖元寶	1094	北宋	3.4	24.0	行書	M46 D層		
第3-1452 6	淳化元寶	980	北宋	2.3	24.0	篆書	SK379		
第3-1452 7	皇寧通寶	1038	北宋	2.8	25.0	篆書	SK325		星形孔
第3-1452 8	皇寧通寶	1038	北宋	3.4	24.5	篆書	G区 (裏側)		
第3-1452 9	皇寧通寶	1038	北宋	3.7	25.0	篆書	F区 南北横溝		
第3-1452 10	皇寧通寶	1038	北宋	2.1	25.0	篆書	G区 (裏側)		
第3-1452 11	皇德元寶	1056	北宋	2.8	23.5	篆書	SK100		
第3-1452 12	元祐通寶	1086	北宋	3.0	24.0	篆書	M47		
第3-1452 13	紹聖元寶	1094	北宋	3.1	24.0	篆書	H区 掘戻区内		
第3-1452 14	元祐通寶	1079	北宋	2.7	24.5	行書	SK429		



# 写 真 图 版



E 地区、D 地区、C 地区 (上空より)



G 地区、F 地区 (上空より)



A 地区 (西から)



A 地区 (南から)



C 地区 (上層)

C 地区  
II 層上面



C 地区 III 層上面



C 地区 Va 層上面



C 地区 Vb 層上面



Vb 層下部



C 地区  
東 1、2 区画  
(南から)



D 地区・E 地区  
全景 (西から)



D 地区全景  
(西から)



D地区上層透景  
(東から)



D地区  
西1、2区画  
(東から)



E・D地区透景  
(西から)



E 地区  
ST135周辺



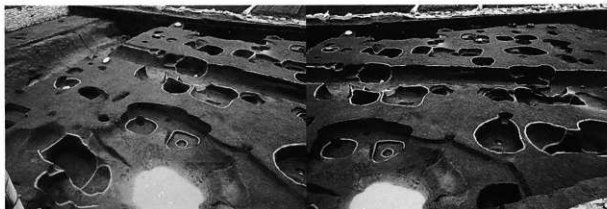
F 地区全景  
(東から)



調査風景①C 地区

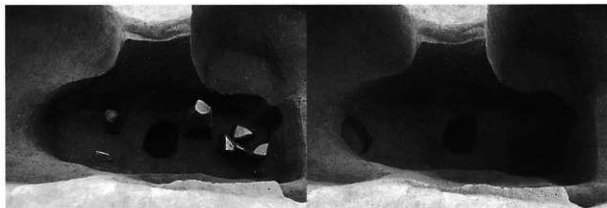


調査風景②骨の検出作業



G 地区 SB306①

SB306②



P1079 (SB306A) 出土状況

P1079 (SB306A) 完掘状況



P1073 (SB306A) 出土状況

S787 (SB306A) 完掘状況



S787 (SB306A) 出土状況

S787 (SB306A) 出土状況細部





G地区 S787(SB306)完掘状況



同左



S786 (SB306A) 出土状況



SB307



SB309



P696 (SB309)



G地区 SK797



G地区 P1045



C 地区 SK 1



SK 4



D 地区 SK11



SK12



SK13



E 地区 SK40



SK41



SK41細部



E地区 SK44①



SK44②



D地区 SK45



SK104



SK105



SE108



SE108井筒内出土状況



SE108井筒の桶痕跡



E地区 SK109



SK110



SD111出土状況 (南から)



SD111完掘状況 (北から)



SD112貝層断面



SD112貝ブロック出土状況



SD112出土状況



E地区 SK114出土状況



SK114完掘状況



D地区 SK119



E地区 SK126出土状況



SK128



SK129の瓦出土状況



SK129土師皿出土状況



E地区 SK133



SK134



ST135①人骨出土状況



ST135②細部



ST135③細部



E地区 SK136



D地区 SK140



SK141出土状況 (南から)



SK141石積露出状況



SK141完掘状況杭跡



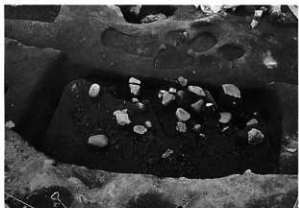
SK143



SK144



D地区 P145



D地区 SK146



SK146出土状況細部①



SK146出土状況細部②



SK150



SK151出土状況



SK151断面



C地区 SK158



調査風景  
一井戸をほる一





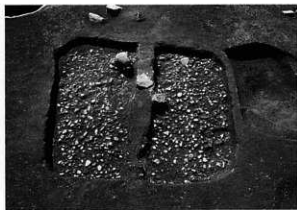
C地区 SX161



SX161断面



SK163



SK166出土状況



D地区 SK172



C地区 SK177



D地区 SF183 10面のわだち



SF183第5硬化面



D地区 SF183土層断面



SK196 (SF183第5硬化面上)



D地区  
SD192



SD192  
断面



C地区 SK211断面



SK211出土状況



SK211完掘状況



SK211底部の土取り痕



SK217



SK221



SK222



SK228



C地区 SK255



E・D地区調査風景



SK261



SK261の枙



SK263



SK263出土状況



SK267



SK268



SK276上部出土状況



SK276下部出土状況



SK276細部



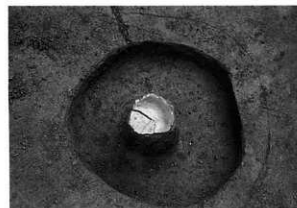
SK277



SK286



E地区 P81



P227



P229 (SA314) 出土状況



C地区  
SF293上面



SD292と  
SF293下面



SD294掘り下げ後  
(西から)



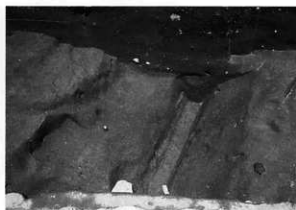
C地区 SD292



SD295先掘状況



SD294、295断面



SD295



F地区  
SB302



SB308 (南から)

G地区  
SA311 (東から)



D地区 SE331 抜取痕と井筒上部



SE331 石組半截



SE331 石組の全体



SE331 石組の基礎

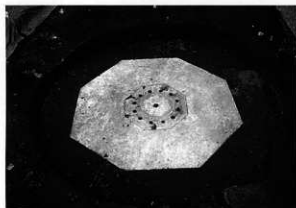




D地区 SE331木桶



D地区真夏の調査風景 (2000年)



E地区 SX344



SX344



SK508



F地区 SE532



SK533



SD538  
(北から)



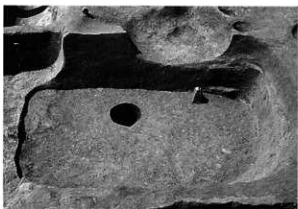
F地区 SE541



SK552



SK553



SE558検出状況



SE558



SD563 (南から)



FK571



G地区 SD710



SK712



SK712出土状況



SK714



SK734出土状況①



SK734とSK736



SK736



ST748



G地区 ST748細部①



細部②



G地区 SD755、757



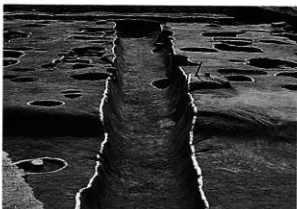
SD766



SD766とSD775



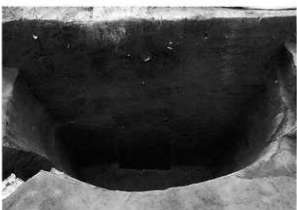
G地区 SD766出土状況



SD775 (西から)



SE773井筒出土状況



SE773全景



SD790 (北から)



SD790完掘状況



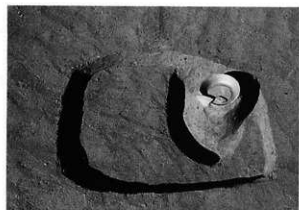
G 地区  
SD790とSD791  
(北から)



SE800



調査風景 (2001年夏)



C 地区 P277



C 地区 P318



C 地区 P256 (SA314) 掘出土状況



C 地区第2焼土層中の壁土出土状況



A・B地区



C地区



C地区 B層上面



D地区





E地区  
B層上面



F地区  
B層上面



F地区  
B層上面



F・G地区  
西1、2区画  
(南西から)



F・G地区  
西1、2区画  
近景(南から)



H地区と  
河岸段丘



H地区  
東1、2区画の  
段差（西から）



H地区  
東0、1、2区画  
（西から）



H地区  
東2区画  
（西から）



H地区  
東2区画の柱穴列  
(南から)



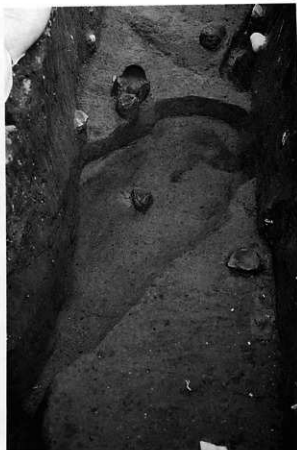
東2区画  
第2換土層  
出土状況①



東2区画  
第2換土層  
出土状況②



A地区 SD278 (御所小路側溝)



SD21、SD22 (御所小路)



SD23出土状況



SD23下部出土状況



G地区 SF70第1硬化面上の遺構（西から）



SF70第3硬化面①（西から）



SF70第3硬化面②（東から）



SD380（SF70の側溝）



SD380（西から）



SD380と西1区画



G地区  
SF70断面①



SF70  
断面②



SF70  
断面③



B地区 SK14出土状況



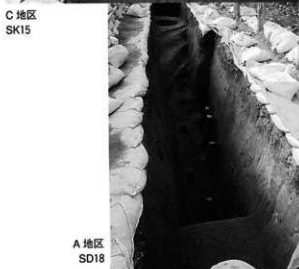
SK14発掘状況



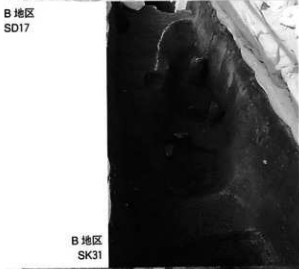
C地区  
SK15



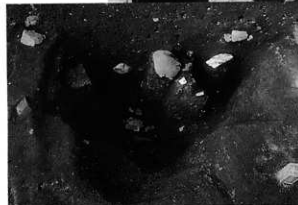
B地区  
SD17



A地区  
SD18



B地区  
SK31



G地区 SK85 (SF70上)



D地区 SD110





F地区 SP155



SK188



G地区 SK189 (SF70上)



F地区 SK214



SK222



SX242



H地区 SK257



SX275



H地区 SX277



F地区 SX286



SK300出土状況



SK300完掘状況



SK301



F地区 SP311出土状況



E地区 SK325



SP337 (SB338)



F地区 SB338 (南西から)



SB338 (西から)



E地区 SK358



H地区 SK365



E地区 SK378



F地区 SX431



F地区 SK504



E地区 SK510



H地区 SK526



F地区 SD529



H地区 SX530



F地区 SK534



SK533、SK534



H地区 SX535



SX535細部



SX547上層



H地区 SX547下部



SX547下部



H地区南壁



H地区 SX277下層



SK557



F地区 SD565出土状況



SD565



SK581



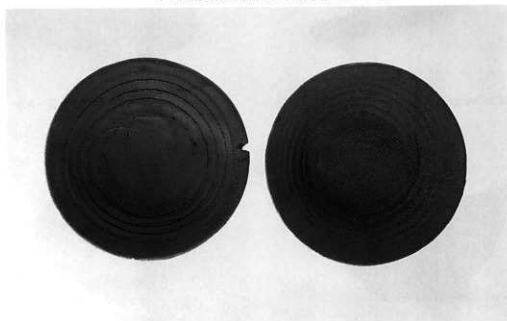
G地区 SB306A 柱穴 S787出土埋納土師器 (第2-8図8・9)



G地区 SD766出土 須恵器円面視  
(第2-26図2-29)



内面にロクロ目を残す土師器 上: C地区 IVa層上面出土の大皿 (第2-268図③-67)  
下: G地区 SK712出土の皿 (第2-43図①-14・15)



内面にロクロ目を残す土師器皿の内面 (第2-43図①-14・15)  
※中心の指ナデと、周縁のロクロ目



F地区 SD538出土 青磁瓜形掛け花活け  
(第2-62図1)



F地区 SK571出土 京都系土師器皿(灯明皿)(第2-76図13)



D地区 SD192出土 瓦質の小壺(高さ3.5cm)  
(第2-88図①-8)



D地区 SK149出土 中国南部産焼締陶器鉢(第2-97図1)



D地区 SK9出土 小柄の柄(第2-109図22・23)



D地区 SK144出土 赤間石製の方形硯(第2-114図3)



E地区 SK40出土 中国南部産焼締陶器の鉢(第2-159図2)



D地区 SE331掘形内出土 ボタン状石製品(第2-182図40)

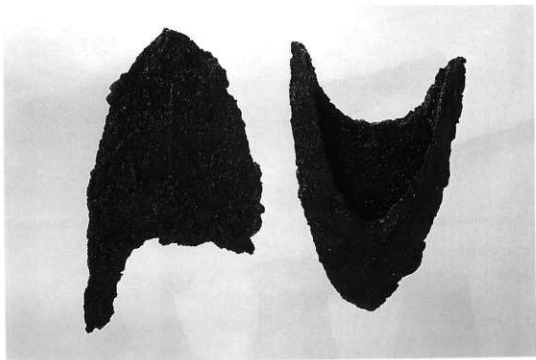
(※SK146は、火災処理土坑)



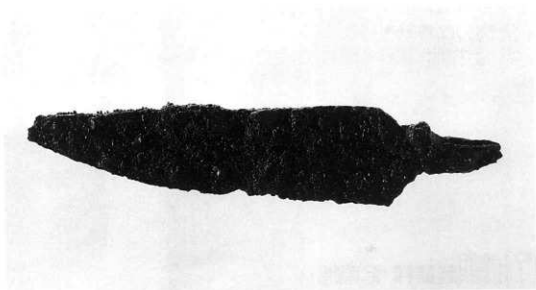
D地区 SK146出土 青花皿 C群 (第2-185図①-1)



D地区 SK146出土 漳州窯青花碗 (第2-185図①-2)



D地区 SD146出土 鉄鏃 2点 (第2-185図①-18・19)



D地区 SD146出土 鉄製包丁 (第2-185図②-20)

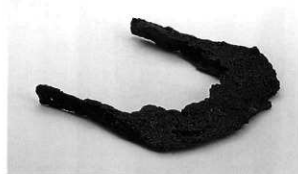




D地区 SK146出土 茶臼上臼  
(第2-185図3-27)



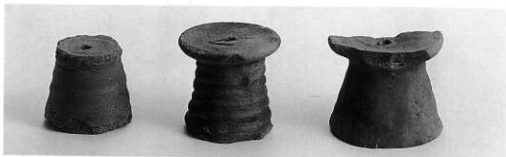
D地区出土 朝鮮王朝産灰釉陶器皿 (第2-202図3)



C地区 SK184出土 鉄鏃 (第2-260図18)



C地区 Vb 層上面出土青磁模花皿 (第2-268図④-99)

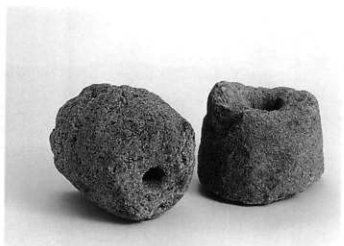


A1

A2

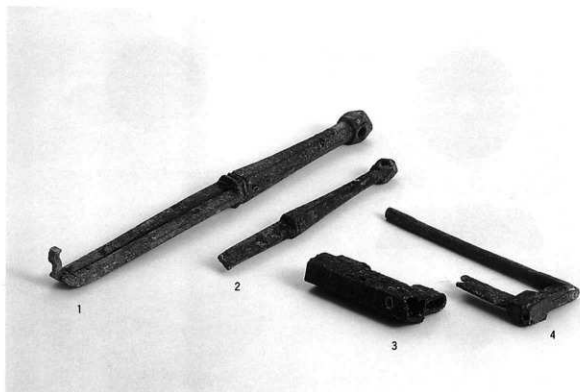
B

土師器燗台 (第2-281図参照)  
A1 : (第2-47図4)  
A2 : (第2-159図14)  
B : (第2-85図71)



石製フィゴの羽口

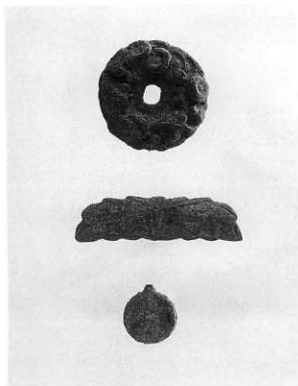
左 : E地区 SK114出土花崗岩製 (第2-168図41)  
右 : E地区 SK112出土凝灰岩製 (第2-155図15)



錠前と錠 左から 1: C地区 SA314の P229出土錠 (第2-251図4)  
2: C地区 SA314の P256出土錠 (第2-251図5)  
3: G地区 SK734出土錠前 (第2-78図4-55)  
4: F地区 SK571出土錠 (第2-76図26)



鉄製品各種 1: F地区 SK508出土火箸 (第2-83図6)  
2: G地区 SD766出土火打ち金 (第2-26図1-25)  
3: E地区 SK104出土金具 (第2-162図9)  
4: C地区第2境土層出土和ばさみ (第2-268図3-64)  
5: G地区 SK782 (古代) 出土金具 (第2-13図16)  
6: 16次 F地区 C層中出土金具 (第3-104図7-205)



金属製品

- 上：7次 C 地区 SD294出土金具 (第2-92図27)  
中：7次 E 地区 SK126出土鍔り金具 (第2-175図7-38)  
下：7次 C 地区出土メダイ様金属製品 (第2-270図9)



16次 G 地区 SX287出土 分銅 (第3-76図1)



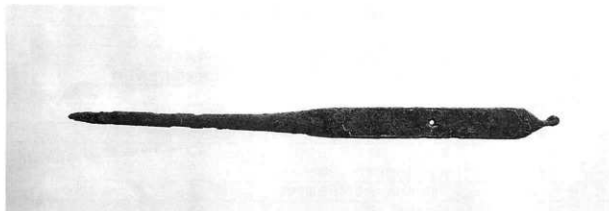
16次 F 地区 SK300出土磁器  
上：中国磁器大型碗 (第3-86図1)  
下：白磁皿 (第3-86図2)



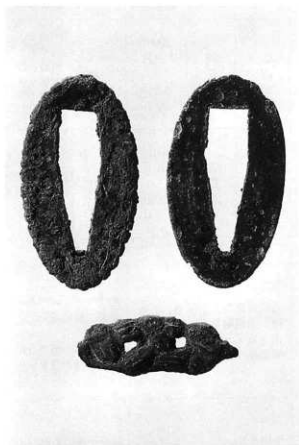
16次上市町西側 A 層出土 中国黒釉陶器小甕  
(第3-104図1-14)



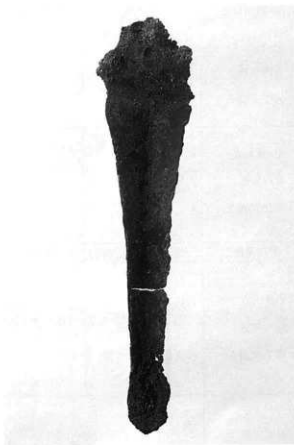
16次 H 地区 SD440出土 中国褐釉陶器水注 (第3-135図7)



F地区 SK242出土かんざし (第3-88図3)



上：清忠寺町西側 B-2層出土、切羽(第3-104図5-141・142)  
下：E地区 SP379出土金具 (第3-104図8-238)



清忠寺町西 B-2層出土 さじ (第3-104図5-143)

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	ぶんごふないさ らゆうせいおおともふないまちあたいてし・だい16じちようさく
書名	豊後府内3 中世大友府内町跡第7次・第16次調査区
副書名	大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅲ
シリーズ名	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第8集
編著者名	坂本嘉弘、田中裕介、石川健、田中良之、バリノ・サーヴェイ社
編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター
所在地	〒870-1113 大分市中判田1977
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所取道跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	道跡番号					
中世大友 府内町跡 第7次調査	大分市元町	322	51	33° 13′ 32″	131° 37′ 20″	2000年 4月 ～ 2001年 9月	2,000	大分駅 付近連続 立体交差 事業
中世大友 府内町跡 第16次調査	大分市鐘町	322	51	33° 13′ 35″	131° 37′ 20″	2001年 10月 ～ 2002年 3月	500	大分駅 付近連続 立体交差 事業

所取道跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中世大友 府内町跡 第7次調査	古代官衙  中世都市	古代  中世	獨立柱建物群、柱 穴群・溝・道路・ 短冊型地割、土坑 ・井戸	古代須恵器・土師器、円面 硯。金箔貼り京土師器・華 南三彩・分銅・メダイ様金 属製品	古代の渡しに関わる 官衙関連施設 中世 御所小路町岡 連の遺構、清忠寺町 で短冊型地割を検出
中世大友 府内町跡 第16次調査	中世都市	中世	溝・道路、短冊型 地割、土坑、獨立 柱建物	中国青花、 国産陶器、 銅製品、 土師器	御所小路の道路、上 市町の短冊型地割、 16世紀の都市遺構を 検出

要 約	<p>中世大友府内町跡第7次調査区発見の①8世紀末～9世紀中葉の庇付大型獨立柱建物群は、大分川を渡河する古代の道路の渡河点に関わる官衙施設と考えられる。②第7次と第16次調査区では、第1南北街路と御所小路の道路遺構を調査し、御所小路町では15世紀後半から16世紀末まで武家地と推定される区画が継続し、第1南北街路の両側では15世紀までは溝で囲まれた区画が広がる。16世紀になると溝が埋まって道路が開かれた両側町が成立し、16世紀後半には上市町・清忠寺町となる短冊型地割りの町並みが成立することが判明した。</p>
-----	--

---

---

## 豊後府内3

中世大友府内町跡第7次・第16次調査区

大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第8集

平成18(2006)年3月31日

編集・発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター  
〒870-1113

大分市宇中判田字ビワノ門1977

TEL (097) 597-5675

印刷 佐伯印刷株式会社  
〒870-0844

大分市古国府1155-1

TEL (097) 543-1211

---

---